

### 3. クロス集計および分析結果

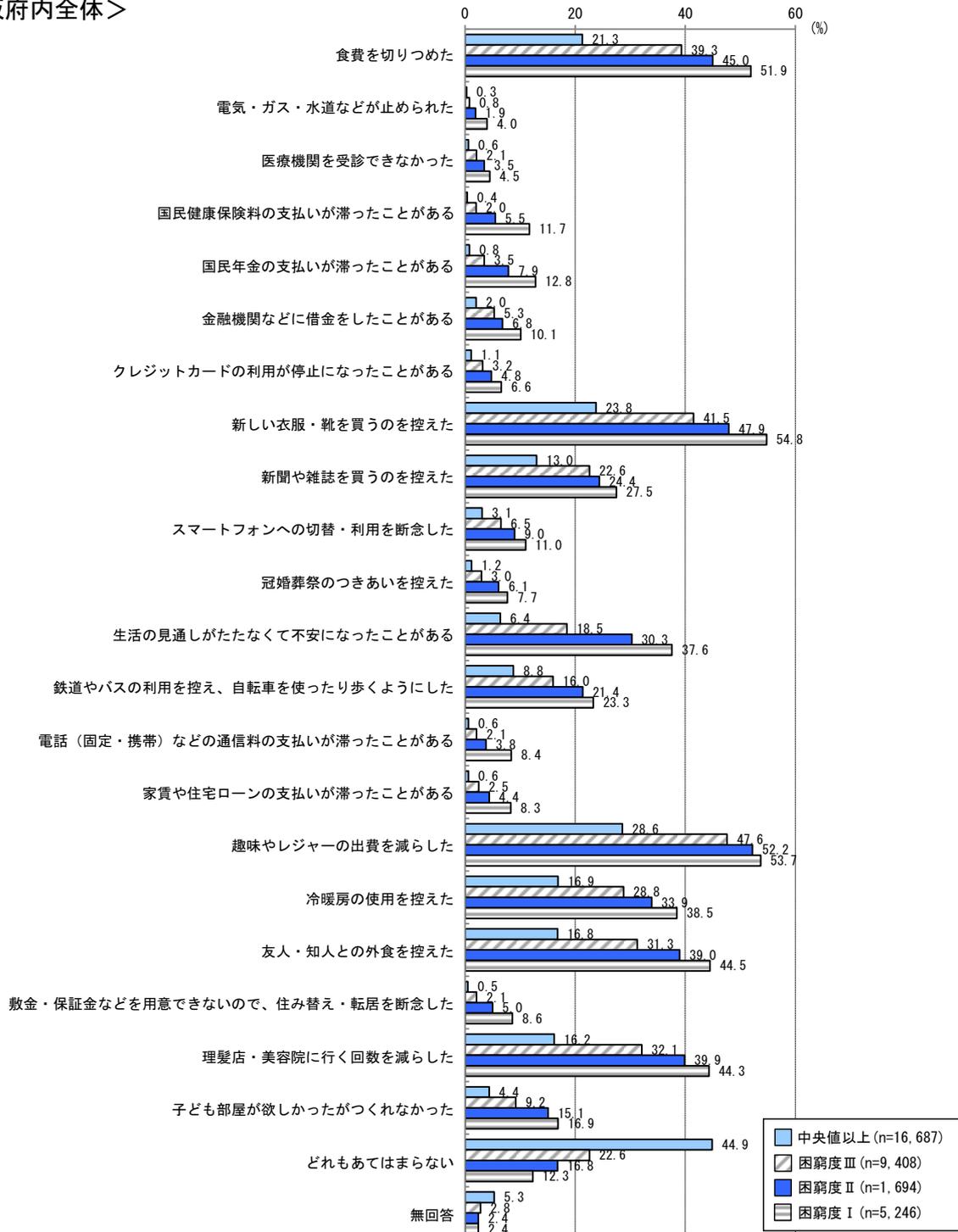
以下のグラフは、主に困窮度別に示している。大阪府内全自治体の傾向については記述していないが、多くにおいて、本自治体調査結果と同様の傾向が見られる。さらに顕著な傾向が見られるものもある。

#### 3-1. 基本情報

##### (1) 経済状況

#### 困窮度別に見た、経済的な理由による経験（保護者票問7）

##### <大阪府内全体>



<豊中市>

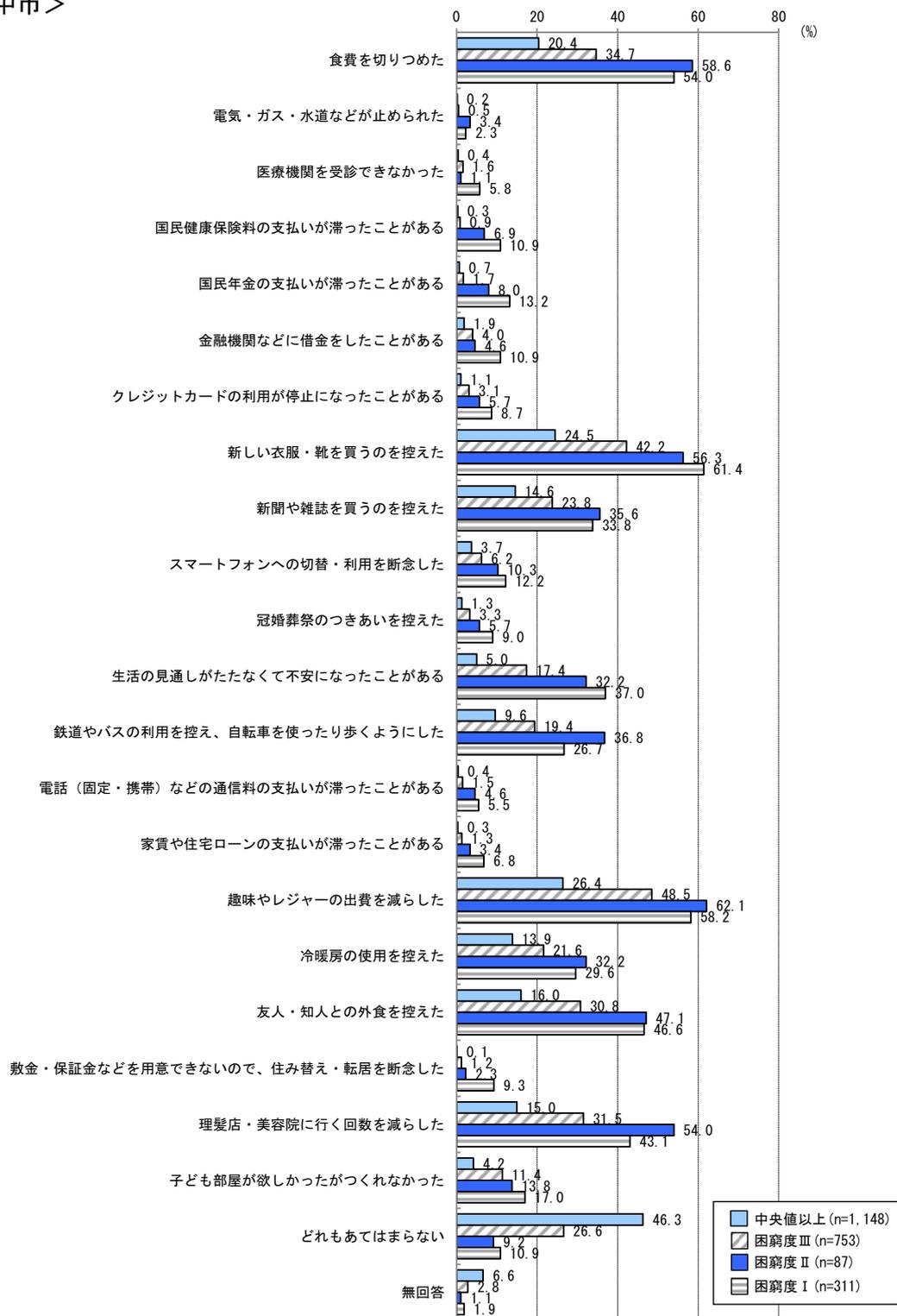
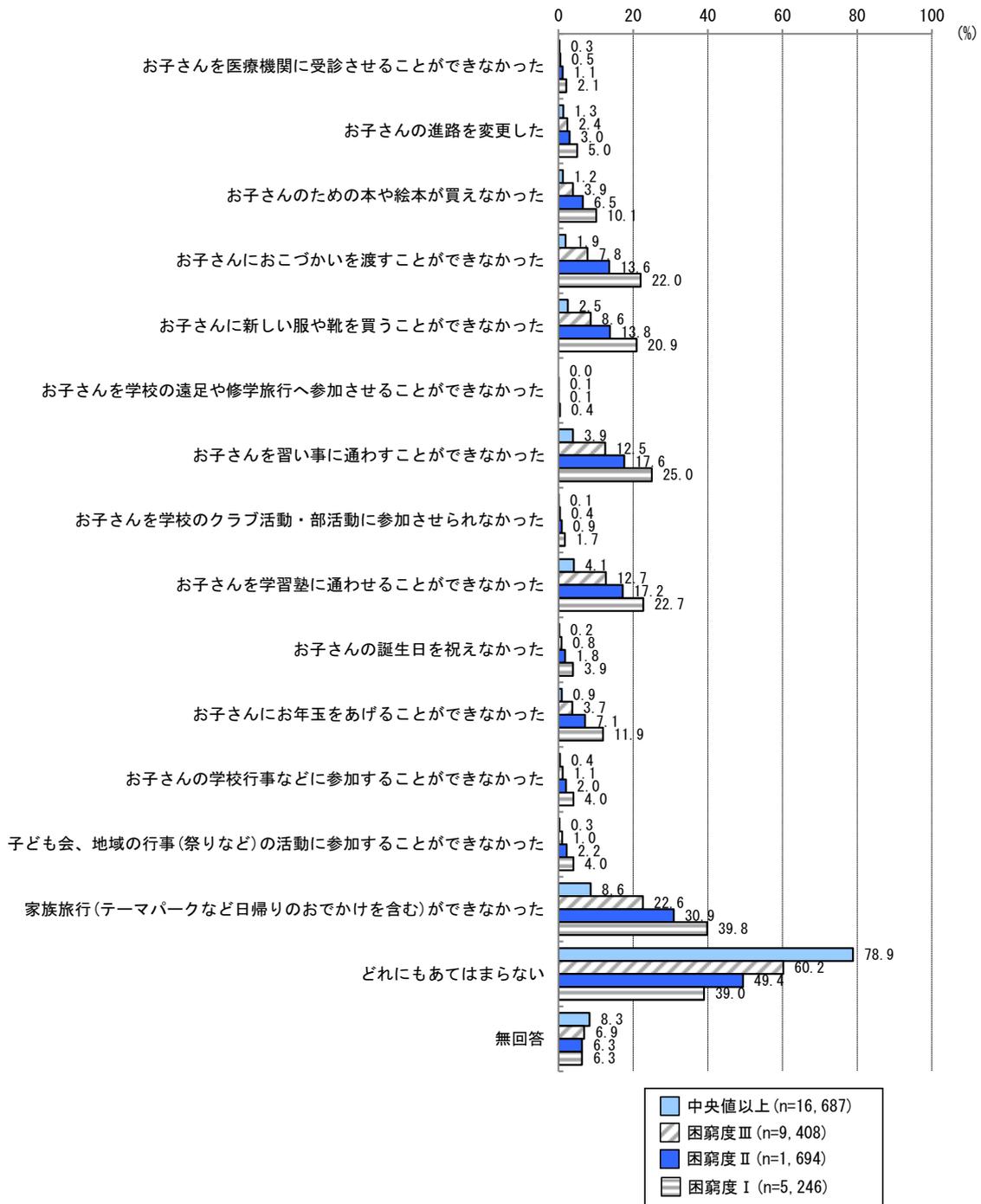


図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験

困窮度別に経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「敷金・保証金などを用意できないので、住み替え・転居を断念した」が9.3%（中央値以上群に対して93倍）、「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」が10.9%（同じく36.3倍）、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」が6.8%（同じく22.7倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また「どれもあてはまらない」は中央値以上群で46.3%に対して、困窮度Ⅰ群において10.9%だった。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<豊中市>

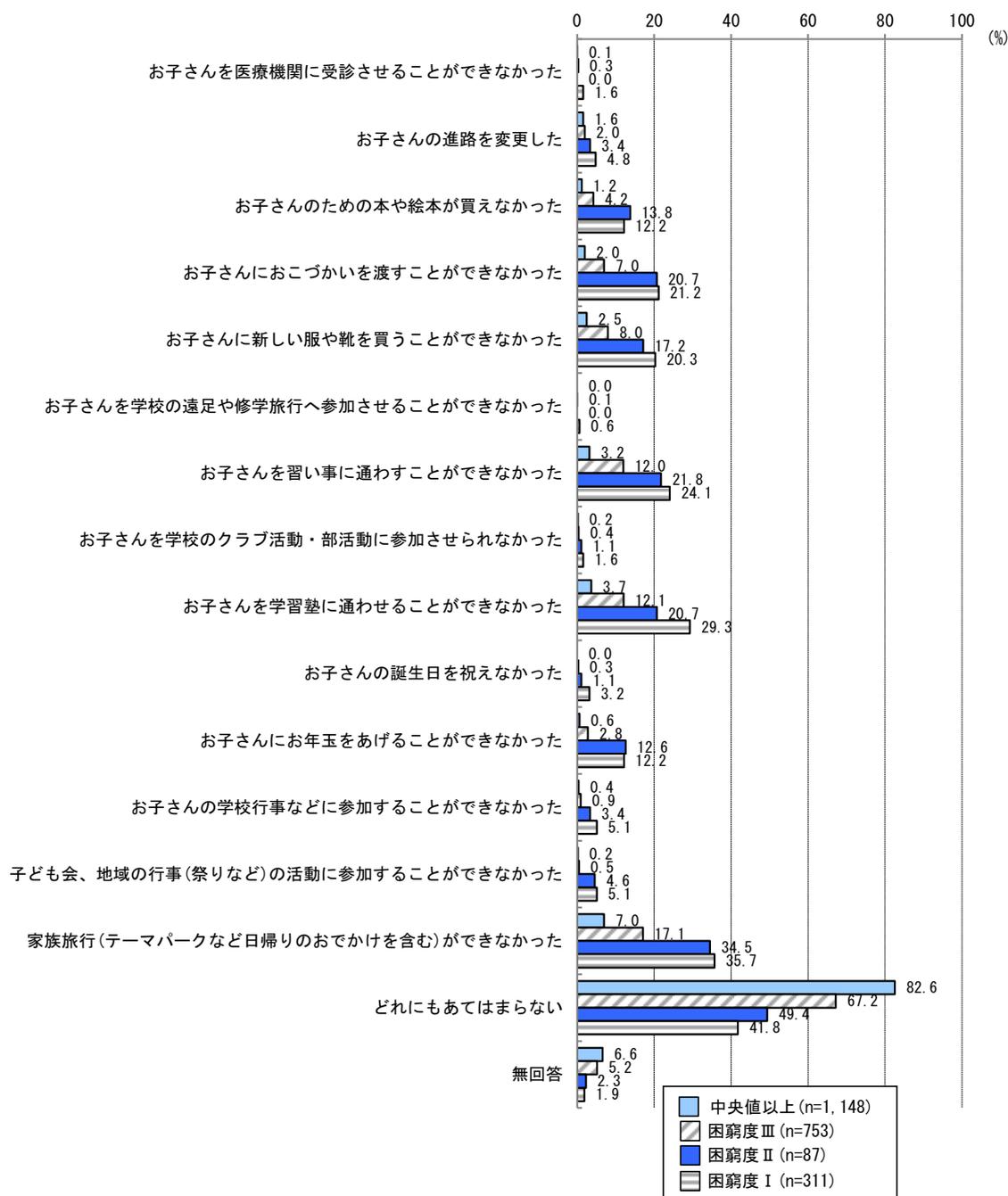


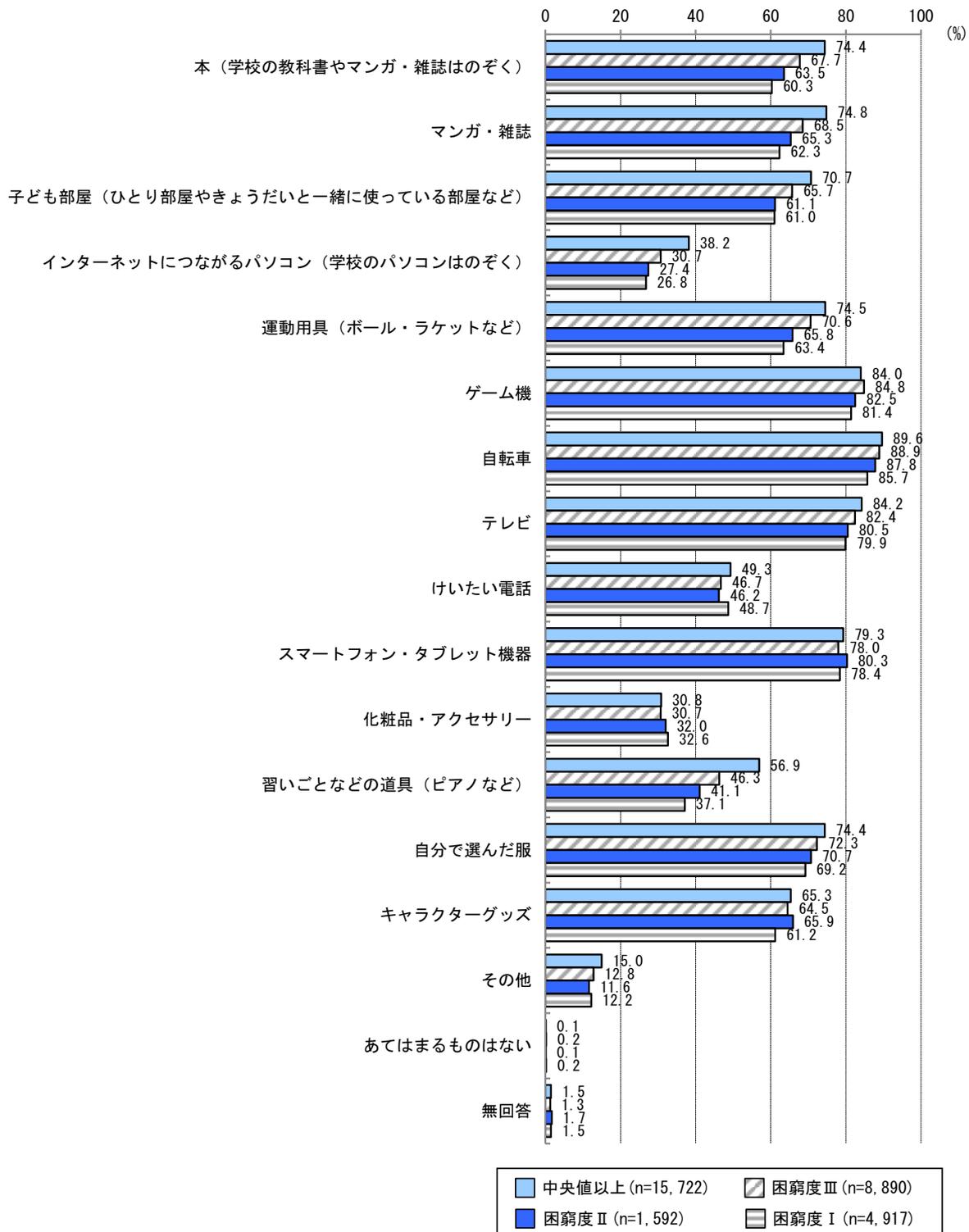
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験

困窮度別に子どもへの経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「子ども会、地域の行事(祭りなど)の活動に参加することができなかった」が5.1% (中央値以上群に対して25.5倍)、「お子さんにお年玉をあげることができなかった」が12.2% (同じく20.2倍)、「お子さんを医療機関に受診させることができなかった」が1.6% (同じく16.0倍) となっている。

また、「どれにもあてはまらない」は中央値以上群で82.6%に対して、困窮度Ⅰ群において41.8%だった。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



<豊中市>

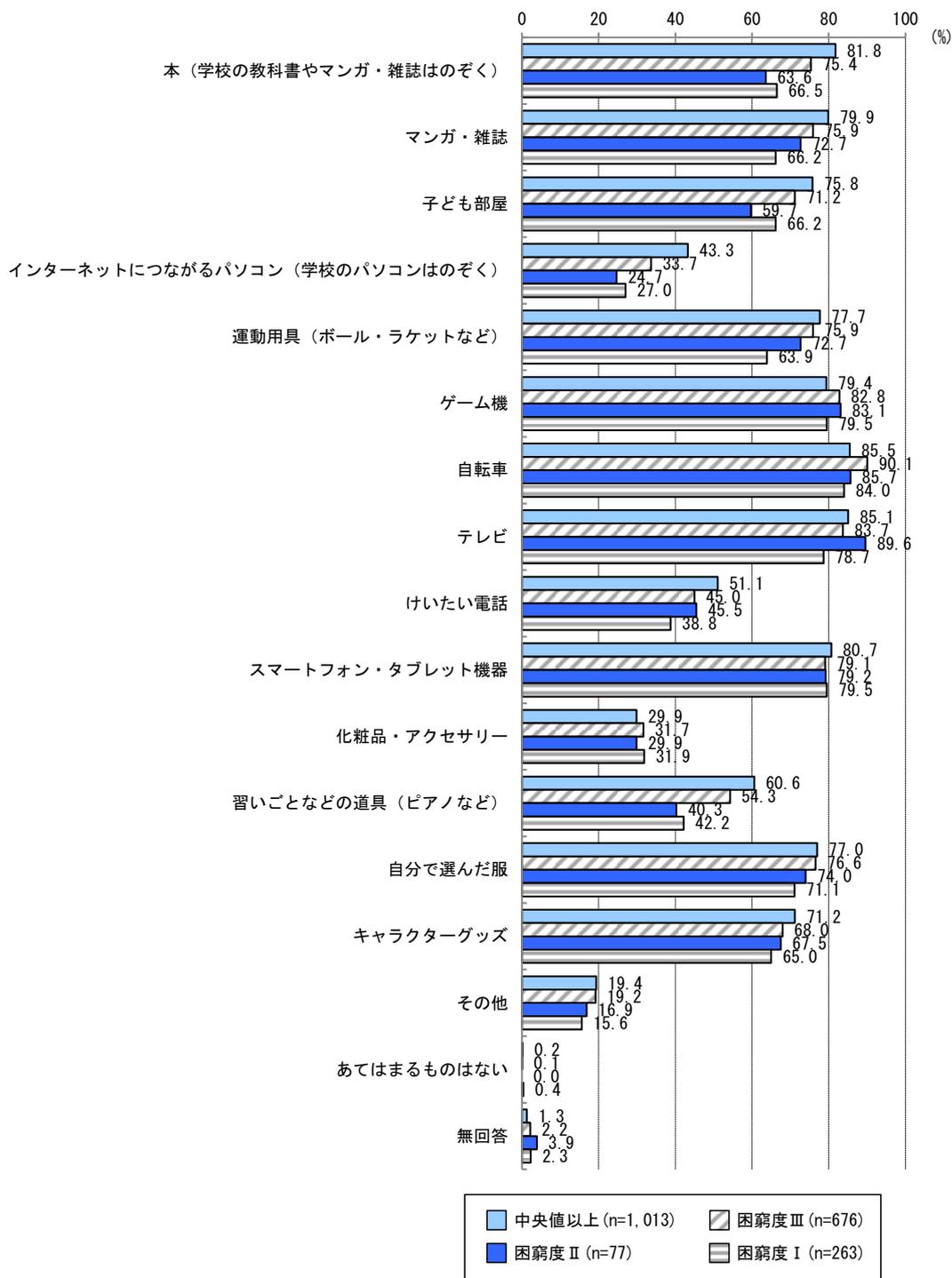
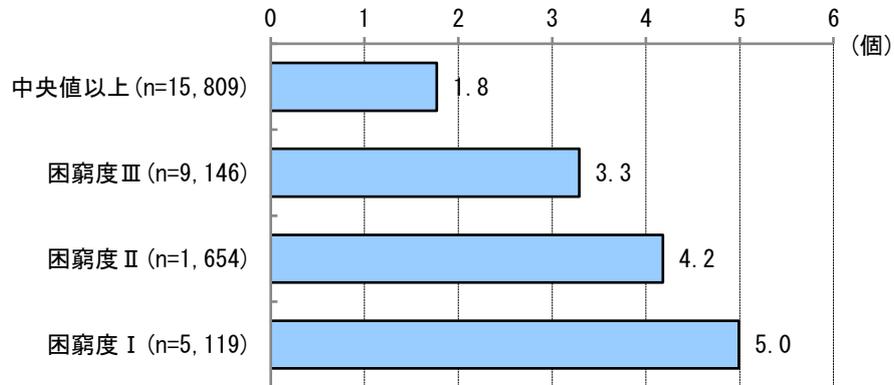


図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの

困窮度別に持っているもの、使うことができるものを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群を見ると、「インターネットにつながるパソコン (学校のパソコンはのぞく)」が43.3% (困窮度Ⅰ群に対して1.6倍)、「習い事などの道具 (ピアノなど)」が60.6% (同じく1.4倍)、「けいたい電話」が51.1% (同じく1.3倍) となり、中央値以上群において高い項目、すなわち困窮度Ⅰ群においては低い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問7）

<大阪府内全体>



<豊中市>

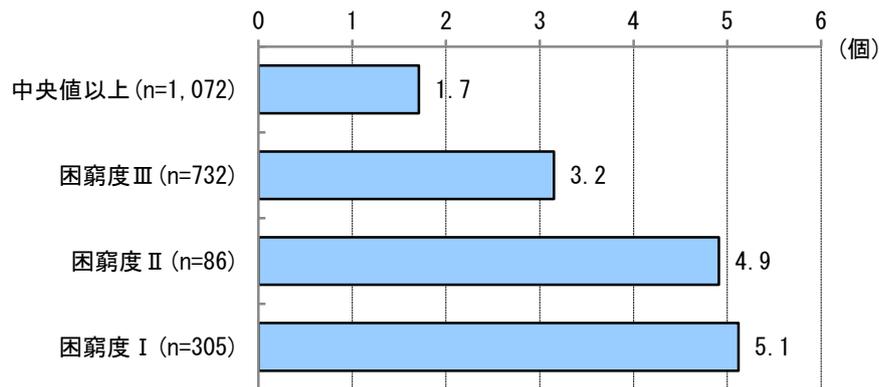


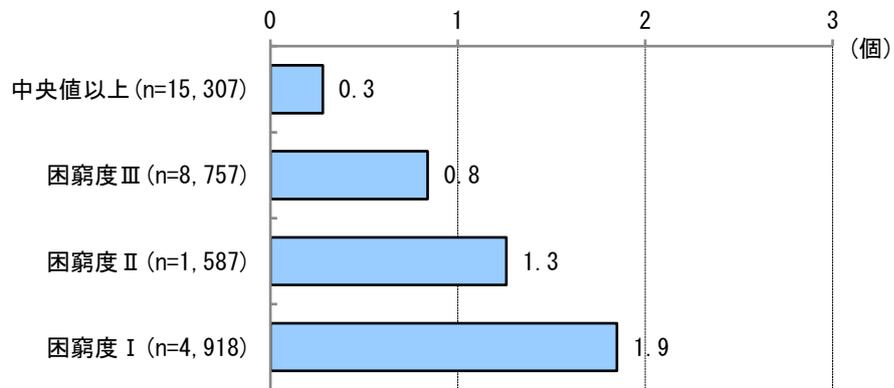
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

経済的な理由による経験として示した21個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由による経験の該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<豊中市>

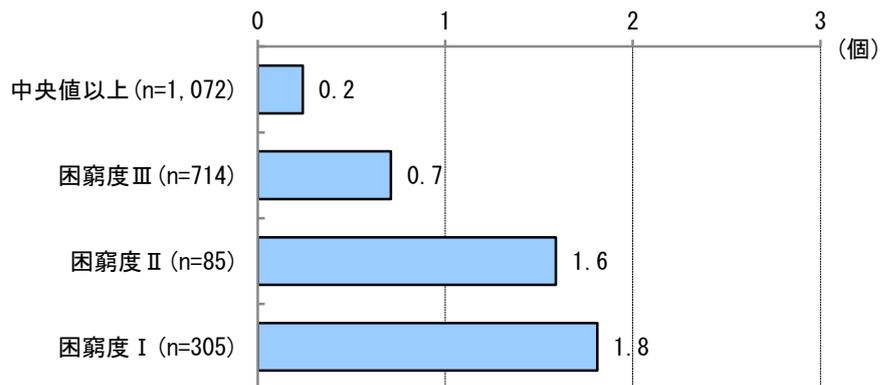


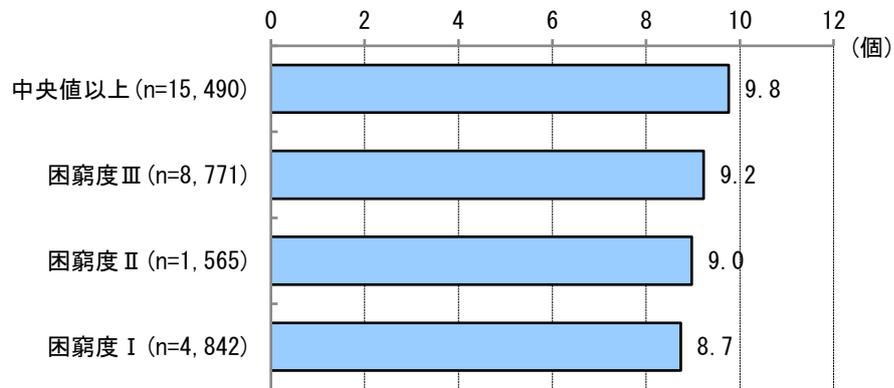
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

子どもに関して経済的な理由による経験として示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由で子どもにできなかったことの該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



<豊中市>

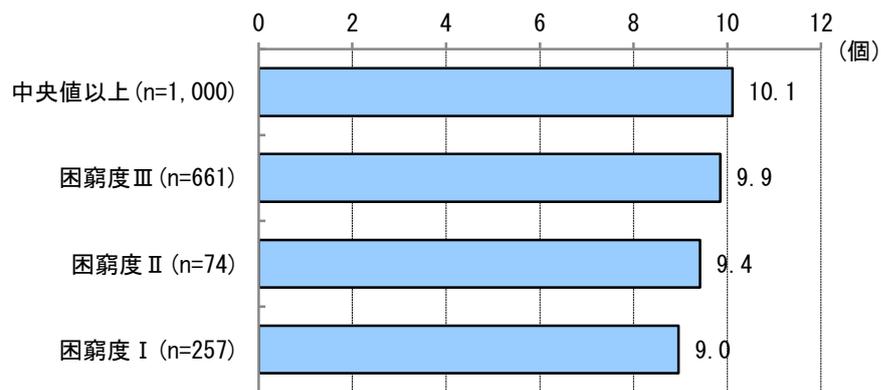


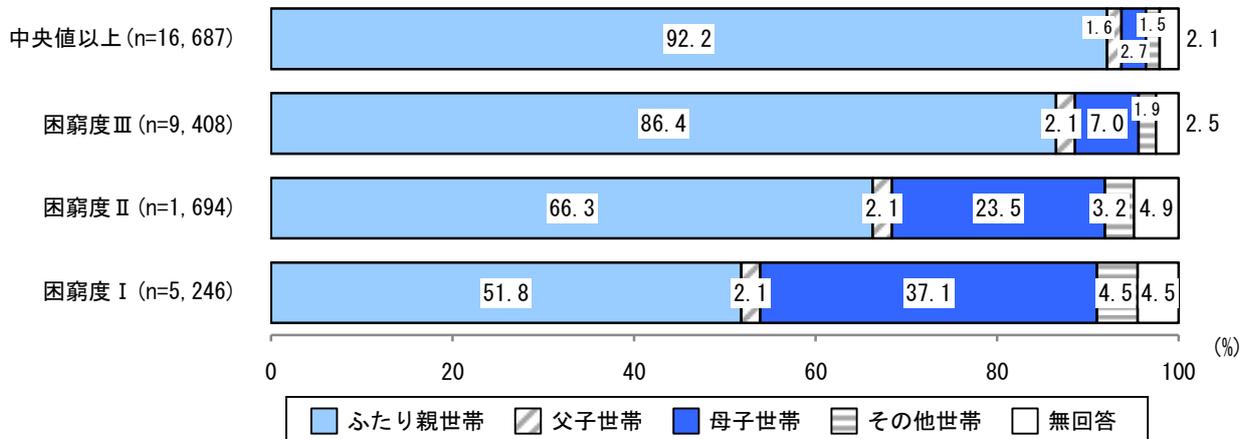
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均

子どもの持っているもの、使うことができるものとして示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高まるにつれ、個数が少なくなり、困窮度Ⅰ群が9.0個で最も少なくなっている。

困窮度別に見た、世帯員の構成（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<豊中市>

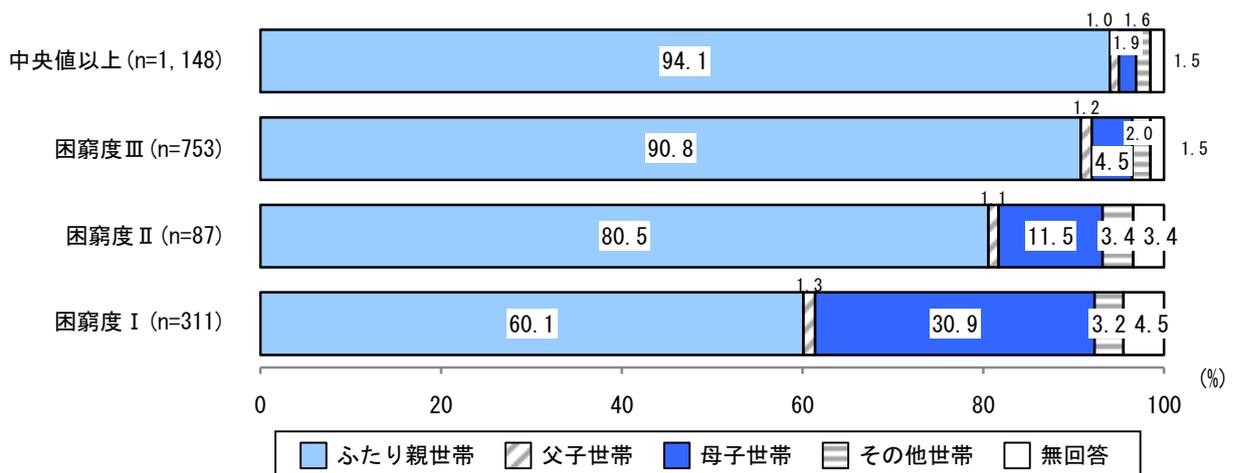


図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成

困窮度別に世帯員の構成を見ると、「ふたり親世帯」と回答したのは、中央値以上群が94.1%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は60.1%だった。また、「母子世帯」と回答したのは、中央値以上群が1.9%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は30.9%だった。

<2016年度調査との比較／豊中市>

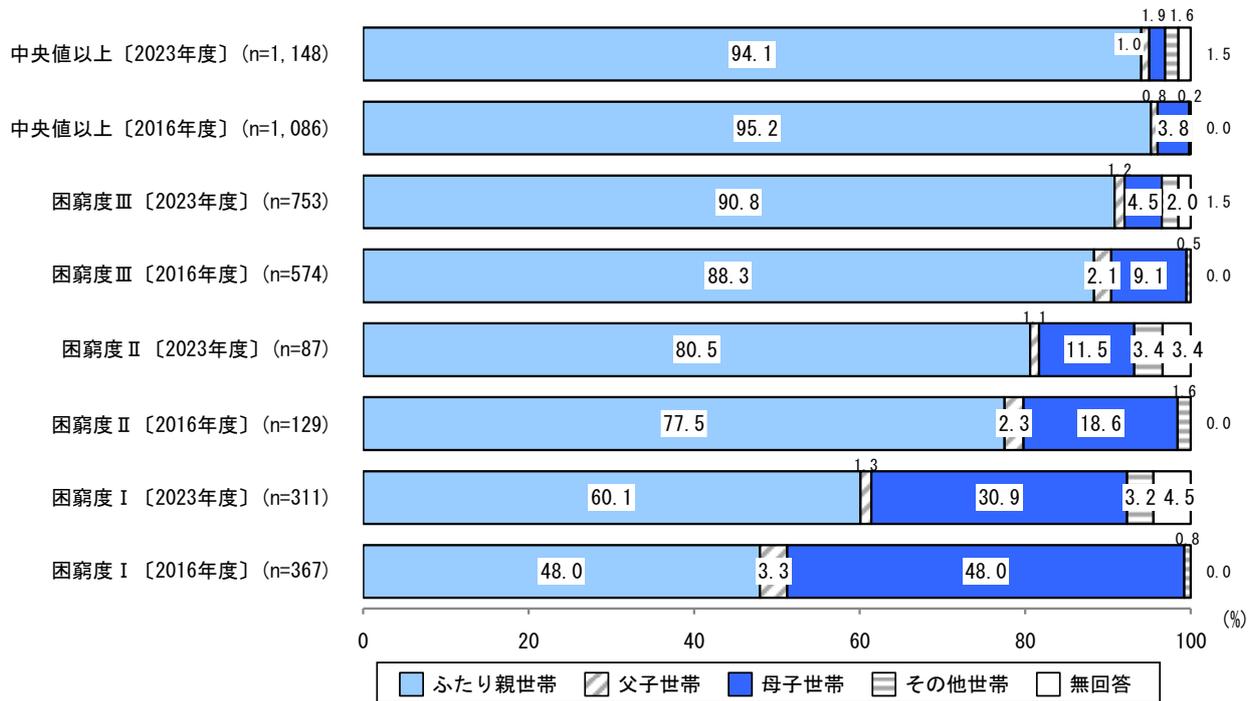
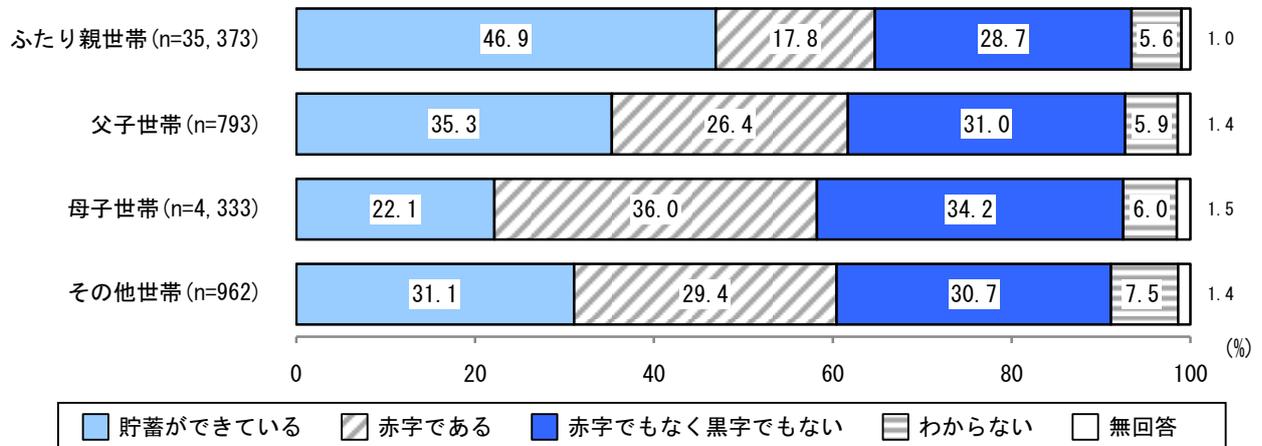


図 8. 困窮度別に見た、世帯員の構成 (2016 年度調査との比較)

2016年度調査と比較すると、「ふたり親世帯」と回答した割合は、中央値以上群を除き、2016年度調査に比べて高くなっている。一方で、「母子世帯」は2016年度調査に比べて、いずれの困窮度も割合が低くなっている。

世帯構成別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

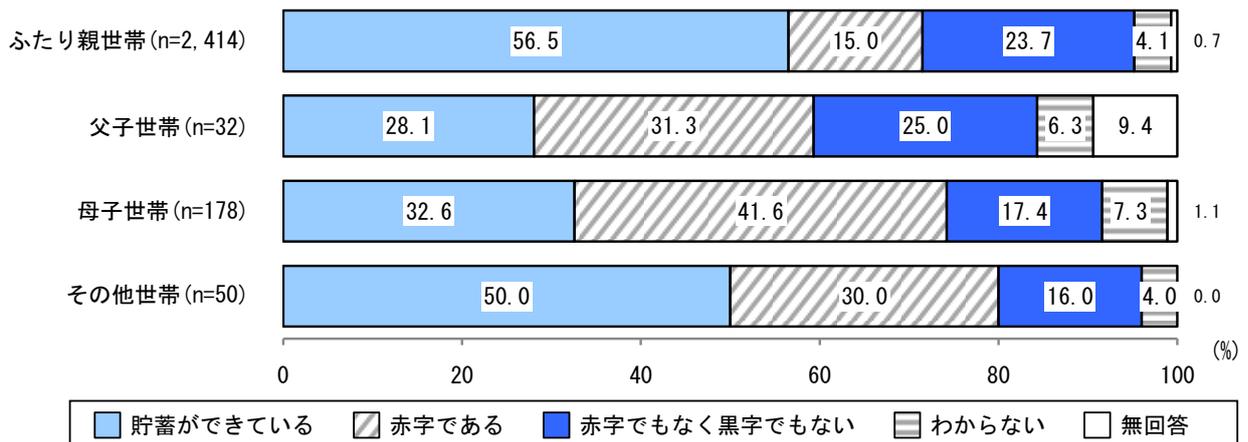
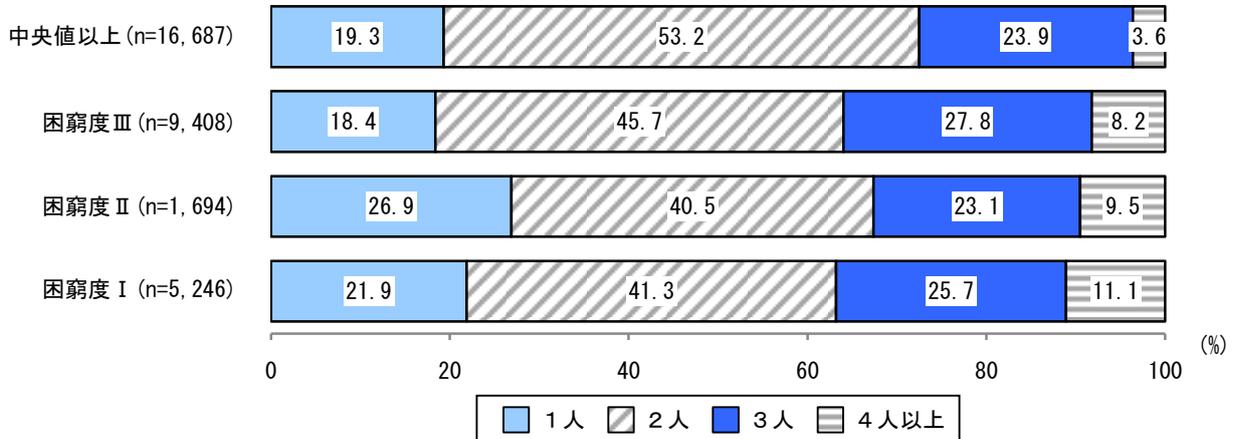


図 9. 世帯構成別に見た、家計の状況

世帯構成別に家計の状況を見ると、「貯蓄ができています」と回答した割合は、ふたり親世帯が56.5%なのに対して、父子世帯28.1%、母子世帯32.6%だった。また、「赤字である」と回答したのは、ふたり親世帯が15.0%なのに対して、父子世帯は31.3%、母子世帯は41.6%だった。

困窮度別に見た、子どもの人数（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<豊中市>

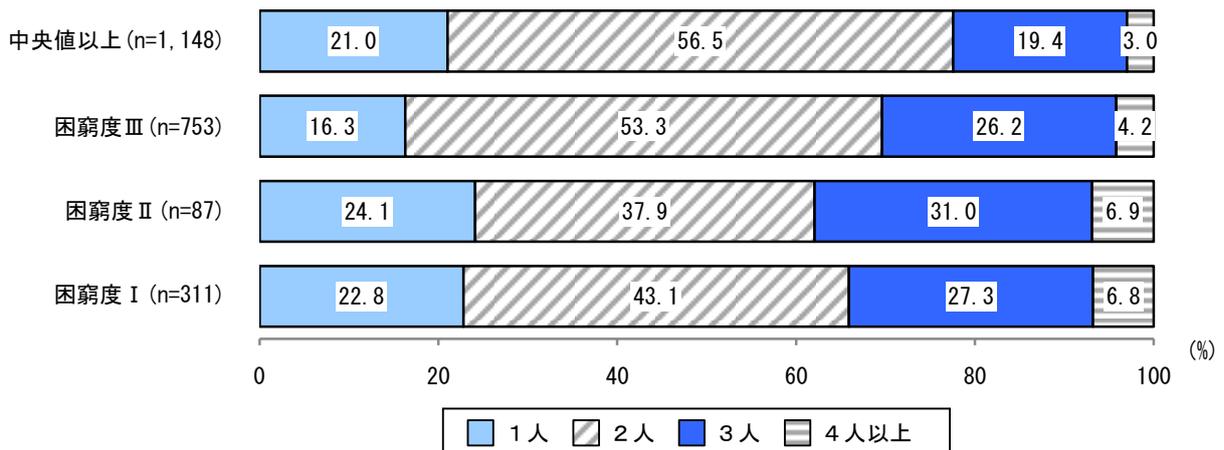
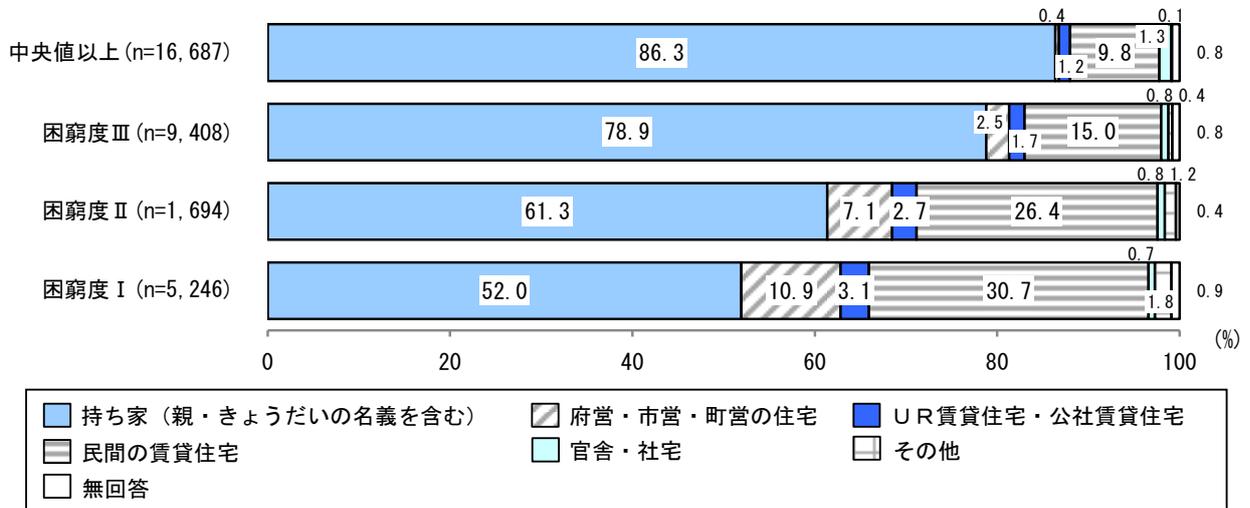


図 10. 困窮度別に見た、子どもの人数

困窮度別に子どもの人数を見ると、中央値以上群において3人以上が22.4%（3人19.4%、4人以上3.0%）であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、3人以上が34.1%（3人27.3%、4人以上6.8%）と高くなっている。

困窮度別に見た、住居形態（保護者票問5）

<大阪府内全体>



<豊中市>

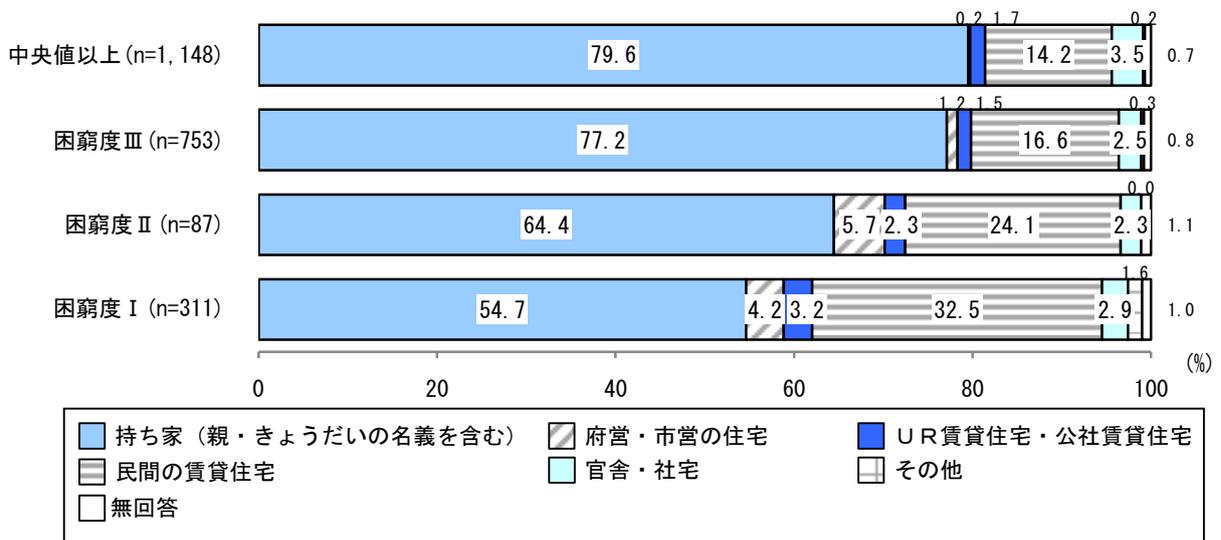
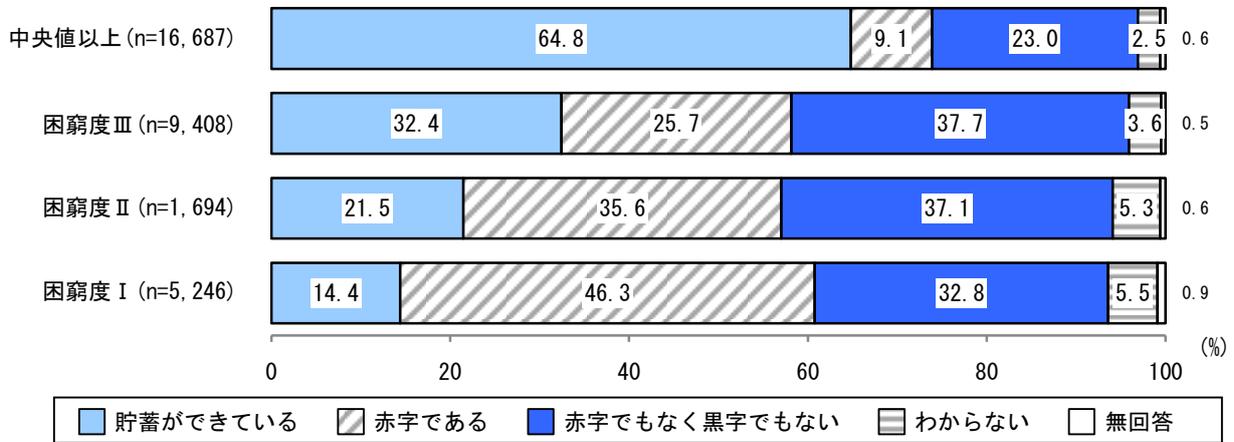


図 11. 困窮度別に見た、住居形態

困窮度別に住居形態を見ると、困窮度が高まるにつれ、持ち家の保有率は低くなっている。中央値以上群では、「持ち家」と回答した割合は79.6%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、54.7%にとどまっている。

困窮度別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

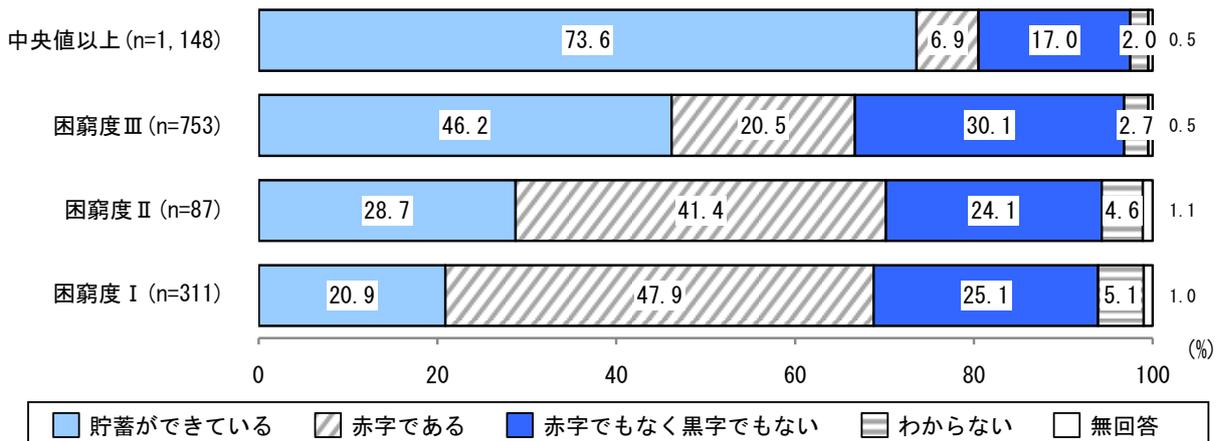
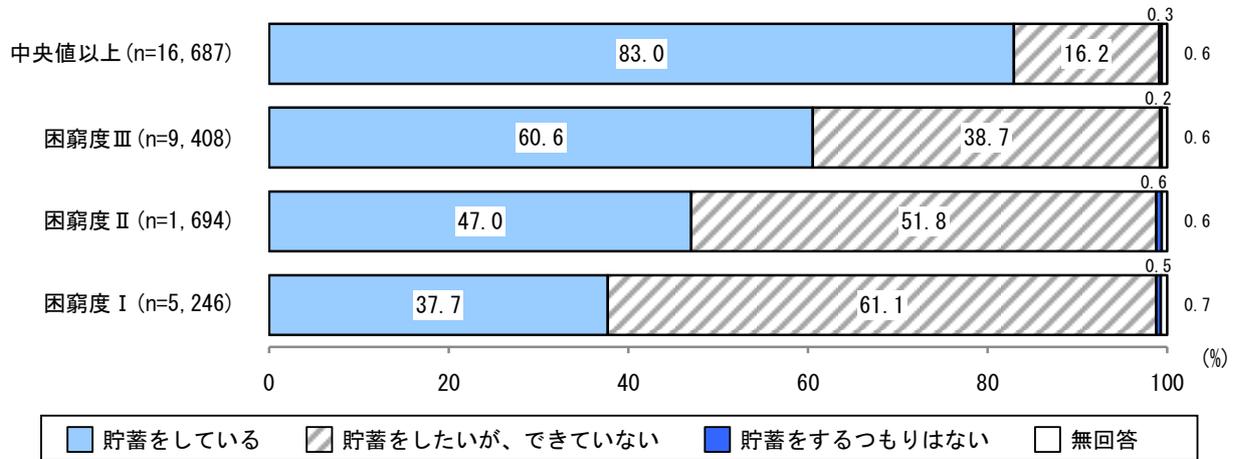


図 12. 困窮度別に見た、家計の状況

困窮度別に家計の状況を見ると、困窮度が高まるにつれて、「貯蓄ができています」と回答する割合が低くなり、逆に、「赤字である」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は、6.9%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、47.9%となり、困窮度Ⅰ・Ⅱ群で4割を超えている。

困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問 6(2)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

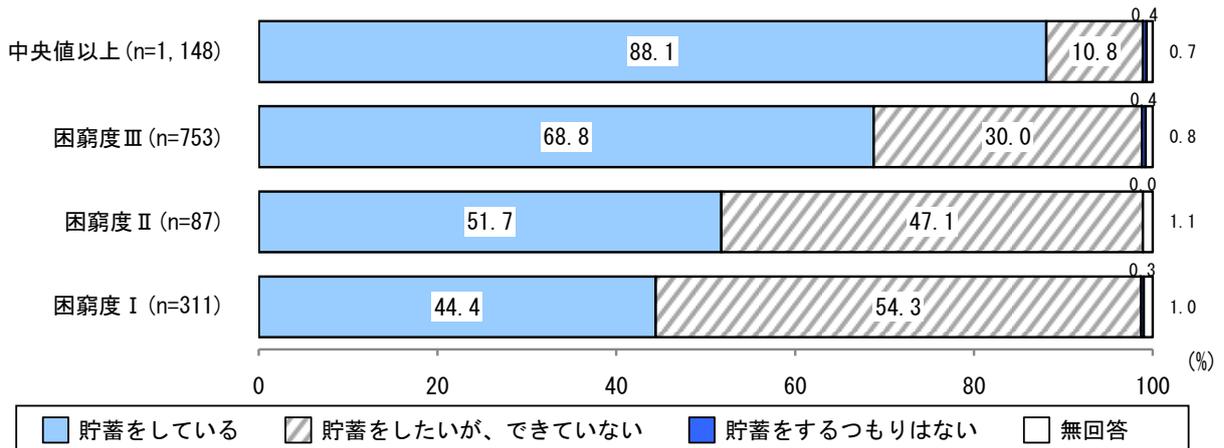
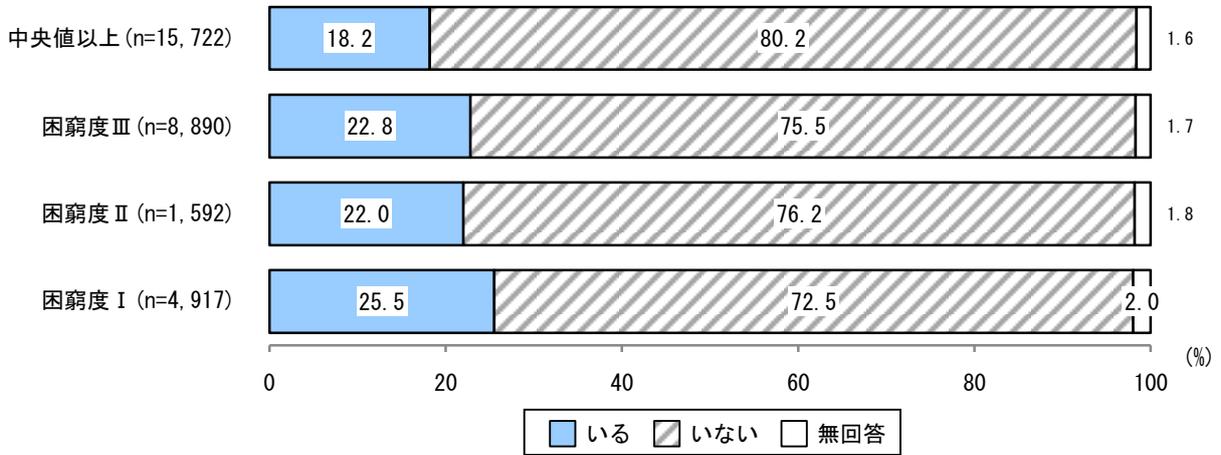


図 13. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

困窮度別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「貯蓄をしたいが、できていない」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答する割合が88.1%を占めたが、困窮度Ⅰ群では44.4%にとどまり、54.3%が「貯蓄をしたいが、できていない」と回答している。

困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無（子ども票問 26(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

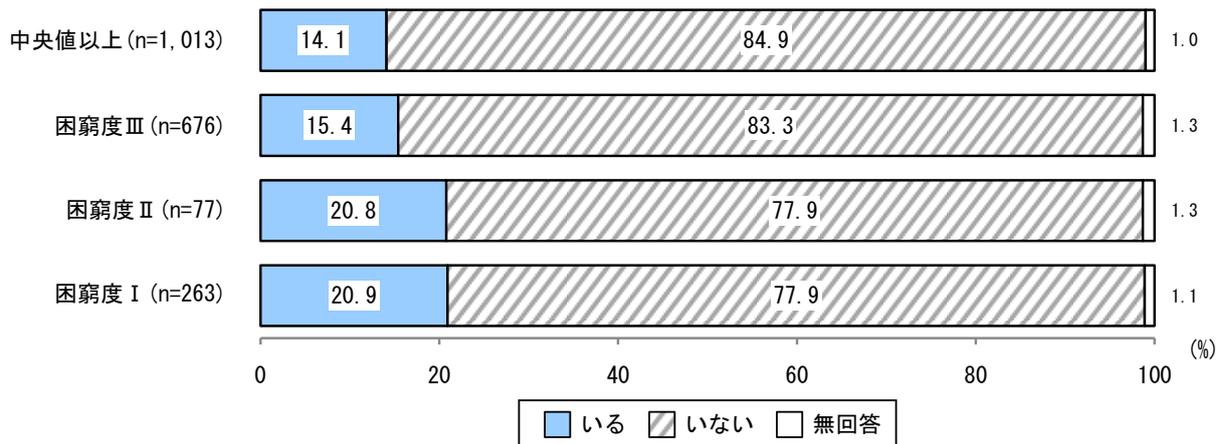


図 14. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無

困窮度別に自分が世話をしている人の有無を見ると、自分が世話をしている人が「いる」と回答した割合は困窮度Ⅰ群で20.9%と最も高くなっている。中央値以上群では、「いない」と回答する割合が84.9%を占め、最も高くなっている。

## <経済状況に関する考察>

経済的理由で生じた生活上の困難についての質問項目は、現在の日本社会において、「通常であれば可能な生活」を基準に設定している。「どれもあてはまらない」という回答は、その基準に達していることを示すものであるが、中央値以上群の層で46.3%に対して、困窮度Ⅰ群では10.9%にすぎない。一方、困窮度が深刻化するにしたがい経済的理由から生活面での困難は増す傾向にあり、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「電気・ガス・水道などが止められた」(2.3%対0.2%)、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」(6.8%対0.3%)、「電話(固定・携帯)など通信料の支払いが滞ったことがある」(5.5%対0.4%)と回答した割合が高くなっており、生活面で大きな格差が存在する。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上と比べ、「国民年金の支払いが滞ったことがある」(13.2%対0.7%)と回答した割合が高くなっており、子どもの親(保護者)の将来(老後)の生活困窮を示唆するデータであると言える。さらに、こういった経済状況は、親の心理的な面にも影響しており、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」(37.0%対5.0%)と回答した割合が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭では、生活インフラへの支払いの滞りや年金支払いの義務が果たせなくなることに加え、将来への不安感が多いことが示唆される。

世帯の経済状況は、子どもの教育にも影響を及ぼしていることが確認できる。主な項目をあげると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「お子さんの進路を変更した」(4.8%対1.6%)、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」(24.1%対3.2%)、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」(29.3%対3.7%)と回答した割合が高くなっており、子どもに与える教育の格差が示されている。これらの結果から、経済状況によって、子どもの進路や学習環境、家族以外の社会的交流を行う機会が制限されることが示唆される。

同様に、学校以外での子どもの多様な「体験」の有無は、子どものヒューマンキャピタルの形成に影響を与えることが予想されるが、調査結果では、所得階群によって体験の機会に格差があることが示されている。具体的には、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「家族旅行(日帰りのおでかけを含む)ができなかった」(35.7%対7.0%)といった経験に大きな差がある。その一方、「どれもあてはまらない」が、中央値以上群では82.6%であり、困窮度Ⅰ群でも41.8%ある。所得階群によって体験の機会に差が見られるが、どの階群においても子どもに対して様々な体験や勉強の機会が提供できている世帯も多数いるという点がデータから読み取れる。

また、「子どもの将来のための貯蓄状況」という質問項目に対して、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「貯蓄をしている」と回答した割合が高くなっている(88.1%対44.4%)。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が高くなっており(54.3%対10.8%)、貯蓄の状況に大きな差があることが確認できる。これらの結果から、経済的困難な家庭では、貯蓄不足により、将来子どもに起こり得るリスク(病気や進路選択など)に備えることや、子どもに対しての投資が難しくなると予想される。

近年、子どもの貧困やヤングケアラーへの社会的関心が深まりつつあり、厚生労働省と文部科学省が連携して行った全国調査では、ヤングケアラーと思われる子どもは小学6年生で6.5%(令和3年度実施)、中学2年生で5.7%(令和2年度実施)と報告されている(『ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告(令和3年5月17日)』)。全国調査の結果より、回答した小学6年生の15人に1人程度、中学2年生の17人に1人程度が家族の世話をしていることが明らかになった。

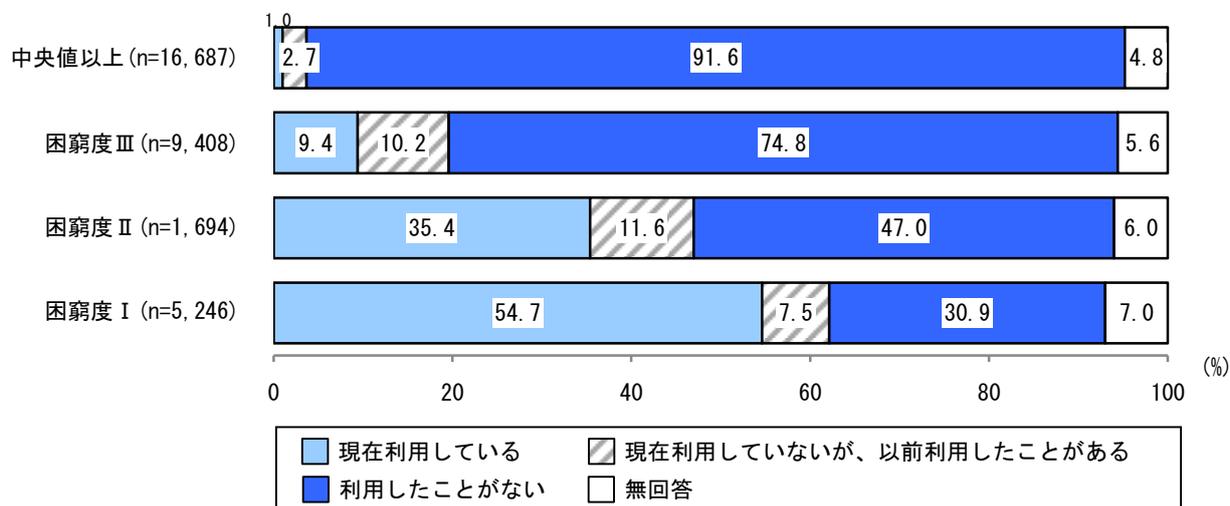
全国の状況を踏まえて、本調査では、「自分が世話をしている人の有無」という質問に対して「いる」と答えている割合は、全体においては15.3%であるが、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べて

「いる」と答えた割合が高くなっている（20.9%対14.1%）。これは、困窮度Ⅰ群では、回答した5人に1人程度が、中央値以上群では、7人に1人程度が世話をしている人が「いる」と回答していることになる。これらの結果から、豊中市ではヤングケアラーと思われる子どもの割合が高く、特に経済的困難な家庭ではその割合が高いことが読み取れる。

(2) 家庭状況 (制度等)

困窮度別に見た、就学援助の利用状況 (保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<豊中市>

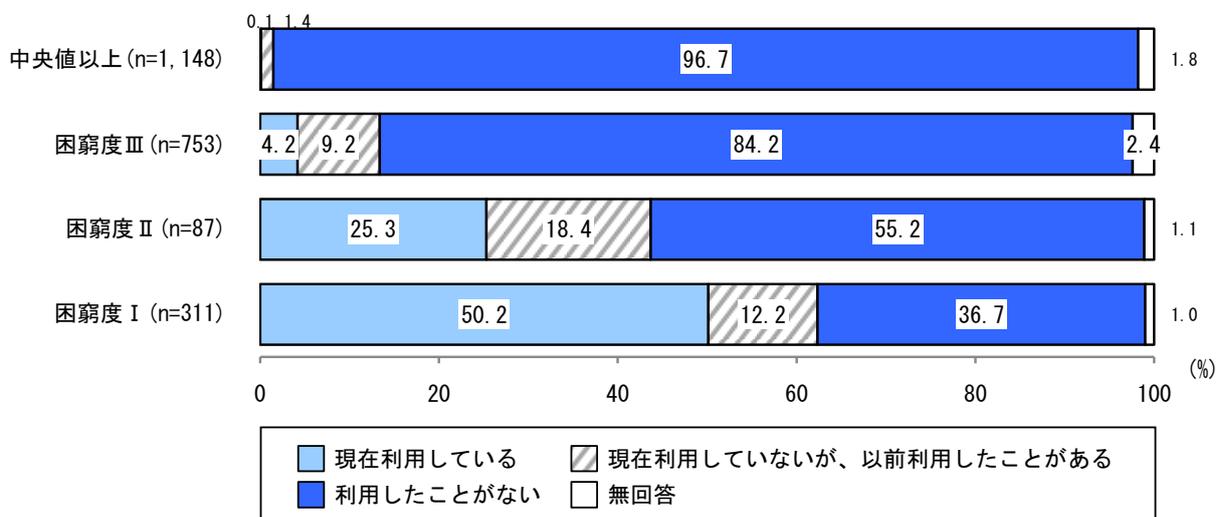
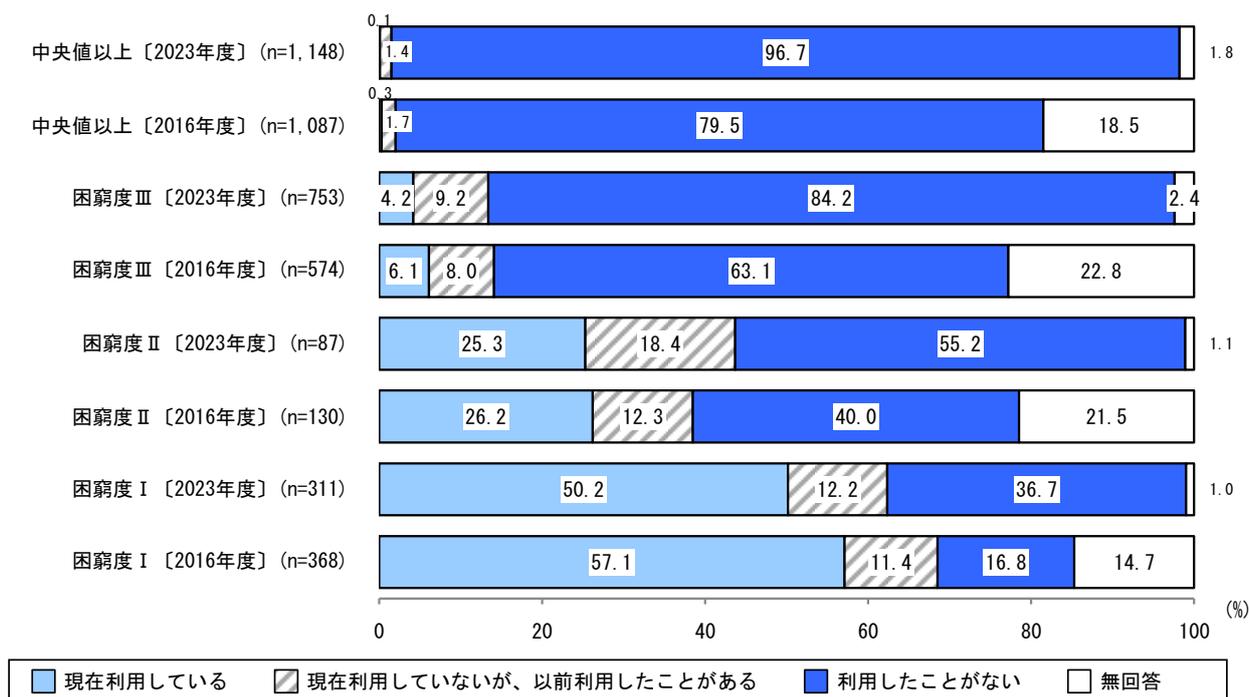


図 15. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況

困窮度別に就学援助の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では50.2%と最も高くなっている。

<2016年度調査との比較／豊中市>



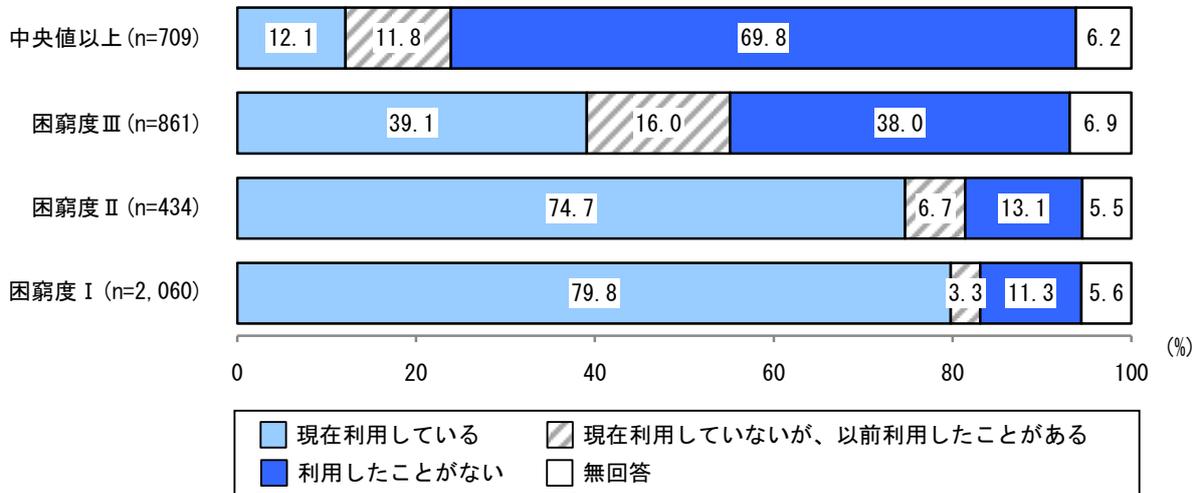
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

図 16. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて低くなっており、一方で、「利用したことがない」は2016年度調査に比べて割合が高くなっている。

困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（保護者票問 23-d）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<豊中市>

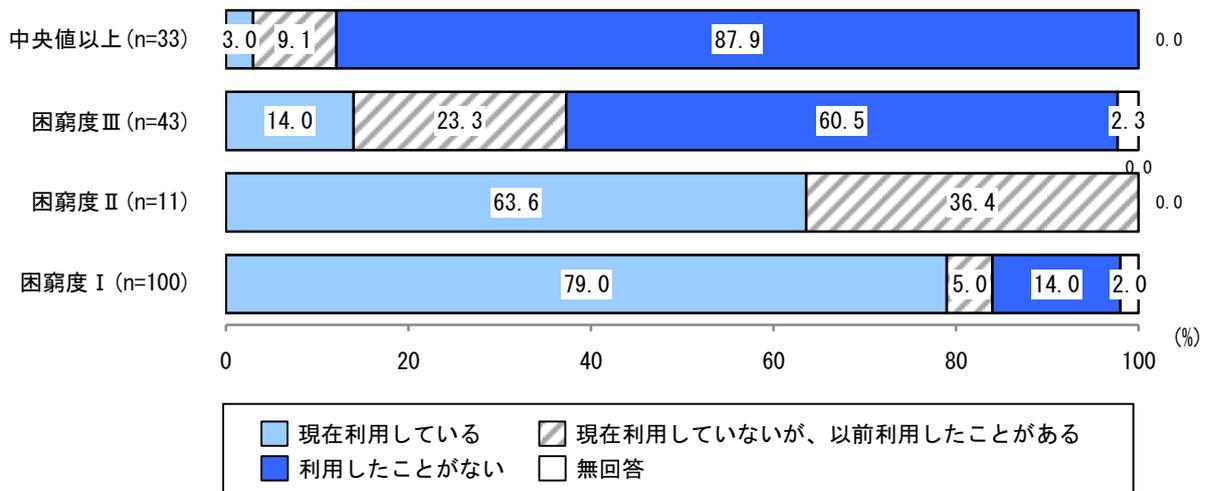
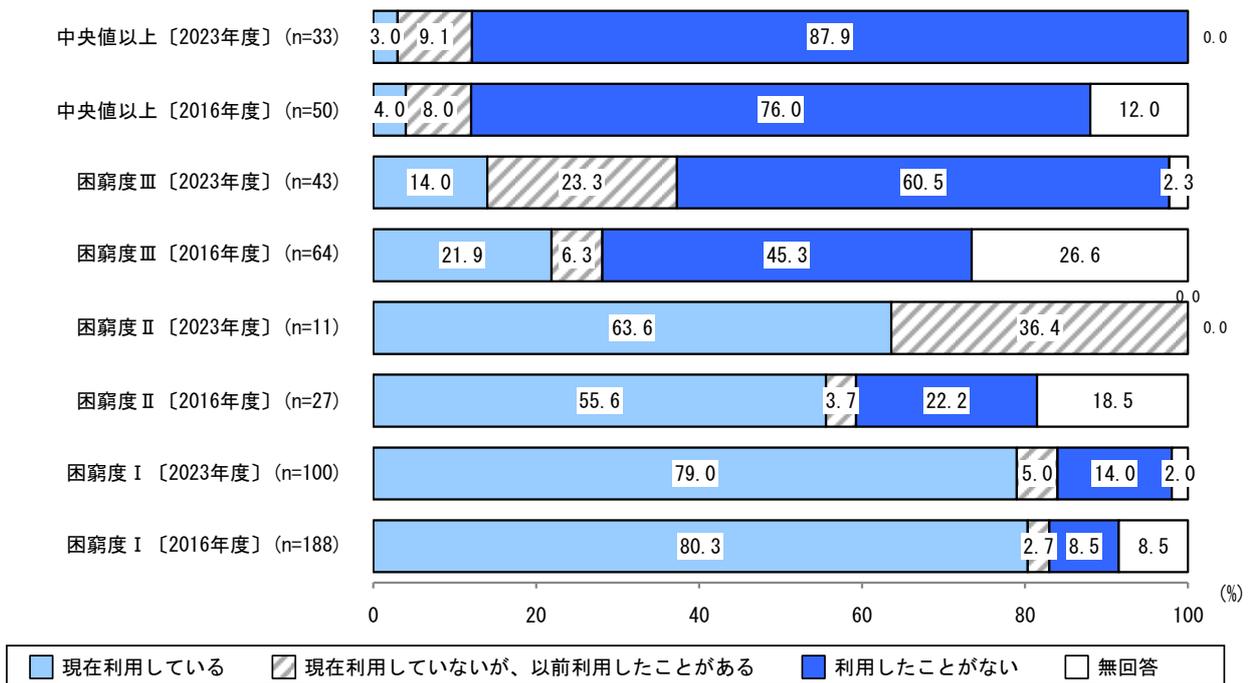


図 17. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に児童扶養手当の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群は「利用したことがない」と回答した割合が14.0%となっている。

<2016年度調査との比較／豊中市>



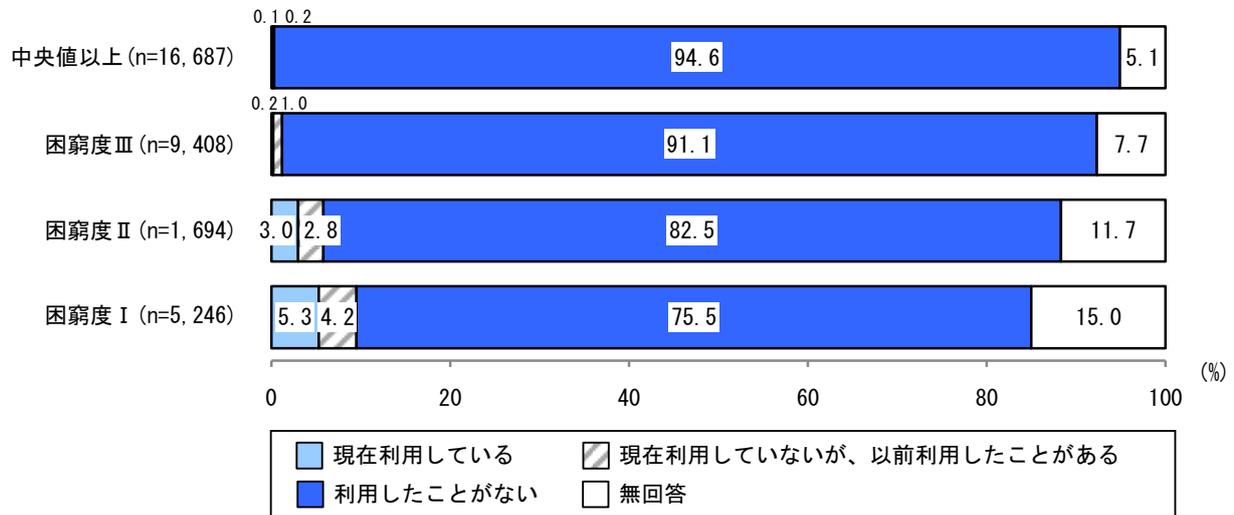
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

図 18. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群では2016年度調査より割合が高いが、それ以外の困窮度では2016年度調査よりも低くなっている。

困窮度別に見た、生活保護の利用状況（保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<豊中市>

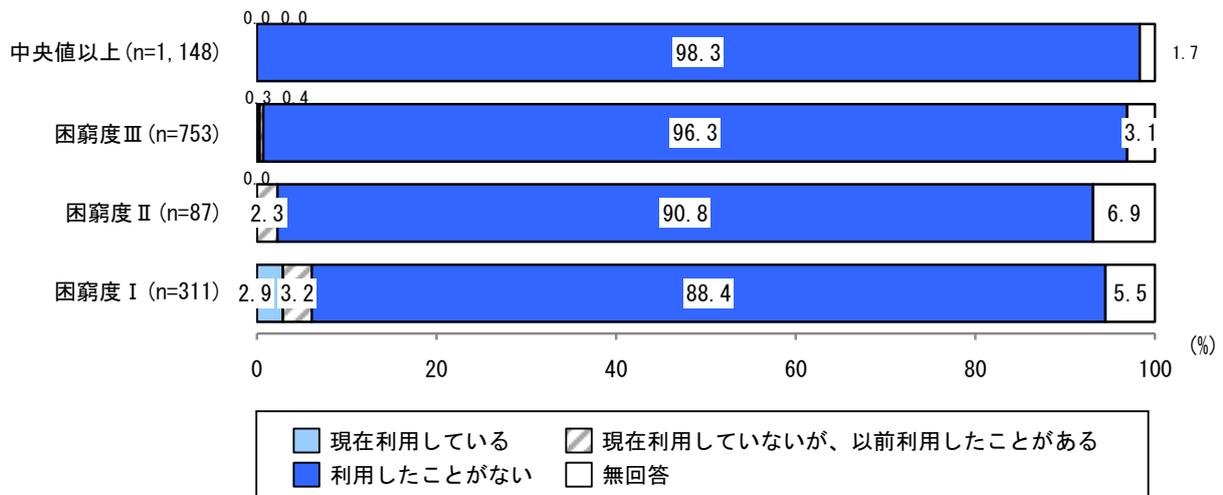
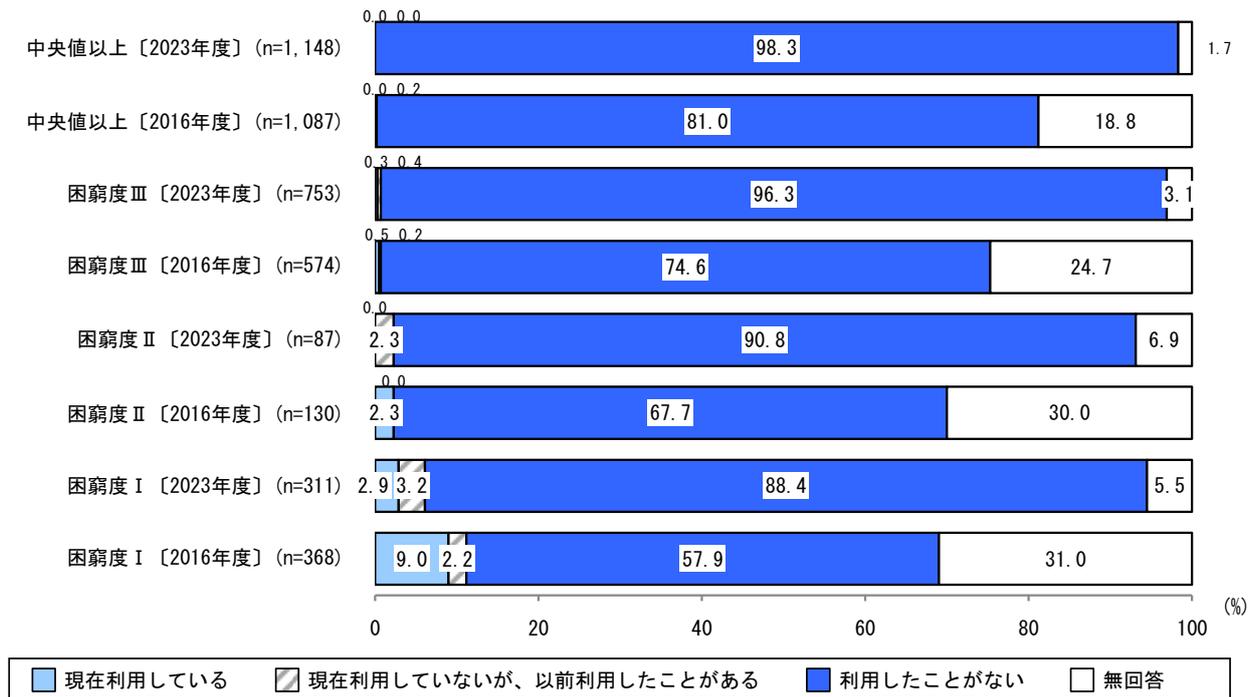


図 19. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況

困窮度別に生活保護の利用状況を見ると、困窮度Ⅰ群においては「現在利用している」と回答した割合は2.9%であった。

<2016年度調査との比較／豊中市>



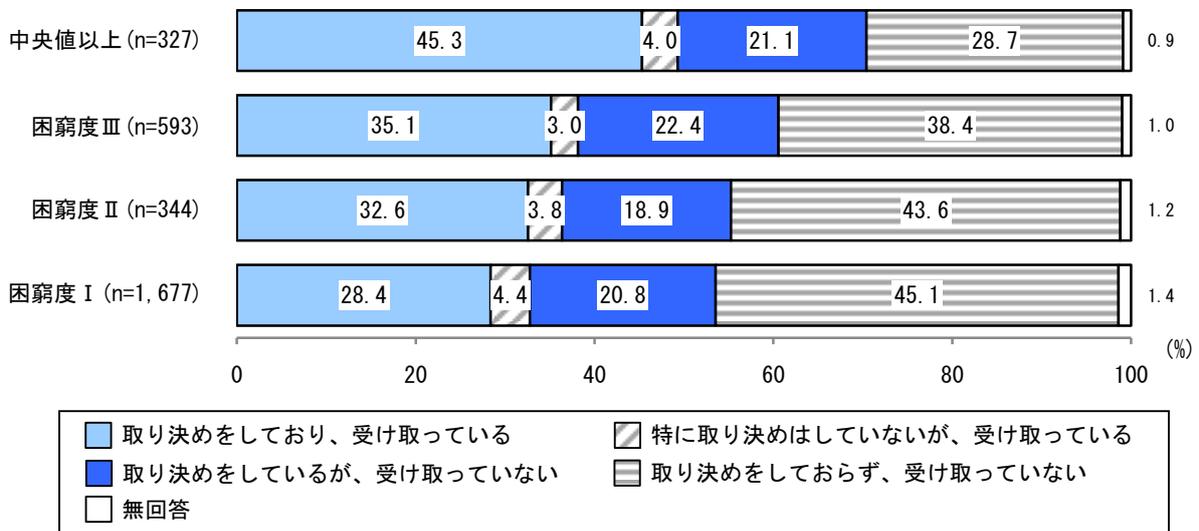
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

図 20. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、困窮度Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ群とも2016年度調査より割合が低くなっている。

困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（保護者票問4）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<豊中市>

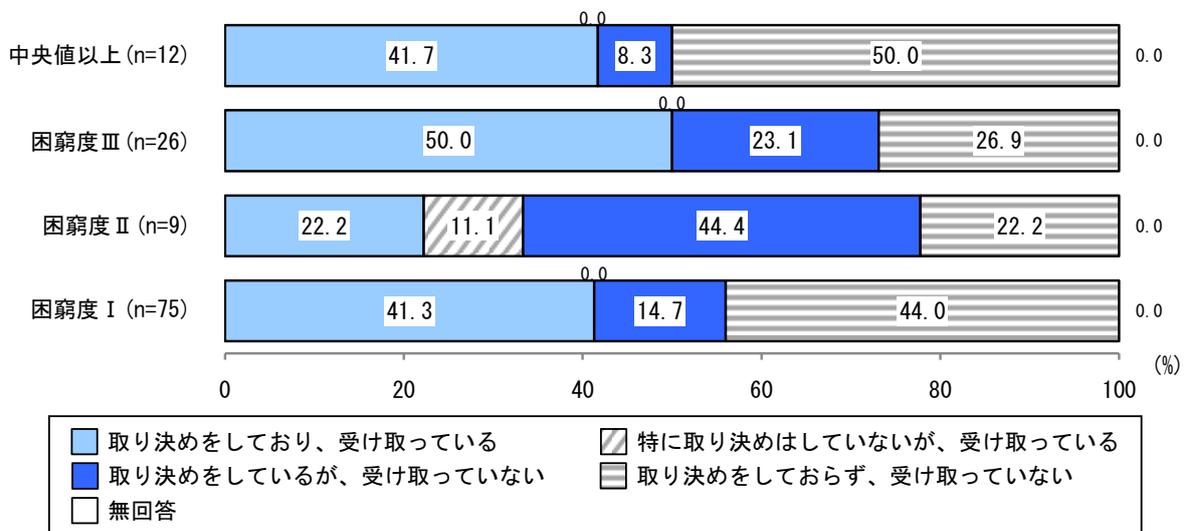
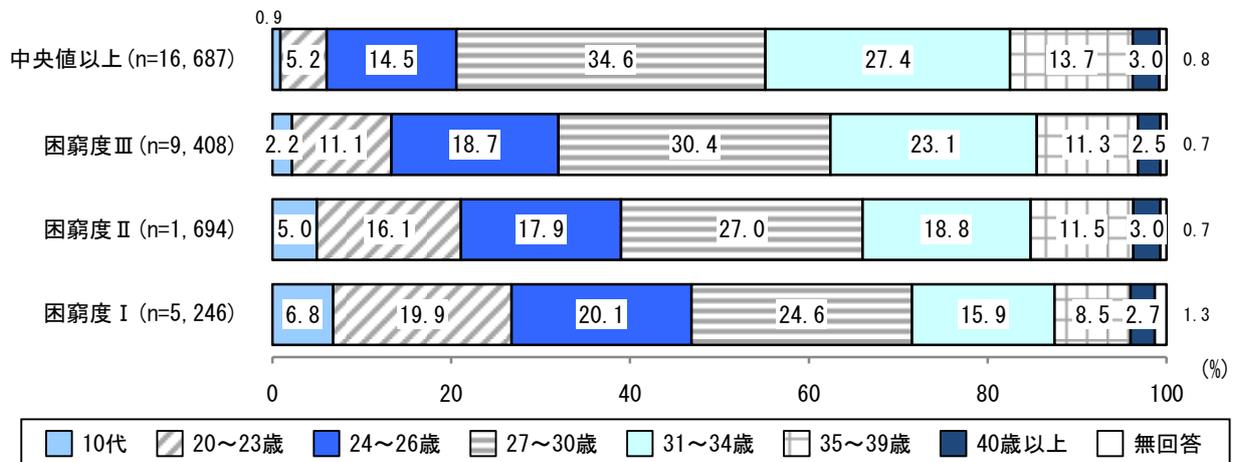


図 21. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に離婚相手との養育費の取り決めや受け取りを見ると、困窮度Ⅰ群においては「取り決めをしており、受け取っている」と回答した割合は41.3%であり、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が44.0%と高く、「取り決めをしているが、受け取っていない」の14.7%をあわせた養育費を受け取っていない人が58.7%となっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）

<大阪府内全体>



<豊中市>

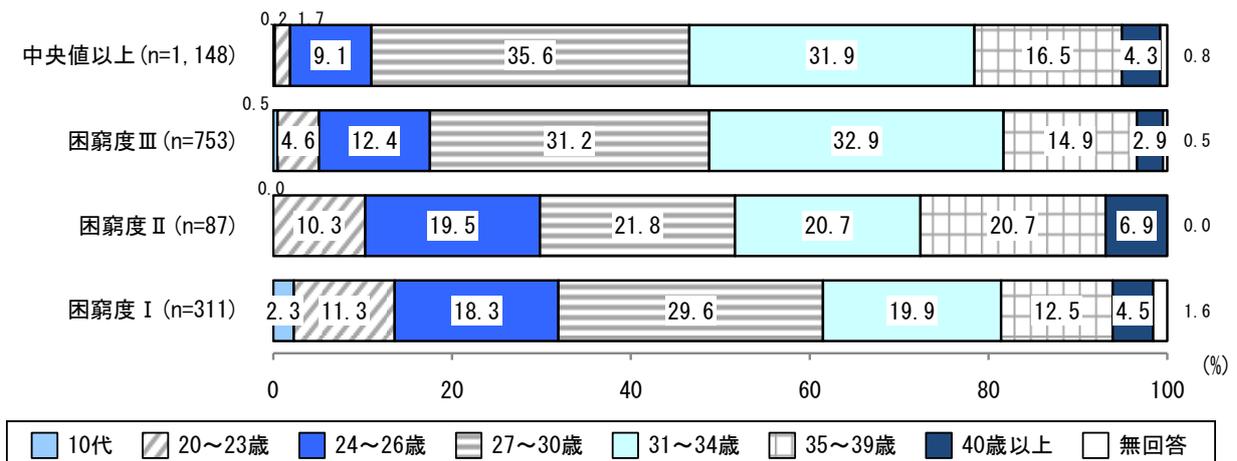
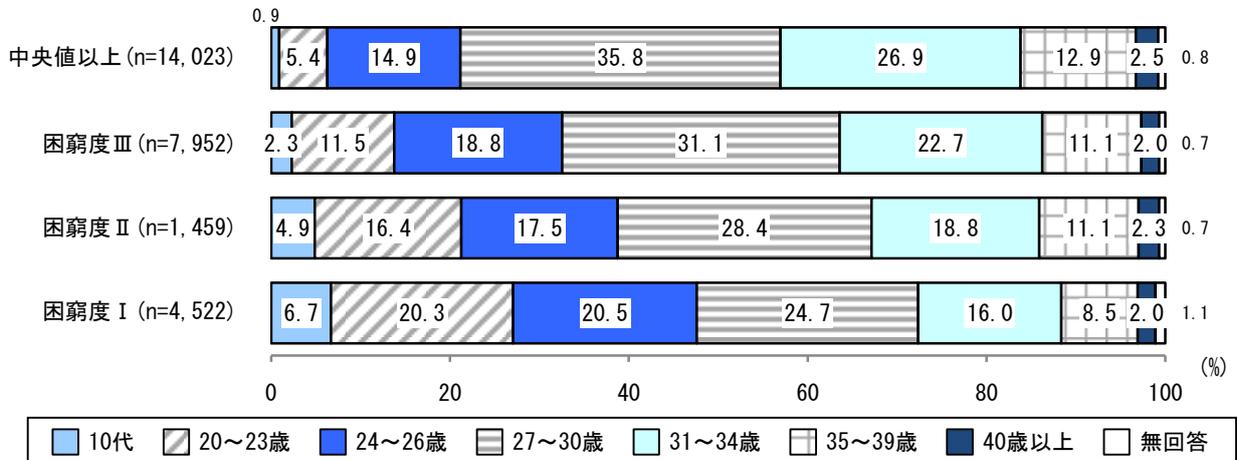


図 22. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、「10代」で初めて親となったと回答した割合が概ね高くなり、困窮度Ⅰ群で2.3%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）・母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<豊中市>

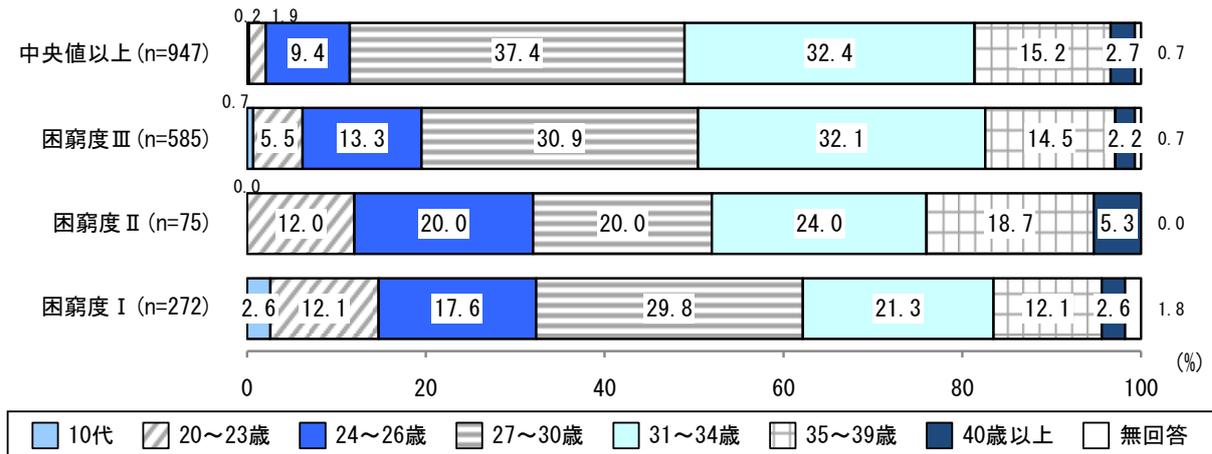
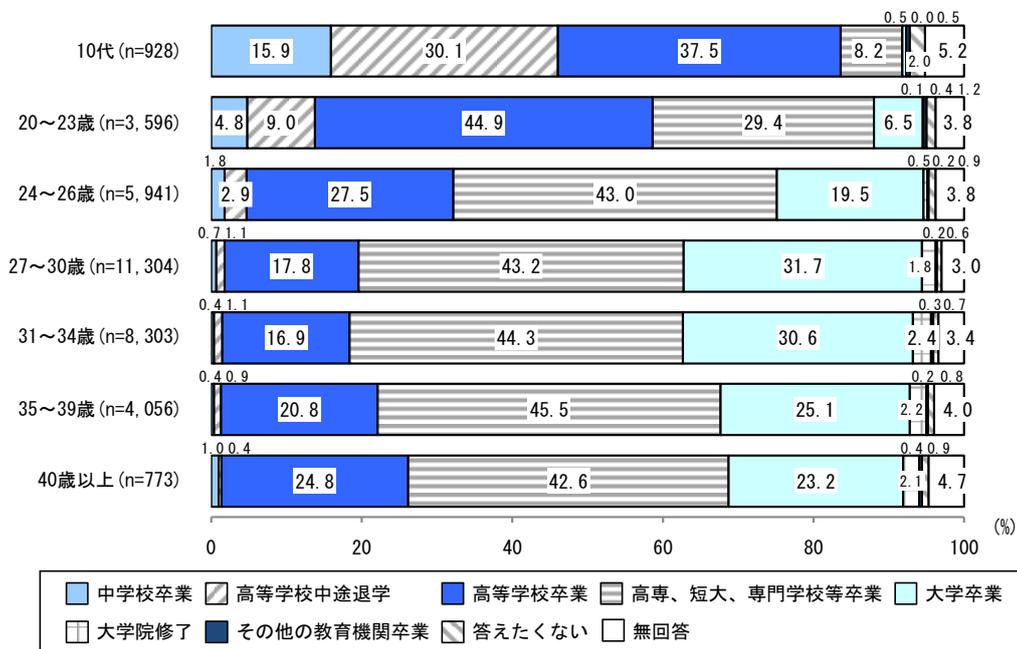


図 23. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、「20~23歳」で初めて親となったと回答した割合が高くなっている。

初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）  
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<豊中市>

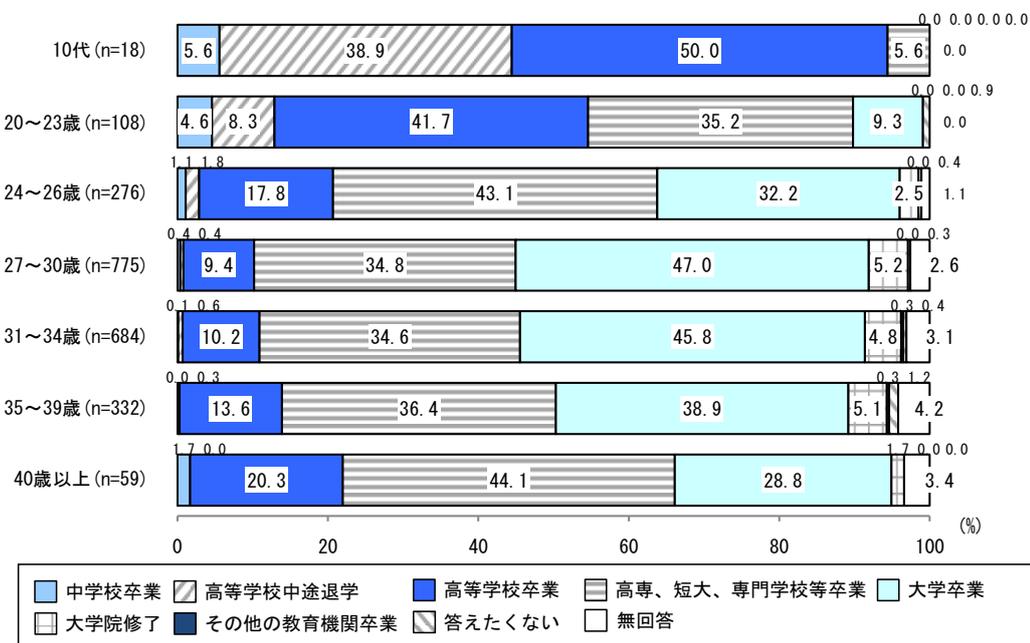
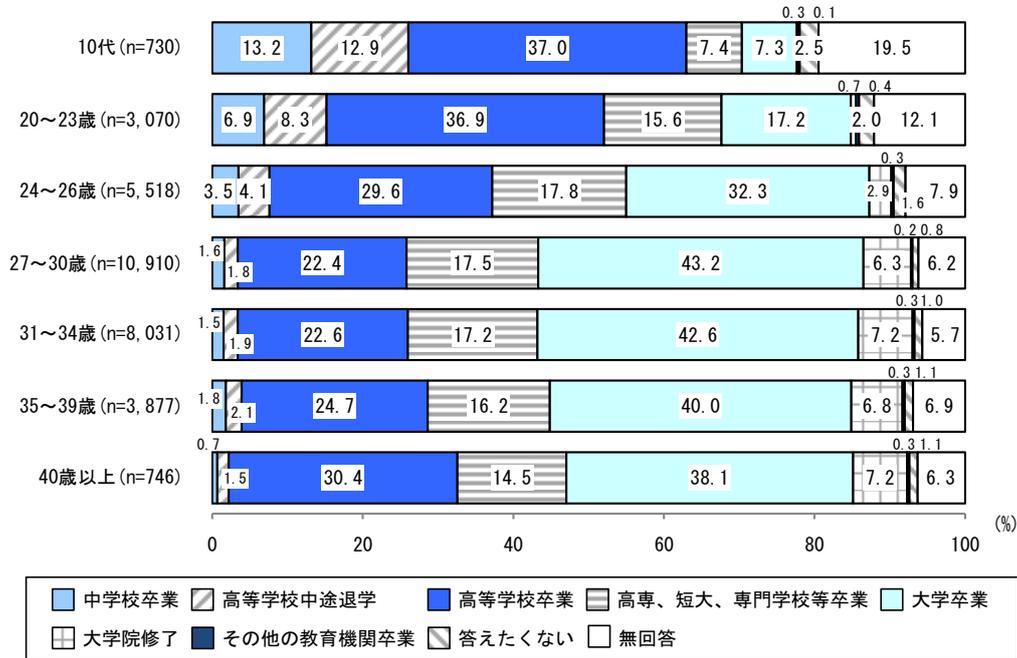


図 24. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に母親自身の最終学歴を見ると、10代において「中学校卒業」(5.6%)または「高等学校中途退学」(38.9%)と回答した割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問17×保護者票問8）  
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<豊中市>

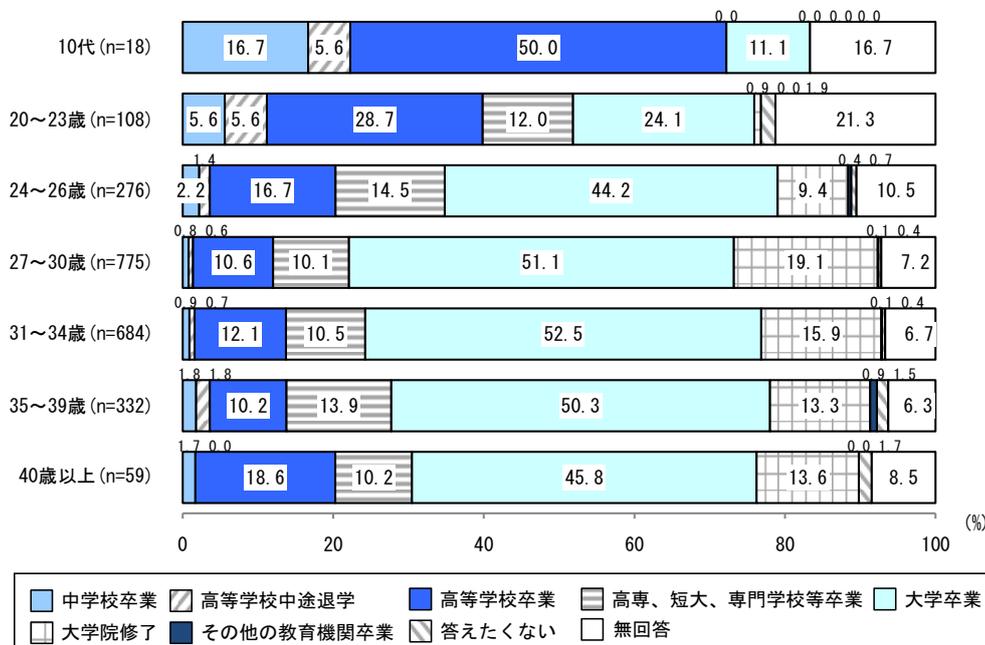
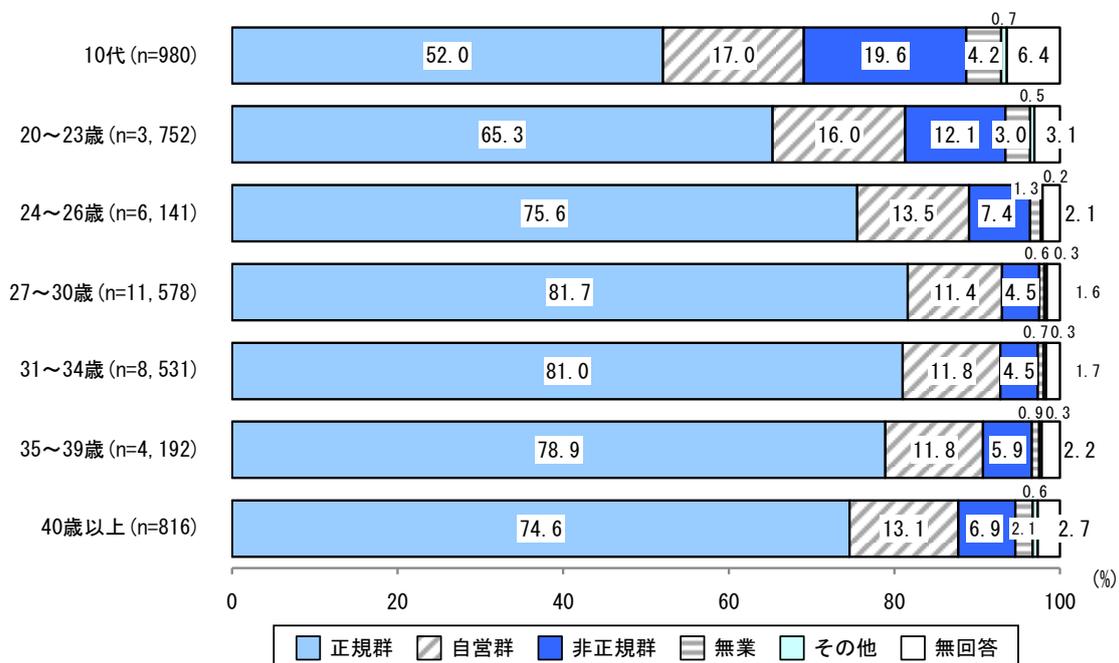


図 25. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に父親の最終学歴を見ると、10代において「中学校卒業」（16.7%）と回答した割合が、他世代と比べると高かった。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票問 17×保護者票問 9）  
 ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<豊中市>

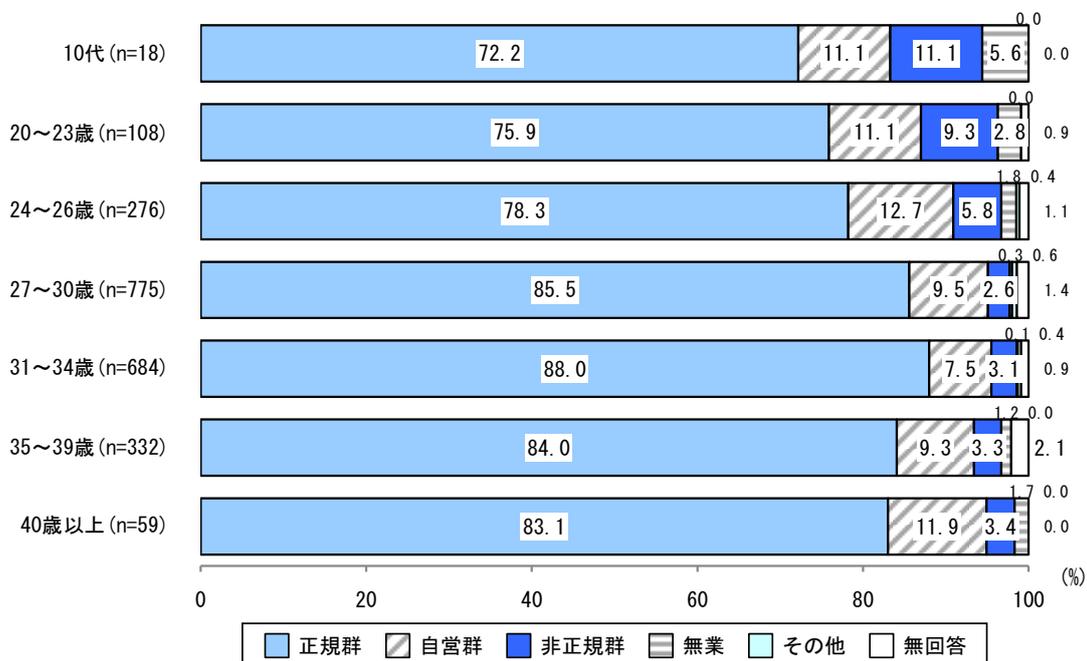
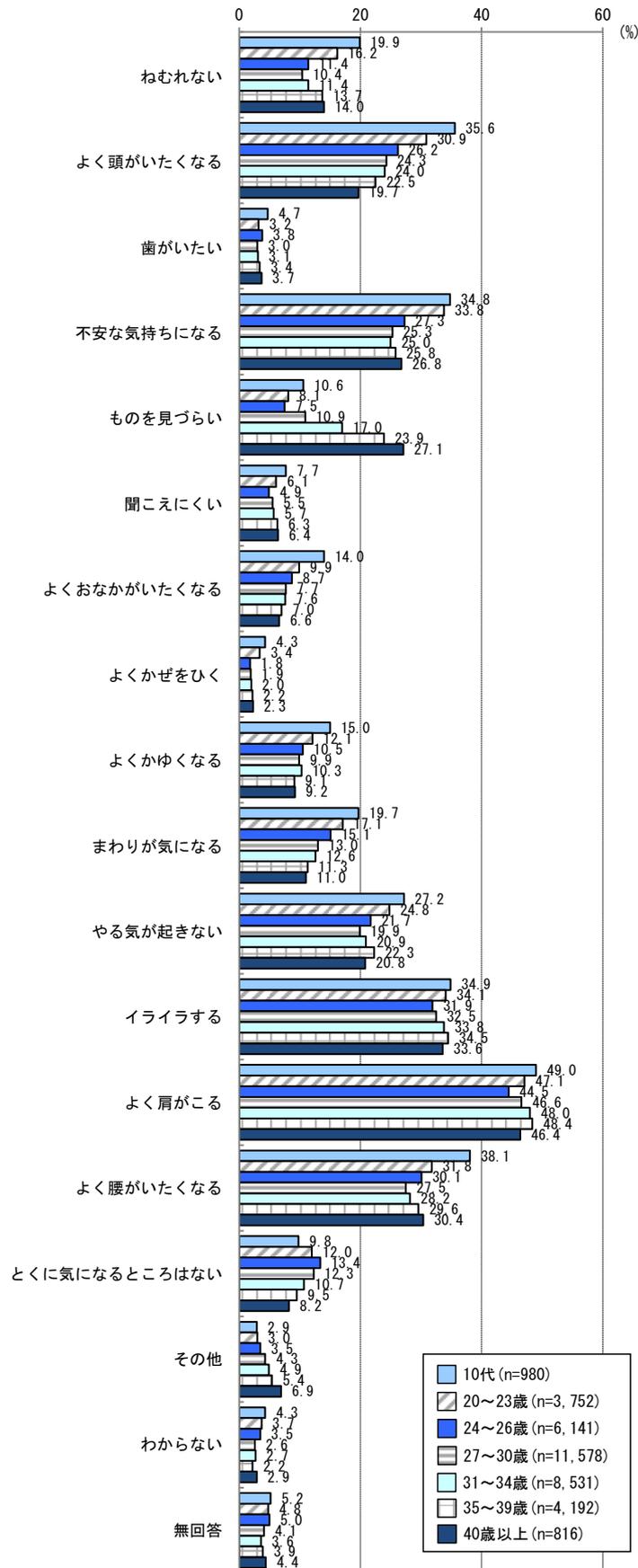


図 26. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）

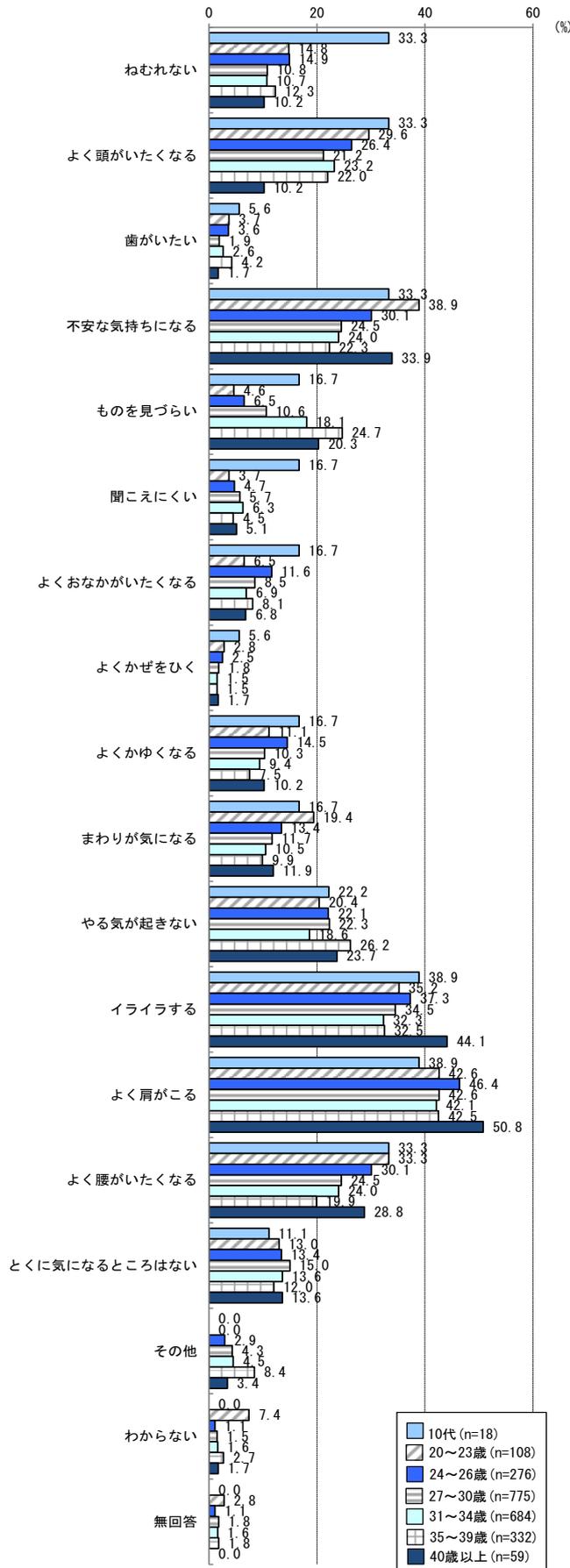
母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に就労状況を見ると、10代は他の年代と比較して「正規群」の割合が低く、「非正規群」の割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること  
 (保護者票問 17×保護者票問 22) ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<豊中市>

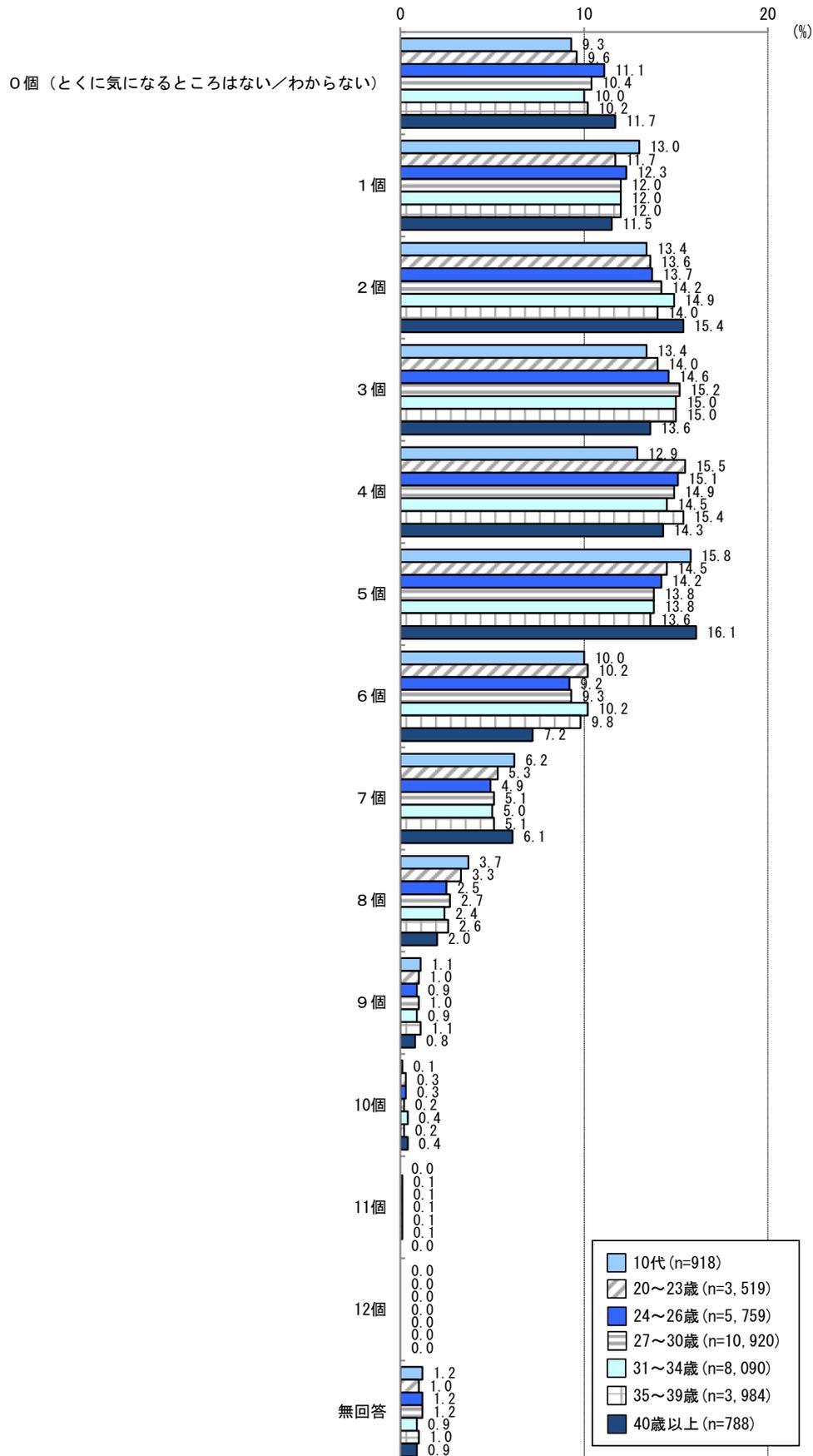


母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、20~23歳は他の年代と比較して「不安な気持ちになる」や「まわりが気になる」の割合が高かった。

図 27. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問17  
×子ども票問19・20） ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<豊中市>

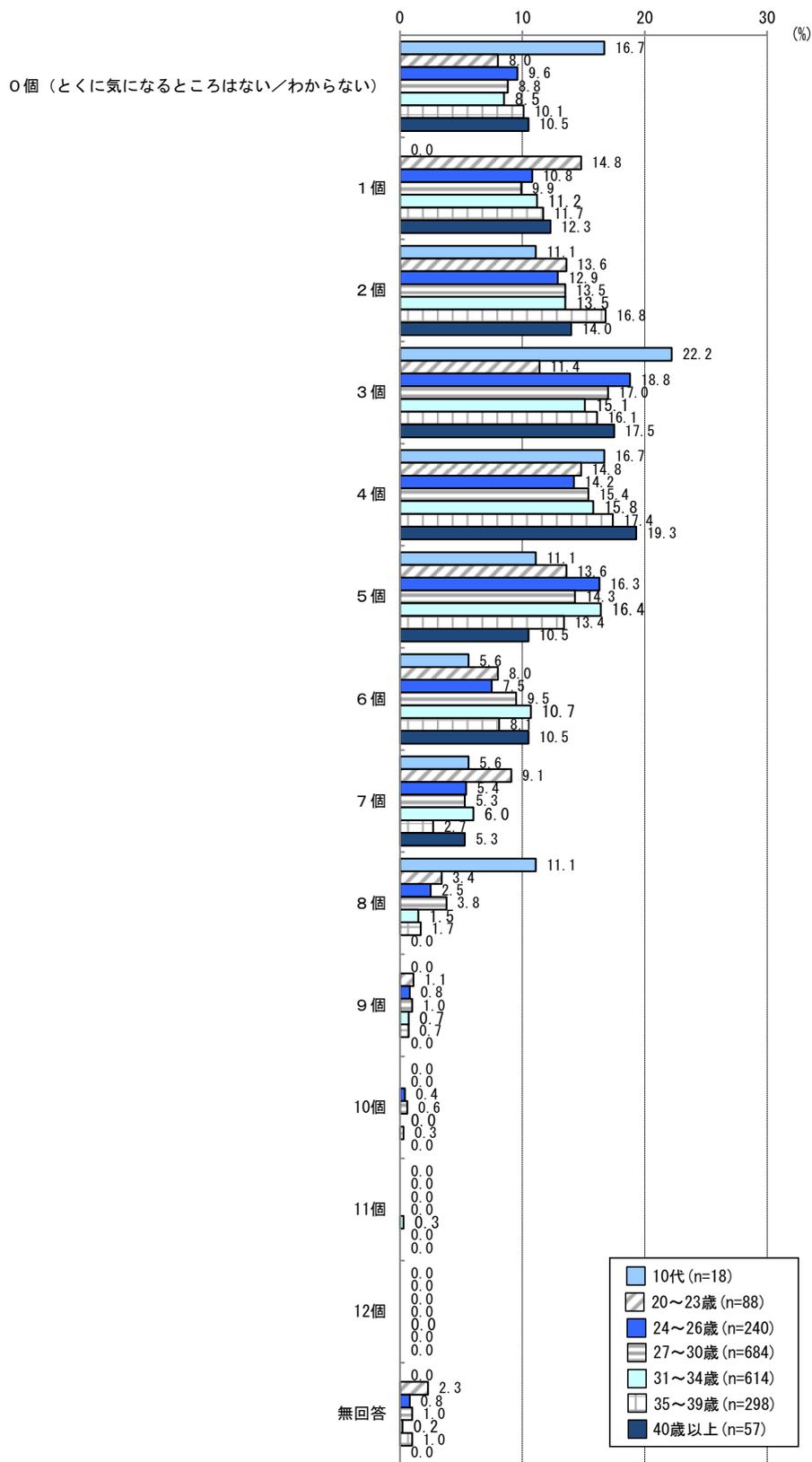
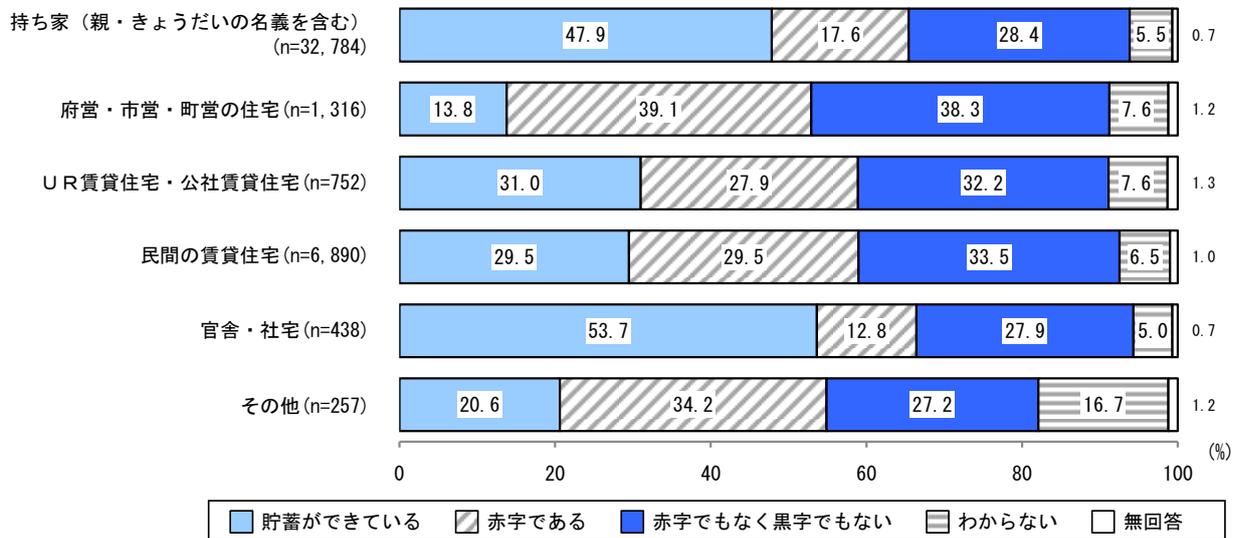


図 28. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10代は、他の年代と比較して「0個」(16.7%)、「3個」(22.2%)、「8個」(11.1%)の割合が最も高かった。

住居形態別に見た、家計の状況（保護者票問5×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

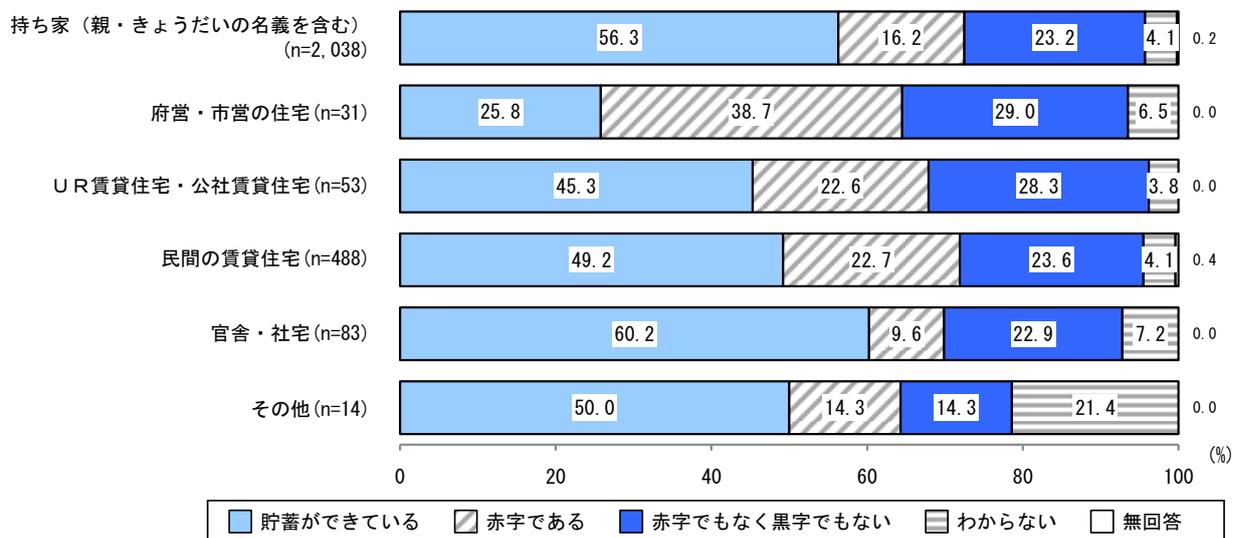
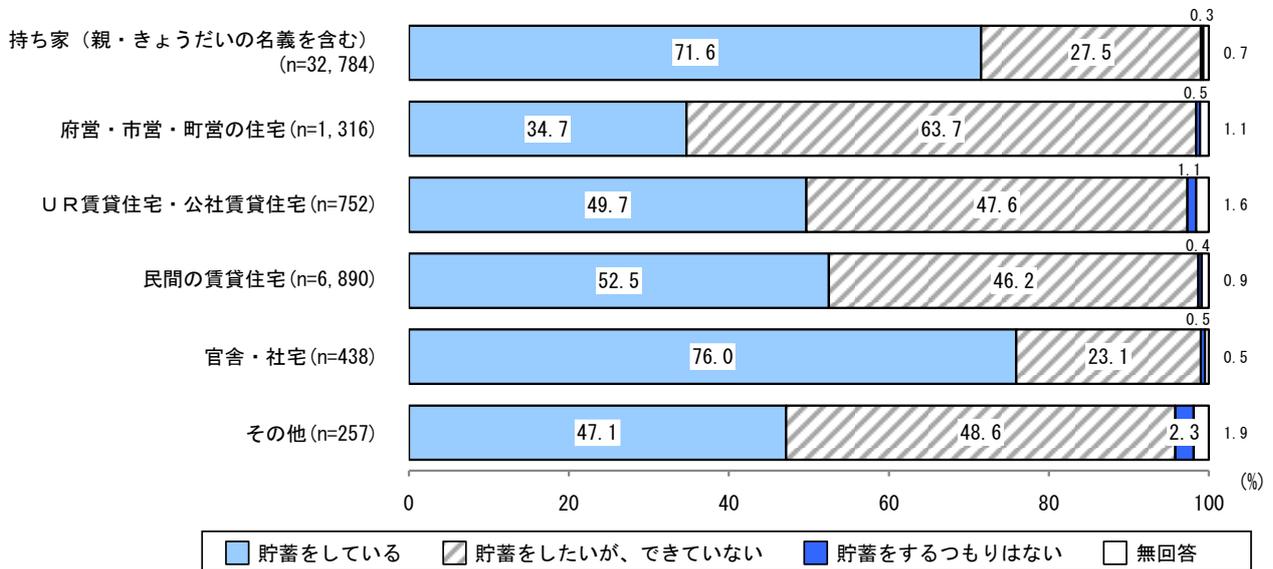


図 29. 住居形態別に見た、家計の状況

住居別に家計状況を見ると、府営・市営の住宅（38.7%）、民間の賃貸住宅（22.7%）、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」（22.6%）に住む人で、「赤字である」と回答した割合が高かった。

住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問5×保護者票問6(2)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

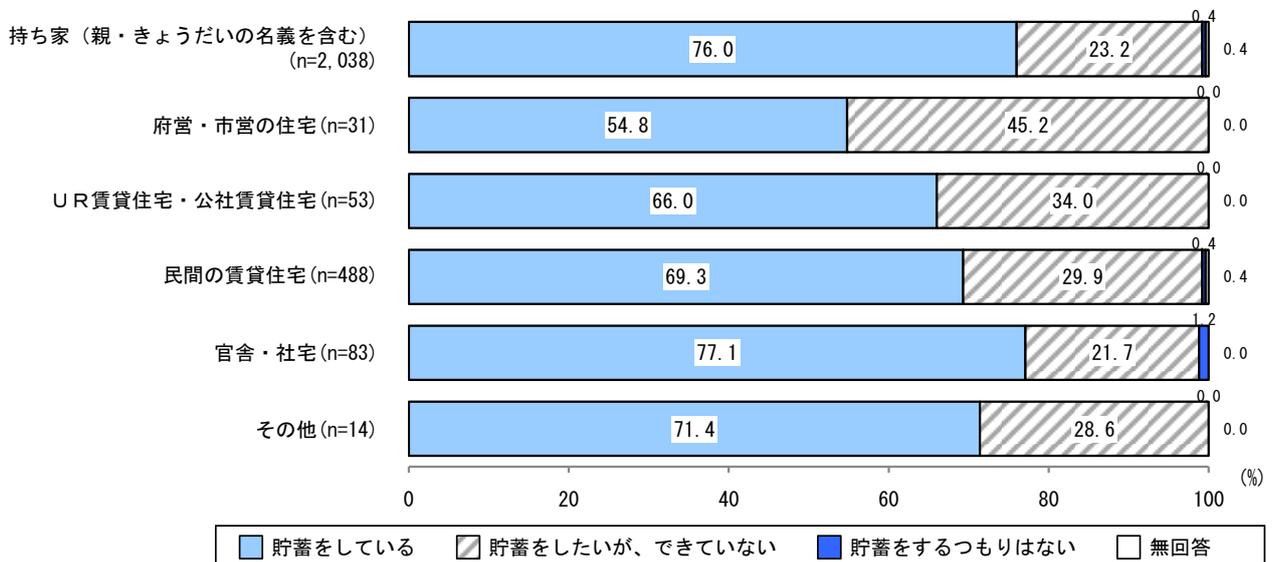
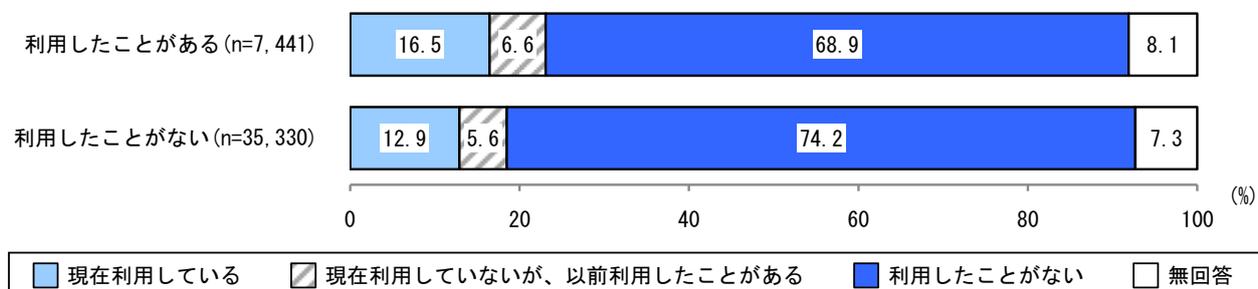


図 30. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

住居形態別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、府営・市営の住宅（45.2%）、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅（34.0%）、民間の賃貸住宅（29.9%）に住む人で、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が高かった。

子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況  
 (保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<豊中市>

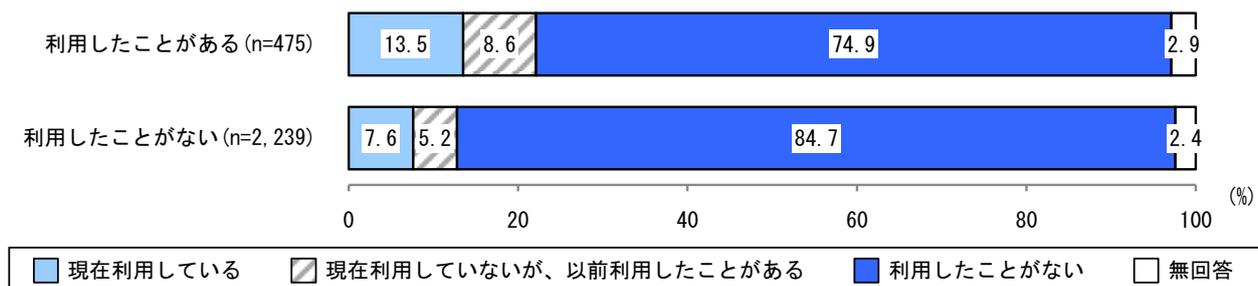
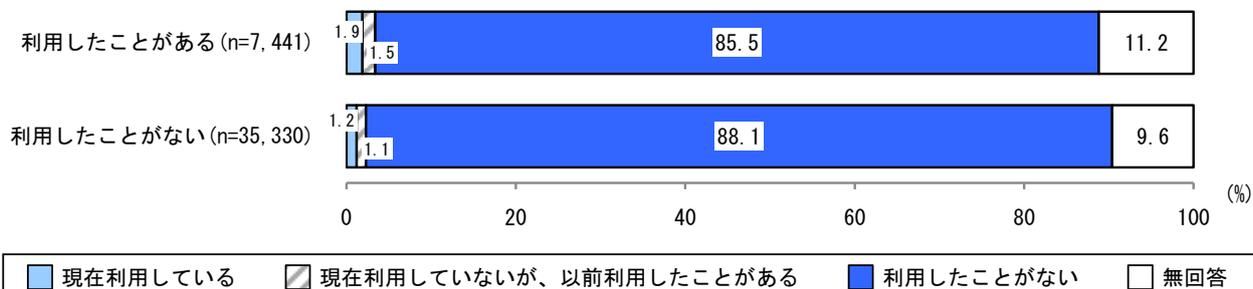


図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に就学援助の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが就学援助を「現在利用している」と回答した割合がやや高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況  
 (保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<豊中市>

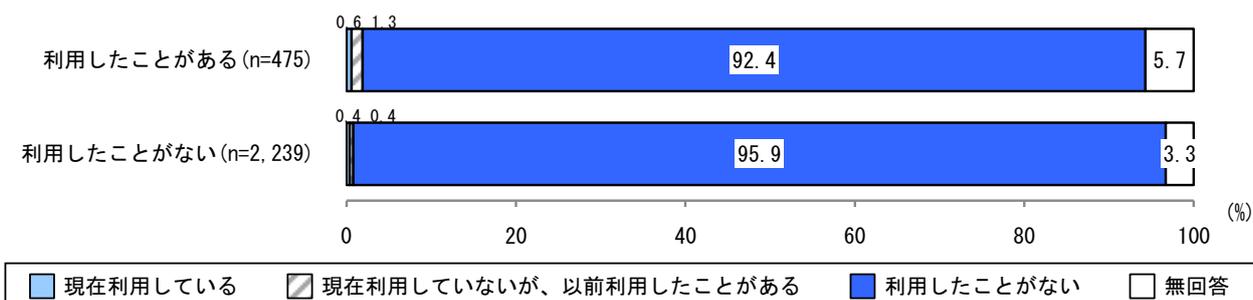
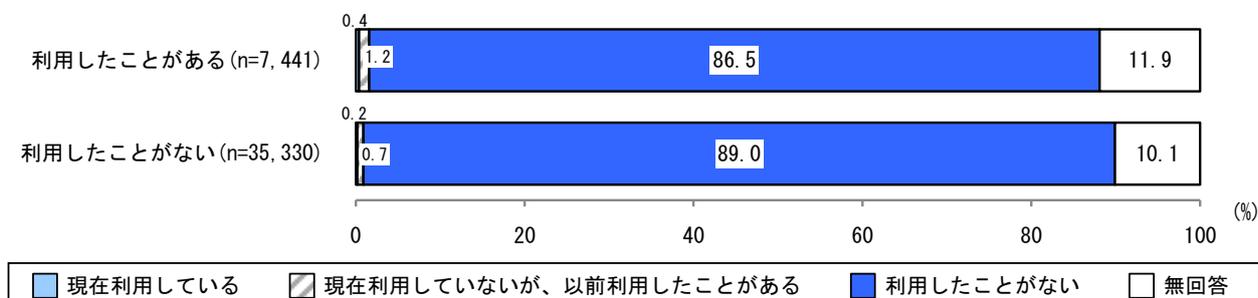


図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活保護の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが生活保護を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況  
 (保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<豊中市>

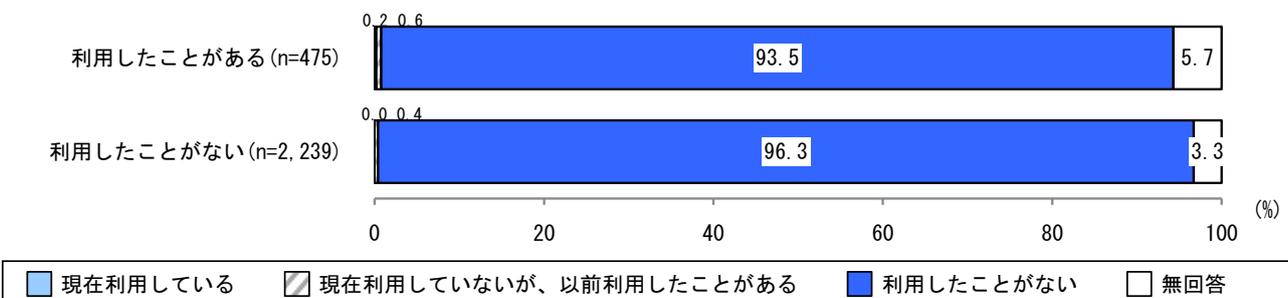
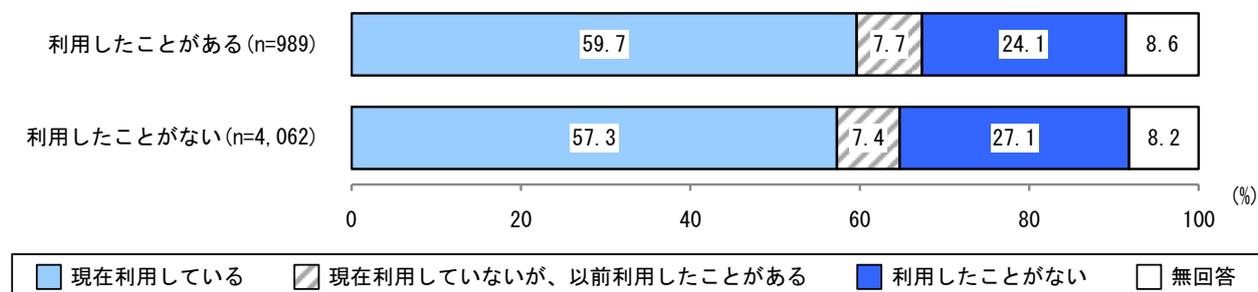


図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが生活困窮者の自立支援相談窓口を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）  
（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-d)

<大阪府内全体>



<豊中市>

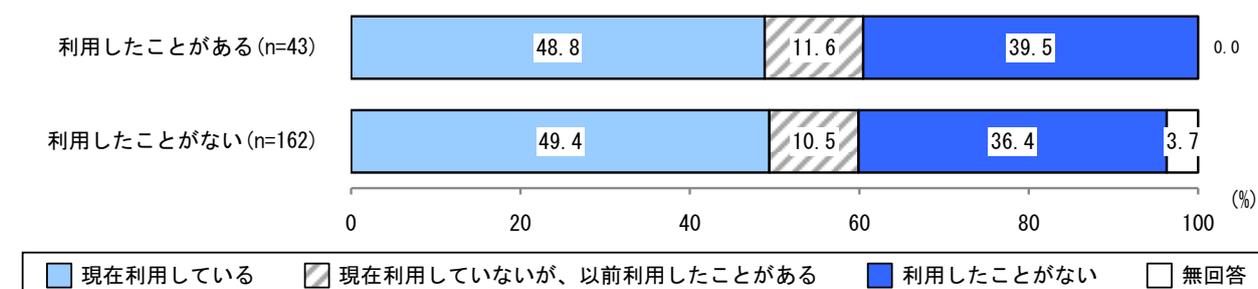
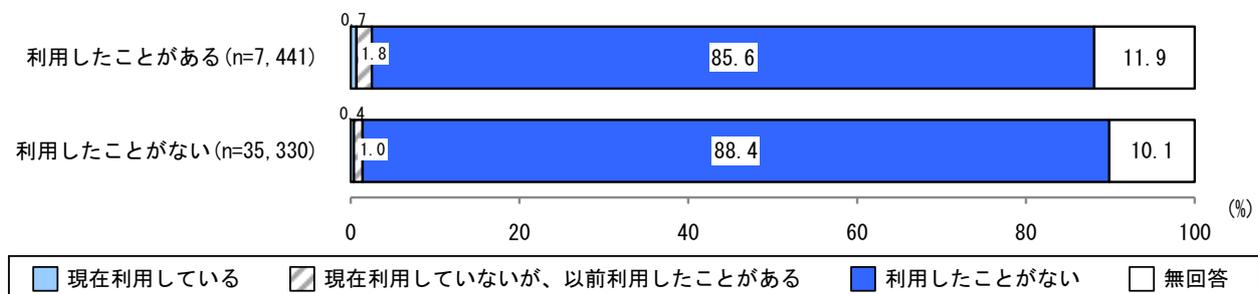


図 34. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

子どもの居場所の利用経験別に児童扶養手当の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが児童扶養手当を「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況  
 (保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<豊中市>

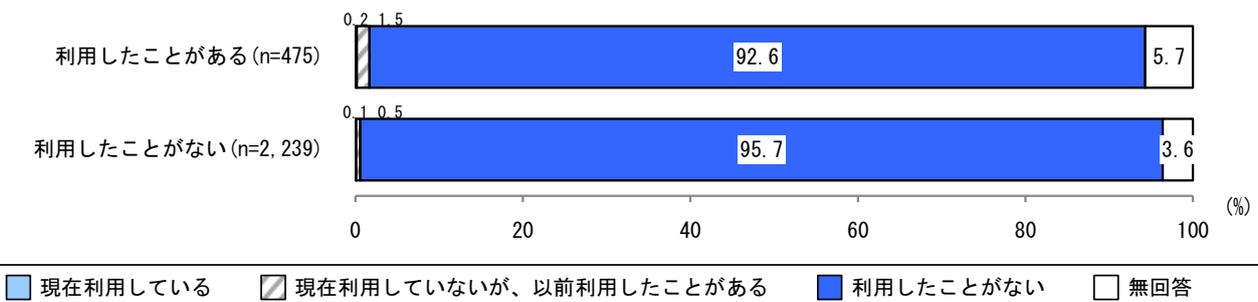
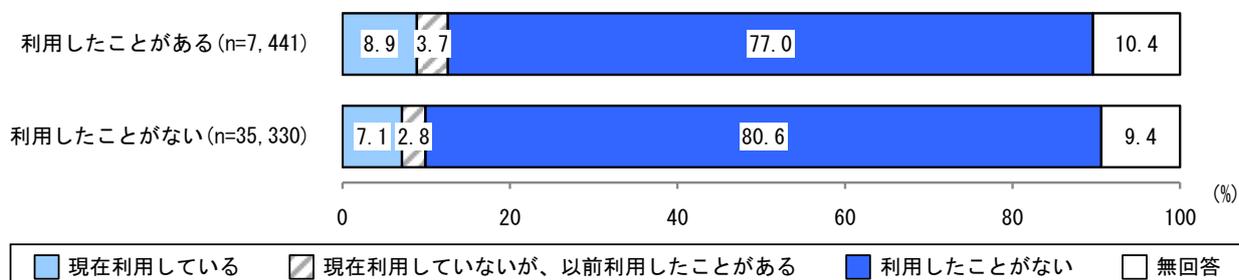


図 35. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

子どもの居場所の利用経験別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが母子家庭等就業・自立支援センターを「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-f)

<大阪府内全体>



<豊中市>

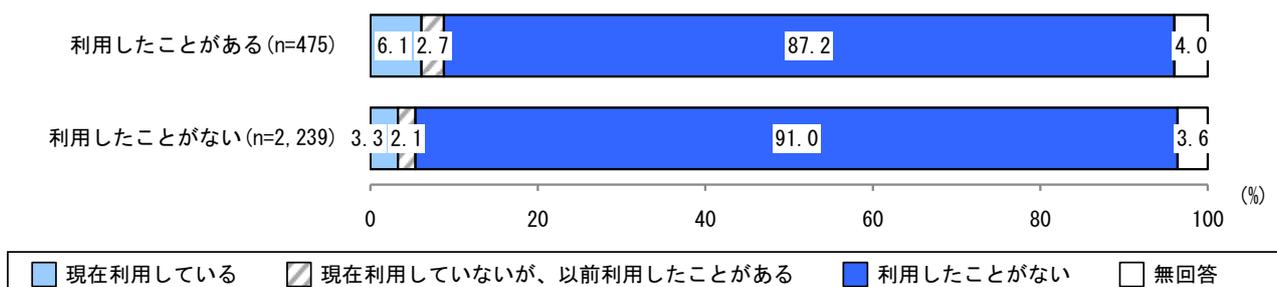
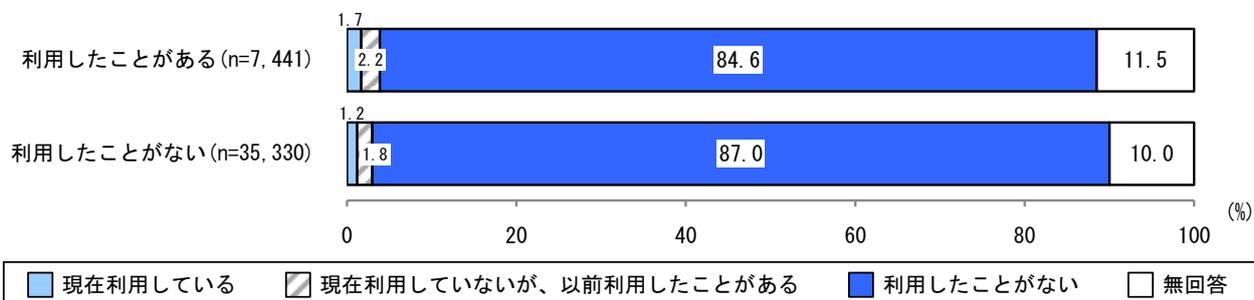


図 36. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-g)

<大阪府内全体>



<豊中市>

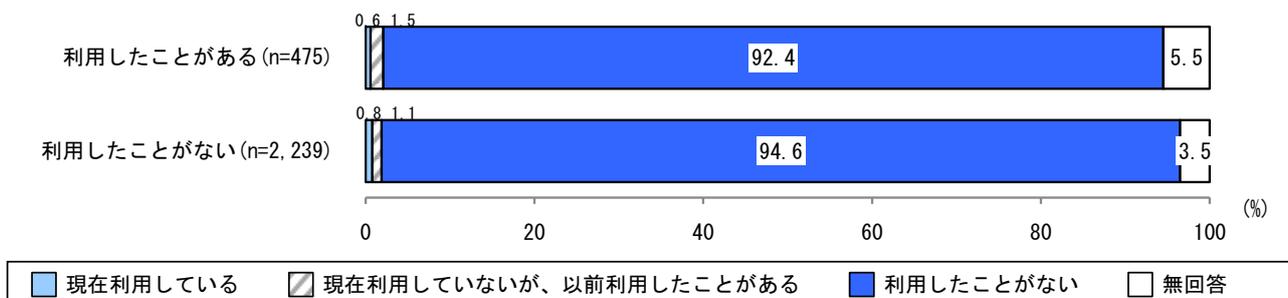
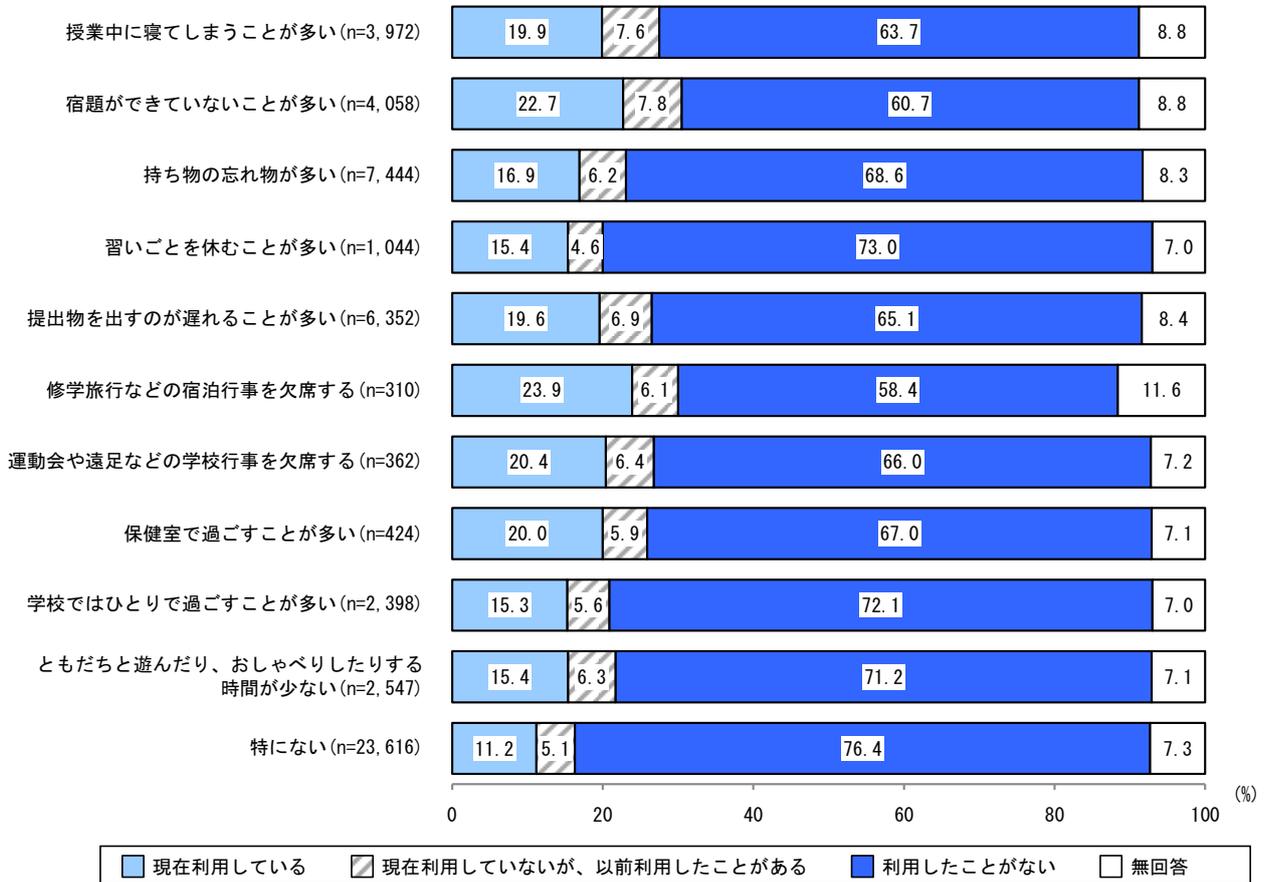


図 37. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<豊中市>

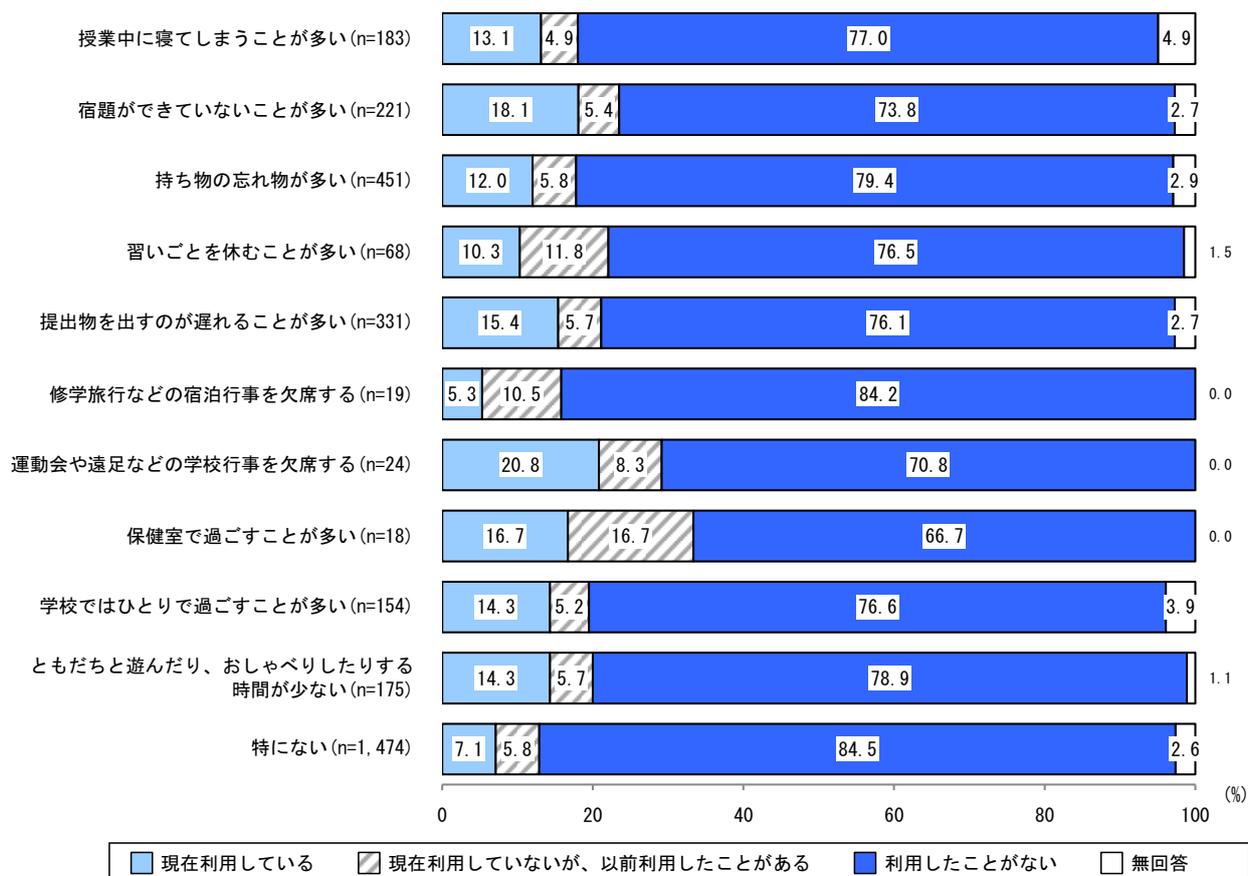
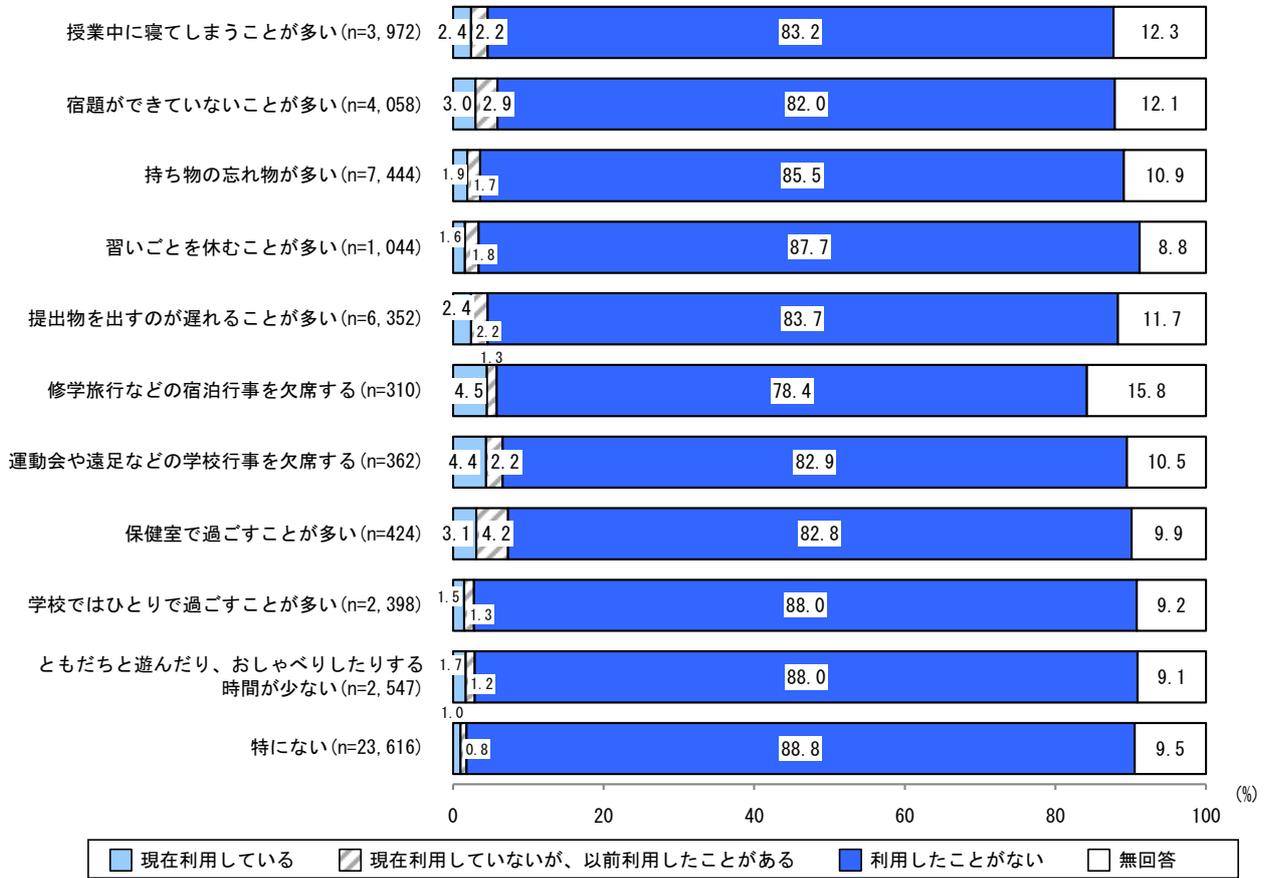


図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」と回答した割合が20.8%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<豊中市>

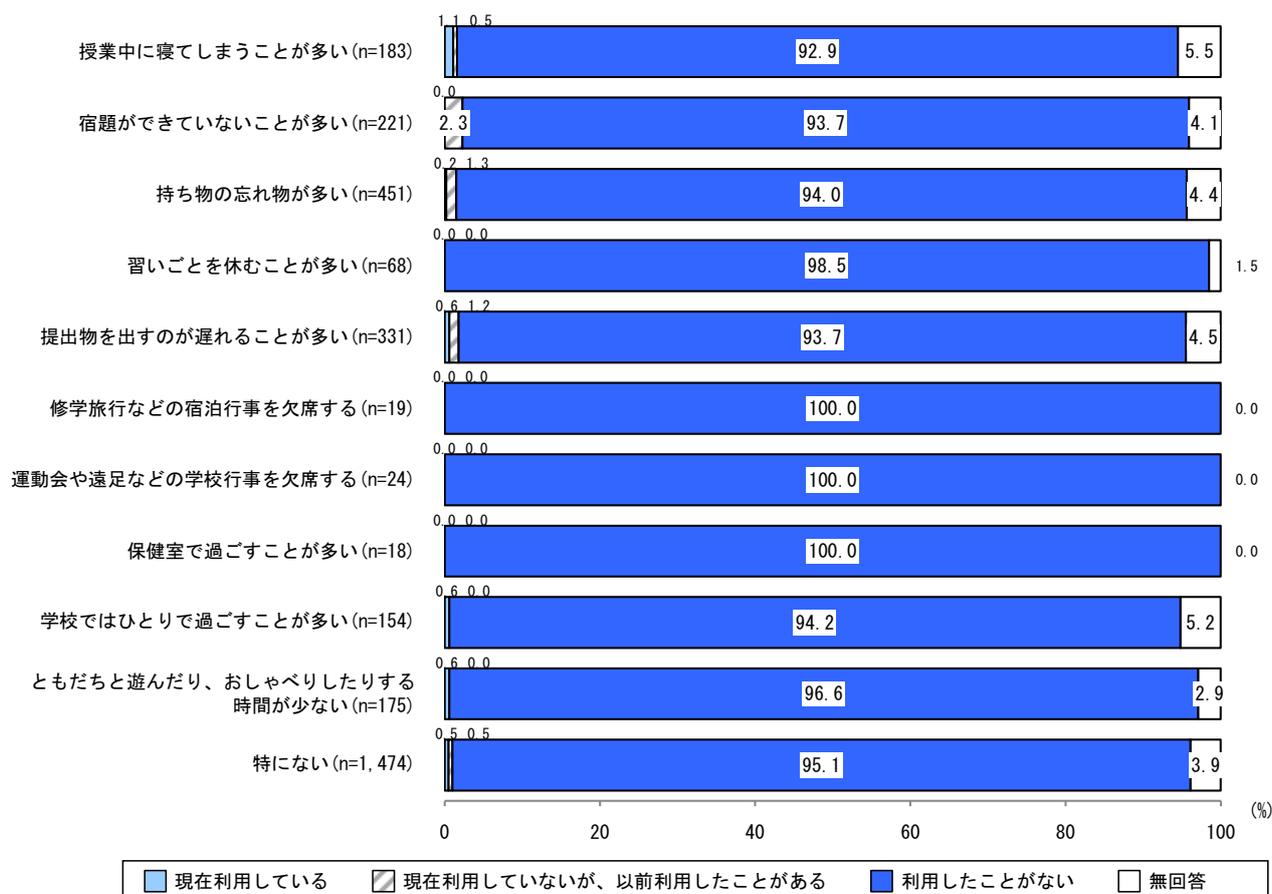
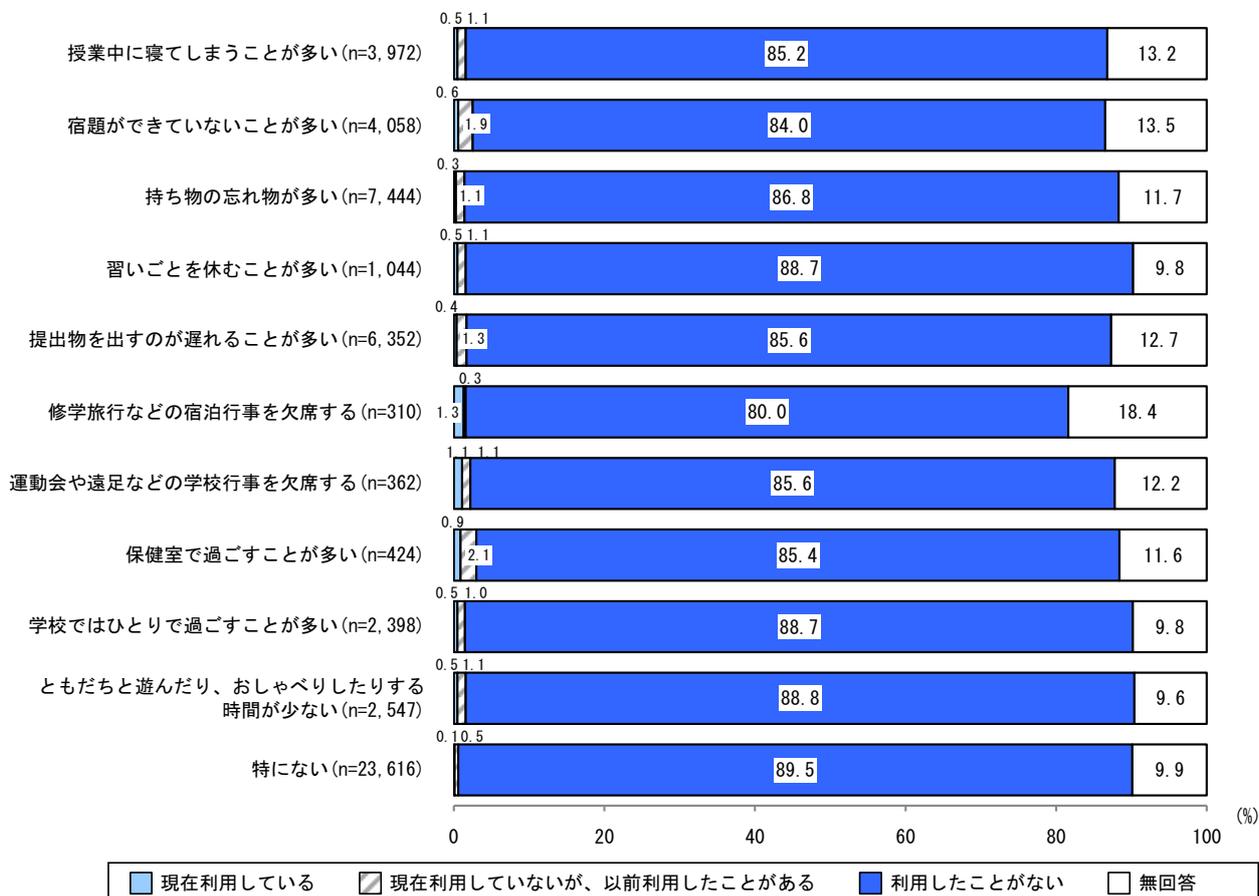


図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「授業中に寝てしまうことが多い」と回答した割合が1.1%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況  
 (子ども票問 16×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<豊中市>

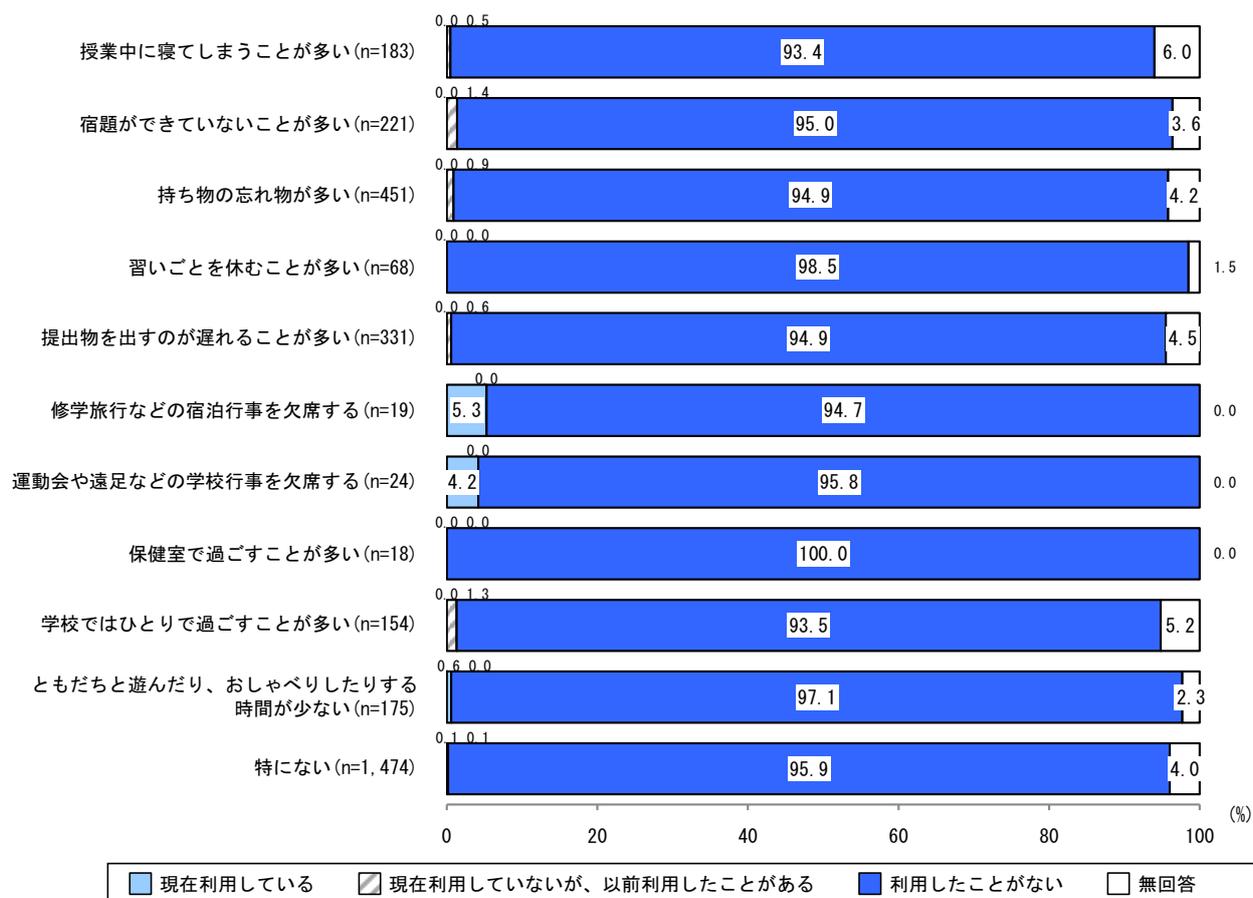
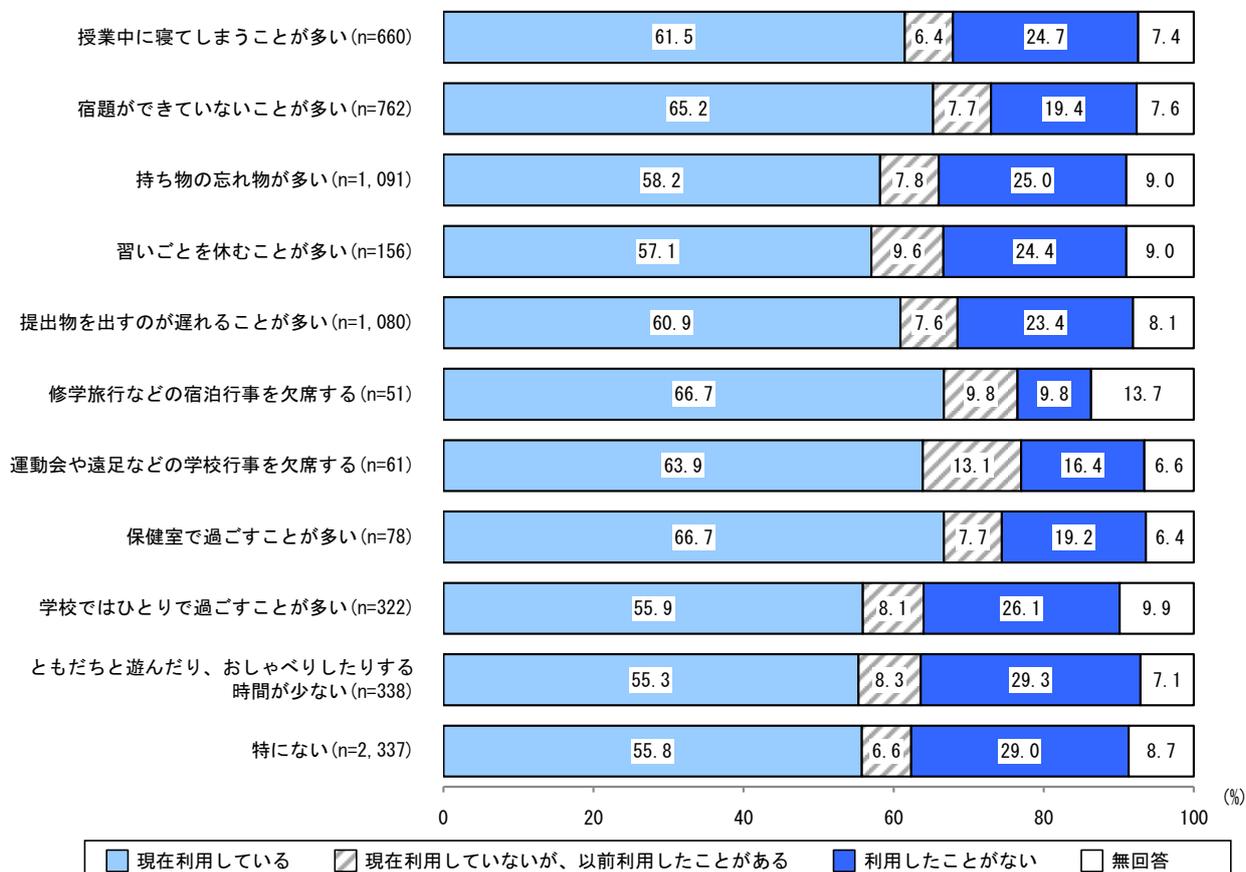


図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」と回答した割合が5.3%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）  
 （子ども票問 16×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<豊中市>

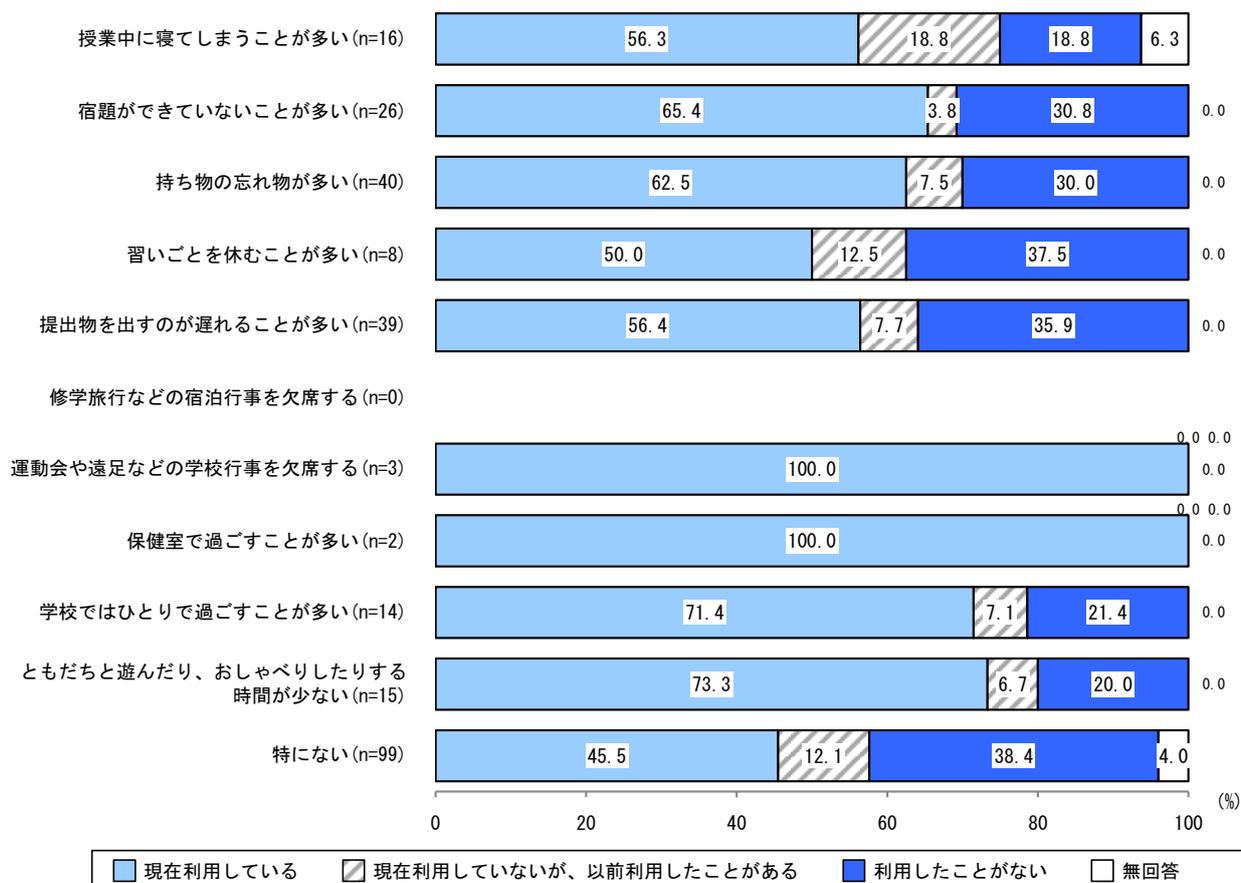
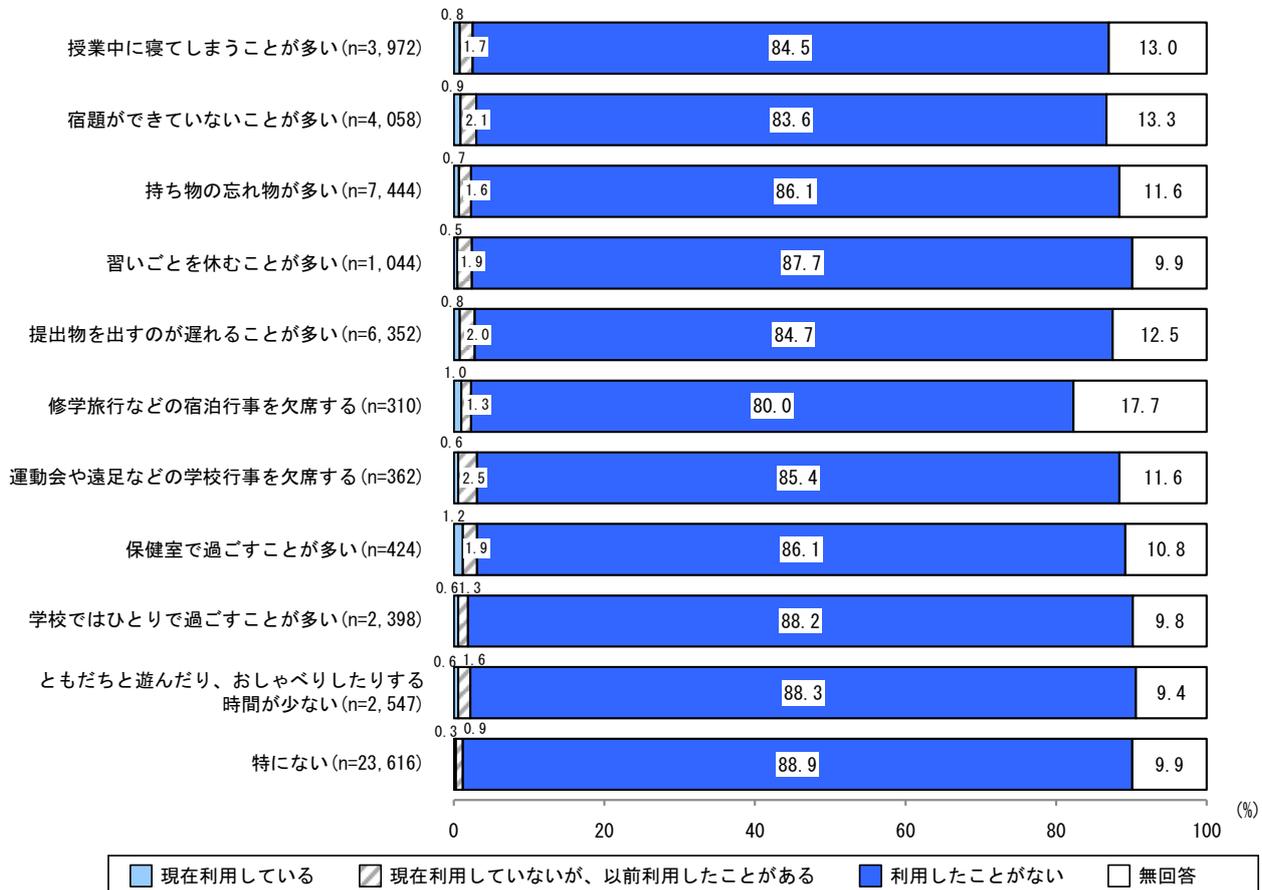


図 41. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

学校や学校の行事等の状況別に児童扶養手当の利用状況を見ると、母数が少ないため一概には言えないが、「現在利用している」と回答した人の割合は、「運動会や遠足などの行事を欠席する」と「保健室で過ごすことが多い」と回答した割合が100.0%で最も高く、次いで「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」と回答した割合が73.3%となっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況  
 (子ども票問 16×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<豊中市>

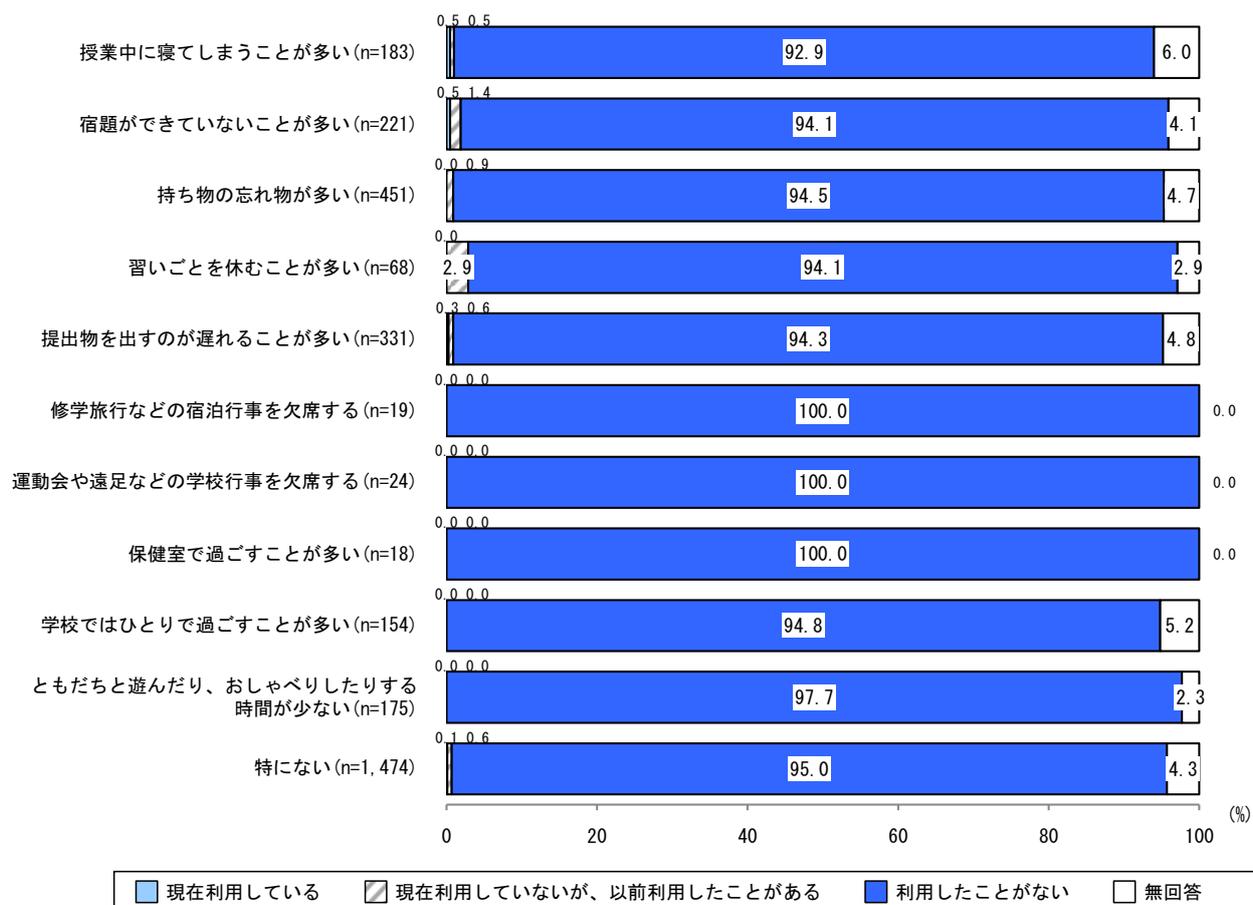
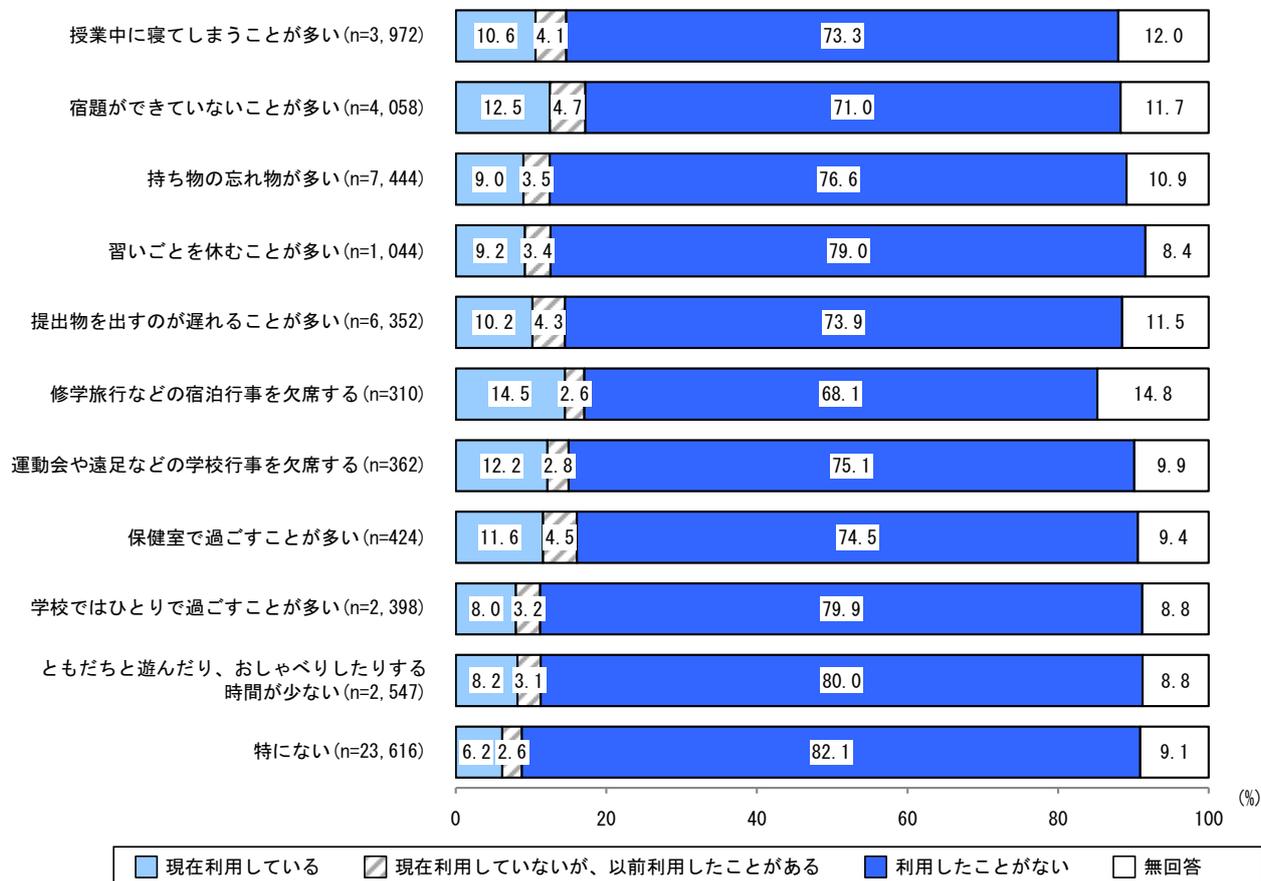


図 42. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

学校や学校の行事等の状況別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「授業中に寝てしまうことが多い」と「宿題ができていないことが多い」と回答した割合がともに0.5%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（子ども票問16×保護者票問23-f）

<大阪府内全体>



<豊中市>

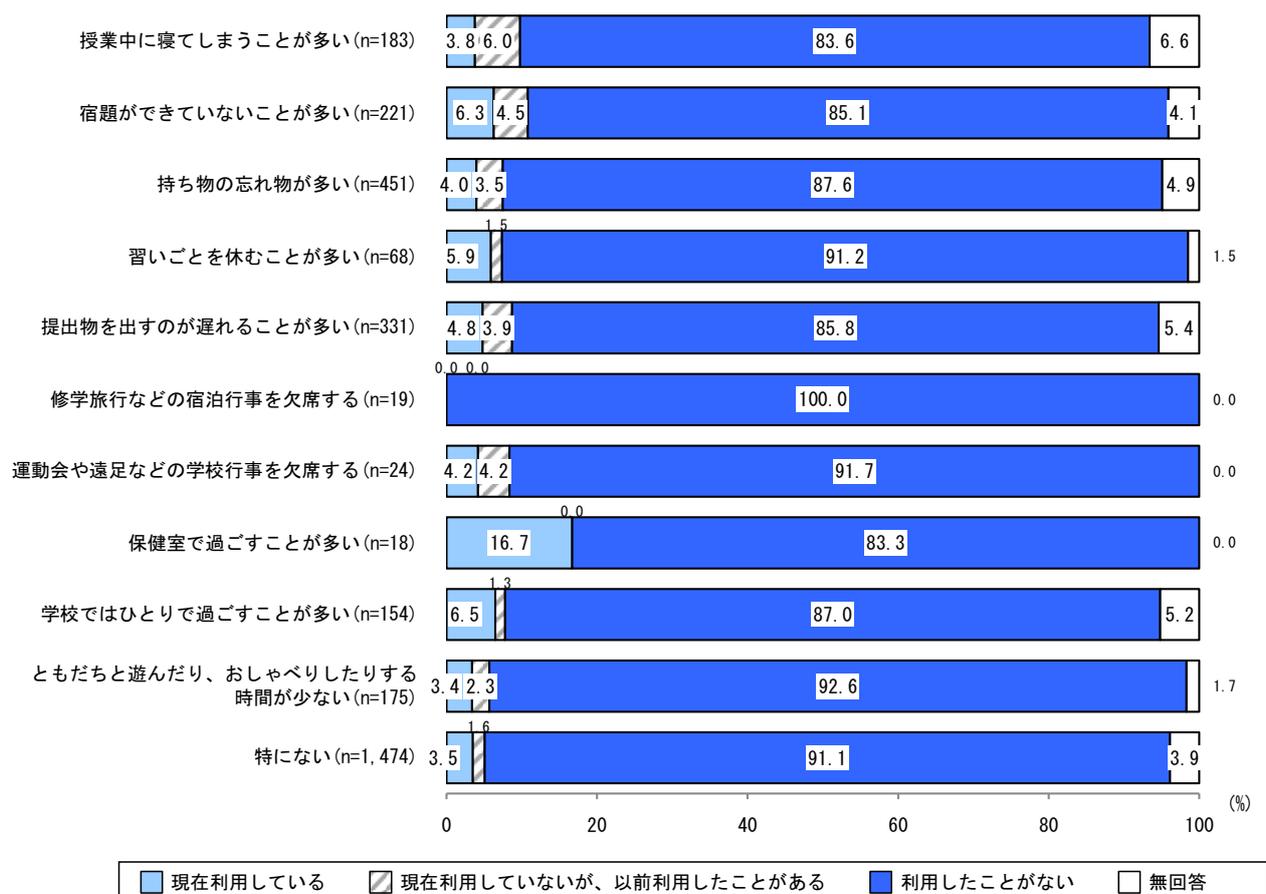
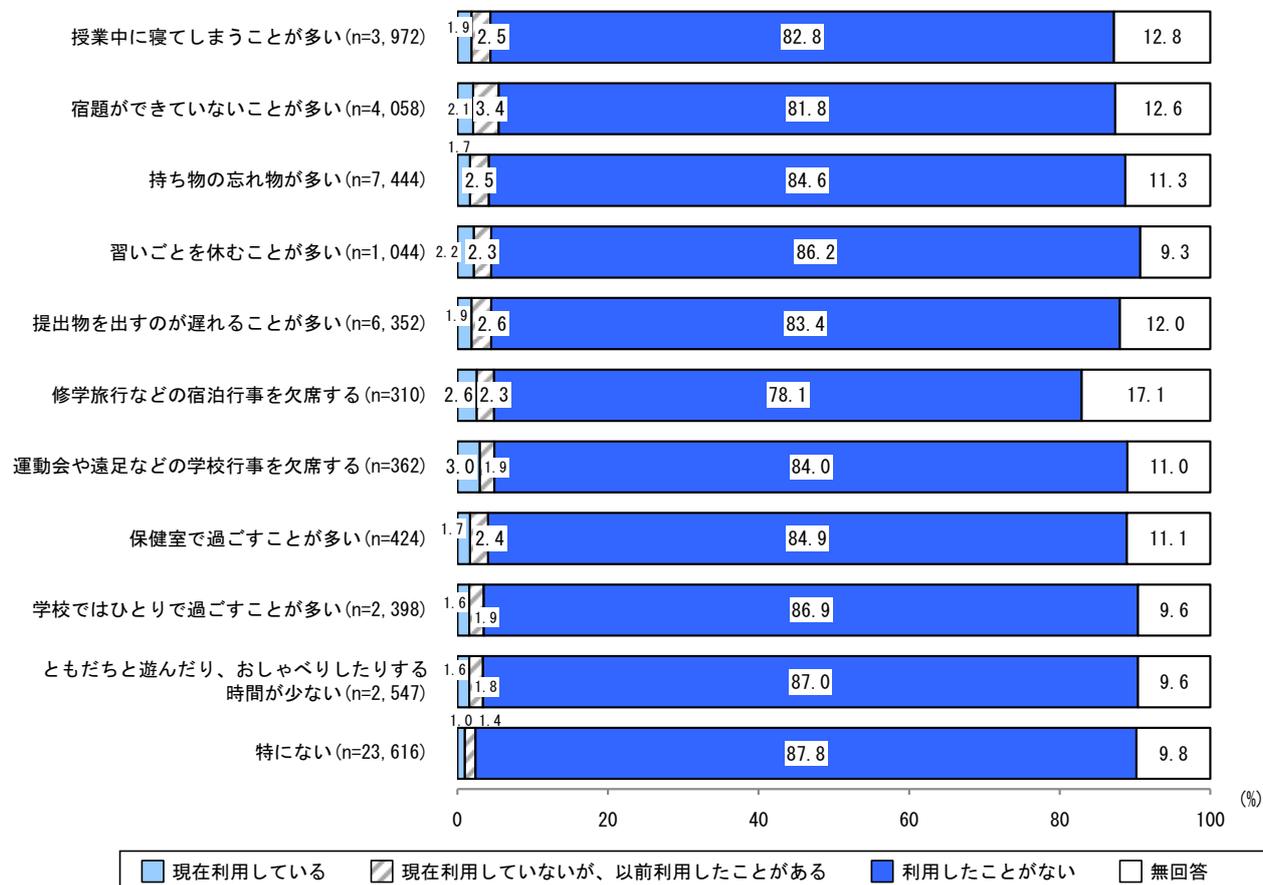


図 43. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、母数が少ないため一概には言えないが、「現在利用している」と回答した人の割合は、「保健室で過ごすことが多い」と回答した割合が16.7%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<豊中市>

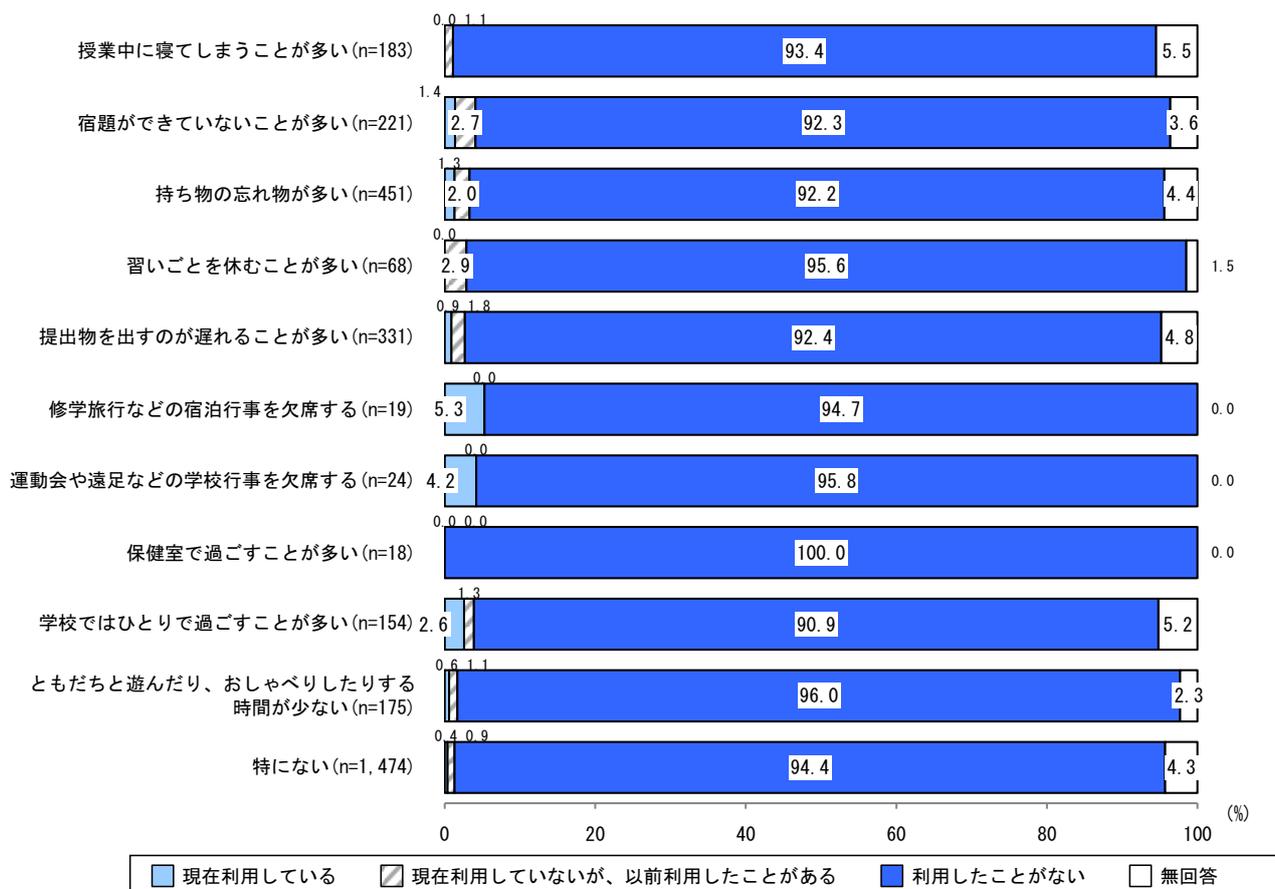
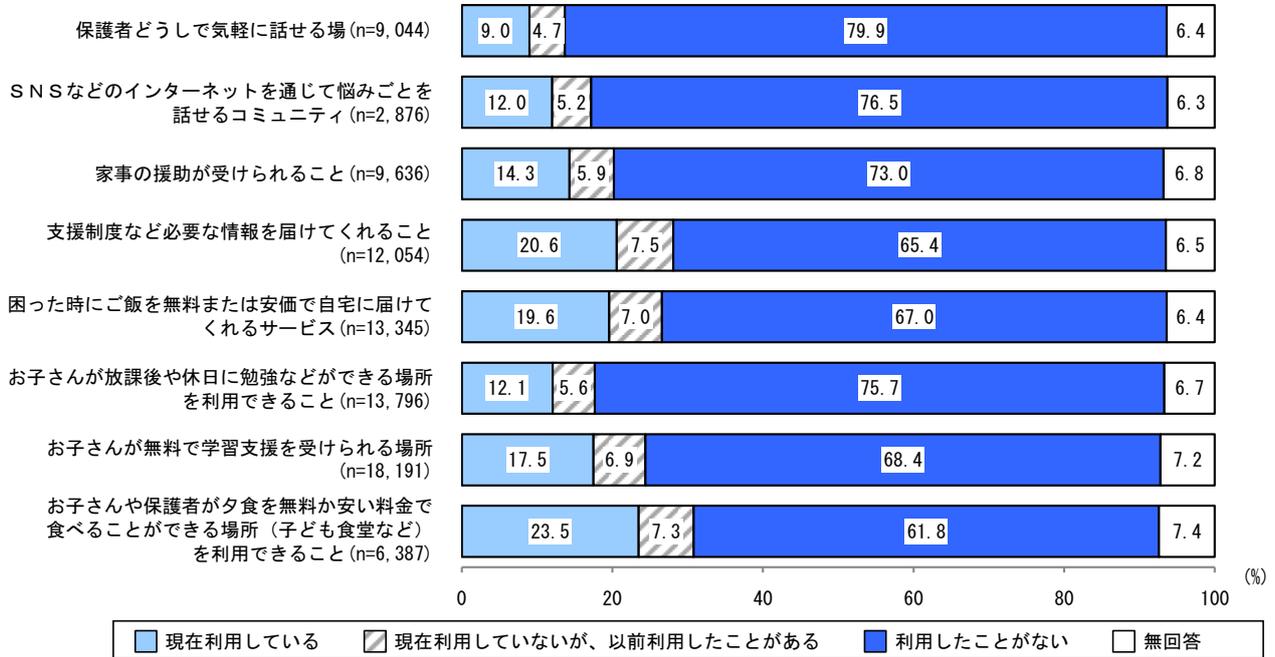


図 44. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」と回答した割合が5.3%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況  
 (保護者票問 20×保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<豊中市>

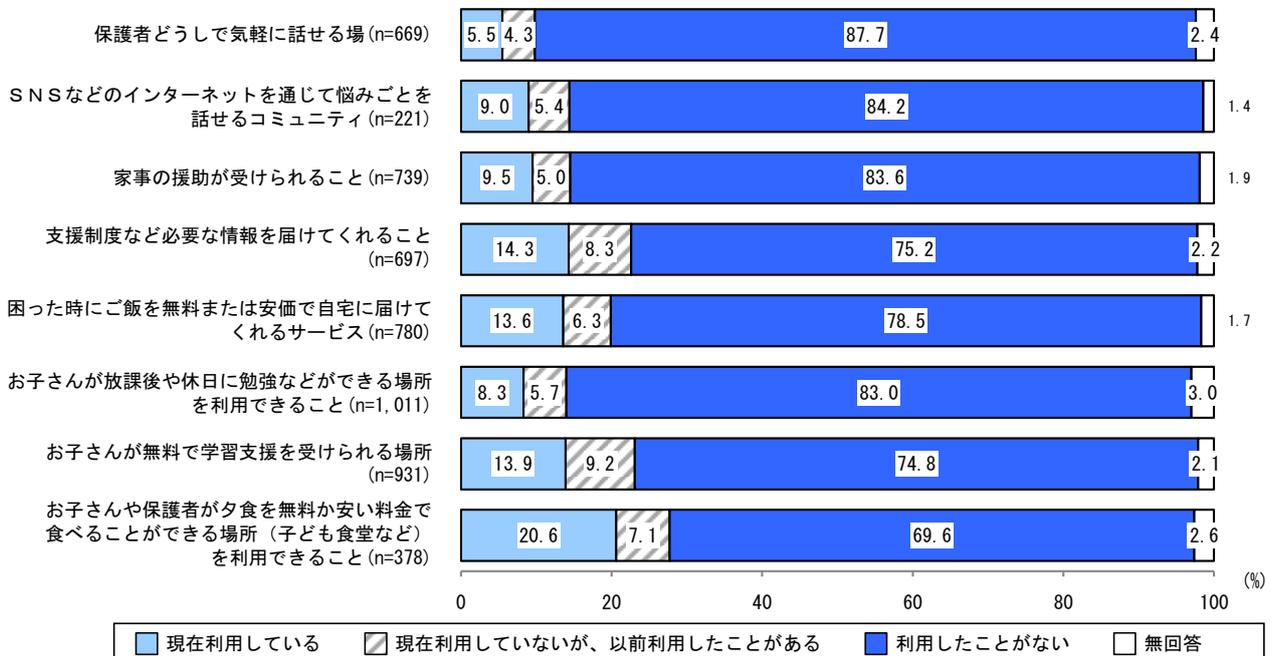
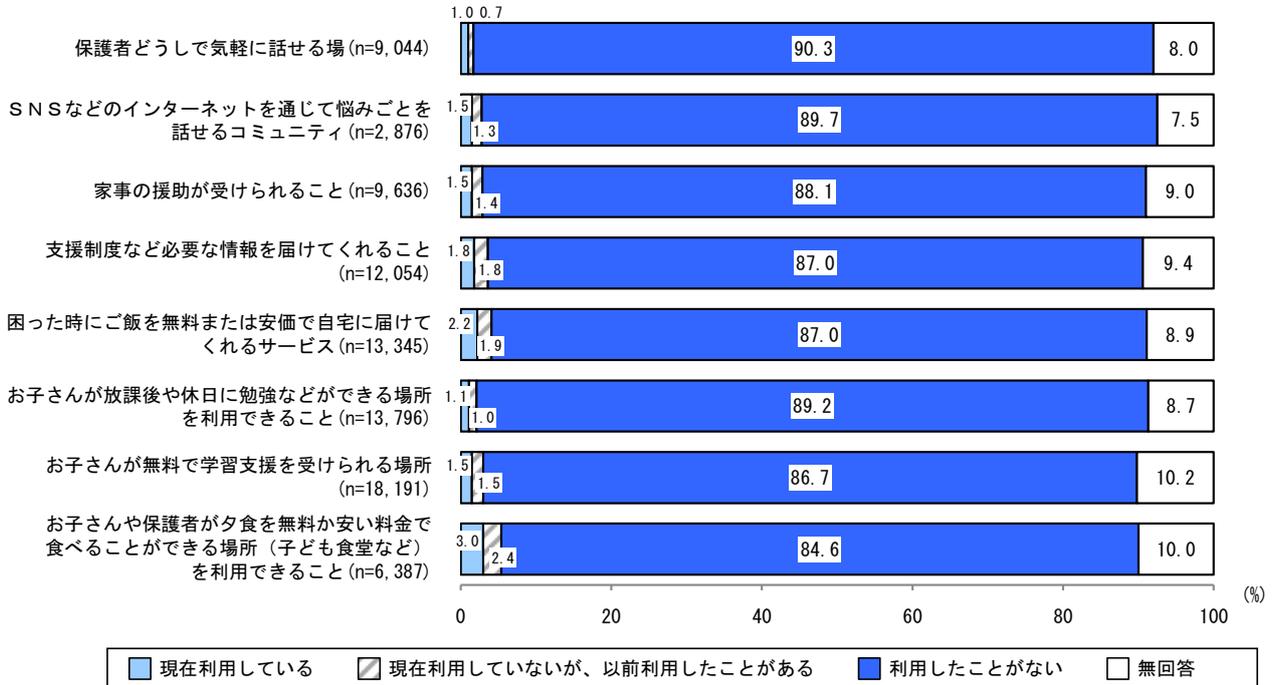


図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」と回答した割合が20.6%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況  
 (保護者票問 20×保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<豊中市>

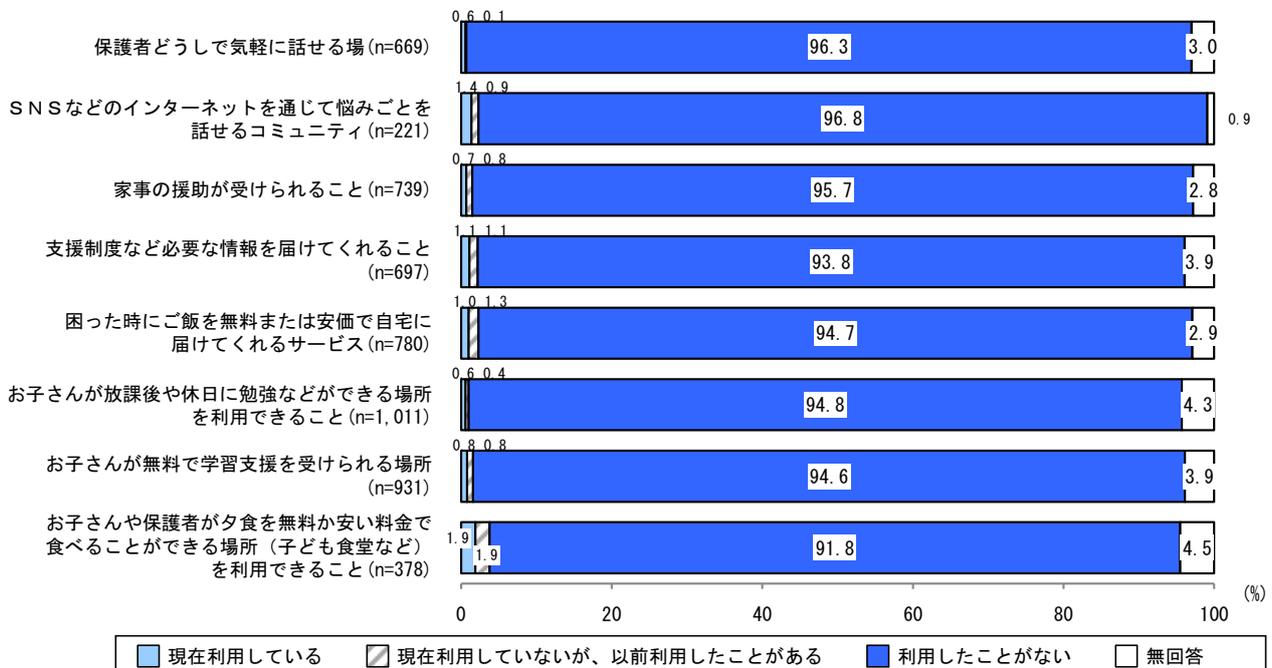
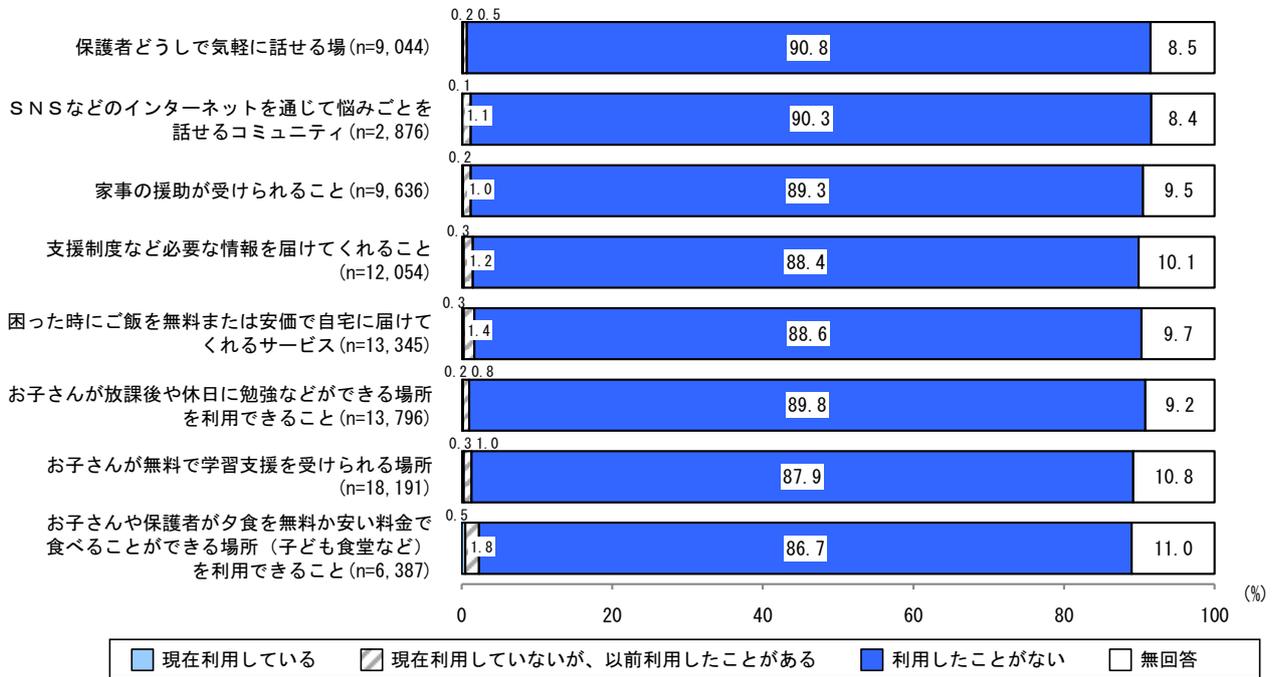


図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」と回答した割合が1.9%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況  
 (保護者票問 20×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<豊中市>

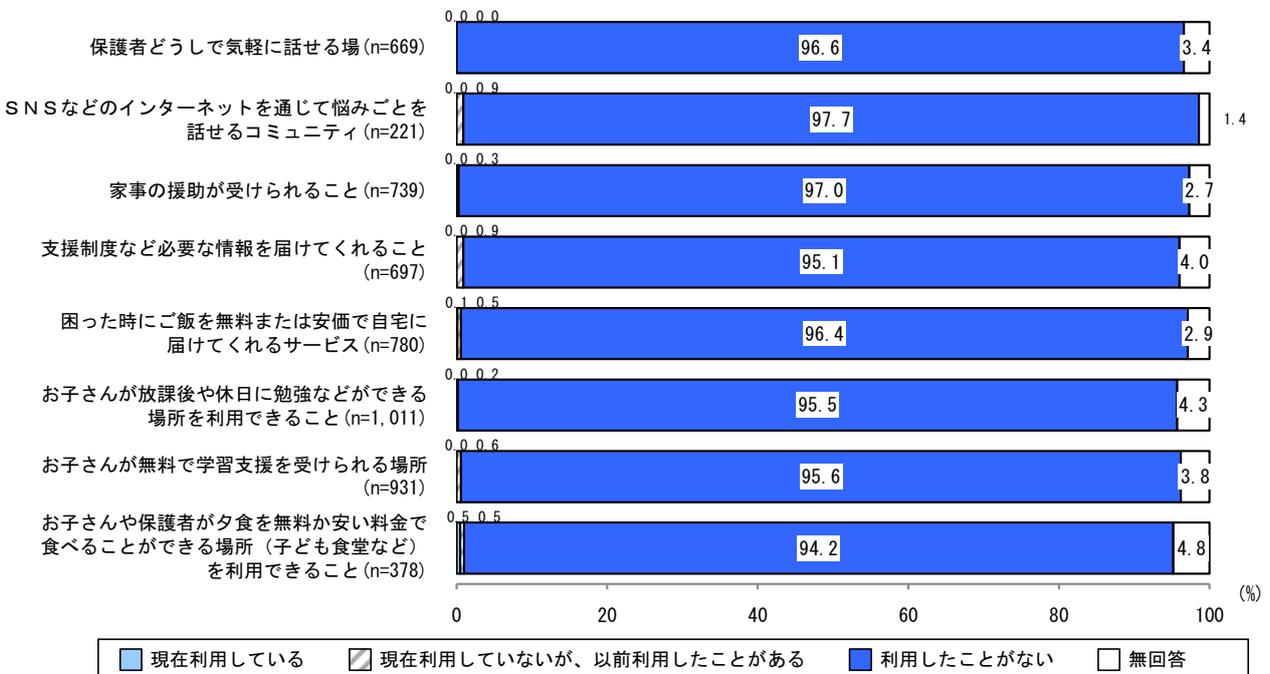
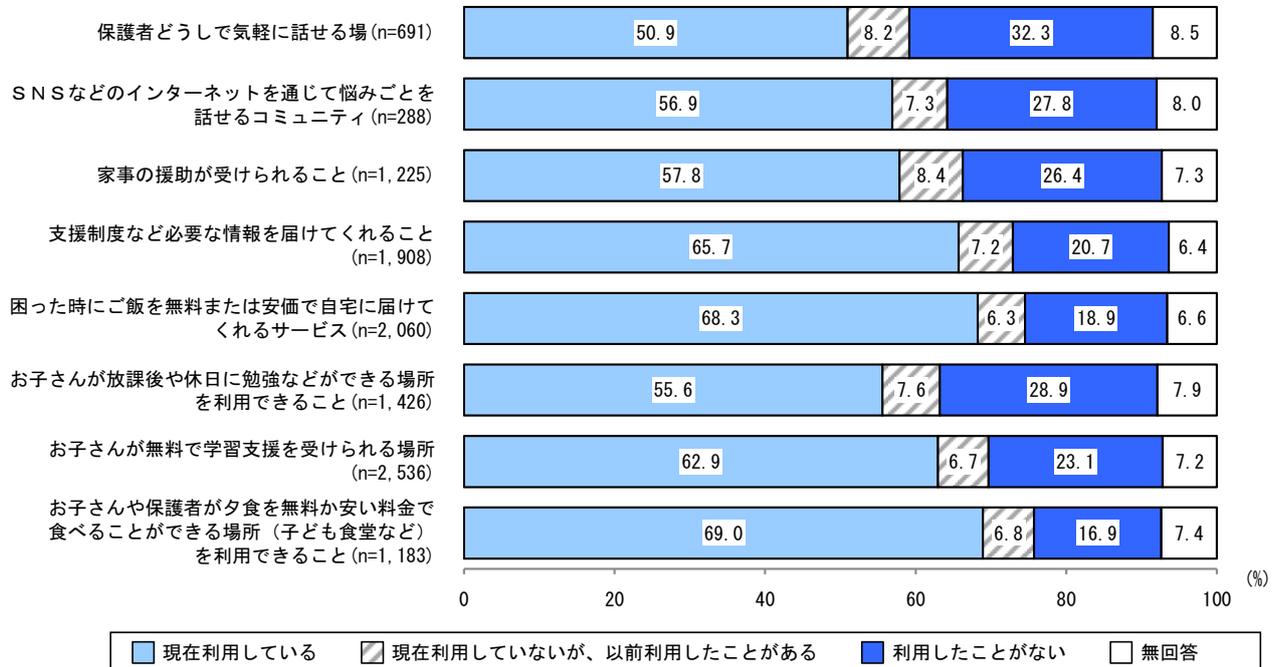


図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ても、大きな差はみられない。

身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）  
（保護者票問 20×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<豊中市>

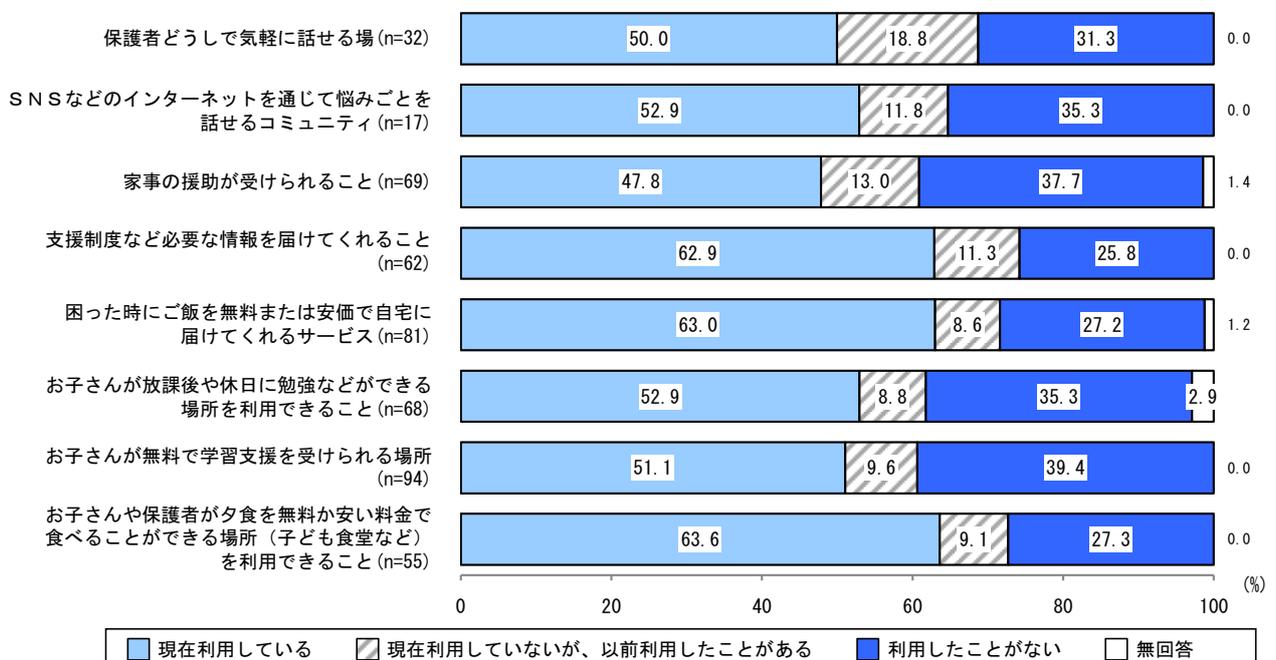
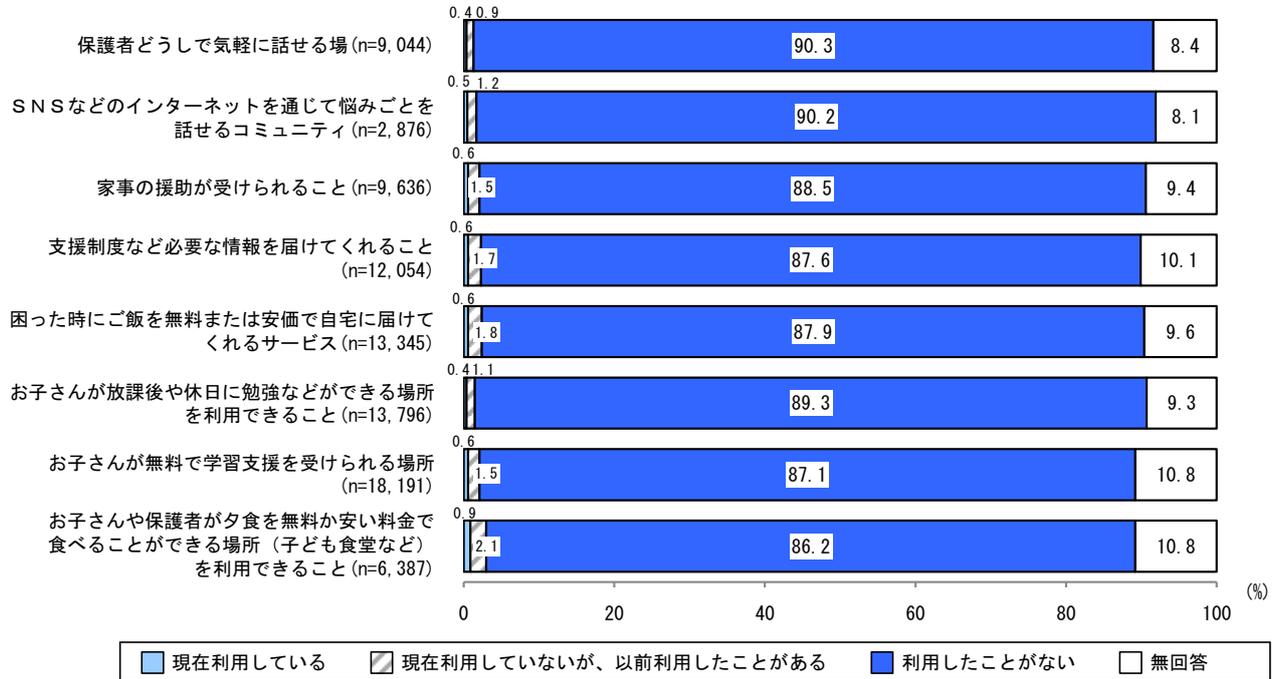


図 48. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

身近にあるといいと思うこと別に児童扶養手当の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が63.6%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況  
 (保護者票問 20×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<豊中市>

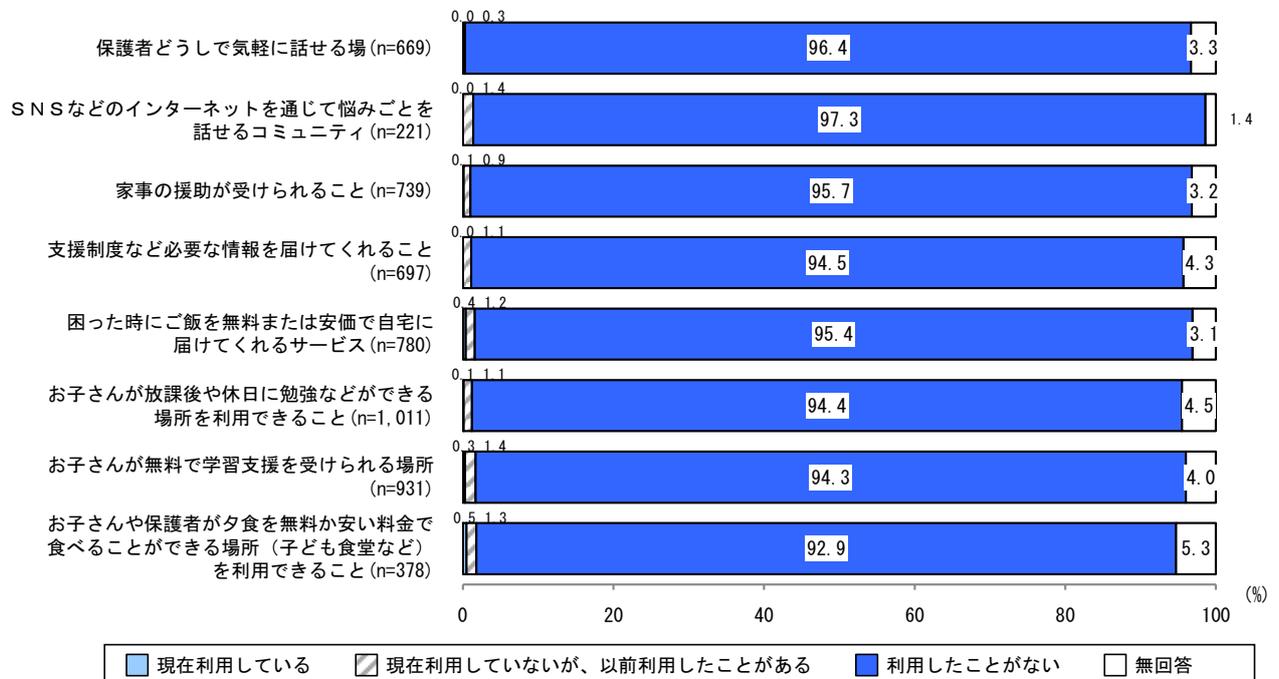
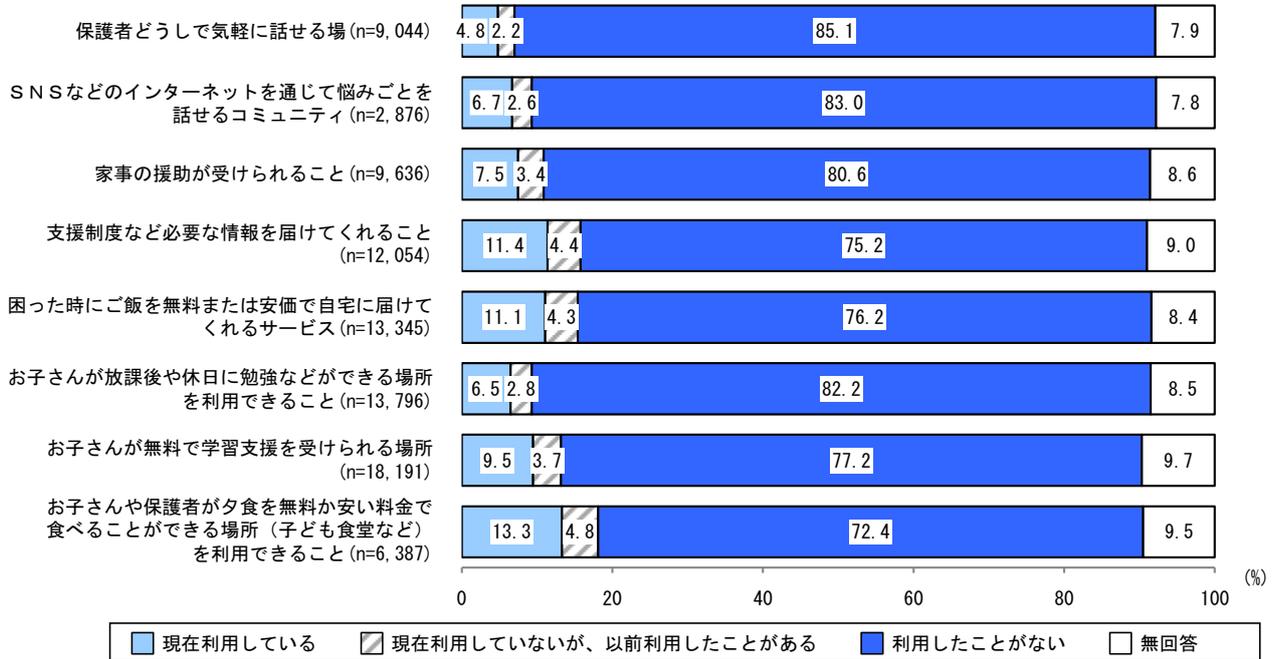


図 49. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

身近にあるといいと思うこと別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ても、大きな差はみられない。

身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<豊中市>

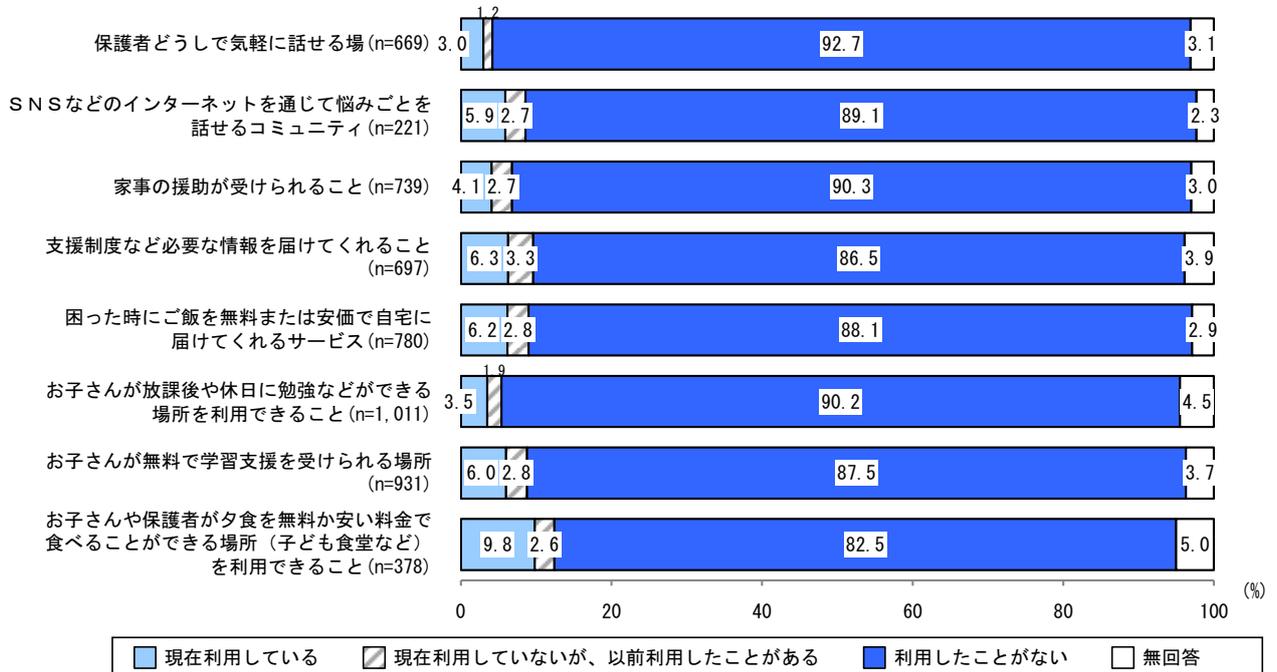
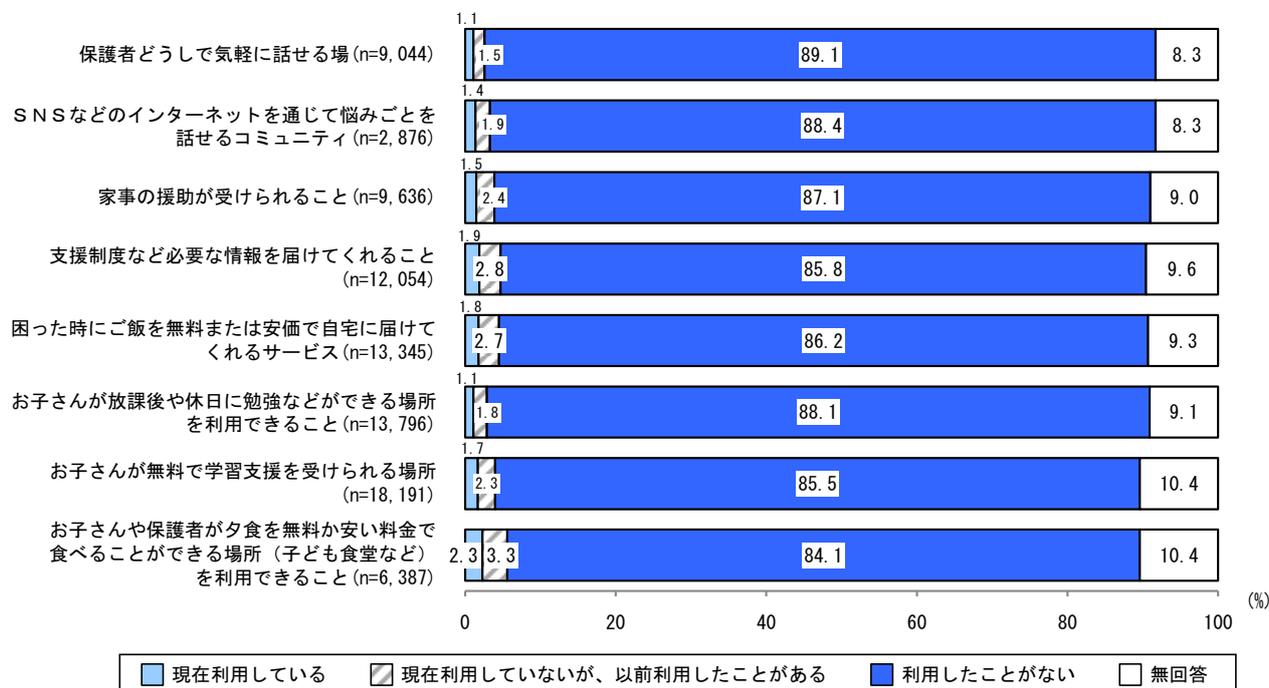


図 50. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が9.8%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<豊中市>

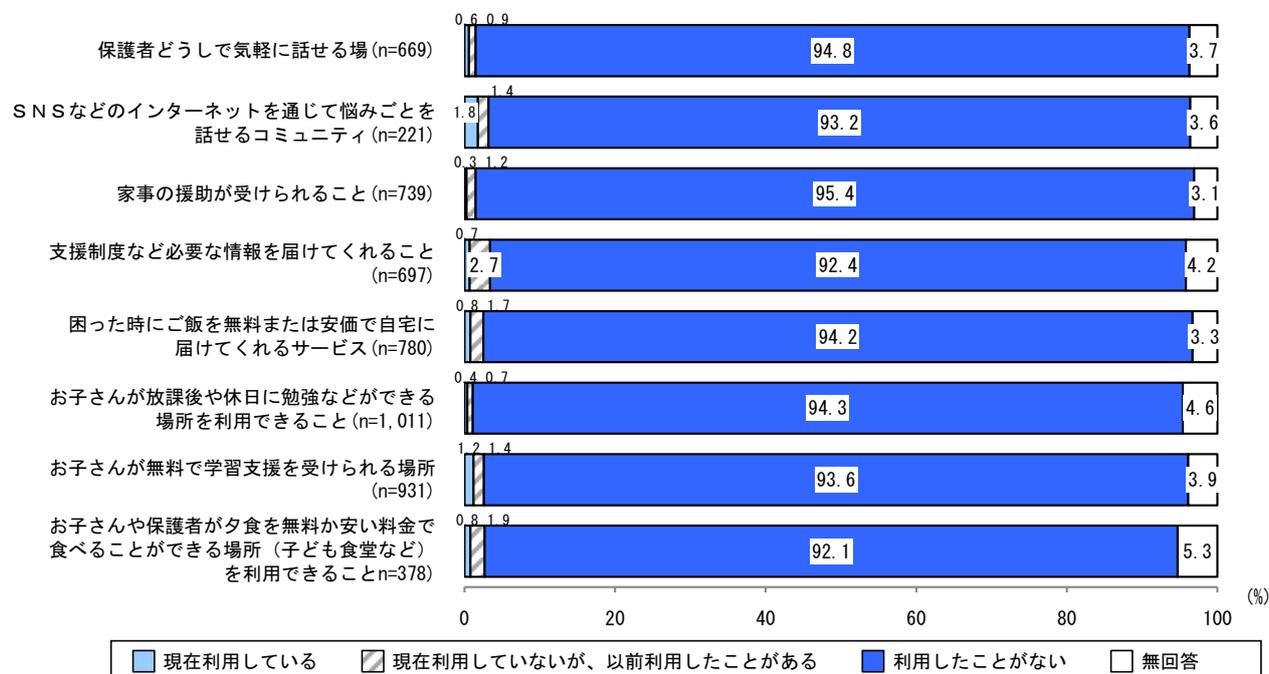


図 51. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」と回答した割合が1.8%で最も高くなっている。

## <家庭状況（制度等）に関する考察>

就学援助の利用状況については、全体で、「現在利用している」が8.8%となっている。困窮度Ⅰ群では、50.2%、困窮度Ⅱ群では、25.3%を占めている。次にひとり親世帯を対象とする児童扶養手当の利用状況は、全体で48.6%、困窮度Ⅰ群で79.0%、困窮度Ⅱ群で63.6%となっている。生活保護制度の利用状況は、全体で0.5%と低水準にとどまっている。困窮度Ⅰ群では、2.9%、困窮度Ⅱ群では該当なしとなっている。今回調査の回答者から一定層の貧困層が漏れ落ちている可能性についても留意しておく必要がある。いずれにしても、社会保障制度の捕捉率を上げるために、給付を必要な世帯が利用しやすいような各制度の要件緩和、手続きの簡素化等の施策が求められている。

ひとり親世帯について、養育費の取り決めや受け取りをしている世帯は、全体で39.4%にとどまっている。「取り決めをしておらず、受け取っていない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で44.0%、困窮度Ⅱ群で22.2%となっている。離別の場合、生活状況の激変のなか、ひとり親自身が養育費の取り決めを行うことは容易なことではないため、相談機関等の支援策の充実が求められる。

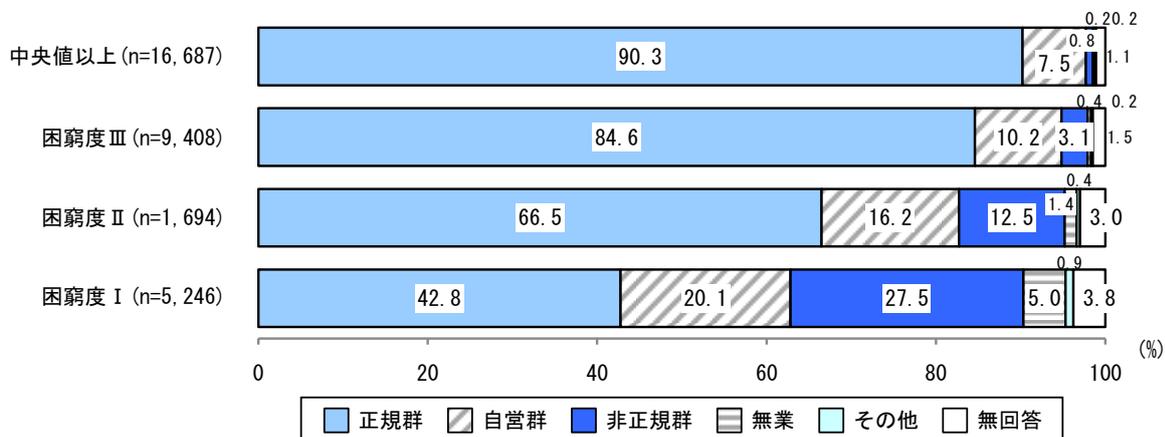
初めて親となった年齢と最終学歴について、特に母親に着目すると、「10代」で中学校卒業が5.6%、高等学校中途退学が38.9%と、他の年齢階層に比べて高くなっている。妊娠・出産しても学修を中断せず継続できるような学修面でのサポート体制、子育て支援が求められる。また学びを一時中断した者についても、あとからでも「学び直し」を可能にするような学修機会の提供等が求められる。

住宅形態別に家計の状況をみると、「府営・市営の住宅」において「赤字である」と回答した者の割合が38.7%を占める。同様に、府営・市営の住宅については、「子どもの将来のための貯蓄状況」についても「貯蓄をしたいが、できていない」が45.2%と経済的余裕のなさが示されている読み取れる。家賃分の負担軽減に加えて、生活費部分の経済的支援の必要性が示されている。

### 3-2. 雇用

#### 困窮度別に見た、就労状況（保護者票問9より）

##### <大阪府内全体>



##### <豊中市>

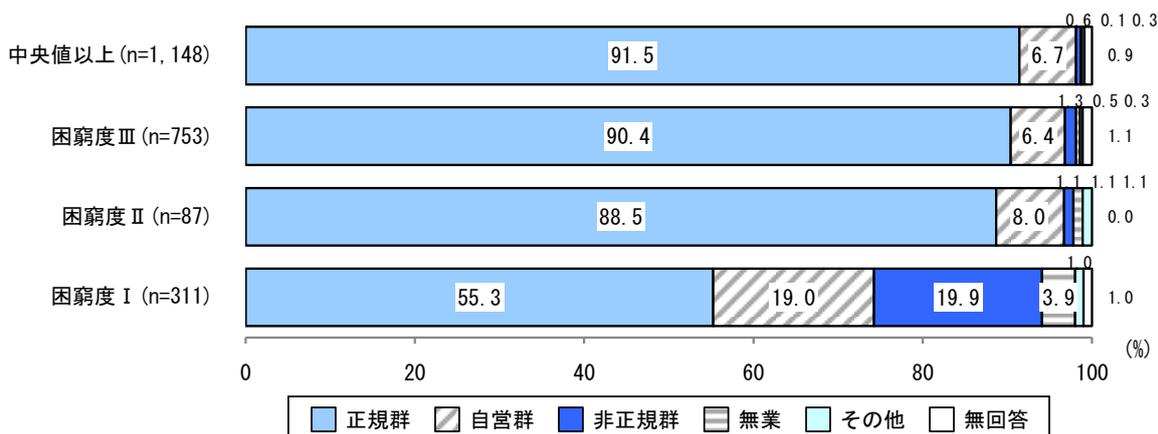


図 52. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、「自営群」、「非正規群」、「無業」の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群においては他と比べて「非正規群」、「無業」の割合がやや高く、それぞれ19.9%、3.9%となっている。

※分類方法は以下の通り。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問9選択肢1）、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問9選択肢4）、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれば「非正規群」（問9選択肢2、3）、

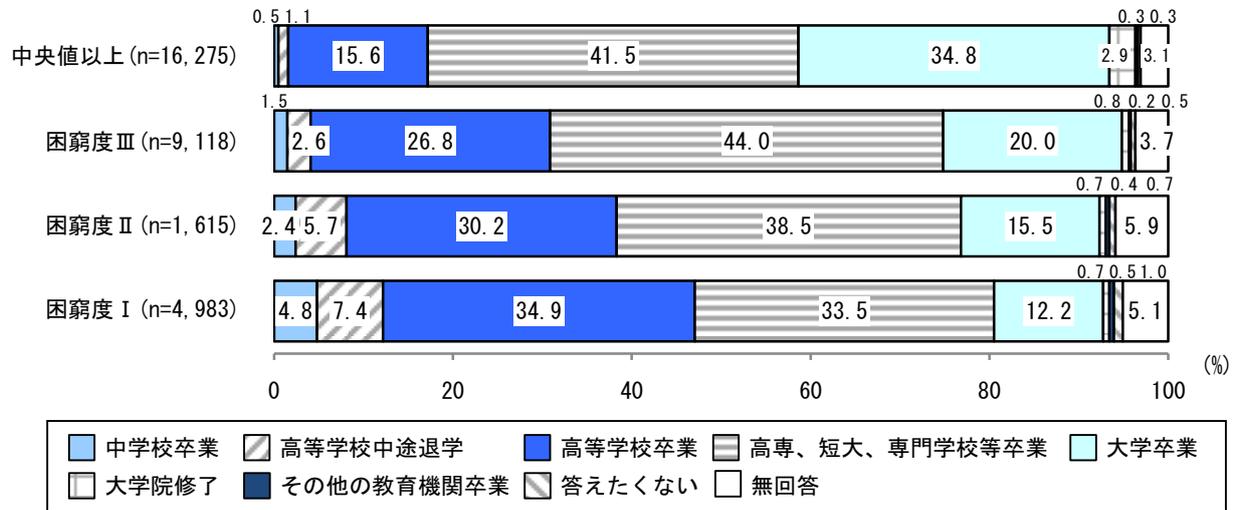
上記以外で、誰も働いていなければ「無業」（問9選択肢6、7）。

上記以外が「その他」となる。

ここでの無業とは、「ふだん仕事をしていない者、すなわち、ふだん全く仕事をしていない者及び臨時的にしか仕事をしていない者」を指す（就業構造基本調査による）。クロス集計で「就労状況」を用いる時は、上記区分による。

困窮度別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<豊中市>

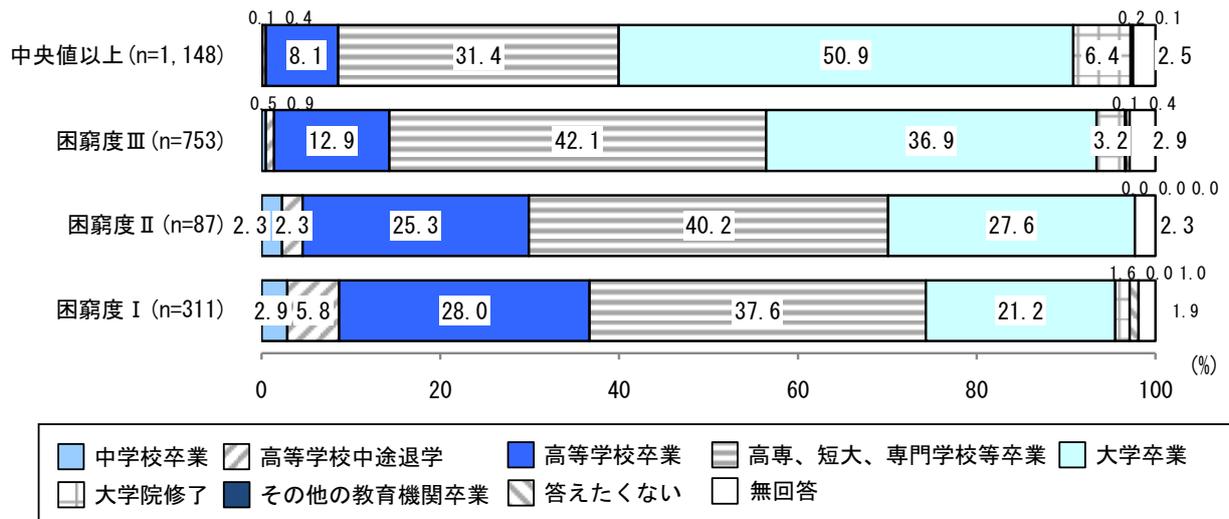
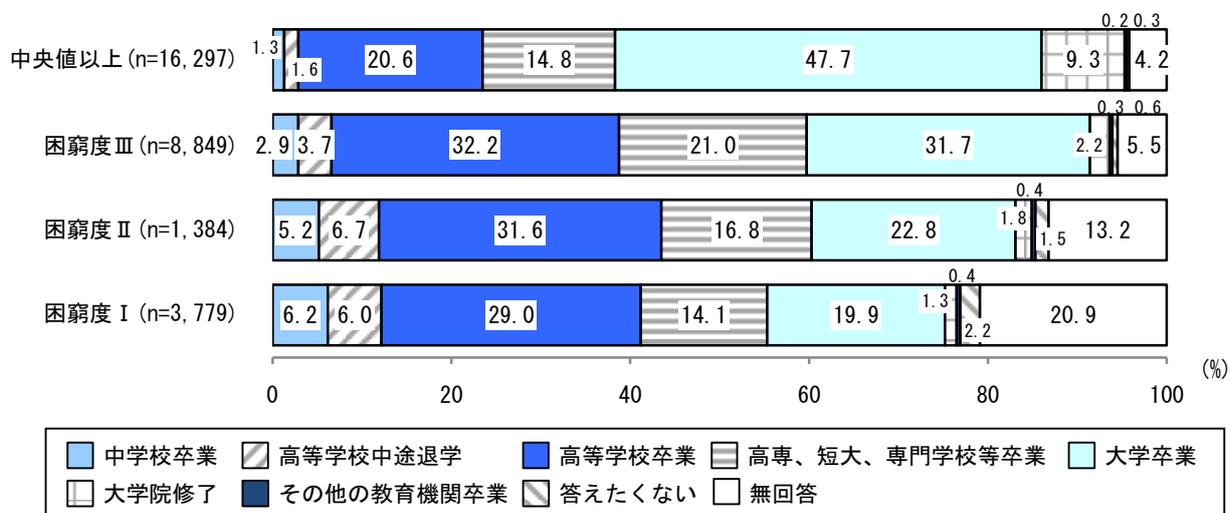


図 53. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、困窮度が高まるにつれ、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」、「高等学校卒業」の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ～Ⅲ群では中央値以上群に比べ、「大学卒業」の割合が低い。

困窮度別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<豊中市>

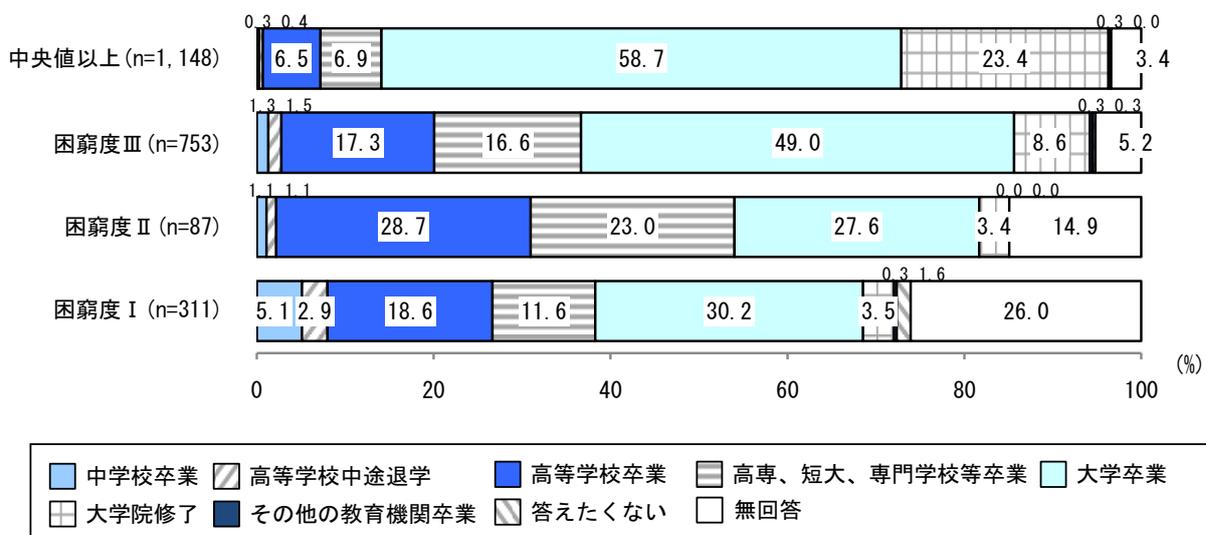
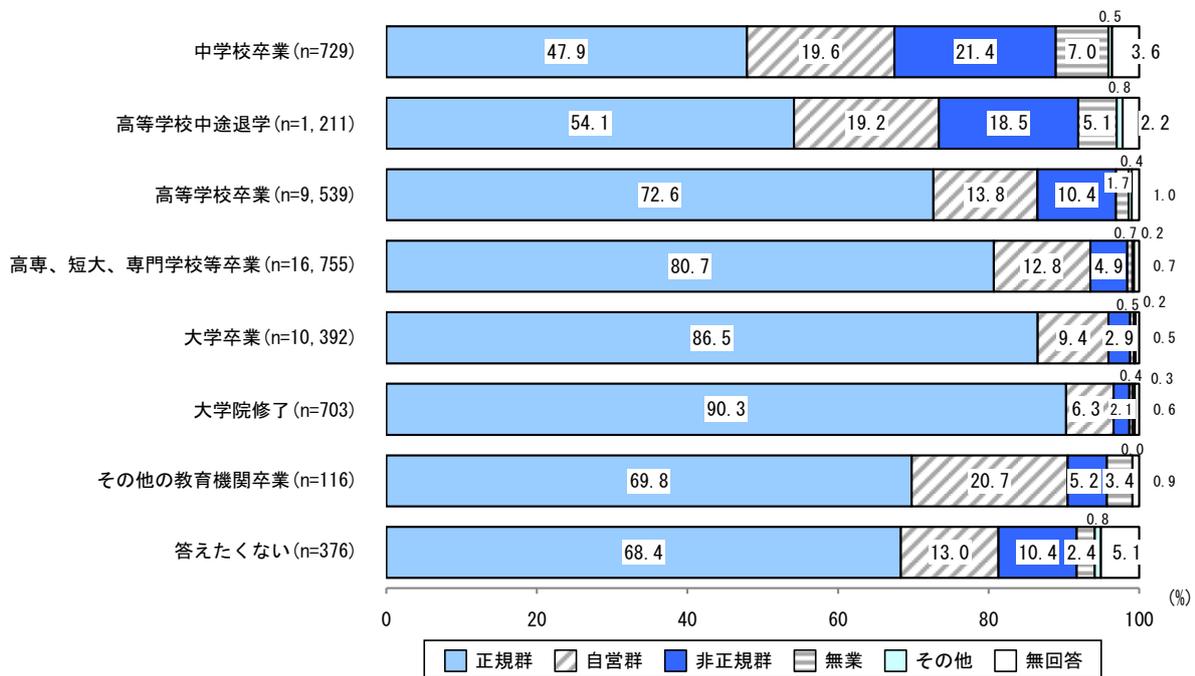


図 54. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると、中央値以上群において、「大学卒業」の割合は58.7%と最も高くなっている。また、困窮度Ⅰ群において、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合はそれぞれ5.1%、2.9%である。困窮度Ⅰ群では無回答（26.0%）の割合も高い。

お母さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問 8 × 保護者票問 9）

<大阪府内全体>



<豊中市>

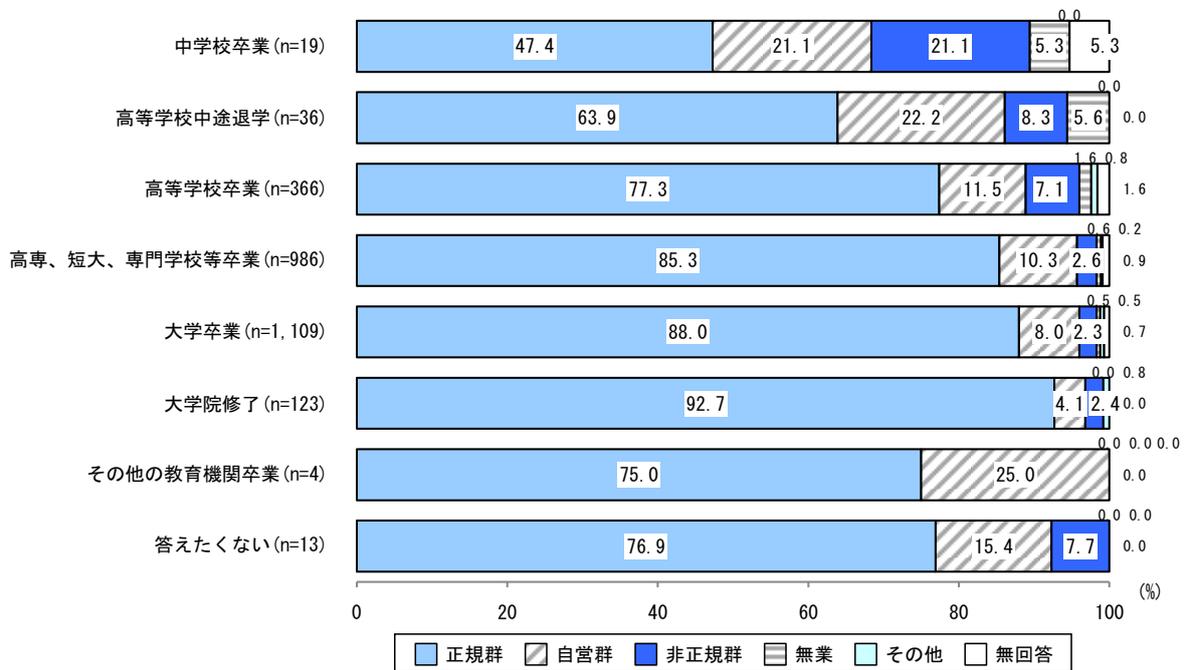
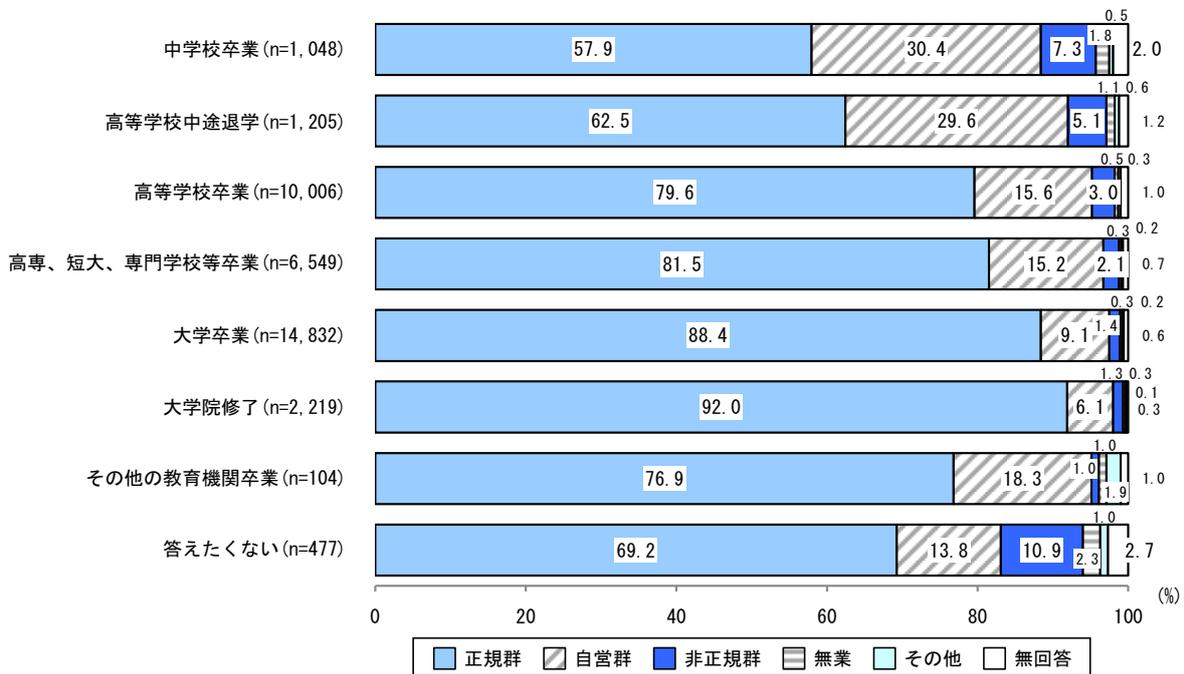


図 55. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「母親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

お父さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問8×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<豊中市>

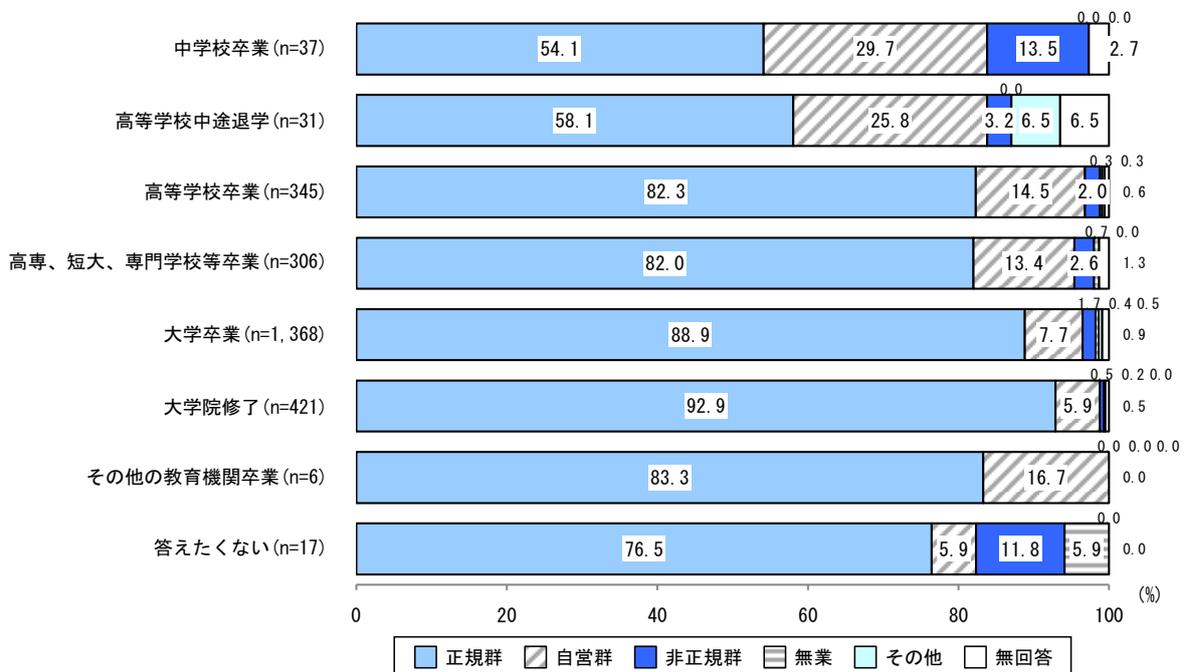
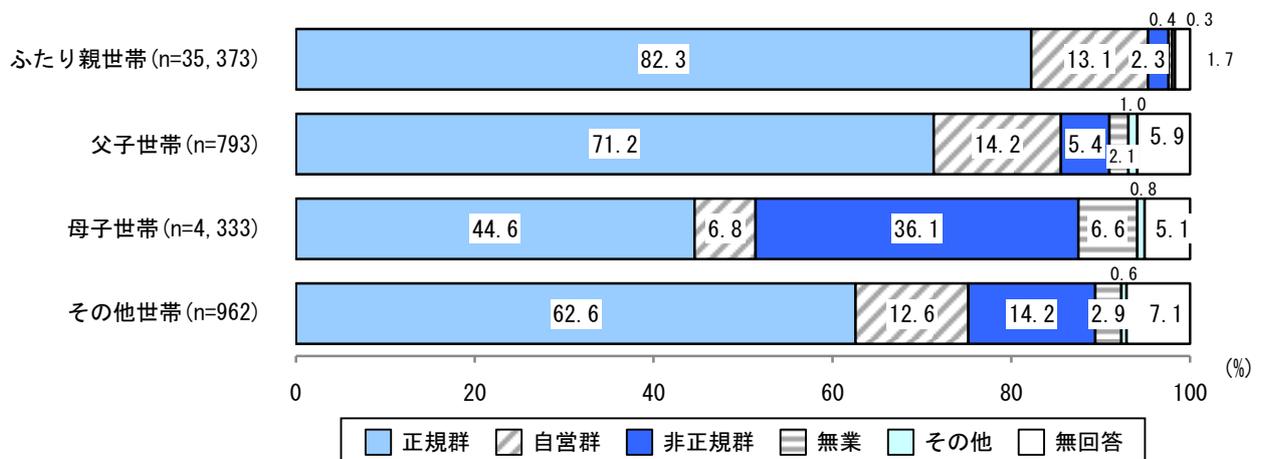


図 56. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、「正規群」の割合が最も高いのは「大学院修了」で92.9%である。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票問2×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<豊中市>

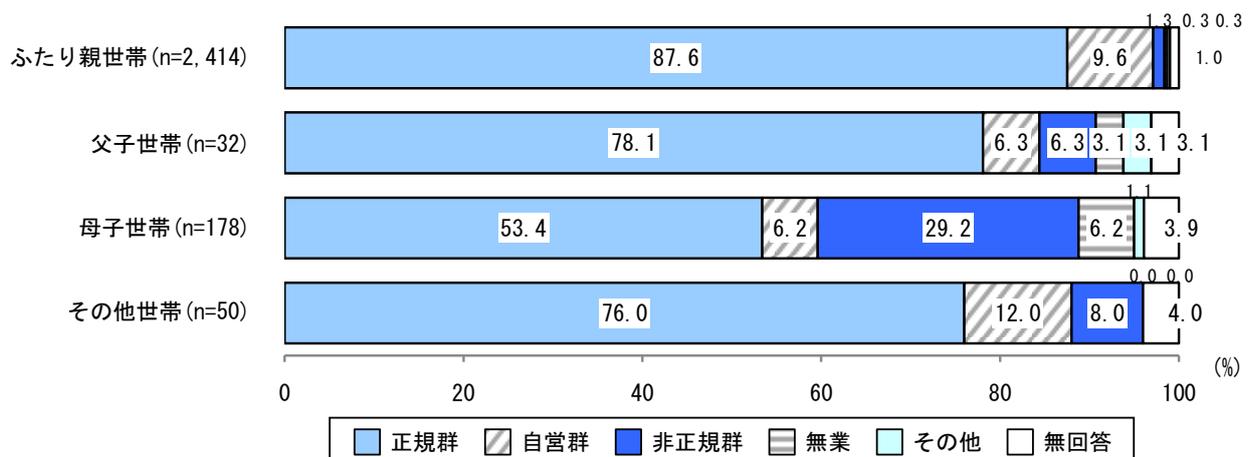
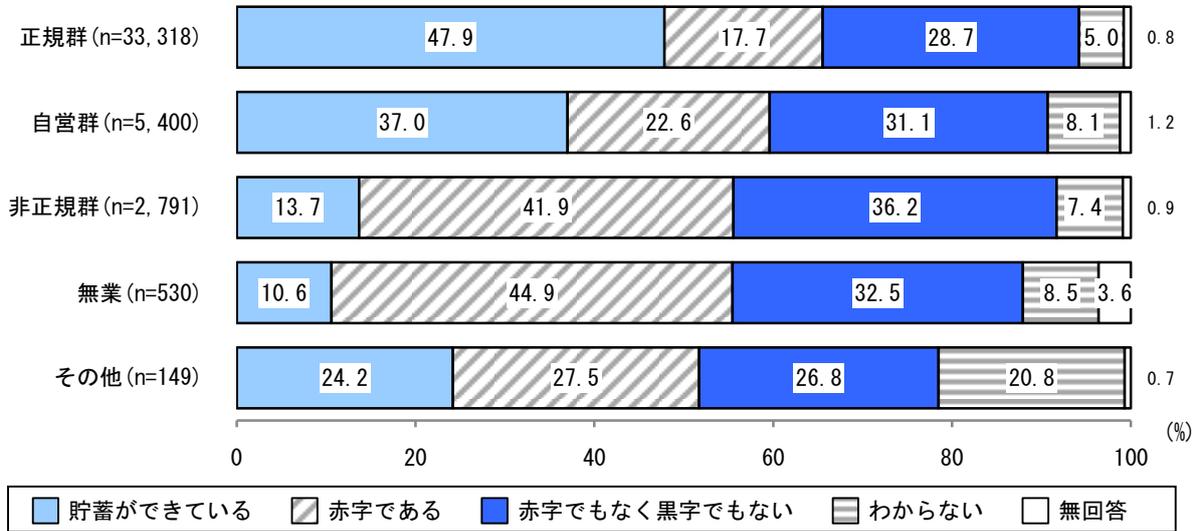


図 57. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が87.6%であるが、「父子世帯」では78.1%、「母子世帯」では53.4%と低くなる。「非正規群」は、「父子世帯」では6.3%、「母子世帯」では29.2%となっている。

就労状況別に見た、家計の状況（保護者票問9×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

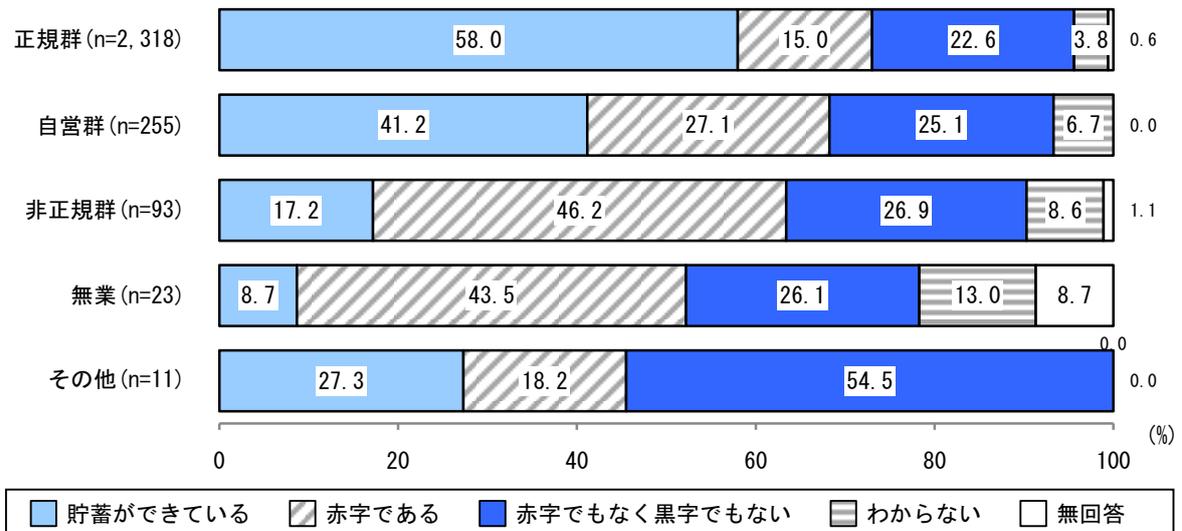


図 58. 就労状況別に見た、家計の状況

就労状況別に家計状況を見ると、「正規群」・「自営群」では「貯蓄ができていない」割合がそれぞれ、58.0%、41.2%である。「非正規群」・「無業」では「赤字である」と回答した人がそれぞれ46.2%、43.5%にのぼっている。

## <雇用に関する考察>

はじめに、困窮度別の保護者の就労状況と最終学歴について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間で差が大きい項目に着目して述べる。まず、親の就労状況を困窮度別に見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「正規」群（91.5%対55.3%）が35ポイント以上高く、大きな開きがある。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「非正規」群（19.9%対0.1%）が19ポイント以上高くなっている。母親の最終学歴を困窮度別に見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、高学歴な「大学卒業」群（50.9%対21.2%）は2倍以上高くなっている。困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「高等学校卒業」群（28.0%対8.1%）が約20ポイント高くなっている。同様に、父親の最終学歴においても、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、高学歴な大学以上（「大学卒業」と「大学院修了」）群（82.1%対33.7%）が48ポイント以上高く、大きな開きがある。これらの結果から、経済的に困難な世帯の保護者の雇用形態が所得階層の分布に反映されていることが読み取れる。また、困窮度が高い群では学歴が低い傾向が見られる。

次に、保護者の最終学歴別に就業状況を確認する。母親の最終学歴別に見ると、「中学校卒業」群（47.4%）の「正規」群の比率が5割以下に対して、それ以外では6割以上である。また、「中学校卒業」群は「大学卒業」群と比べ、「非正規」群（21.1%対2.3%）は18ポイント以上高くなっている。一方、父親の最終学歴別でも、「中学校卒業」群（54.1%）および「高等学校中途退学」群（58.1%）の「正規」群の比率が5割程度にとどまっているのに対して、それ以外では8割以上が正規での就労比率を示している。これらの結果から、学歴が高い群ほど正規雇用の割合が高いことを示唆している。

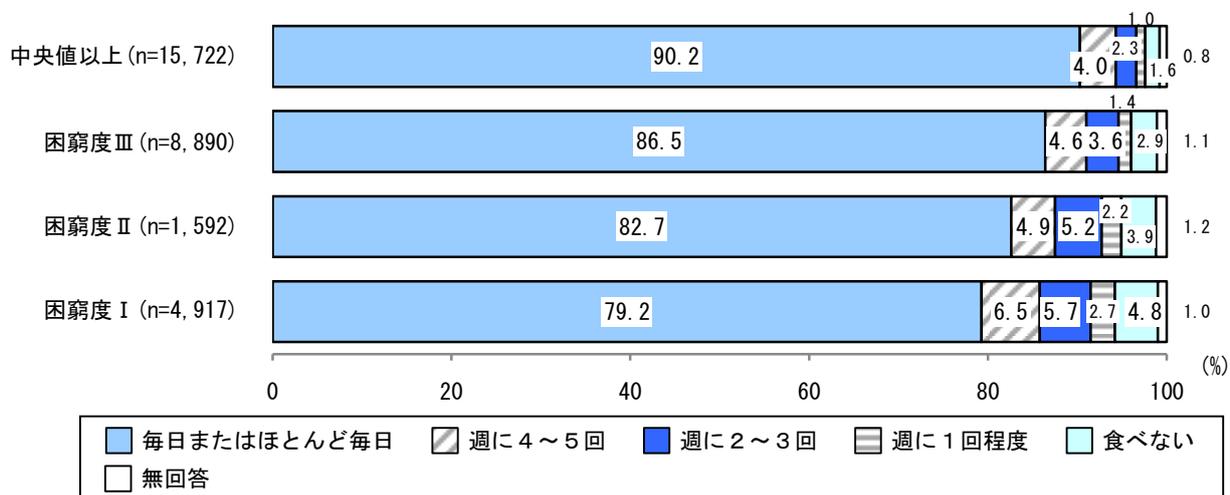
親の就労状況を世帯構成別に見ると、ふたり親世帯は母子世帯に比べ、「正規」群（87.6%対53.4%）は34ポイント高くなっており、母子世帯の正規雇用の割合の低さが顕著である。さらに、母子世帯は「非正規」群（29.2%）の割合がその他の世帯構成に比べ非常に高くなっており、不安定な就労状況にあることを示唆している。

最後に、保護者の就業状況別に家計状況に着目する。「正規」群は「非正規」群と比べ、「貯蓄が出来ている」（58.0%対17.2%）は約40ポイント高く、大きな開きがある。また、「非正規」群は「正規」群と比べ、家計状況が「赤字である」（46.2%対15.0%）が31ポイント以上高いという対照的な状況が示された。この結果から、保護者の就業状況により貯蓄ができるか否かなど生活の安定に影響を及ぼしていることが示唆されている。

### 3-3. 健康

#### 困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

##### <大阪府内全体>



##### <豊中市>

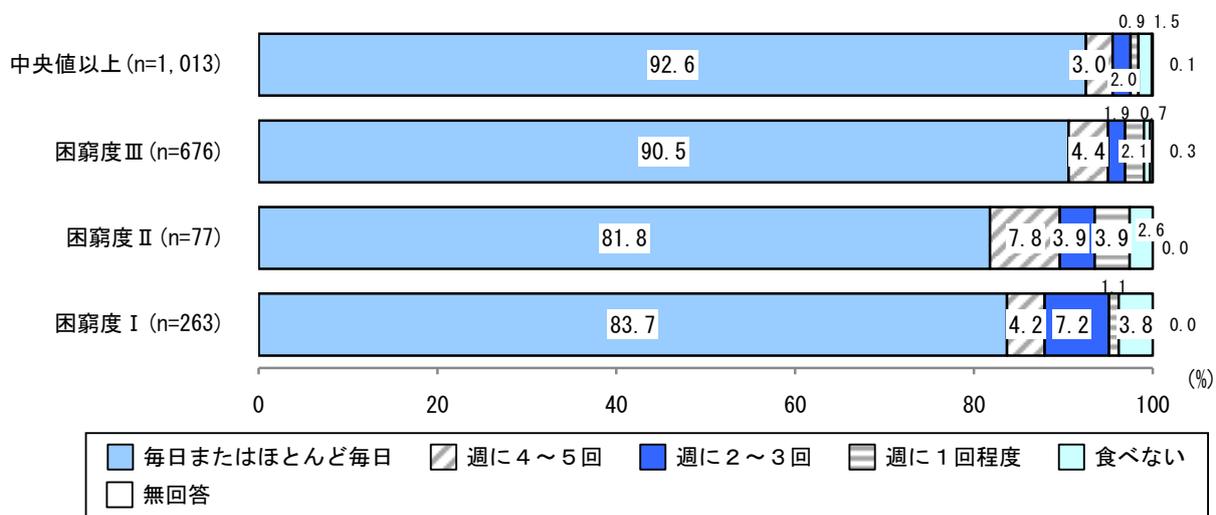
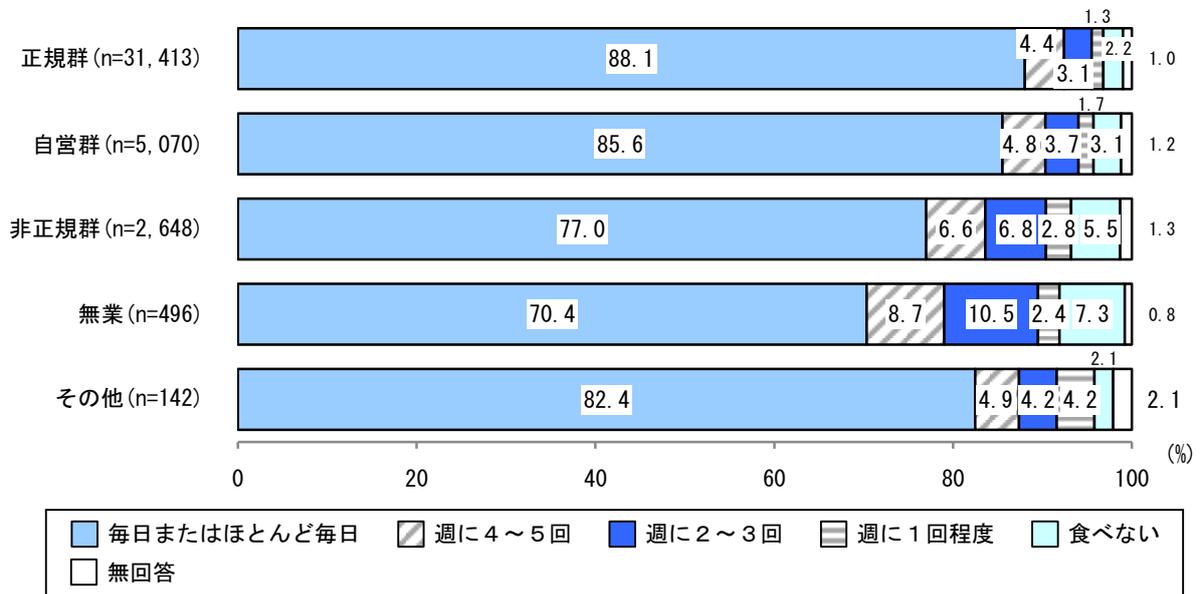


図 59. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「中央値以上」(92.6%)が最も高い。困窮度Ⅰ群では、16.3%が「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていないと回答した。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

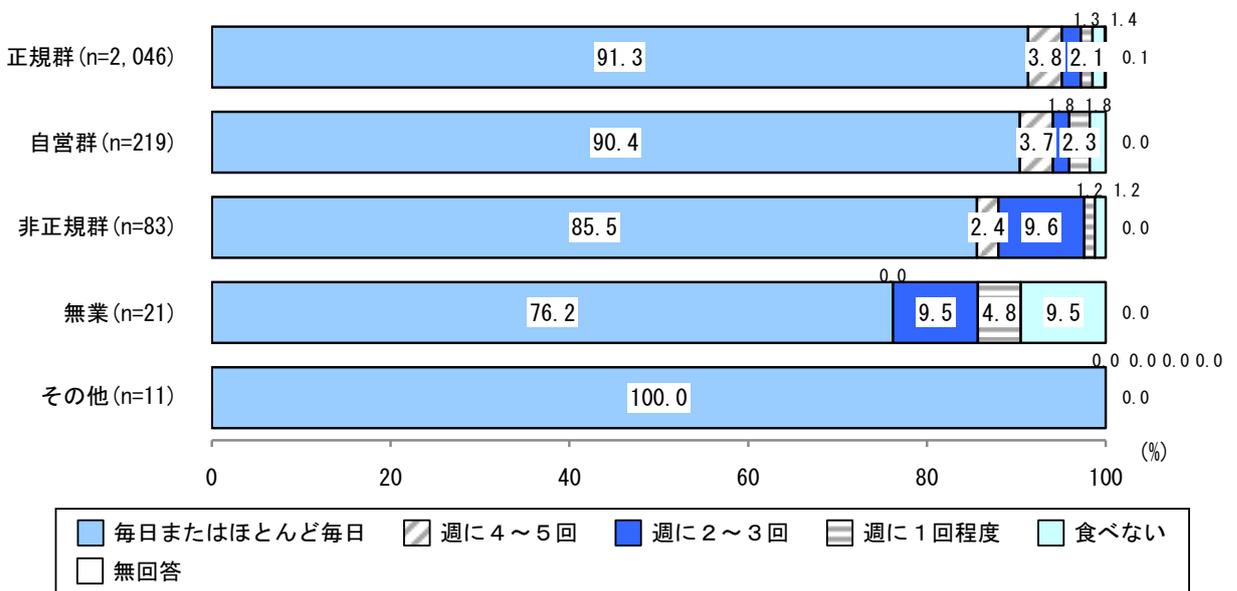
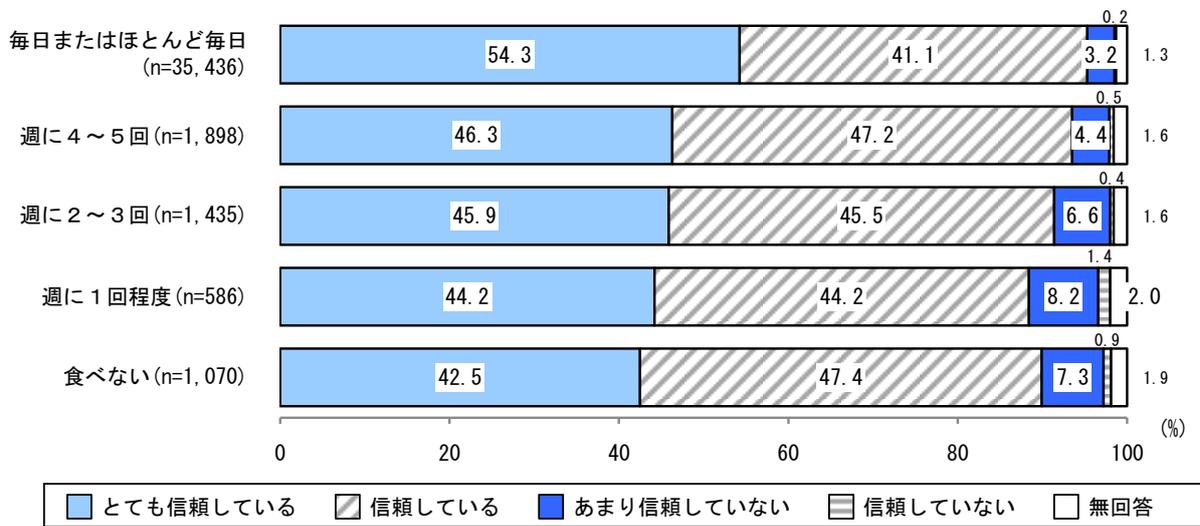


図 60. 就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「正規群」(91.3%) が最も高く、次いで、「自営群」(90.4%)、「非正規群」(85.5%)、「無業」(76.2%) の順で朝食の頻度が低くなる。

朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問4(1)×保護者票問13(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

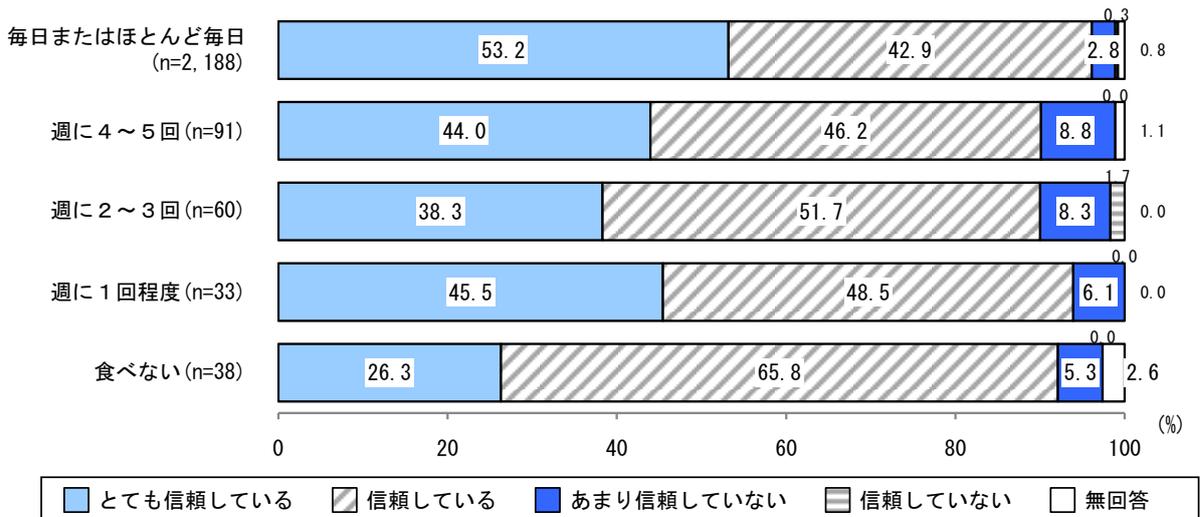
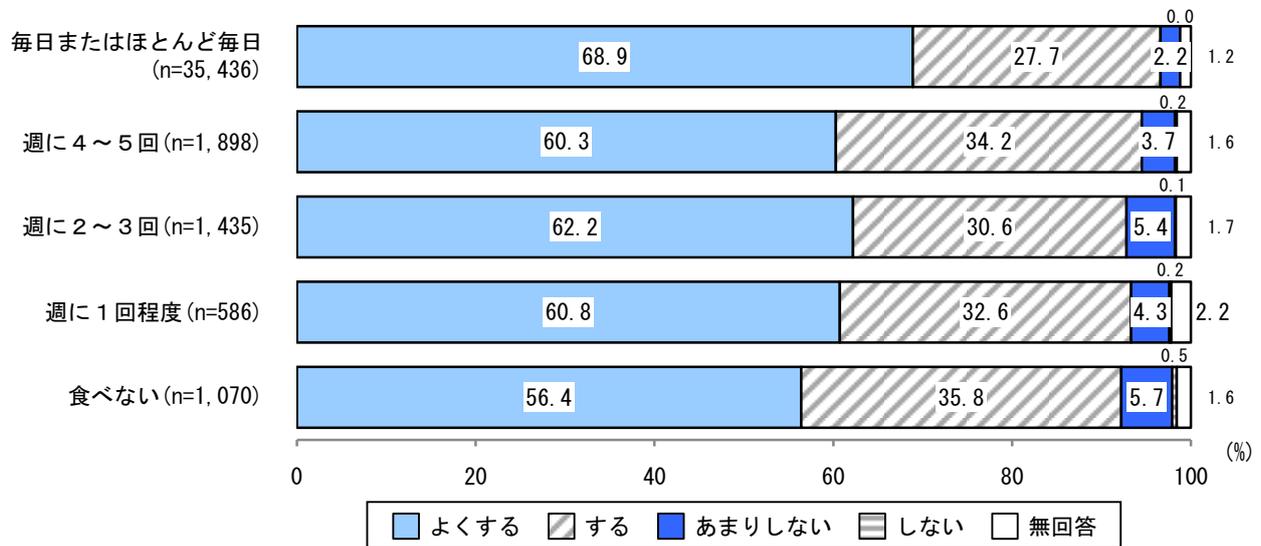


図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度

朝食の頻度別に子どもへの信頼度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもを「とても信頼している」との回答が53.2%であるのに対し、「食べない」では、「とても信頼している」と回答した人は26.3%と低い。

朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問4(1)×保護者票問13(2)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

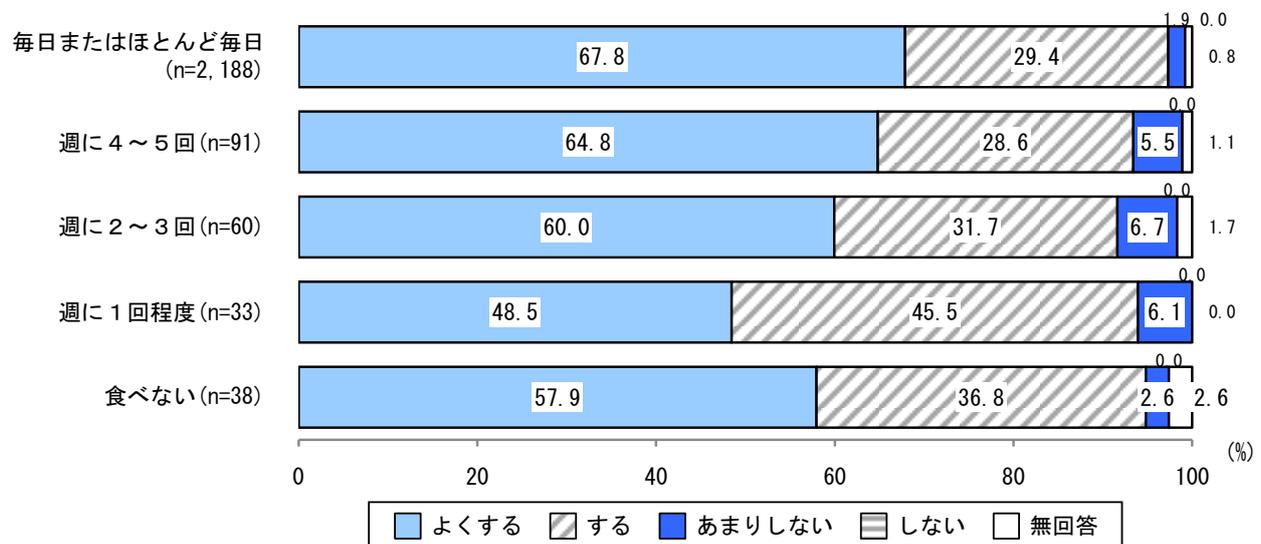
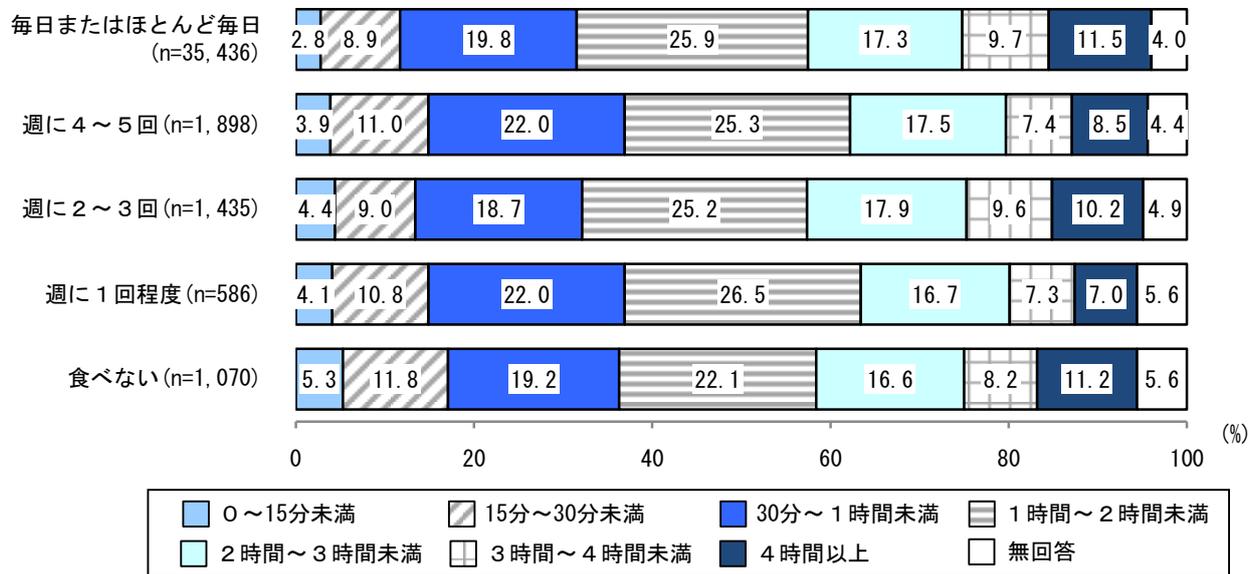


図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度

朝食の頻度別に子どもと会話頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、会話を「よくする」との回答が67.8%であるのに対し、「週に1回程度」では、「よくする」と回答した人は48.5%と低い。

朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

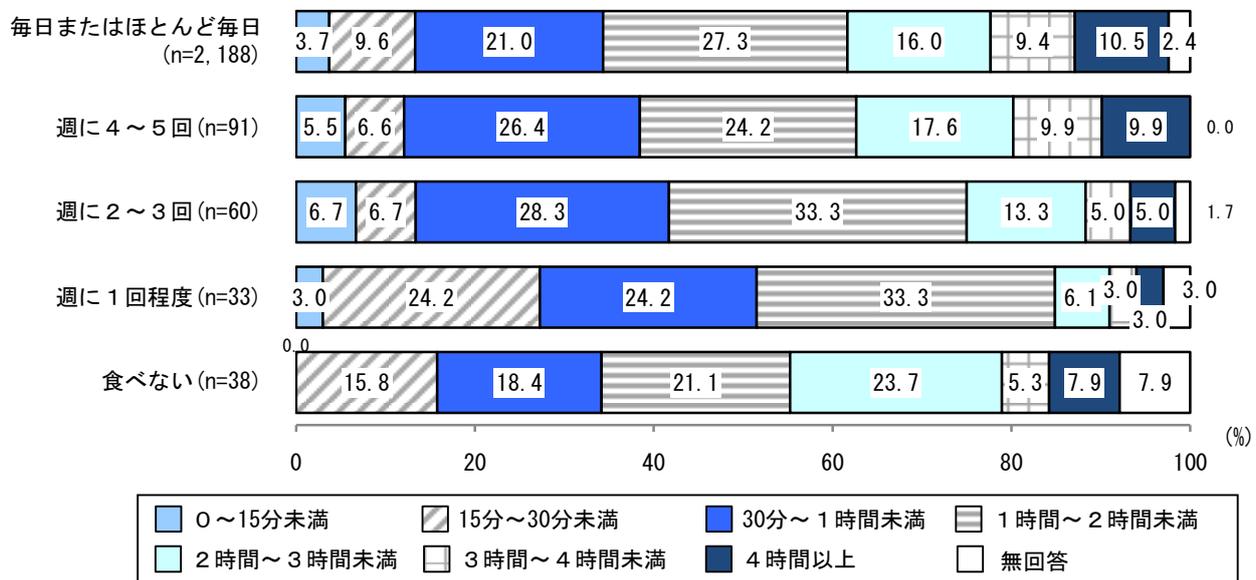
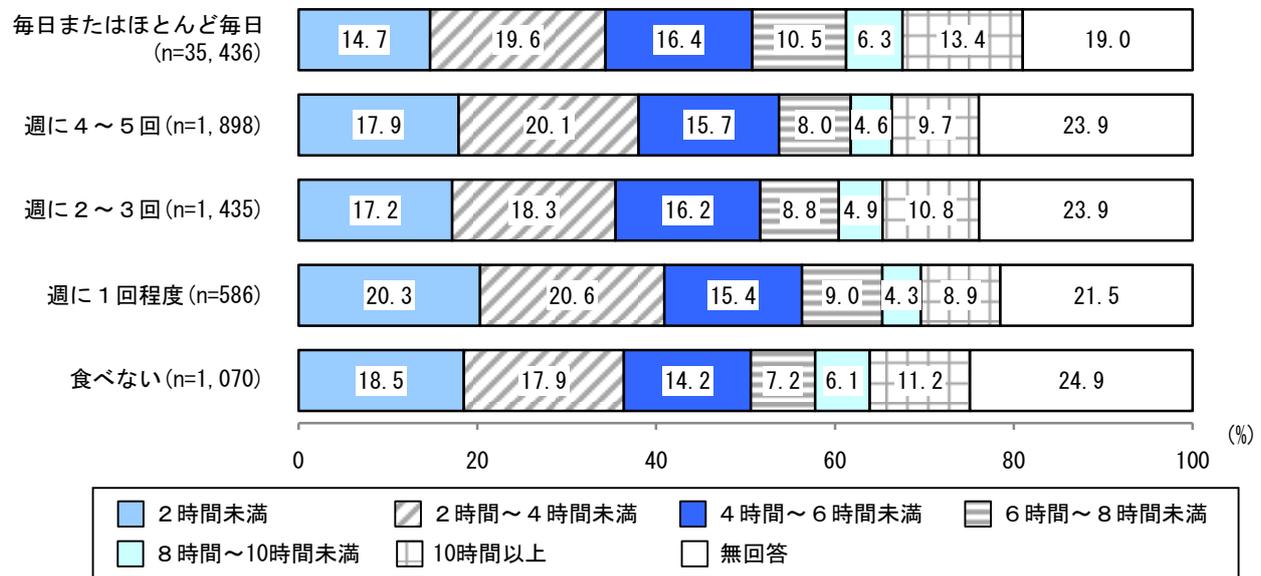


図 63. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが「食べない」の人よりも平日に子どもと一緒にいる時間が長くなっている。

朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

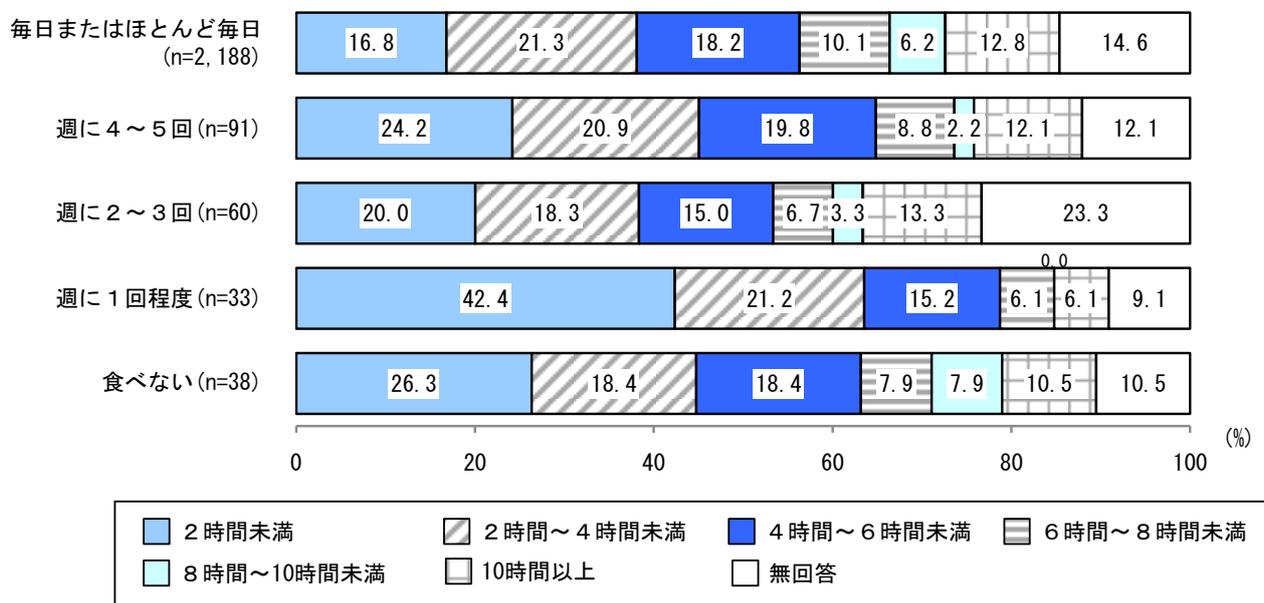
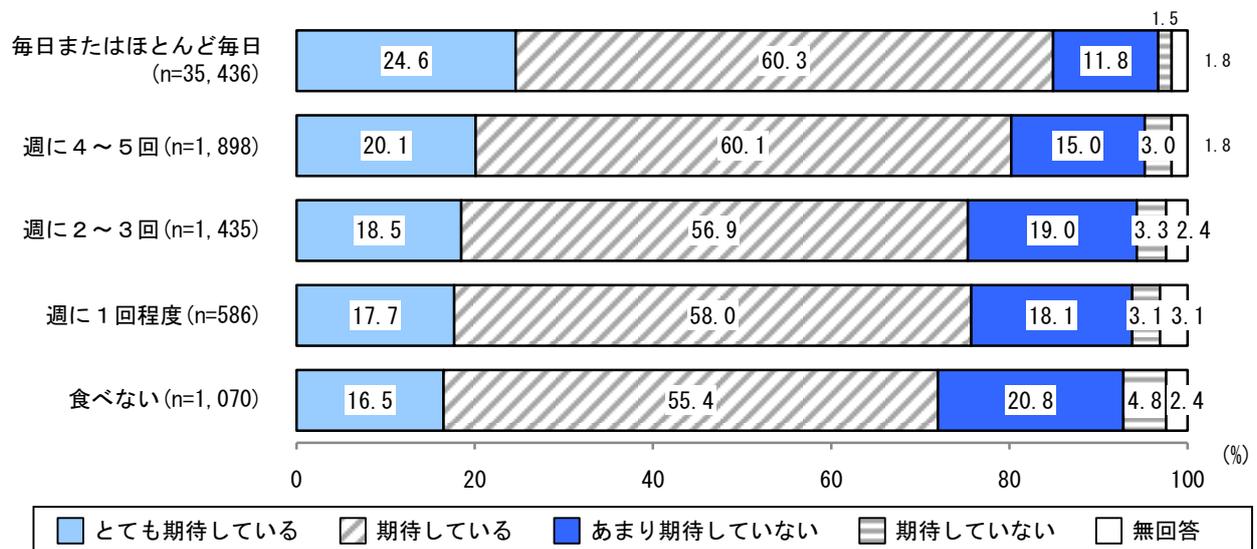


図 64. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが、「食べない」の人よりも休日に子どもと一緒にいる時間が長くなっている。

朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問4(1)×保護者票問13(4)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

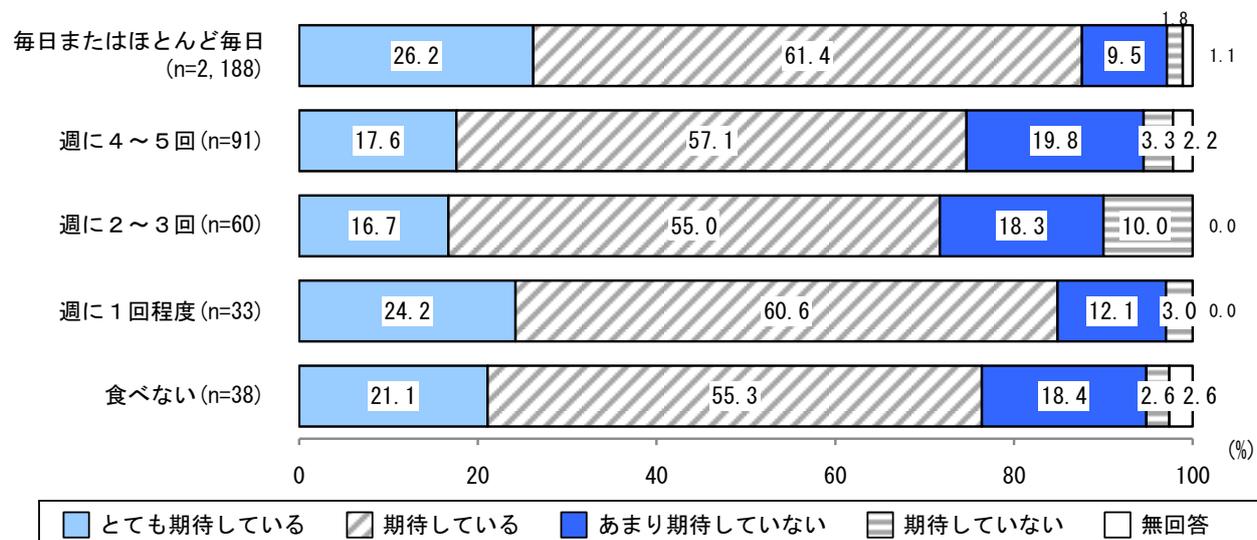


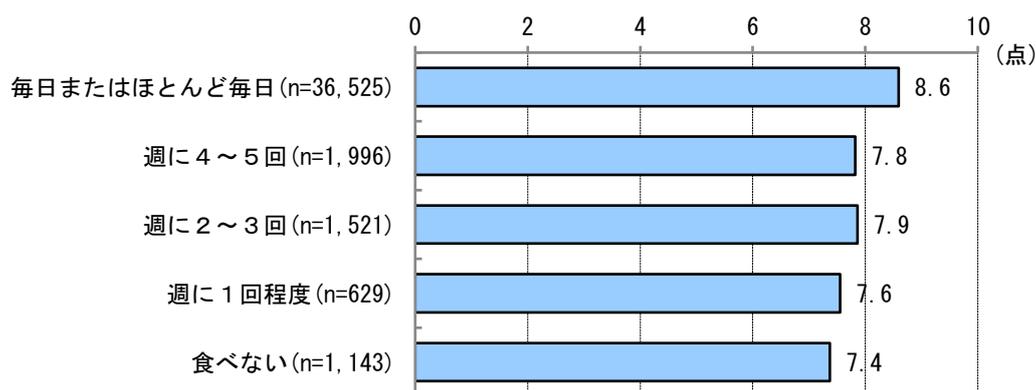
図 65. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度

朝食の頻度別に子どもの将来への期待度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「とても期待している」「期待している」をあわせて、87.6%であるのに対して、「食べない」の人では、「とても期待している」「期待している」と回答した人をあわせて76.4%と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが子どもの将来に対する期待が高い結果となった。

朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）  
 （子ども票問4(1)×子ども票問23）

※「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「自分の将来の夢や目標を持っている」の3項目について、それぞれ4段階で評価させ、その値を合計した得点を、セルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪府内全体>



<豊中市>

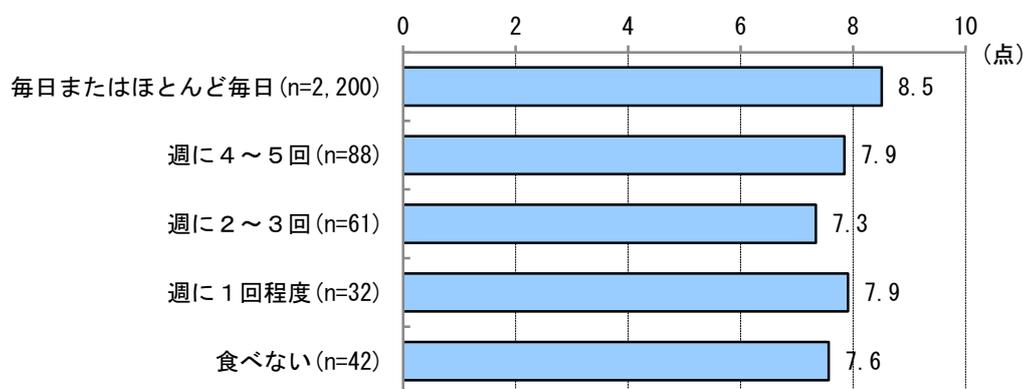
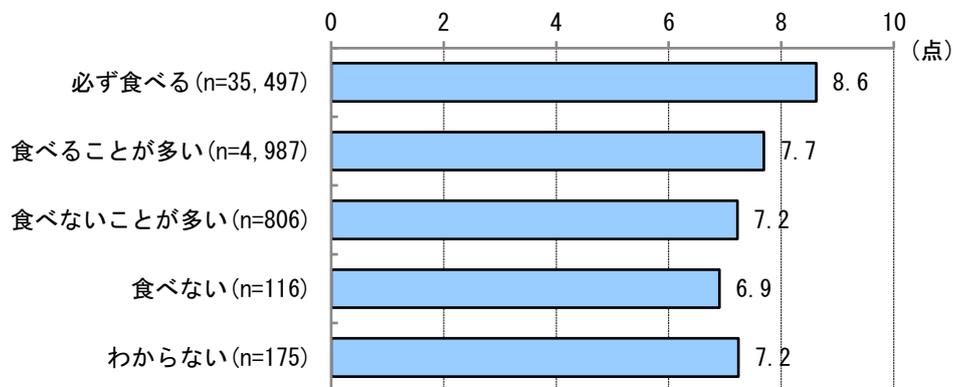


図 66. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、8.5点であるのに対して、「食べない」では、7.6点と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人のほうが子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）  
 （子ども票問6(1)×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<豊中市>

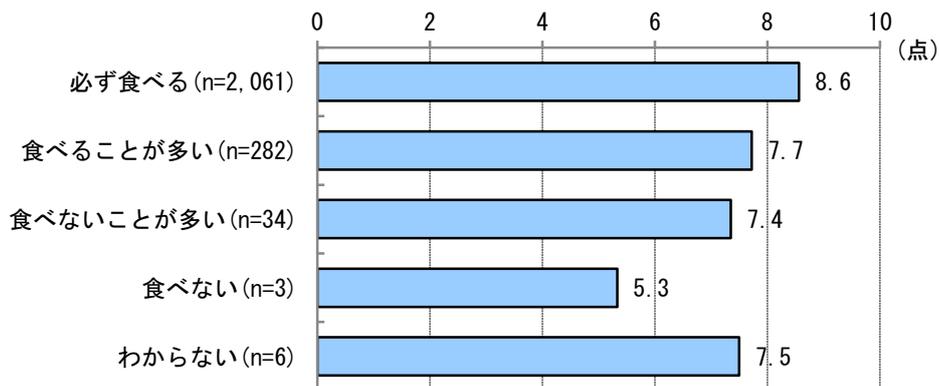
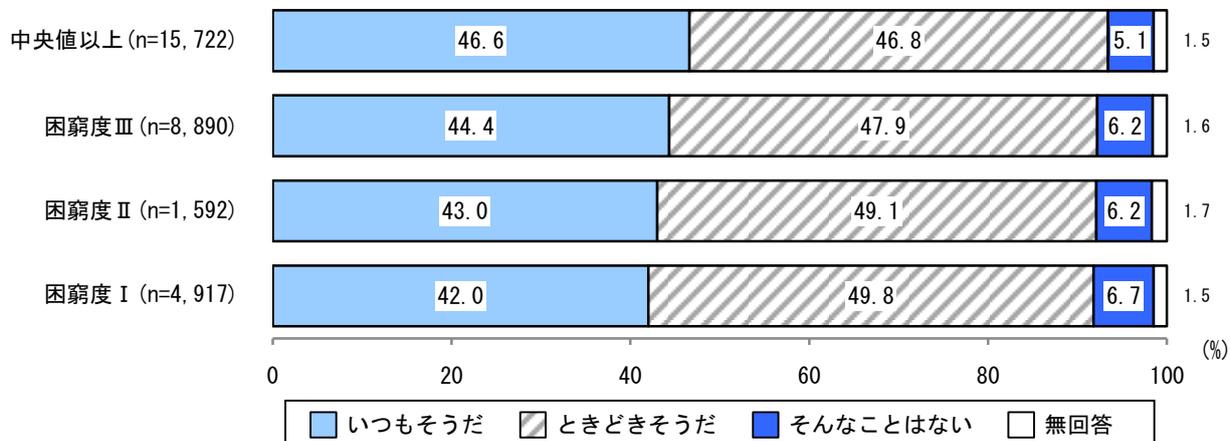


図 67. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

休日の昼食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「必ず食べる」と回答した人の得点が8.6点であるのに対して、「食べない」と回答した人は5.3点と昼食を「必ず食べる」と回答した人のほうが、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある  
(子ども票問 19①)

<大阪府内全体>



<豊中市>

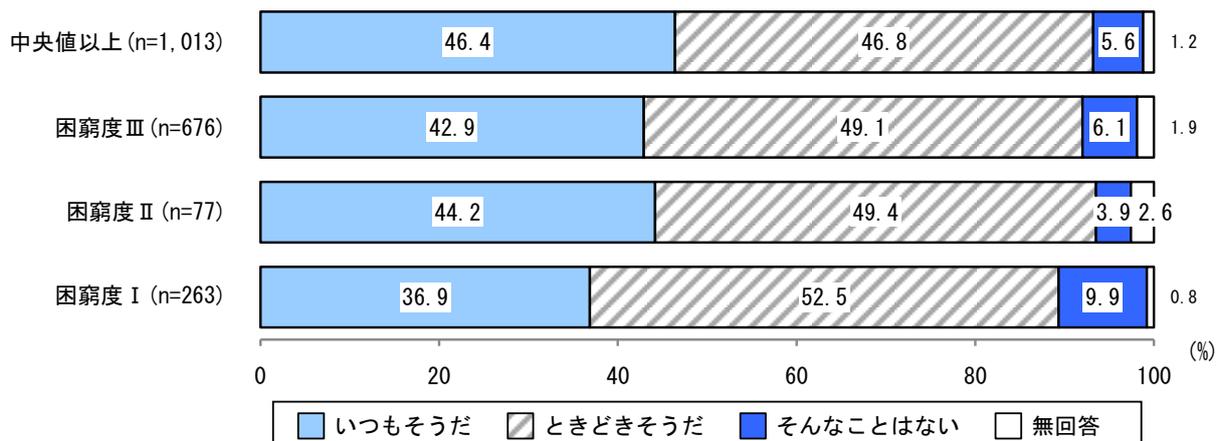
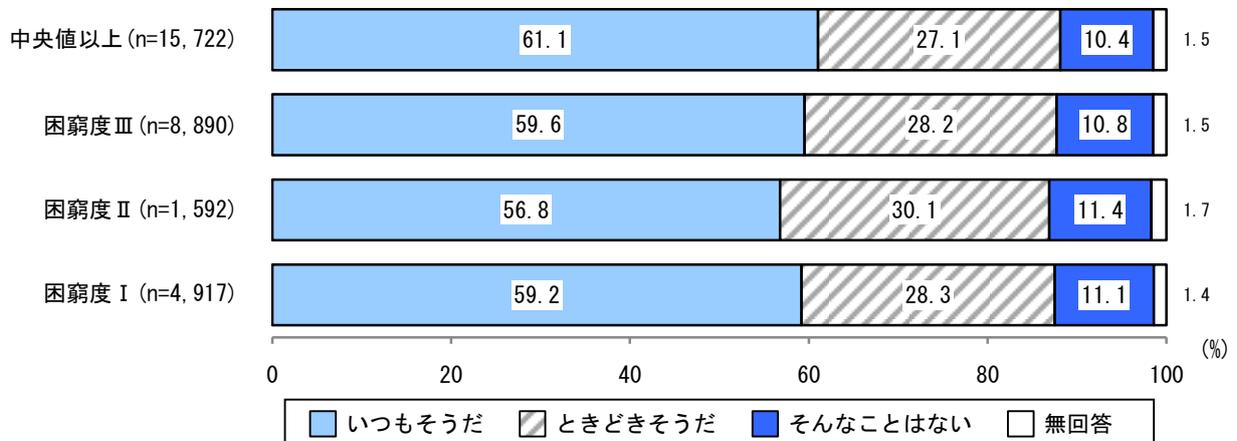


図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群 (36.9%) で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ(子ども票問19②)

<大阪府内全体>



<豊中市>

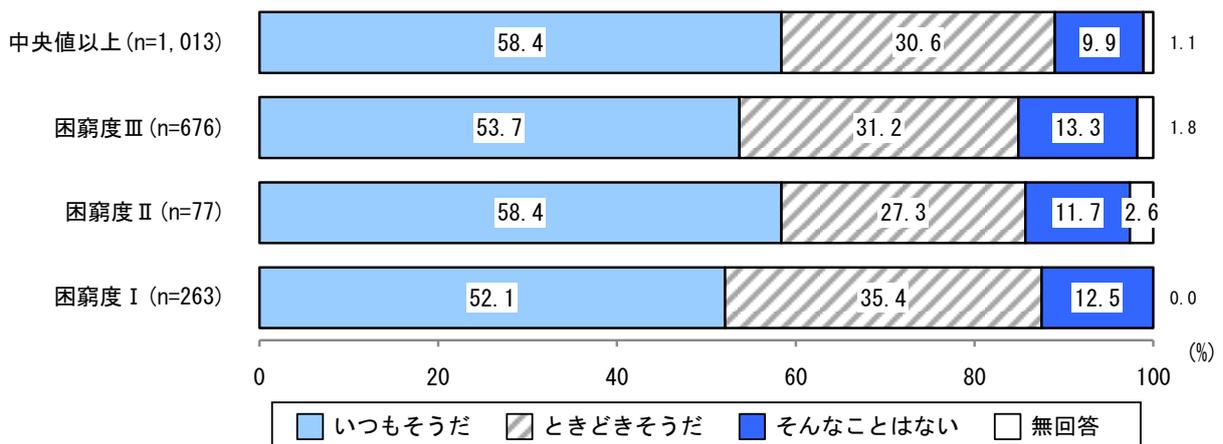
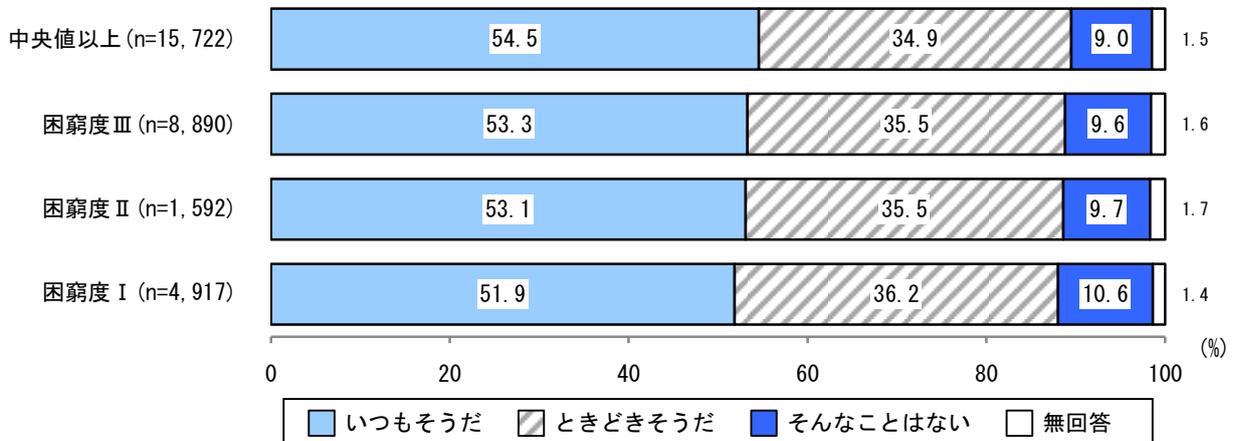


図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群(52.1%)で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい (子ども票問 19③)

<大阪府内全体>



<豊中市>

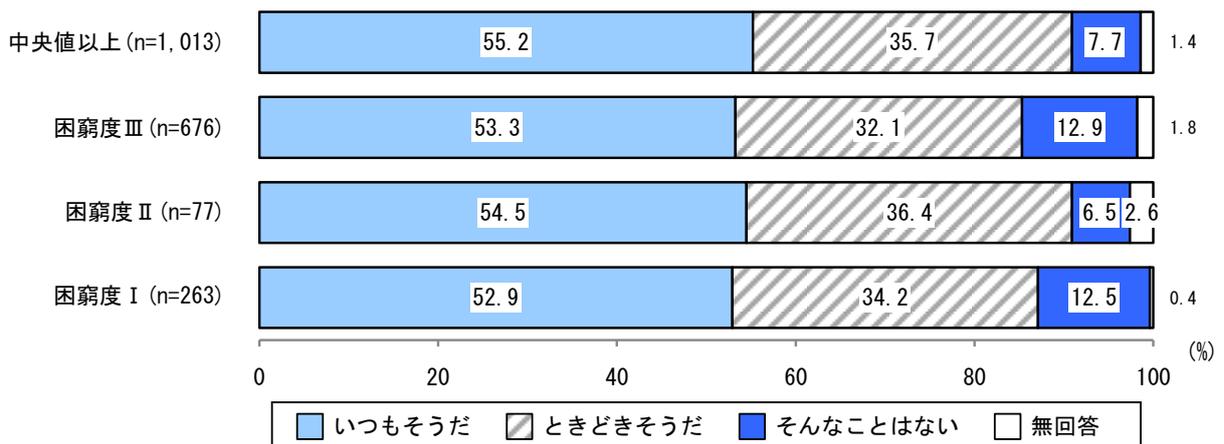
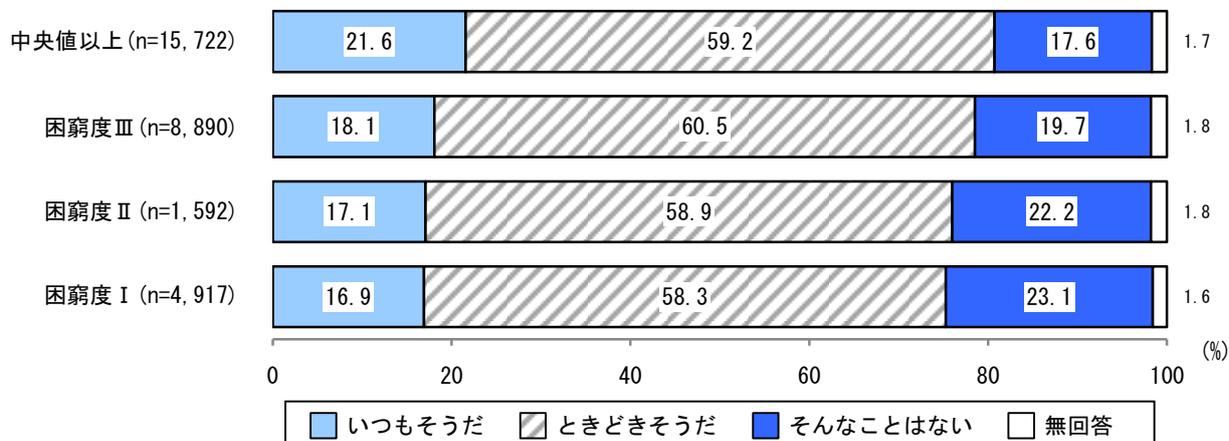


図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群 (52.9%) で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる  
(子ども票問 19④)

<大阪府内全体>



<豊中市>

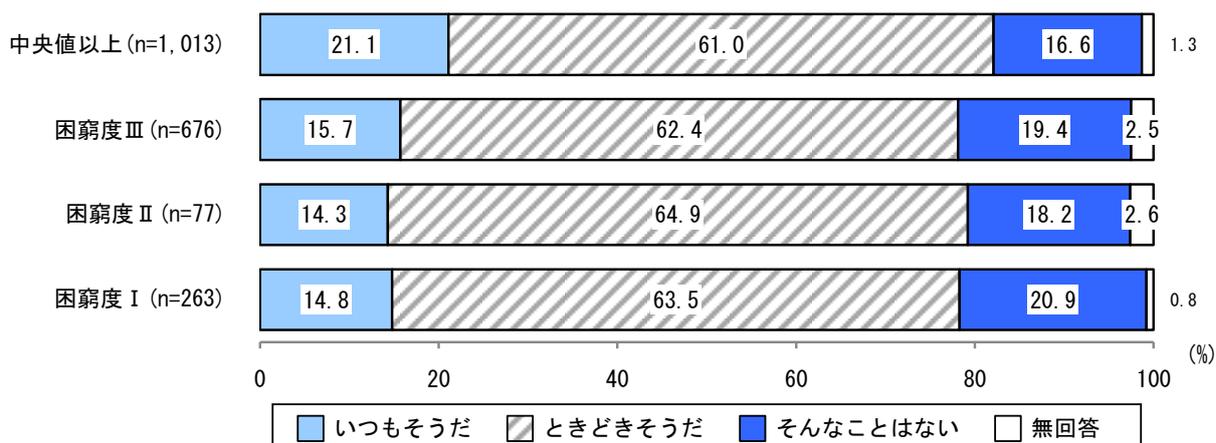
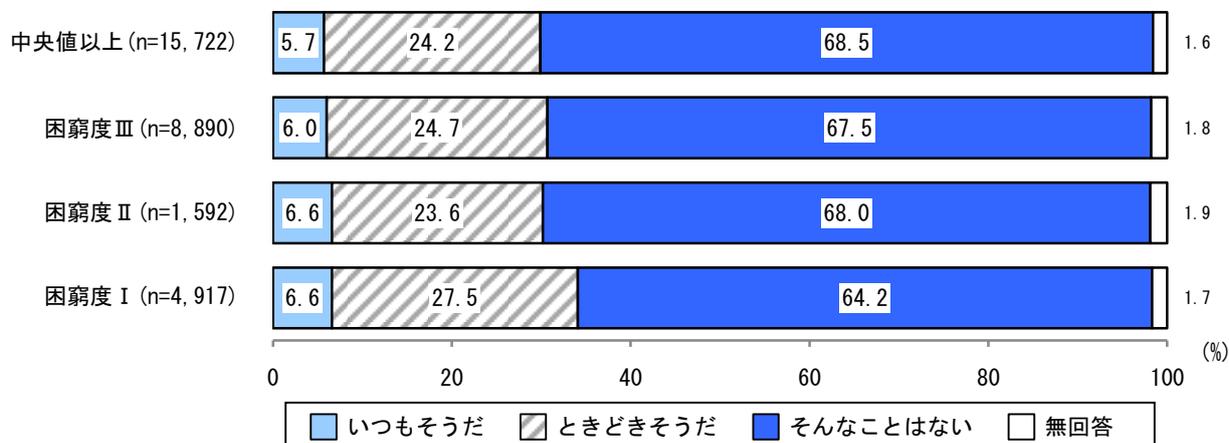


図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群（14.3%）で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする  
(子ども票問 19⑤)

<大阪府内全体>



<豊中市>

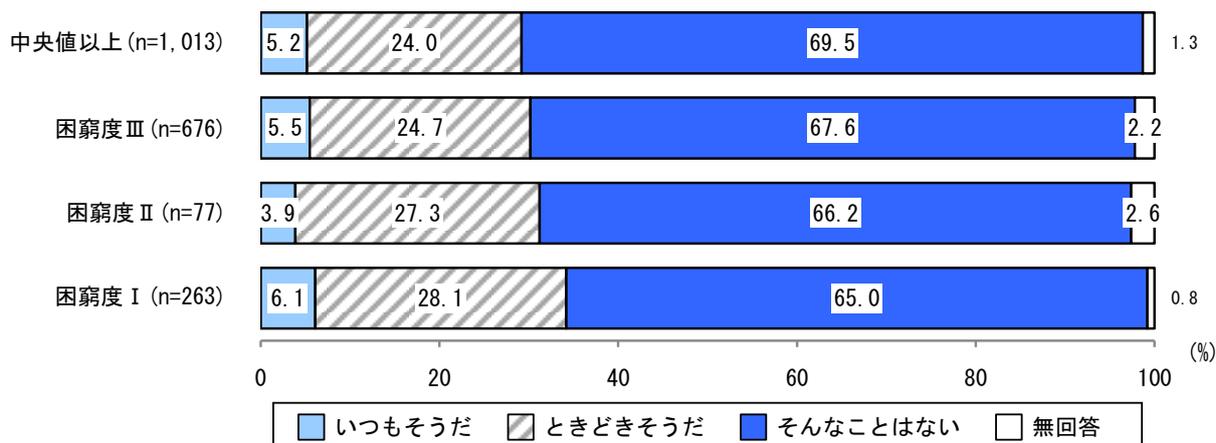
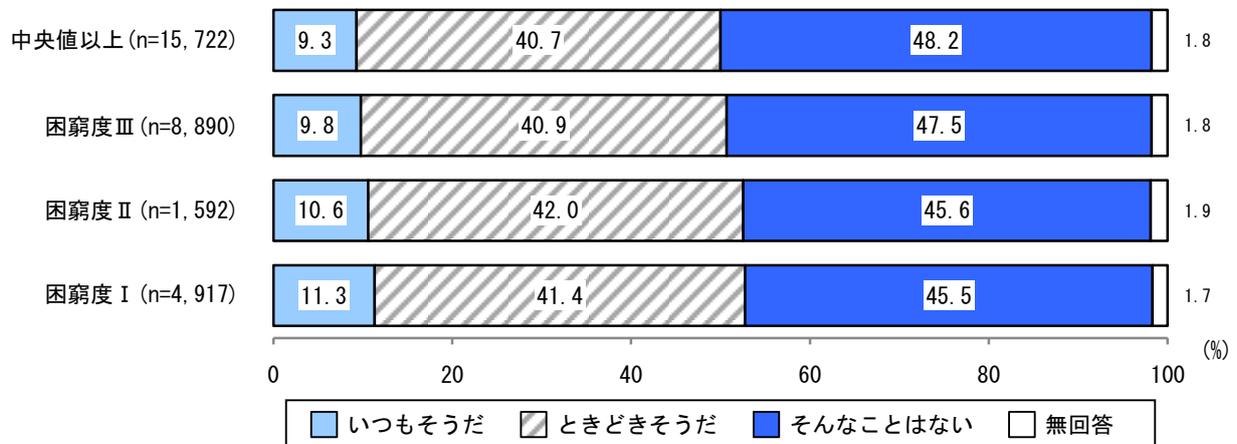


図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群(6.1%)で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる（子ども票問 19⑥）

<大阪府内全体>



<豊中市>

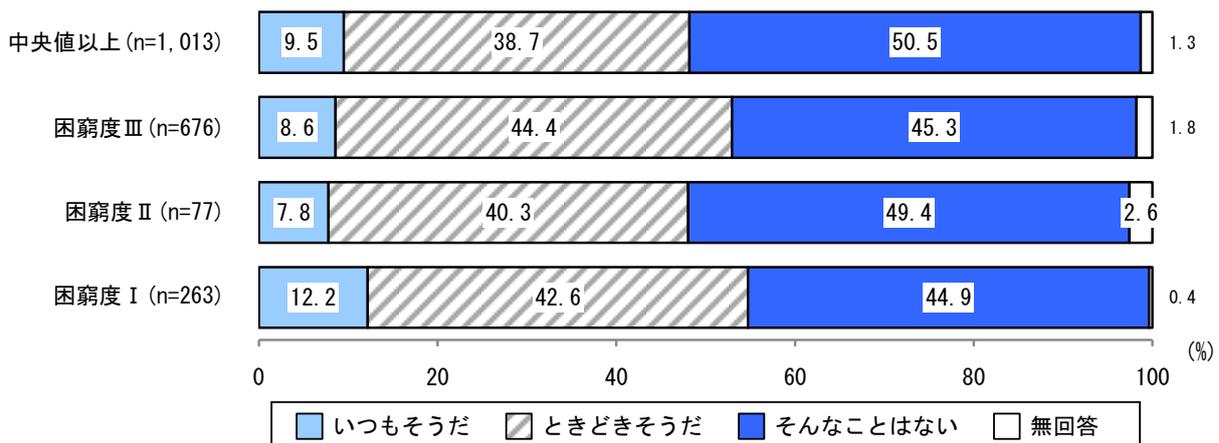
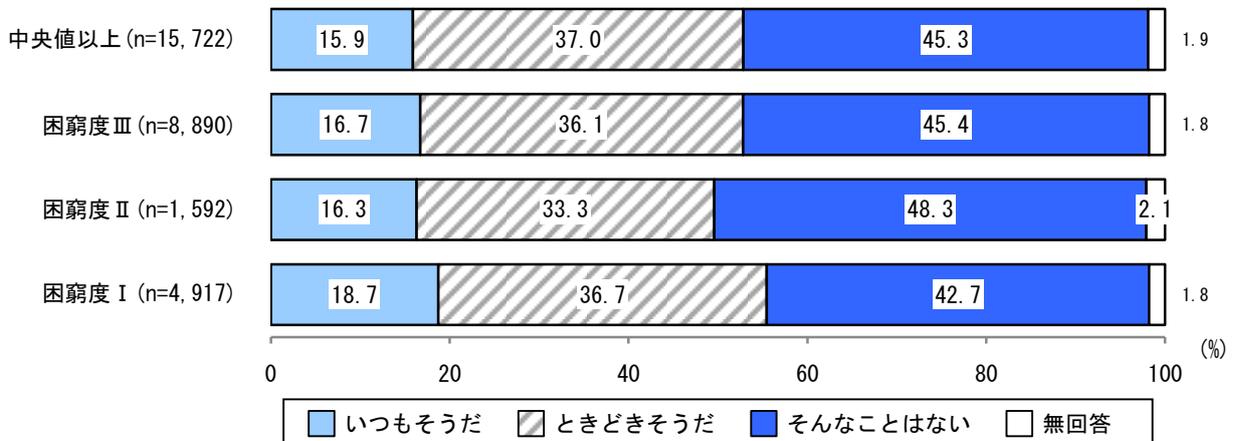


図 73. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群（12.2%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる (子ども票問 19⑦)

<大阪府内全体>



<豊中市>

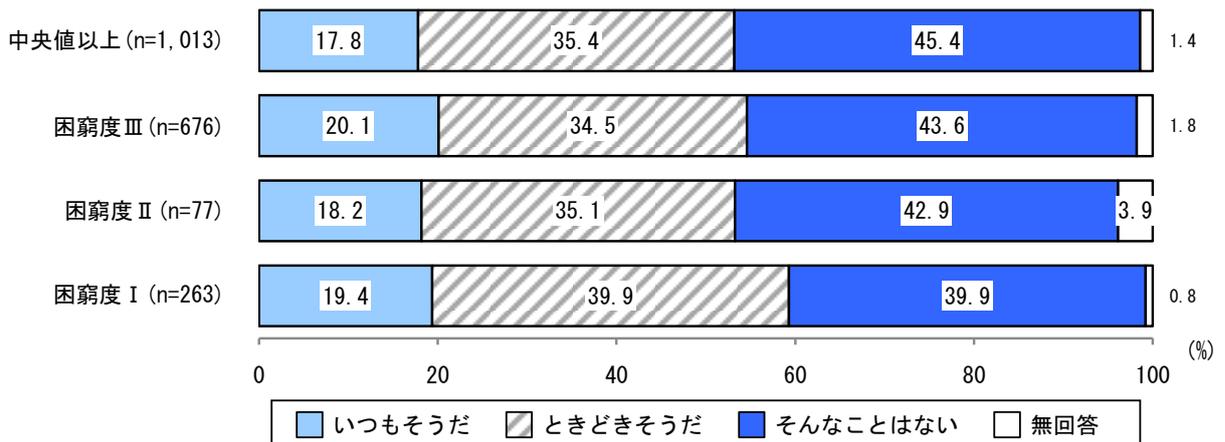
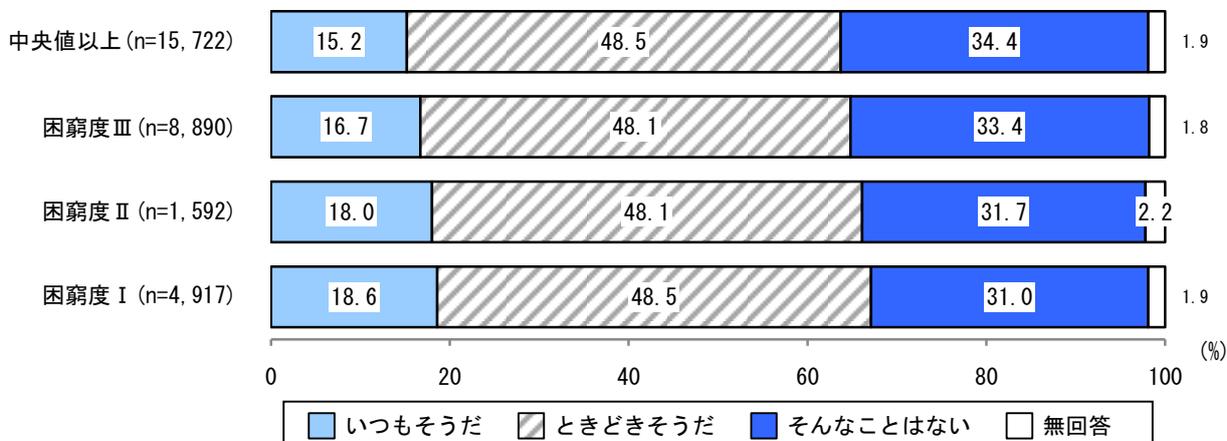


図 74. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、中央値以上群（17.8%）で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない (子ども票問 19⑧)

<大阪府内全体>



<豊中市>

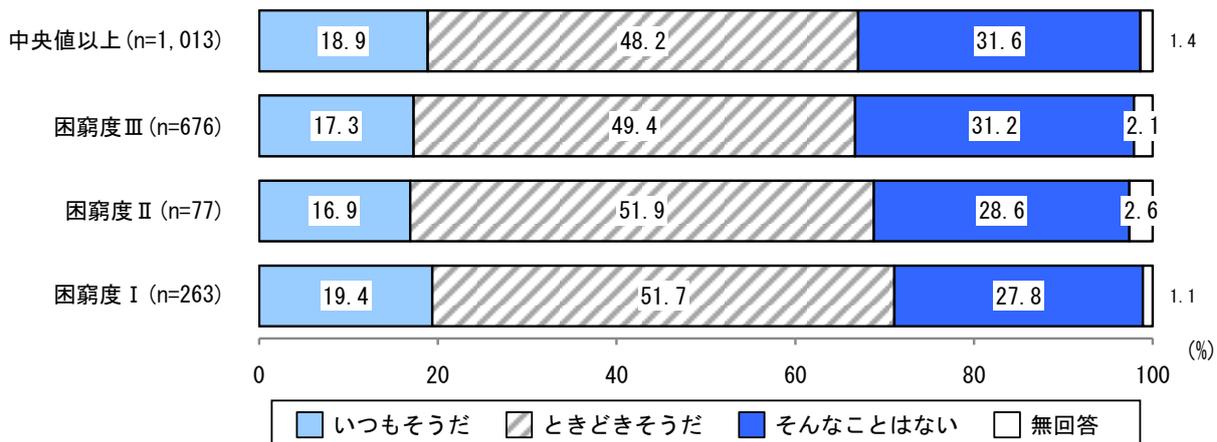
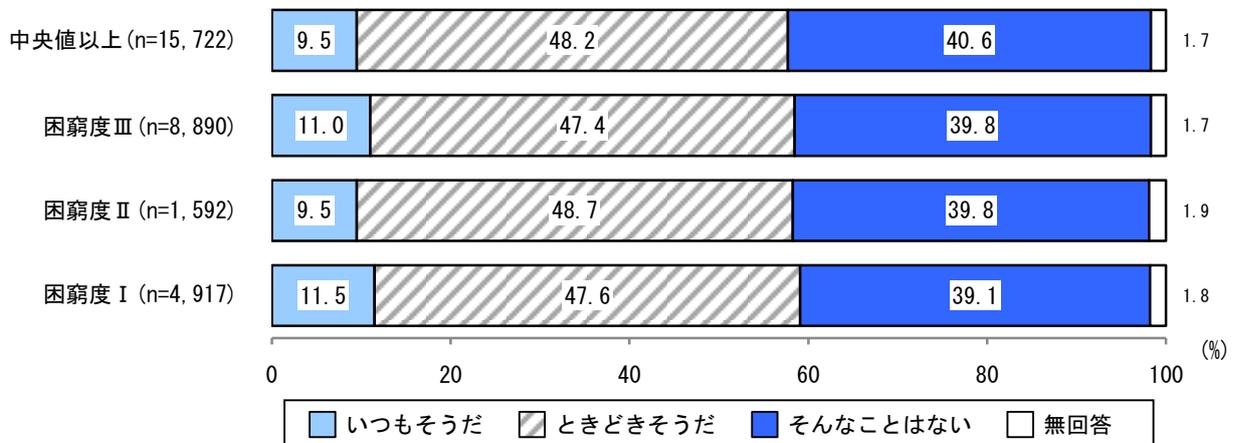


図 75. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群 (19.4%) で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする (子ども票問 19⑨)

<大阪府内全体>



<豊中市>

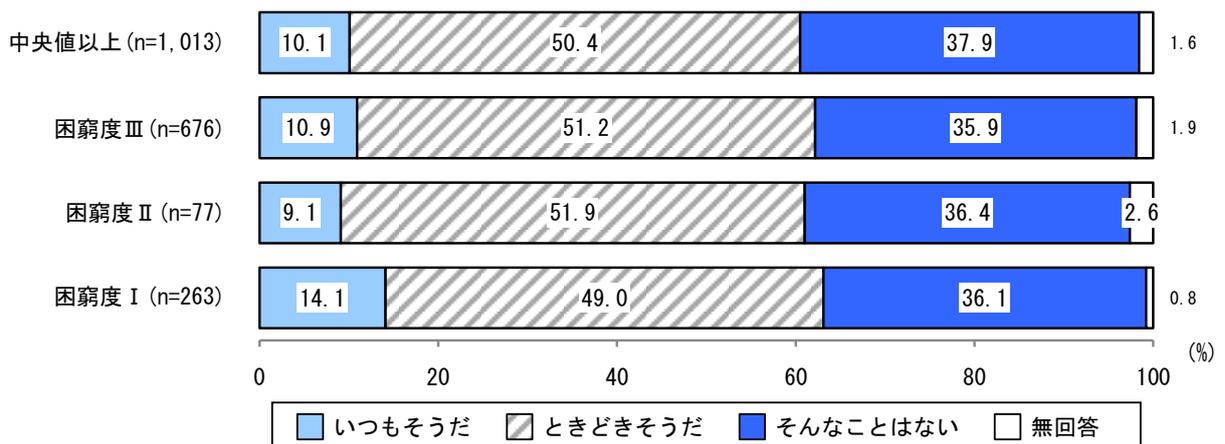
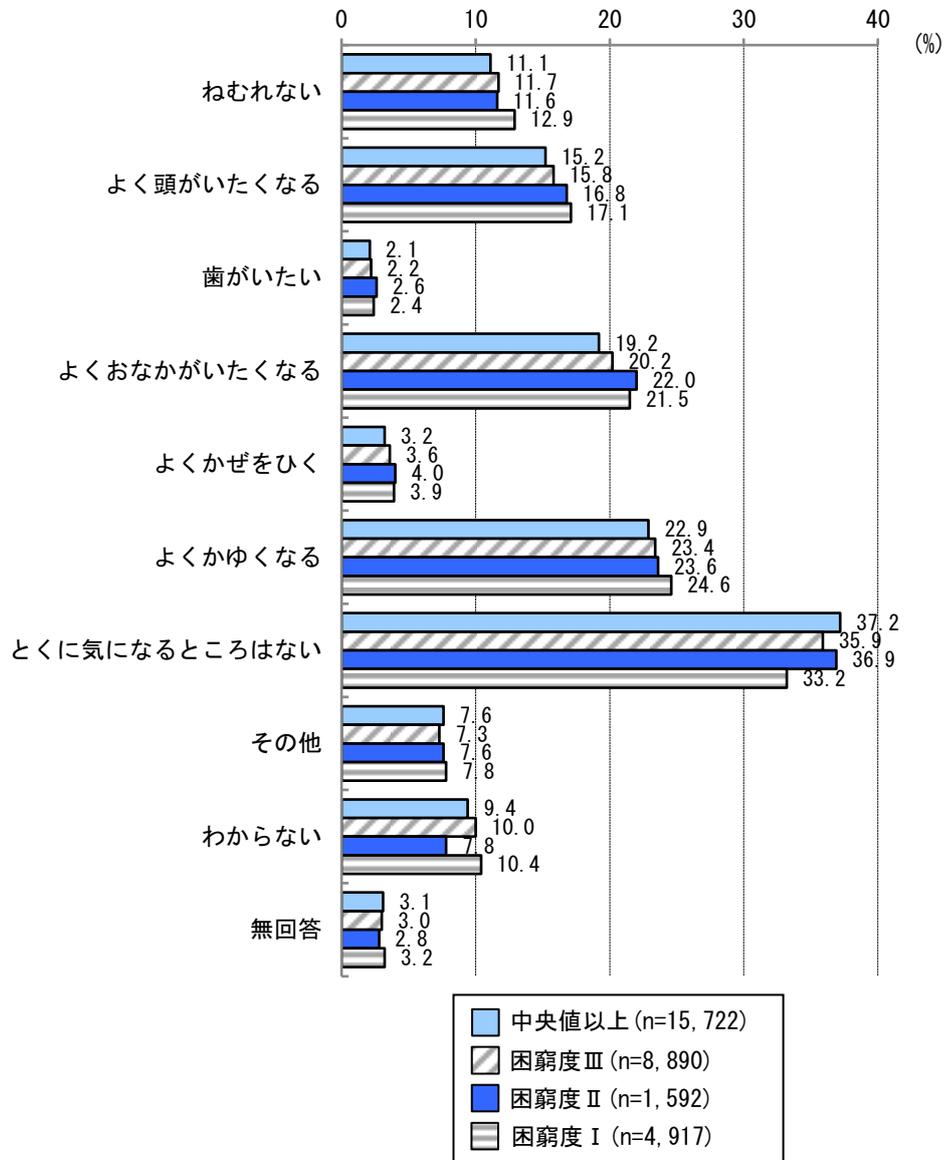


図 76. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でいらいらするを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群 (14.1%) で最も高くなっている。

困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること（子ども票問 20）

<大阪府内全体>



<豊中市>

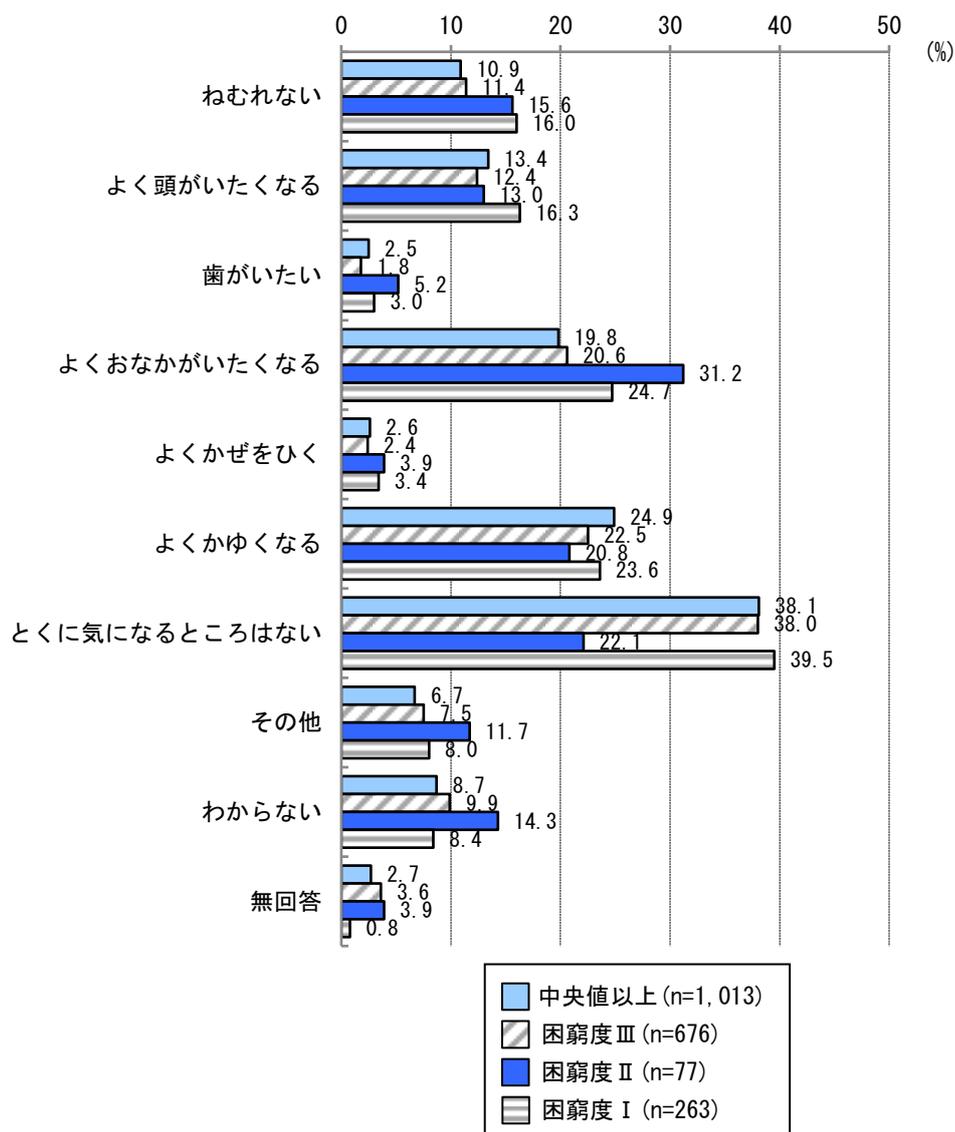
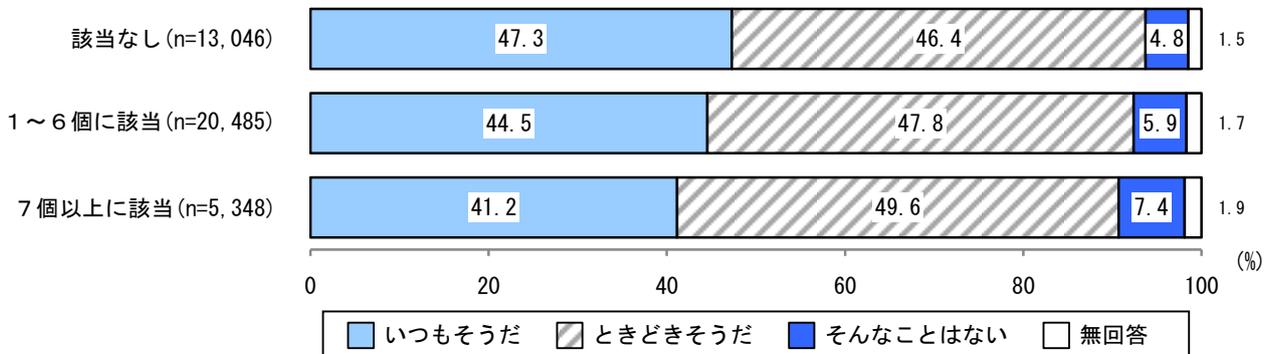


図 77. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること

困窮度別に自分の体の状態で気になることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「ねむれない」16.0%（中央値以上群に対して1.5倍）、「よくかぜをひく」3.4%（同じく1.3倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある（保護者票問7×子ども票問19①）

<大阪府内全体>



<豊中市>

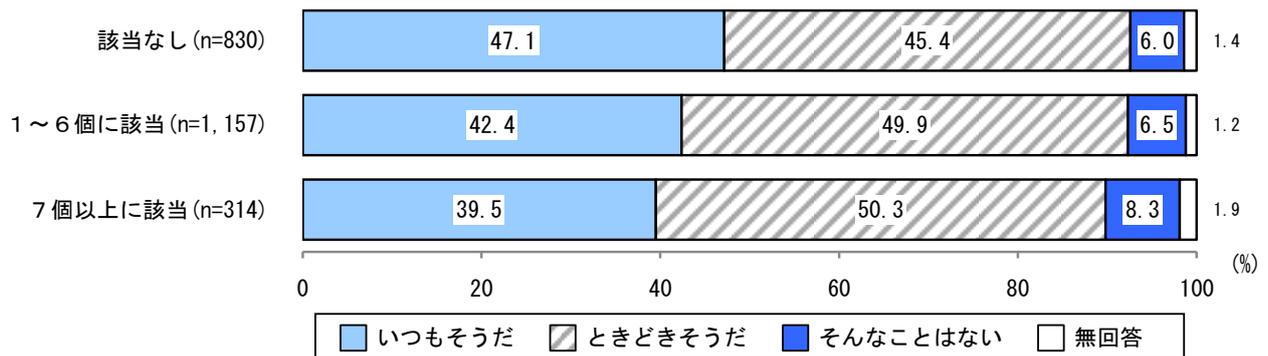
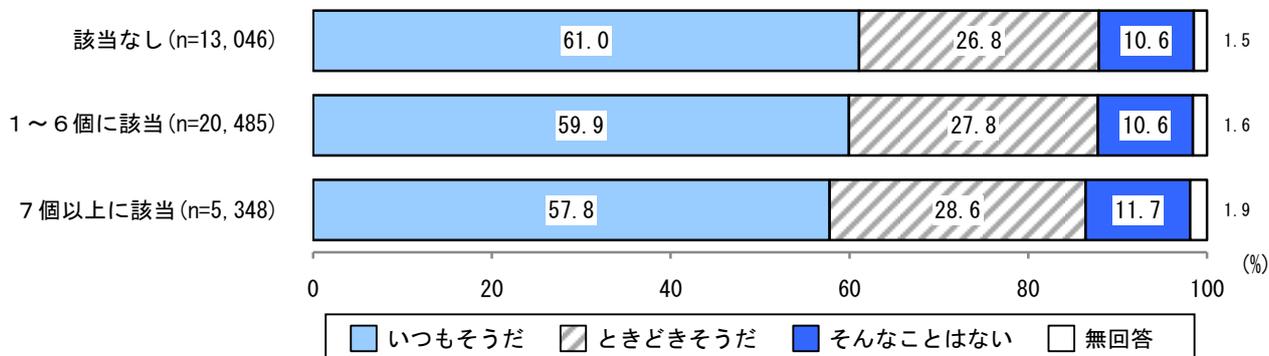


図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況  
①楽しみにしていることがたくさんある

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、該当数が多い人ほど割合が低く、「7個以上に該当」(39.5%)で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ（保護者票問7×子ども票問19②）

<大阪府内全体>



<豊中市>

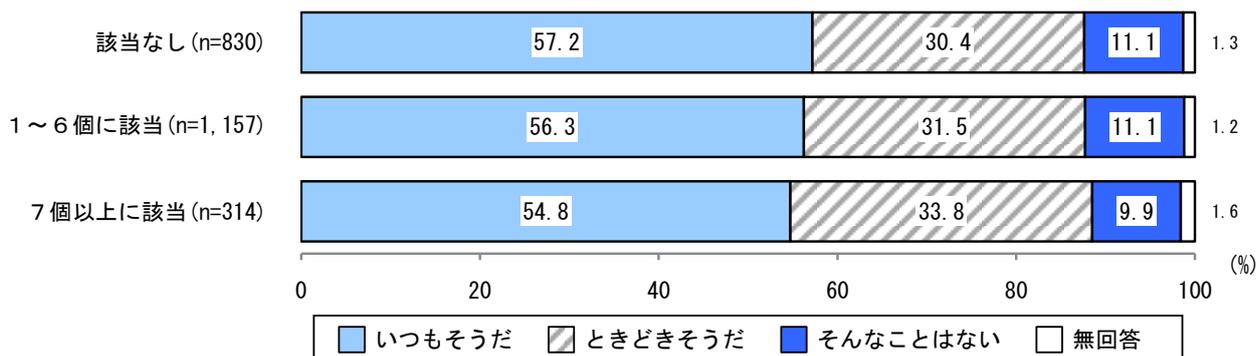
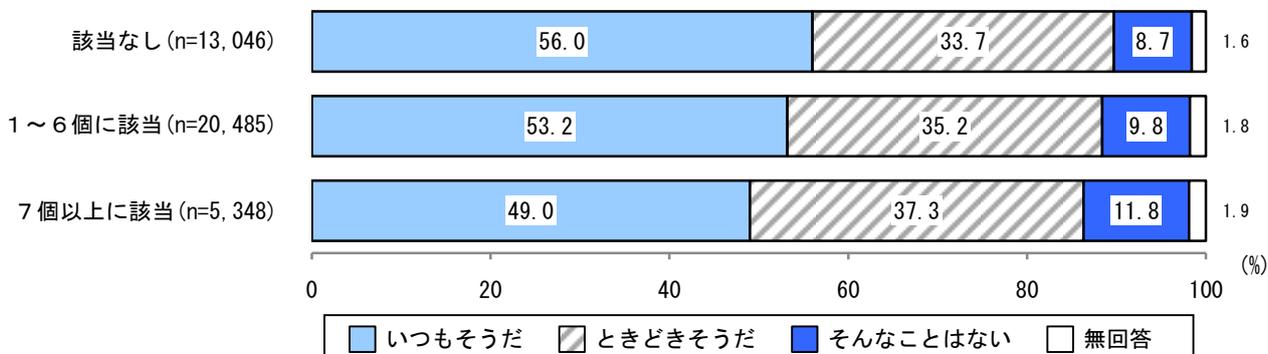


図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況  
②遊びにでかけるのが好きだ

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、該当数が多い人ほど割合が低く、「7個以上に該当」(54.8%)で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい  
 (保護者票問7×子ども票問19③)

<大阪府内全体>



<豊中市>

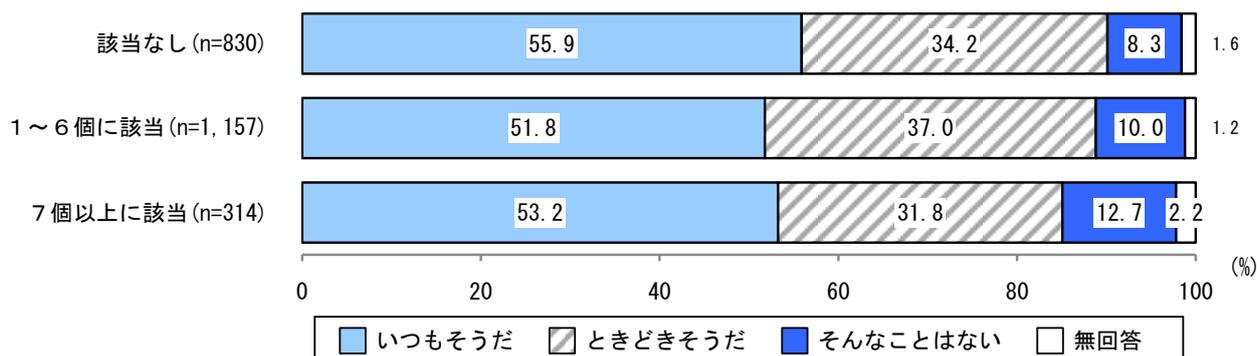
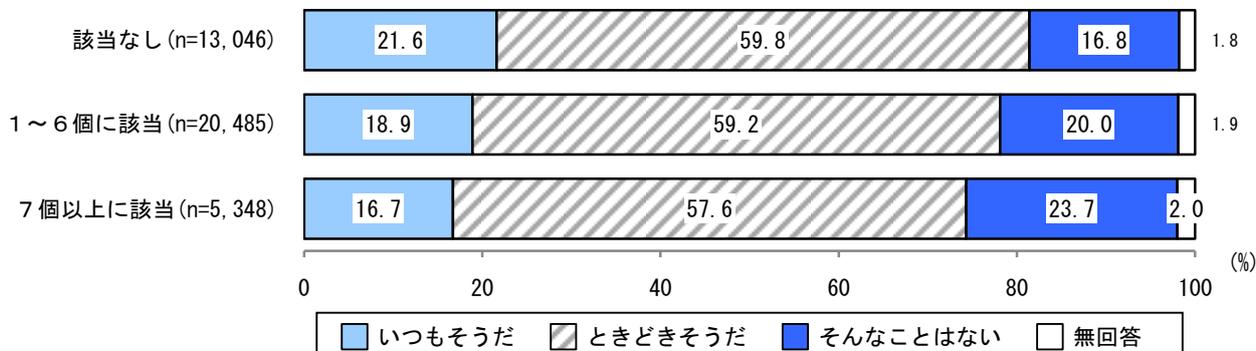


図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっただを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、「1～6個に該当」(51.8%)で最も低くなっている

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる（保護者票問7×子ども票問19④）

<大阪府内全体>



<豊中市>

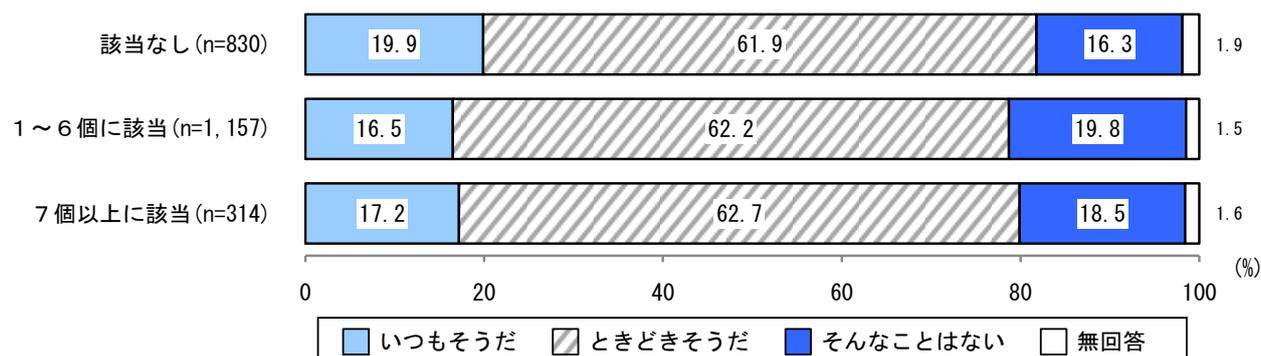
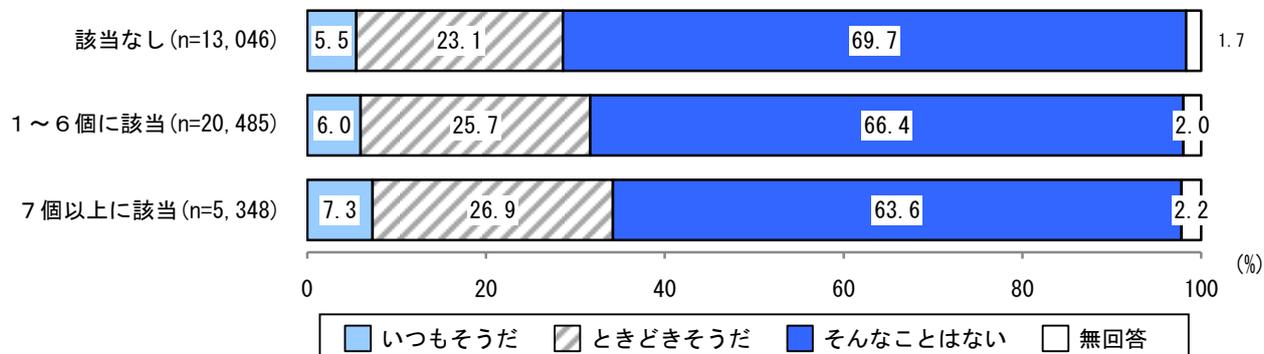


図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況  
④やろうと思ったことがうまくできる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、「1～6個に該当」(16.5%)で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする（保護者票問7×子ども票問19⑤）

<大阪府内全体>



<豊中市>

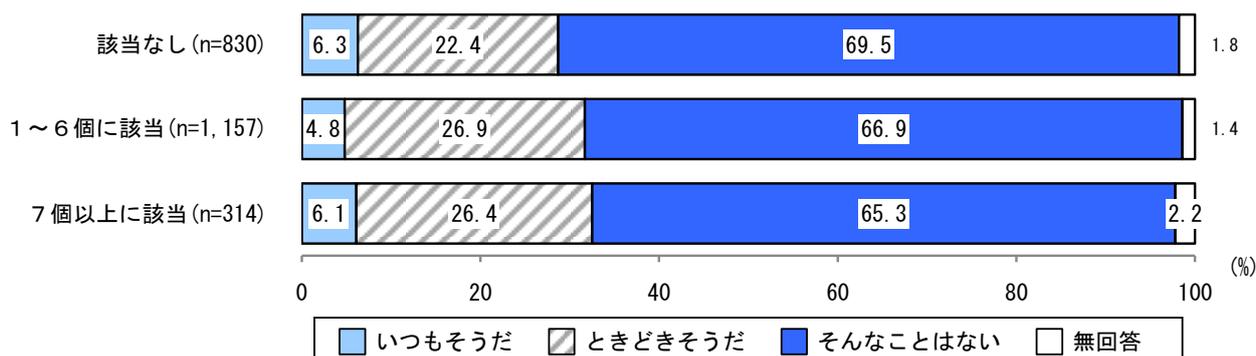


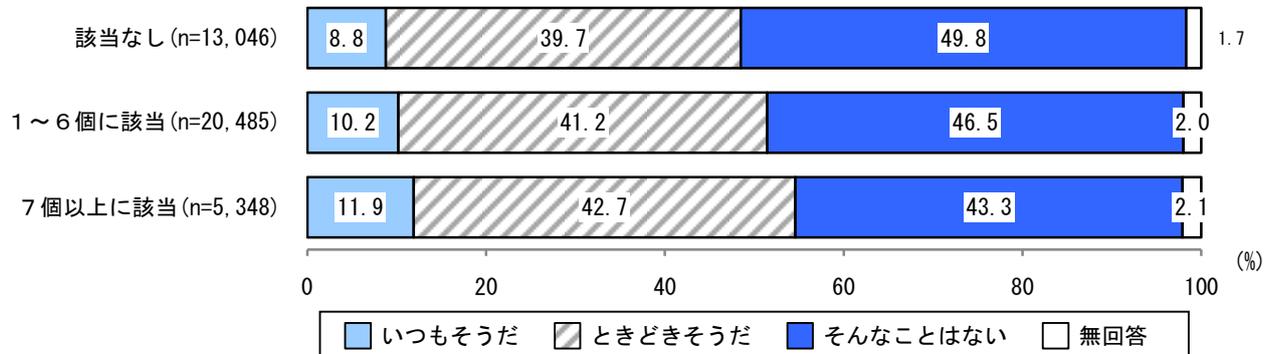
図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、「該当なし」(6.3%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況

⑥不安な気持ちになる（保護者票問7×子ども票問19⑥）

<大阪府内全体>



<豊中市>

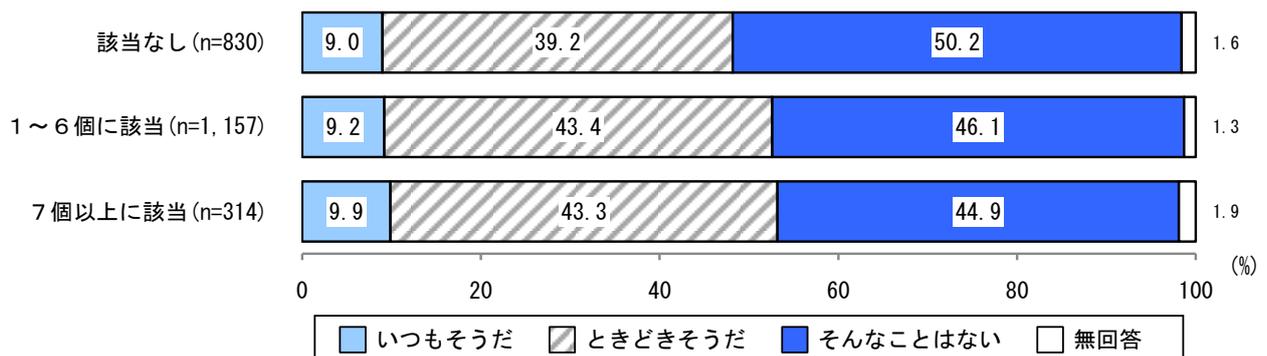
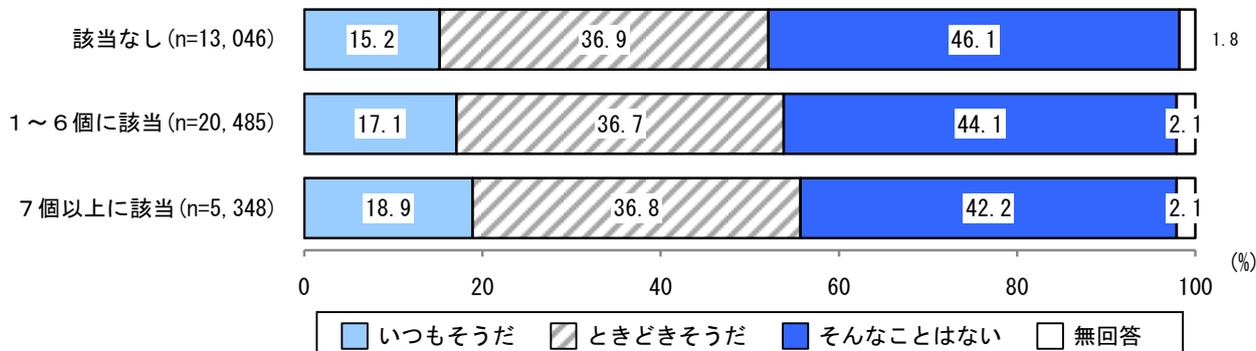


図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになると、「いつもそうだ」と回答した割合は、「7個以上に該当」(9.9%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる  
 (保護者票問7×子ども票問19⑦)

<大阪府内全体>



<豊中市>

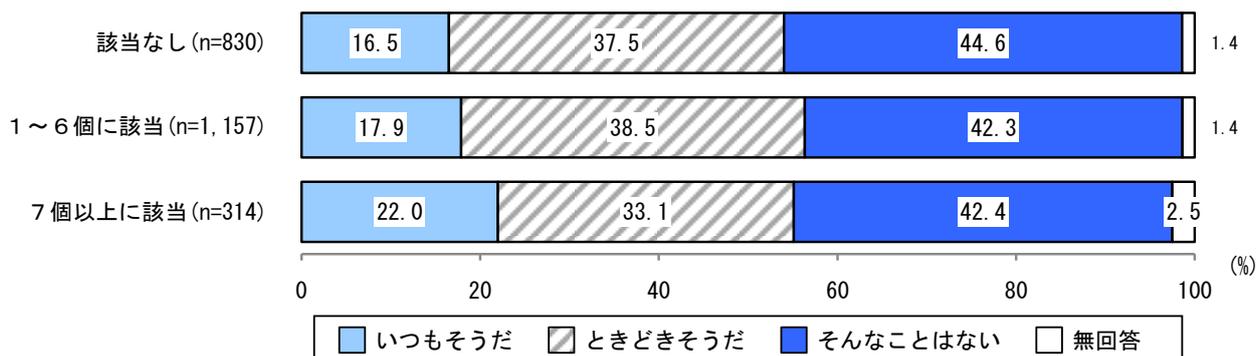
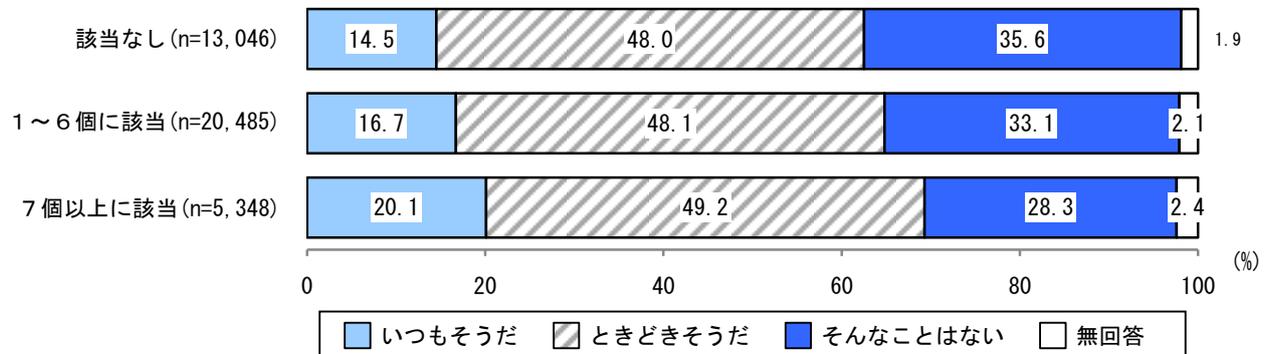


図 84. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、「7個以上に該当」(22.0%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない  
 (保護者票問7×子ども票問19⑧)

<大阪府内全体>



<豊中市>

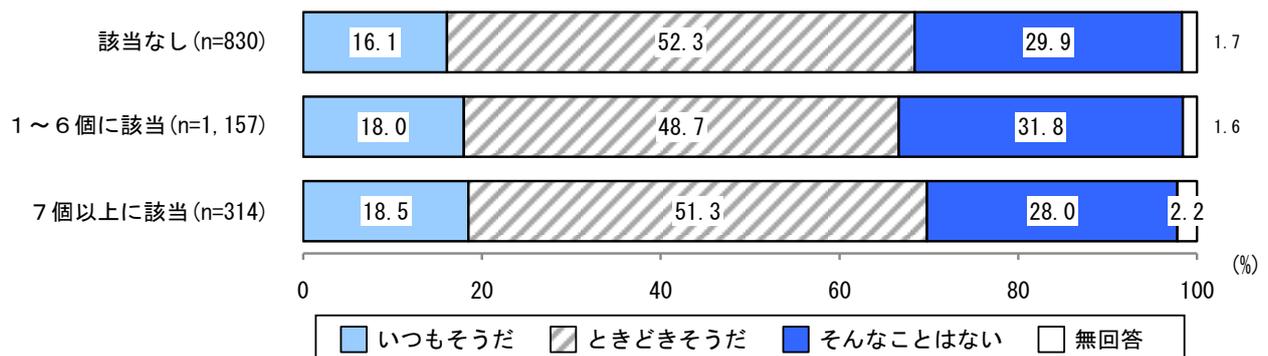
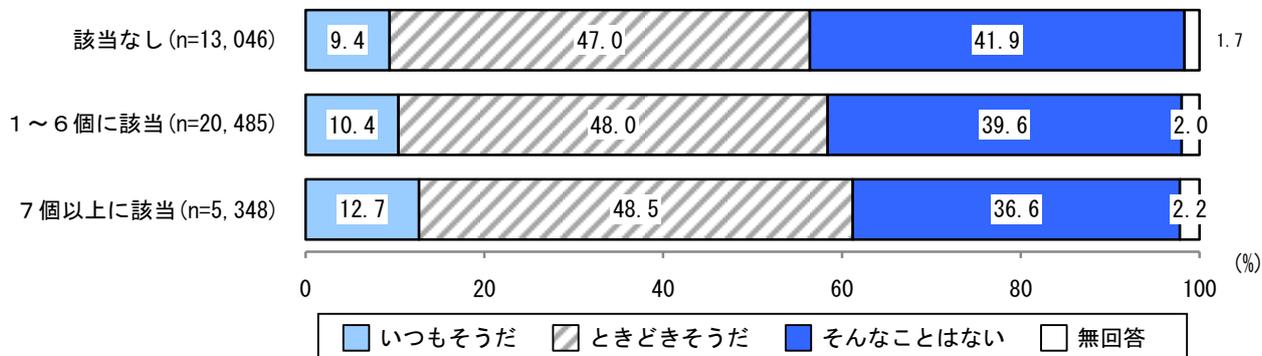


図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、該当数が多い人ほど割合が高く、「7個以上に該当」が18.5%で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする  
 (保護者票問7×子ども票問19⑨)

<大阪府内全体>



<豊中市>

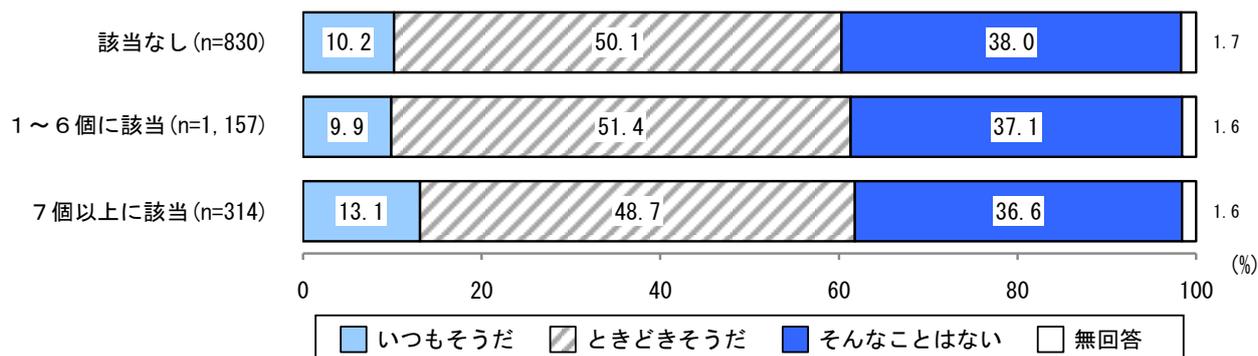
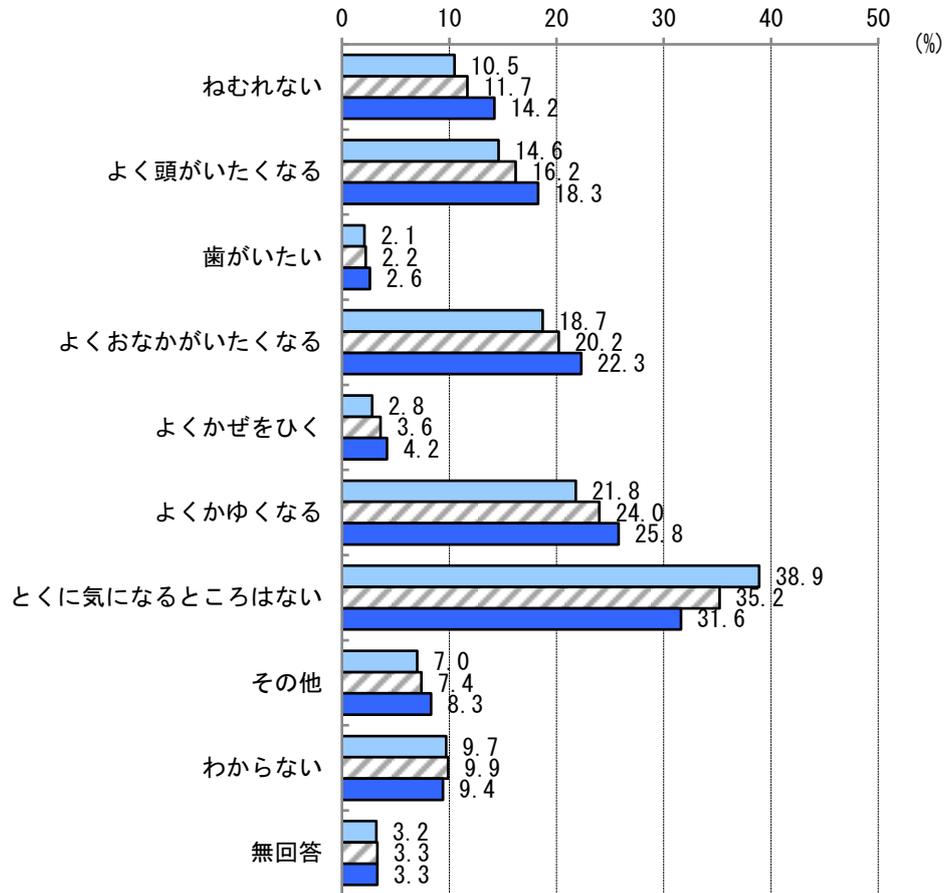


図 86. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でいらいらするを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、「7個以上に該当」が13.1%で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること  
 (保護者票問7×子ども票問20)

<大阪府内全体>



■ 該当なし (n=13,046)    ■ 1～6個に該当 (n=20,485)    ■ 7個以上に該当 (n=5,348)

<豊中市>

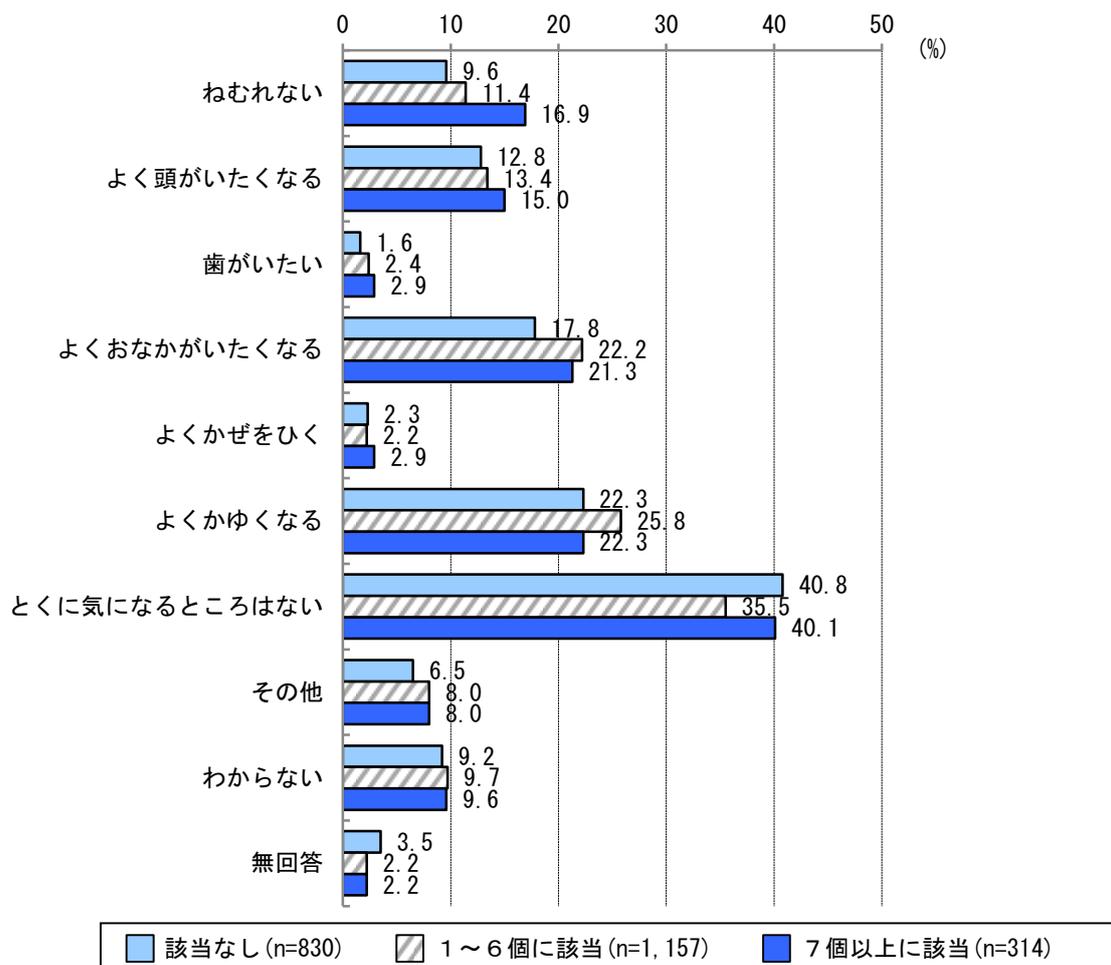
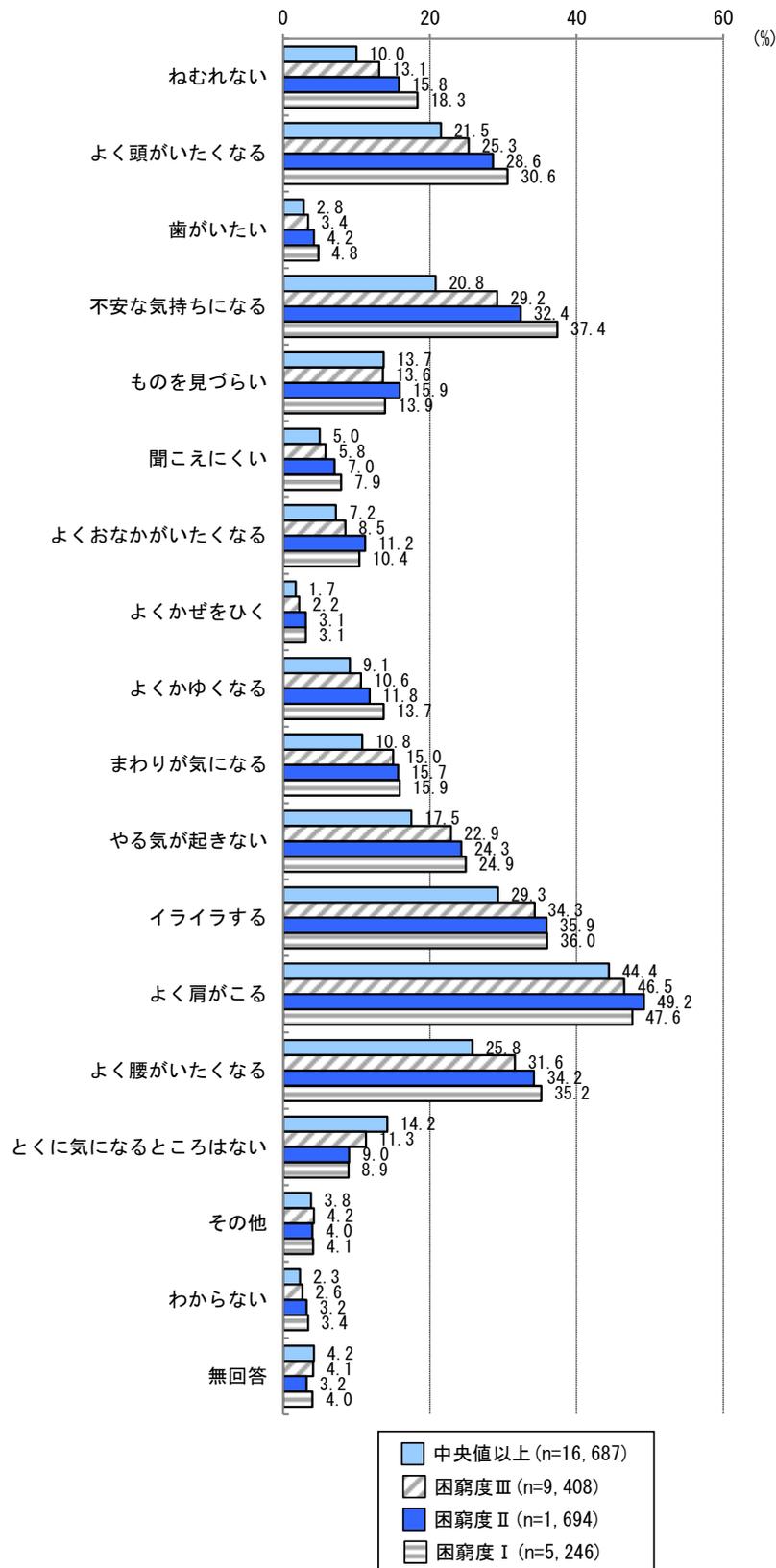


図 87. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体の状態で気になることを見ると、7個以上に該当群と該当なし群間で差が大きい項目に着目しながら、7個以上に該当群の数値を挙げると、「ねむれない」16.9%（「該当なし」群に対して1.8倍）、「歯がいたい」2.9%（同じく1.8倍）、「よくかぜをひく」2.9%（同じく1.3倍）となっている。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<豊中市>

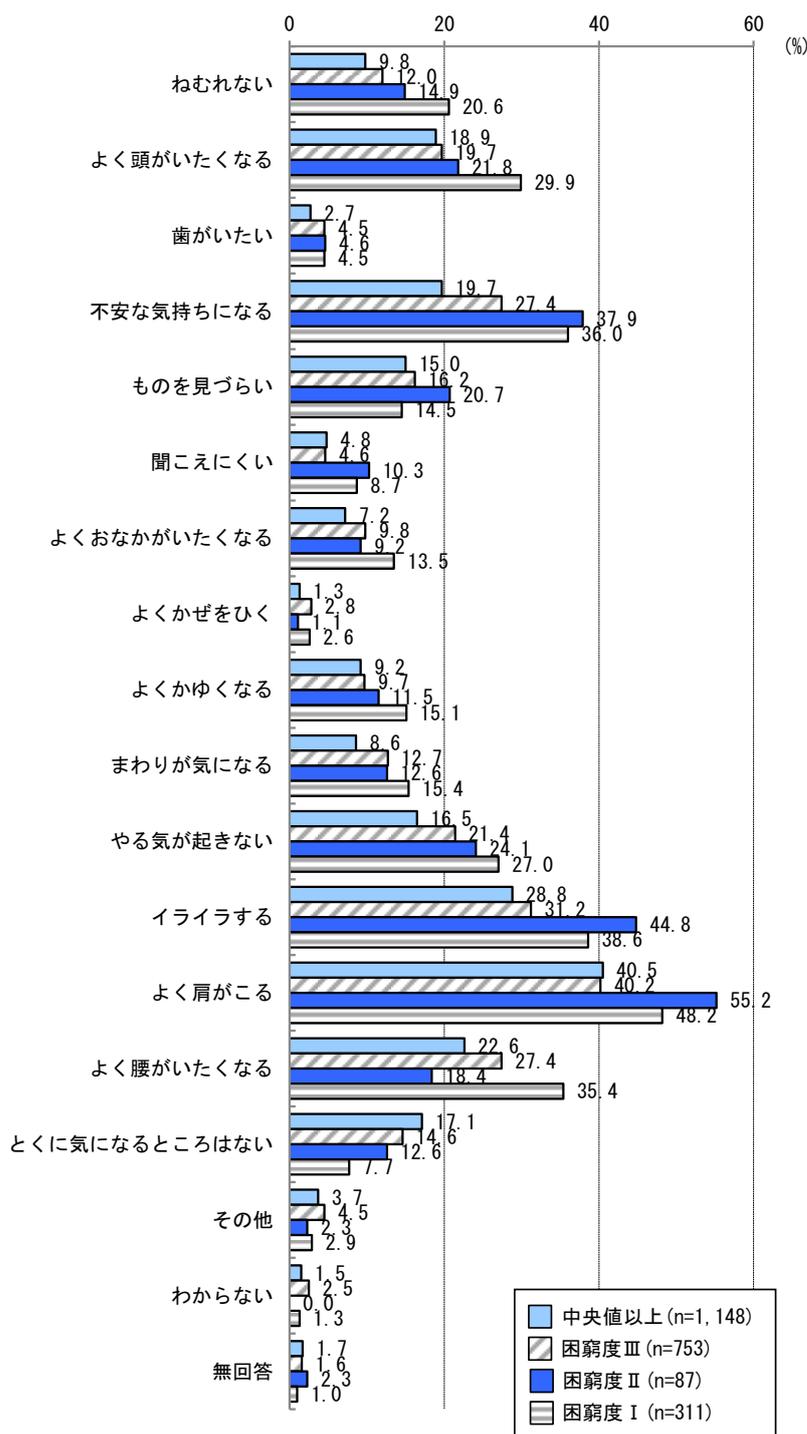
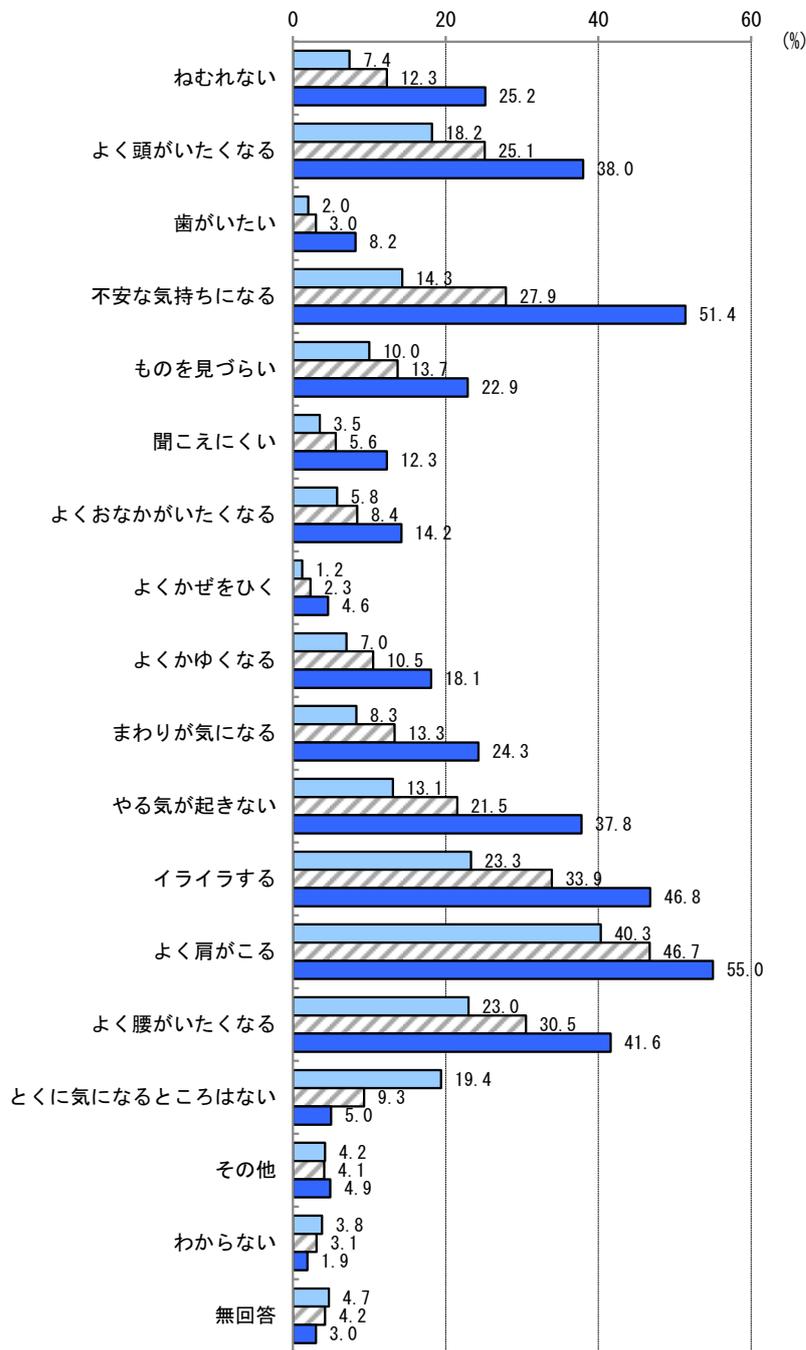


図 88. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、多くの項目において、困窮度が高まるにつれ、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に、困窮度Ⅰ群に着目して、中央値以上群との差が大きい順に挙げると、「ねむれない」20.6%（中央値以上群に対し2.1倍）、「よくかぜをひく」2.6%（同じく2.0倍）、「よくおなかがいたくなる」13.5%（同じく1.9倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること  
 (保護者票問7×保護者票問22)

<大阪府内全体>



■ 該当なし (n=13,812)   ■ 1～6個に該当 (n=21,747)   ■ 7個以上に該当 (n=5,688)

<豊中市>

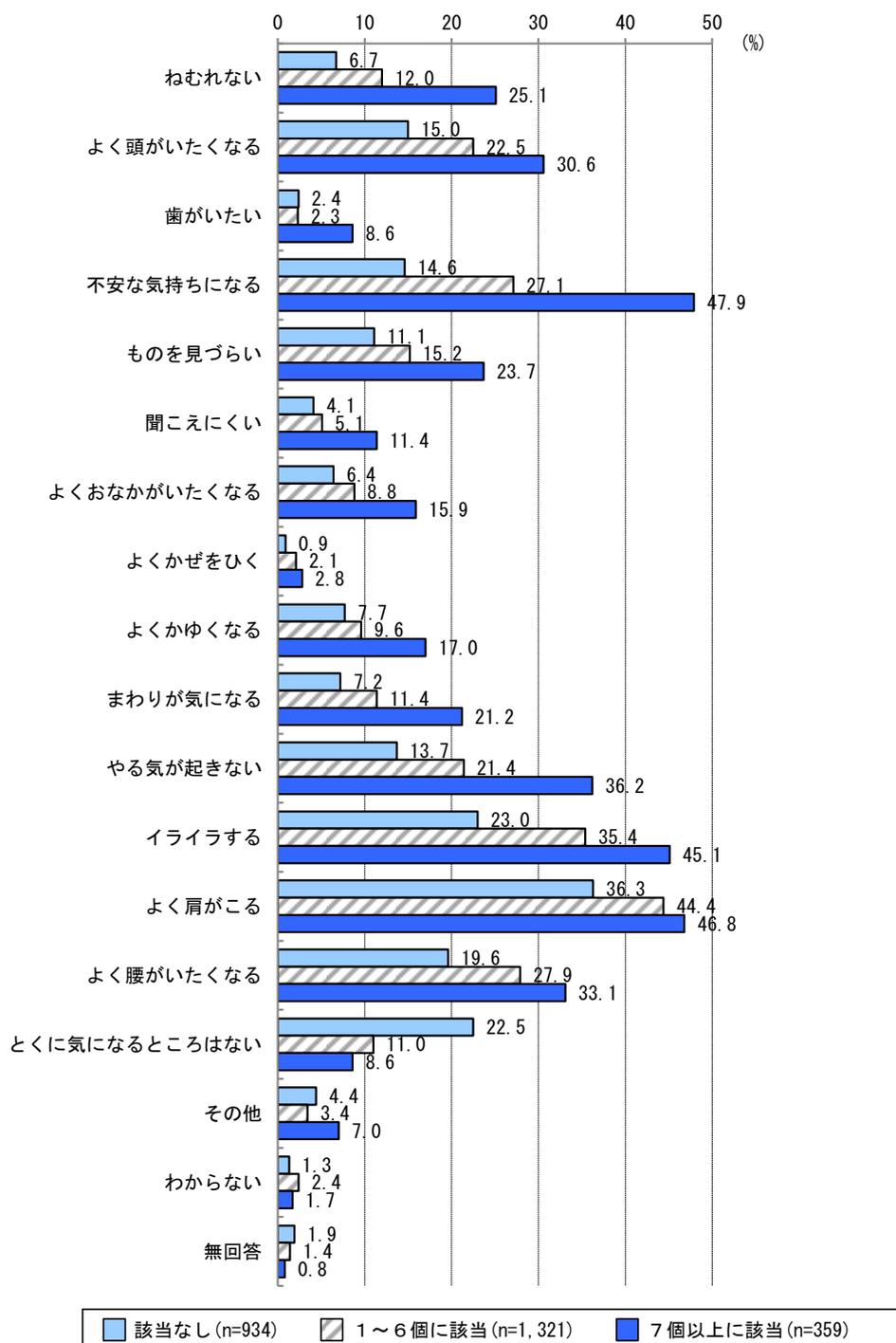
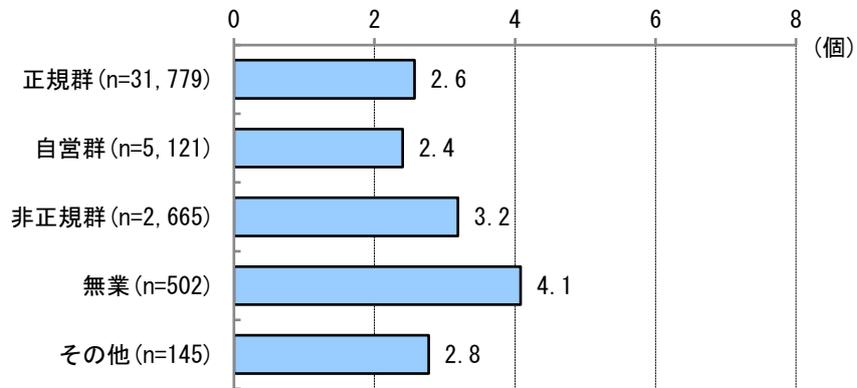


図 89. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になること(保護者)を見ると、多くの項目において、経済的な理由による経験の該当数が多くなるにつれて、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に、7個以上に該当した人と該当なしと回答した人との差が大きく開いている。7個以上に該当群について、該当なしとの差が大きい順に挙げると、「ねむれない」25.1% (該当なしに対して3.7倍)、「歯がいたい」8.6% (同じく3.6倍)、「不安な気持ちになる」47.9% (3.3倍) となっている。

就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<豊中市>

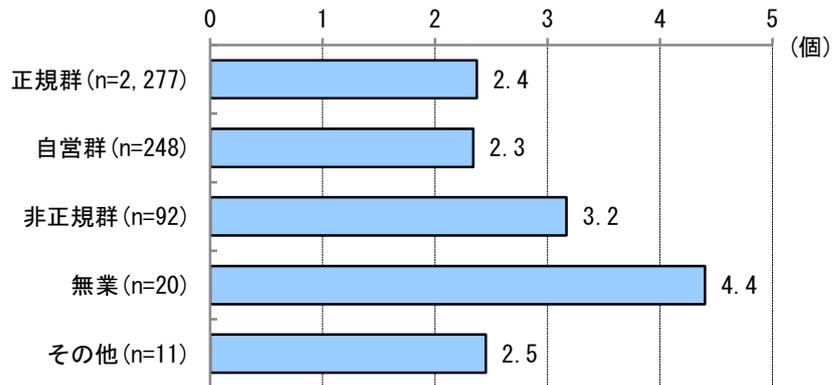


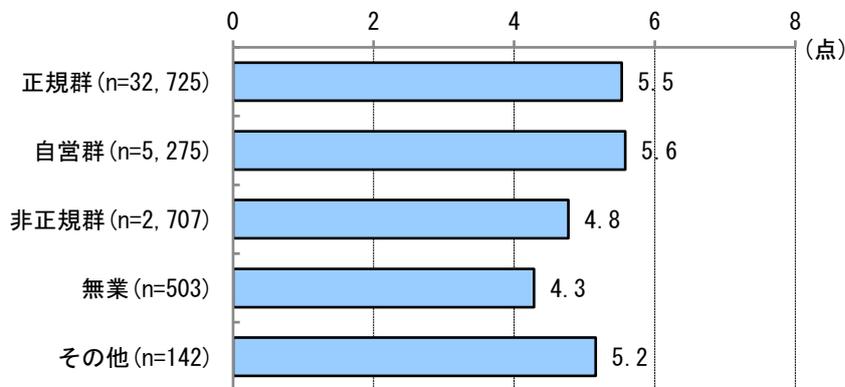
図 90. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「正規群」、「自営業」に対して、「非正規群」、「無業」、「その他」群において、自分の体や気持ちで気になることの該当個数が増える結果となった。

就労状況別に見た、支えてくれる人得点（保護者票問18）

※「あなたを支え、手伝ってくれる人はいますか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人(運動や文化活動)」「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」「留守を頼める人」の7項目を提示した。それぞれの人物が「いる」か「いない」かで評定させたうえで、「いない」を0点、「いる」を1点とし、7項目の合計得点を「支えてくれる人得点」とした。得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表す。

<大阪府内全体>



<豊中市>

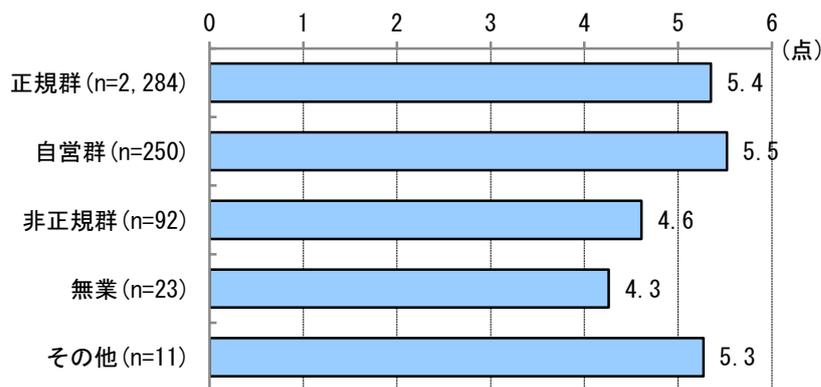
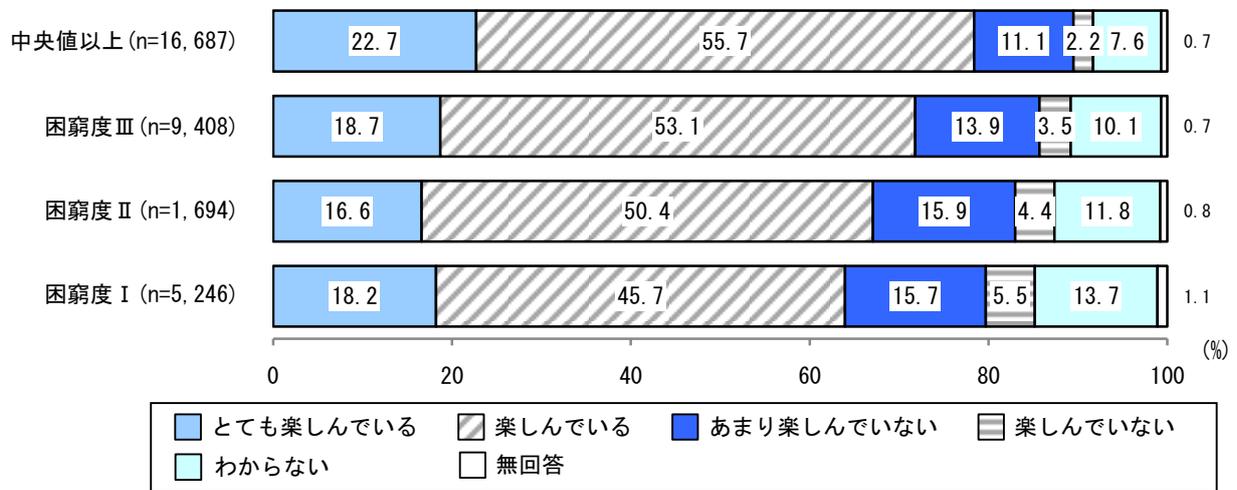


図 91. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点

就労状況別に「支えてくれる人」の有無を得点化し、その平均値を見ると、「正規群」(5.4点)、「自営群」(5.5点)が高く、「非正規群」で4.6点と低下し、「無業」で4.3点と最も低い結果となった。

困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票問 21(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

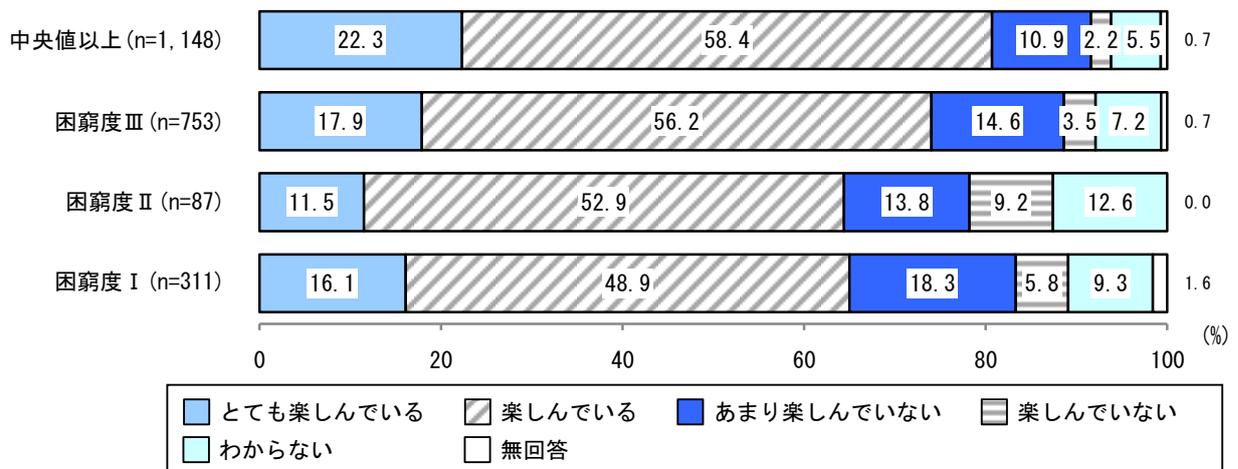
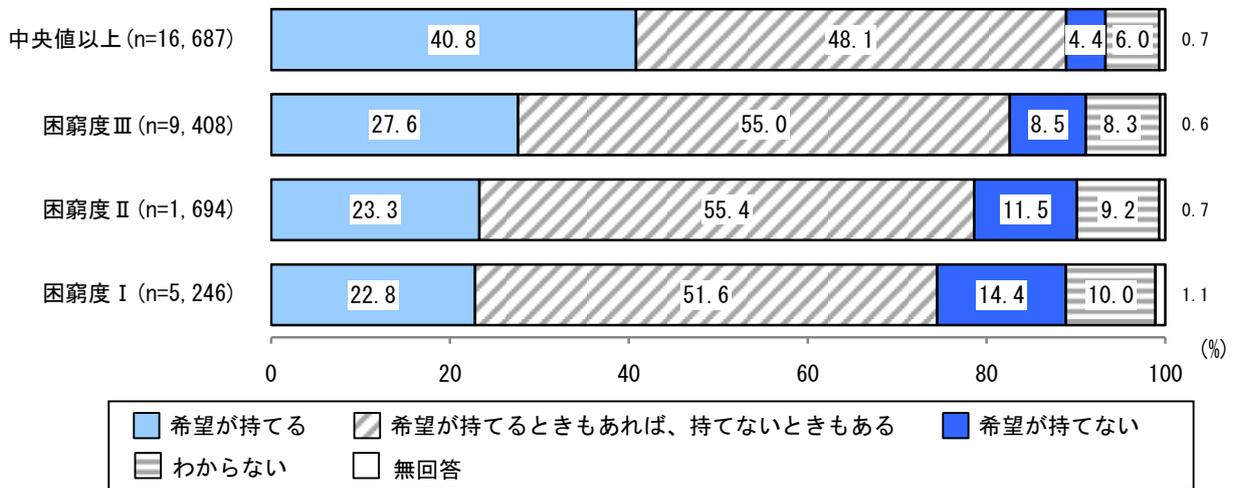


図 92. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

困窮度別に生活を楽しんでいるかを見ると、「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」をあわせてなんとか『楽しんでいる』割合では、中央値以上群で80.7%と最も高く、それ以外の群では、なんとか『楽しんでいる』割合が低くなった。続いて、困窮度Ⅲ群で74.1%、ここでは困窮度Ⅰと困窮度Ⅱ群では逆転し、困窮度Ⅰ群が65.0%、困窮度Ⅱ群において64.4%と最も低くなった。逆に、「楽しんでいる」と回答した割合は、中央値以上群が2.2%と最も低く、次いで、困窮度Ⅲ群で3.5%、困窮度Ⅰ群で5.8%、困窮度Ⅱ群で9.2%となった。

困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）（保護者票問 21(2)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

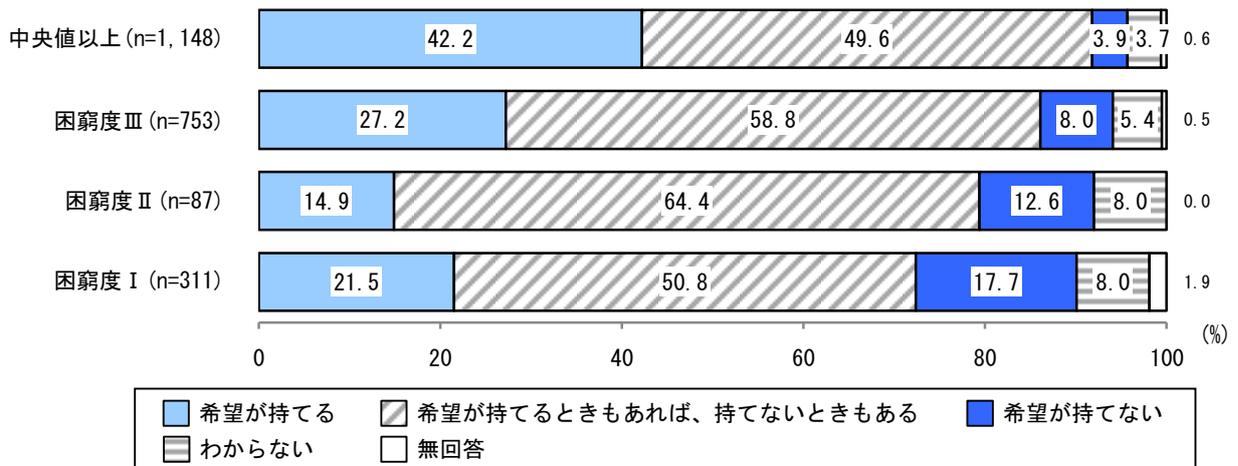
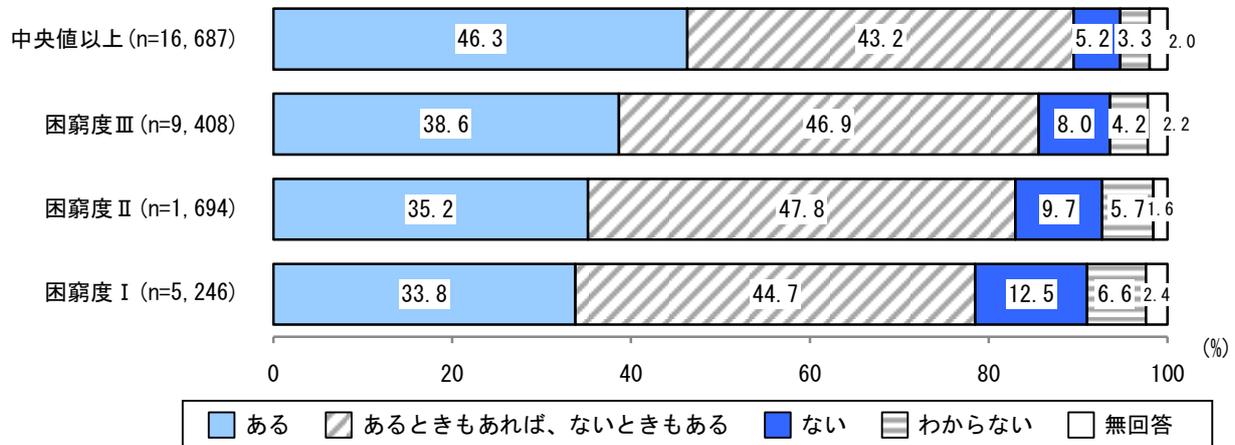


図 93. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）

困窮度別に将来への希望を見ると、「希望が持てる」と回答する割合は、中央値以上群では、42.2%であるのに対し、困窮度Ⅲ群では27.2%、ここでは困窮度Ⅰと困窮度Ⅱ群では逆転し、困窮度Ⅰ群が21.5%、困窮度Ⅱ群において14.9%と最も低くなった。

困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）（保護者票問 21(3)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

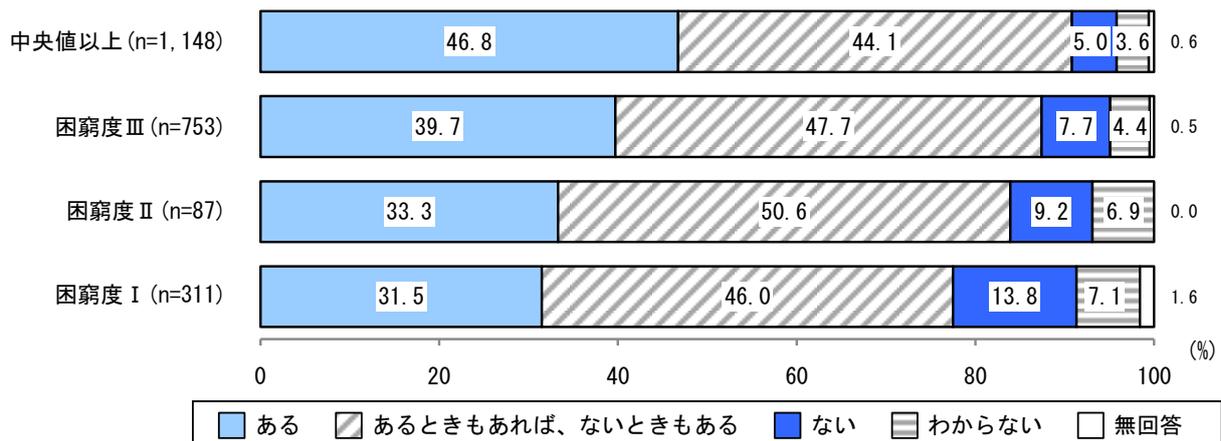
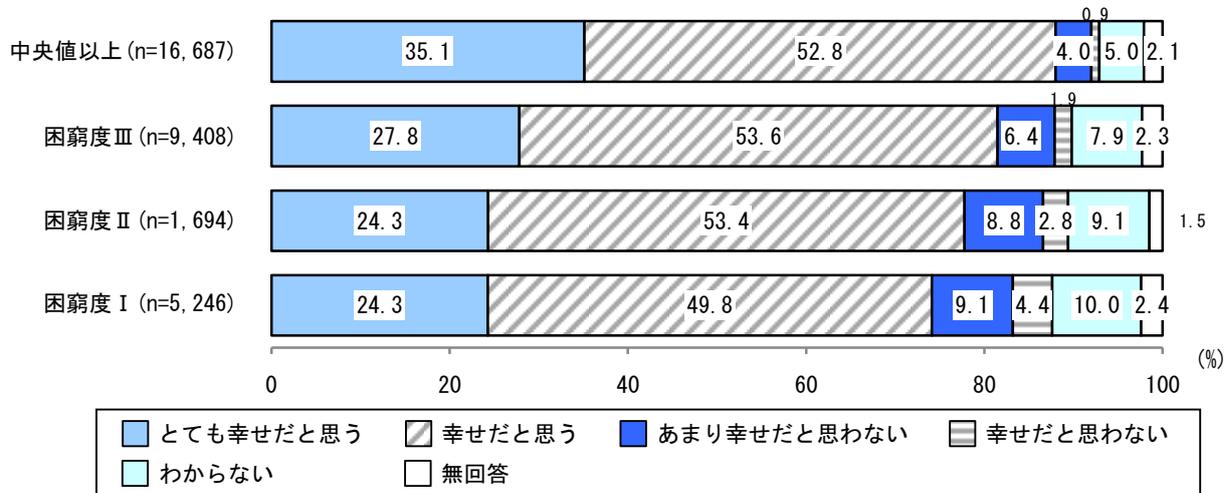


図 94. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）

困窮度別にストレスを発散できるものについて、ストレスが発散できるものが「ない」という回答に着目すると、困窮度Ⅰ群が13.8%と、「ない」と回答する割合が最も高くなっている。中央値以上群では、5.0%と最も低く、困窮度Ⅲ群7.7%、困窮度Ⅱ群9.2%となっている。

困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）（保護者票問 21(4)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

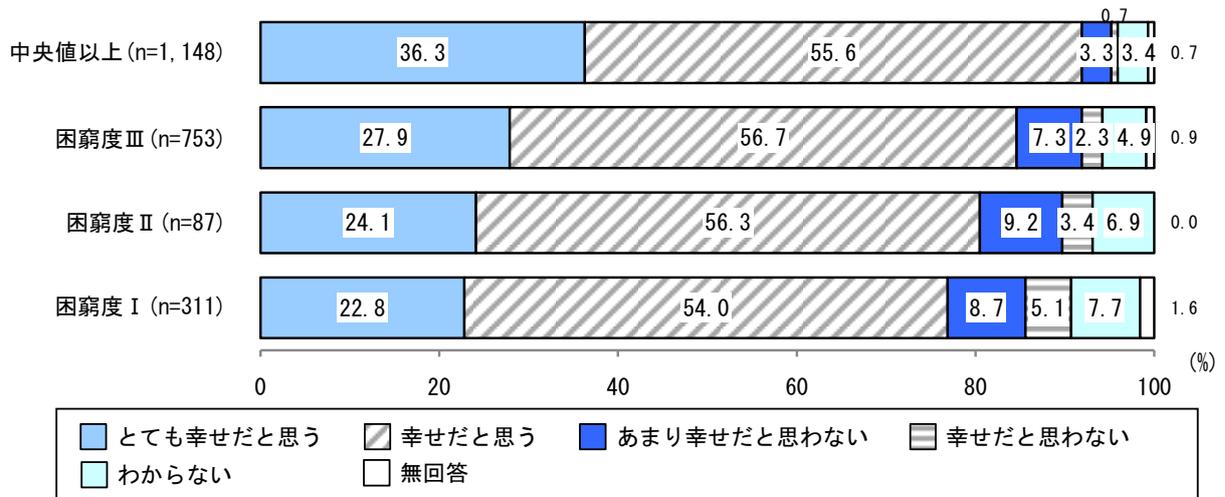


図 95. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）

困窮度別に幸せだと思うかを見ると、「とても幸せだと思う」と「幸せだと思う」をあわせて、なんらか『幸せと思う』と回答した割合は、困窮度が高まるにつれて低くなり、困窮度Ⅰ群（76.8%）で最も低くなっている。逆に、なんらか『幸せではない』（「あまり幸せだと思わない」と「幸せだと思わない」をあわせた割合）と回答する割合は、中央値以上群で4.0%にとどまるのに対して、困窮度Ⅰ群で13.8%、困窮度Ⅱ群で12.6%、困窮度Ⅲ群で9.6%となっている。

## <健康に関する考察>

まず、困窮度別に生活習慣と健康状態について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目して述べる。朝食の頻度では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「毎日またはほとんど毎日」(92.6%対83.7%)が5ポイント以上高くなっている。子どもの自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「ねむれない」(16.0%対10.9%)、「よくおなかがいたくなる」(24.7%対19.8%)が約5ポイント以上高くなっている。保護者の自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「よくおなかがいたくなる」(13.5%対7.2%)、「よくかゆくなる」(15.1%対9.2%)、「まわりが気になる」(15.4%対8.6%)、「イライラする」(38.6%対28.8%)、「よく肩がこる」(48.2%対40.5%)がいずれも5ポイント以上、「ねむれない」(20.6%対9.8%)、「よく頭がいたくなる」(29.9%対18.9%)、「不安な気持ちになる」(36.0%対19.7%)、「やる気が起きない」(27.0%対16.5%)、「よく腰がいたくなる」(35.4%対22.6%)では10ポイント以上高くなっている。一方で、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「特に気になるところはない」(17.1%対7.7%)が5ポイント以上高くなっている。また、保護者の心の状態を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、生活を「あまり楽しんでいない」(18.3%対10.9%)が5ポイント以上、将来に対して「希望が持てない」(17.7%対3.9%)、ストレスを発散できるものが「ない」(13.8%対5.0%)が10ポイント以上高くなっており、一方で中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、自分が「とても幸せだと思う」(36.3%対22.8%)が10ポイント以上高くなっている。

次に、経済的な理由による経験の該当数を見ると、個数が増えるにしたがって、「元気いっぱい」で「いつもそうだ」の割合が低くなる傾向にある。自覚症状では、個数が増えるにしたがって子どもは「ねむれない」「よくおなかが痛くなる」の割合が高くなる傾向にあり、保護者では「ねむれない」「よく頭がいたくなる」「不安な気持ちになる」「よくかゆくなる」「まわりが気になる」「やる気が起きない」「イライラする」「よく肩がこる」「よく腰がいたくなる」の割合が高くなる傾向にある。これらの結果から、経済的に困難な世帯では、保護者では不安やイライラなどのメンタルヘルスに影響が出ている可能性があり、同時に不眠が多く、心身の休養が不十分である可能性がうかがえる。また、経済的に困難な世帯では、保護者・子どもいずれも「よくおなかがいたくなる」と感じており、ストレス対処の失敗や、食習慣への悪影響、衛生状態も懸念される。一方で経済的に困難のない世帯の保護者は、ストレス発散ができていたり、幸福感を感じていたりするなど、望ましい状態で過ごすことができている傾向にある。

続いて、親の就業状況別の生活習慣や健康状態を見てみる。親の就業状況別の朝食の頻度では、「正規」「自営」と答えた2群において、「毎日またはほとんど毎日」朝食を摂っている割合が高く(91.3%、90.4%)、「非正規」「無業」では90%未満となっている(85.5%、76.2%)。この結果から、経済的に不安定な世帯では、欠食傾向があることがうかがえる。

食事習慣別の親子関係や健康状態に着目する。朝食の頻度別に見ると、朝食を「毎日またはほとんど毎日食べている」群では、「食べない」群と比べ、子どもを「とても信頼している」(53.2%対26.3%)、子どもと会話を「よくする」(67.8%対57.9%)、子どもの将来に「とても期待している」(26.2%対21.1%)がいずれも5ポイント以上高くなっている。また、「食べない」群では「毎日またはほとんど毎日」食べている群に比べ、休日に子どもと関わる時間が「2時間未満」(26.3%対16.8%)が約10ポイント高くなっている。子どもの自己効力感では、朝食を「毎日またはほとんど毎日食べている」群では、「食べない」群と比べ、1点以上高くなっており、学校が休みの日の昼食を「必ず食べる」群では他の群に比べ高い傾向がある。これらの結果から、ほぼ毎日規則正しく朝食・昼食を摂ることは、保護者と子どもの関係をよりよくするとともに、子どもの自己効力感を高める可能性が示唆された。

保護者の自覚症状では、朝食の共食頻度別に見ると、朝食をおうちの大人の人と一緒に食べることが「まったくない」群では、「ほとんど毎日食べている」群と比べ、「不安な気持ちになる」(27.4%対22.1%)、「よくかゆくなる」(14.4%対7.1%)、「まわりが気になる」(15.3%対9.3%)、「やる気が起きない」(23.3%対18.1%)、「イライラする」(34.4%対28.8%)、「よく腰がいたくなる」(28.4%対23.1%)がいずれも5ポイント以上高くなっている。夕食の共食頻度別にみると、夕食をおうちの大人の人と一緒に食べることが「まったくない」群では、「ほとんど毎日食べている」群と比べ、「よく腰がいたくなる」(30.0%対24.7%)が5ポイント以上高くなっている。一方で、「ほとんど毎日」食べている群は、「まったくない」群と比べ、「イライラする」(31.1%対20.0%)、「よく肩がこる」(42.1%対20.0%)が5ポイント以上高くなっている。これらの結果から、大人とこどもの共食は、全体的にはストレスや不安を低減させるが、一方で夕食を一緒に食べないといけないという心理的な負担につながっている可能性がある。

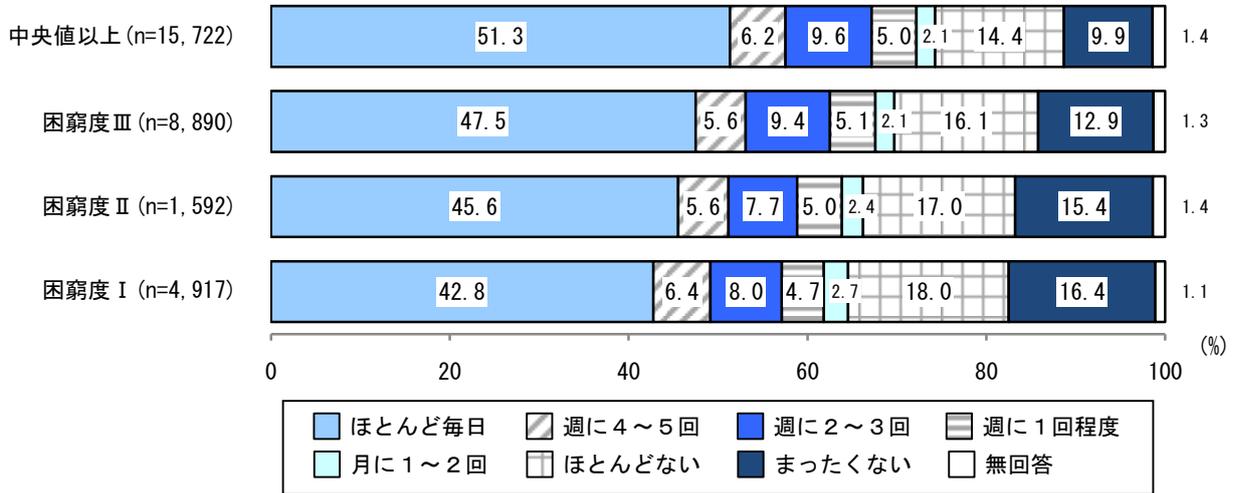
さらに、自覚症状のうち「とくに気になるところはない」、つまり健康状態に問題がないと自覚している保護者に関して、その要因を明らかにするため、親と子どもとの関わりについて、「ほとんど毎日」群の回答を、「まったくない」群と比べたところ、「おうちの大人の人と学校でのできごとについて話す」(17.2%対10.8%)、「おうちの大人の人と文化活動をする」(20.6%対10.9%)が5ポイント以上高くなっている。これらの結果から、世代間のコミュニケーションが良好であり、文化活動など社会参加が促進されると、保護者の健康が向上することを示唆している。

※参照データについては一部資料編に掲載

### 3-4. 家庭生活、学習

#### 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか（子ども票問8①）

##### <大阪府内全体>



##### <豊中市>

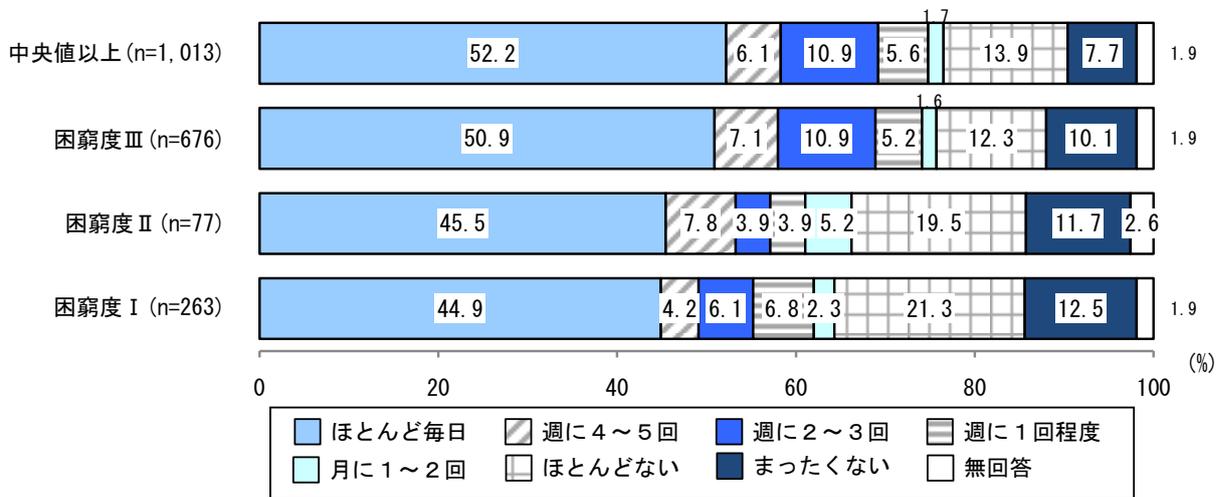
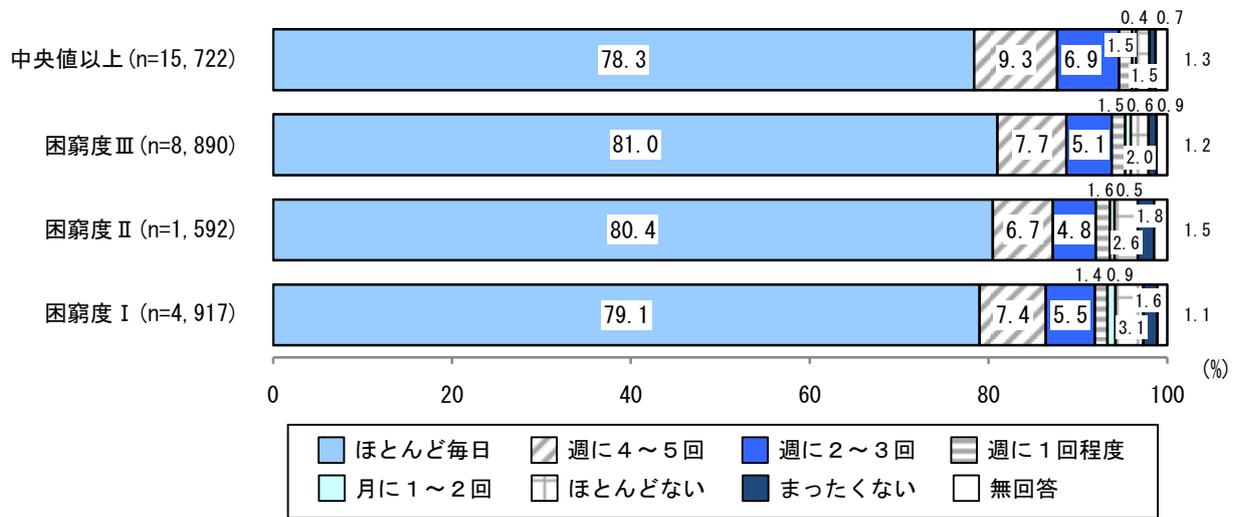


図 96. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、困窮度が高まるにつれ「ほとんど毎日」の回答の割合が低くなっている。「ほとんど毎日」の割合は中央値以上群が52.2%と最も高くなっている。一方、「まったくない」の割合は困窮度Ⅰ群が12.5%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか（子ども票問8②）

<大阪府内全体>



<豊中市>

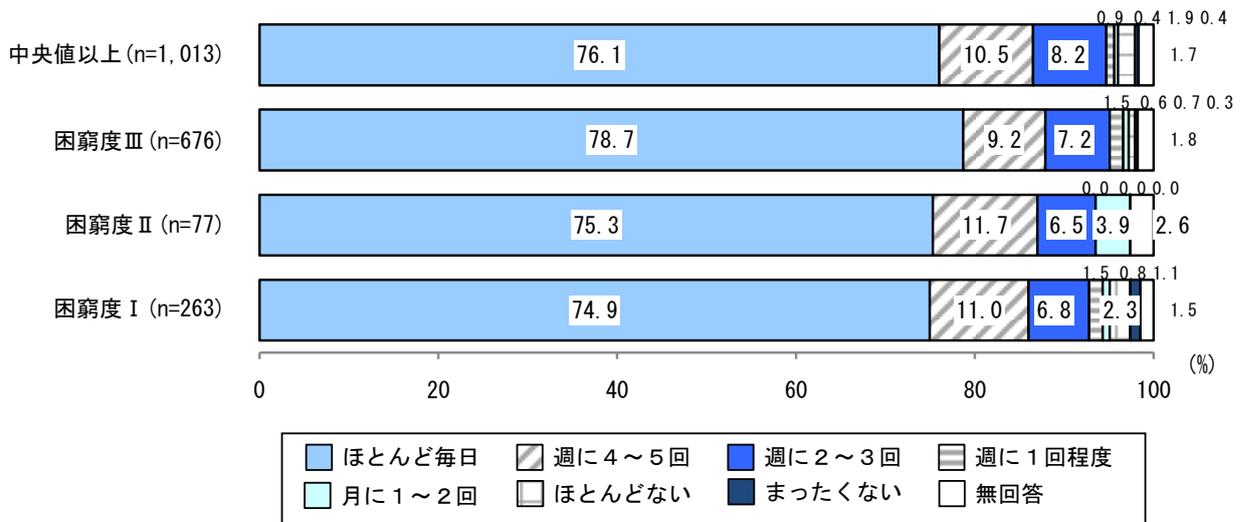
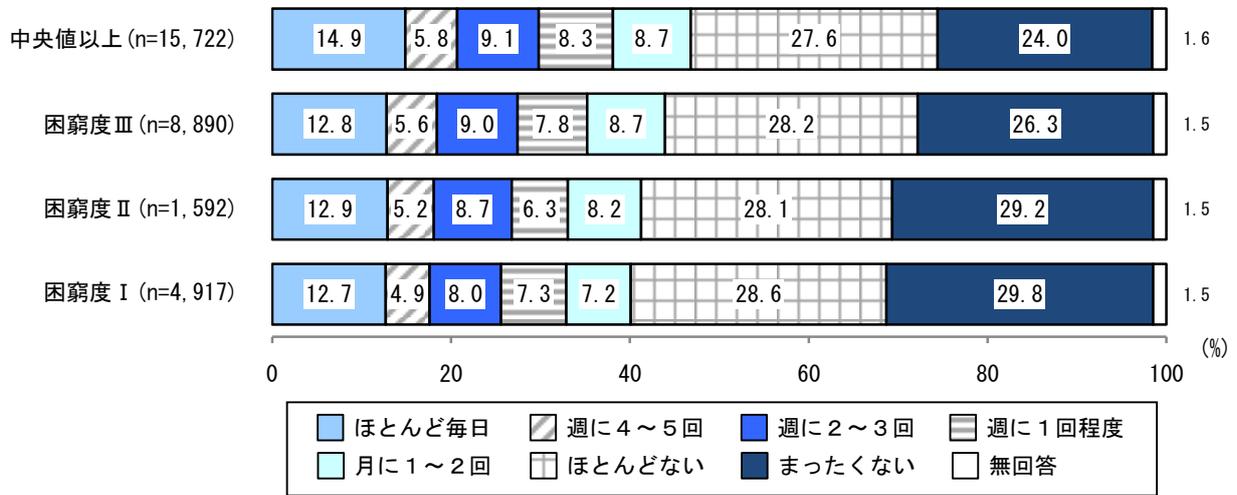


図 97. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、困窮度Ⅲ群において、「ほとんど毎日」の割合が78.7%と高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか（子ども票問8⑤）

<大阪府内全体>



<豊中市>

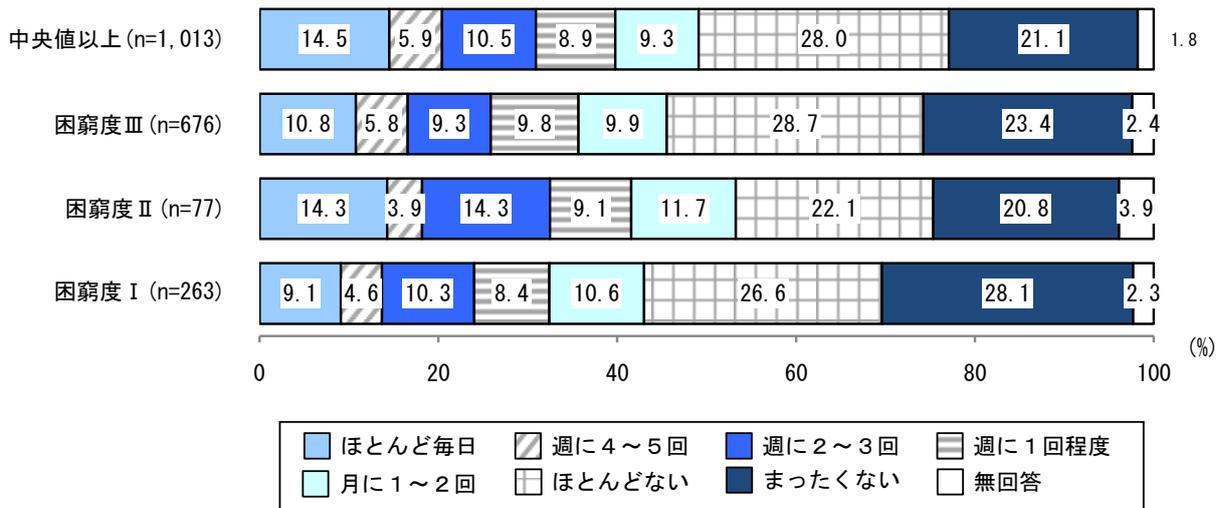
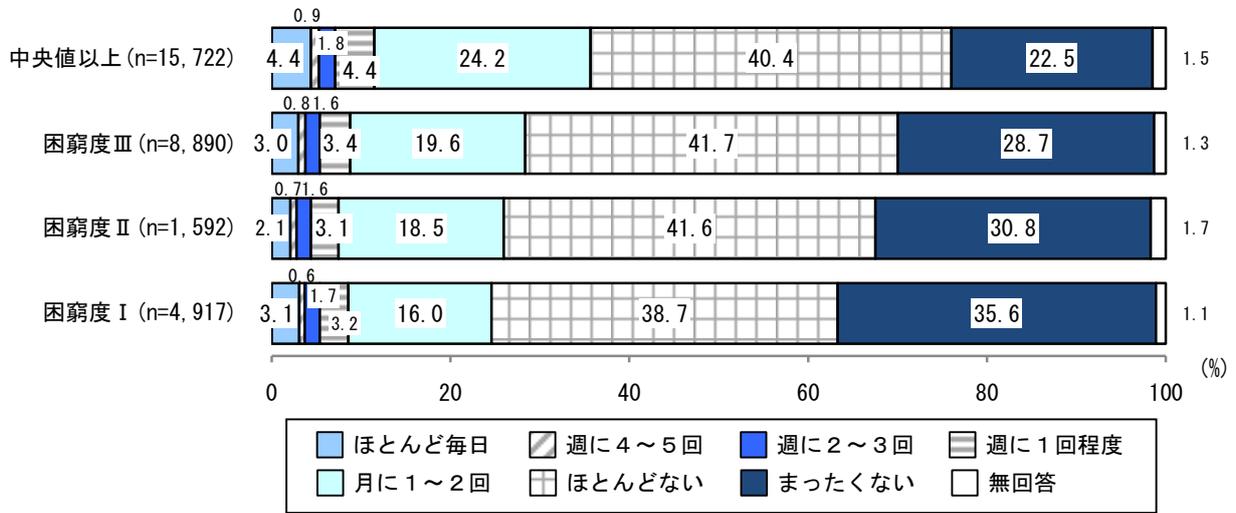


図 98. 困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、困窮度Ⅱ群では、「まったくない」と回答した人は20.8%で最も低くなっている。また、困窮度Ⅰ群では「ほとんど毎日」と回答した人は9.1%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか（子ども票問8⑨）

<大阪府内全体>



<豊中市>

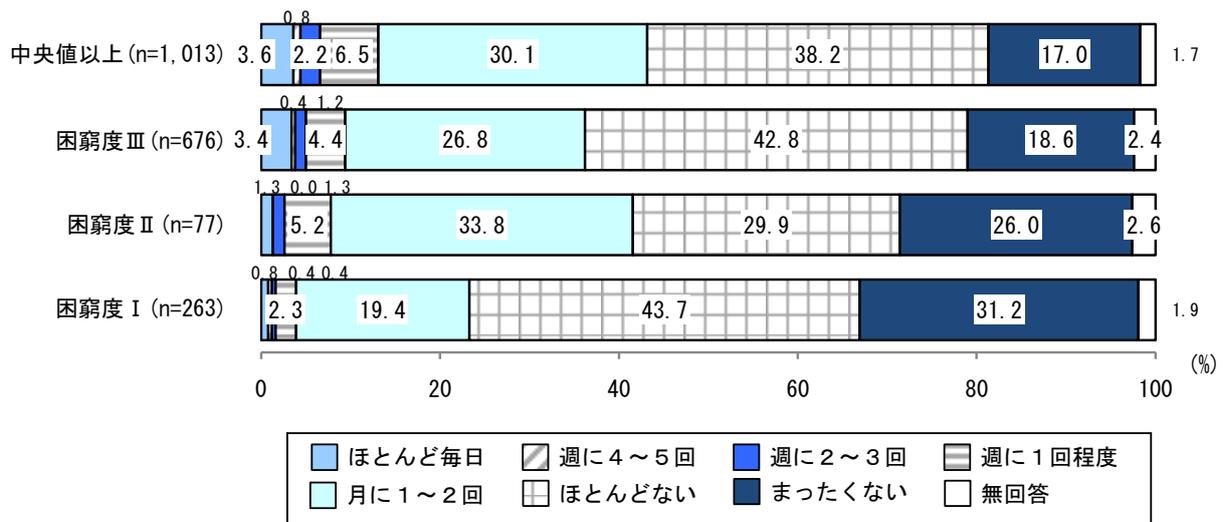
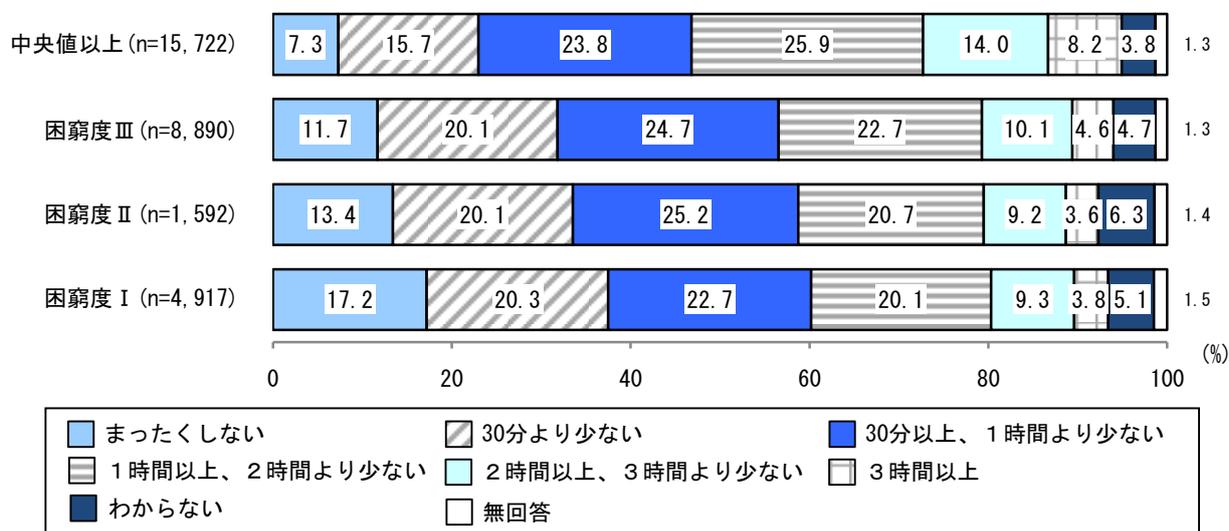


図 99. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

困窮度別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったく」と回答した人の割合が高い。困窮度Ⅰ群では、「ほとんどない」と回答した人は43.7%、「まったくない」と回答した人は31.2%である。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）  
（子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<豊中市>

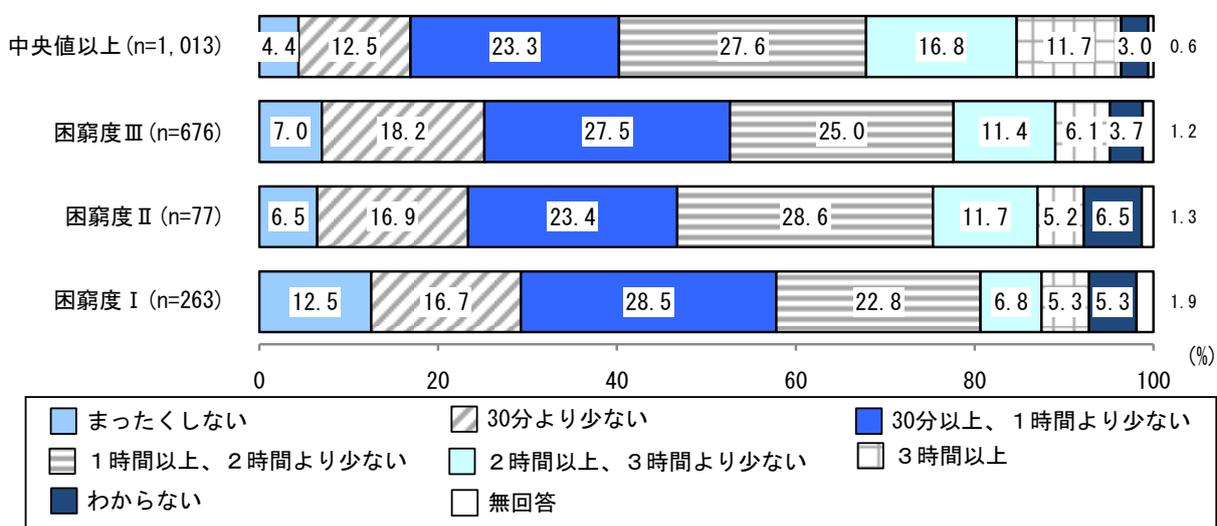
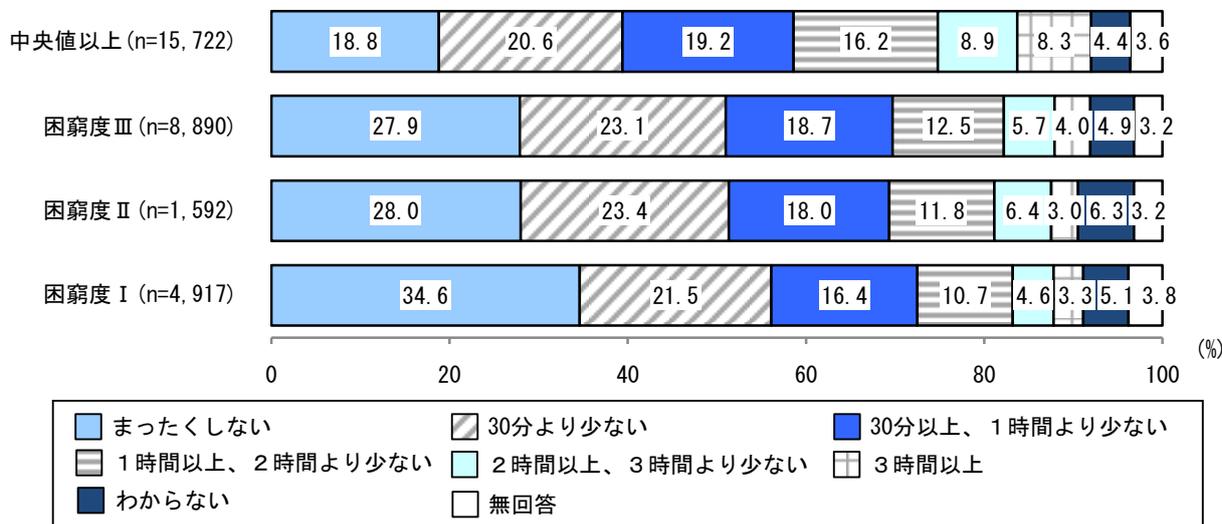


図 100. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校のある日では、困窮度が高まるにつれ、「3時間以上」と回答した人の割合が低くなっている。困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は12.5%、「30分より少ない」と回答した人は16.7%である。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）  
（子ども票問 13②）

<大阪府内全体>



<豊中市>

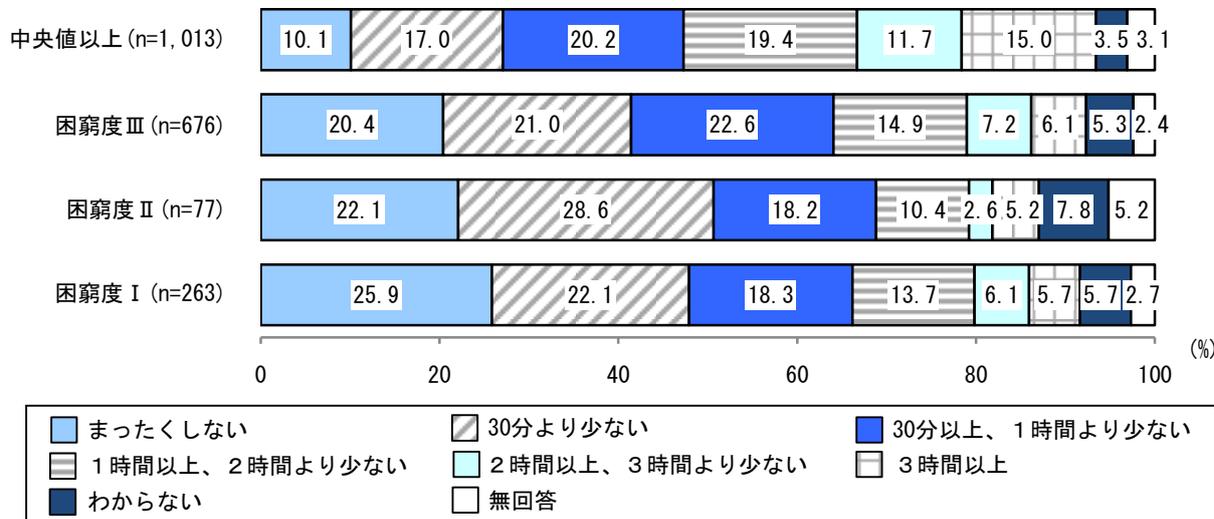
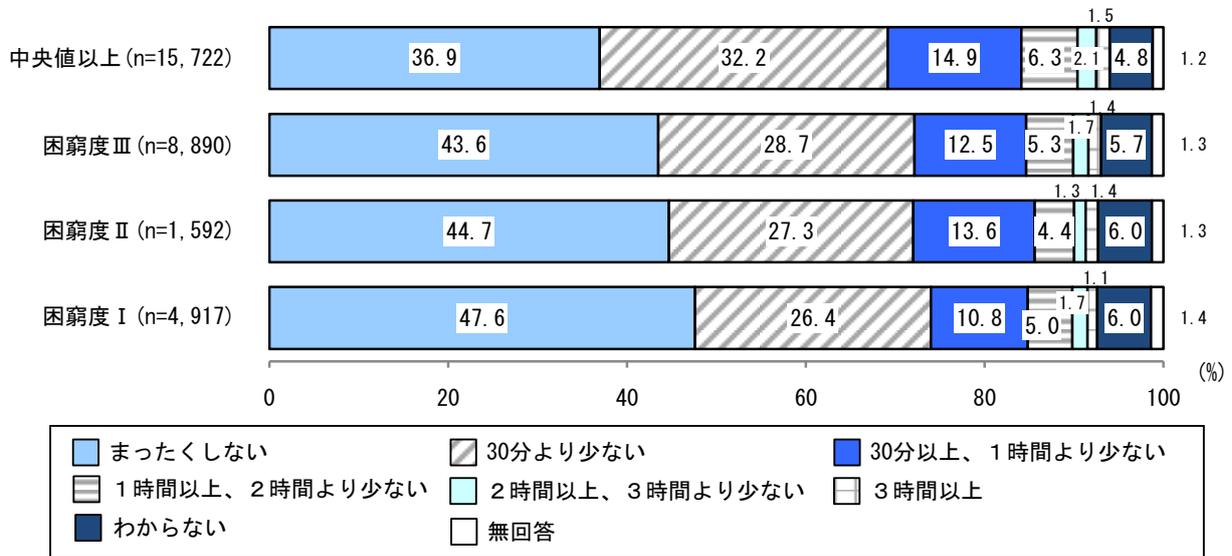


図 101. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校がない日では、困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は25.9%と最も高くなっている。1時間以上と回答した人の割合は、いずれの時間帯も中央値以上で最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問 15）

<大阪府内全体>



<豊中市>

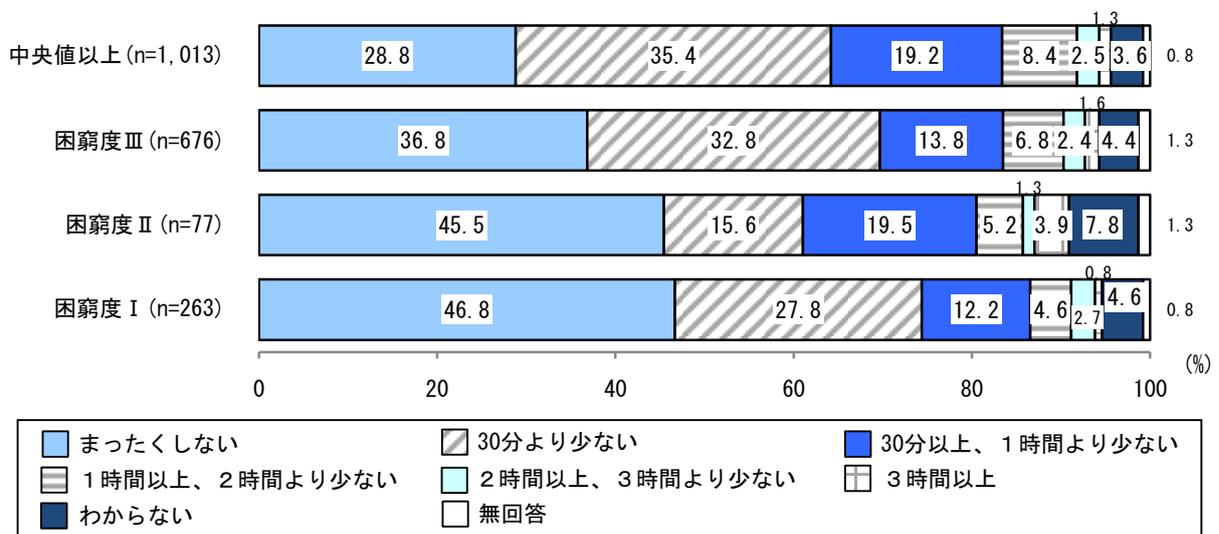
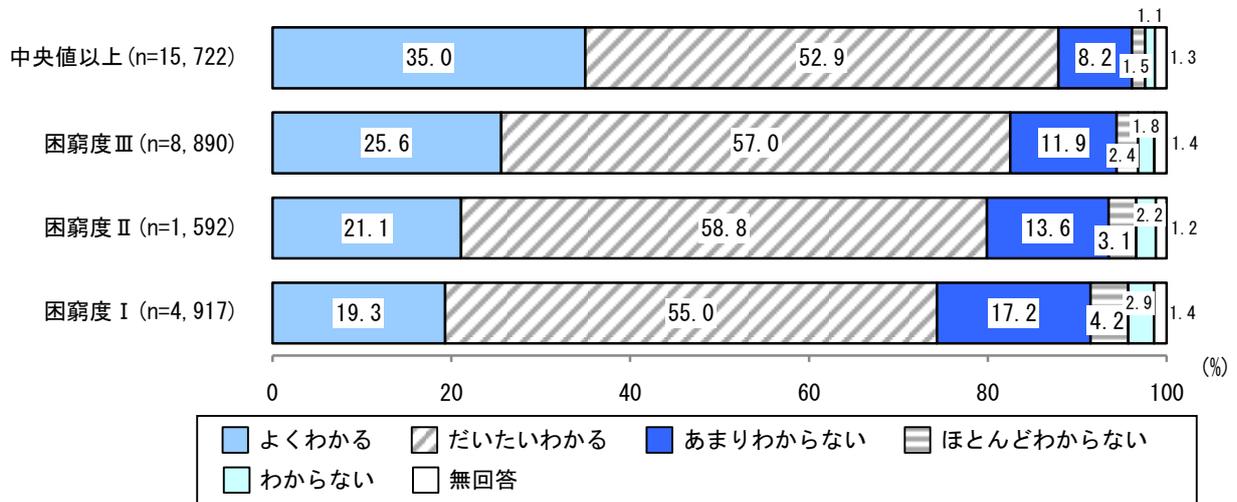


図 102. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別に授業以外の読書時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」と回答した人の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は46.8%、困窮度Ⅱ群では45.5%となっている。

困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問 14(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

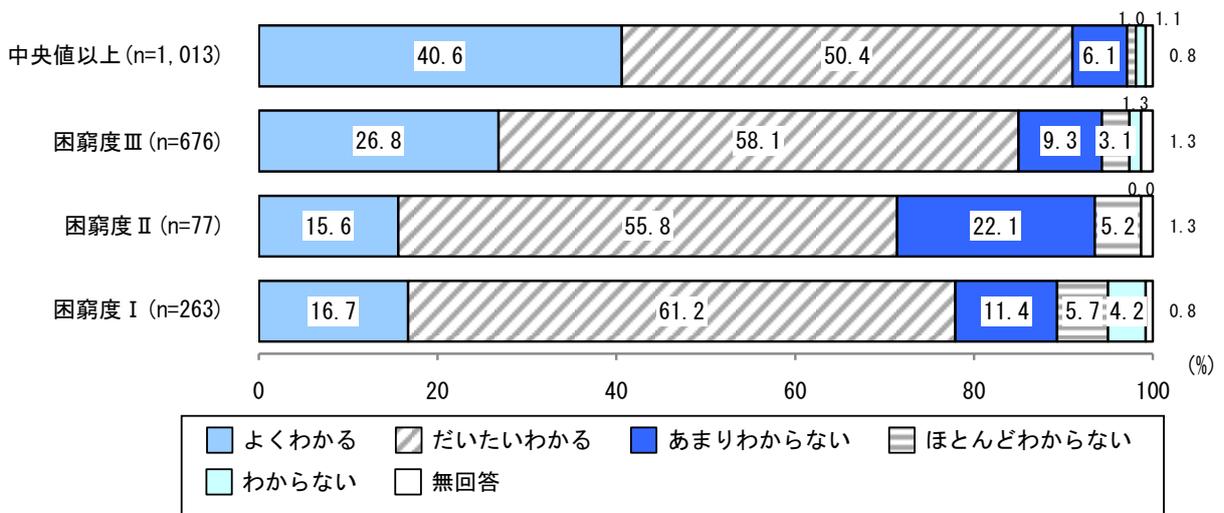


図 103. 困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

困窮度別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、困窮度が高まるにつれ、「よくわかる」と回答した人の割合が低くなっている。困窮度Ⅰ群では、「ほとんどわからない」と回答した人は5.7%である。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ①学校がある日  
(月～金曜日) (子ども票問 21×子ども票問 13①)

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30分より少ない」「3. 30分以上、1時間より少ない」「4. 1時間以上、2時間より少ない」「5. 2時間以上、3時間より少ない」「6. 3時間以上」の6つの時間枠からひとつを選択させた(「7. わからない」は除く)。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

<大阪府内全体>



<豊中市>



図 104. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がある日)

子ども部屋の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長い。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ②学校がない日  
(土・日曜日・祝日) (子ども票問 21×子ども票問 13②)

<大阪府内全体>



<豊中市>

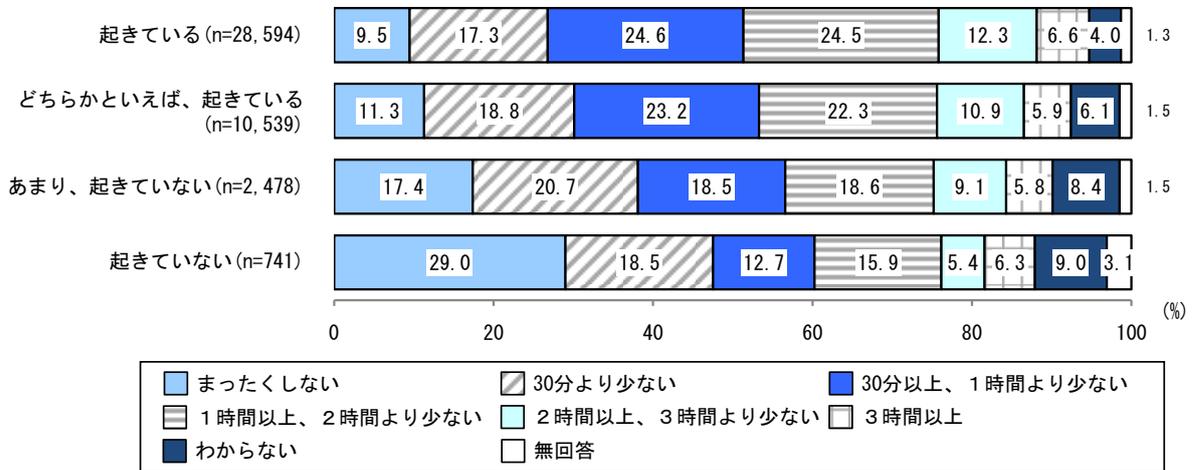


図 105. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がない日)

子ども部屋の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長い。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問2×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<豊中市>

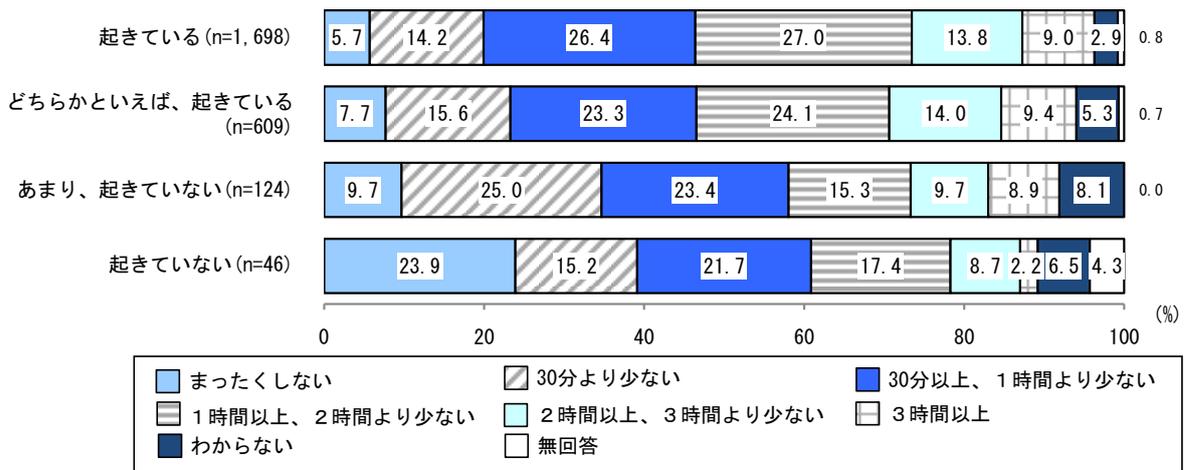
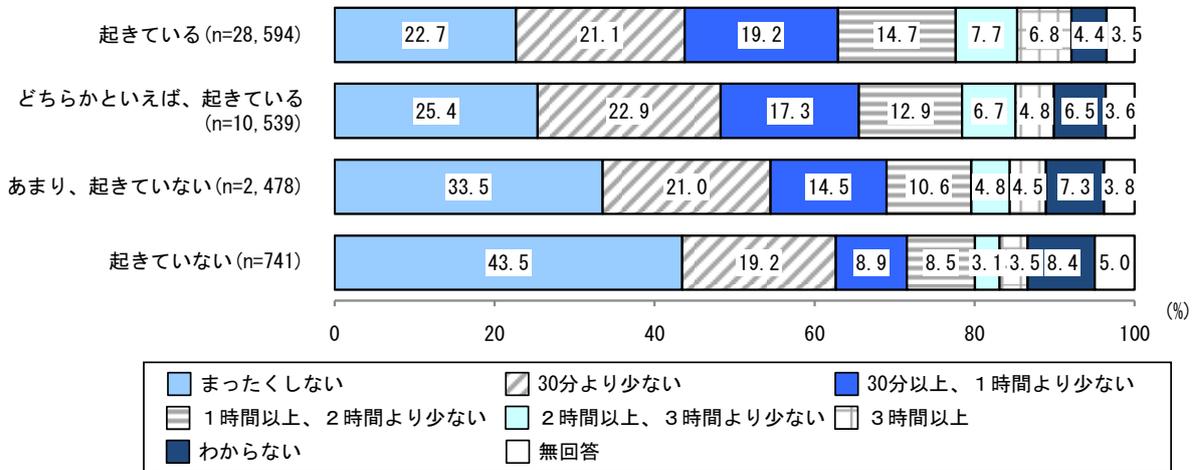


図 106. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

起床時間の規則性別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高くなっている。「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」、「3時間以上」の割合は起きている人の割合が最も高くなっている。一方、「まったくしない」の割合は起きていない人が23.9%で最も高くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問2×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<豊中市>

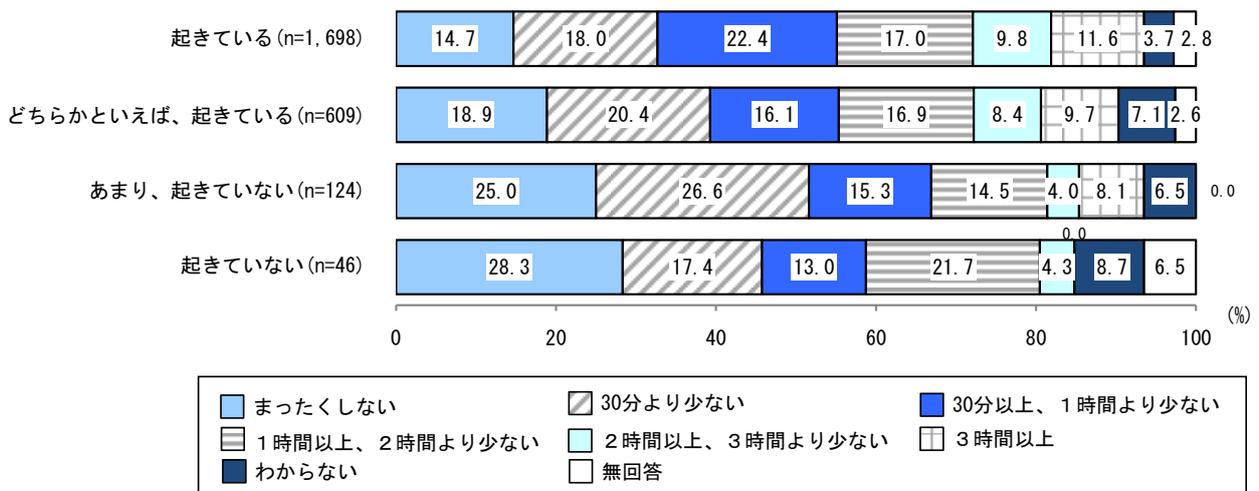
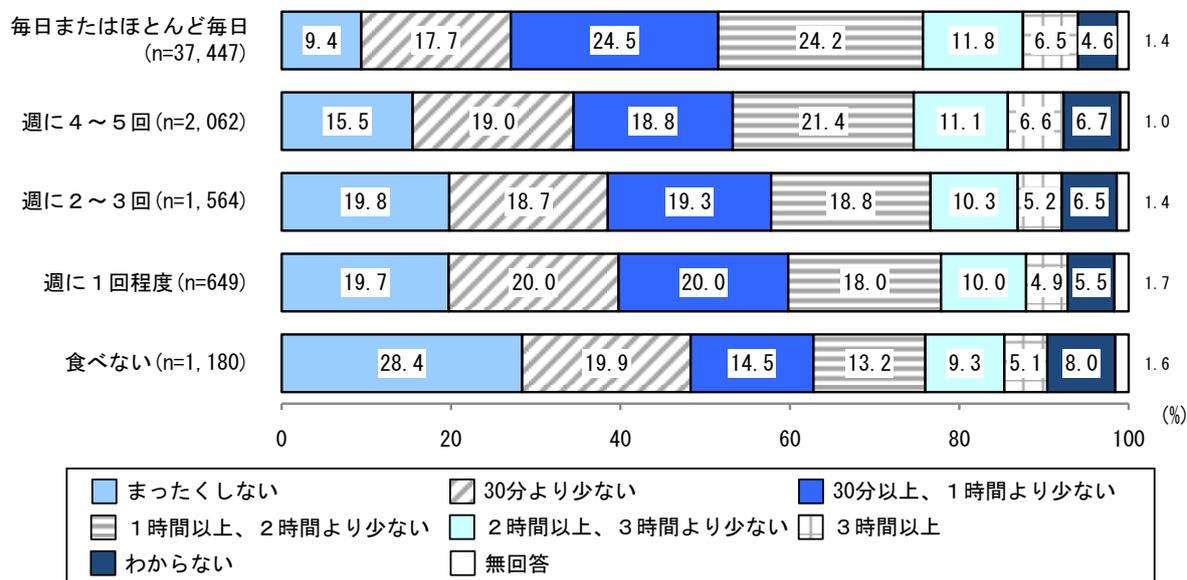


図 107. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

起床時間の規則性別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高くなっている。「30分以上、1時間より少ない」、「2時間以上、3時間より少ない」、「3時間以上」の割合は起きている人の割合が最も高くなっている。一方、「まったくしない」の割合は起きていない人が28.3%で最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）  
（子ども票問4(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<豊中市>

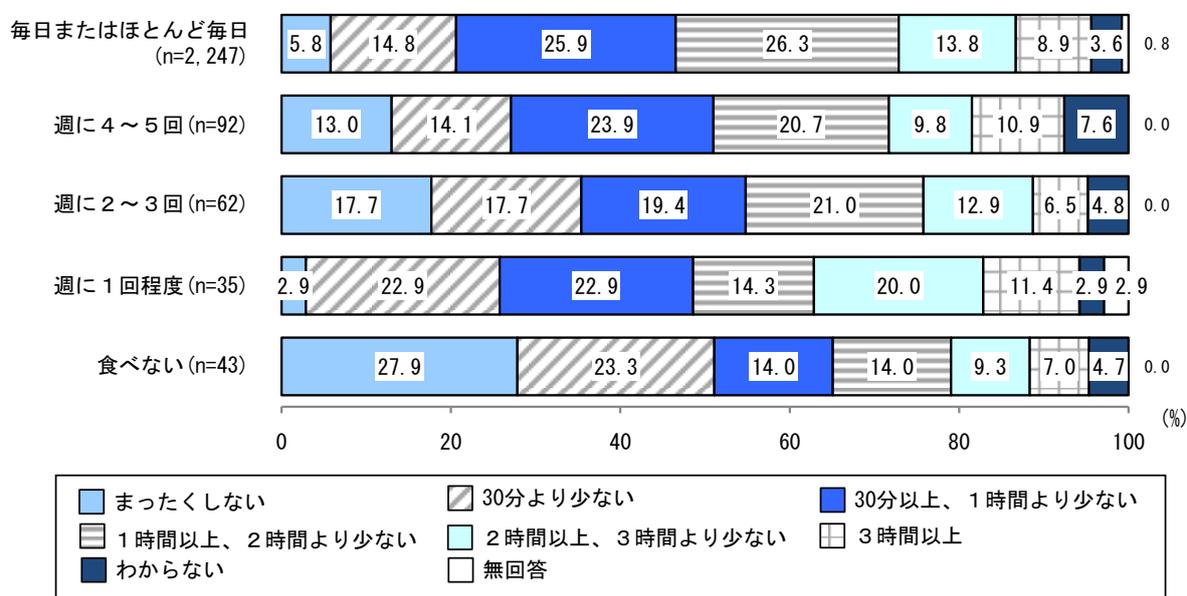
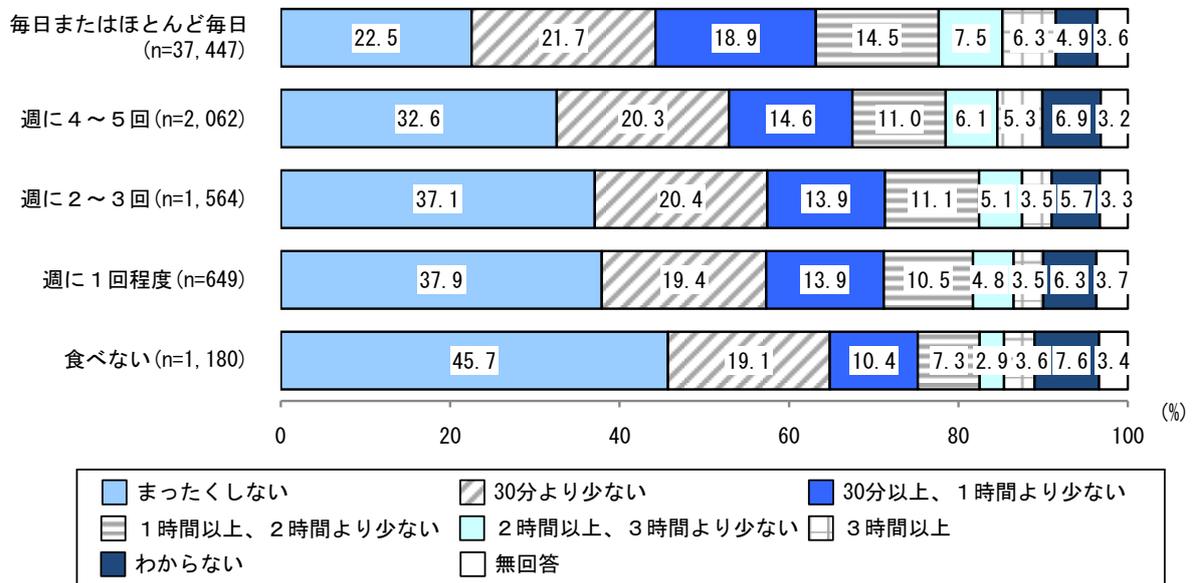


図 108. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

朝食の頻度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した割合は、食べない人が27.9%で最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問4(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<豊中市>

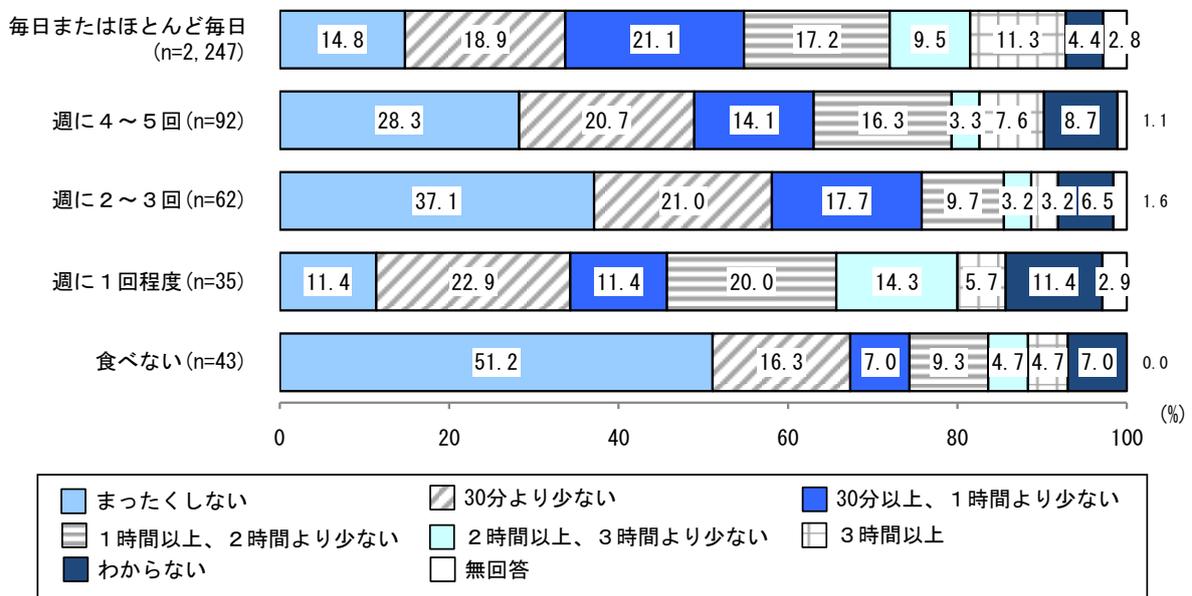
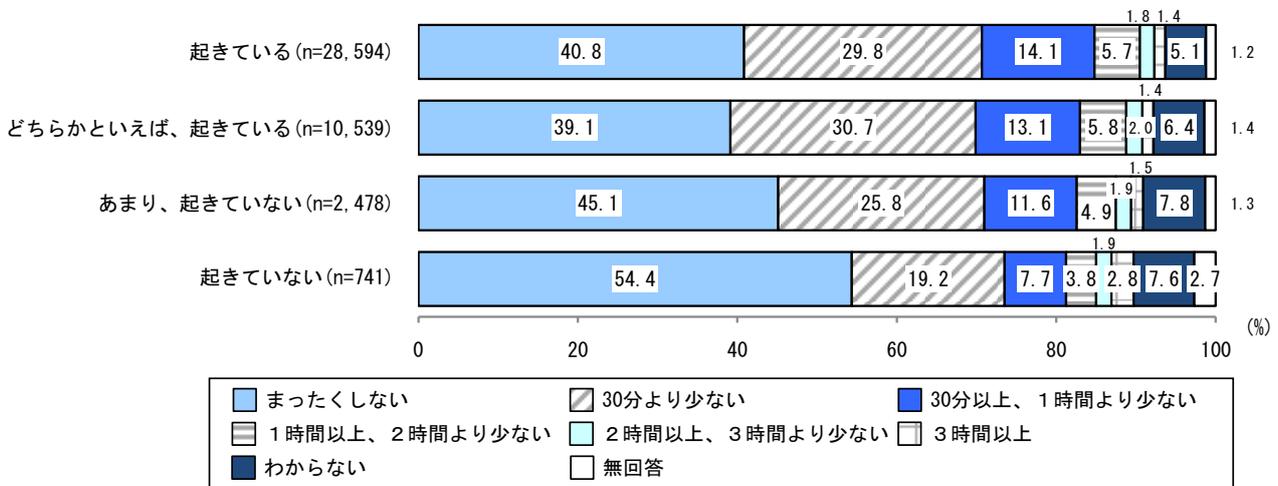


図 109. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

朝食の頻度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した割合は、食べない人が51.2%で最も高くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問2×子ども票問15）

<大阪府内全体>



<豊中市>

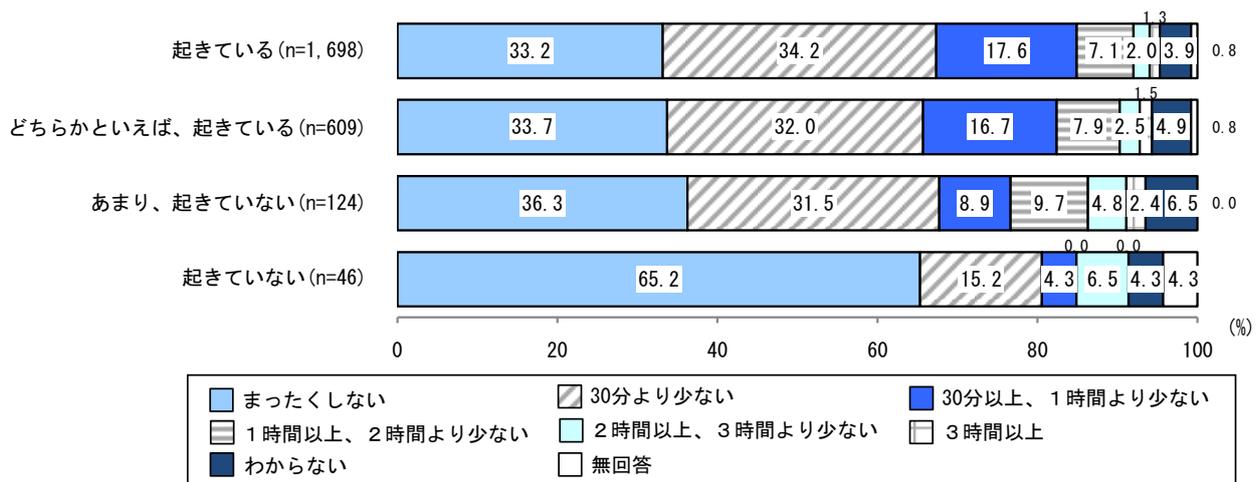
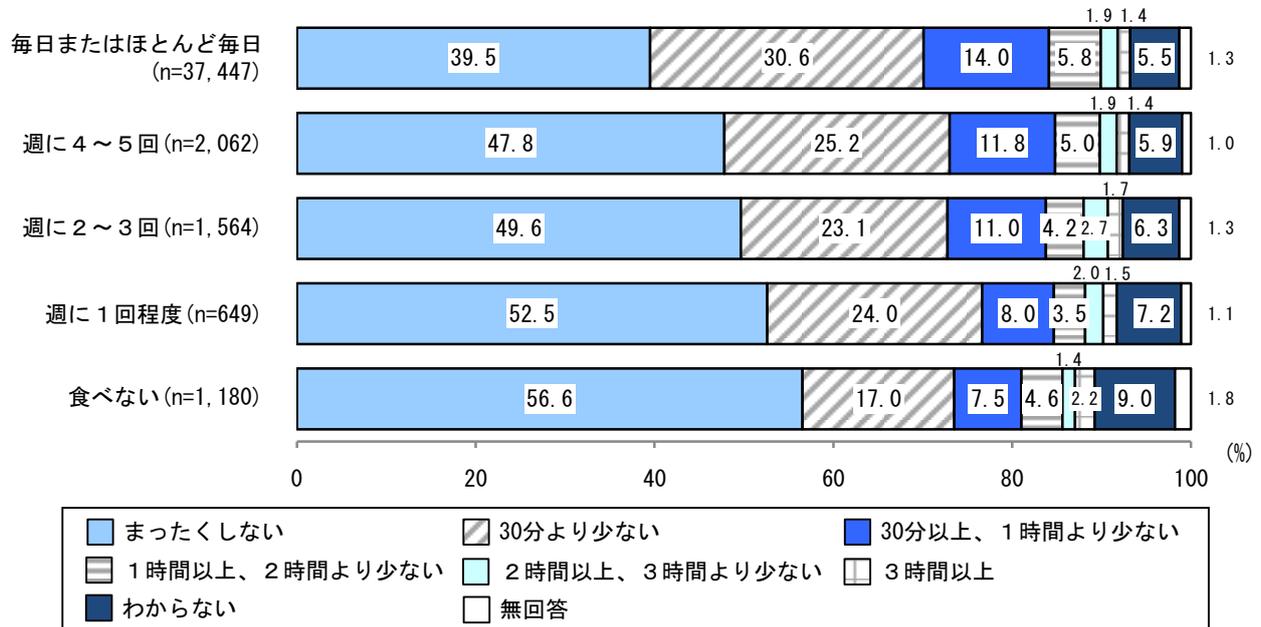


図 110. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど、「まったくしない」と回答した割合が高くなっている。起きていない人では、「まったくしない」と回答した人は65.2%となっている。

朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問4(1)×子ども票問15)

<大阪府内全体>



<豊中市>

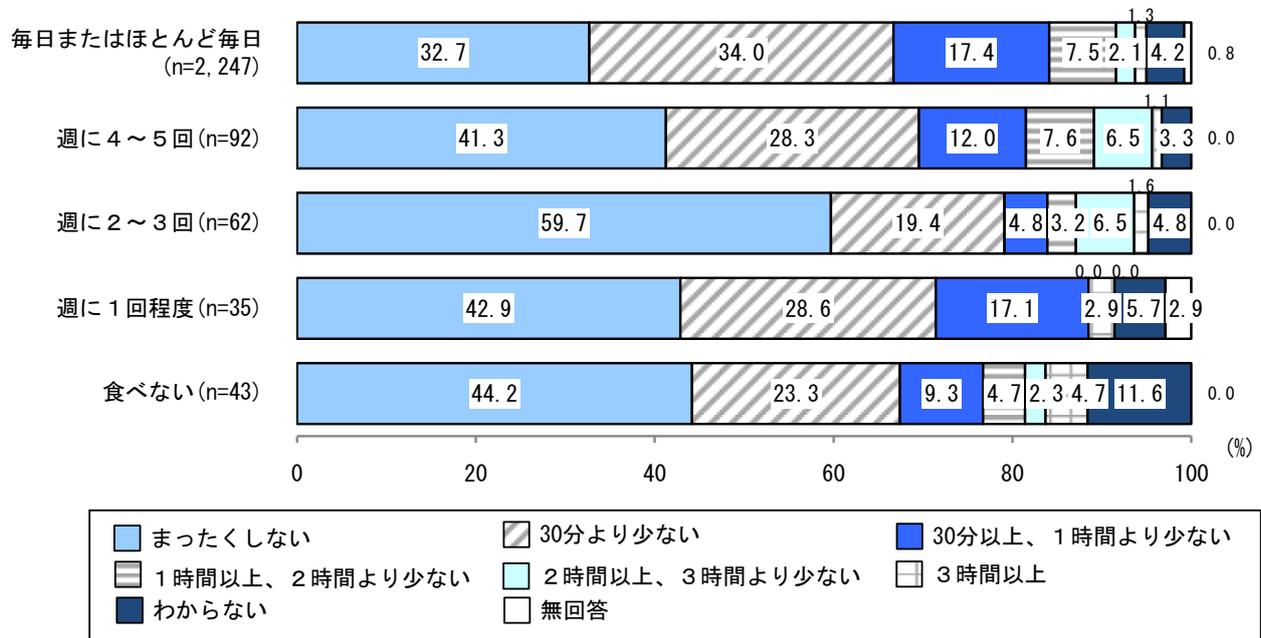
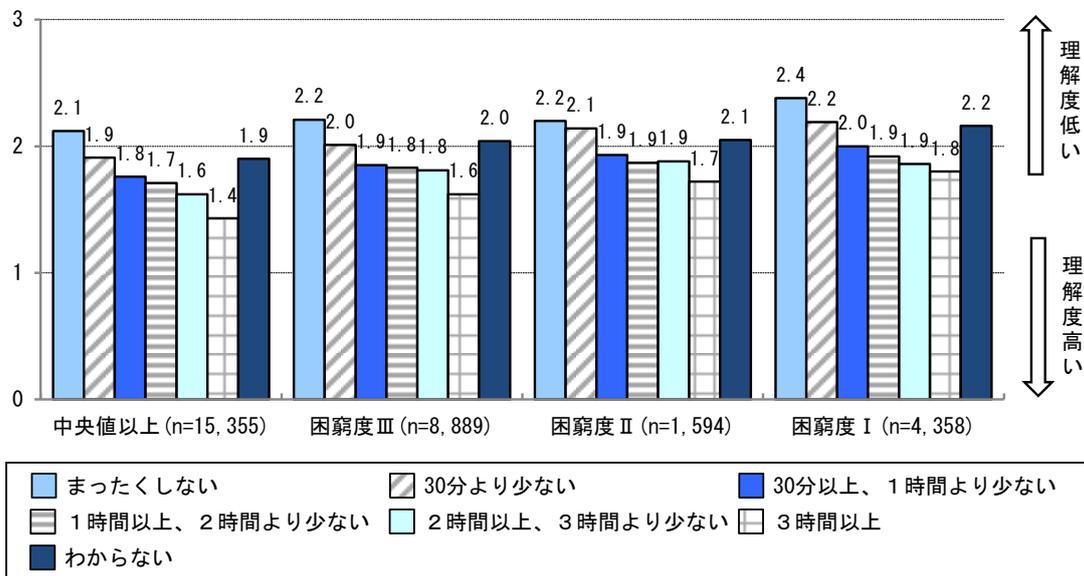


図 111. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「まったくしない」と回答した人は週に2～3回の人では59.7%と最も高く、次いで食べない人が44.2%となっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連  
（子ども票問14(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<豊中市>

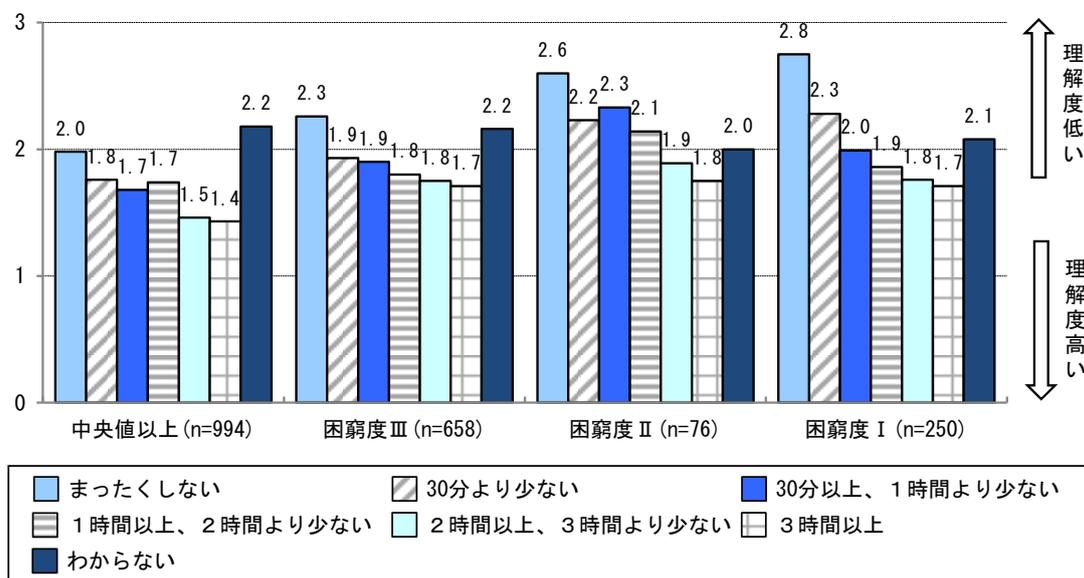
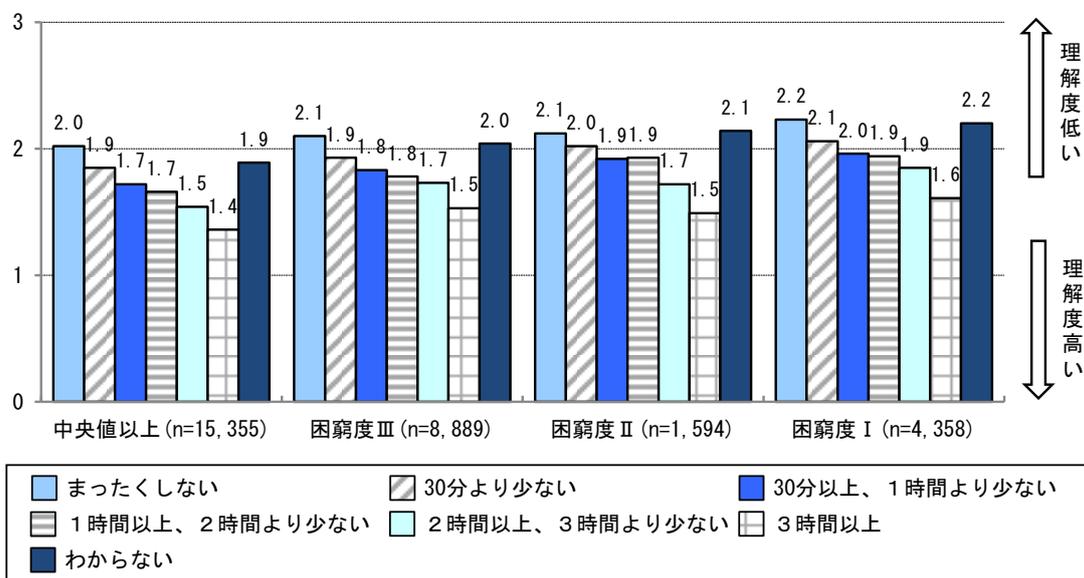


図 112. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅲ群、困窮度Ⅰ群の子どもは、勉強時間が長くなるほど、学習理解度が高まっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連  
（子ども票問14(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<豊中市>

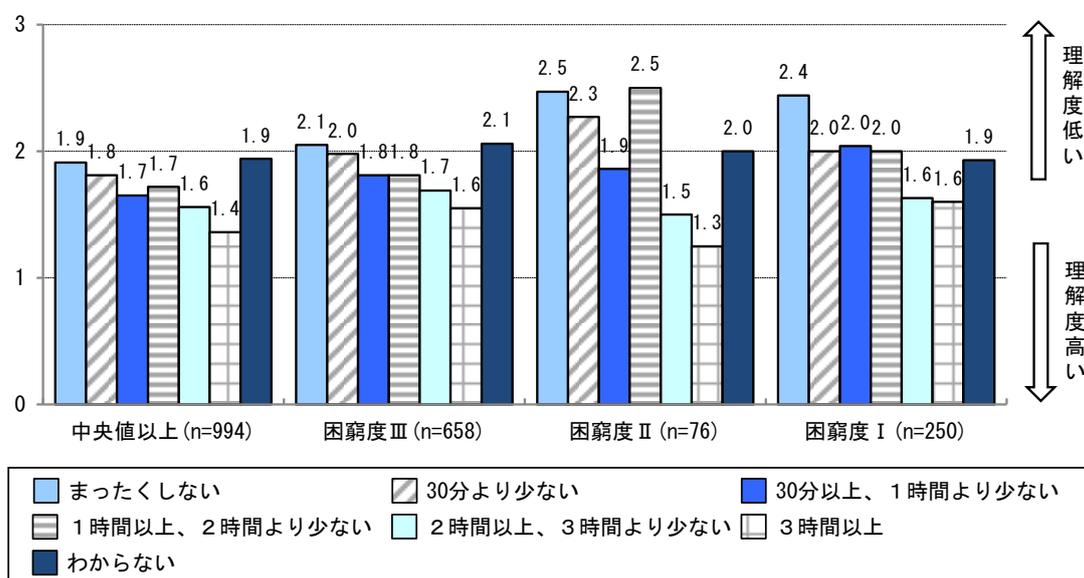
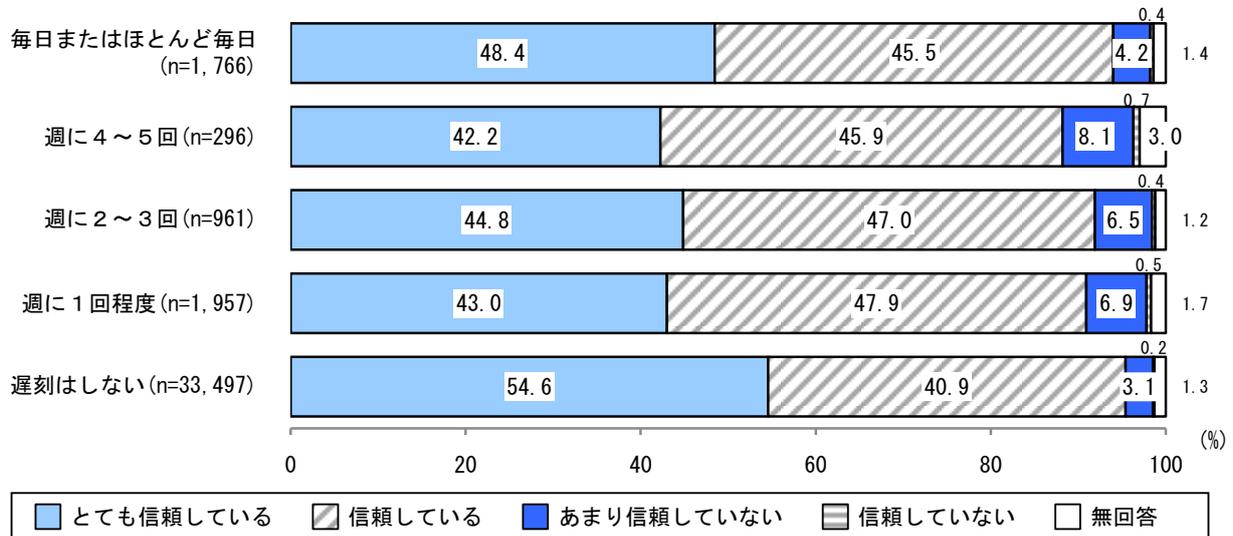


図 113. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上群、困窮度Ⅲ群、困窮度Ⅰ群の子どもは、勉強時間が長くなるほど、学習理解度が高まっている。

学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問7×保護者票問13(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

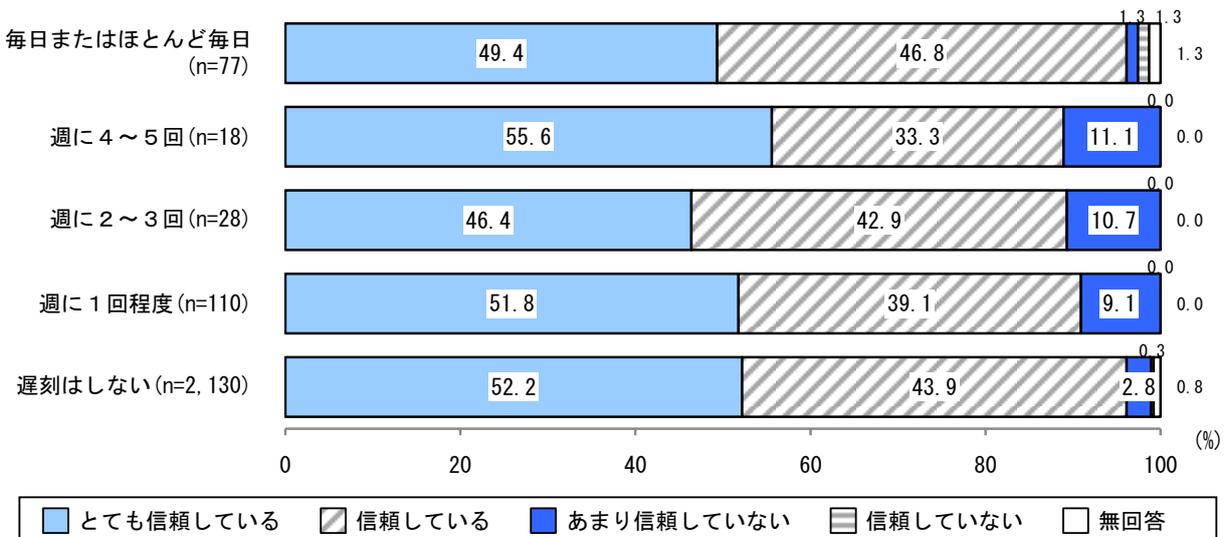
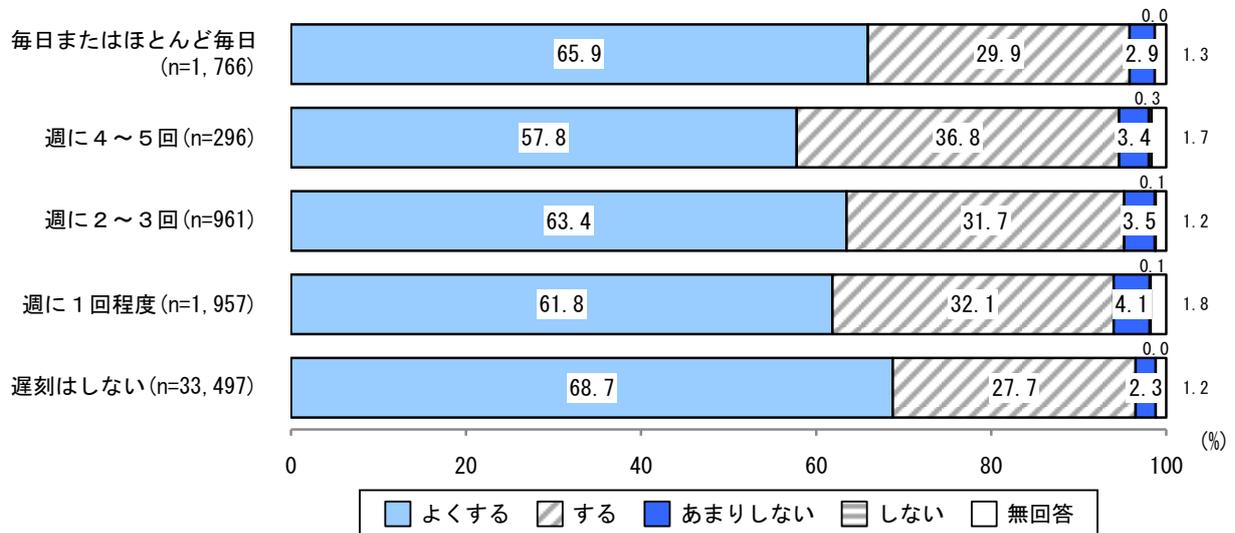


図 114. 学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度

学校への遅刻別に子どもへの信頼度を見ると、「とても信頼している」割合が最も高いのは、「週に4~5回」の子どもで55.6%、次いで「遅刻はしない」子どもで52.2%である。また、「あまり信頼していない」割合が最も高いのは、「週に4~5回」の子どもで11.1%、次いで「週に2~3回」の子どもで10.7%である。

学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問7×保護者票問13(2)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

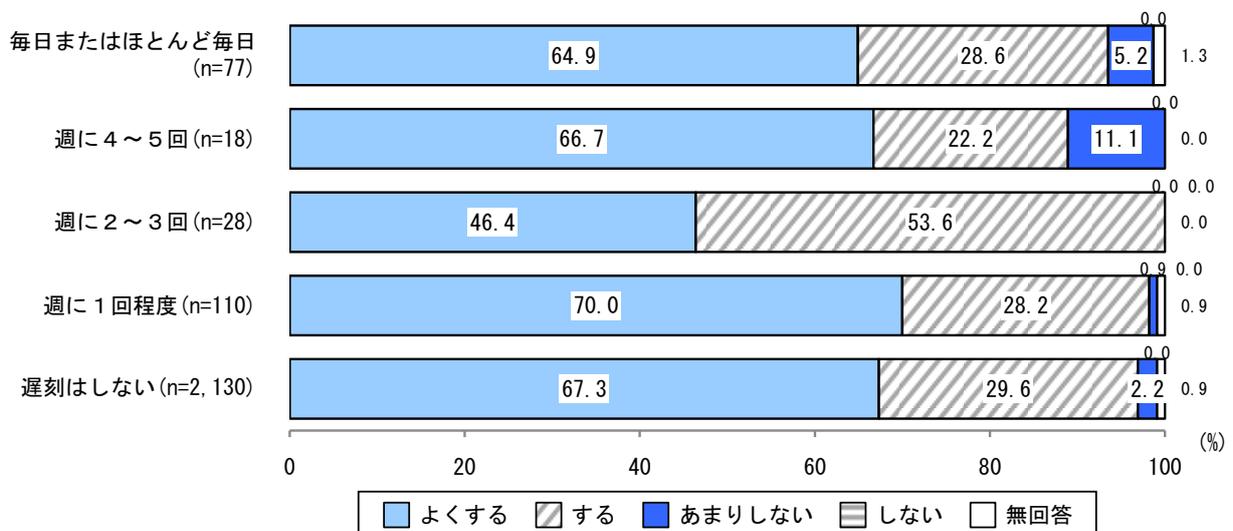
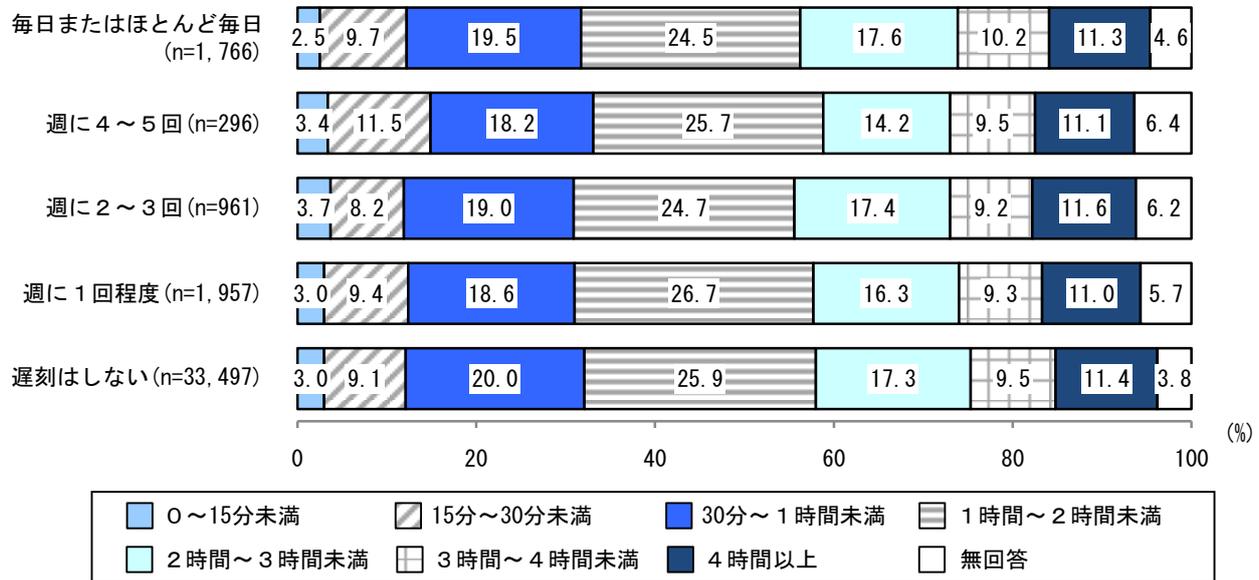


図 115. 学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度

学校への遅刻別に子どもとの会話頻度を見ると、「週に1回程度」の子どもにおいては、会話を「よくする」割合が最も高く、70.0%である。次いで「遅刻はしない」の子どもが67.3%である。

学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

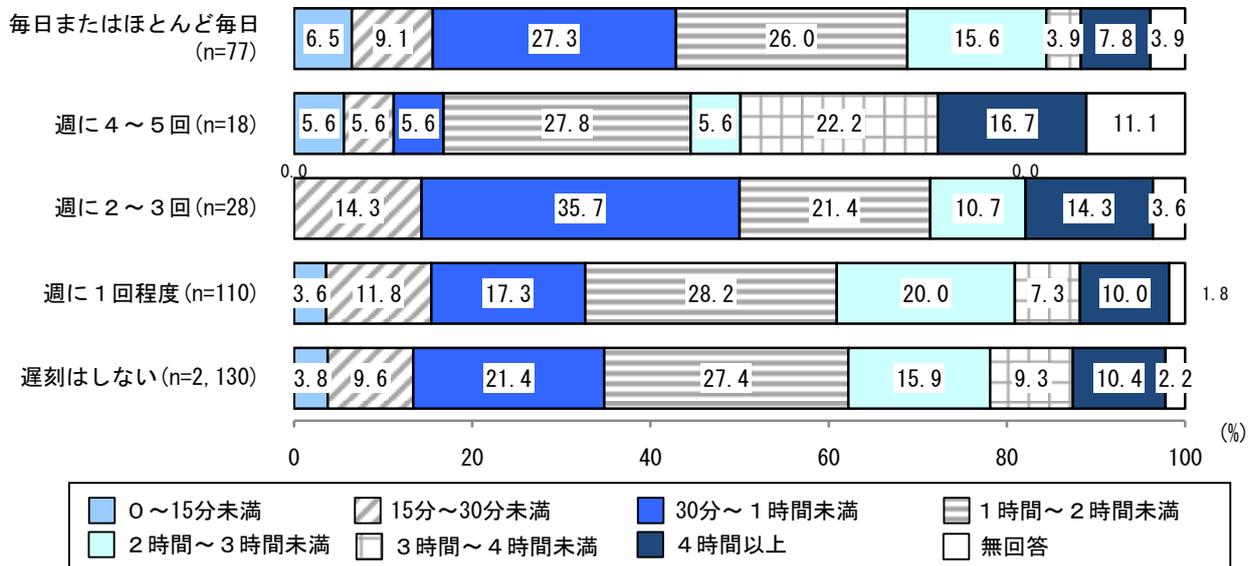
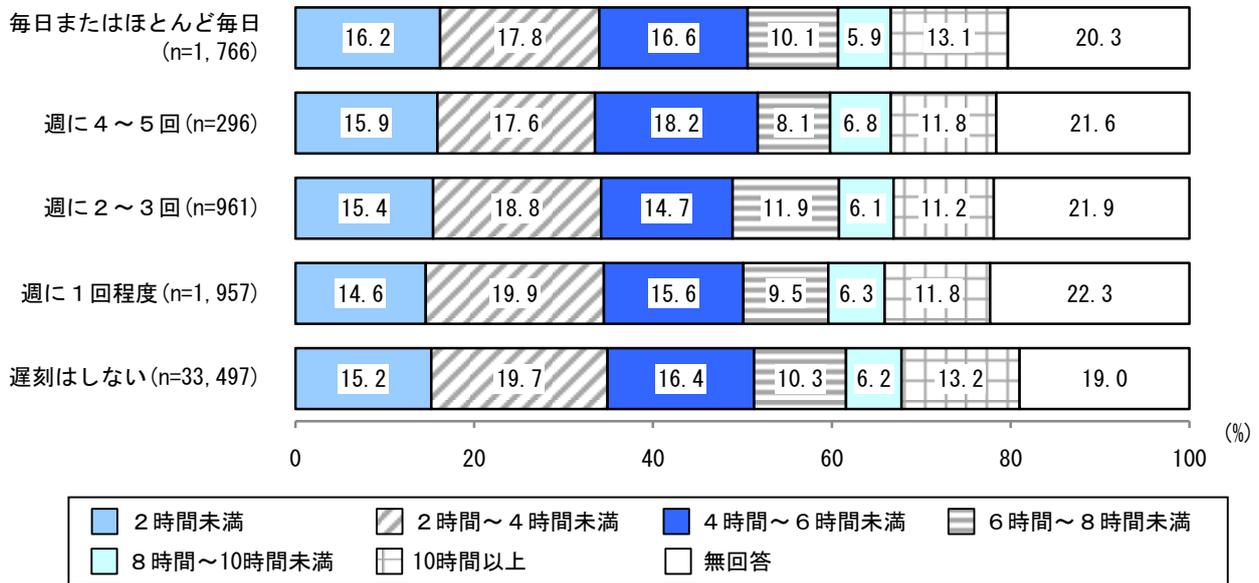


図 116. 学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」の子どもにおいては、「0～15分未満」（6.5%）の割合が最も高くなっている。「週に4～5回」の子どもにおいては、「1時間～2時間未満」（27.8%）、「3時間～4時間未満」（22.2%）の割合、「4時間以上」（16.7%）の割合が最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

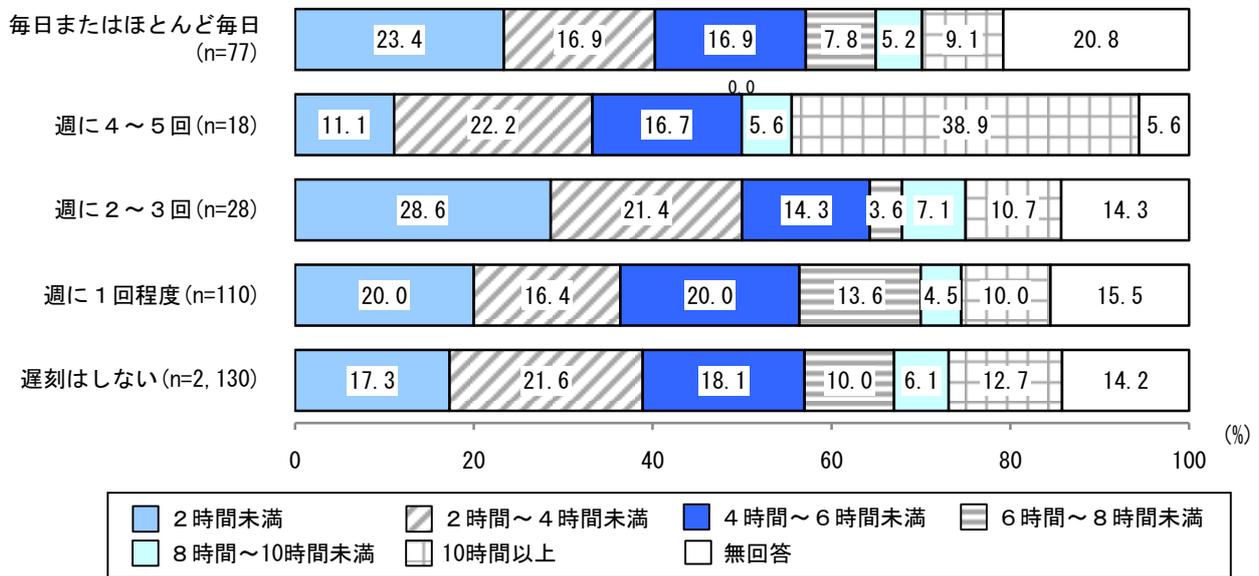
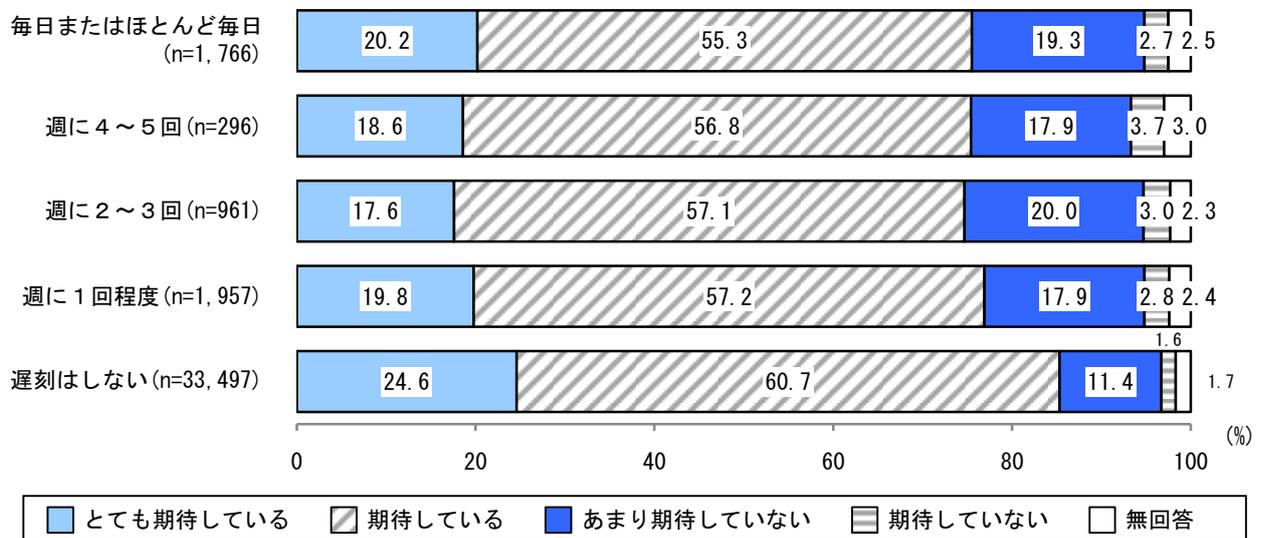


図 117. 学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「週に4～5回」の子どもにおいては、「2時間～4時間未満」(22.2%)、「10時間以上」(38.9%)の割合が最も高くなっている。「週に2～3回」の子どもにおいては、「2時間未満」(28.6%)の割合が最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問7×保護者票問13(4)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

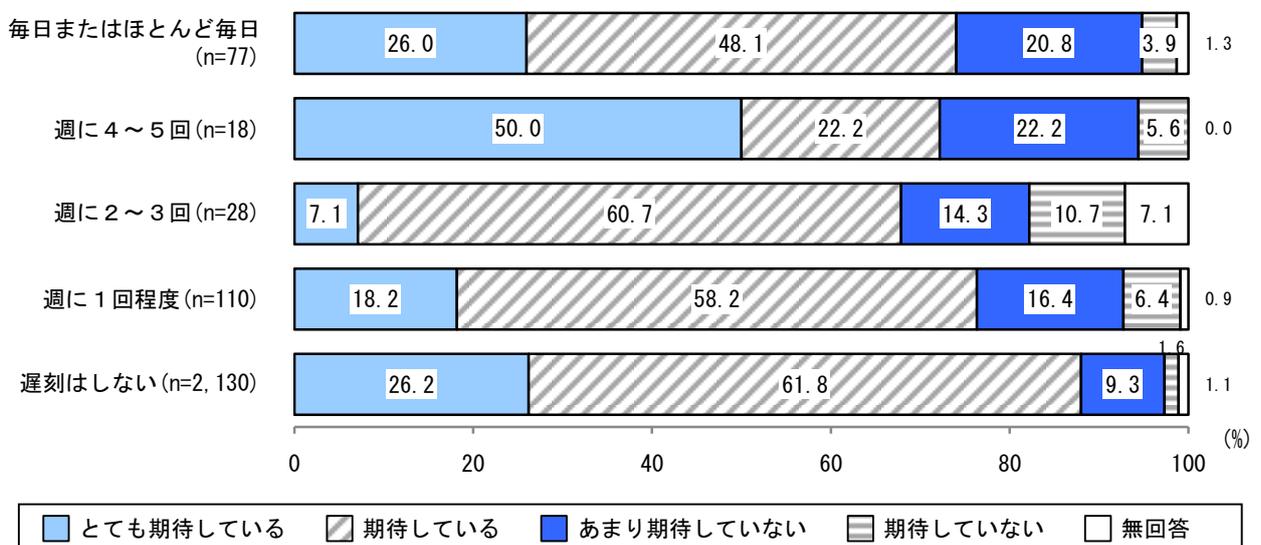
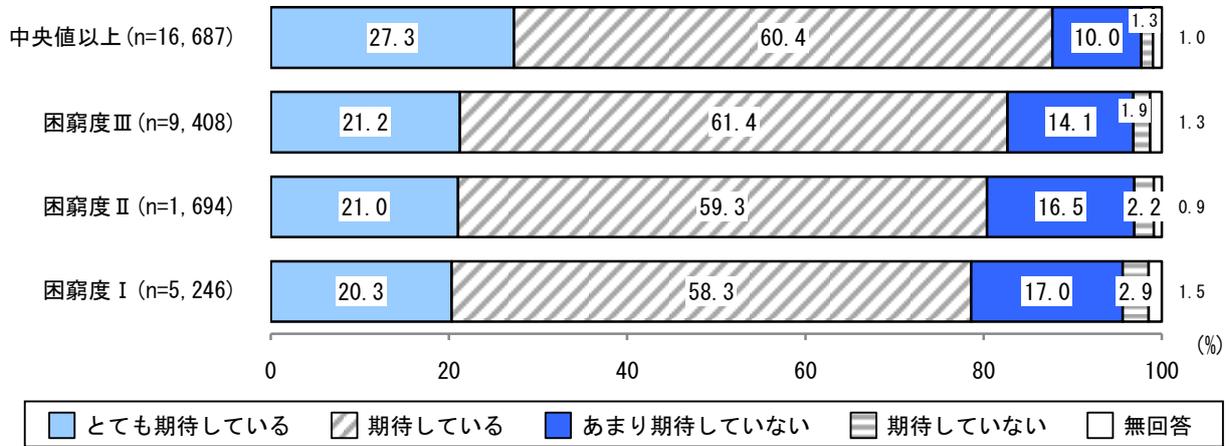


図 118. 学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度

学校への遅刻別に子どもの将来への期待度を見ると、「週に4～5回」の子どもにおいては、「とても期待している」の割合が50.0%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの将来への期待度（保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

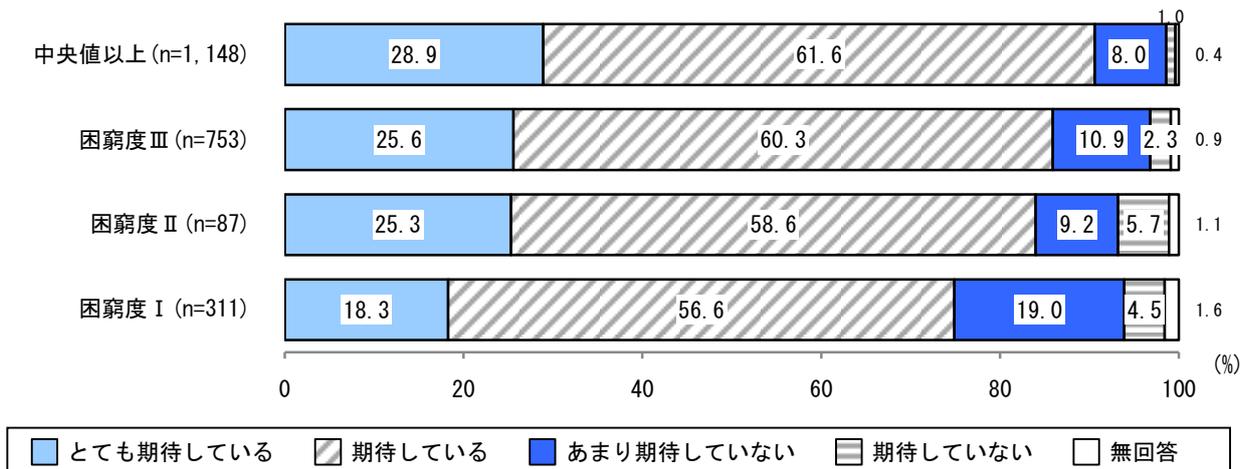
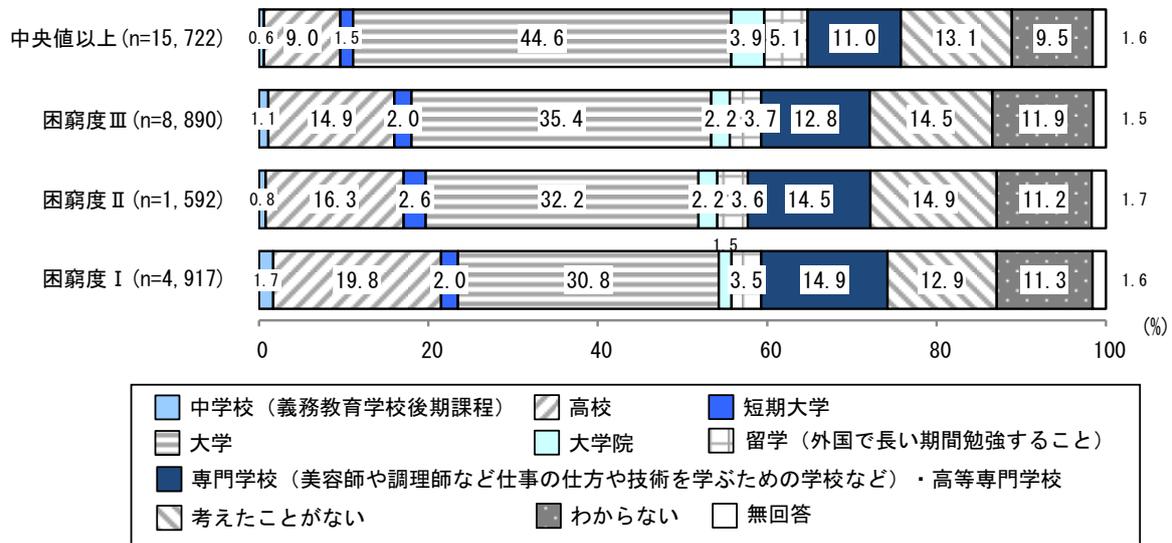


図 119. 困窮度別に見た、子どもの将来への期待度

困窮度別に子どもの将来への期待度を見ると、困窮度が高まるにつれ、「とても期待している」と「期待している」の割合が低くなっている。「とても期待している」の割合は困窮度Ⅰ群が18.3%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、希望する進学先（子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<豊中市>

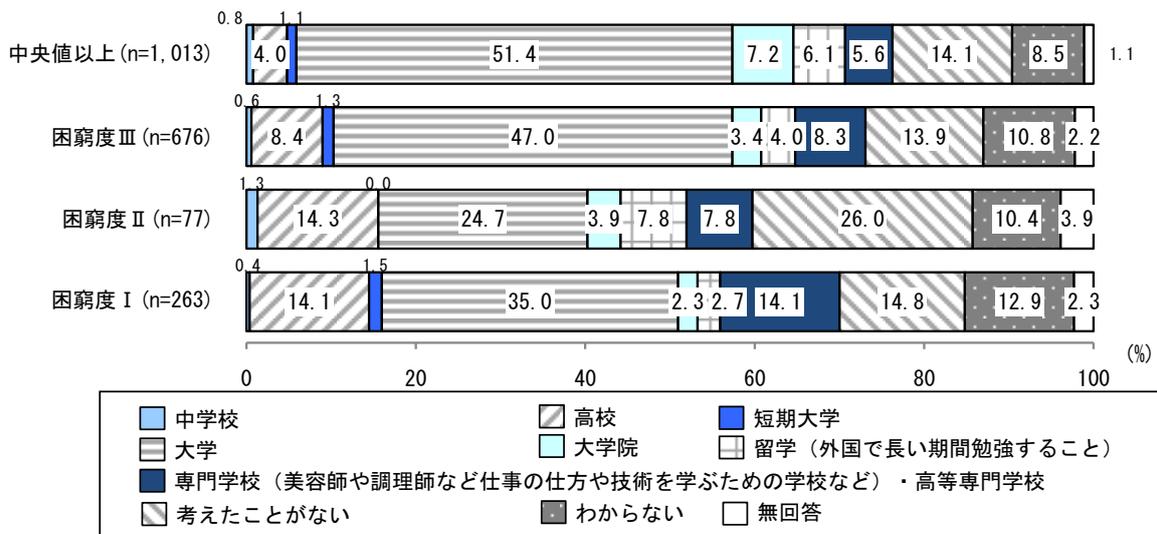
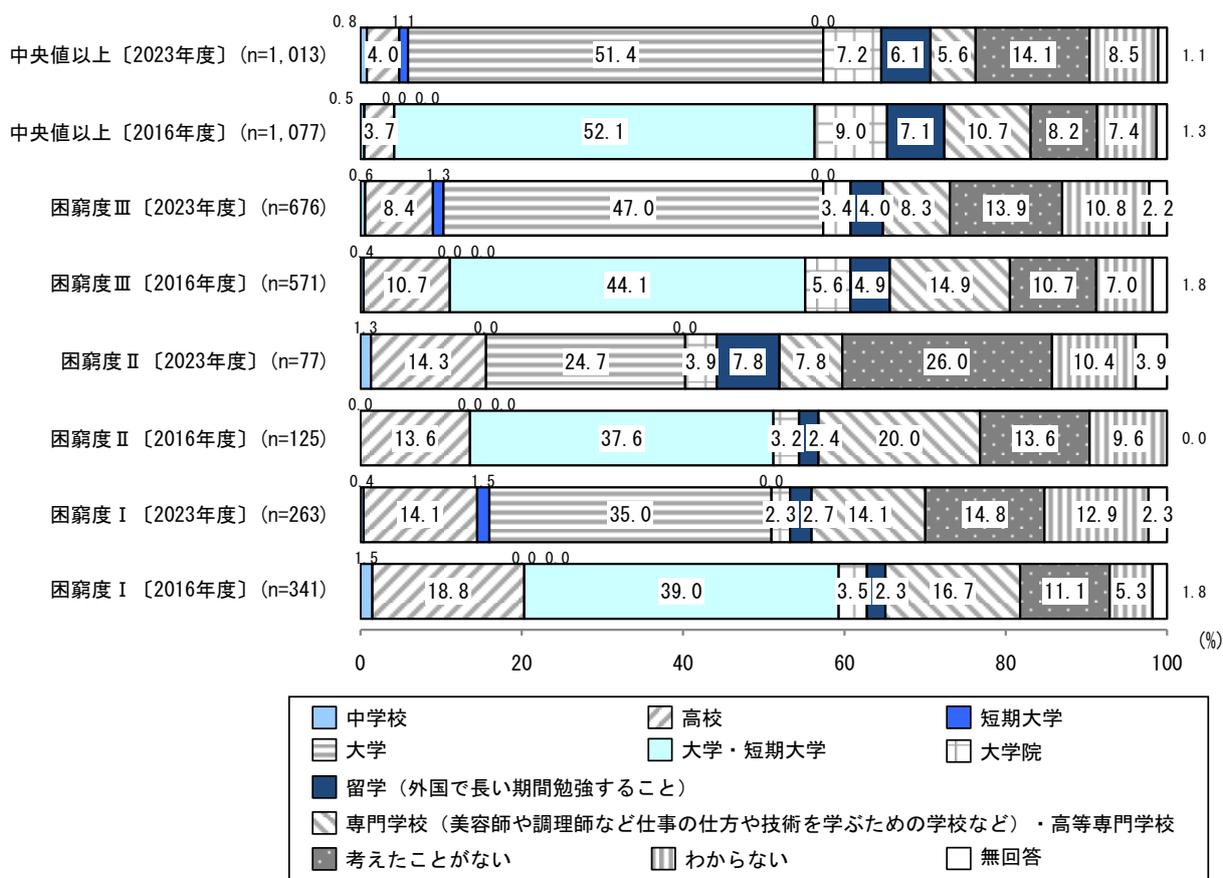


図 120. 困窮度別に見た、希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度Ⅱ群では、「中学校」「高校」と回答した子どもは合計15.6%と最も高くなっている。中央値以上群において「大学」と回答した割合は最も高く、51.4%である。

<2016 年度調査との比較／豊中市>



※1 「短期大学」「大学」は、2016 年度調査では「大学・短期大学」

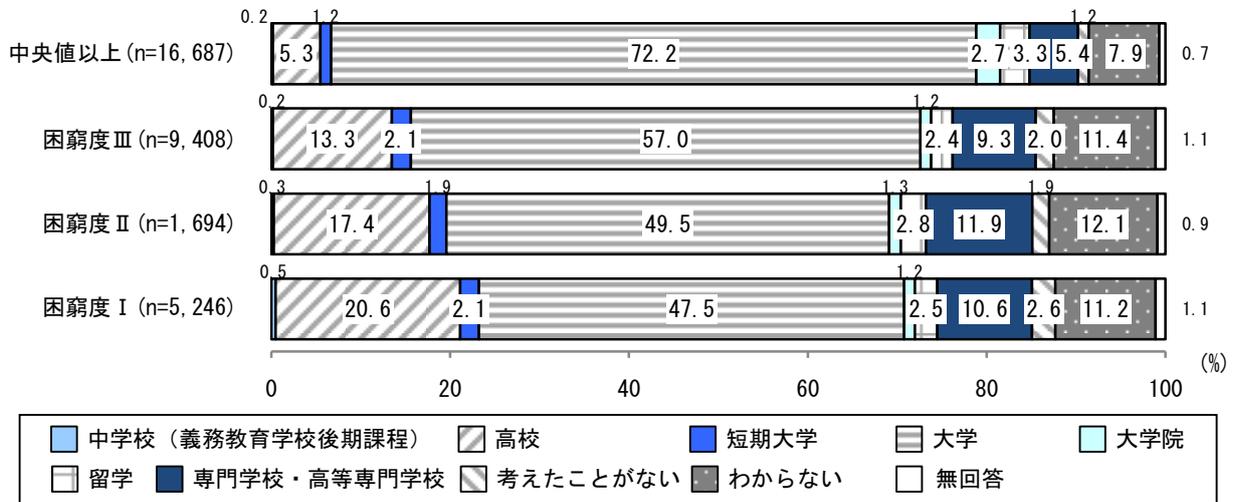
※2 「専門学校 (美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など)・高等専門学校」は、2016 年度調査では「専門学校」

図 121. 困窮度別に見た、希望する進学先 (2016年度調査との比較)

2016年度調査と比較すると、「専門学校 (美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など)・高等専門学校」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて低くなっている。一方で、「考えたことがない」と回答した割合は、2016年度調査に比べて高くなっている。

困窮度別に見た、子どもに希望する進学（保護者票問 14）

<大阪府内全体>



<豊中市>

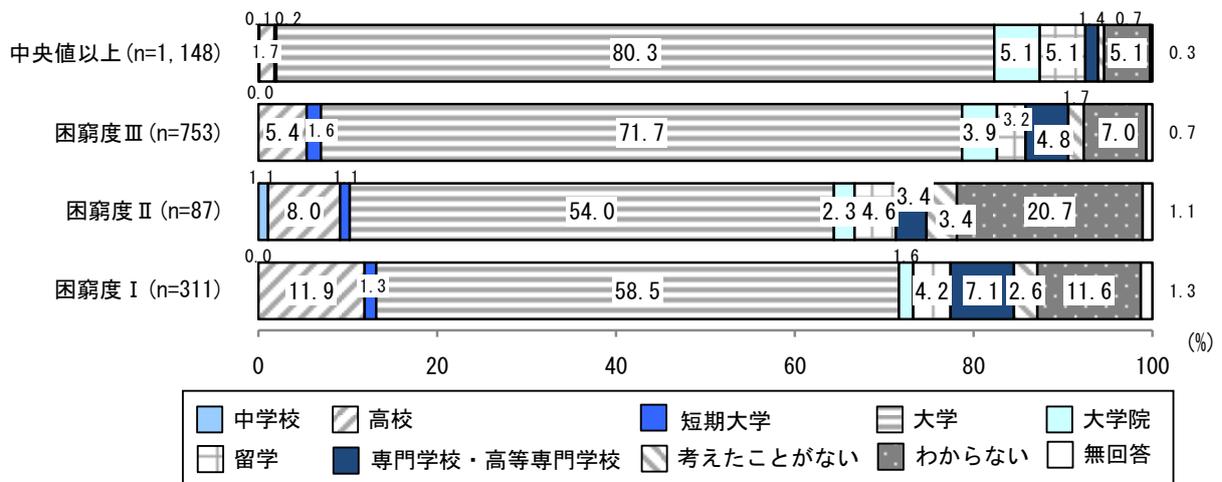
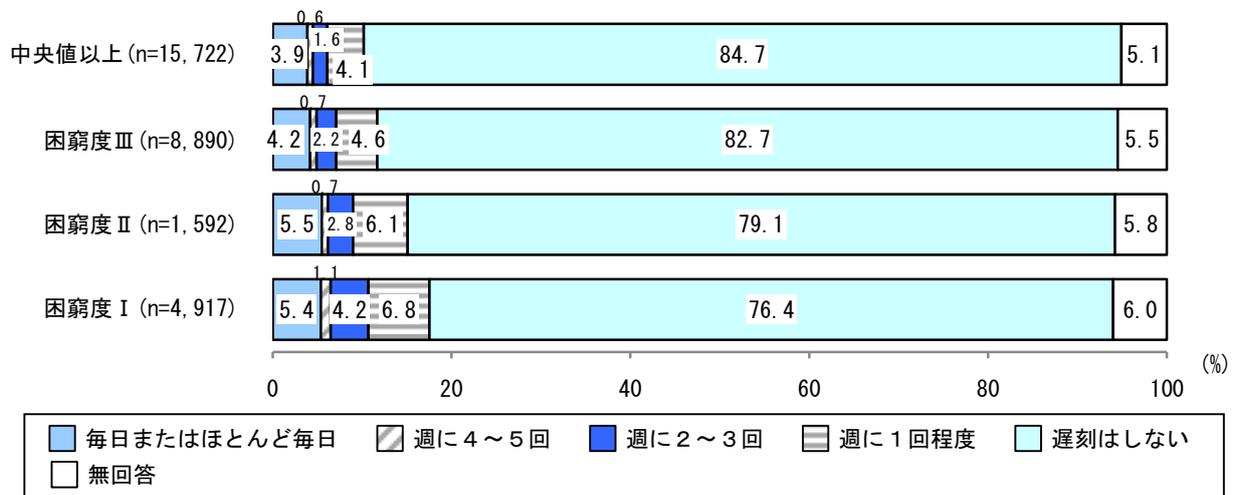


図 122. 困窮度別に見た、子どもに希望する進学

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度が高まるにつれ、高校卒業までの割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「高校」と回答した人は11.9%である。中央値以上群において「大学」と回答した割合は最も高く、80.3%である。

困窮度別に見た、学校への遅刻（子ども票問7）

<大阪府内全体>



<豊中市>

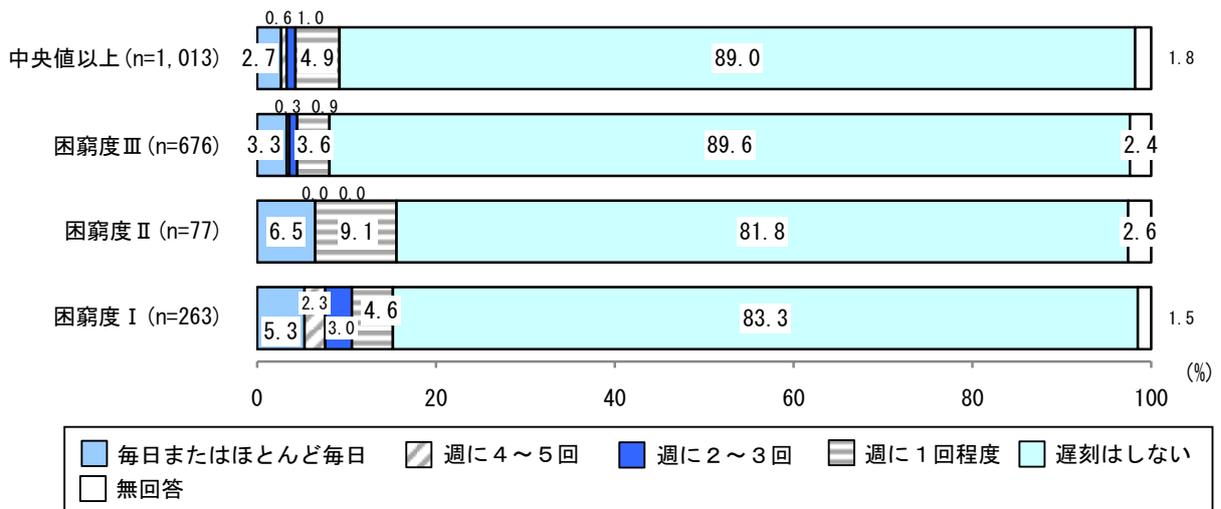
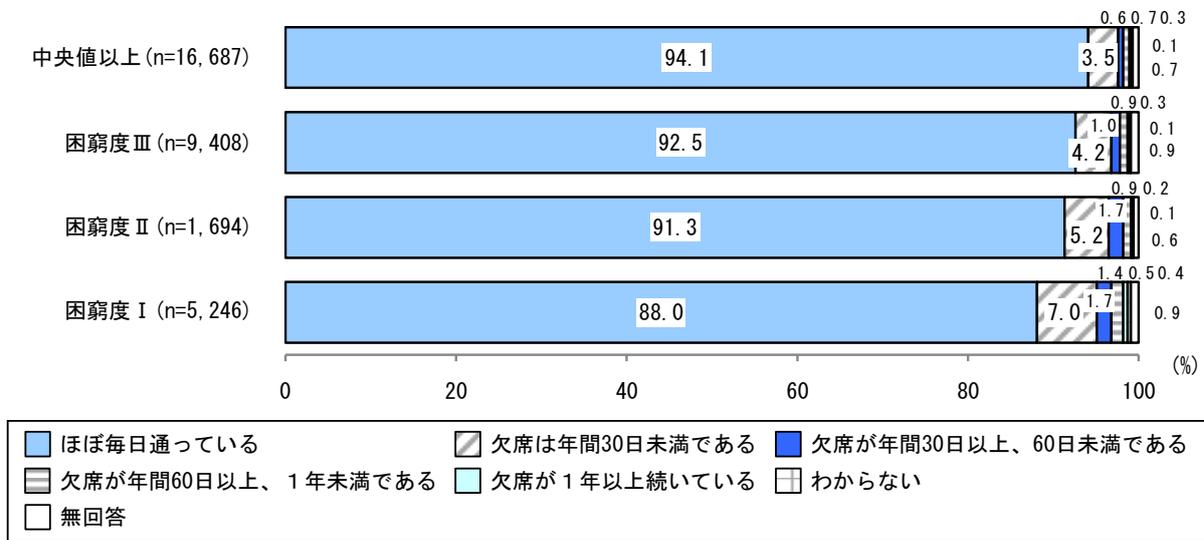


図 123. 困窮度別に見た、学校への遅刻

困窮度別に学校への遅刻を見ると、「毎日またはほとんど毎日」は困窮度Ⅱ群が6.5%と最も高くなっている。「週に4~5回」、「週に2~3回」は、困窮度Ⅰ群が最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの通学状況（保護者票問 15）

<大阪府内全体>



<豊中市>

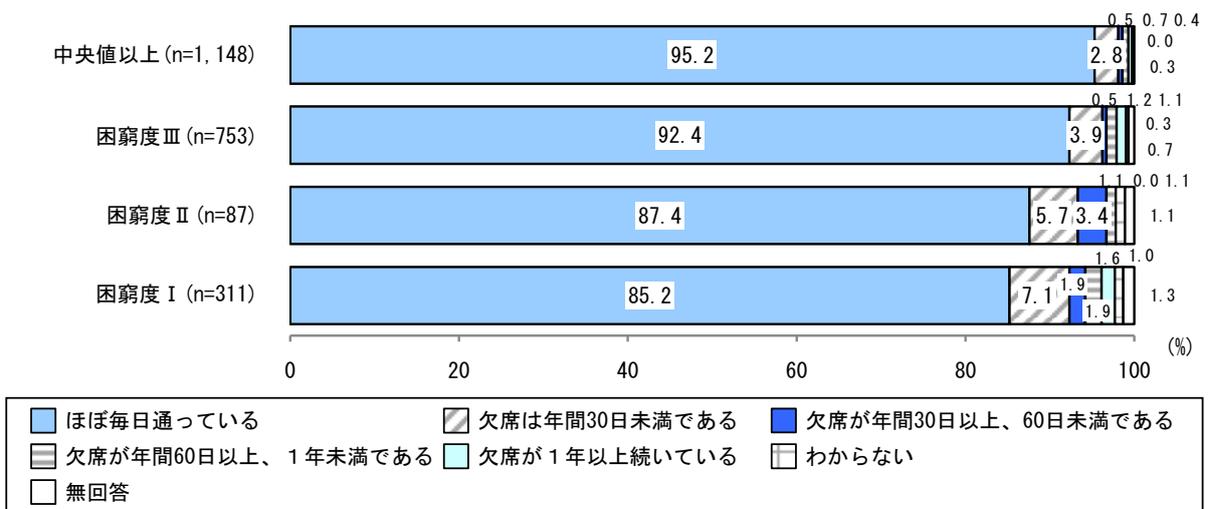
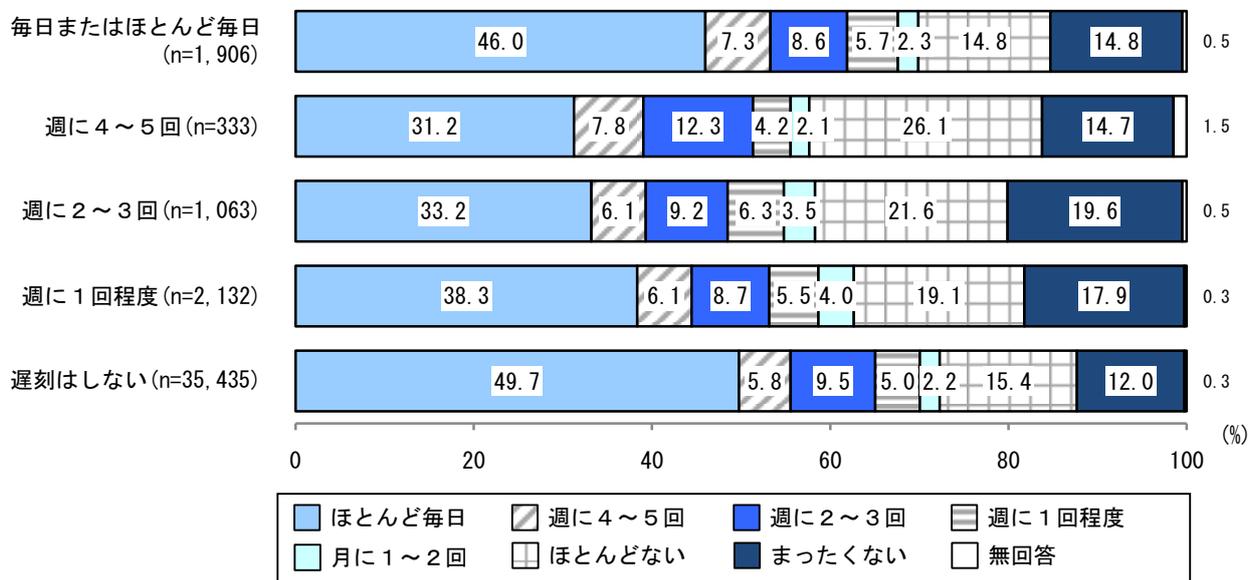


図 124. 困窮度別に見た、子どもの通学状況

困窮度別に子どもの通学状況を見ると、困窮度が高くなるにつれ、「ほぼ毎日通っている」と回答した人の割合が低くなり、困窮度Ⅰ群が85.2%と最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか  
 (子ども票問7×保護者票問8①)

<大阪府内全体>



<豊中市>

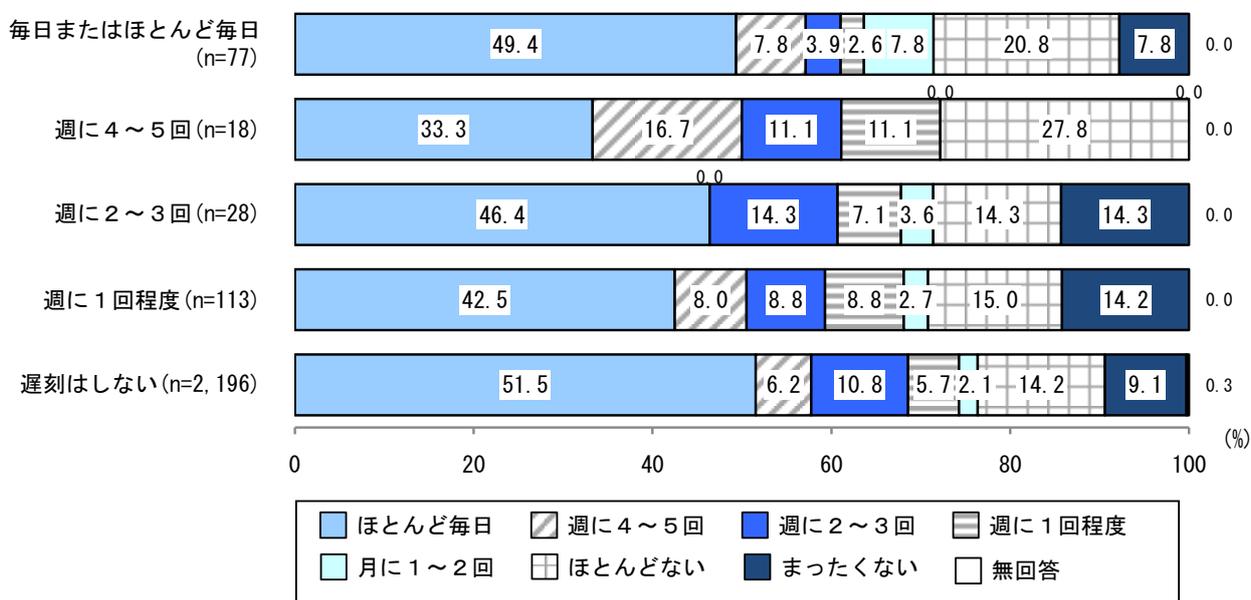
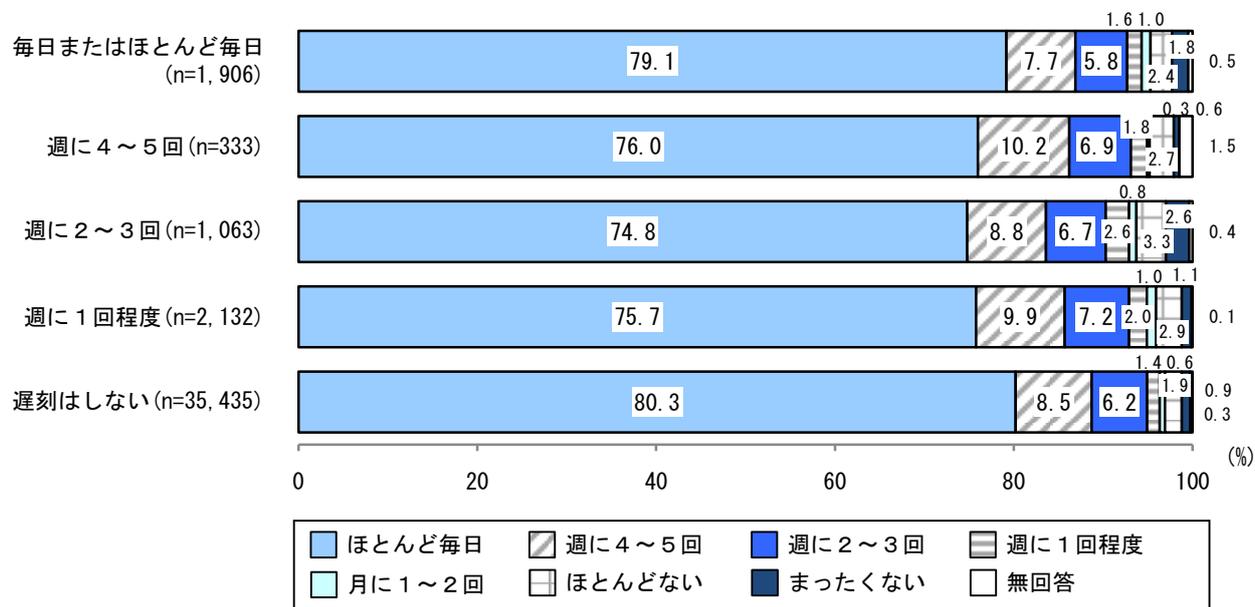


図 125. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は遅刻はしない子どもが51.5%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は週に2~3回遅刻をしている子どもの割合が14.3%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか  
 (子ども票問7×保護者票問8②)

<大阪府内全体>



<豊中市>

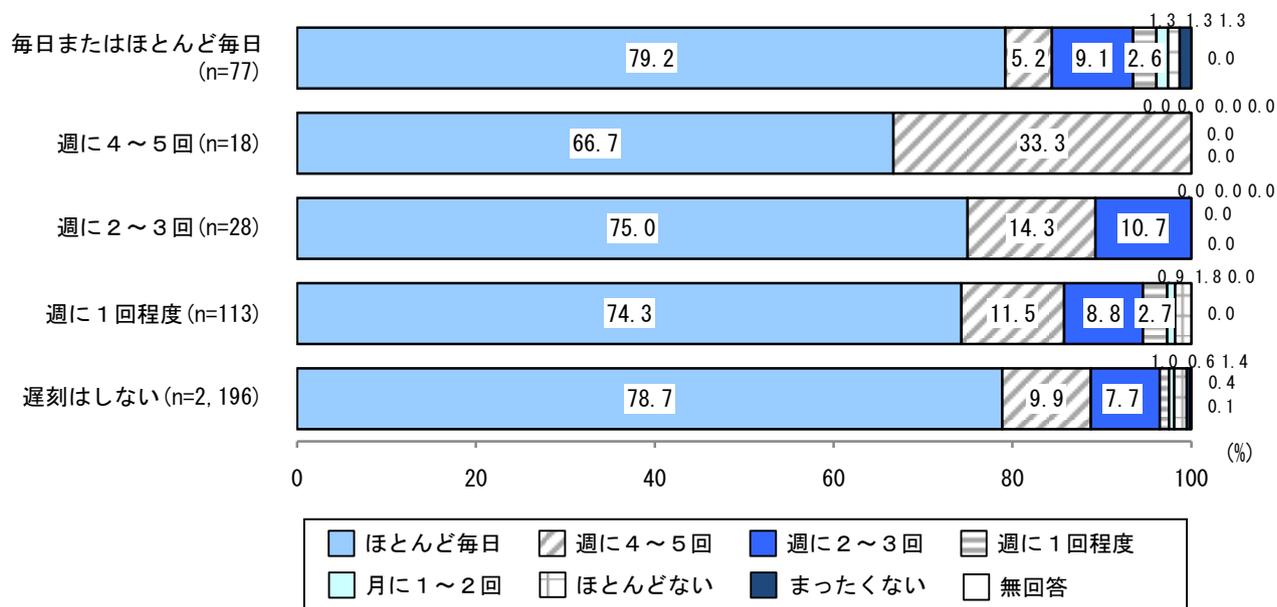
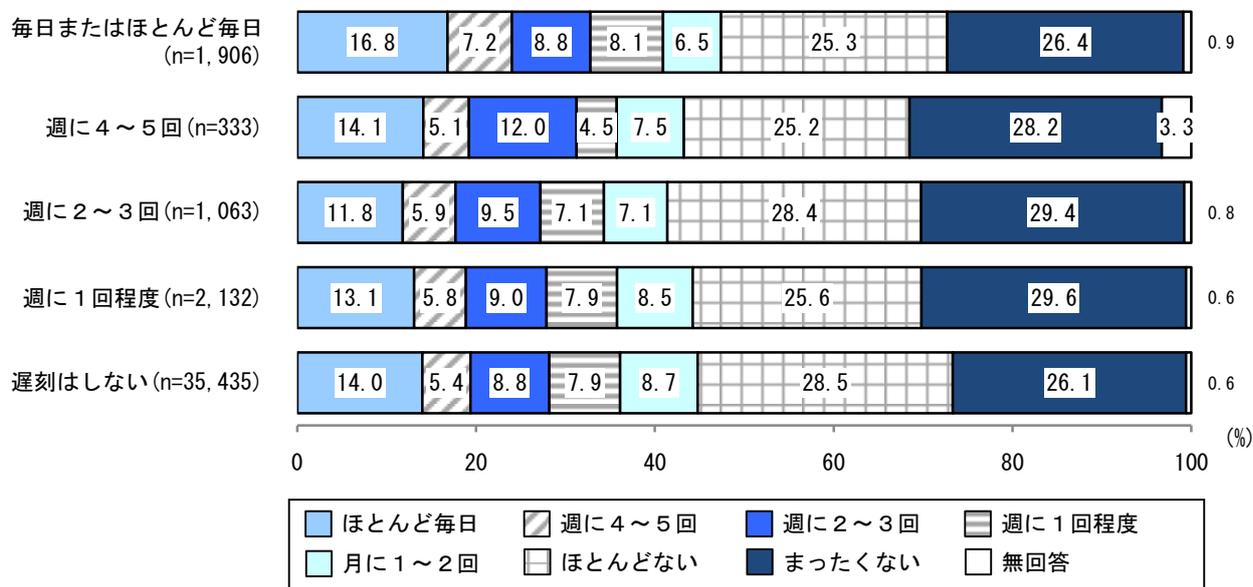


図 126. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが79.2%で割合が最も高く、一方で、「ほとんどない」でも、毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもの割合が1.3%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか  
 (子ども票問7×保護者票問8⑤)

<大阪府内全体>



<豊中市>

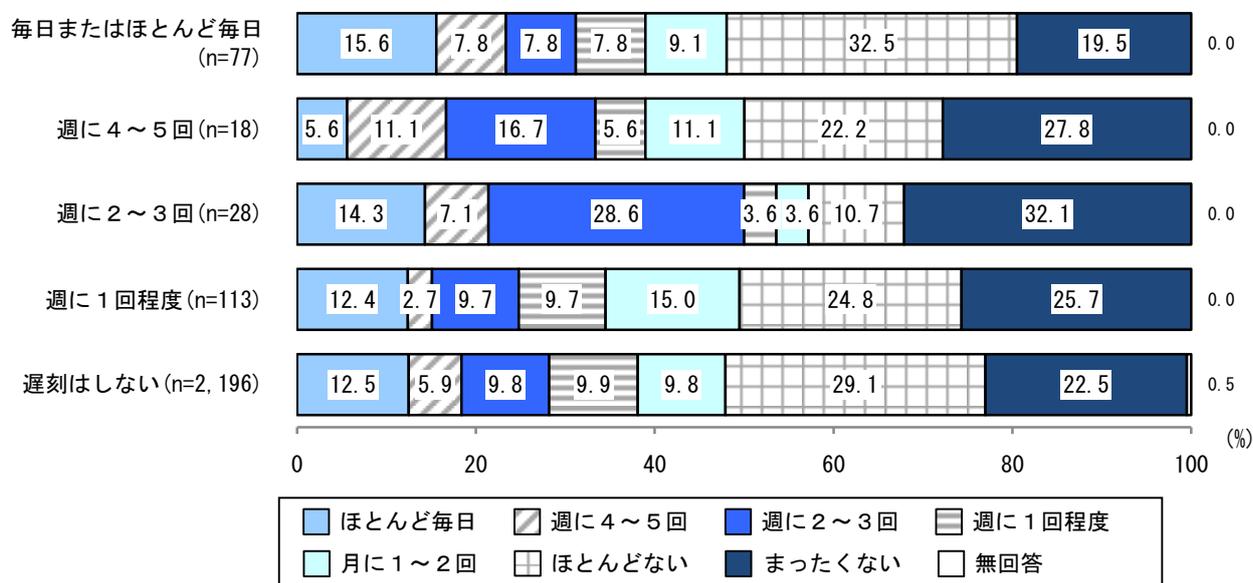
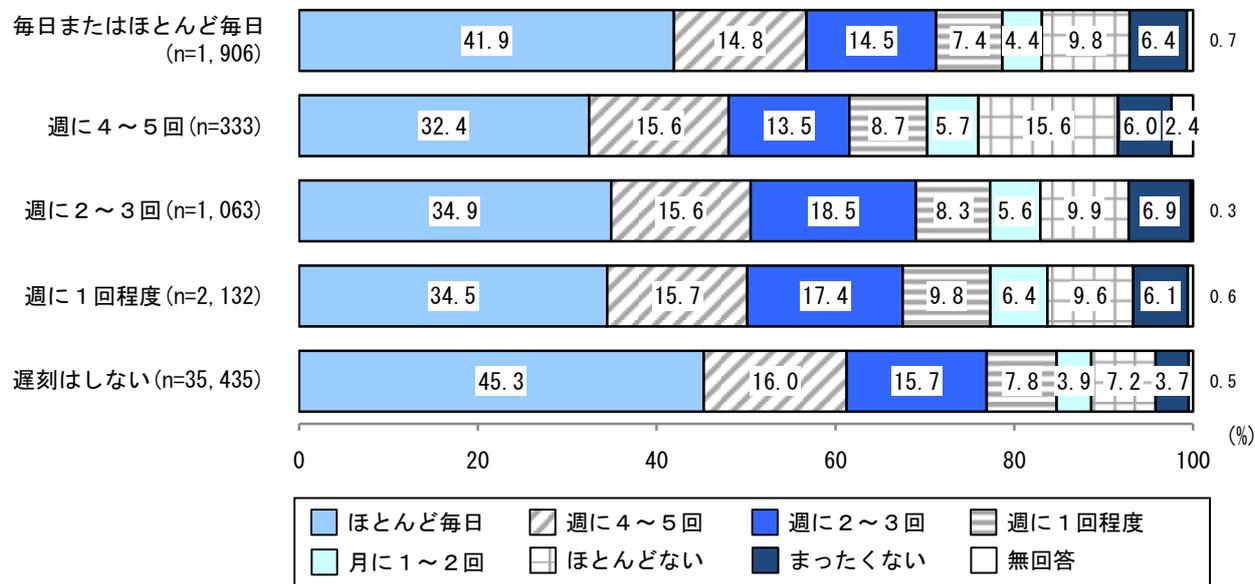


図 127. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

学校への遅刻別におうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが15.6%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は週に2~3回遅刻をしている子どもの割合が32.1%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか  
 (子ども票問7×保護者票問8⑥)

<大阪府内全体>



<豊中市>

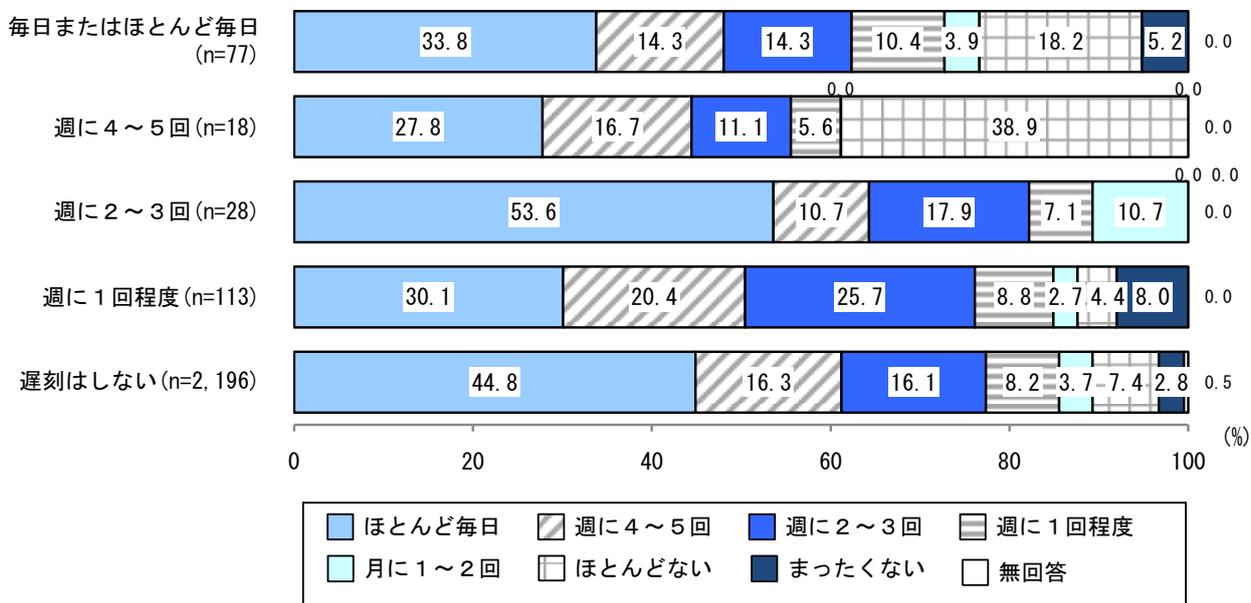
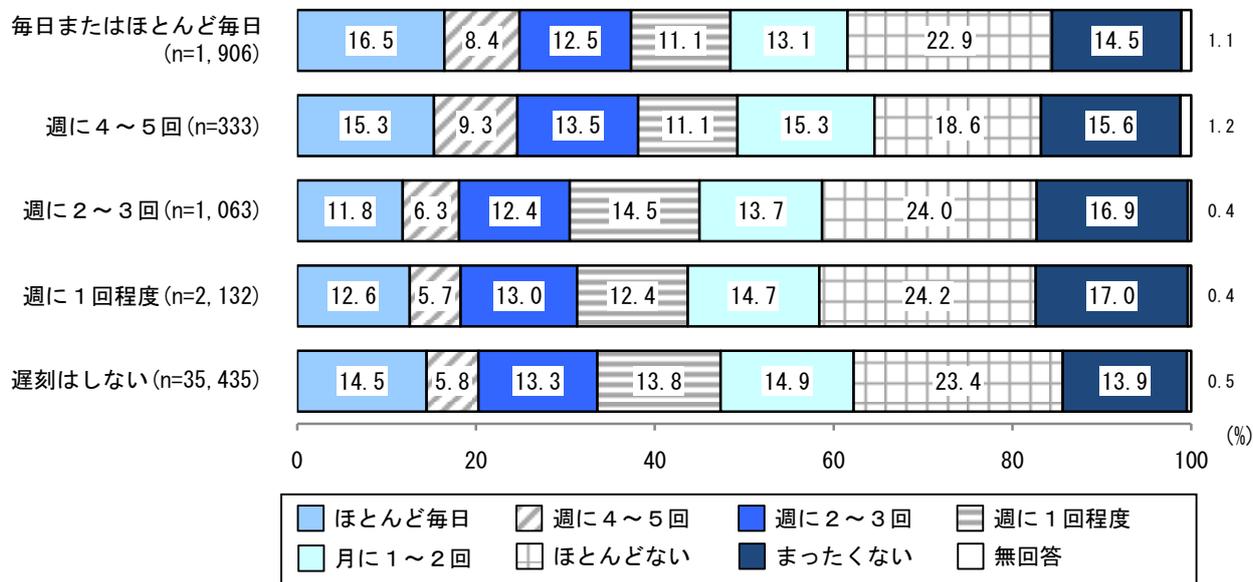


図 128. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に2～3回遅刻をしている子どもが53.6%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が8.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか  
(子ども票問7×保護者票問8⑦)

<大阪府内全体>



<豊中市>

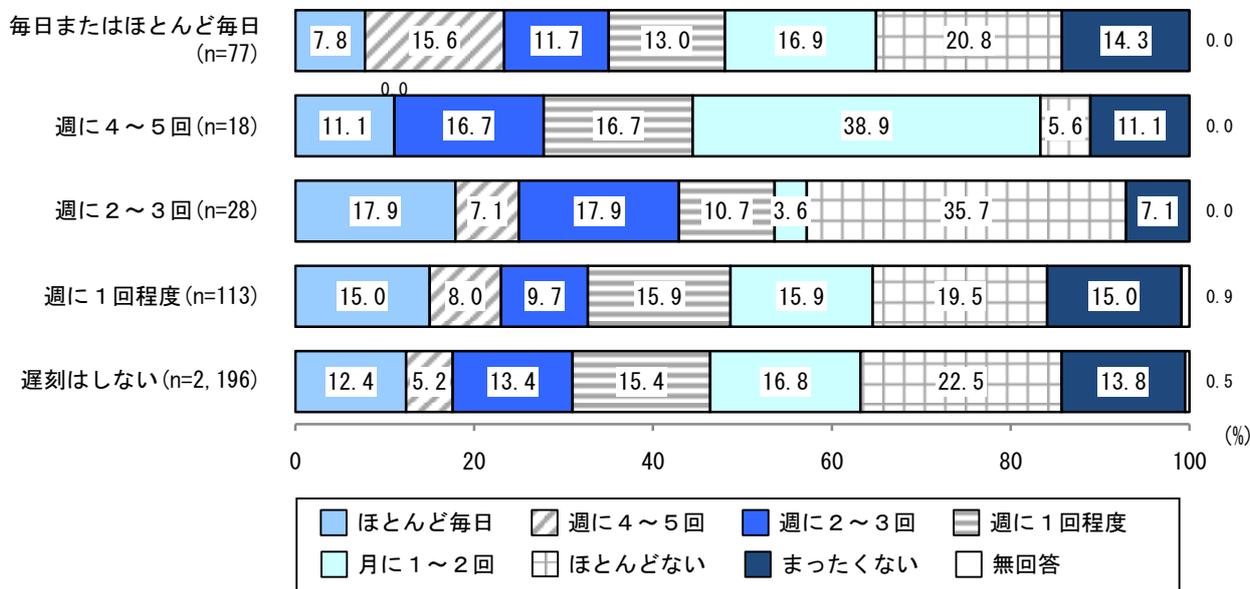
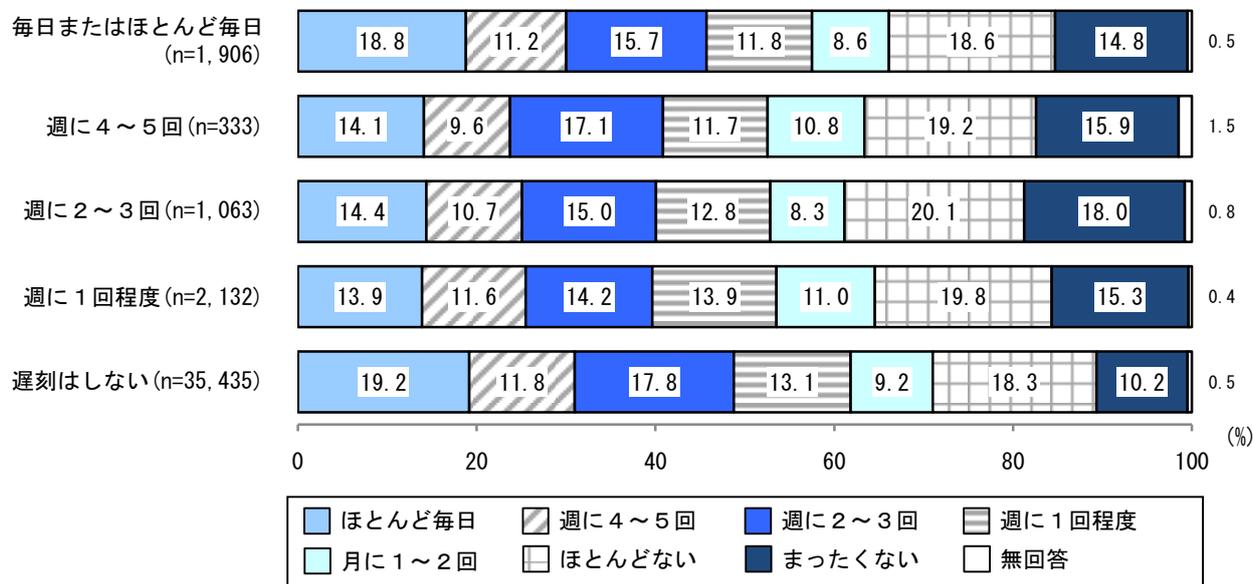


図 129. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に2~3回遅刻をしている子どもが17.9%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が15.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか  
 (子ども票問7×保護者票問8⑧)

<大阪府内全体>



<豊中市>

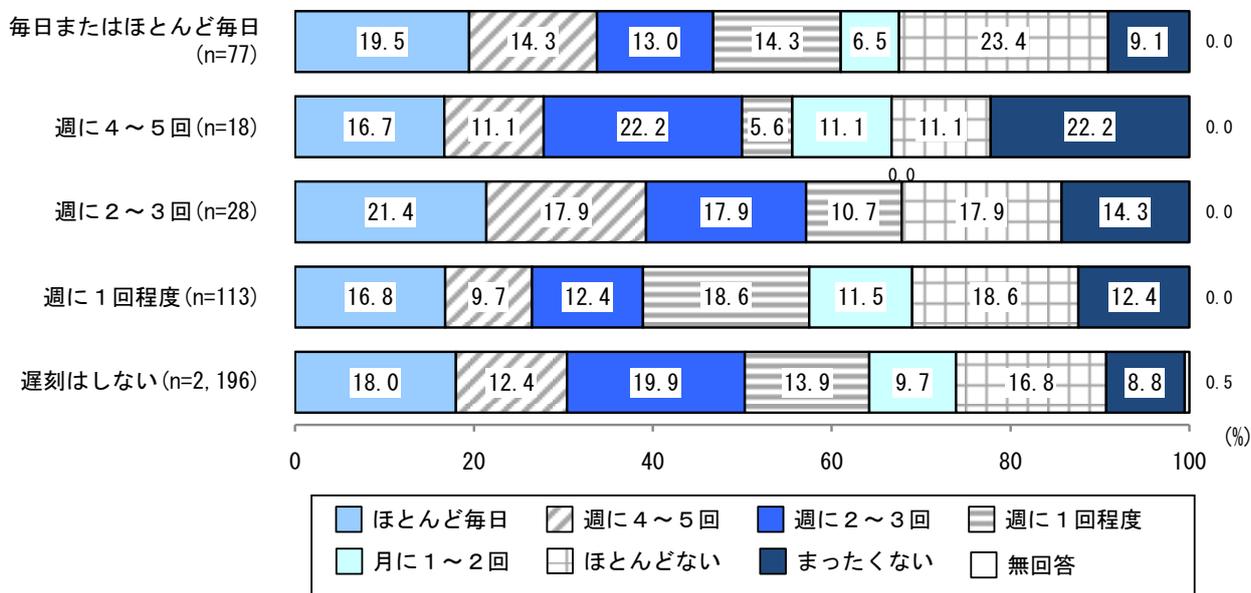
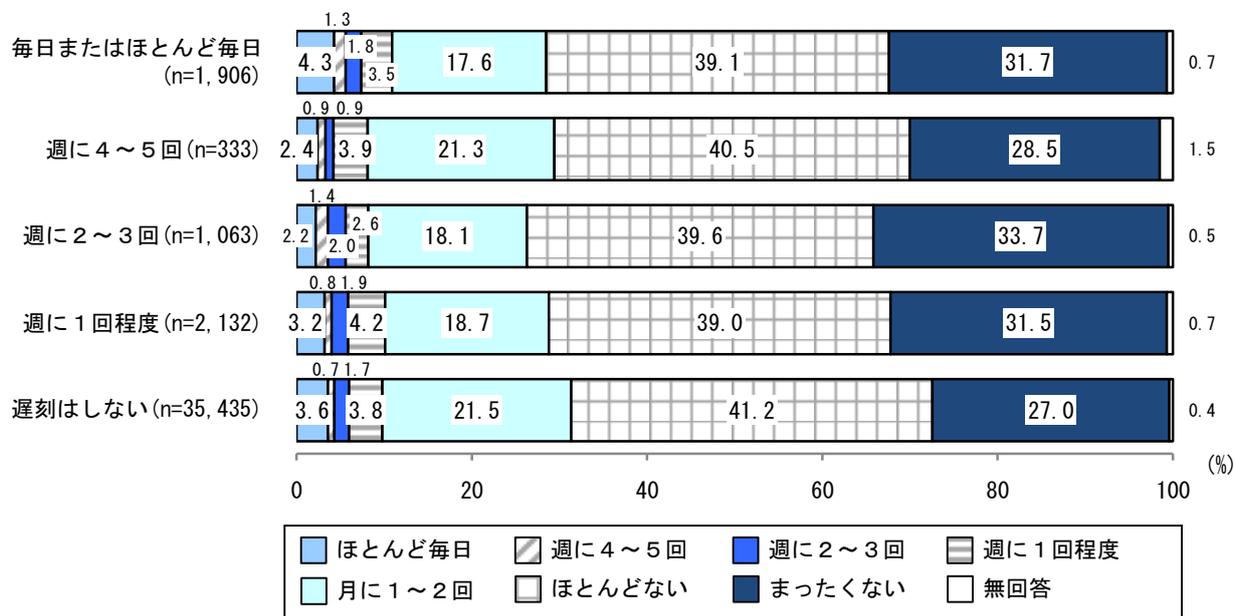


図 130. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に2~3回遅刻をしている子どもが21.4%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は週に4~5回遅刻をしている子どもの割合が22.2%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか  
 (子ども票問7×保護者票問8⑨)

<大阪府内全体>



<豊中市>

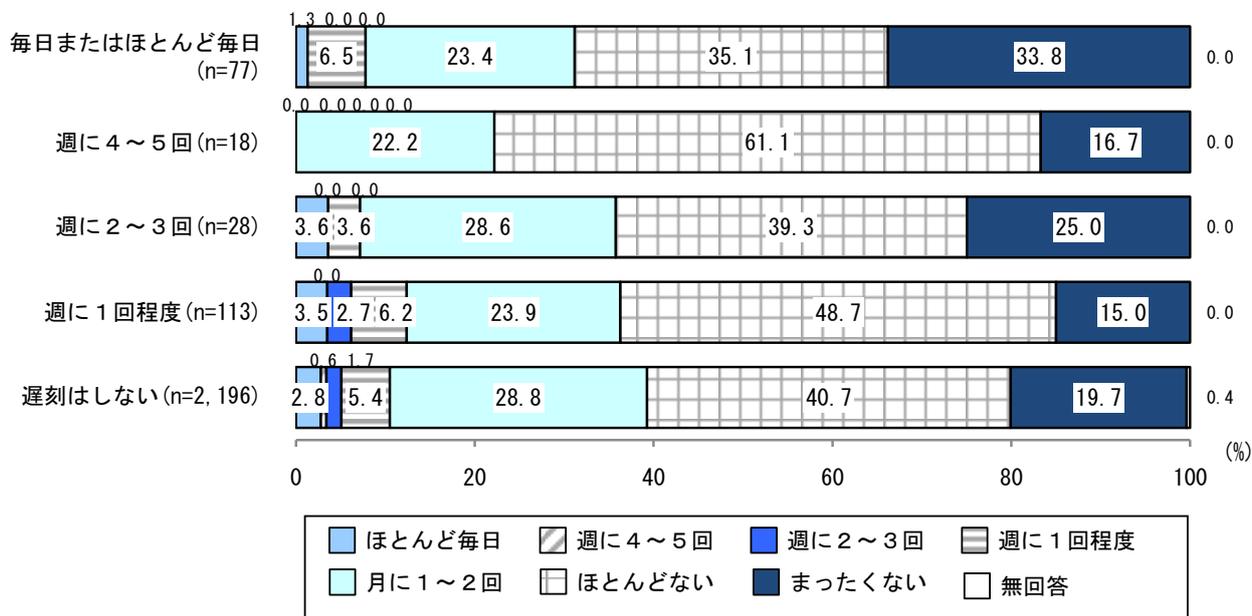
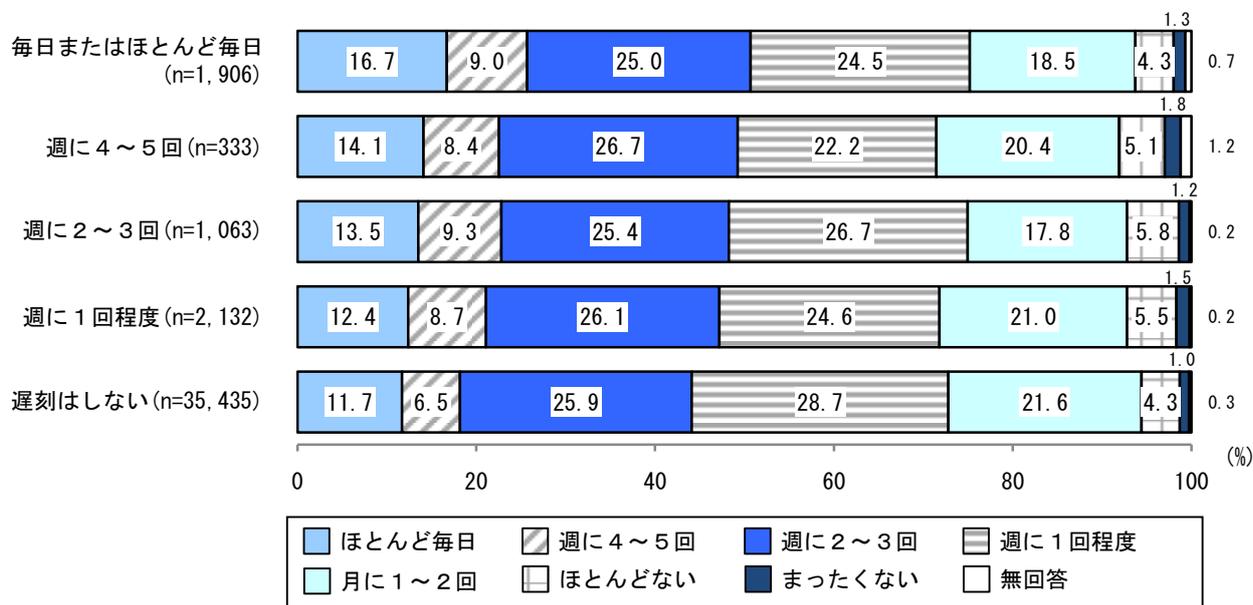


図 131. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「ほとんどない」は週に4~5回遅刻をしている子どもの割合が61.1%、週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が48.7%、遅刻はしない子どもの割合が40.7%で高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか  
 (子ども票問7×保護者票問8⑩)

<大阪府内全体>



<豊中市>

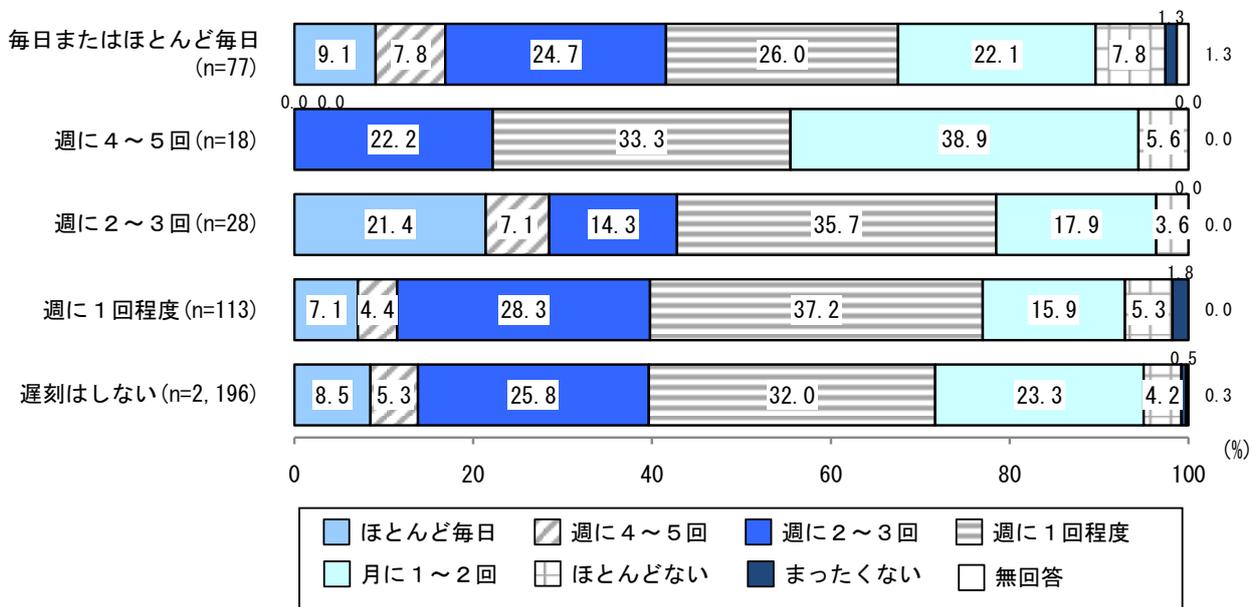
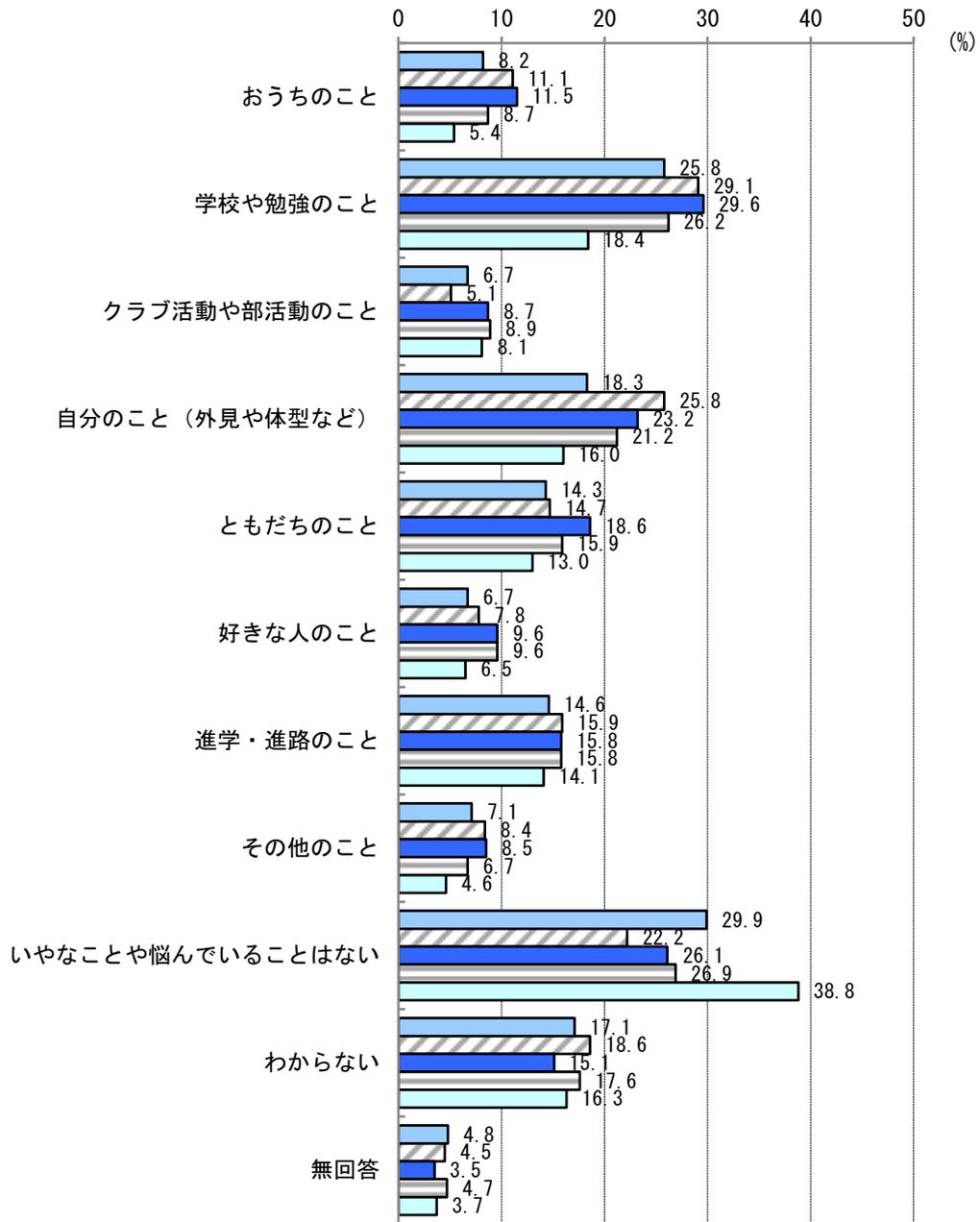


図 132. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に2~3回遅刻をしている子どもが21.4%で割合が最も高く、一方で、「ほとんどない」は毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもの割合が7.8%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問7×子ども票問17）

<大阪府内全体>



■ 毎日またはほとんど毎日 (n=1,906)   
 ■ 週に4~5回 (n=333)   
 ■ 週に2~3回 (n=1,063)  
■ 週に1回程度 (n=2,132)   
 ■ 遅刻はしない (n=35,435)

<豊中市>

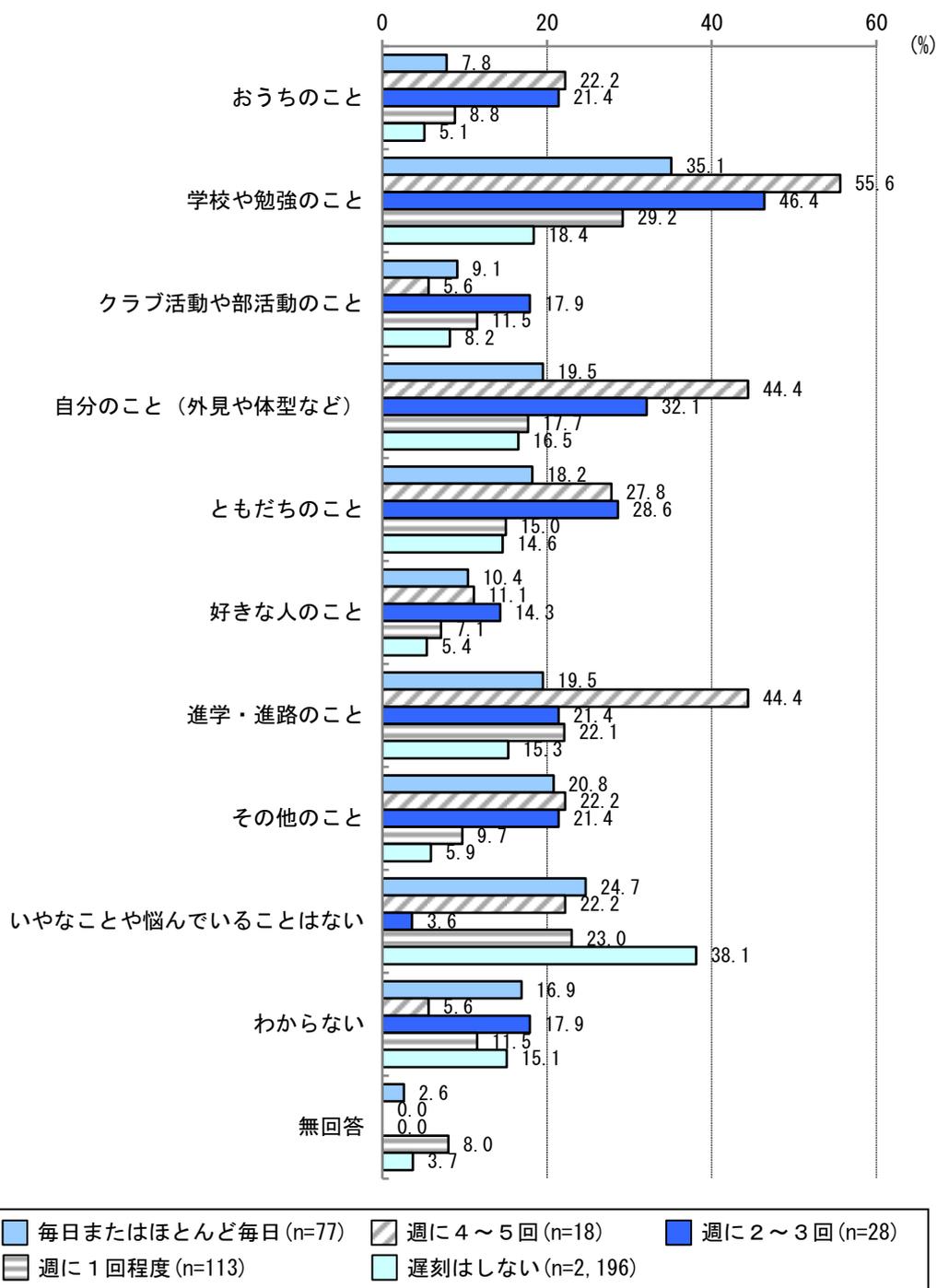
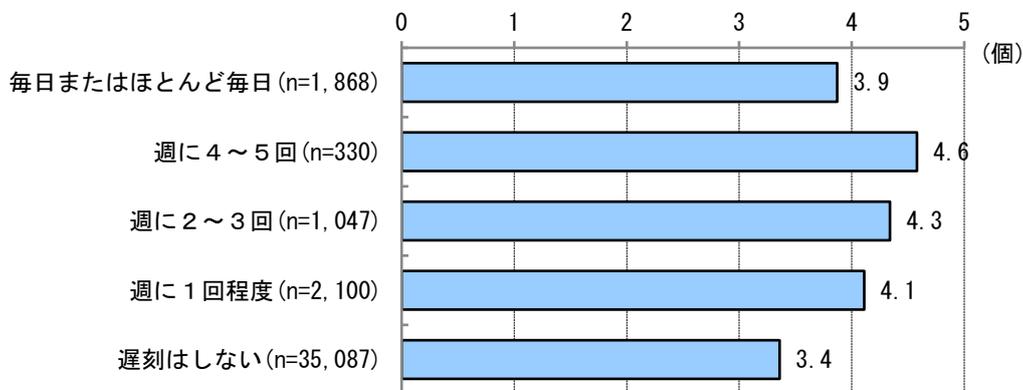


図 133. 学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること

学校への遅刻別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「おうちのこと」の割合は週に4～5回遅刻をしている子どもが22.2%で割合が最も高く、一方で、「いやなことや悩んでいることはない」は遅刻はしない子どもの割合が38.1%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数  
 (子ども票問7×子ども票問19・20)

<大阪府内全体>



<豊中市>

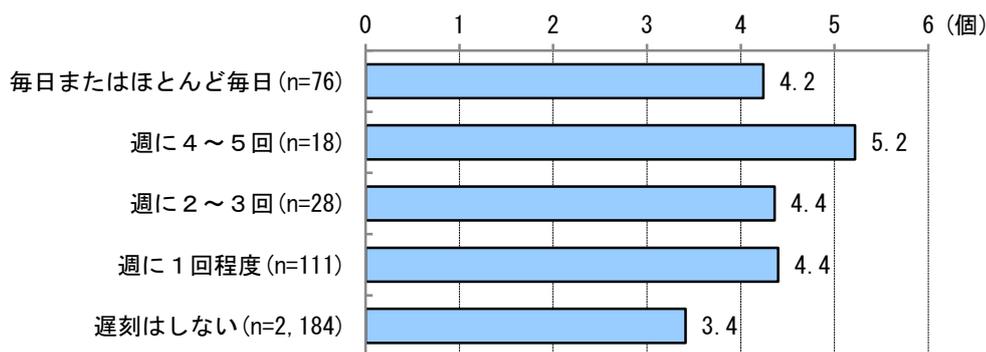
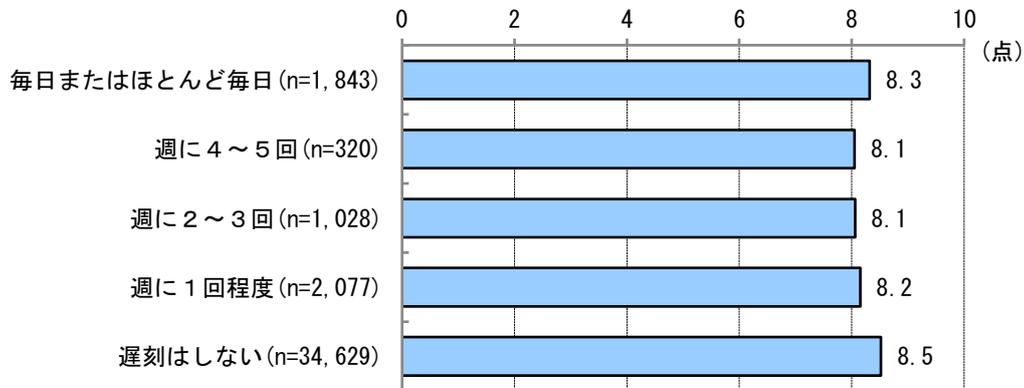


図 134. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

学校への遅刻別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「週に4～5回」遅刻をしている子どもが5.2個で最も多く、次いで「週に2～3回」、「週に1回程度」遅刻をしている子どもがともに4.4個となっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）  
 （子ども票問7×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<豊中市>

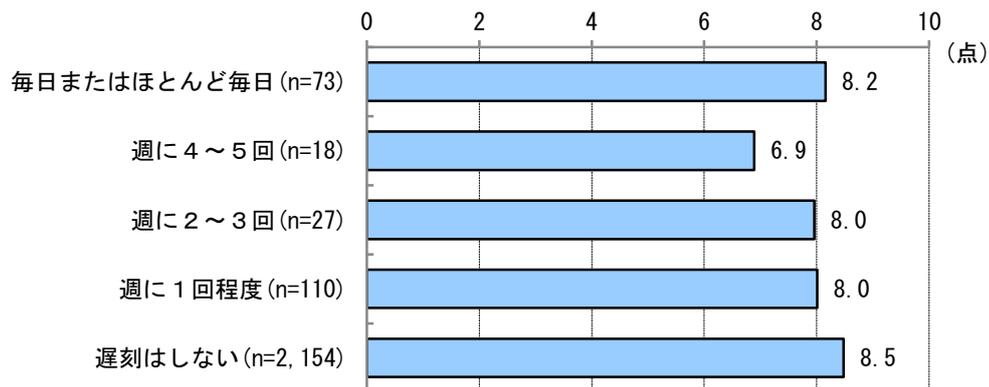
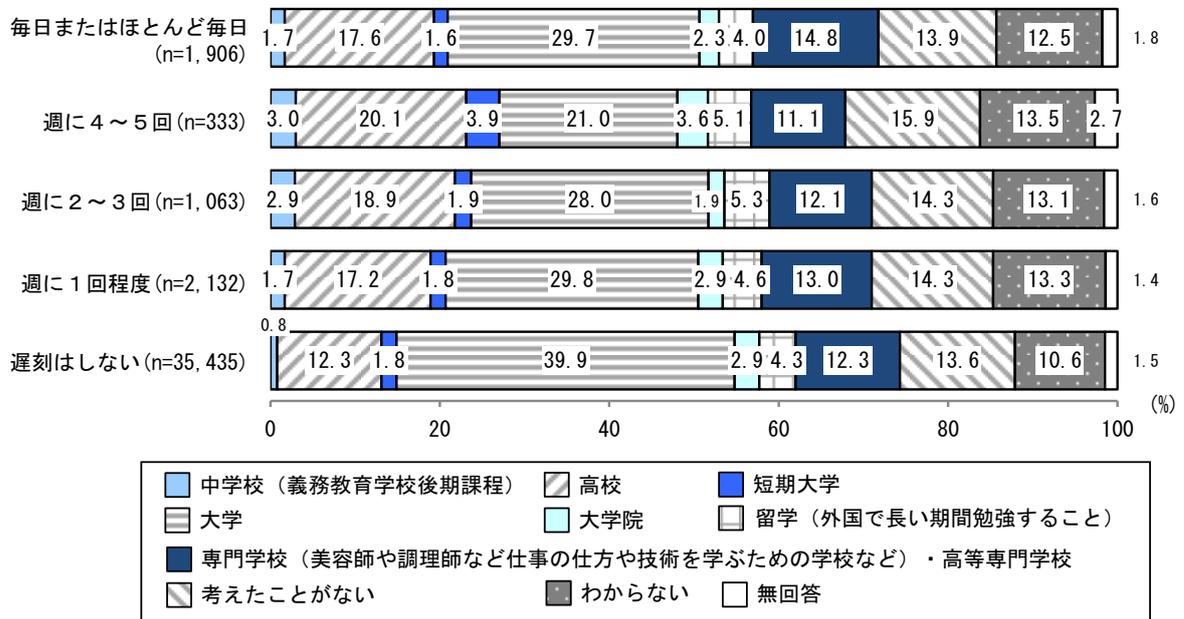


図 135. 学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

学校への遅刻別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」遅刻している子どもは「遅刻はしない」子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低い。

学校への遅刻別に見た、希望する進学先（子ども票問7×子ども票問24）

<大阪府内全体>



<豊中市>

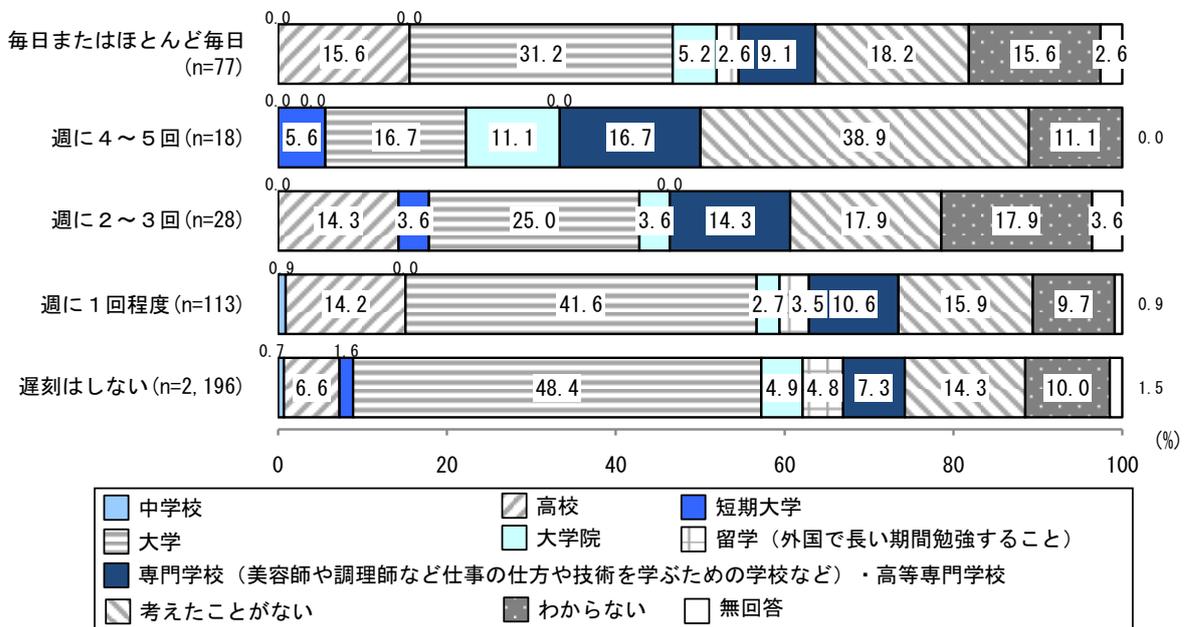
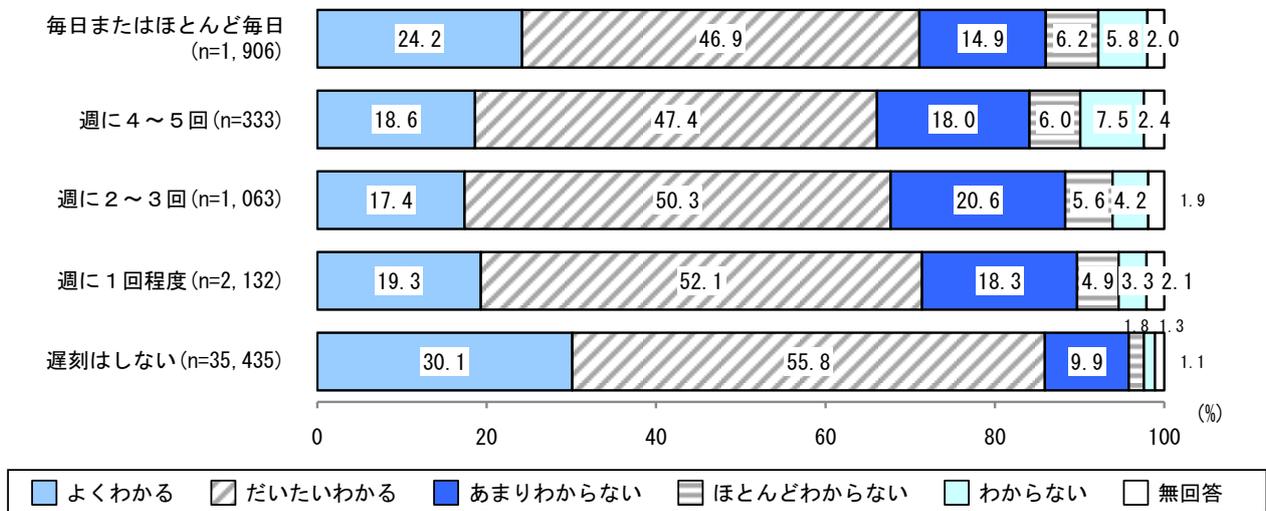


図 136. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先

学校への遅刻別に希望する進学先を見ると、「大学」は遅刻はしない子どもの割合が48.4%で最も高く、次いで週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が41.6%となっている。

学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問7×子ども票問14(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

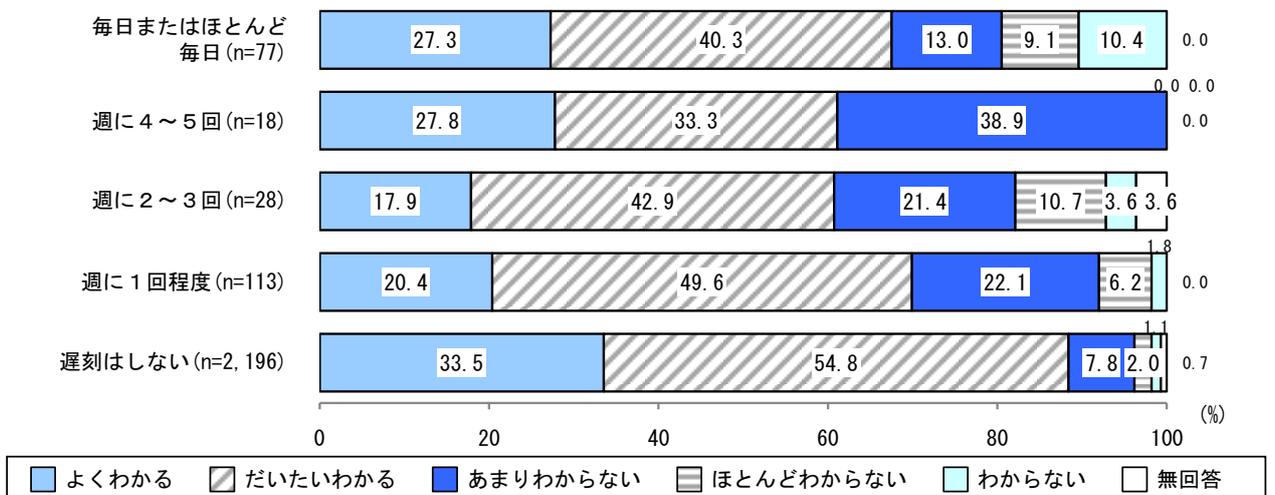
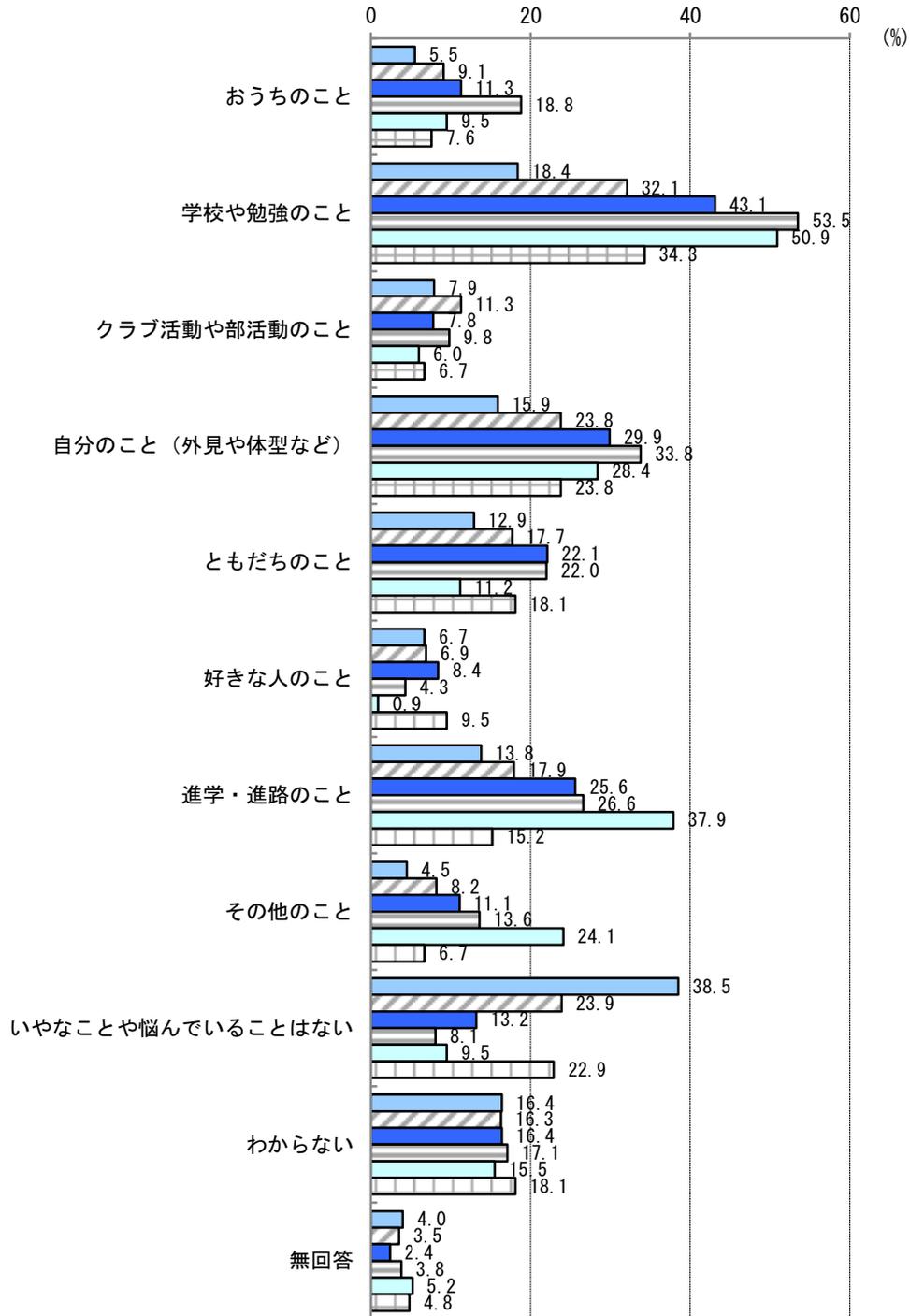


図 137. 学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

学校への遅刻別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」は遅刻はしない子どもの割合が33.5%で最も高く、「だいたいわかる」も遅刻はしない子どもの割合が54.8%で最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること（保護者票問 15×子ども票問 17）

<大阪府内全体>



■ ほぼ毎日通っている (n=37,661)      ■ 欠席は年間30日未満である (n=1,775)  
■ 欠席が年間30日以上、60日未満である (n=371)      ■ 欠席が年間60日以上、1年未満である (n=346)  
■ 欠席が1年以上続いている (n=116)      ■ わからない (n=105)

<豊中市>

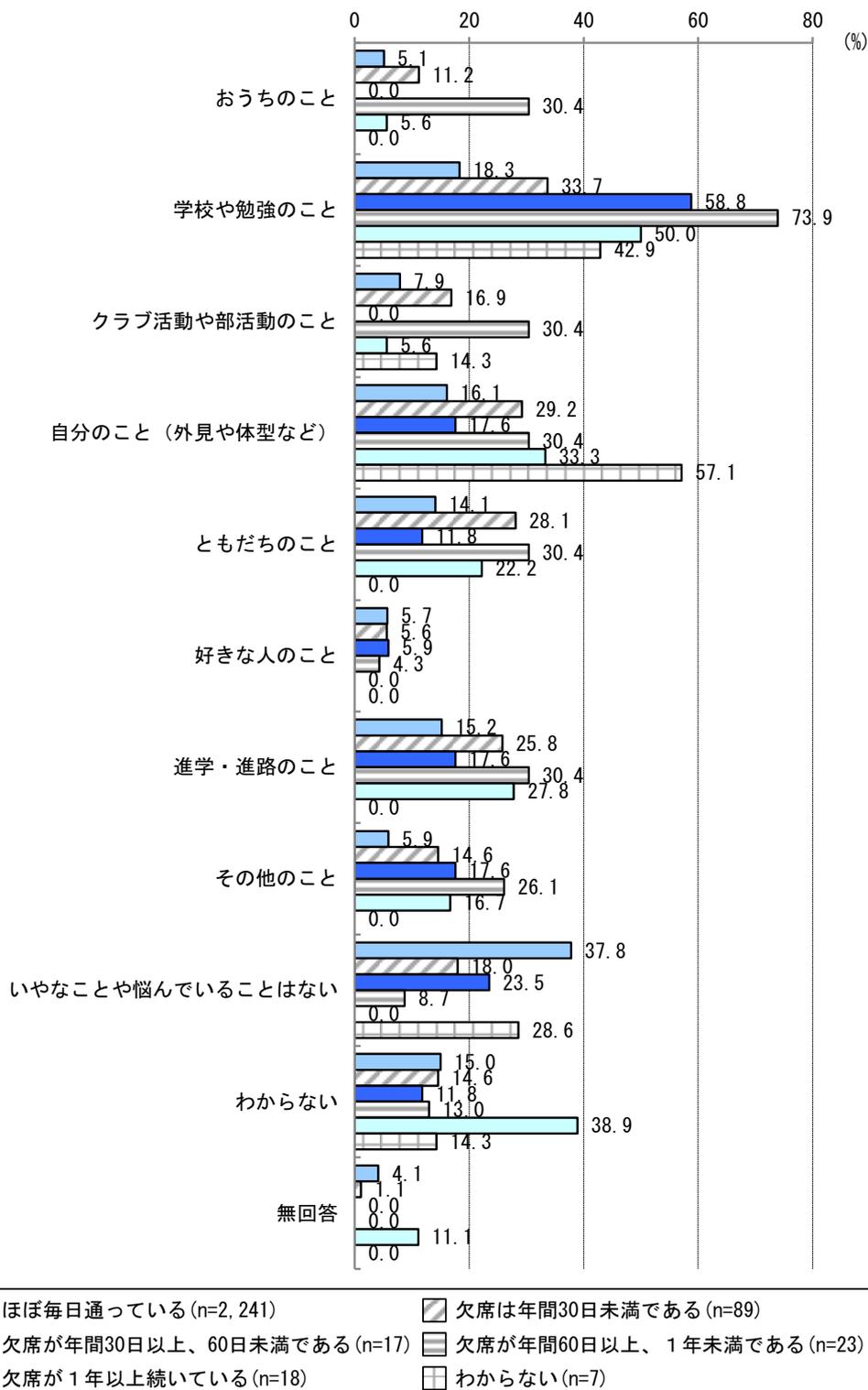
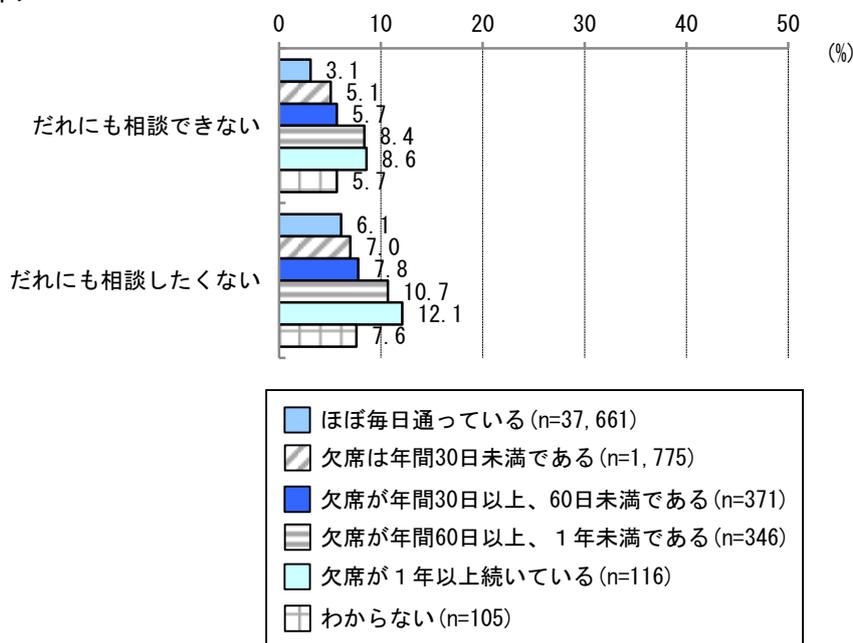


図 138. 子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること

子どもの通学状況別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「自分のこと(外見や体型など)」と回答した人の割合は、欠席が1年以上続いている(33.3%)人の割合が最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合  
 (保護者票問 15×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<豊中市>

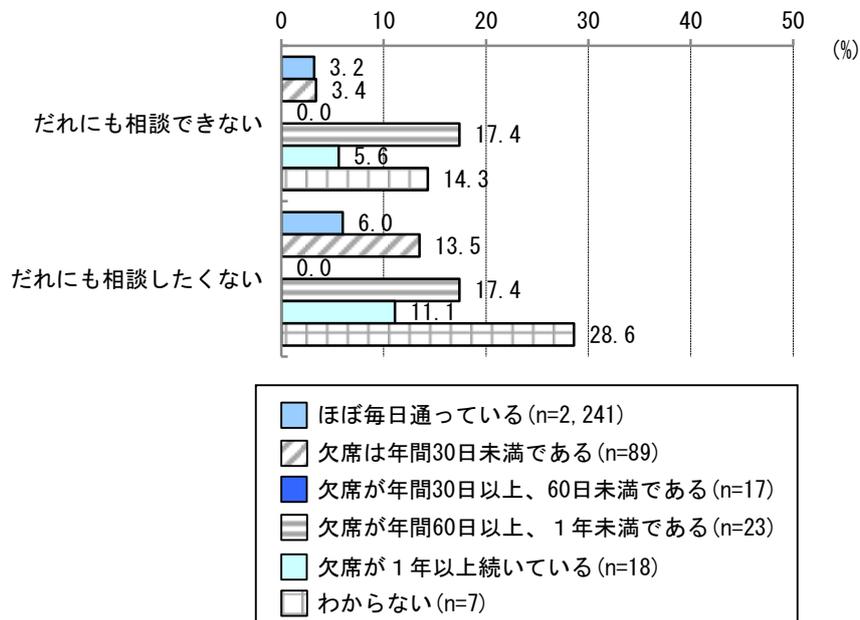
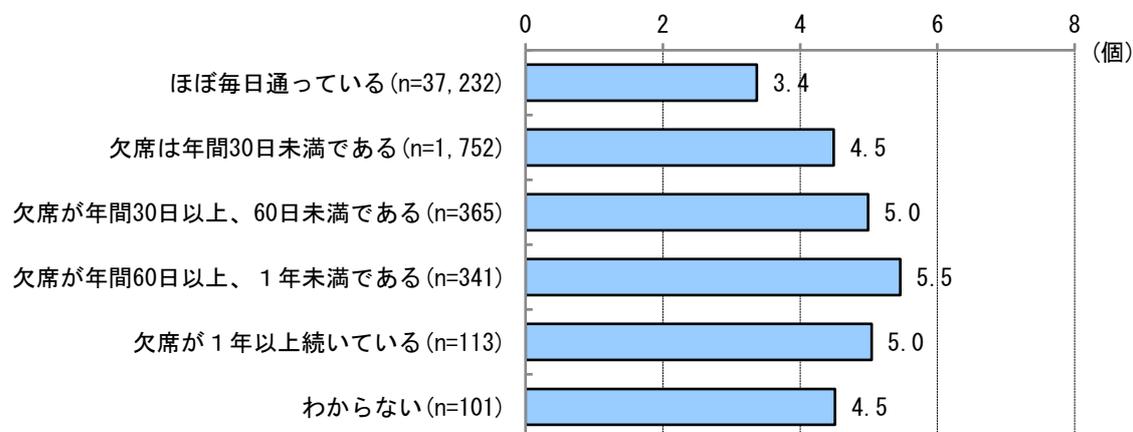


図 139. 子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合

子どもの通学状況別に悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合を見ると、「だれにも相談できない」、「だれにも相談したくない」と回答した人の割合は欠席が年間60日以上、1年未満である人の割合が最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数  
 (保護者票問 15×子ども票問 19・20)

<大阪府内全体>



<豊中市>

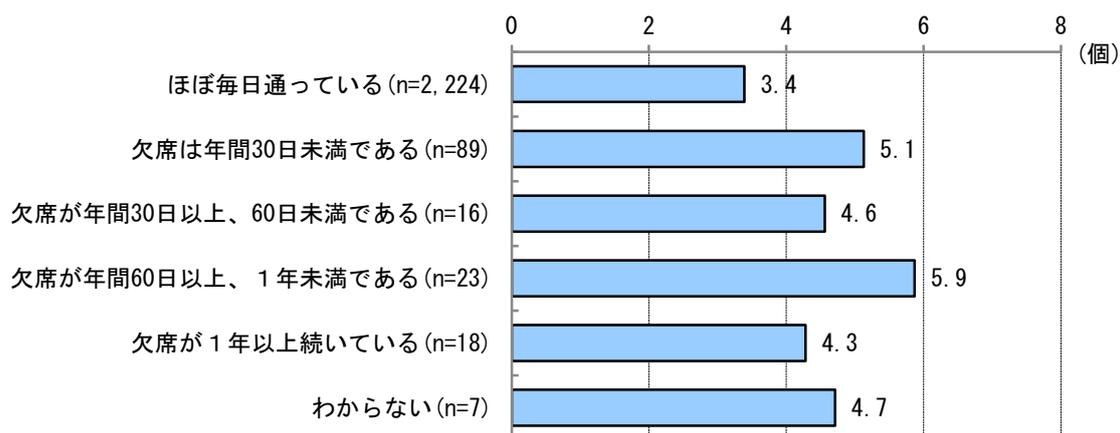
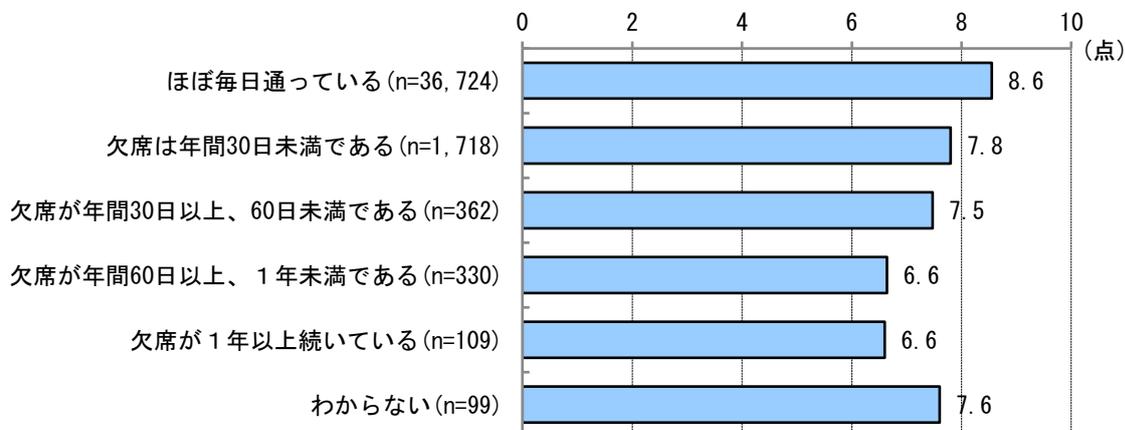


図 140. 子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

子どもの通学状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、欠席が年間60日以上、1年未満であると回答した人が5.9個で最も多く、次いで欠席が年間30日未満であると回答した人が5.1個となっている。

子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）  
（保護者票問 15×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<豊中市>

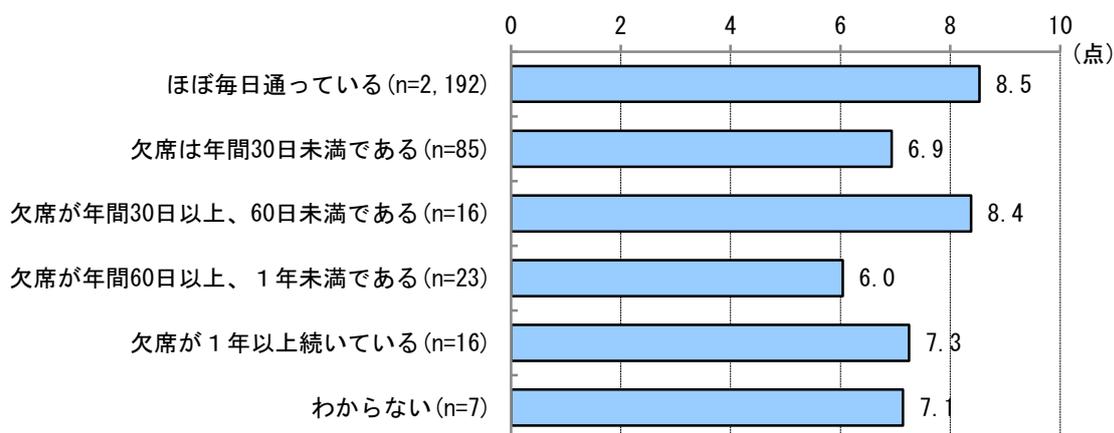
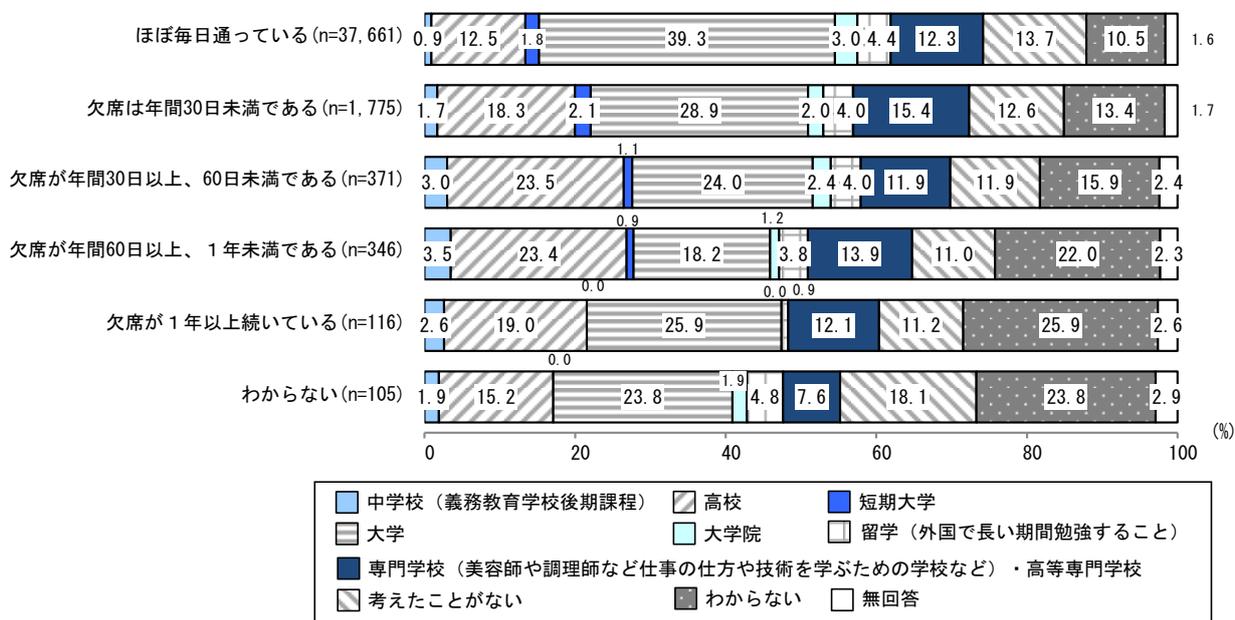


図 141. 子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもの通学状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、「ほぼ毎日通っている」と回答した人の得点は8.5点で最も高く、「欠席が年間60日以上、1年未満である」と回答した人の得点は6.0点で最も低い結果となった。

子どもの通学状況別に見た、希望する進学先（保護者票問 15×子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<豊中市>

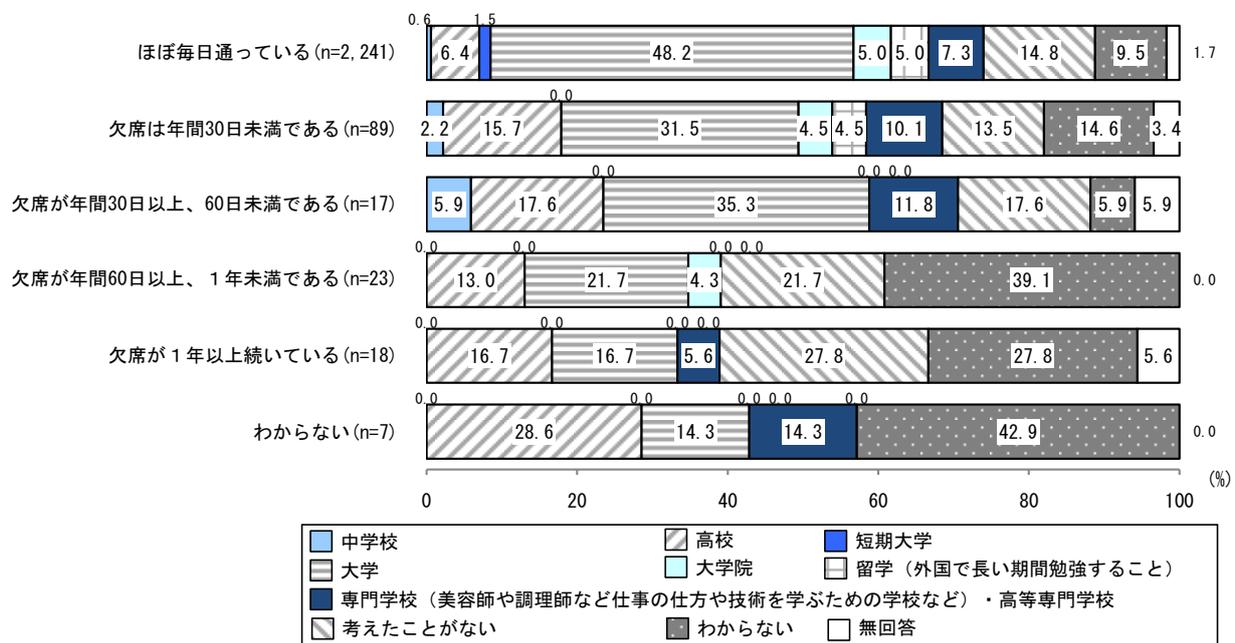
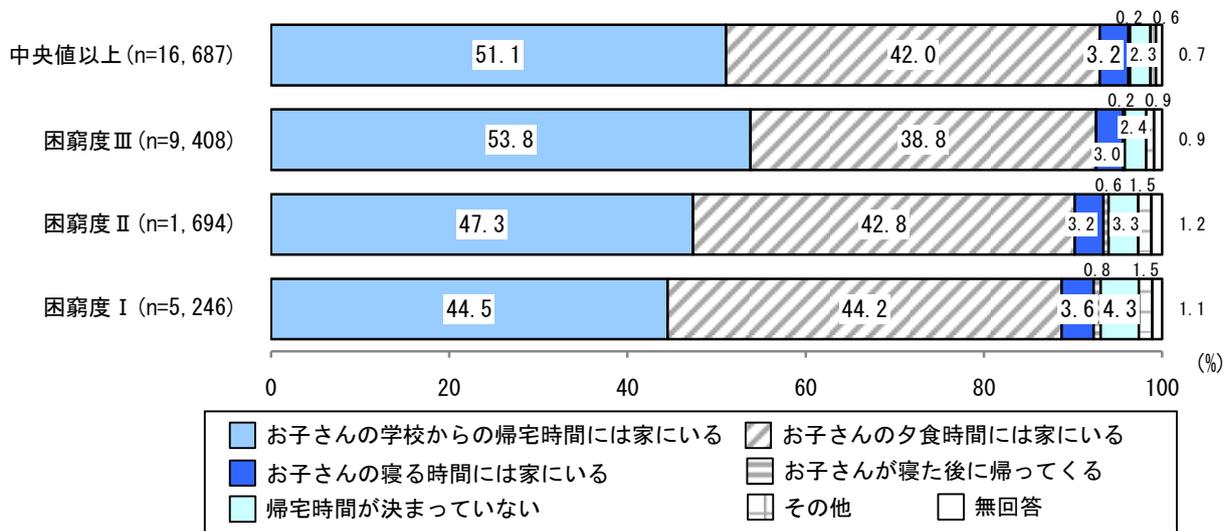


図 142. 子どもの通学状況別に見た、希望する進学先

子どもの通学状況別に希望する進学先を見ると、「大学」はほぼ毎日通っていると回答した人の割合が48.2%で最も高く、「中学校」、「高校」は欠席が年間30日以上、60日未満であると回答した人の割合がそれぞれ5.9%、17.6%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯（保護者票問 10）

<大阪府内全体>



<豊中市>

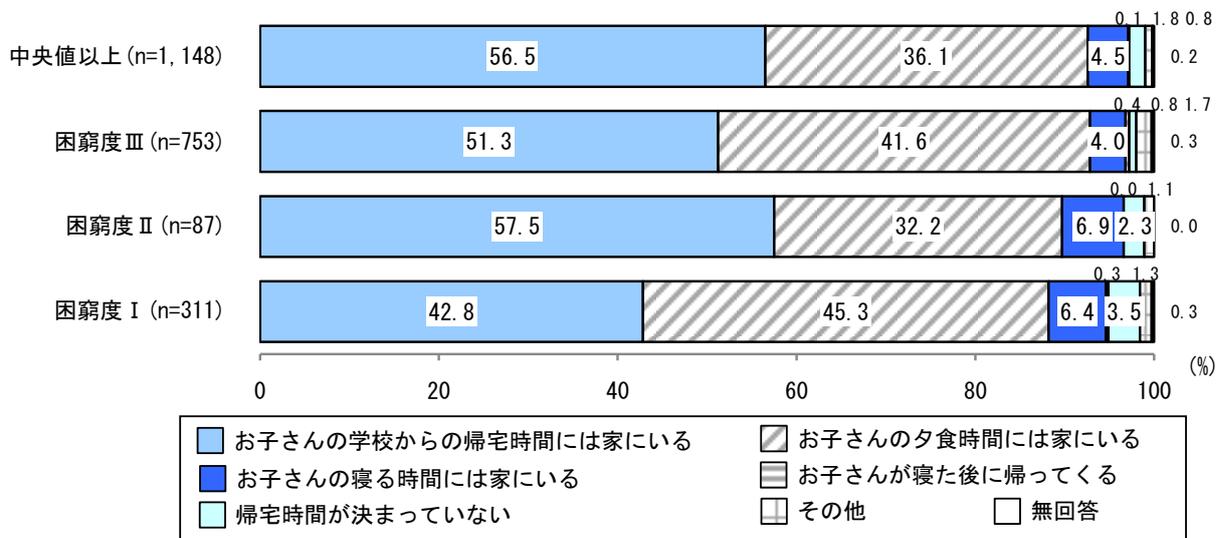
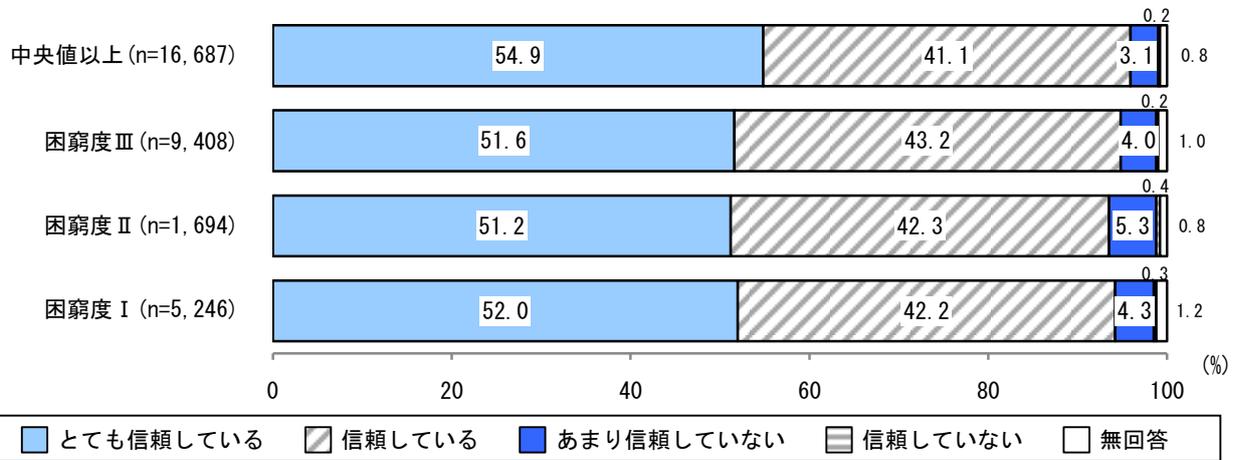


図 143. 困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯

困窮度別に保護者が家にいる時間帯を見ると、中央値以上群・困窮度Ⅲ・Ⅱ群のほうが、困窮度Ⅰ群よりも、「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」と回答した割合が高い。また、困窮度Ⅰ群では「お子さんの夕食時には家にいる」と回答した割合が高く、45.3%である。

困窮度別に見た、子どもへの信頼度（保護者票問 13(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

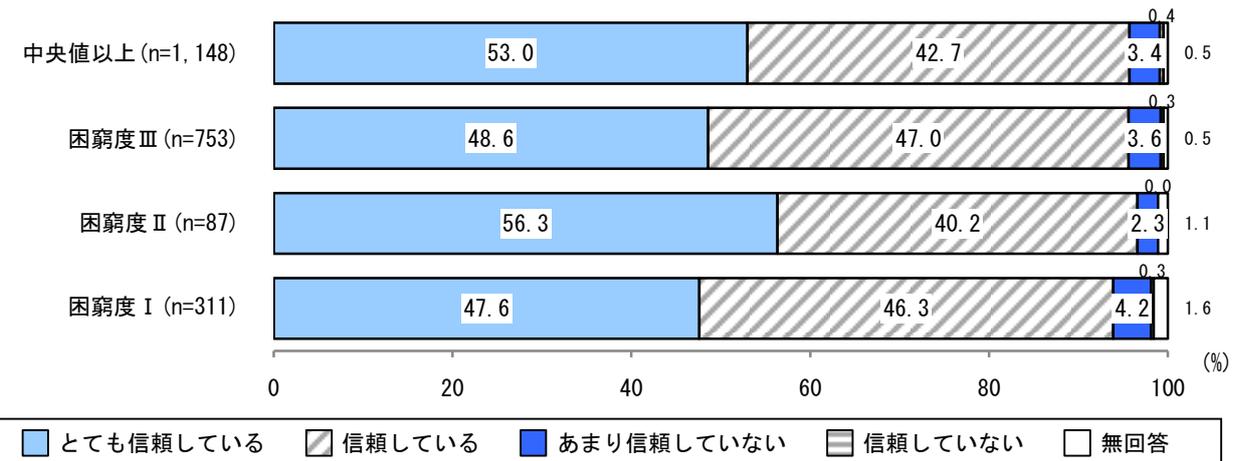
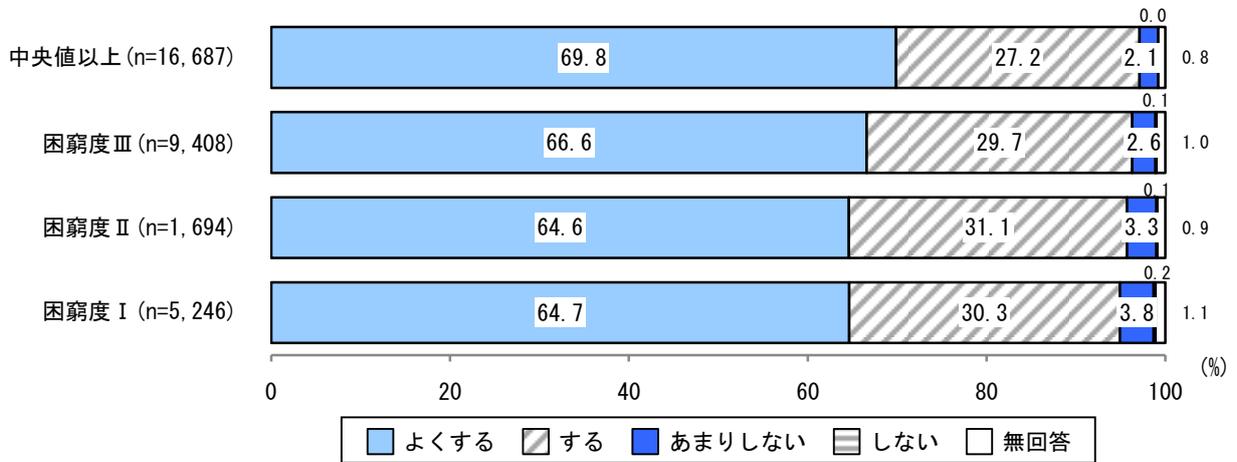


図 144. 困窮度別に見た、子どもへの信頼度

困窮度別に子どもへの信頼度を見ると、「とても信頼している」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が47.6%で最も低い。

困窮度別に見た、子どもとの会話頻度（保護者票問 13(2)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

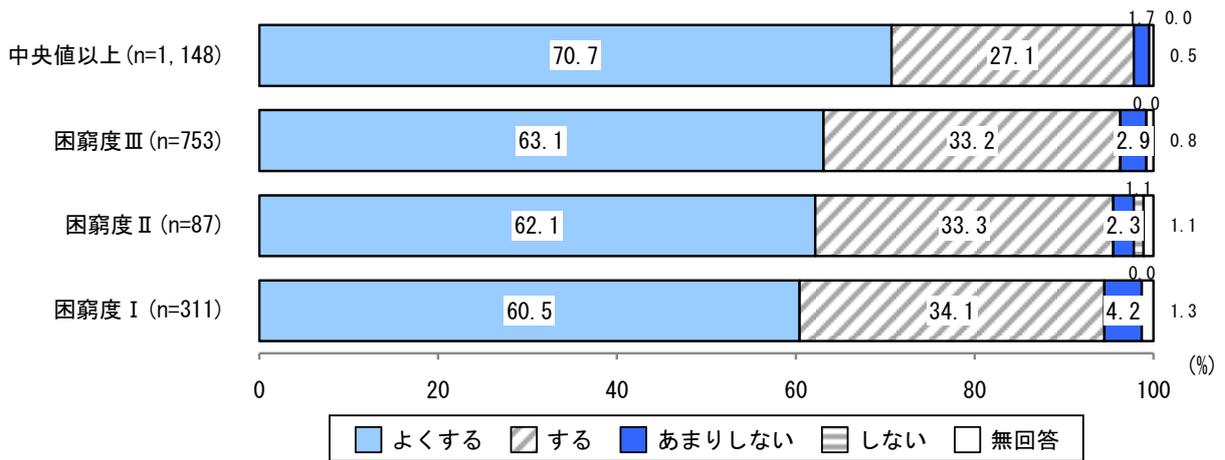
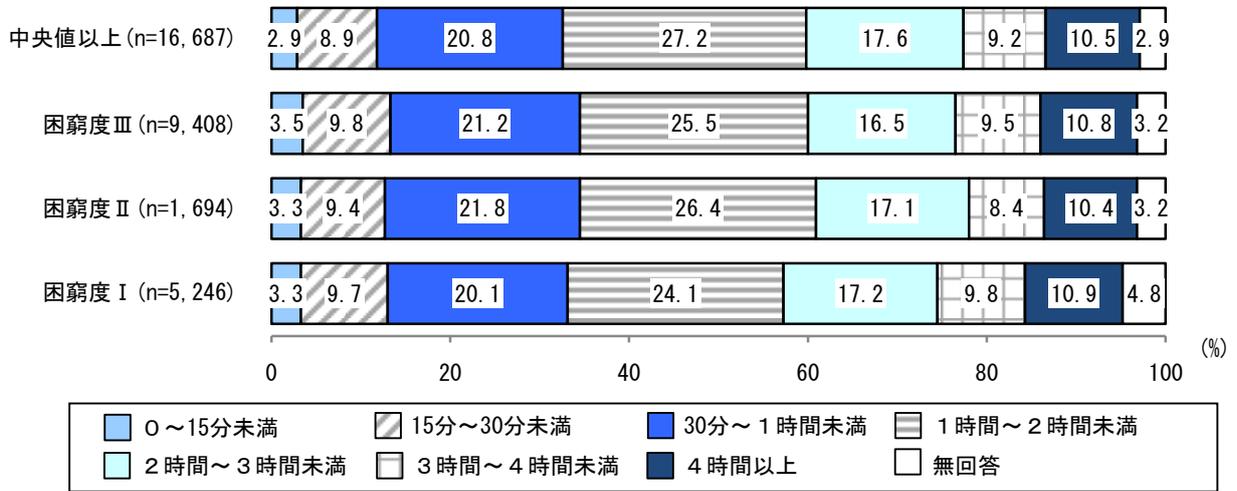


図 145. 困窮度別に見た、子どもとの会話頻度

困窮度別に子どもとの会話頻度を見ると、困窮度が高まるにつれ、「よくする」と回答した割合が低く、困窮度Ⅰ群が60.5%で最も低い。

困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

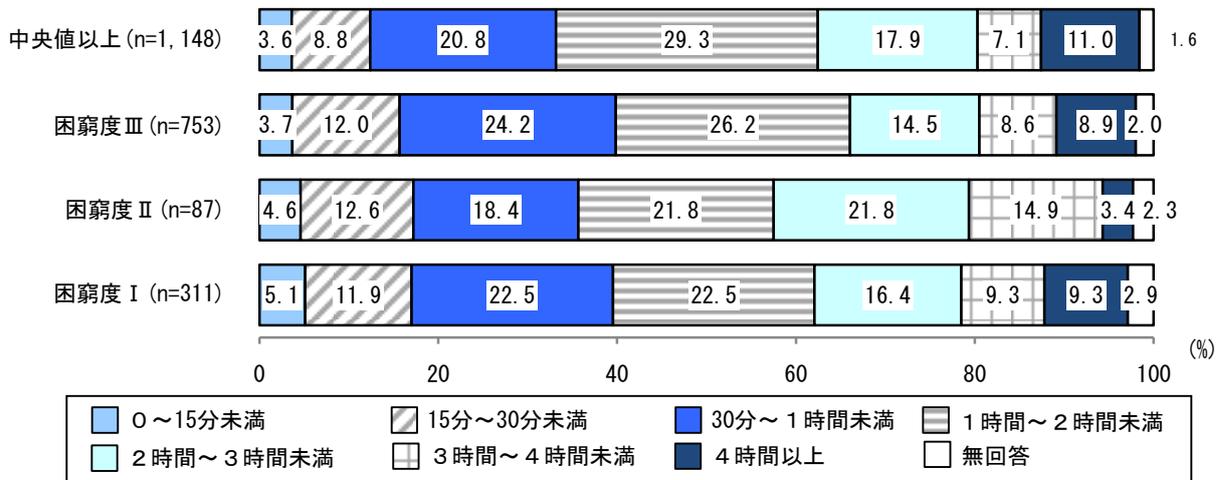
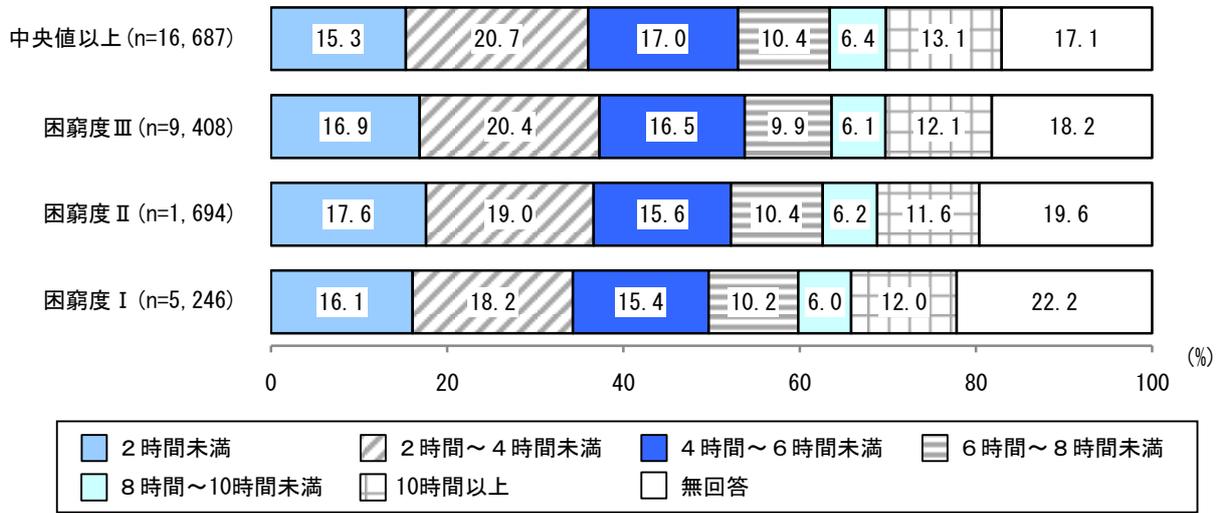


図 146. 困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

困窮度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「4時間以上」と回答した割合が中央値以上群で最も高く、11.0%である。

困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

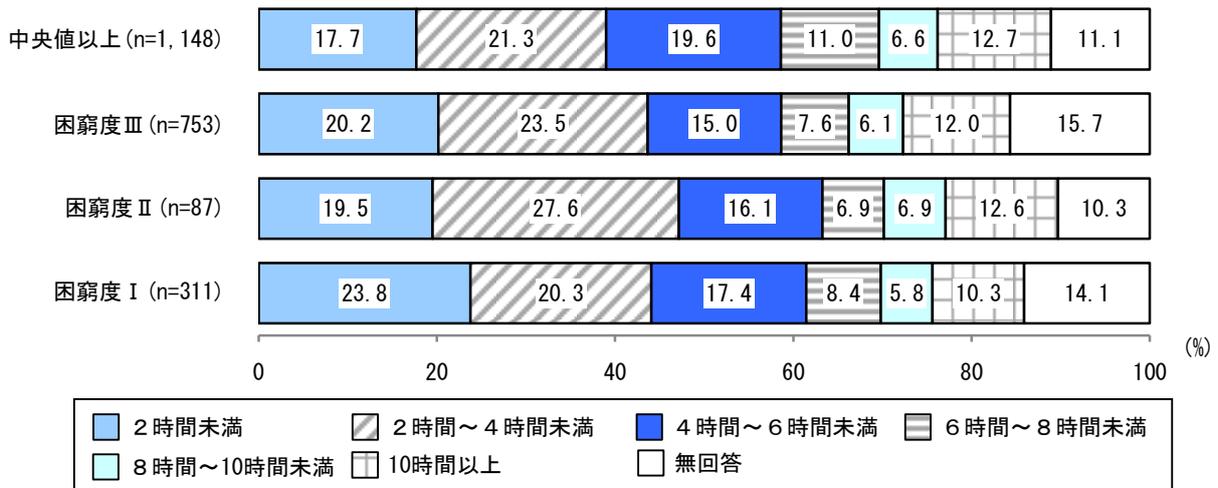
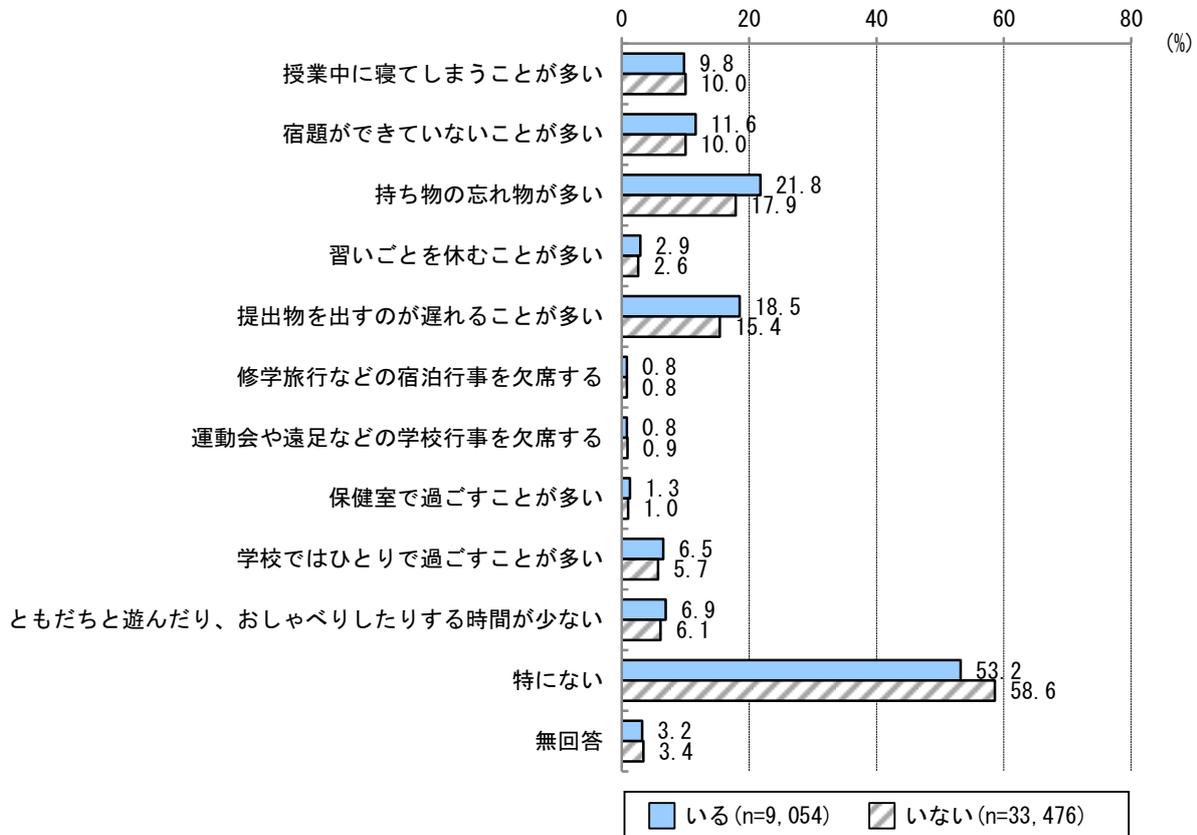


図 147. 困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

困窮度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「2時間未満」と回答した割合が困窮度Ⅰ群で最も高く、23.8%である。また、「2～4時間未満」と回答した割合は困窮度Ⅱ群で最も高く、27.6%となっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況  
 (子ども票問 26(1) × 子ども票問 16)

<大阪府内全体>



<豊中市>

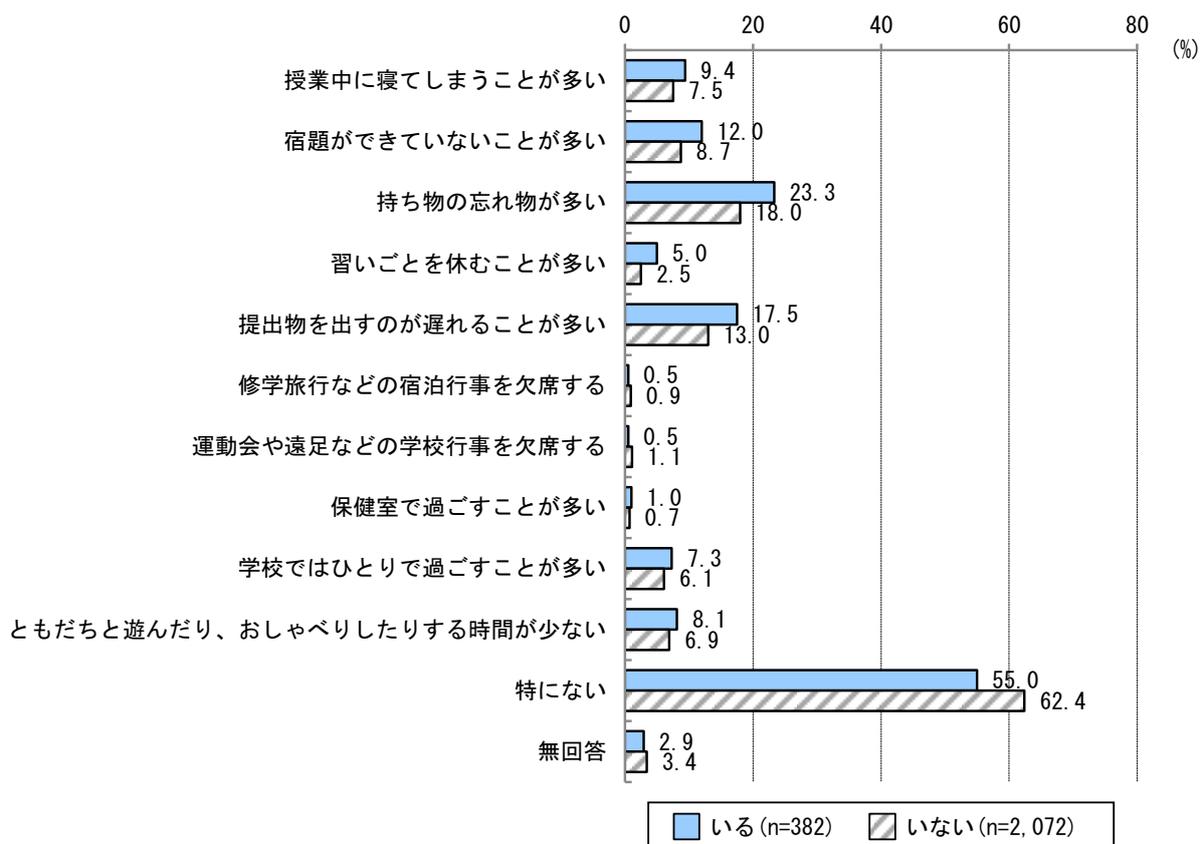
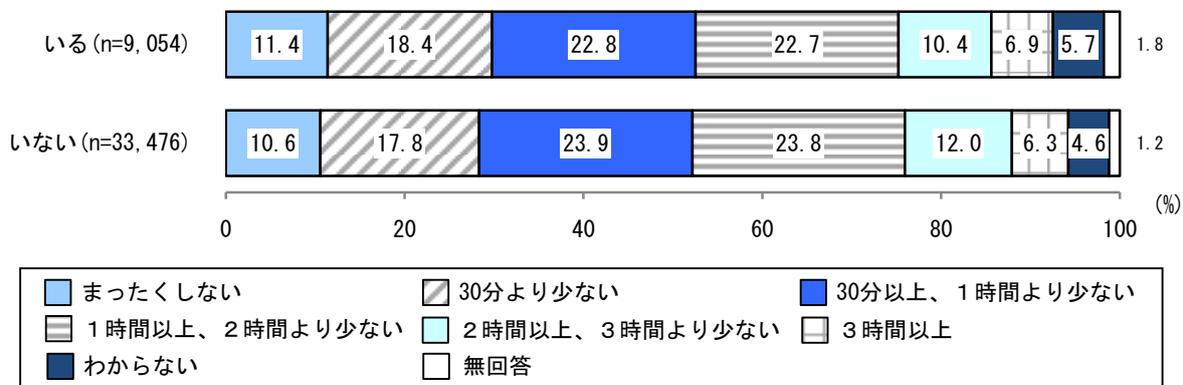


図 148. 自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況

自分が世話をしている人の有無別に学校や学校の行事等の状況を見ると、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」、「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」を除いた回答の割合では、世話をしている人が「いない」割合より「いる」割合のほうが高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問 26(1) × 子ども票問 13①）

<大阪府内全体>



<豊中市>

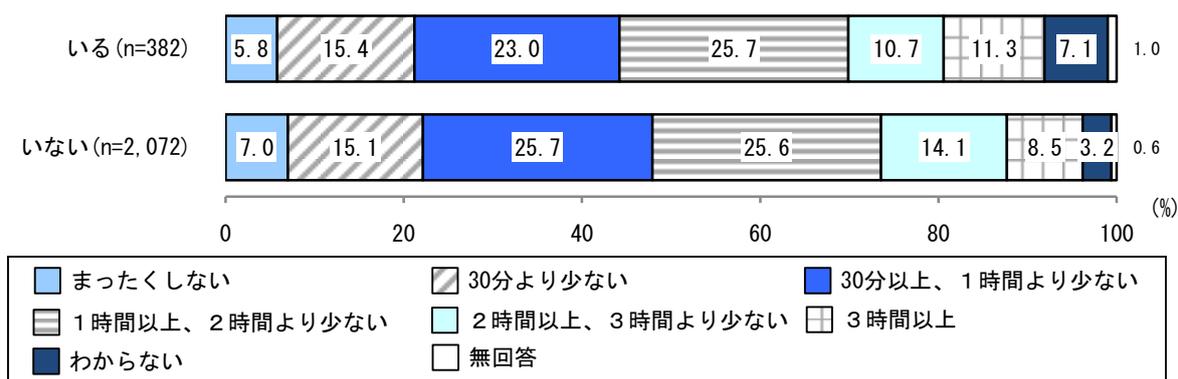
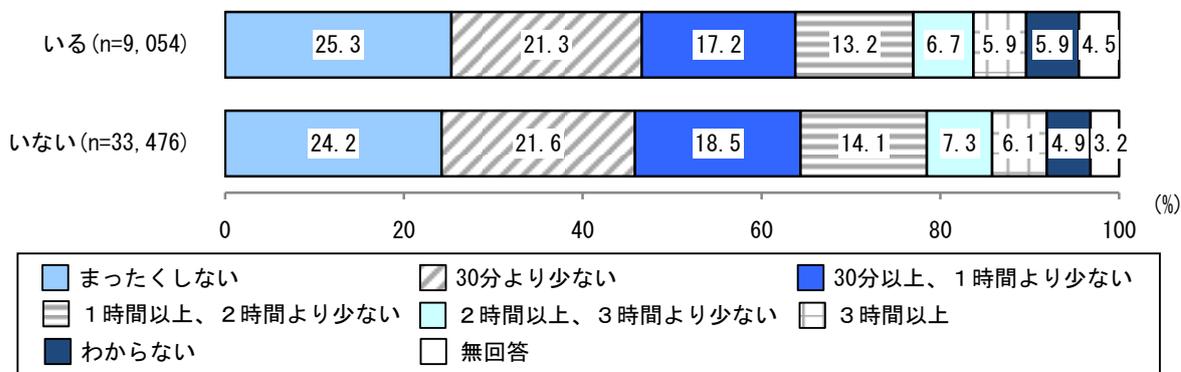


図 149. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、1時間以上勉強すると回答した人の割合は、「いる」人が47.7%、「いない」人が48.2%と「いない」人のほうが、割合が高い。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問26(1)×子ども票問13(2)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

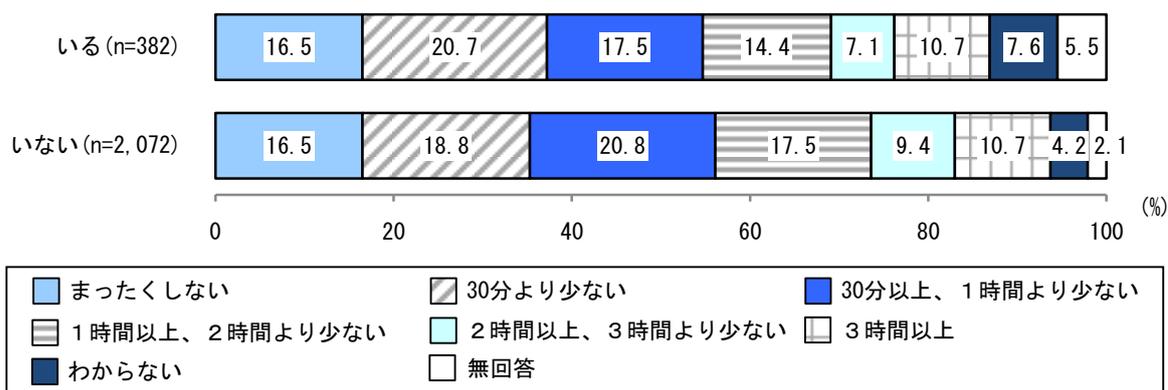


図 150. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」と「いる」人で差はみられない。

## <家庭生活・学習に関する考察>

まず、経済状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目しながら確認する。おうちの大人の人と朝食をとる頻度を見ると、「ほとんど毎日」(52.2%対44.9%)が中央値以上群では困窮度Ⅰ群と比べ7.5ポイント高く、「まったくない」と「ほとんどない」の合計(33.8%対21.6%)が困窮度Ⅰ群では中央値以上群と比べ12.2ポイント高くなっている。おうちの大人の人に宿題(勉強)をみてもらう頻度を見ると、「ほとんど毎日」(14.5%対9.1%)が中央値以上群では困窮度Ⅰ群と比べ5.4ポイント高くなっている。おうちの大人の人と文化活動をする頻度を見ると、「まったくない」(31.2%対17.0%)が困窮度Ⅰ群では中央値以上群と比べ14.2ポイント高くなっている。子どもの将来への期待度を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「とても期待している」と「期待している」の合計(90.5%対74.9%)が15.6ポイント高くなっている。保護者が家にいる時間帯を見ると、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」(56.5%対42.8%)が中央値以上群では困窮度Ⅰ群と比べ13.7ポイント高くなっているものの、「お子さんの夕食時間には家にいる」(45.3%対36.1%)の割合が困窮度Ⅰ群では高く、下校時間には間に合わない場合も夕食時間には帰宅できるよう努めていると考えられる。これらの結果から、朝の習慣や家庭学習環境などにおいて、経済的に困難な家庭では保護者とのかかわりが希薄になりやすい可能性があり、経済状況が保護者と子どもの間のコミュニケーションや子どもの生活リズムに影響を及ぼしうると考えられる。

経済状況と子どもの学習にかかわる習慣や進学希望の関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目して述べる。中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、通学状況を見ると、「ほぼ毎日通っている」(95.2%対85.2%)が10.0ポイント、学習理解度を見ると、「よくわかる」と「だいたいわかる」の合計(91.0%対77.9%)が13.1ポイント高くなっている。一方、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、学校がある日の勉強時間を見ると、「まったくしない」(12.5%対4.4%)が8.1ポイント、学校がない日の勉強時間を見ると、「まったくしない」(25.9%対10.1%)が15.8ポイント、授業以外の読書時間を見ると、「まったくしない」(46.8%対28.8%)が18.0ポイント高くなっている。希望進学先を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、子どもの希望する進学先で「高校」(14.1%対4.0%)が10.1ポイント、保護者の希望する進学先でも「高校」(11.9%対1.7%)が10.2ポイント高くなっている。一方、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、子どもの希望する進学先で「大学」(51.4%対35.0%)が16.4ポイント、保護者の希望する進学先で「大学」(80.3%対58.5%)が21.8ポイント高くなっている。これらの結果から、経済的に困難な世帯の子どもは、通学が難しくなっているほか、学習習慣や読書習慣が定着しにくく、結果的に学習理解が不十分となっている可能性が示された。また、子ども自身も保護者も大学以上の高いレベルの教育を望まなくなっており、これは経済的事情と学習理解の低さのいずれもが要因となっている可能性がある。

続いて、朝の習慣や学校への遅刻状況と子どもの学習にかかわる習慣の関連について確認する。起床時間の規則性に学習時間を見ると、ほぼ同じ時刻に「起きていない」群は「起きている」群と比べ、学校がある日の勉強時間では「まったくしない」(23.9%対5.7%)が18.2ポイント、学校がない日の勉強時間では「まったくしない」(28.3%対14.7%)が13.6ポイント、授業以外の読書時間では「まったくしない」(65.2%対33.2%)が32.0ポイント高くなっている。朝食の頻度別に見ると、朝食を「食べない」群では「毎日またはほとんど毎日」食べる群に比べ、学校がある日の勉強時間では「まったくしない」(27.9%対5.8%)が22.1ポイント、学校がない日の勉強時間では「まったくしない」(51.2%対14.8%)が46.4ポイント、授業以外の読書時間では「まったくしない」(44.2%対32.7%)が11.5ポイント高くなっている。学校への遅刻別に学習習慣を見ると

では、「遅刻はしない」群は「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群と比べ、希望する進学先では、「大学」(48.4%対31.2%)が17.2ポイント、学習理解度では「よくわかる」と「だいたいわかる」の合計(88.3%対67.6%)が20.7ポイント高くなっている。これらの結果から、朝の習慣が身につけていないことは、学習習慣・読書習慣の形成に影響が出ている可能性が示唆された。また、朝の習慣が身につけていないと遅刻につながりやすく、授業を受けられない状況となるため学習理解に影響が出ている可能性がある。

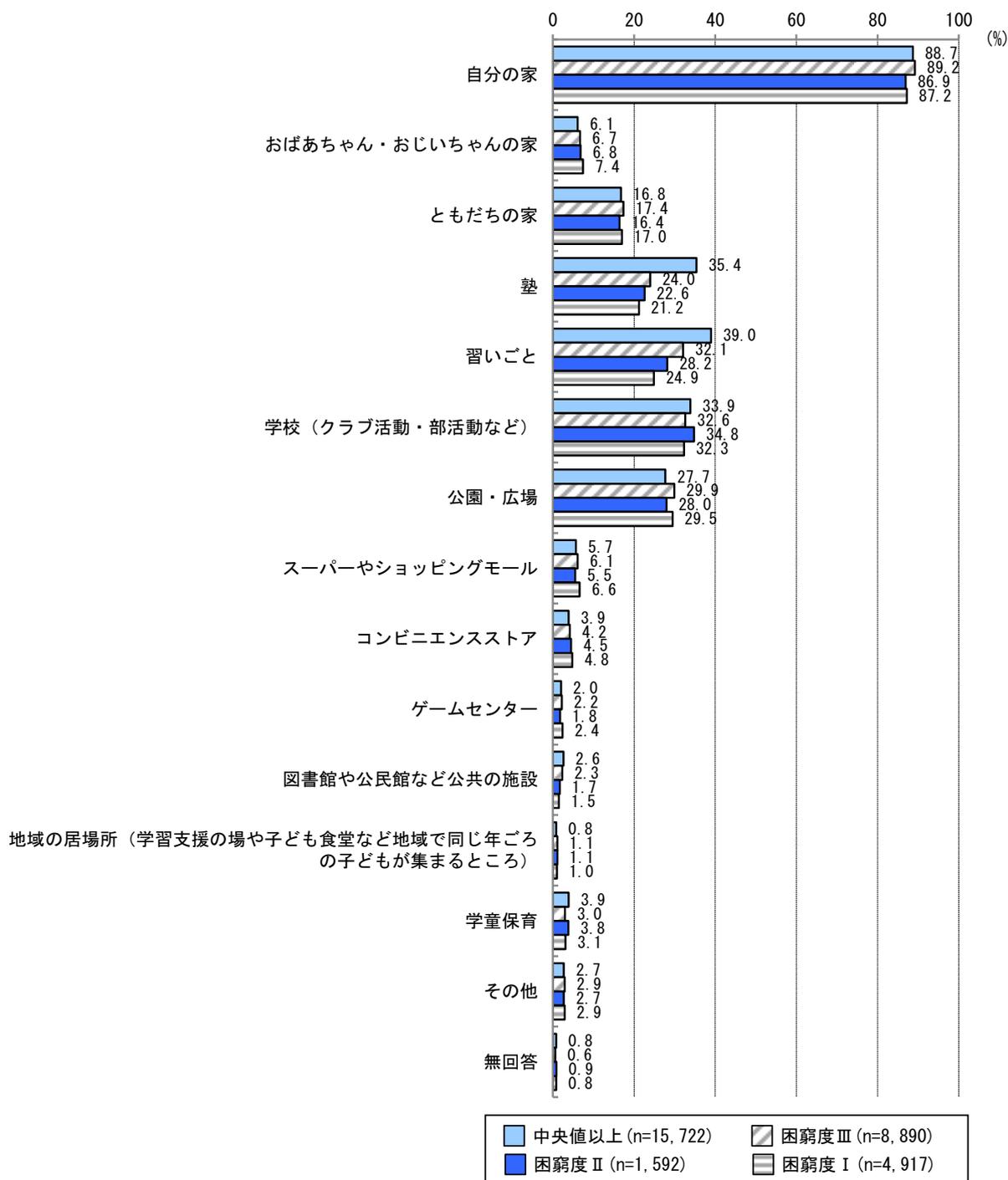
最後に、自分が世話をしている人の有無と学習状況の関連について確認する。世話をしている人が「いない」子どもは世話をしている人が「いる」子どもと比べ、学校への遅刻頻度では「遅刻はしない」(89.3%対83.8%)が5.5ポイント高くなっている。また、学校生活について気がかりなことでは「特にない」と回答する割合(62.4%対55.0%)が7.4ポイント高くなっている。一方、世話をしている人が「いる」子どもは世話をしている人が「いない」子どもと比べ、「学校や勉強のこと」で悩んでいる割合(27.2%対18.8%)が8.4ポイント高くなっており、これらの結果から、ヤングケアラーの可能性の高い子どもほど学校生活において問題や悩みを抱え、遅刻頻度が高まるなど学校生活に支障をきたしていると考えられる。

※参照データについては一部資料編に掲載

### 3-5. 対人関係

#### 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所（子ども票問11）

<大阪府内全体>



<豊中市>

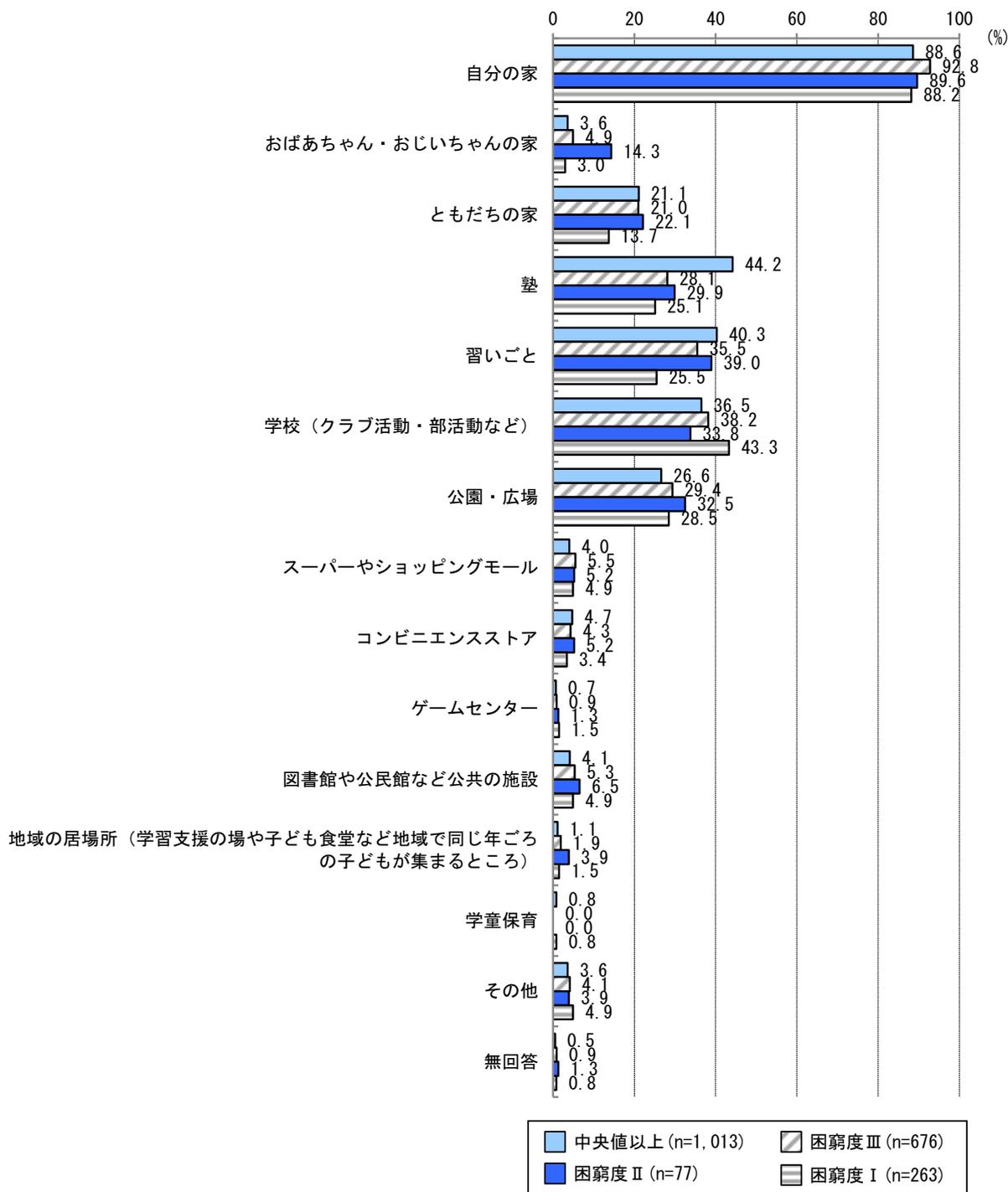
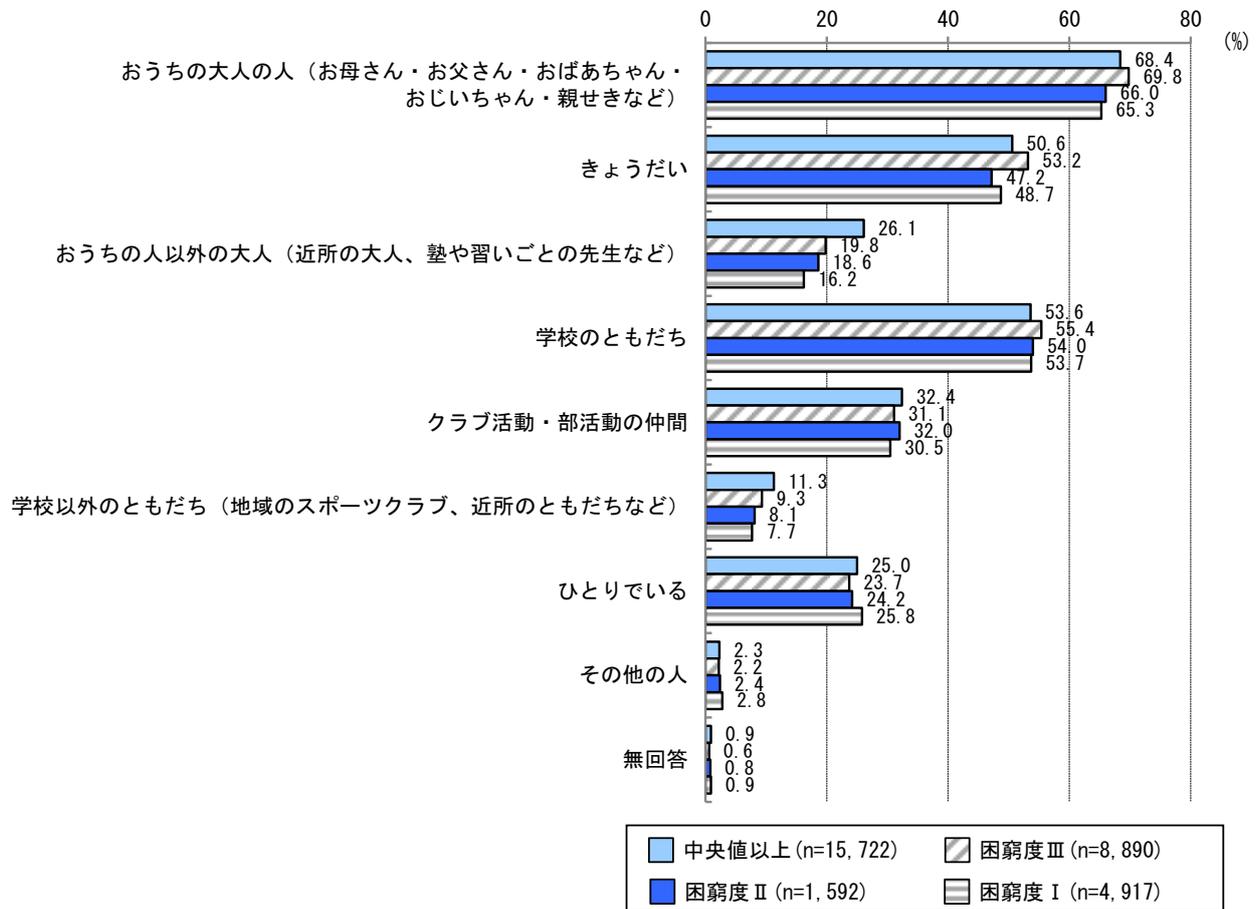


図 151. 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「ゲームセンター」1.5% (中央値以上群に対して2.1倍)、「地域の居場所 (学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まるところ)」1.5% (同じく1.4倍)、「学校 (クラブ活動・部活動など)」43.3% (同じく1.2倍) となっている。一方、中央値以上群では、「塾」44.2% (困窮度 I 群に対して1.8倍)、「習いごと」40.3% (同じく1.6倍)、「ともだちの家」21.1% (同じく1.5倍) などが高かった。

困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人（子ども票問10）

<大阪府内全体>



<豊中市>

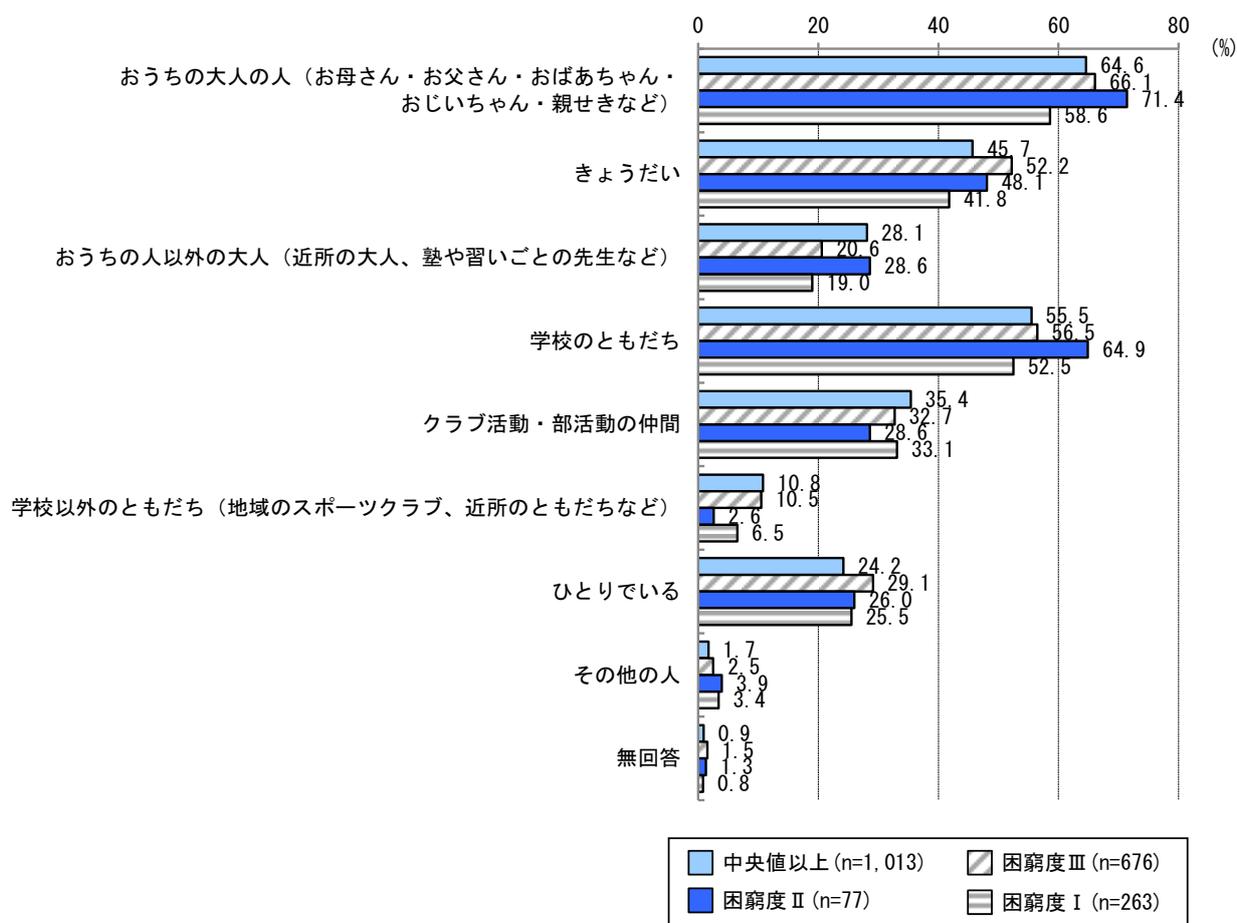
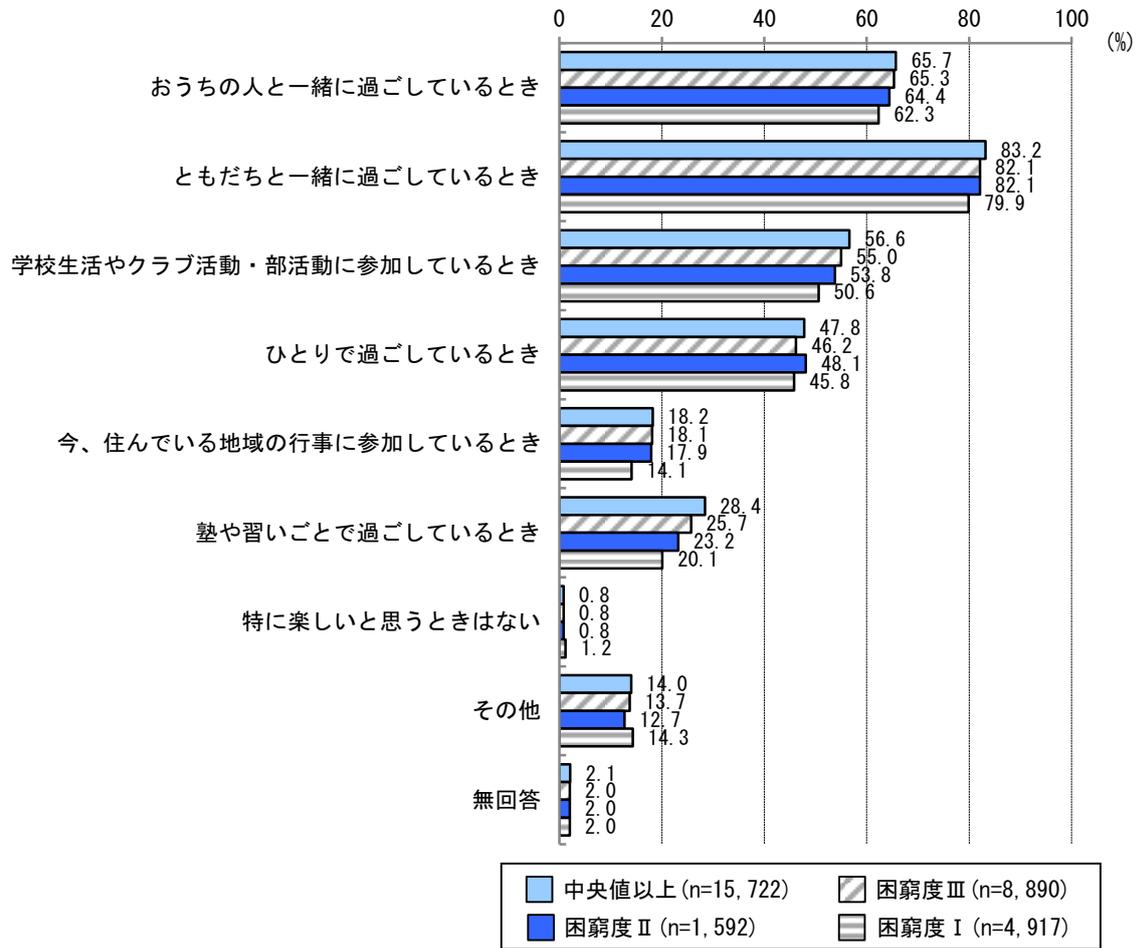


図 152. 困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、中央値以上群では「学校以外のともだち (地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど)」10.8% (困窮度Ⅰ群に対して1.7倍)、「おうちの人以上の大人 (近所の大人、塾や習いごとの先生など)」28.1% (同じく1.5倍) が高かった。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票問9）

<大阪府内全体>



<豊中市>

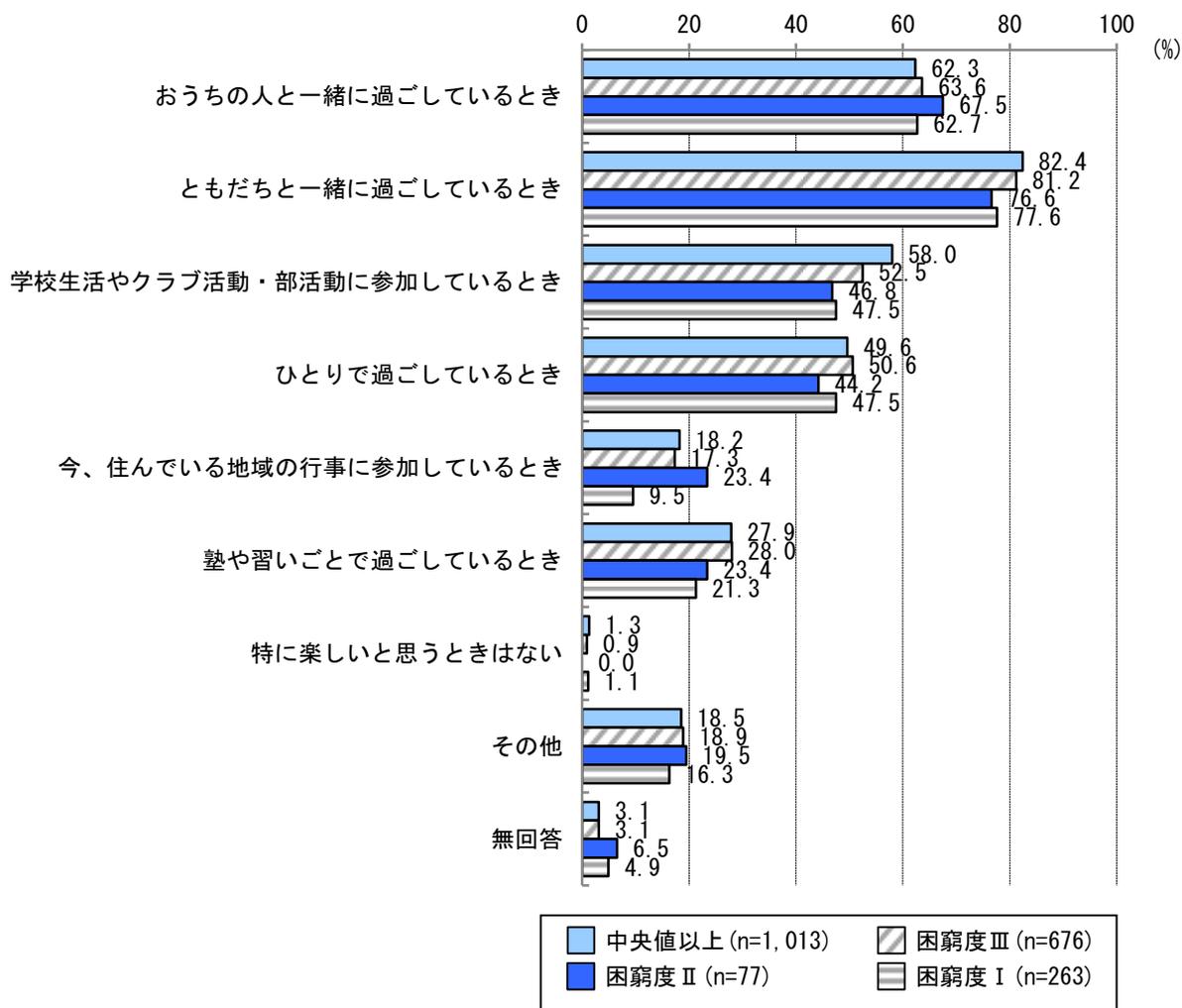
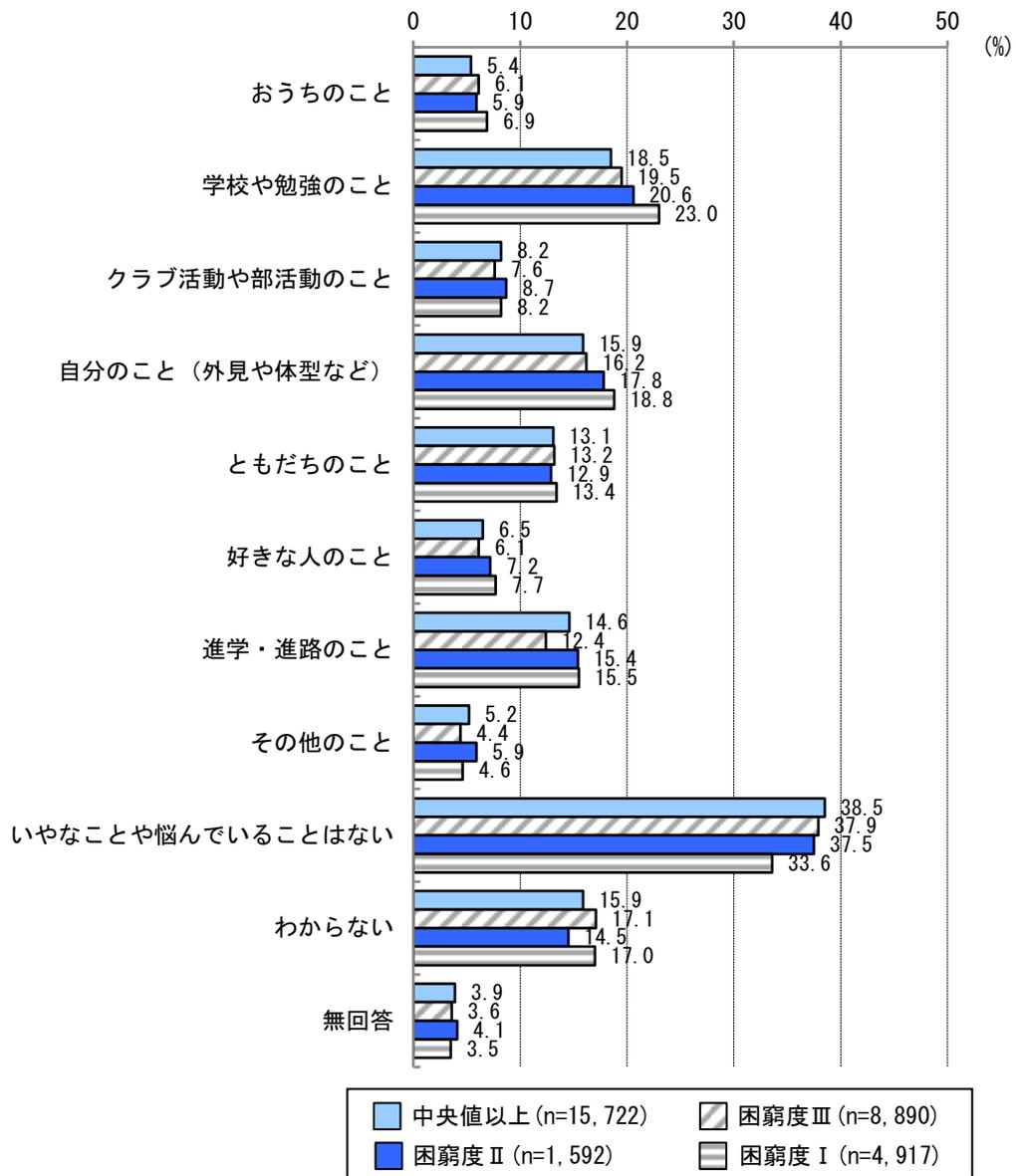


図 153. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群の数値を挙げると、「今、住んでいる地域の行事に参加しているとき」18.2%（困窮度Ⅰ群に対して1.9倍）、「塾や習いごとで過ごしているとき」27.9%（同じく1.3倍）、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」58.0%（同じく1.2倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問17）

<大阪府内全体>



<豊中市>

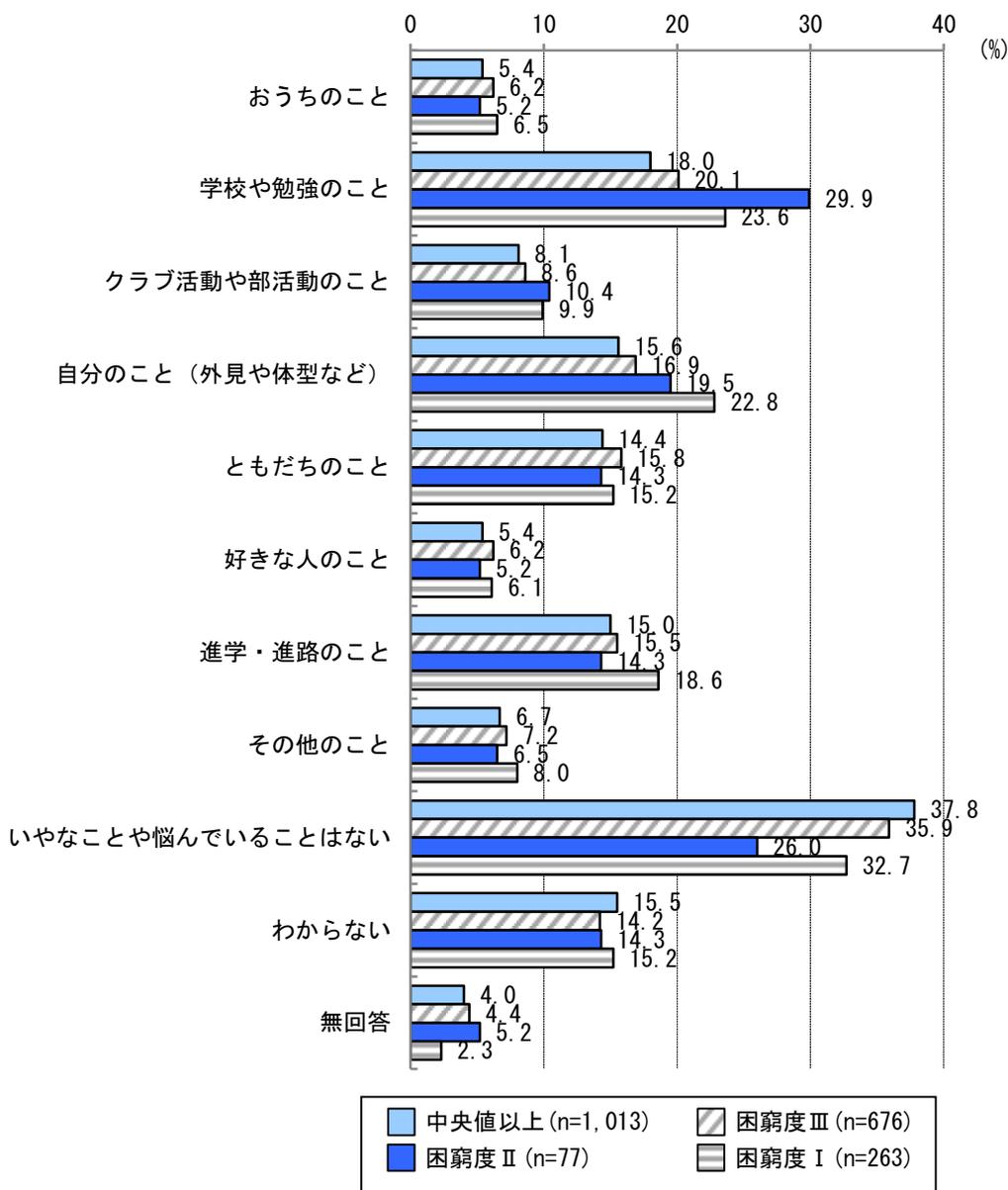
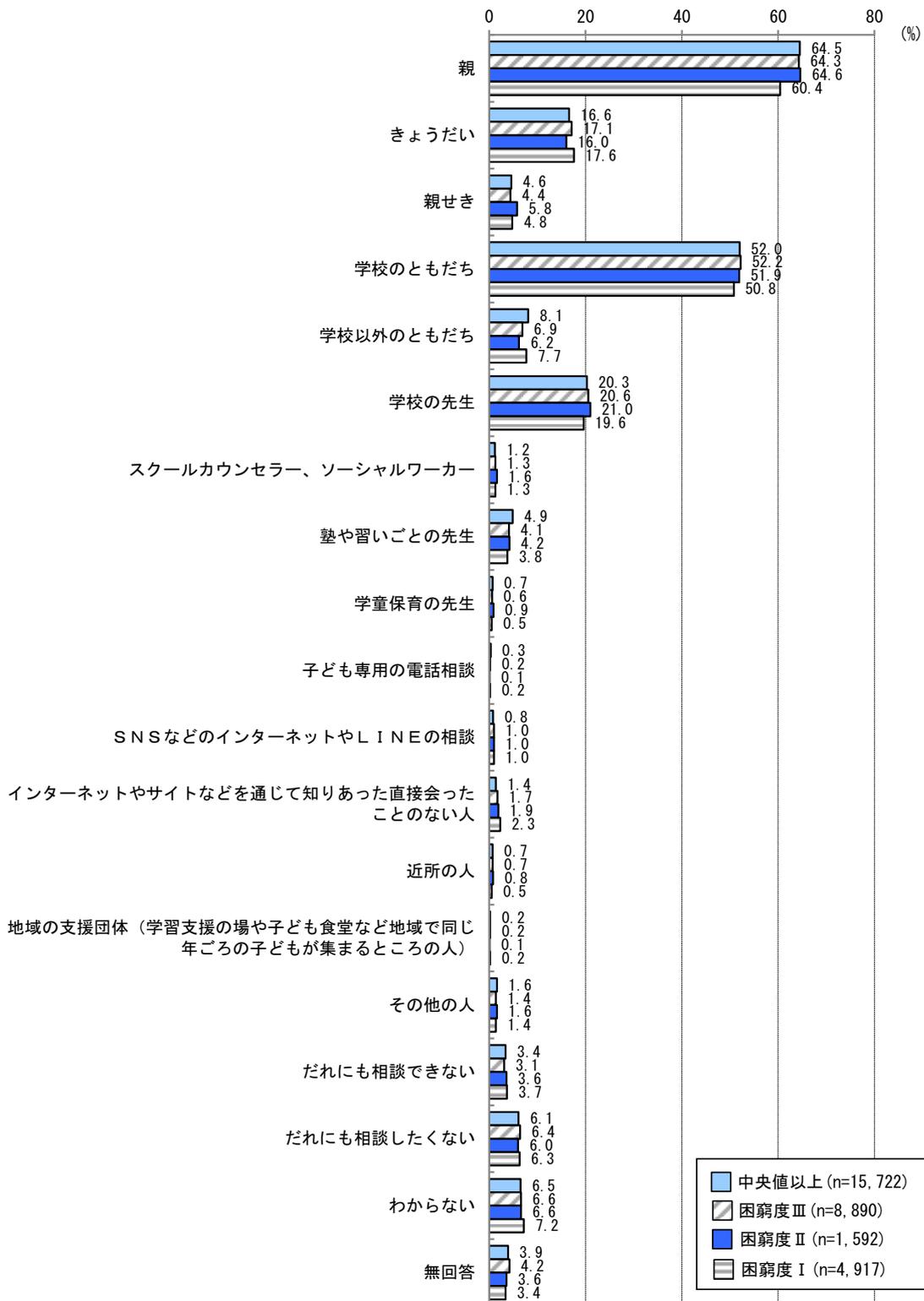


図 154. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「自分のこと（外見や体型など）」22.8%（中央値以上群に対して1.5倍）、「学校や勉強のこと」23.6%（同じく1.3倍）、「クラブ活動や部活動のこと」9.9%（同じく1.2倍）、「進学・進路のこと」18.6%（同じく1.2倍）が高く、中央値以上群では「いやなことや悩んでいることはない」37.8%（困窮度Ⅰ群に対して1.2倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 18）

<大阪府内全体>



<豊中市>

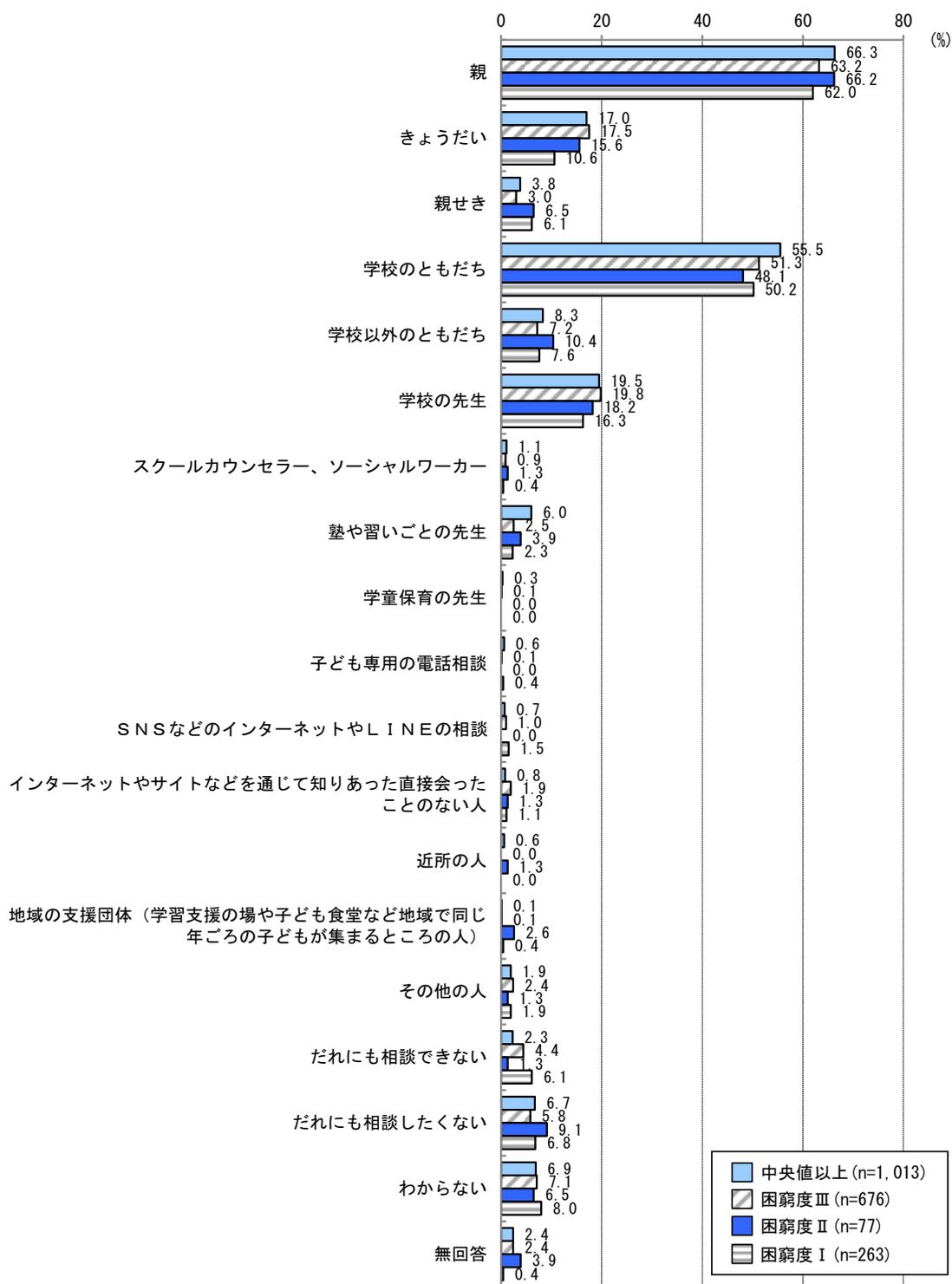
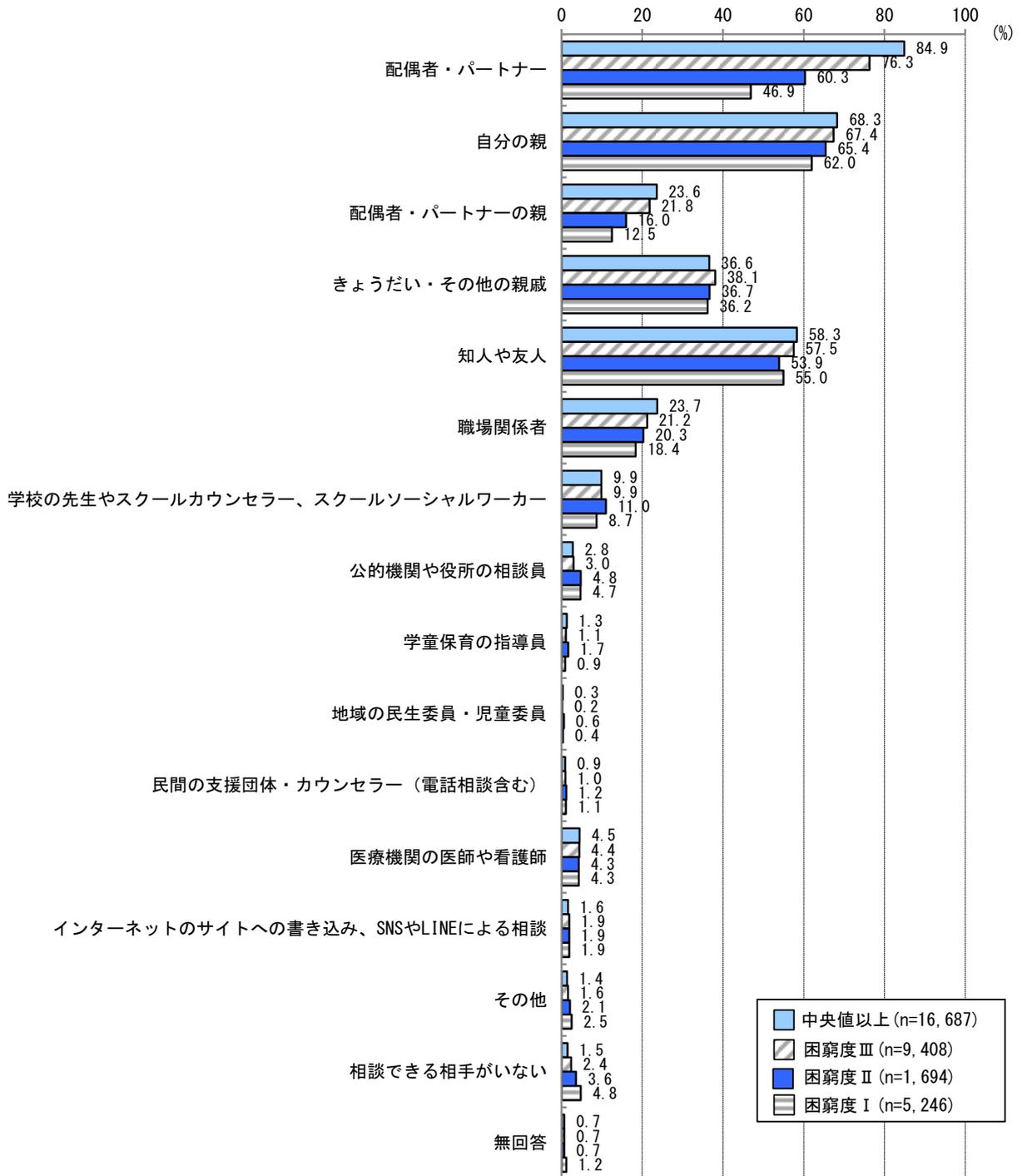


図 155. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「地域の支援団体（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まるところの人）」0.4%（中央値以上群に対して4.0倍）、「だれにも相談できない」6.1%（同じく2.7倍）、「SNSなどのインターネットやLINEの相談」1.5%（同じく2.1倍）となっている。

困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 19）

<大阪府内全体>



<豊中市>

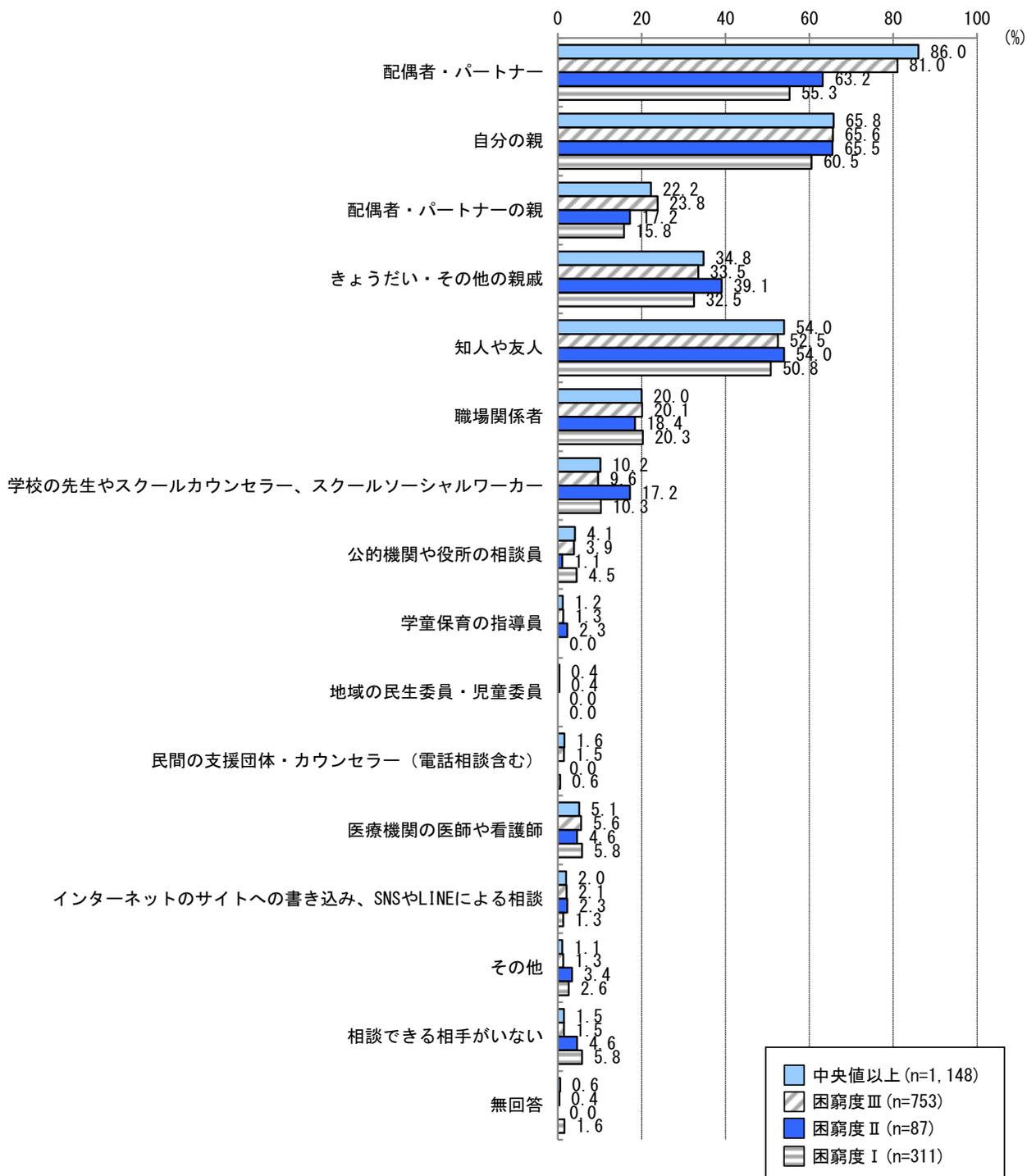
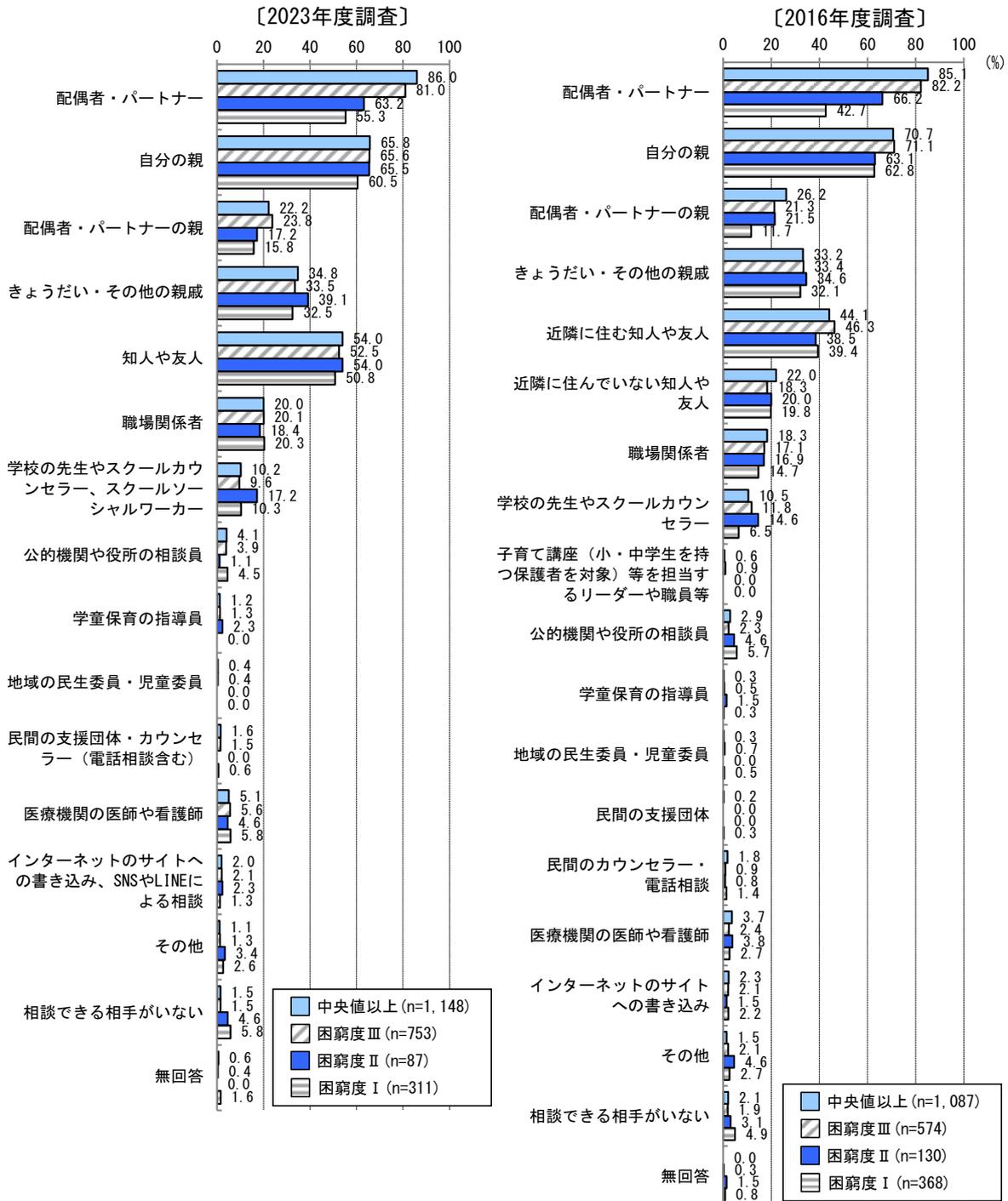


図 156. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

困窮度別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「相談できる相手がいない」5.8%（中央値以上群に対して3.9倍）、「公的機関や役所の相談員」4.5%（同じく1.1倍）、「医療機関の医師や看護師」5.8%（同じく1.1倍）となっている。

中央値以上群の数値を挙げると、「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」1.6%（困窮度Ⅰ群に対して2.7倍）、「配偶者・パートナー」86.0%（同じく1.6倍）、「インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談」2.0%（同じく1.5倍）となっている。

<2016 年度調査との比較／豊中市>



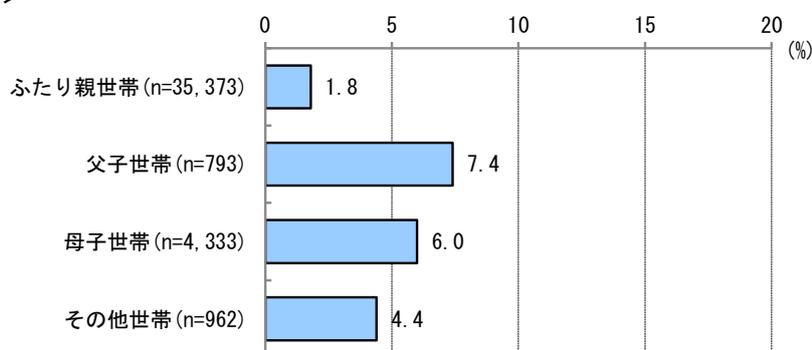
※1 「知人や友人」は、2016年度調査では「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」  
 ※2 「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」は、2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」  
 ※3 2016年度調査の「子育て講座（小・中学生を持つ保護者を対象）等を担当するリーダーや職員等」は今回は削除  
 ※3 「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」は、2016年度調査では「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」  
 ※4 「インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談」は、2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

図 157. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「きょうだい・その他の親せき」、「職場関係者」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて高くなっている。

世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合  
(保護者票問2×保護者票問19)

<大阪府内全体>



<豊中市>

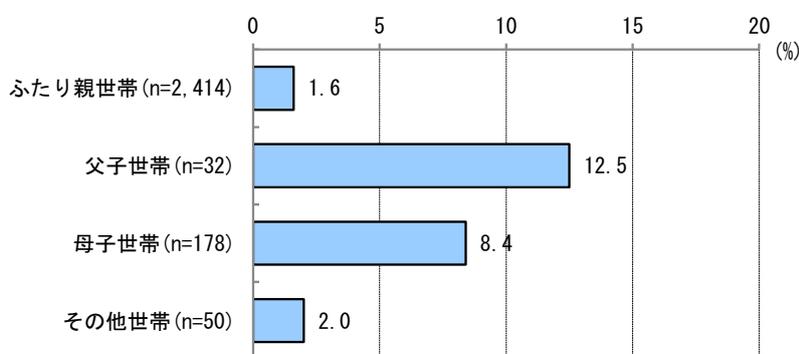


図 158. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合

世帯構成別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合を見ると、「相談できる相手がない」と回答した人は、父子世帯で12.5%、母子世帯で8.4%いる。

<2016年度調査との比較／豊中市>

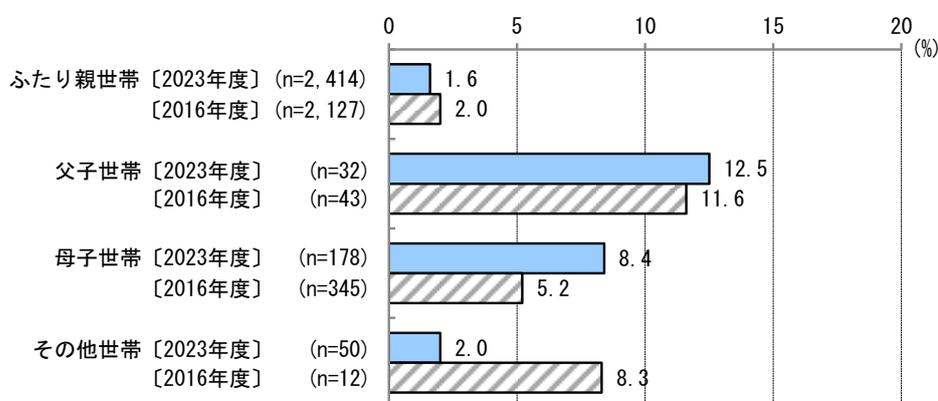
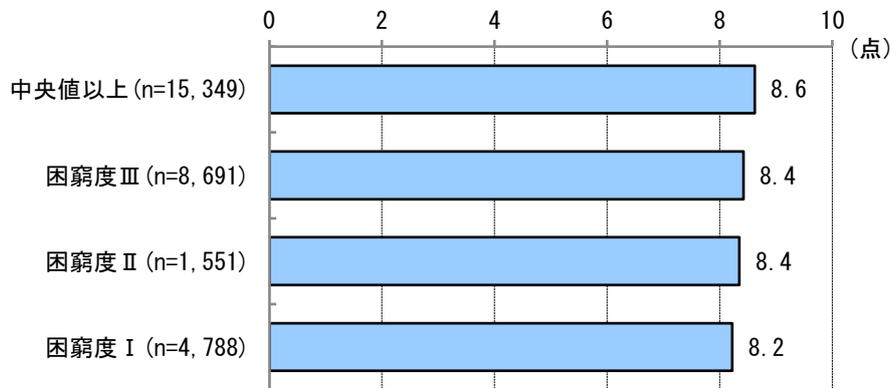


図 159. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合 (2016年度調査との比較)

2016年度調査と比較すると、父子世帯と母子世帯の割合は、2016年度調査に比べて高くなっており、一方で、ふたり親世帯、その他世帯は2016年度調査に比べて割合が低くなっている。

困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）（子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<豊中市>

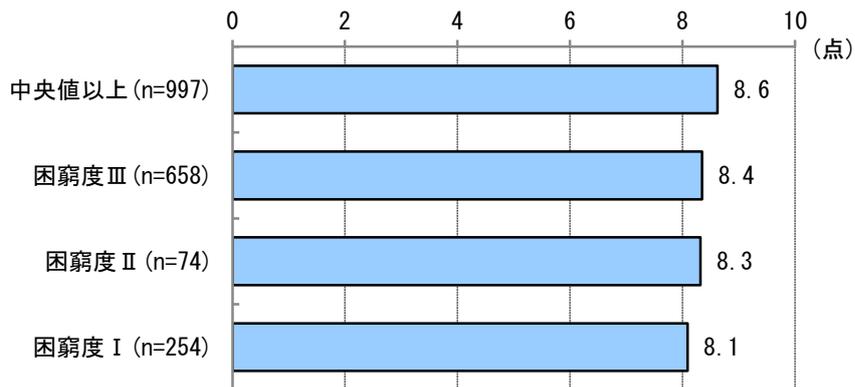
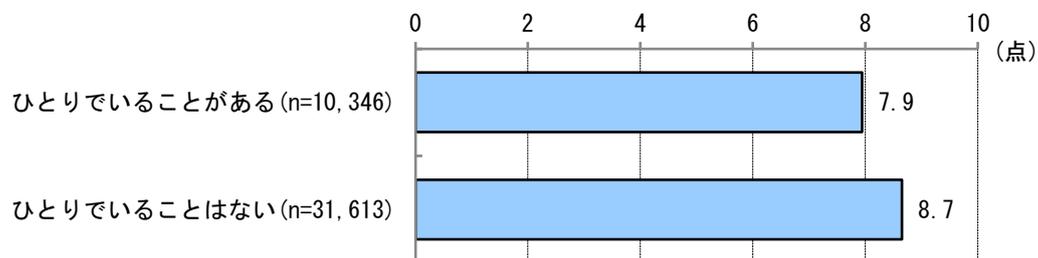


図 160. 困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、困窮度が高くなるにつれ、セルフ・エフィカシーが低くなっている。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）  
（子ども票問 10×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<豊中市>

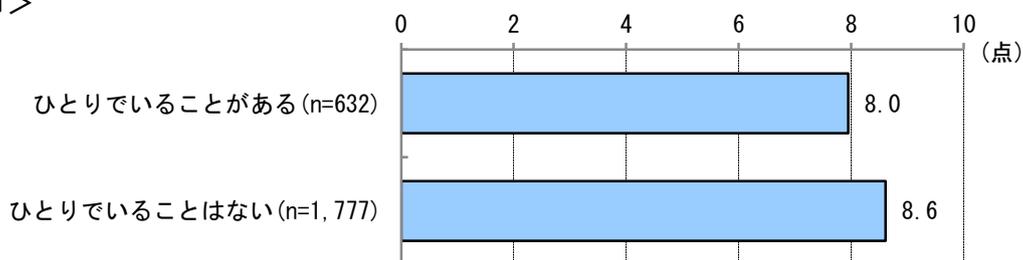


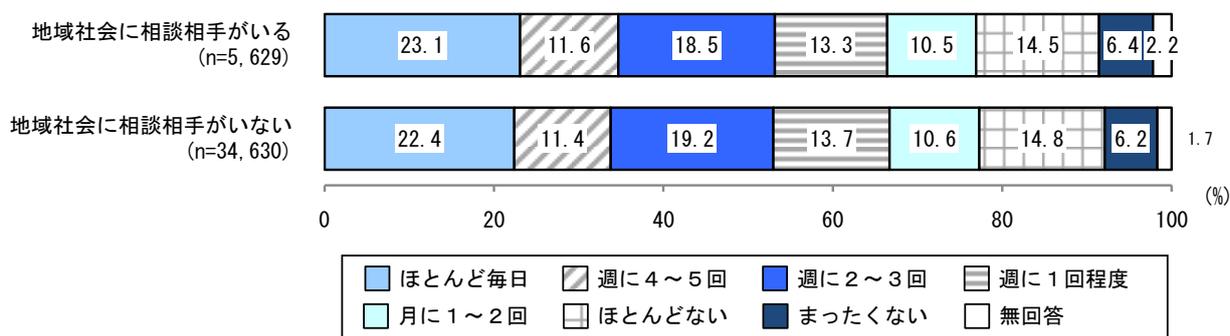
図 161. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感(セルフ・エフィカシー)を見ると、放課後ひとりで過ごす子どものほうがそれでない子どもよりも自己効力感(セルフ・エフィカシー)が低かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか  
 (保護者票問 19×子ども票問 8④)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問に対し、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体・カウンセラー(電話相談含む)」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪府内全体>



<豊中市>

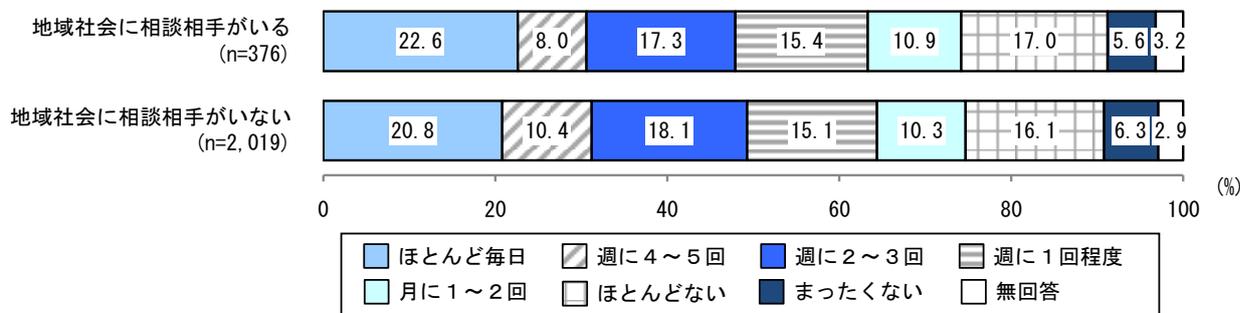
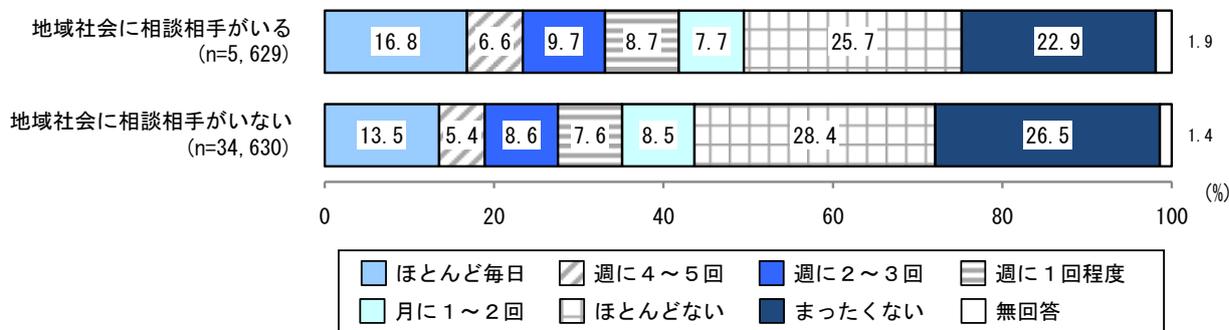


図 162. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、家の手伝いをしているかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人のほうが、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもがおうちの手伝いをしているかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか  
 （保護者票問 19×子ども票問 8⑤）

<大阪府内全体>



<豊中市>

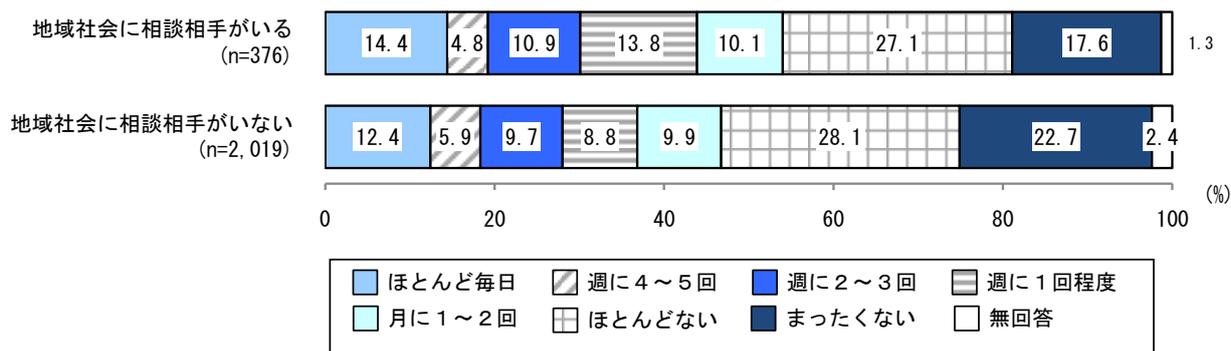
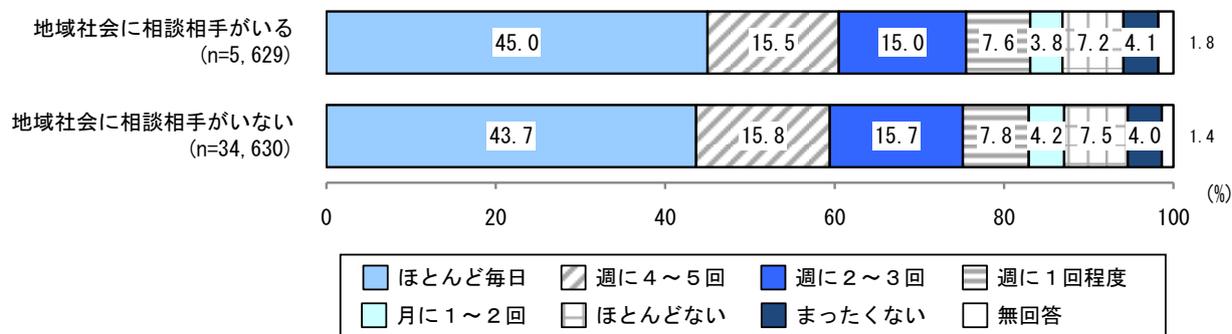


図 163. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人のほうが、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっているかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか  
 (保護者票問 19×子ども票問 8⑥)

<大阪府内全体>



<豊中市>

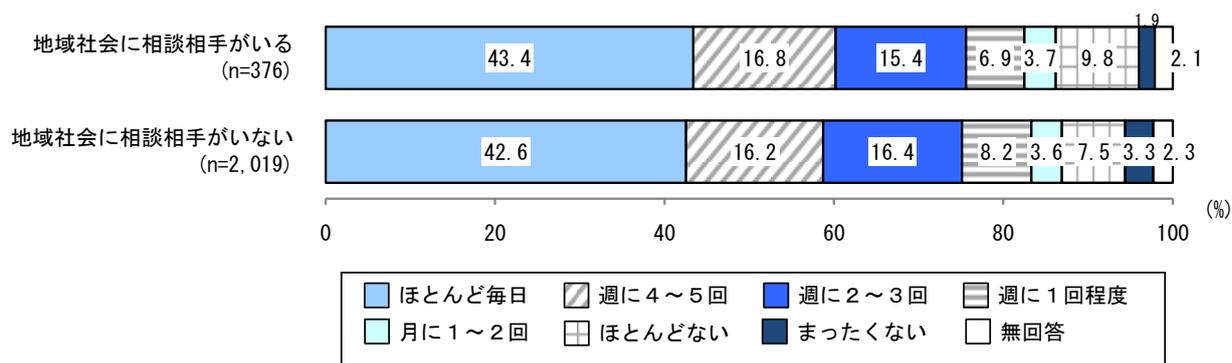
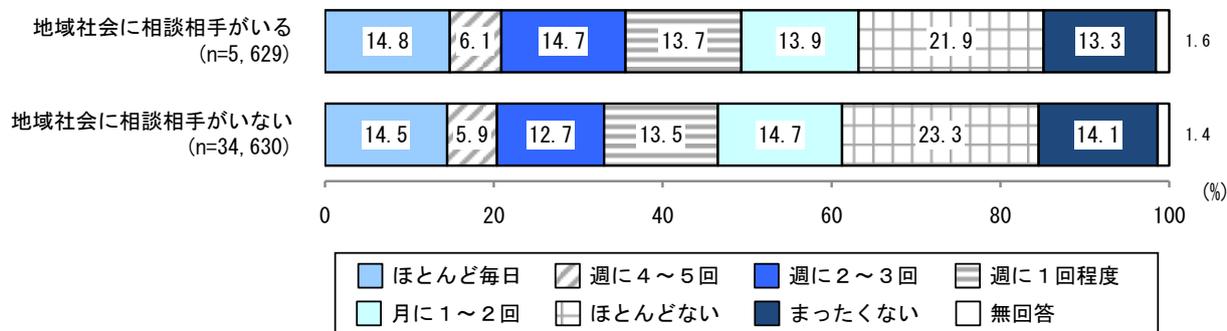


図 164. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人のほうが、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかに「ほとんど毎日」、「週に4～5回」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか  
 (保護者票問 19×子ども票問 8⑦)

<大阪府内全体>



<豊中市>

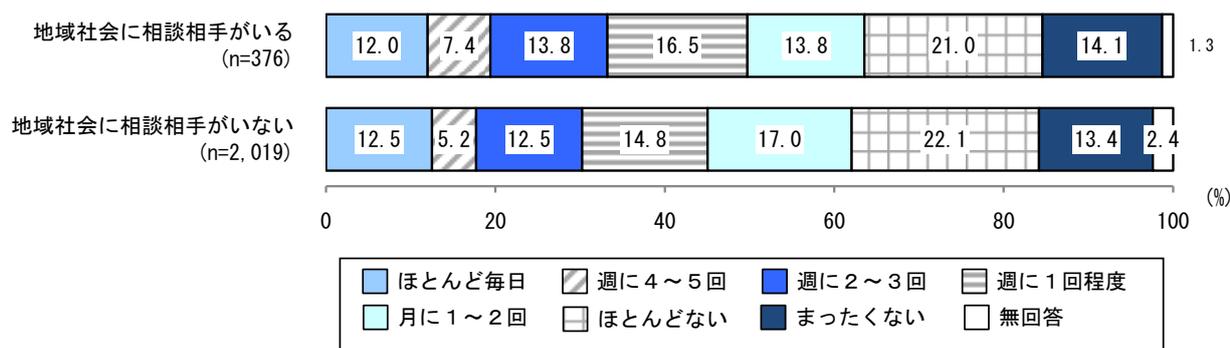
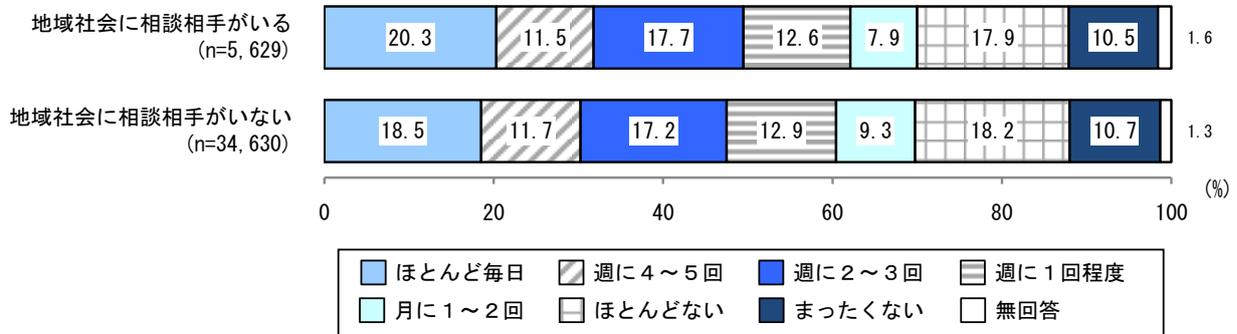


図 165. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「地域社会に相談相手がない」人のほうが、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか（保護者票問 19×子ども票問 8 ⑧）

<大阪府内全体>



<豊中市>

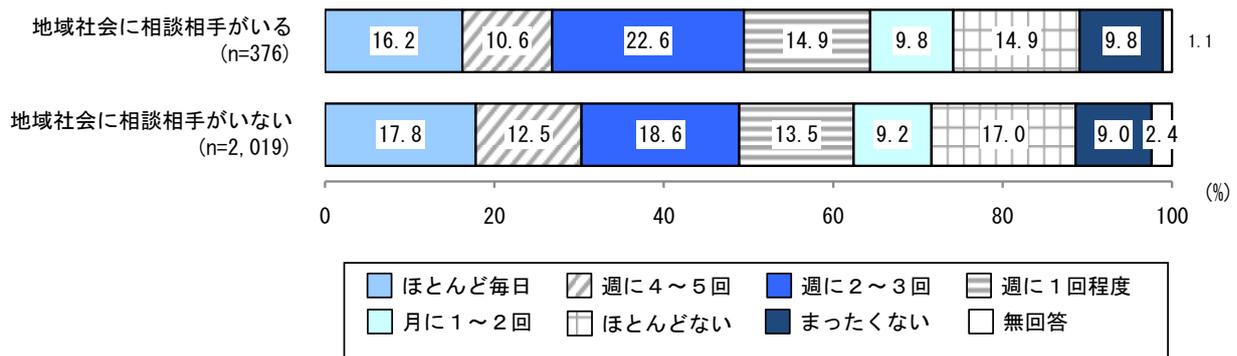
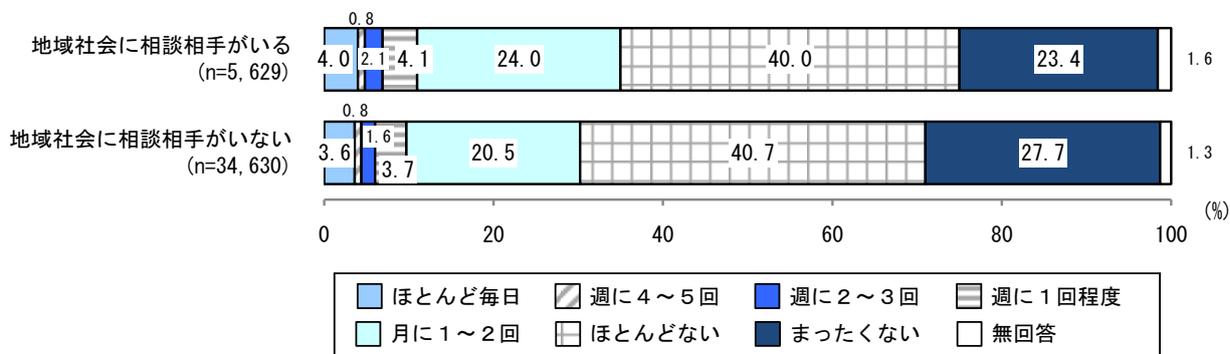


図 166. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がない」人のほうが、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかに「ほとんど毎日」、「週に4～5回」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか  
 (保護者票問 19×子ども票問 8 ㉑)

<大阪府内全体>



<豊中市>

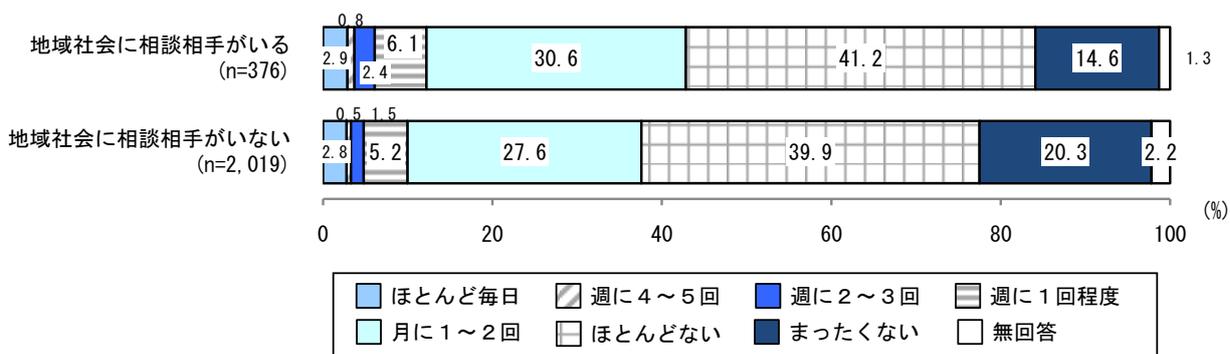
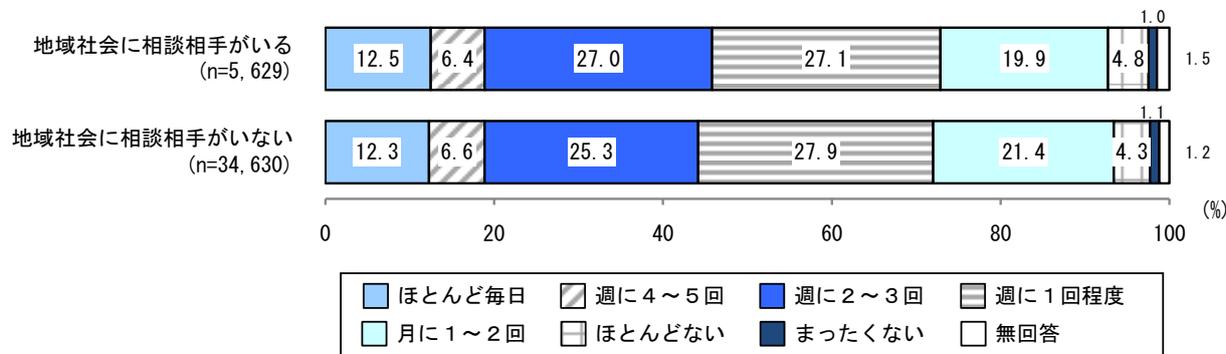


図 167. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「地域社会に相談相手がない」人のほうが、「地域社会に相談相手がいる」人よりもおうちの人と文化活動をするかに「まったくない」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか  
 (保護者票問 19×子ども票問 8 ⑩)

<大阪府内全体>



<豊中市>

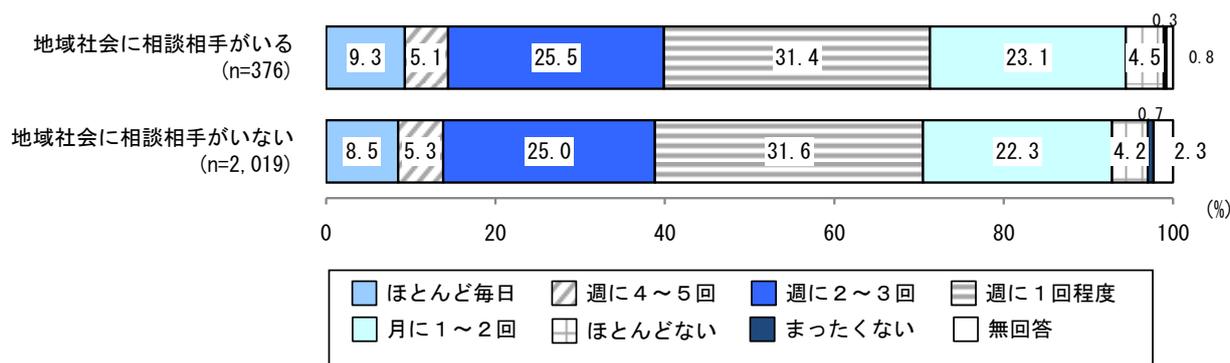
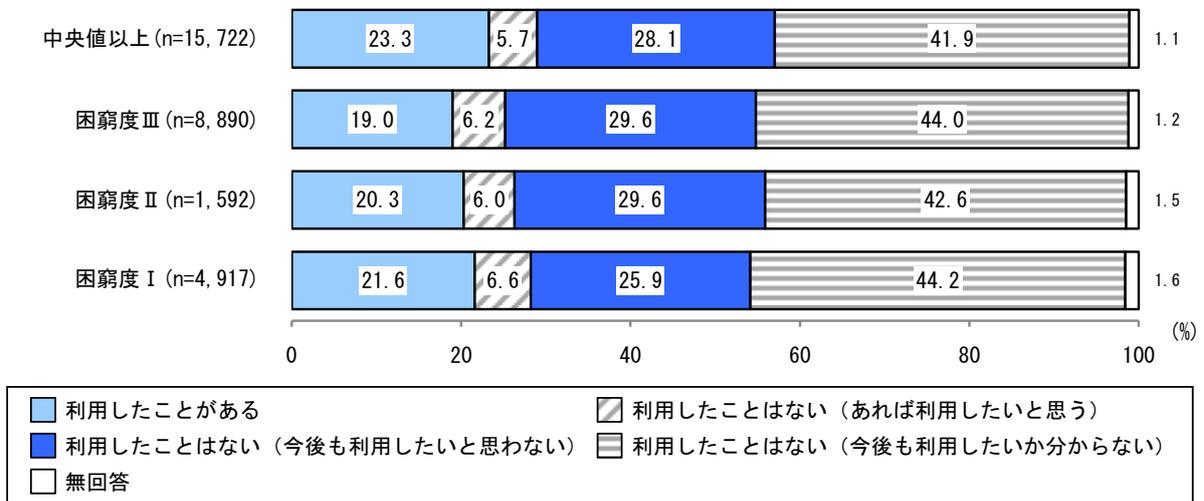


図 168. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」か「地域社会に相談相手がない」かによって、子どもが「おうちの大人の人と一緒に外出する」に差はなかった。

困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所（子ども票問 25(1)①）

<大阪府内全体>



<豊中市>

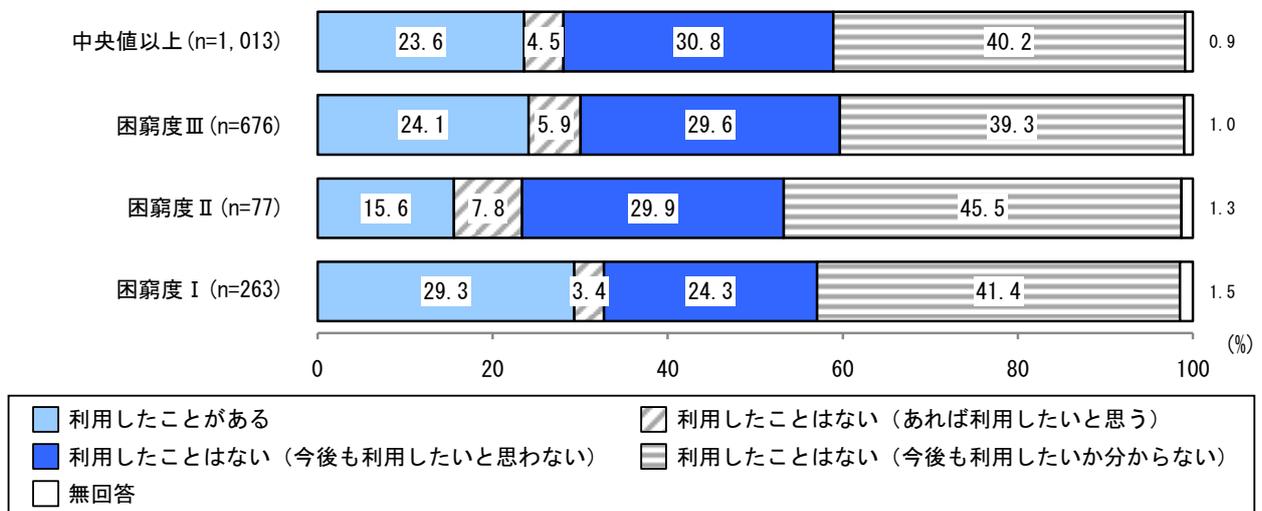
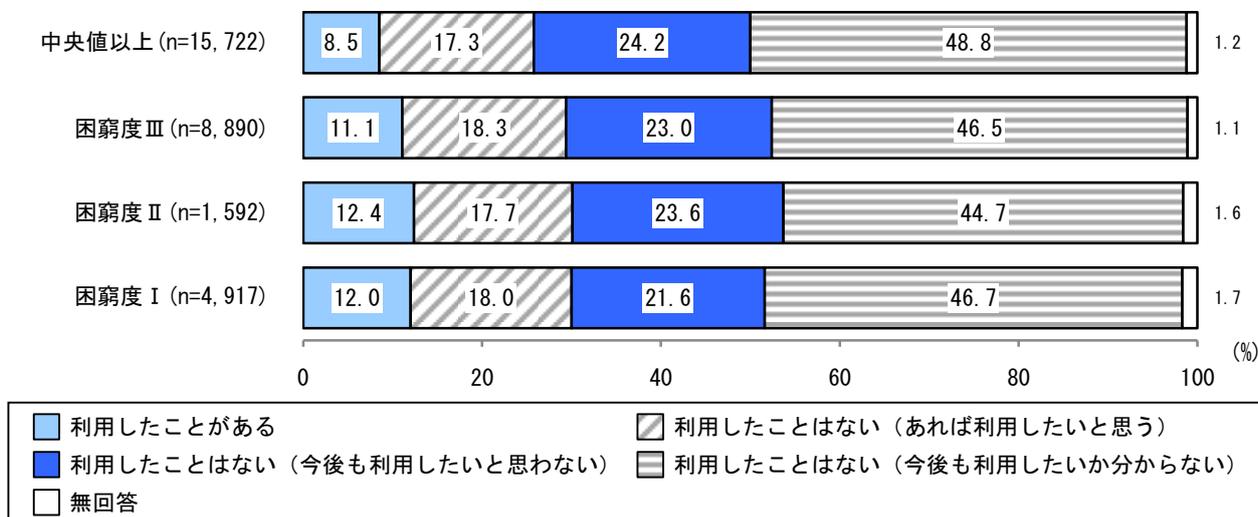


図 169. 困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

困窮度別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で29.3%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所  
(子ども票問 25(1)②)

<大阪府内全体>



<豊中市>

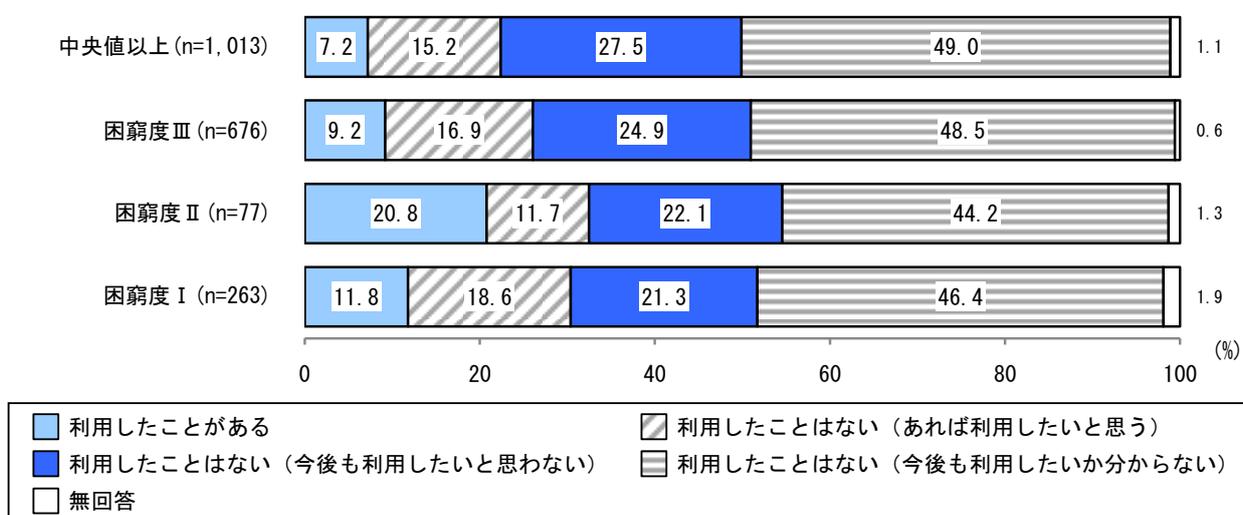
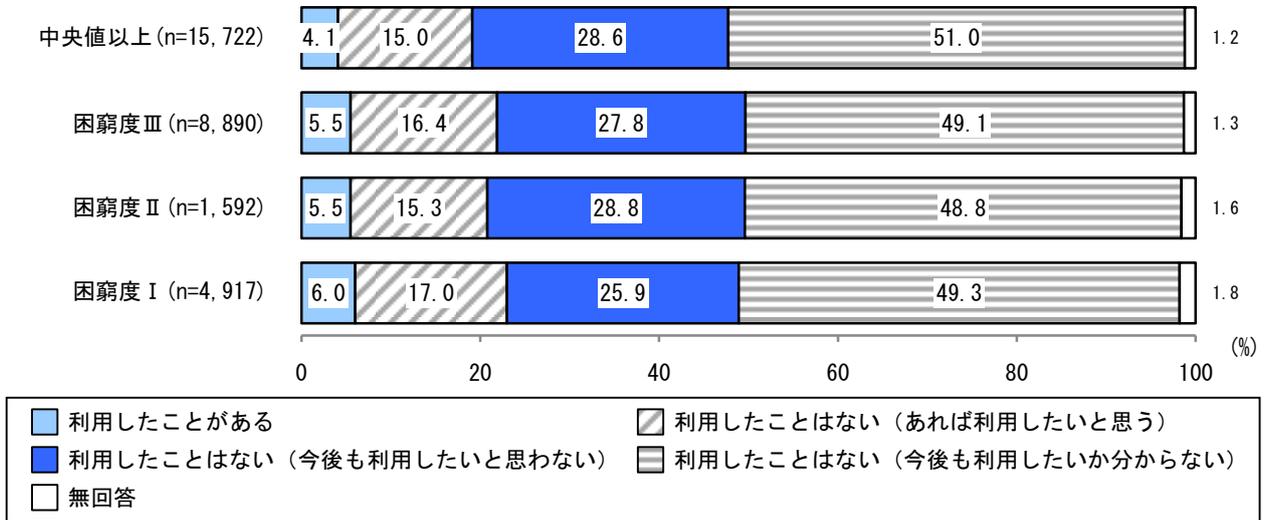


図 170. 困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

困窮度別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことはない (今後も利用したいか分からない)」と回答する割合が中央値以上群で49.0%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所（子ども票問 25(1)③）

<大阪府内全体>



<豊中市>

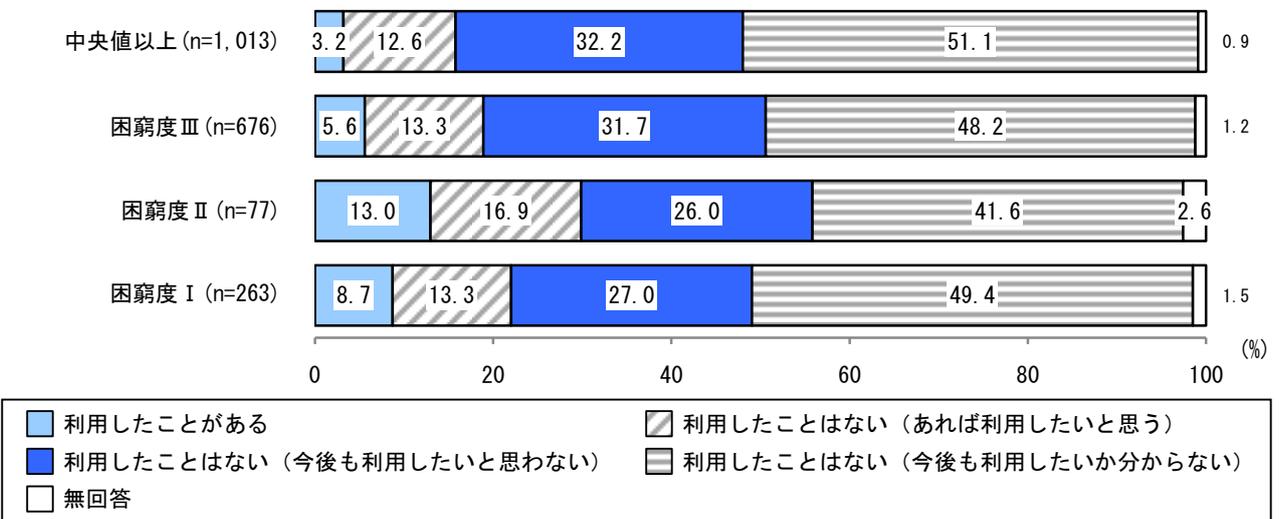
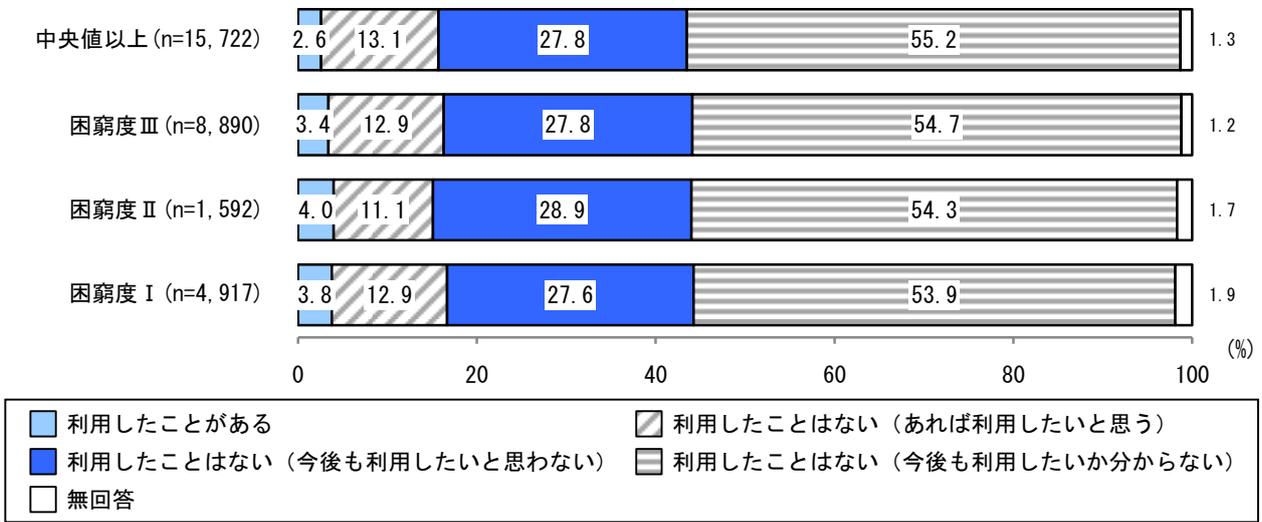


図 171. 困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

困窮度別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答する割合が困窮度Ⅱ群で13.0%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、何でも相談できる場所（子ども票問 25(1)④）

<大阪府内全体>



<豊中市>

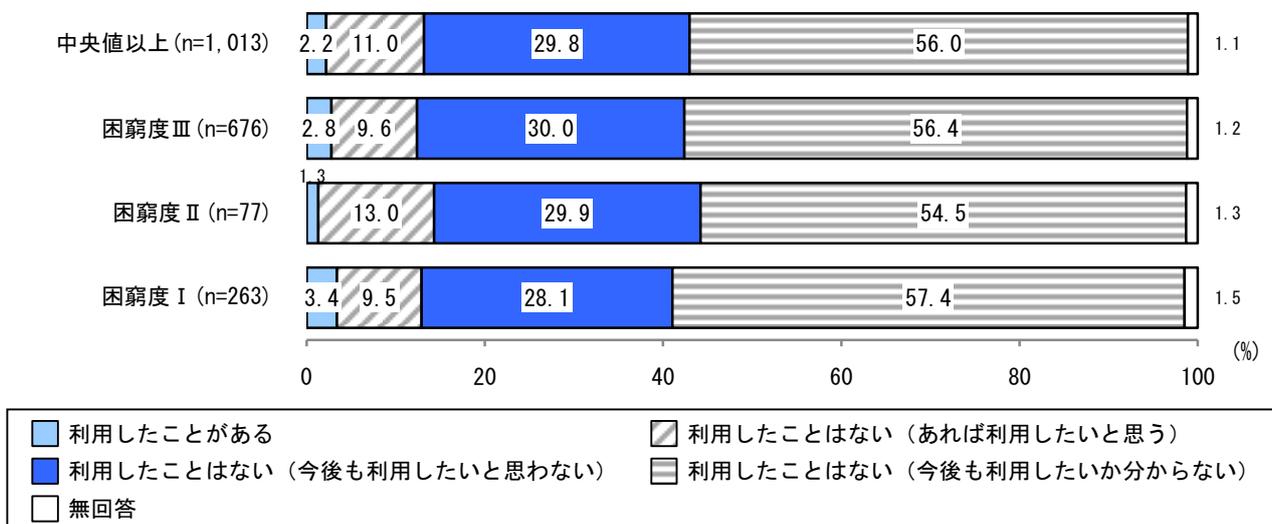
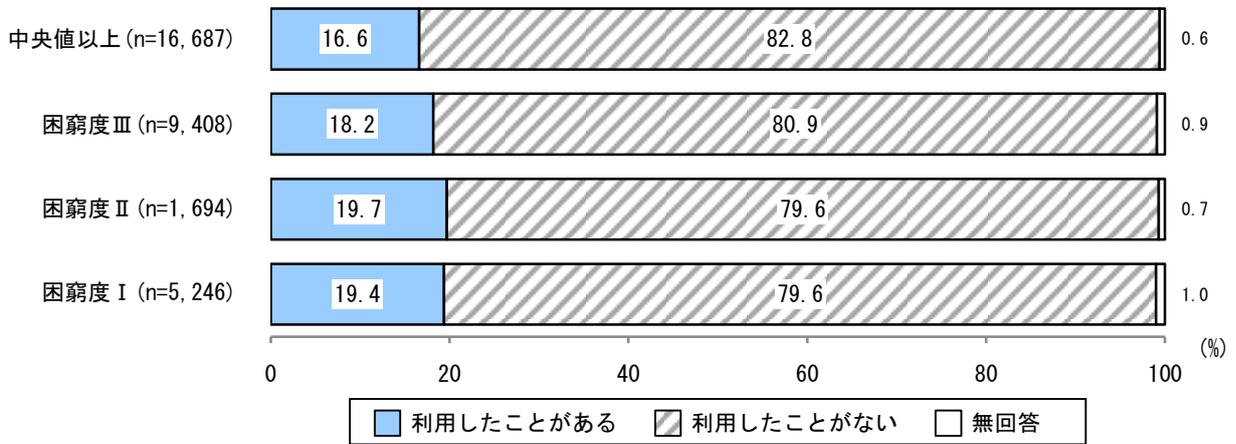


図 172. 困窮度別に見た、何でも相談できる場所

困窮度別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で3.4%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験（保護者票問 16(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

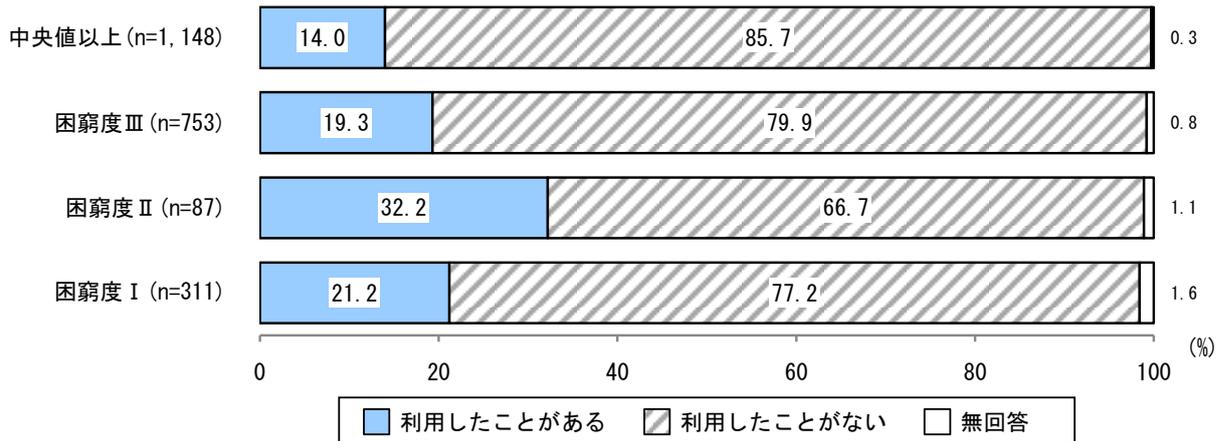
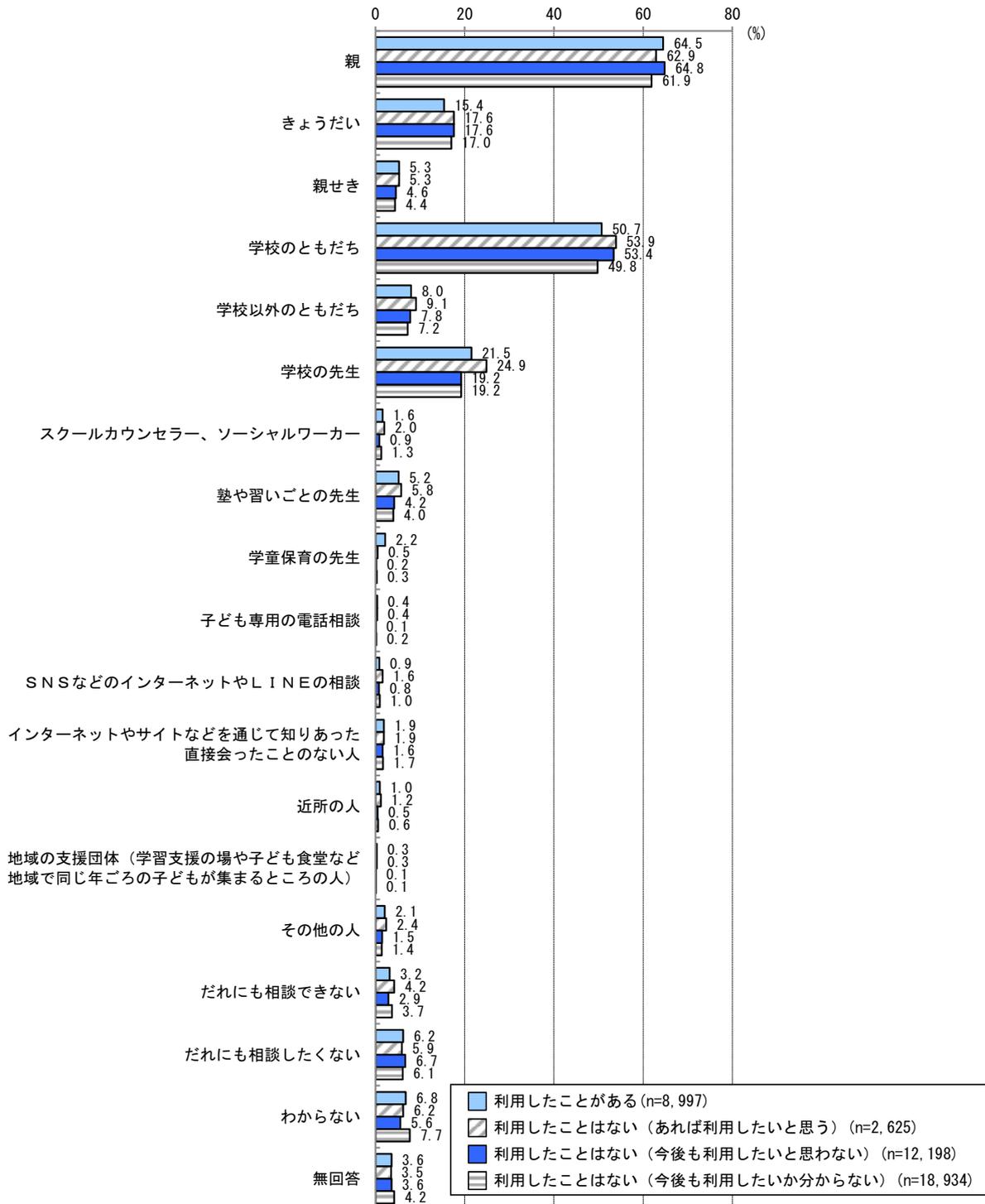


図 173. 困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験

困窮度別に子どもの居場所の利用経験を見ると、「利用したことがある」と回答する割合は中央値以上群が14.0%で最も低く、困窮度Ⅱ群が32.2%で最も高くなっている。

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手  
(子ども票問 25(1)①×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<豊中市>

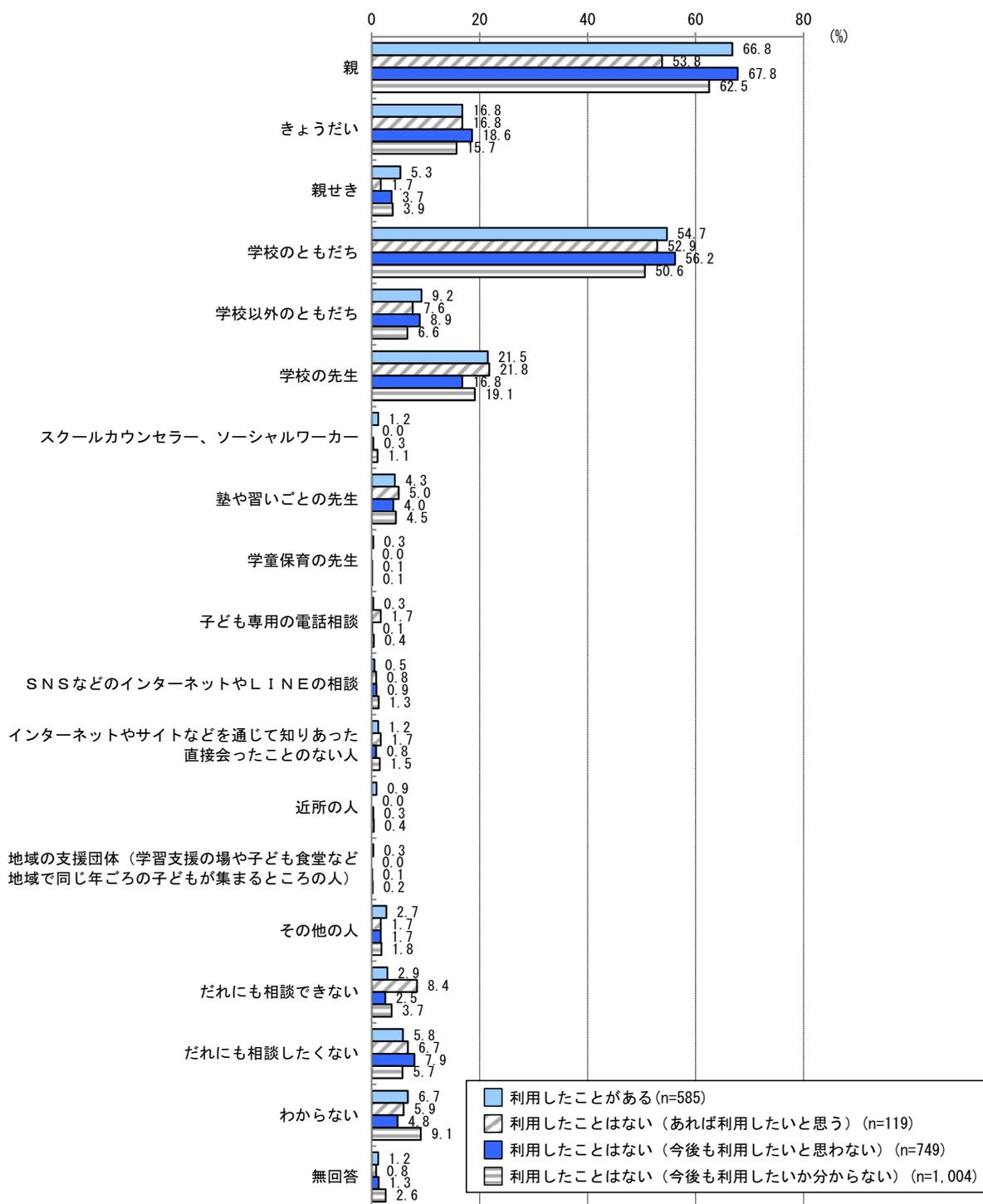
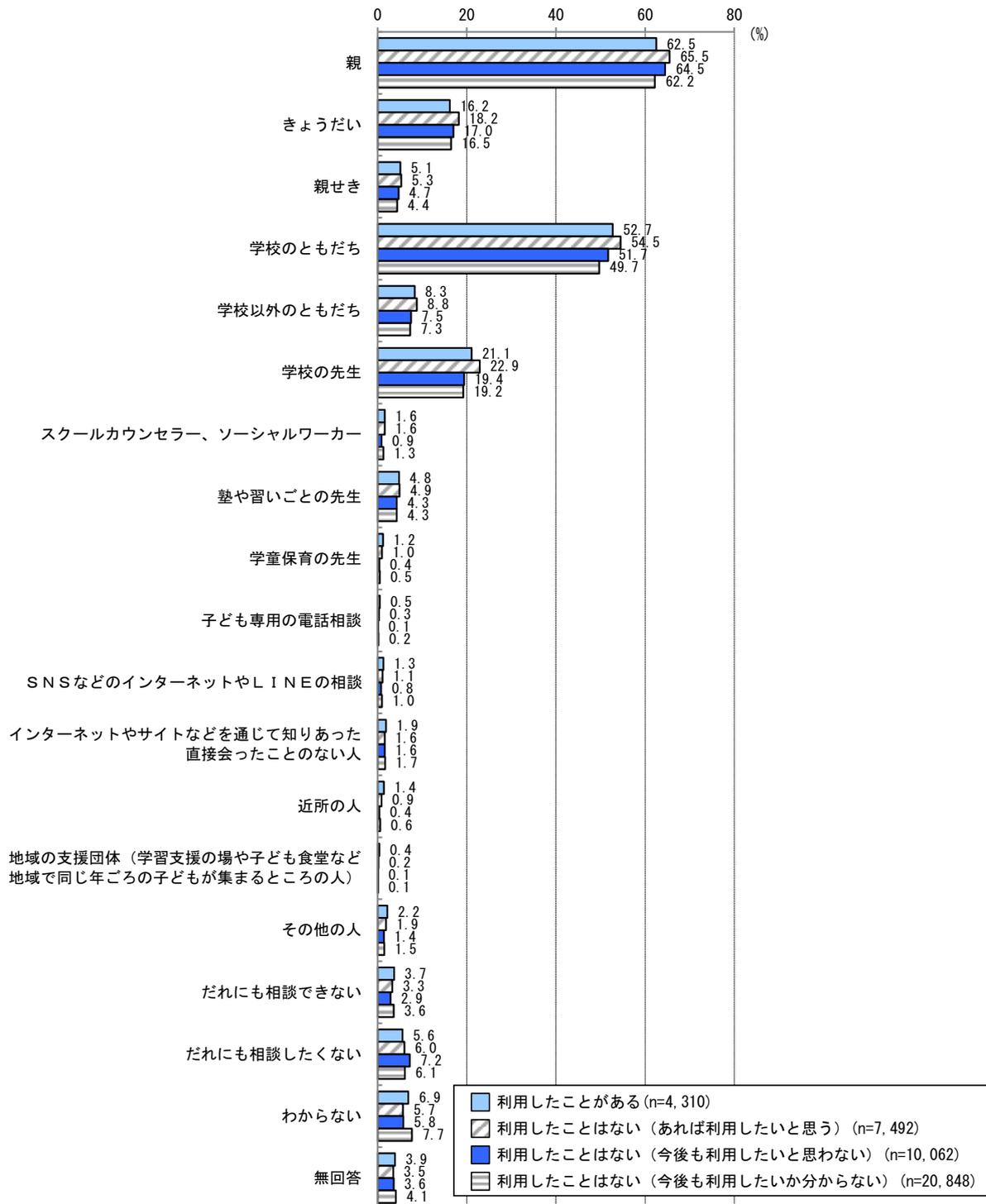


図 174. 平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親せき」「学校以外のともだち」「スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー」「学童保育の先生」「近所の人」「その他の人」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が高くなっている。

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 25 (1)②×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<豊中市>

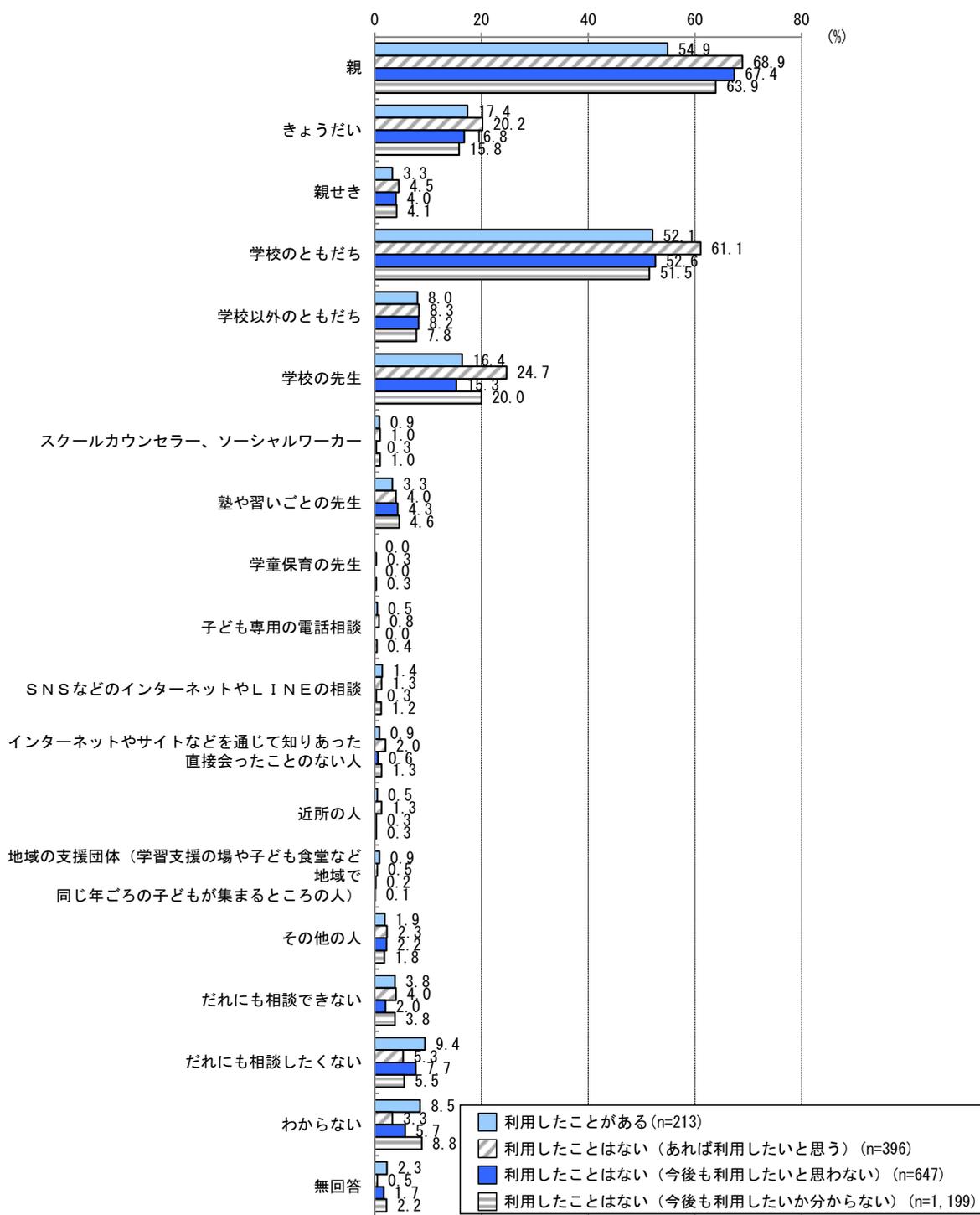
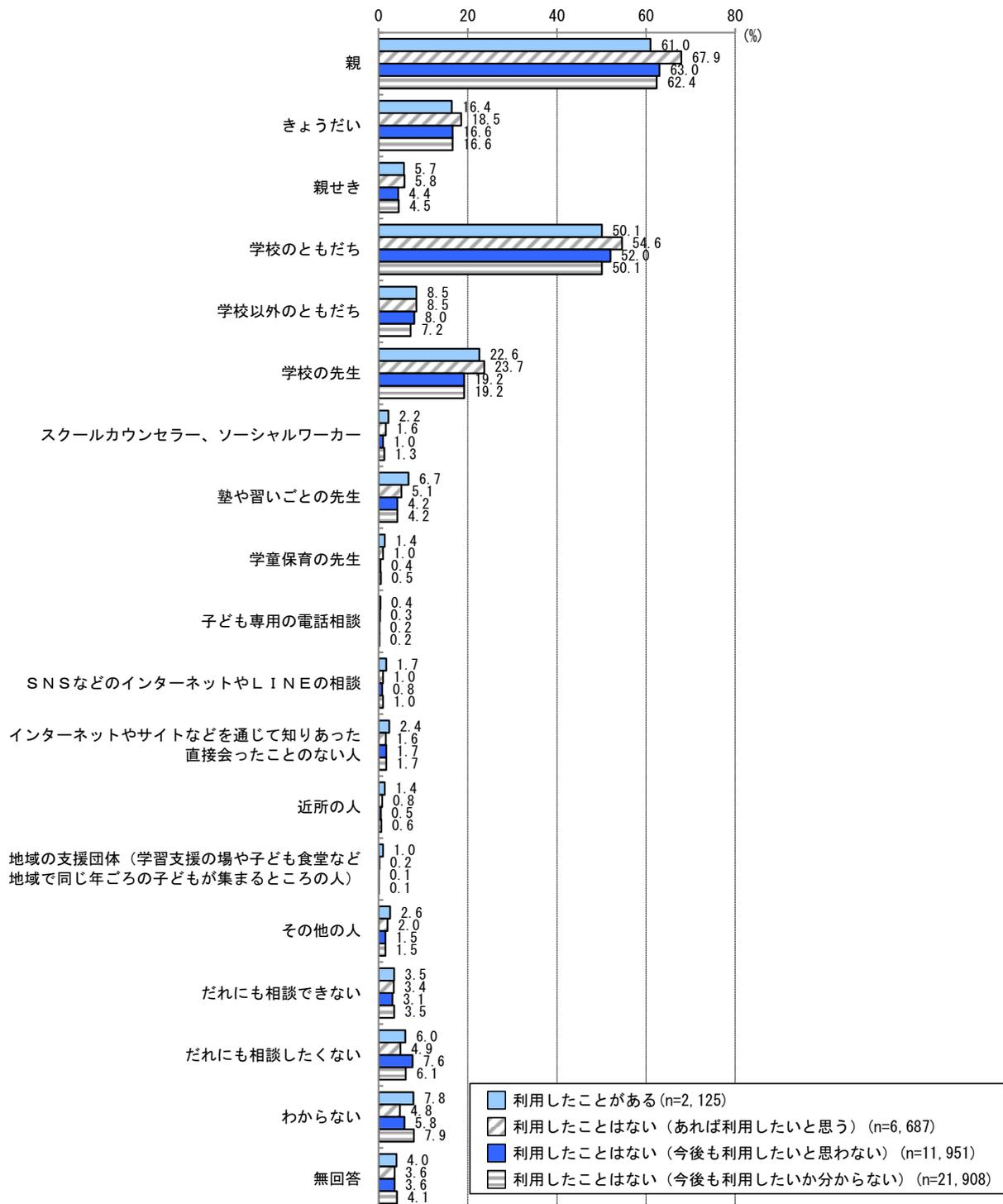


図 175. 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」や「親せき」、「塾や習いごとの先生」と回答した割合は、「利用したことはある」と回答した人より「利用したことがない」と回答した人のほうが割合が高くなっている。

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手  
(子ども票問 25(1)③×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<豊中市>

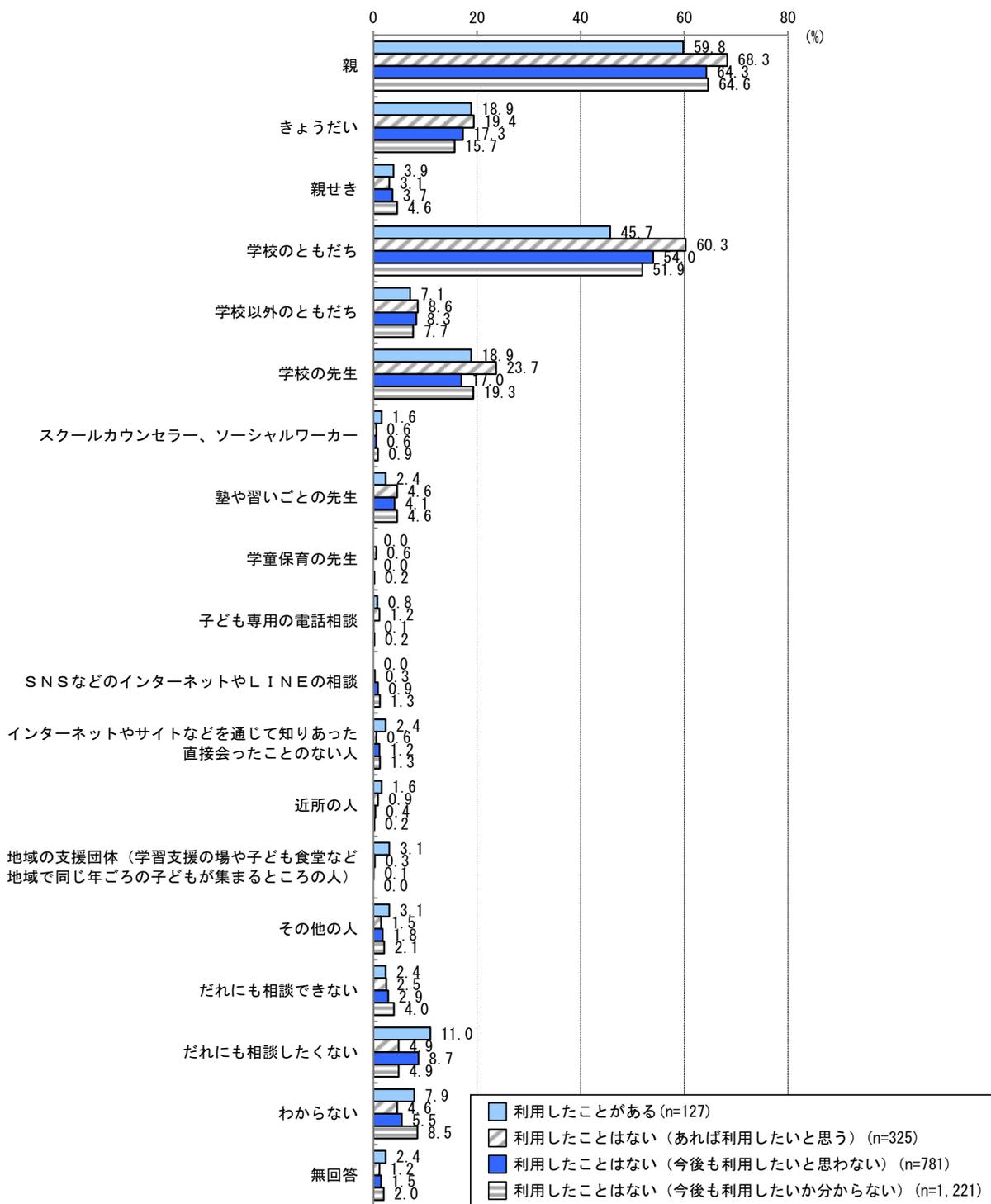
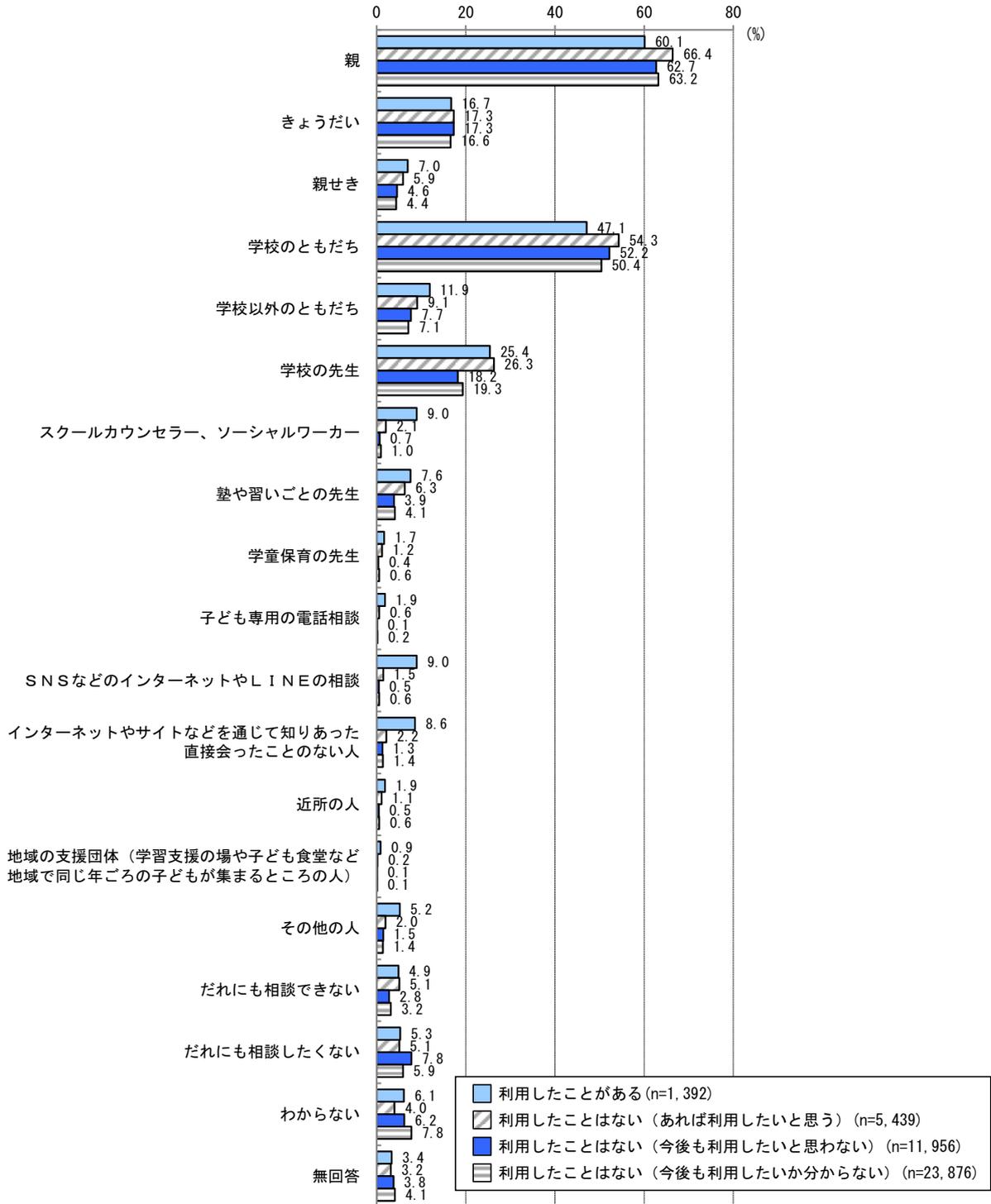


図 176. 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」や「学校のともだち」、「学校以外のともだち」、「塾や習いごとの先生」、「だれにも相談できない」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が低くなっている。

何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手  
 (子ども票問 25(1)④×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<豊中市>

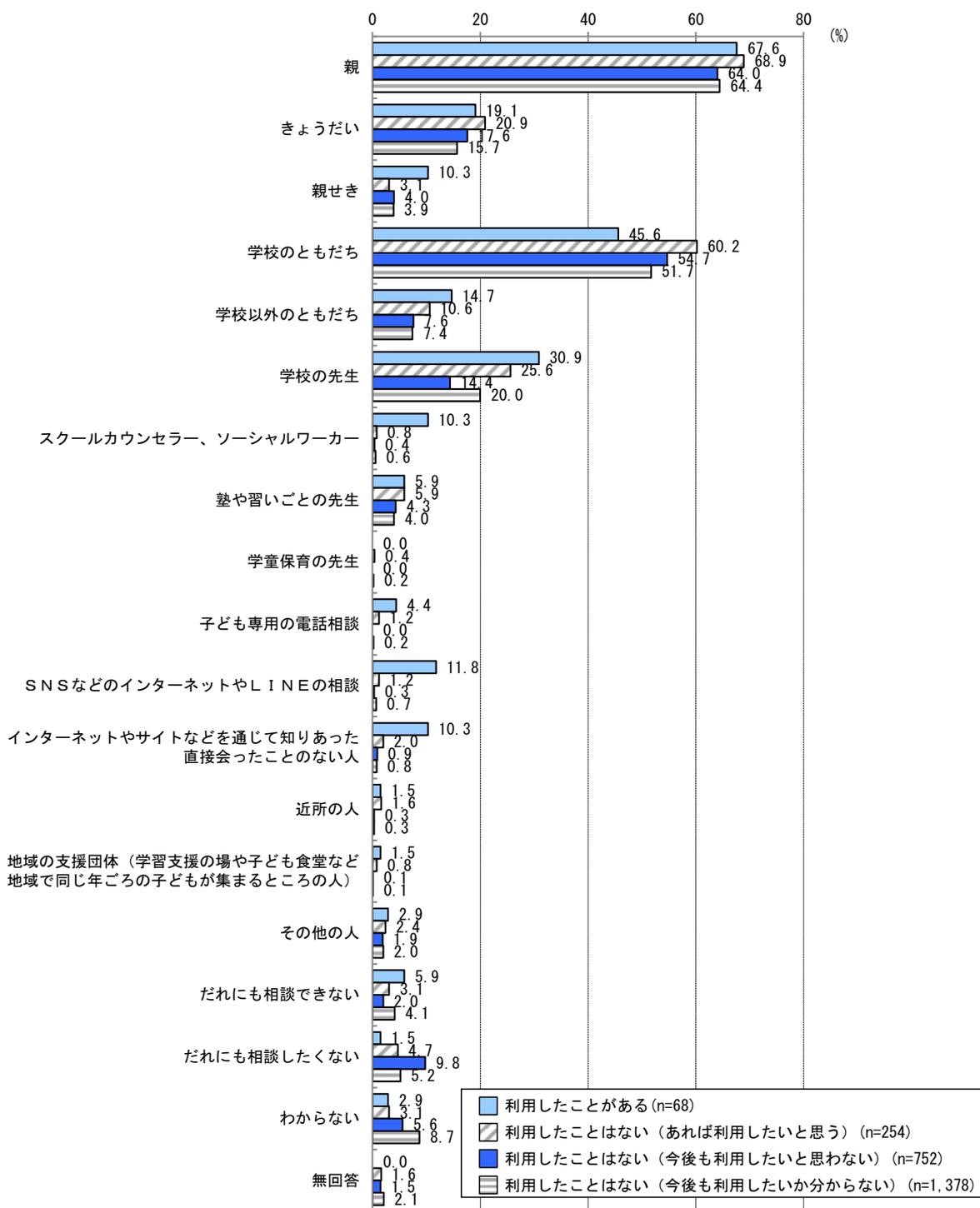
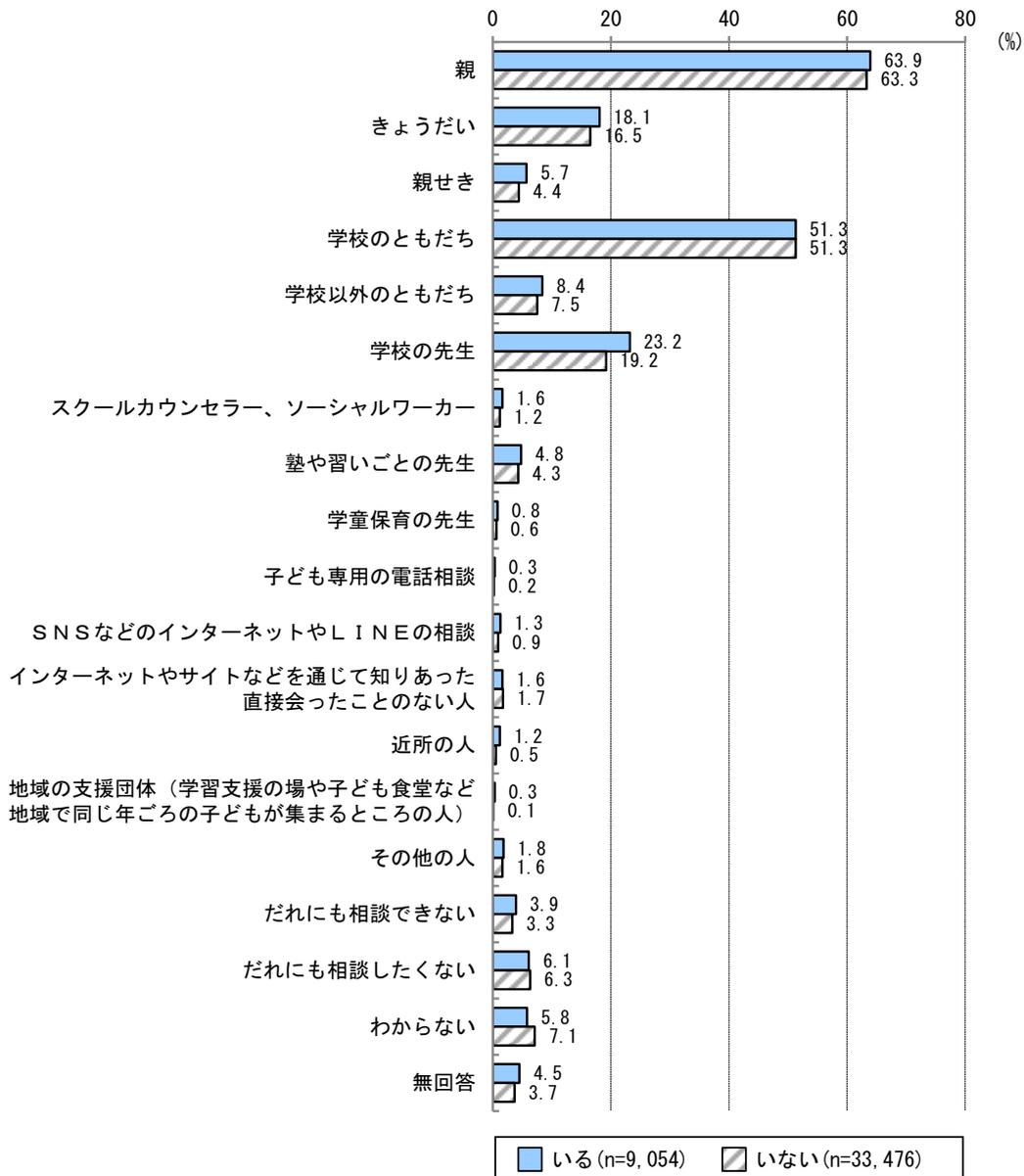


図 177. 何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

何でも相談できる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「学校のともだち」や「だれにも相談したくない」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が低くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手  
 (子ども票問 26(1) × 子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<豊中市>

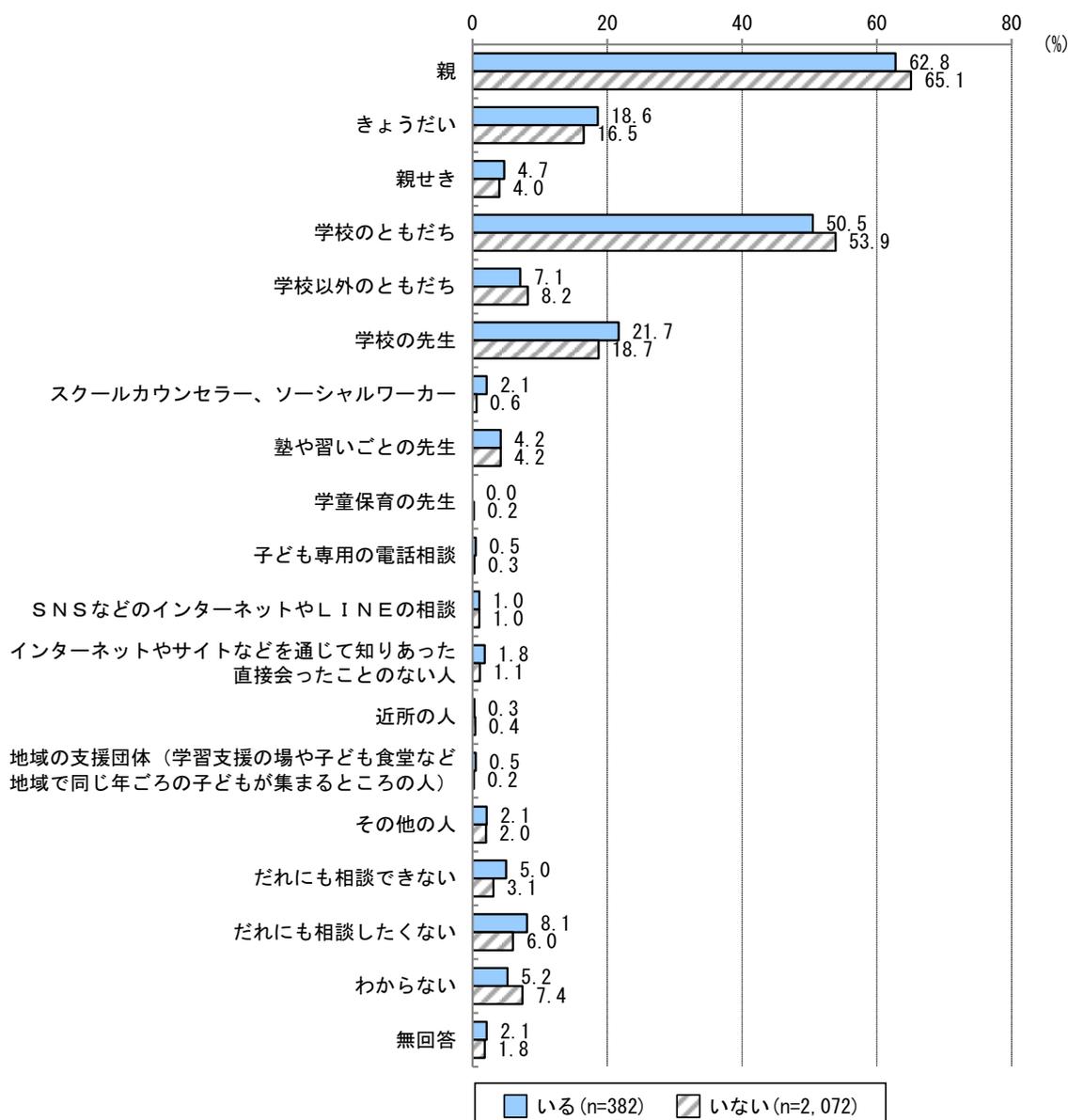
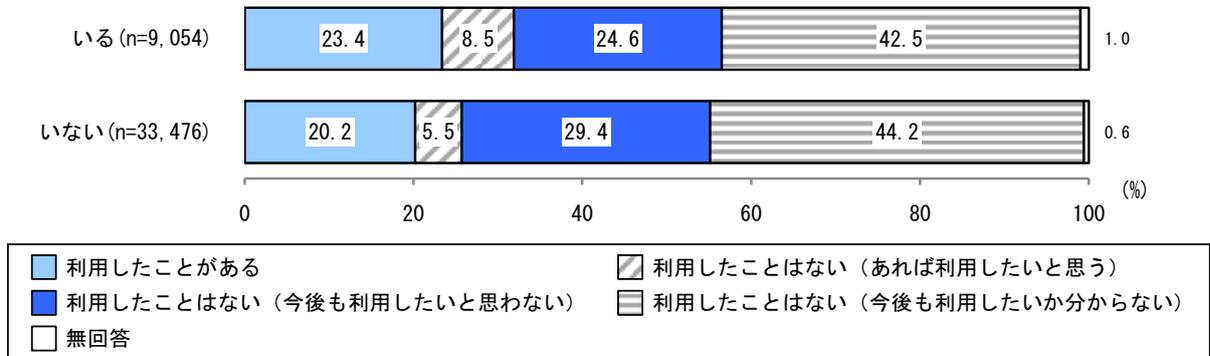


図 178. 自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

自分が世話をしている人の有無別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手をみると、相談相手が「きょうだい」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高く、世話をしている人では18.6%となっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所  
 (子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<豊中市>

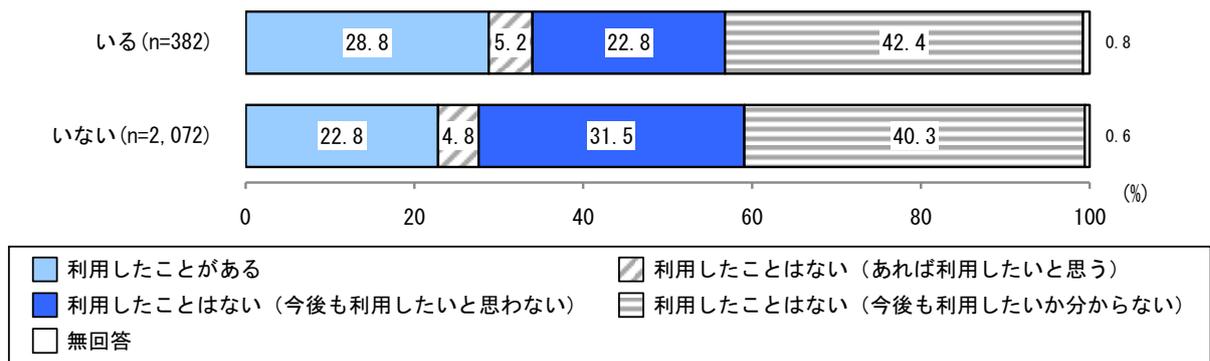
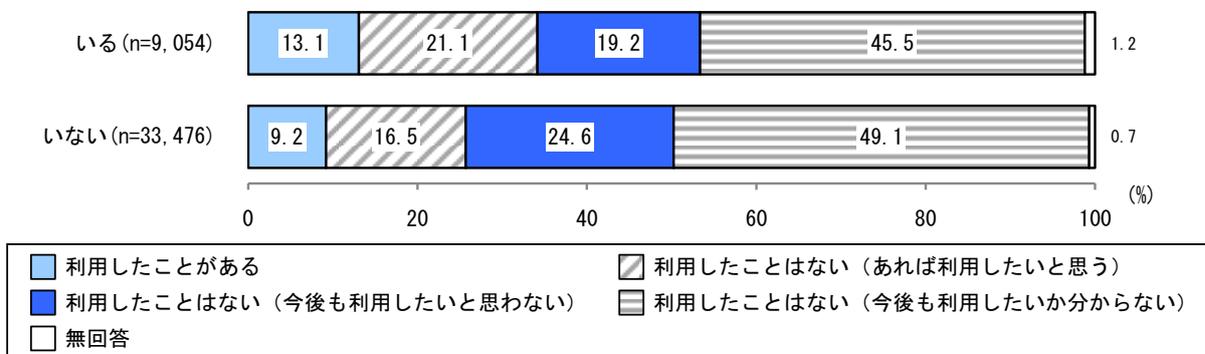


図 179. 自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

自分が世話をしている人の有無別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、平日の夜や休日を過ごすことができる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<豊中市>

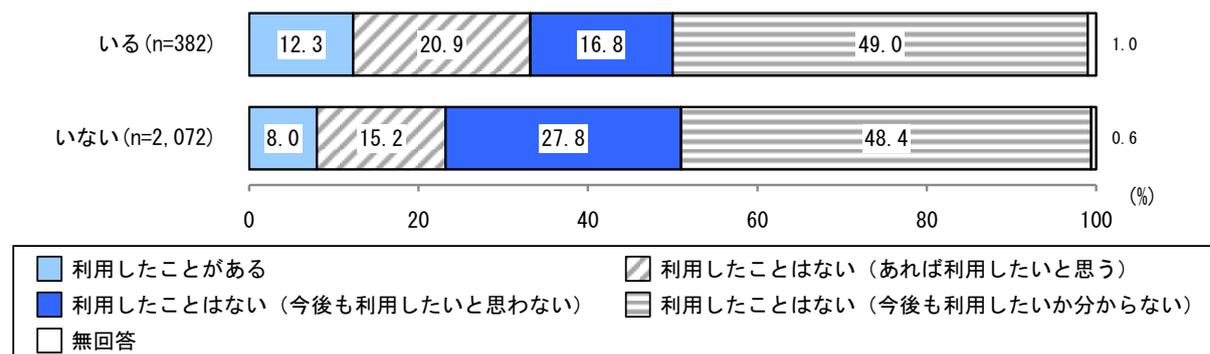
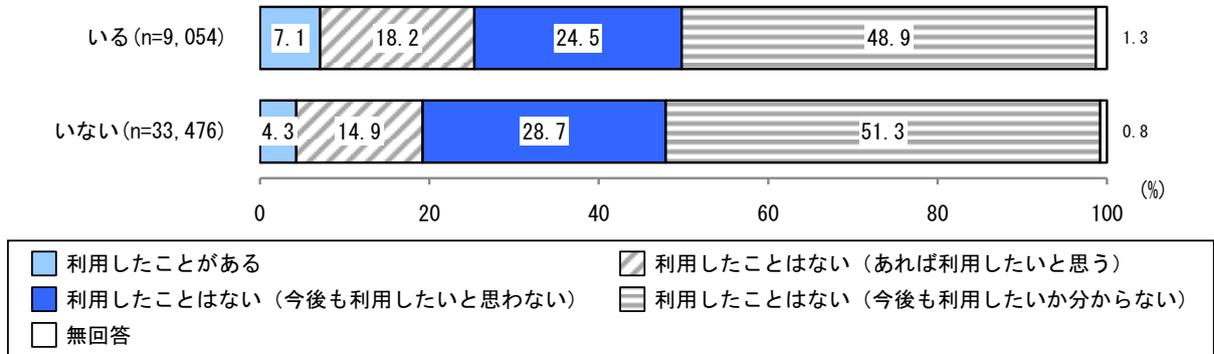


図 180. 自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

自分が世話をしている人の有無別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所  
 (子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<豊中市>

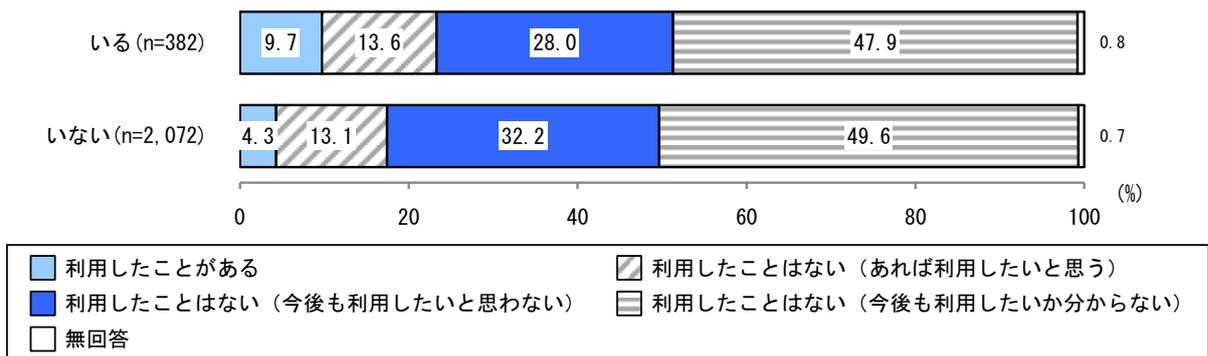
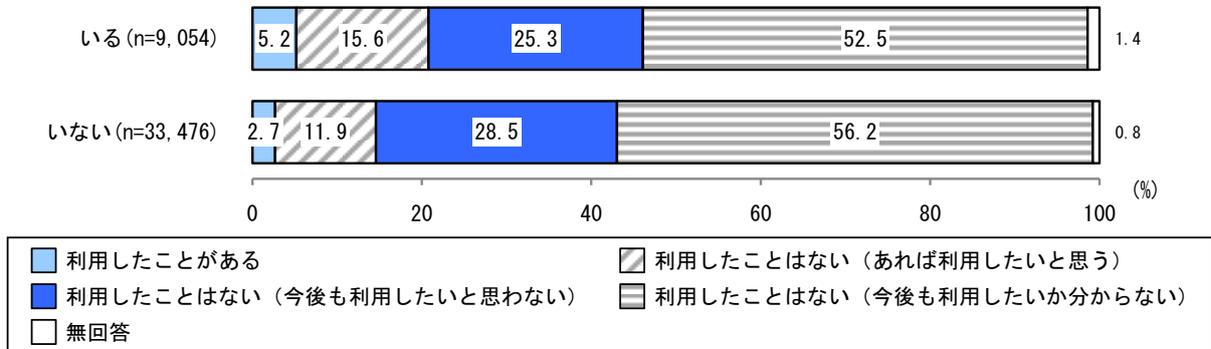


図 181. 自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

自分が世話をしている人の有無別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所  
 (子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<豊中市>

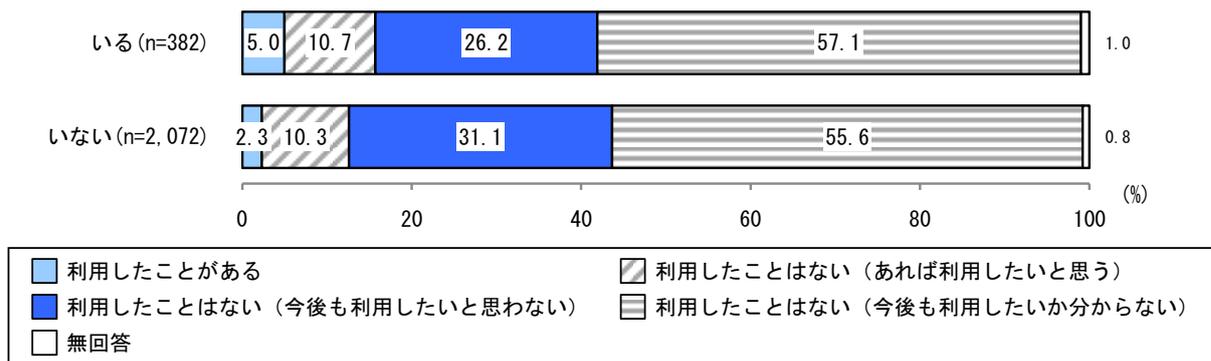
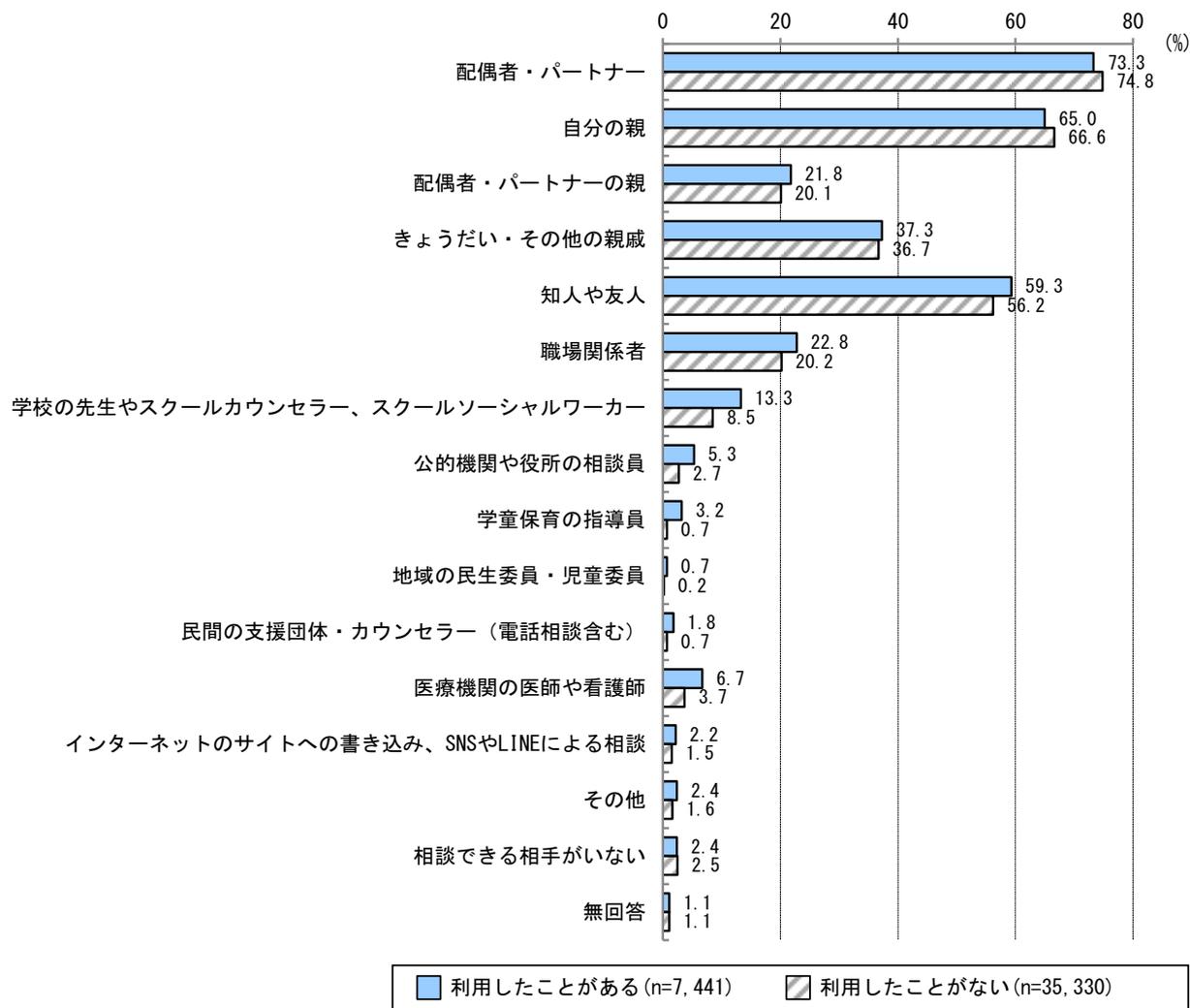


図 182. 自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所

自分が世話をしている人の有無別に何でも相談できる場所を見ると、何でも相談できる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先  
 (保護者票問 16(1) × 保護者票問 19)

<大阪府内全体>



<豊中市>

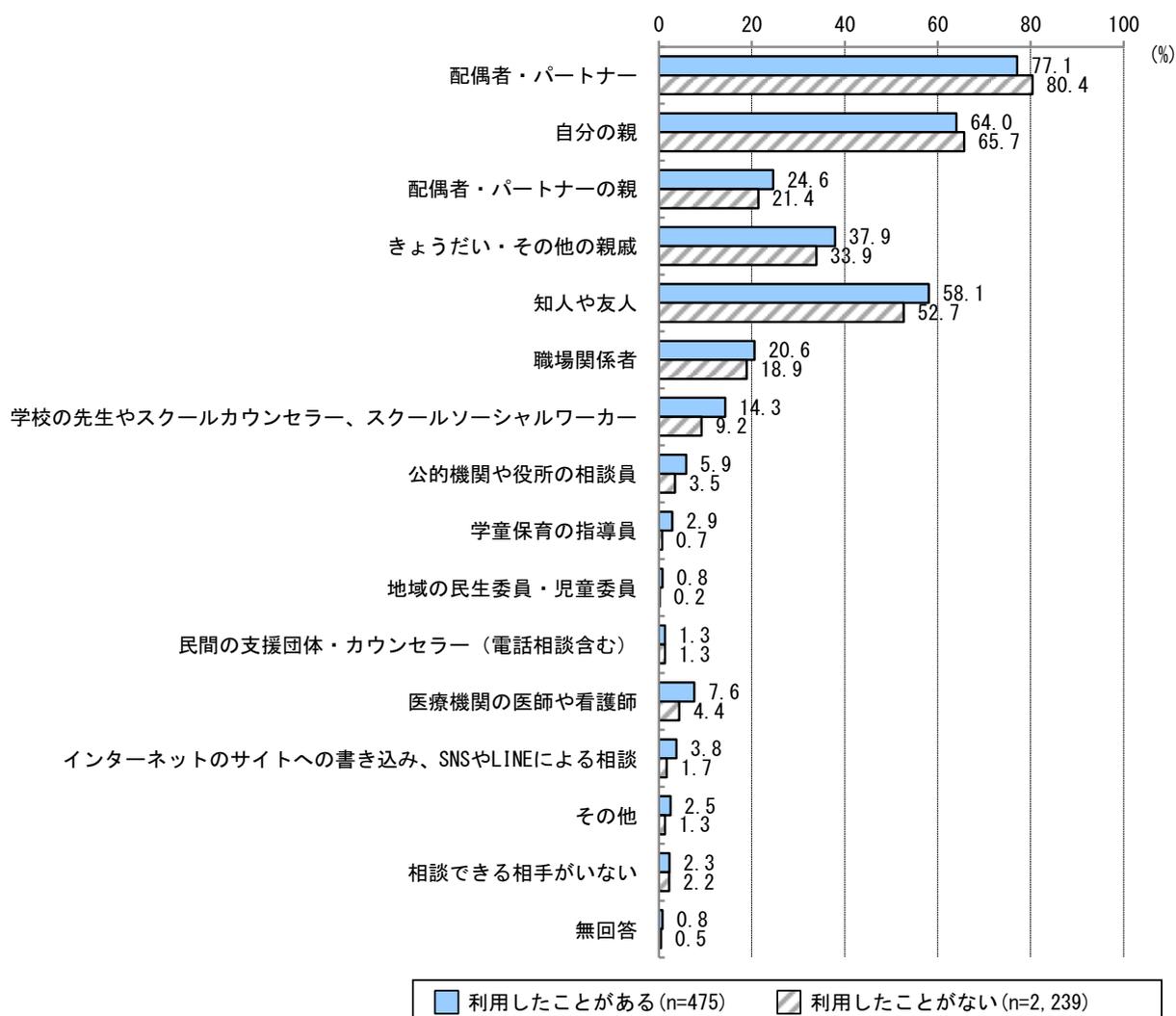
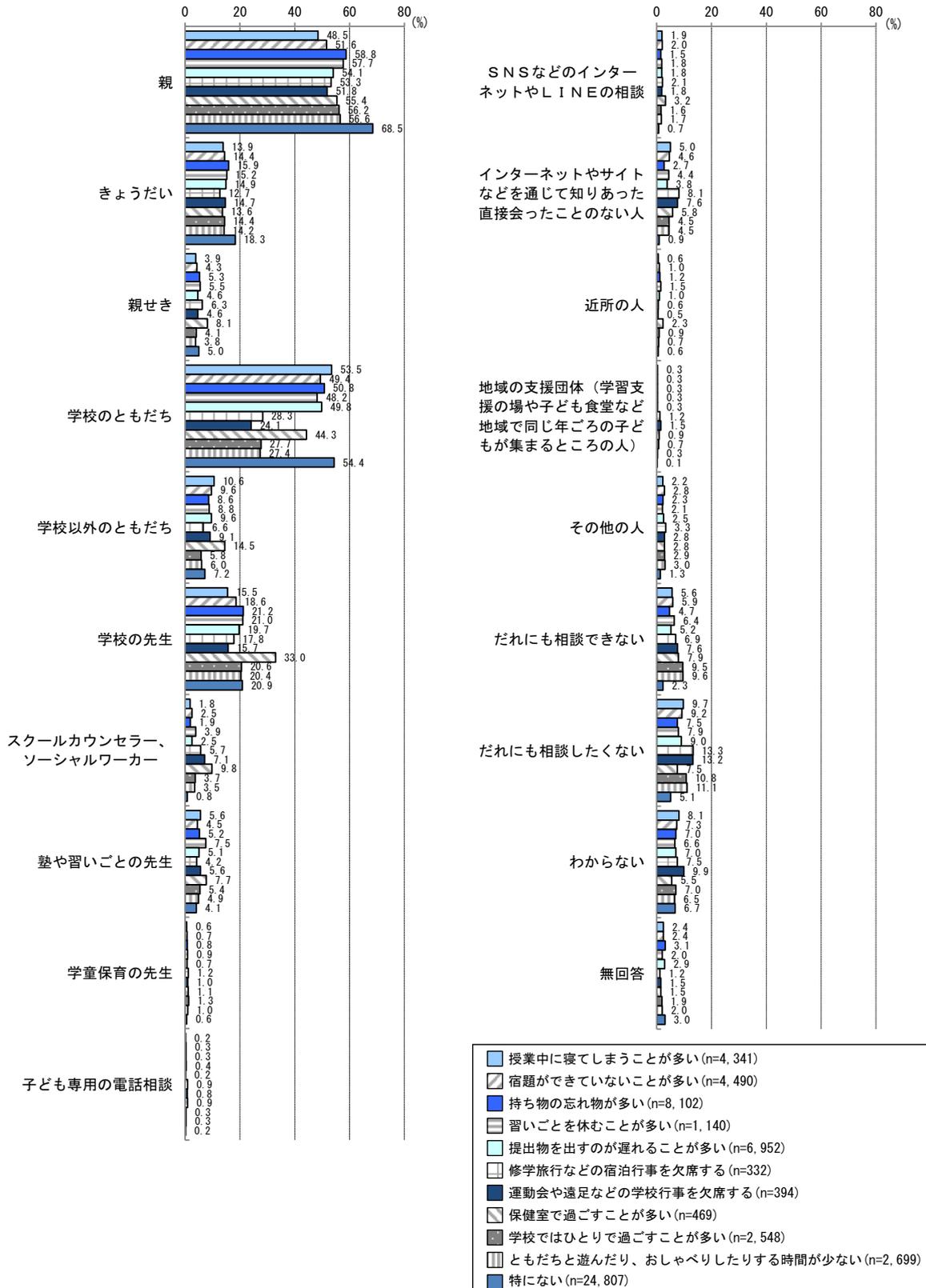


図 183. 子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

子どもの居場所の利用経験別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「自分の親」と回答した人の割合は、子どもの居場所を利用したことがある人より利用したことがない人のほうが割合が高くなっている。一方、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」や「公的機関や役所の相談員」、「医療機関の医師や看護師」と回答した人の割合は子どもの居場所を利用したことがない人より利用したことがある人のほうが割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手  
 (子ども票問 16×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<豊中市>

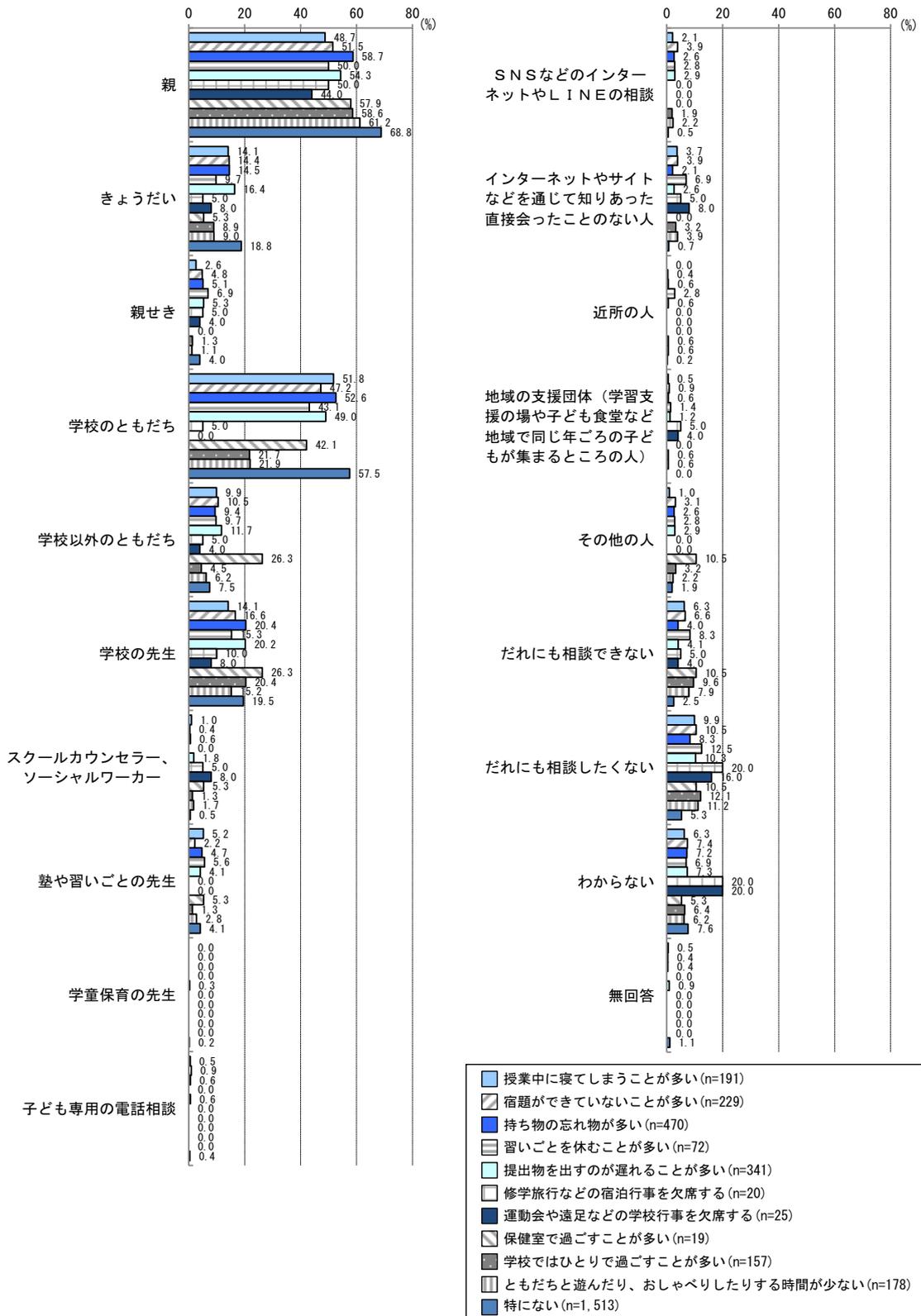
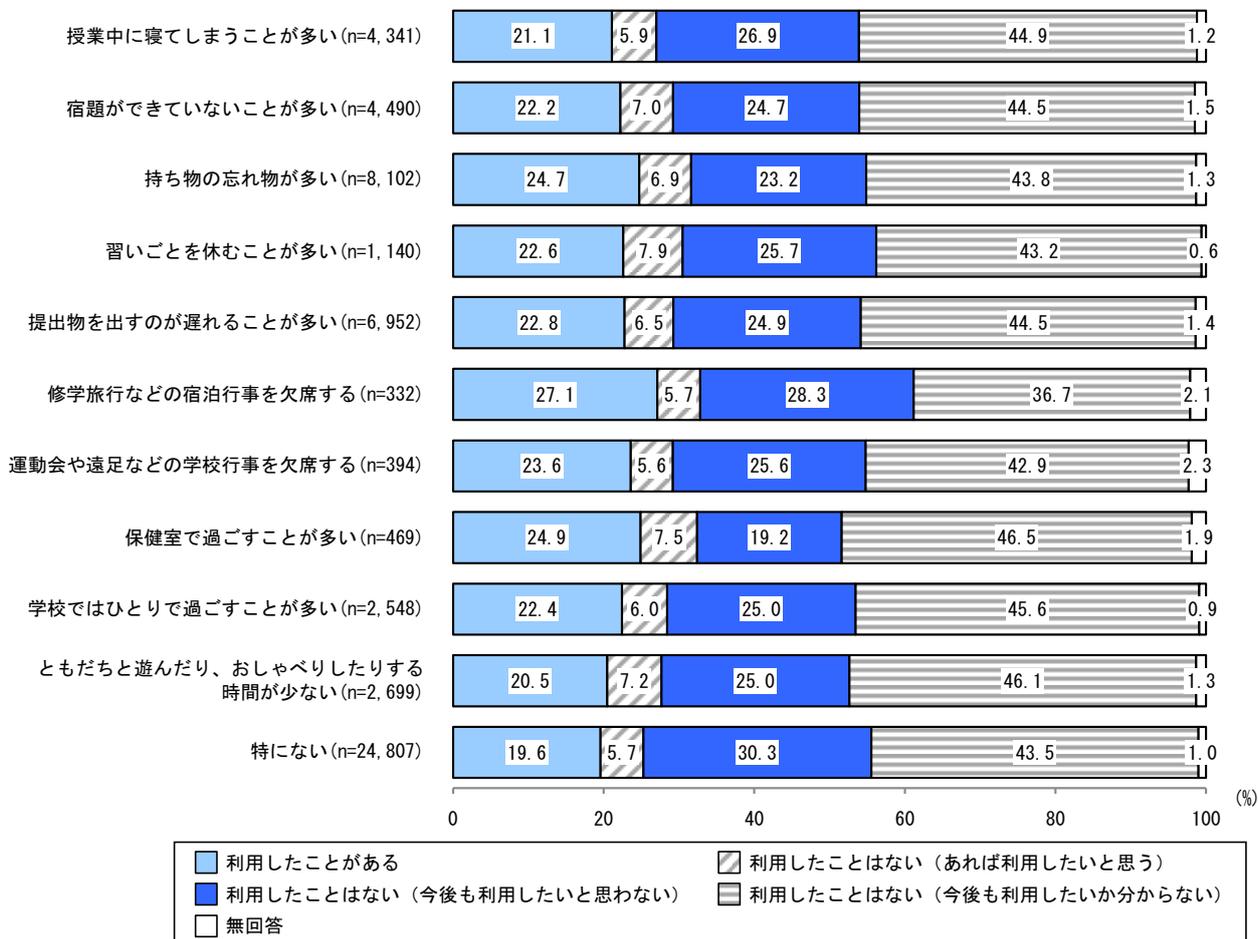


図 184. 学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

学校や学校の行事等の状況別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、「親」と回答した人の割合は「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」と回答した人の割合が61.2%で最も高くなっている。一方、「特にない」は68.8%となっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所  
 (子ども票問 16×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<豊中市>

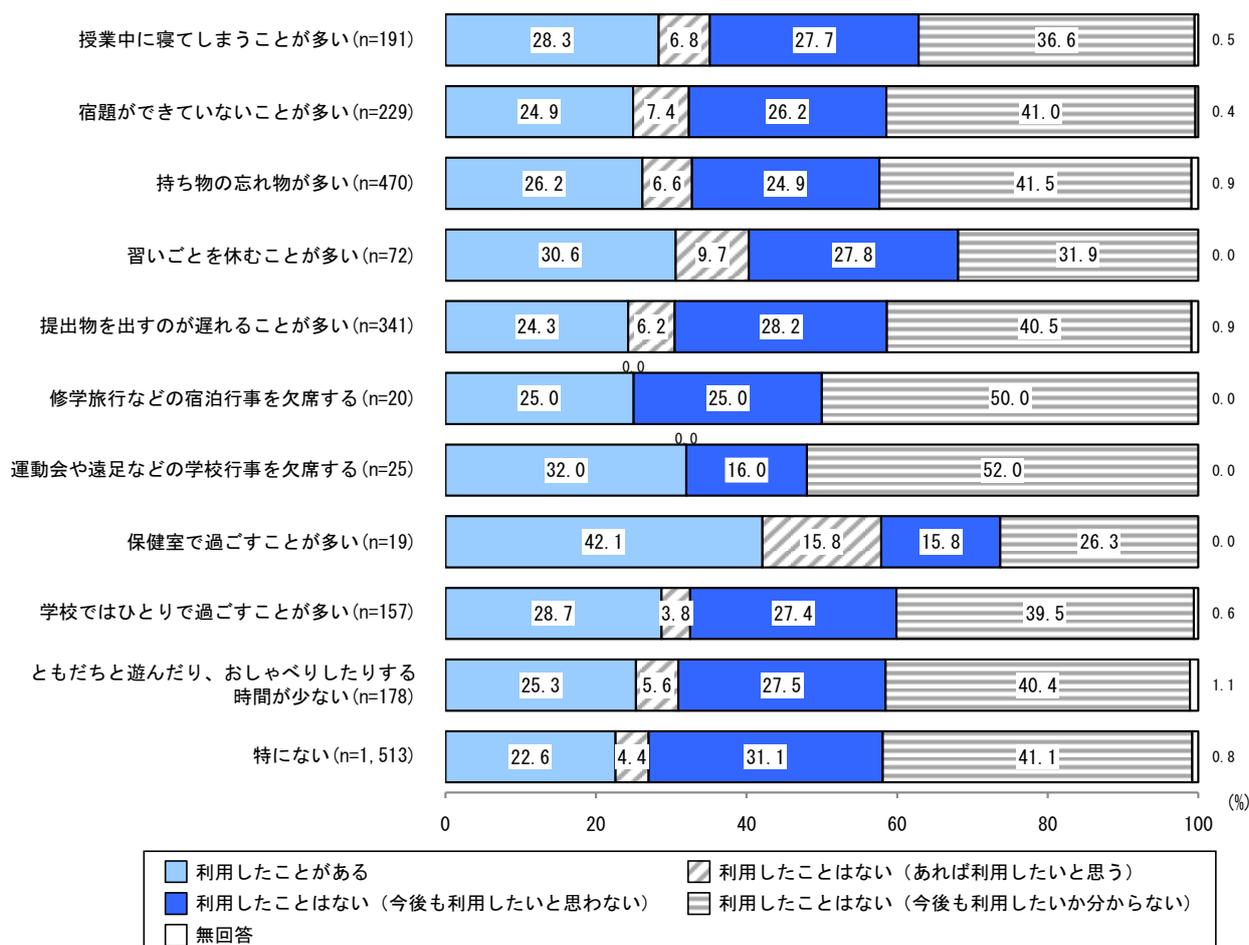
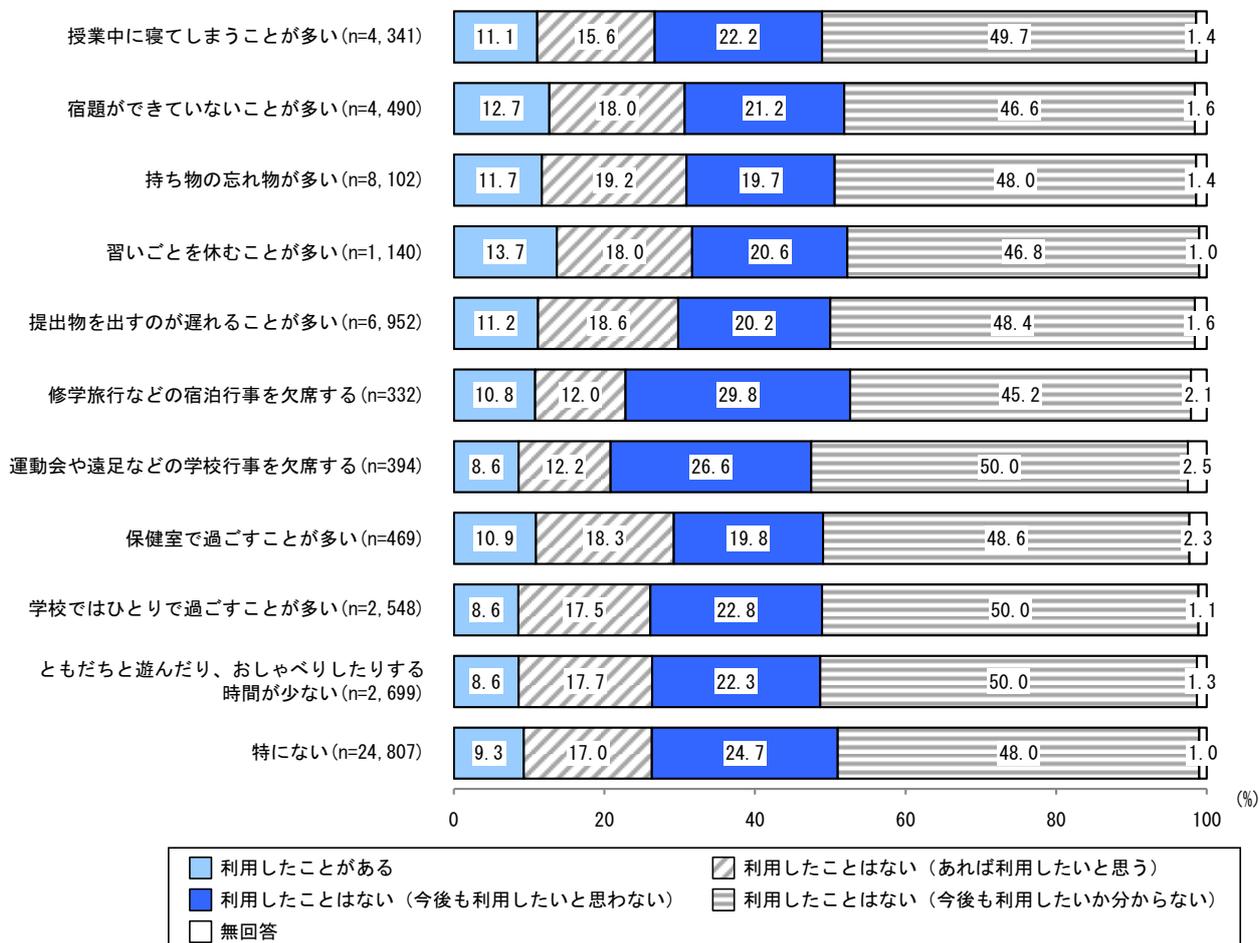


図 185. 学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

学校や学校の行事等の状況別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、項目によっては母数が少ないため、一概には言えないが、「利用したことがある」と回答した人の割合は「特にない」が22.6%で最も低く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が24.3%となっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 16×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<豊中市>

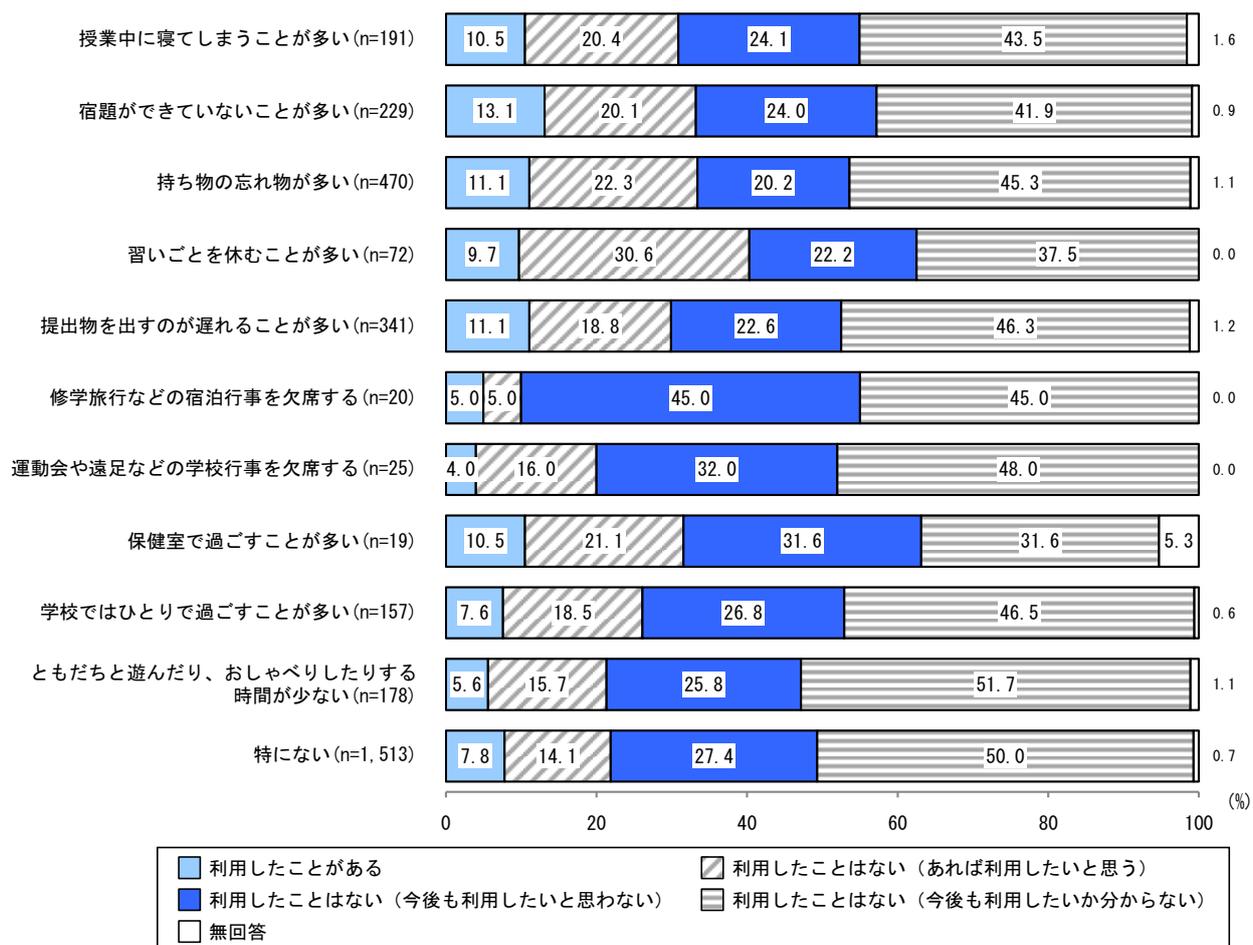
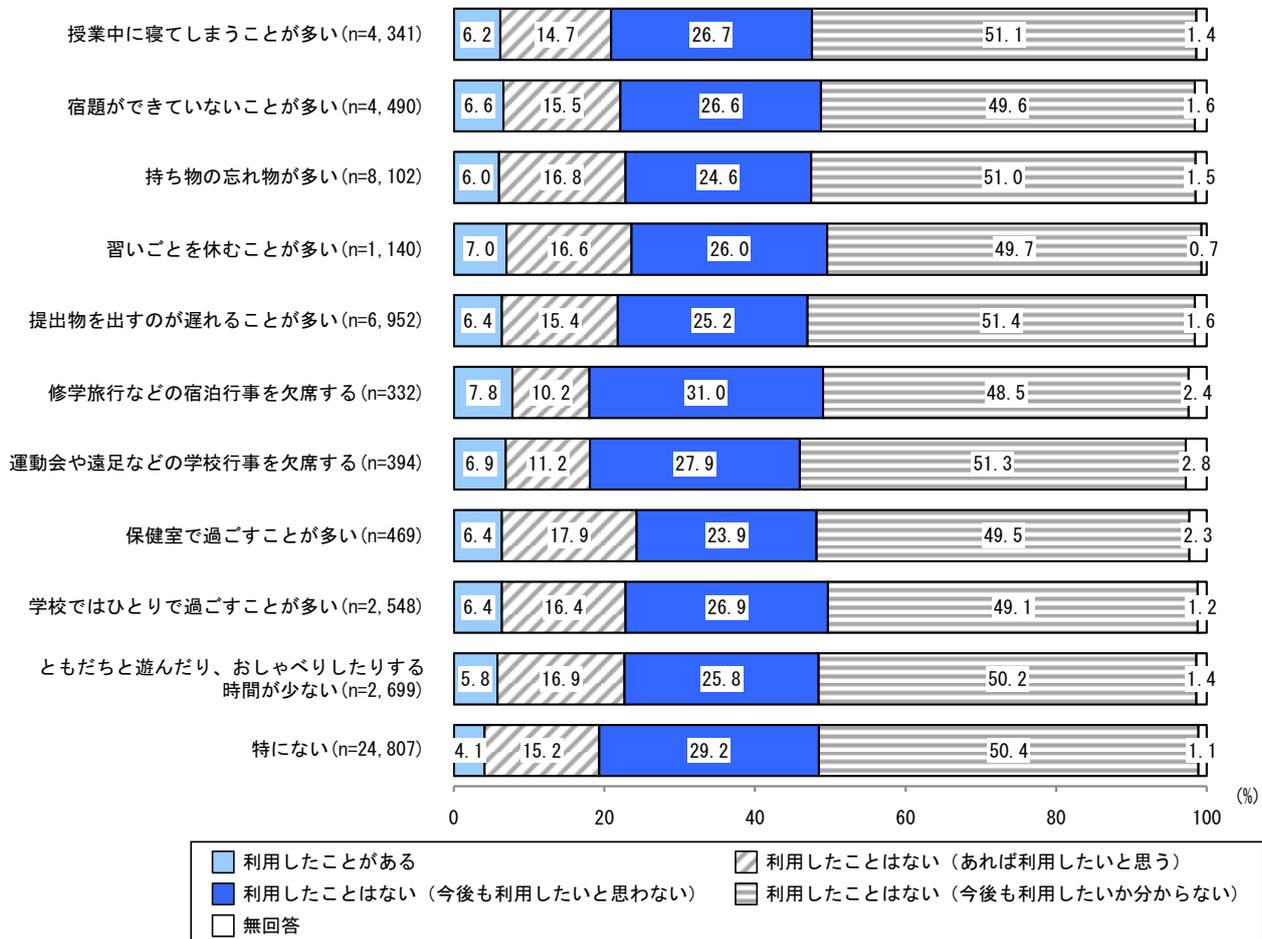


図 186. 学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

学校や学校の行事等の状況別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、項目によっては母数が少ないため、一概には言えないが、「利用したことがある」と回答した人の割合は「宿題ができていないことが多い」が13.1%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所  
 (子ども票問 16×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<豊中市>

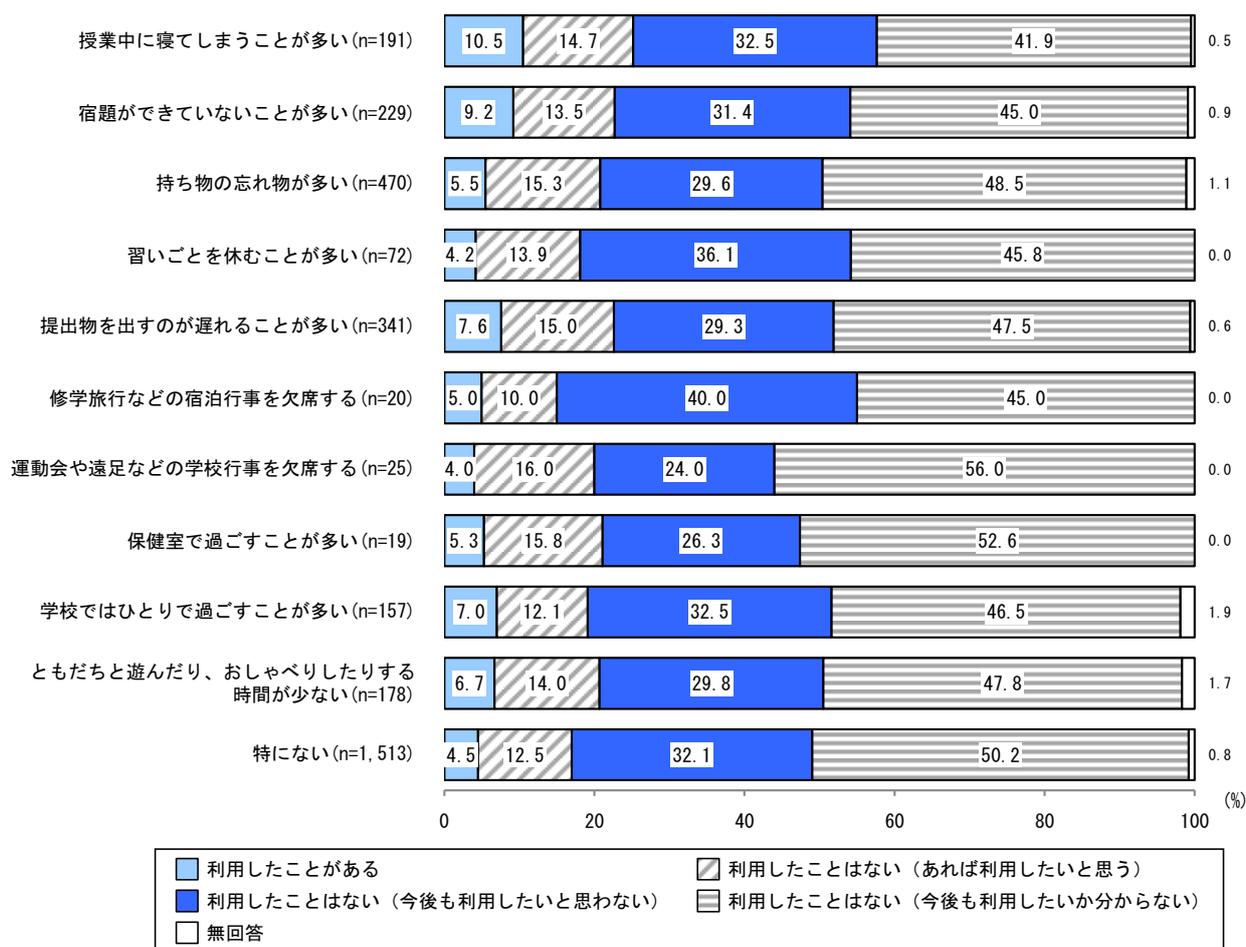
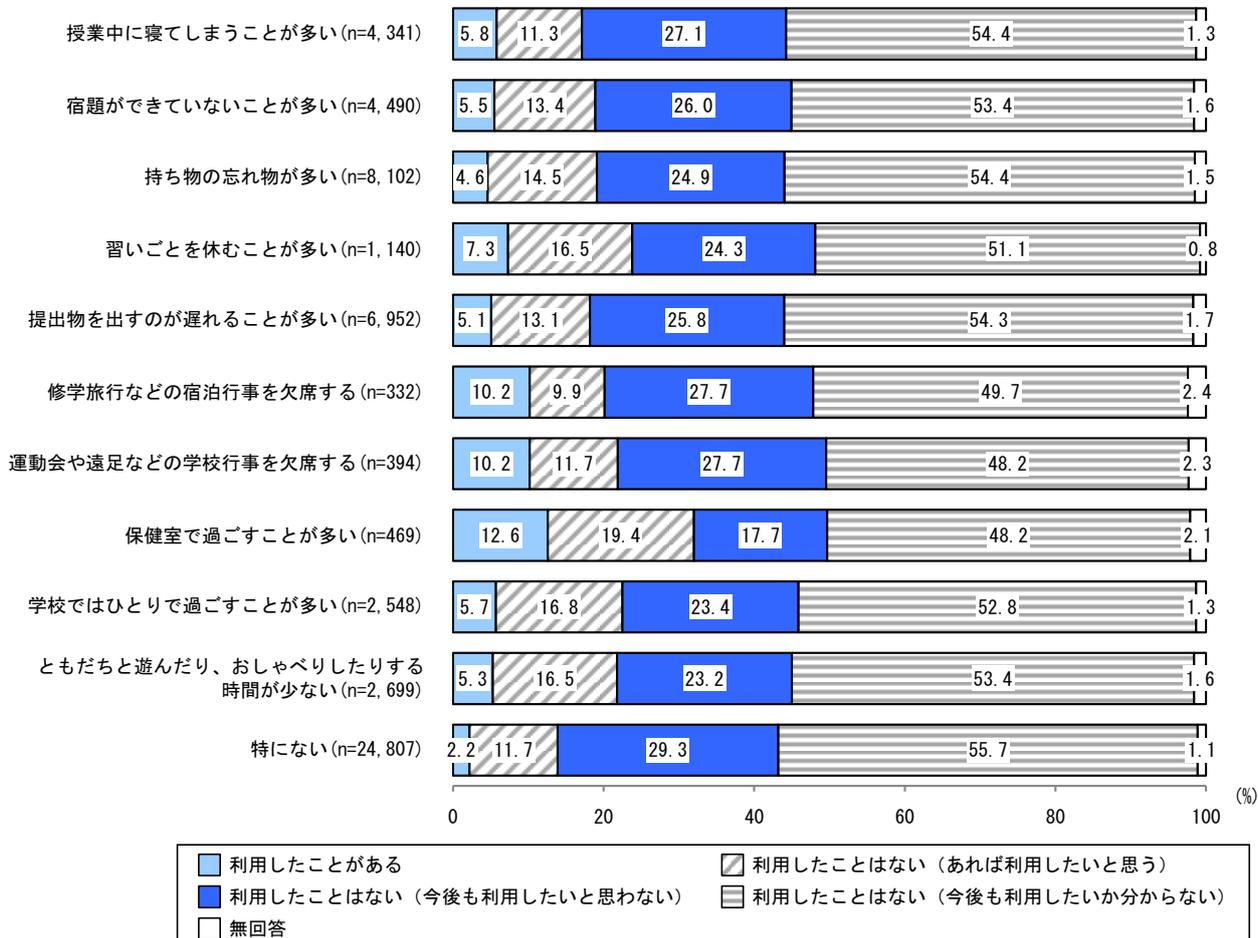


図 187. 学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

学校や学校の行事等の状況別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、項目によっては母数が少ないため、一概には言えないが、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」が16.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所  
 (子ども票問 16×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<豊中市>

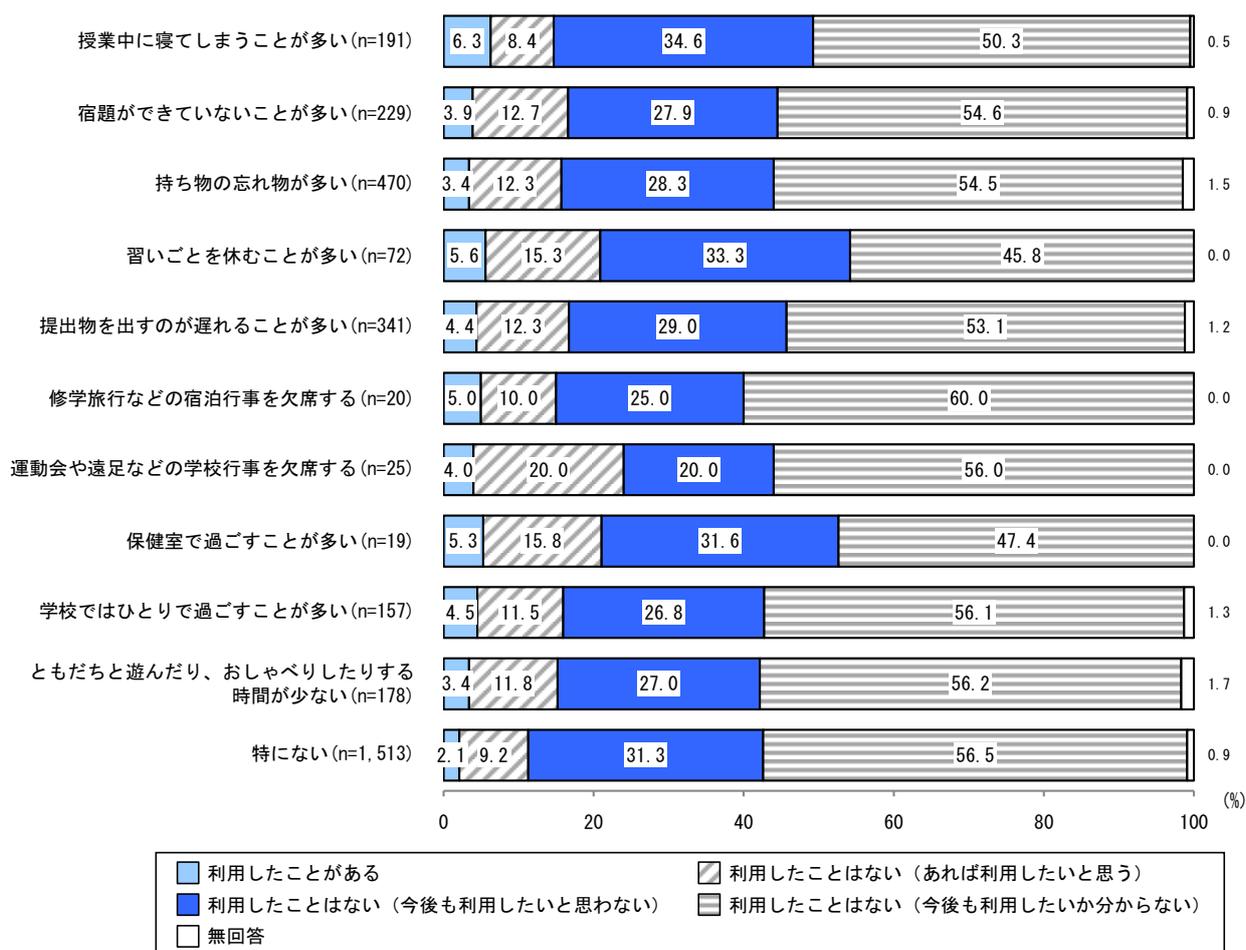
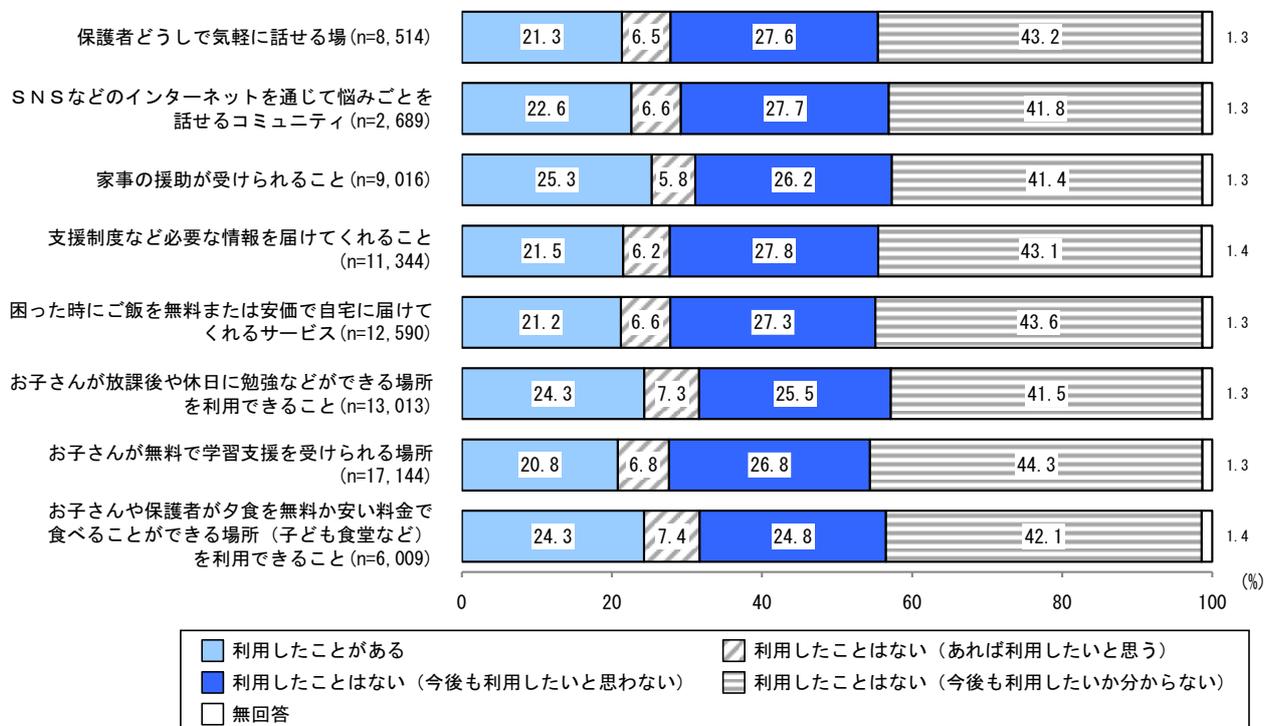


図 188. 学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所

学校や学校の行事等の状況別に何でも相談できる場所を見ると、項目によっては母数が少ないため、一概には言えないが、「利用したことがある」と回答した人の割合は「授業中に寝てしまうことが多い」が6.3%で最も高く、次いで「習いごとを休むことが多い」が5.6%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所  
 (保護者票問 20×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<豊中市>

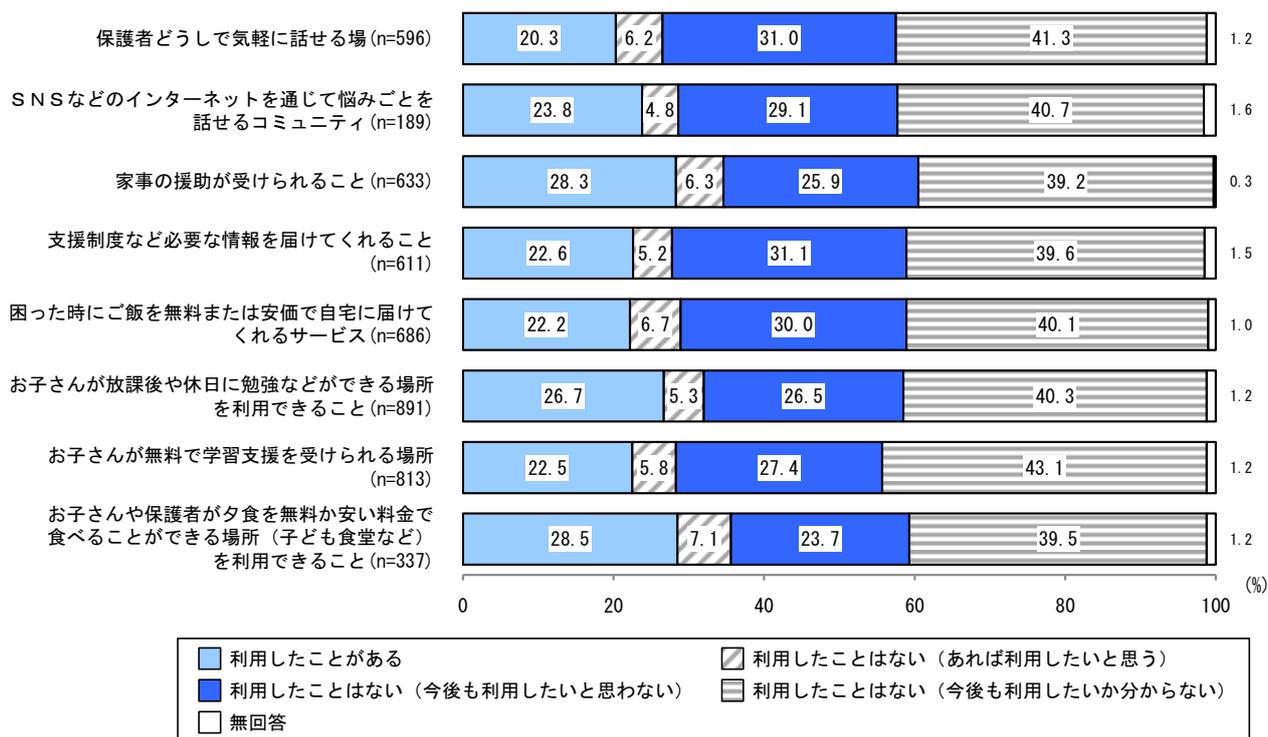
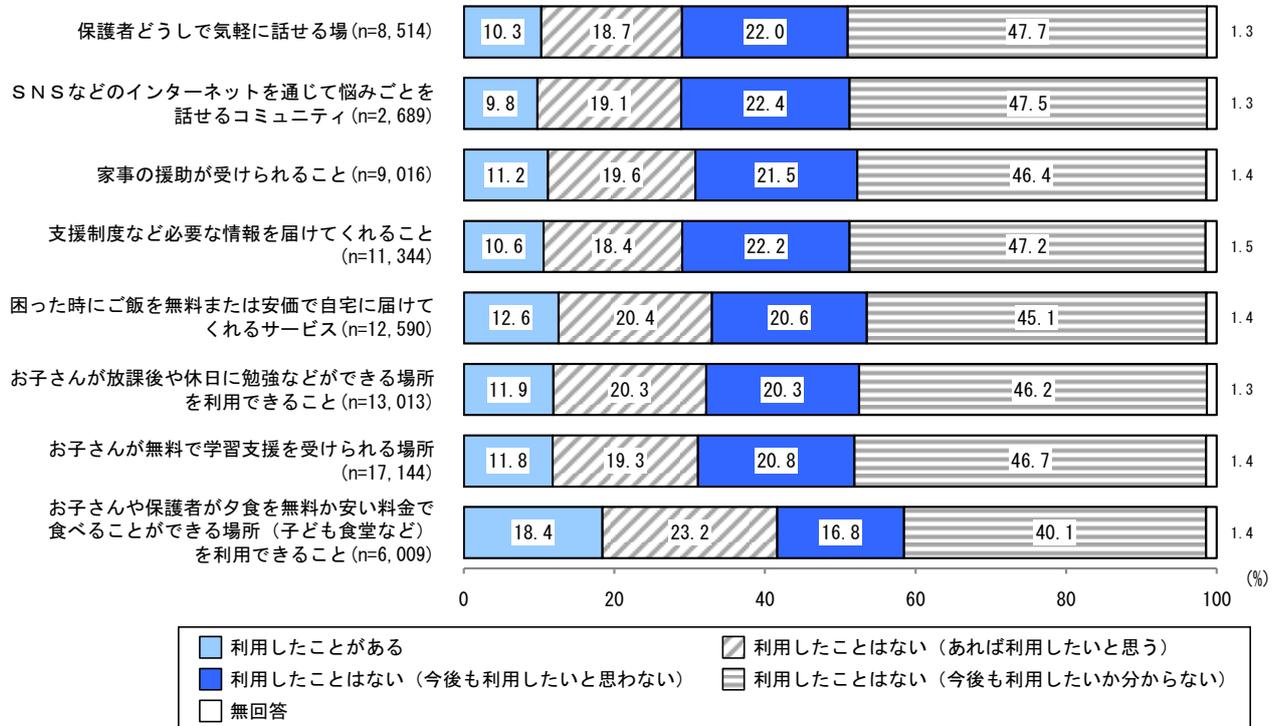


図 189. 身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

身近にあるといいと思うこと別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が28.5%で最も高く、次いで「家事の援助が受けられること」が28.3%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（保護者票問 20×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<豊中市>

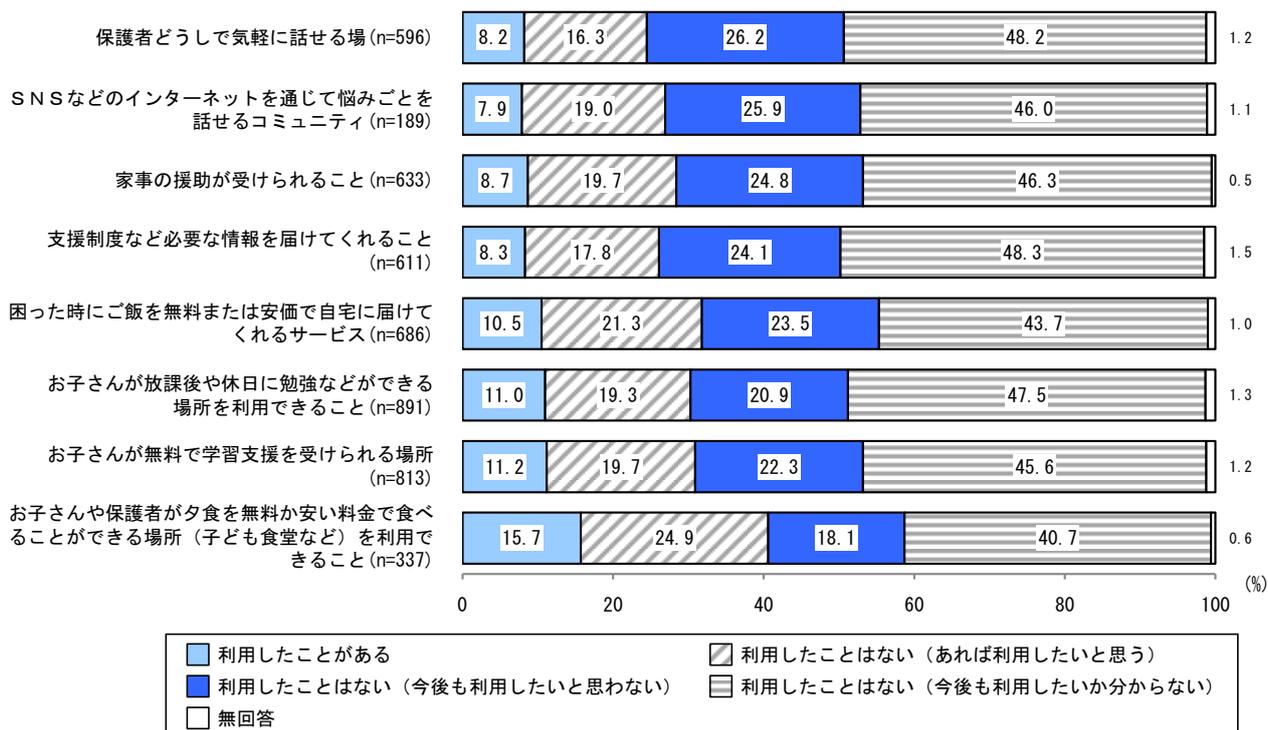
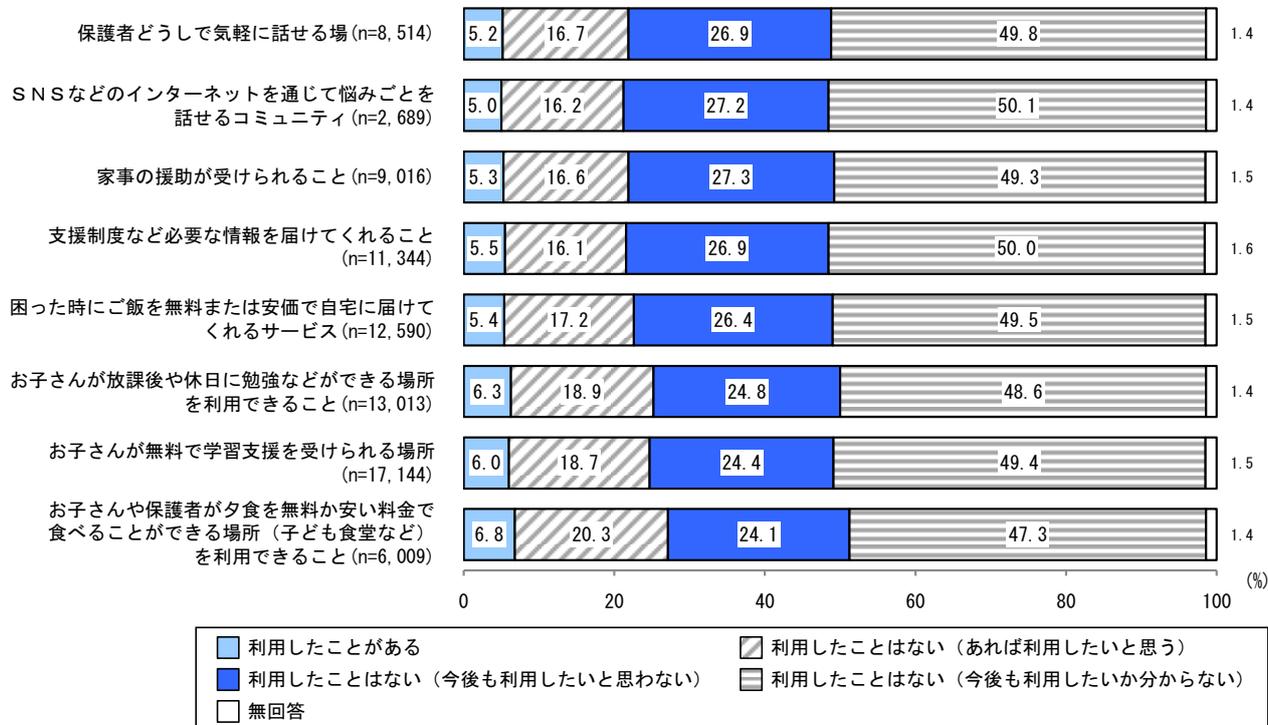


図 190. 身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

身近にあるといいと思うこと別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」が15.7%で最も高く、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」も「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」が24.9%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所  
 (保護者票問 20×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<豊中市>

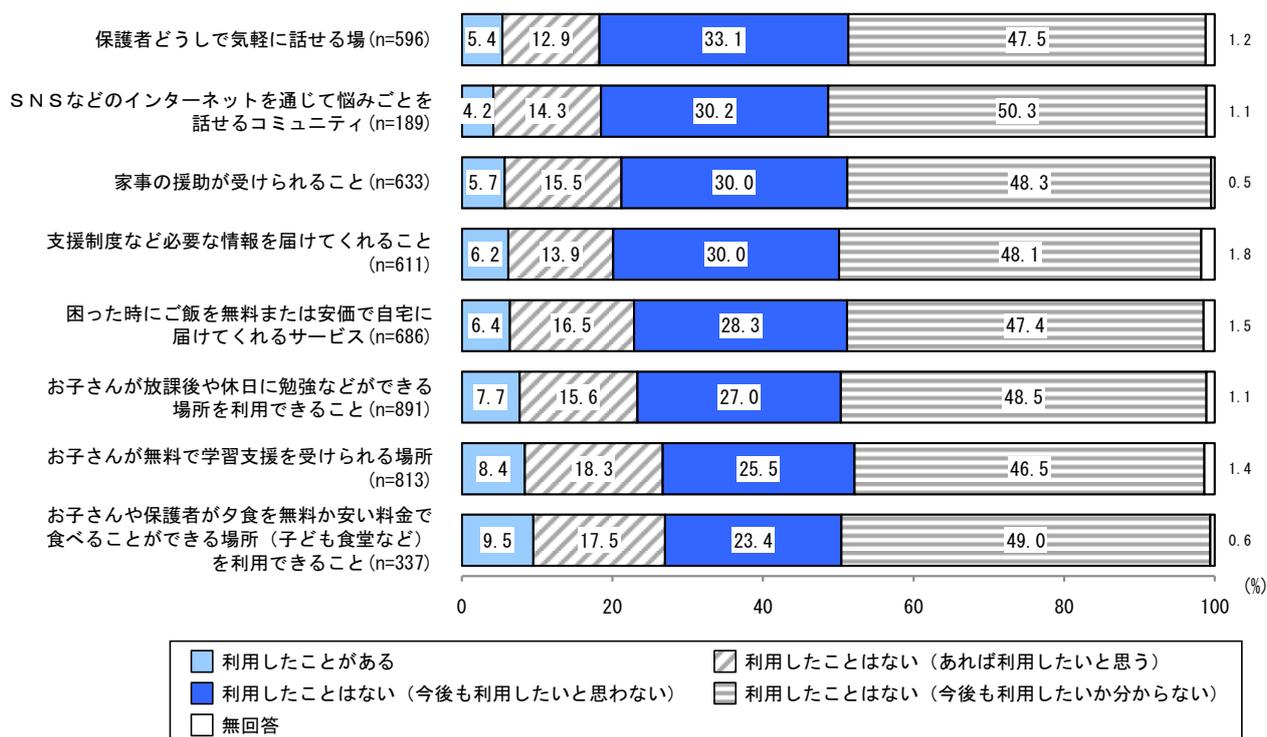
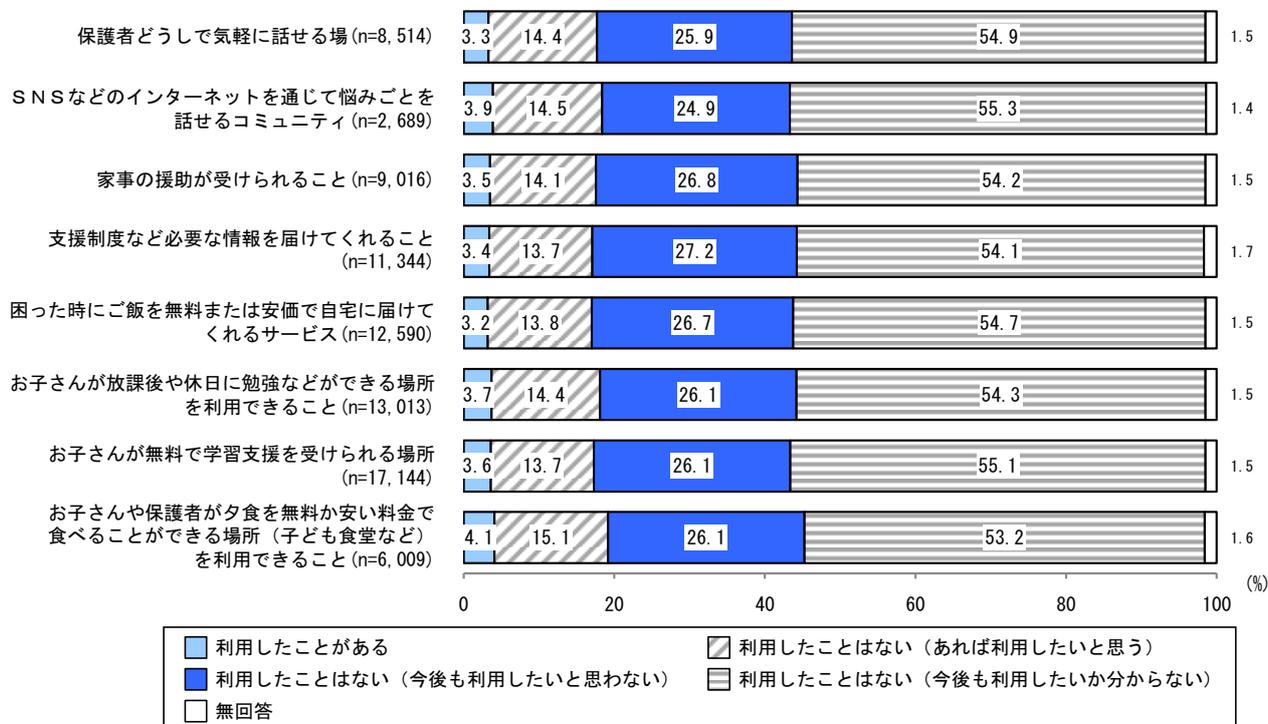


図 191. 身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

身近にあるといいと思うこと別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が18.3%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所  
 (保護者票問 20×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<豊中市>

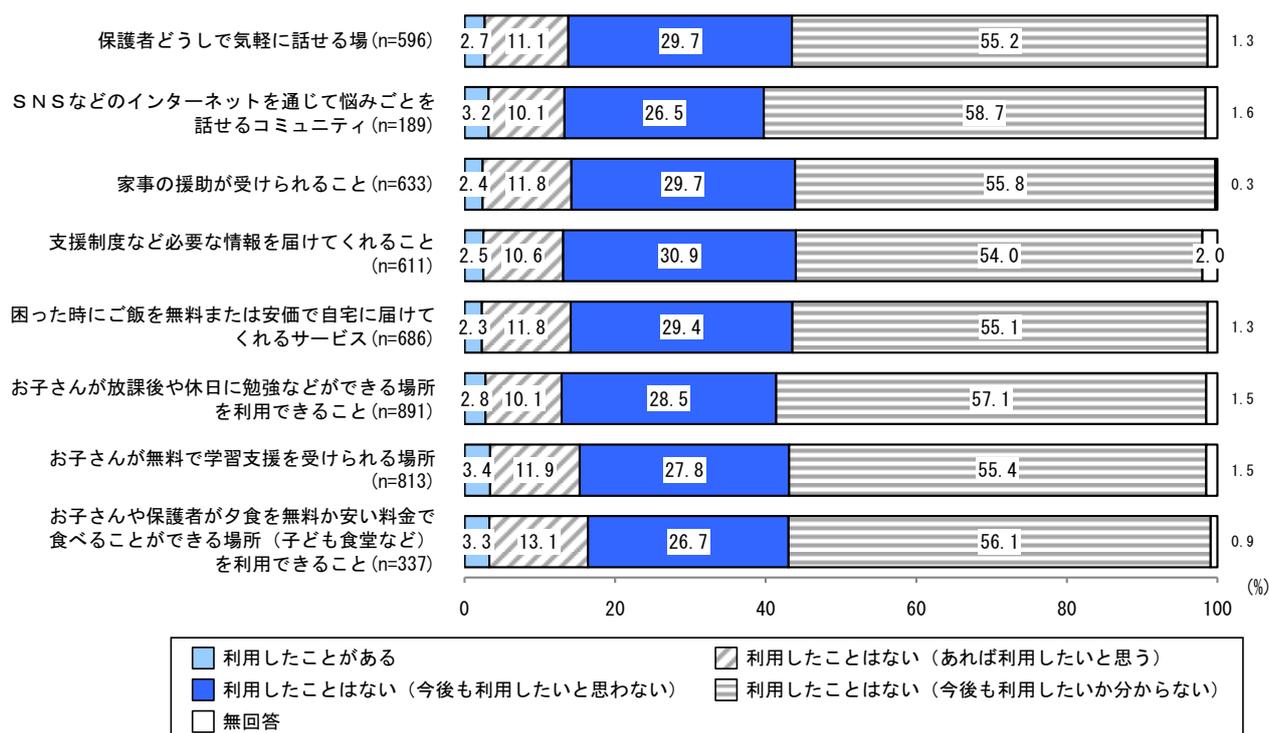
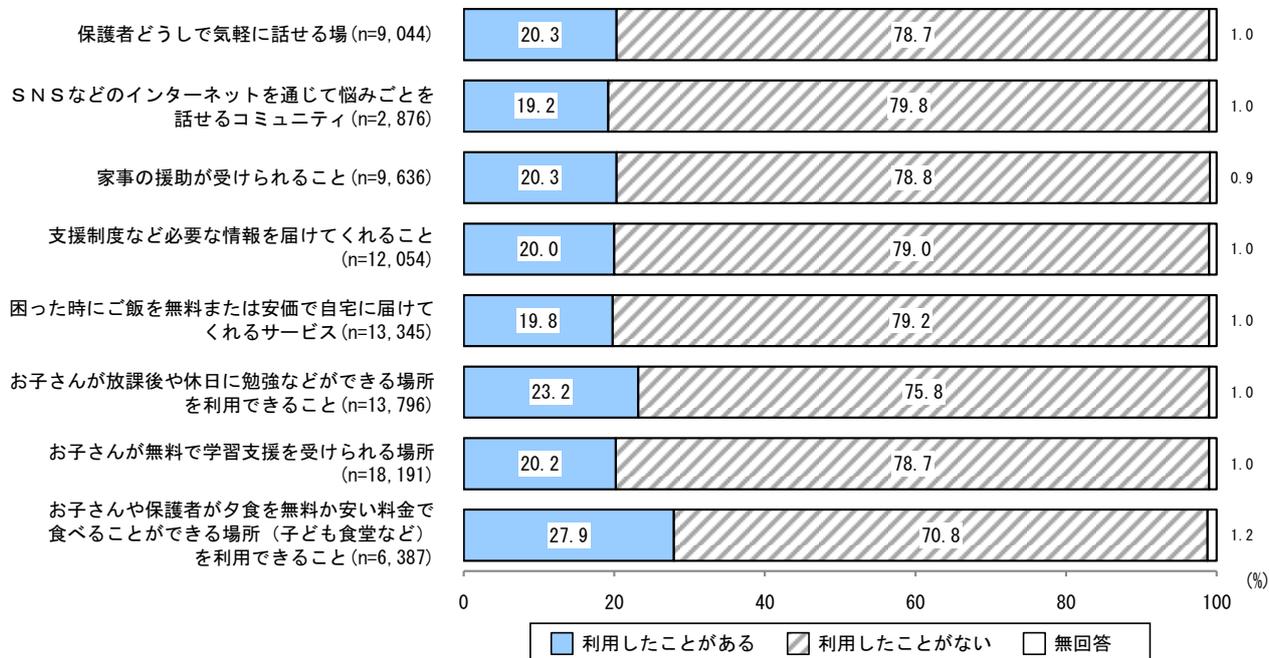


図 192. 身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所

身近にあるといいと思うこと別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」が13.1%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無  
 (保護者票問 20×保護者票問 16(1))

<大阪府内全体>



<豊中市>

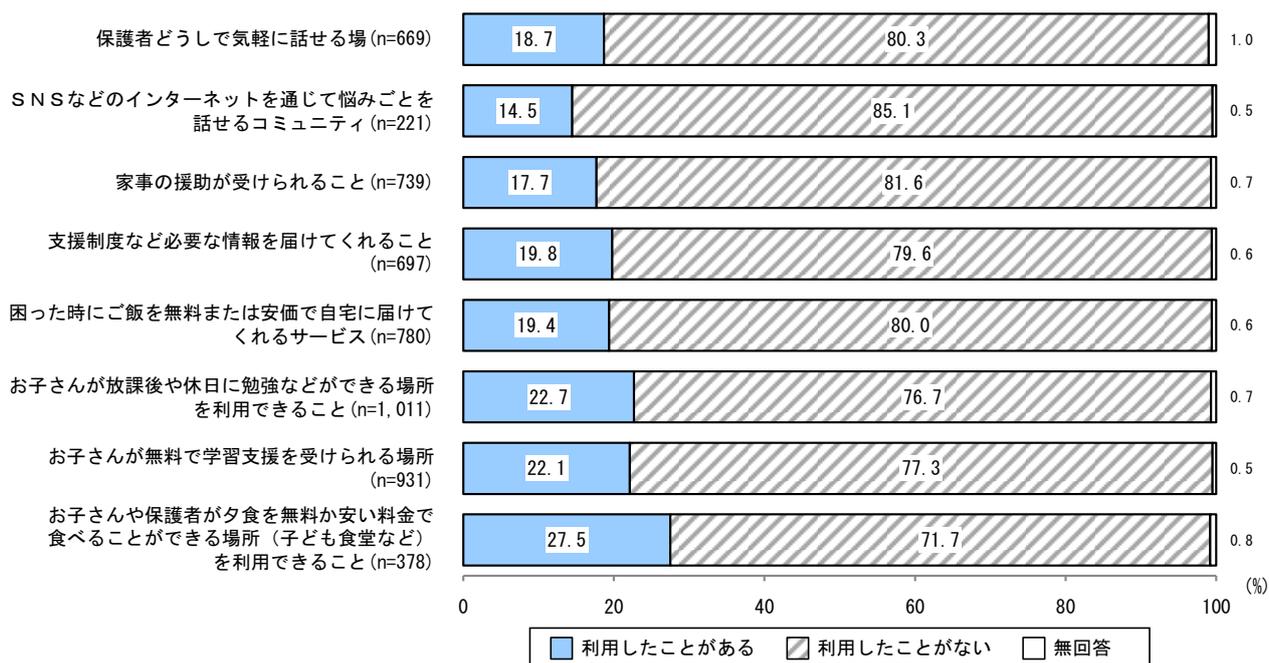
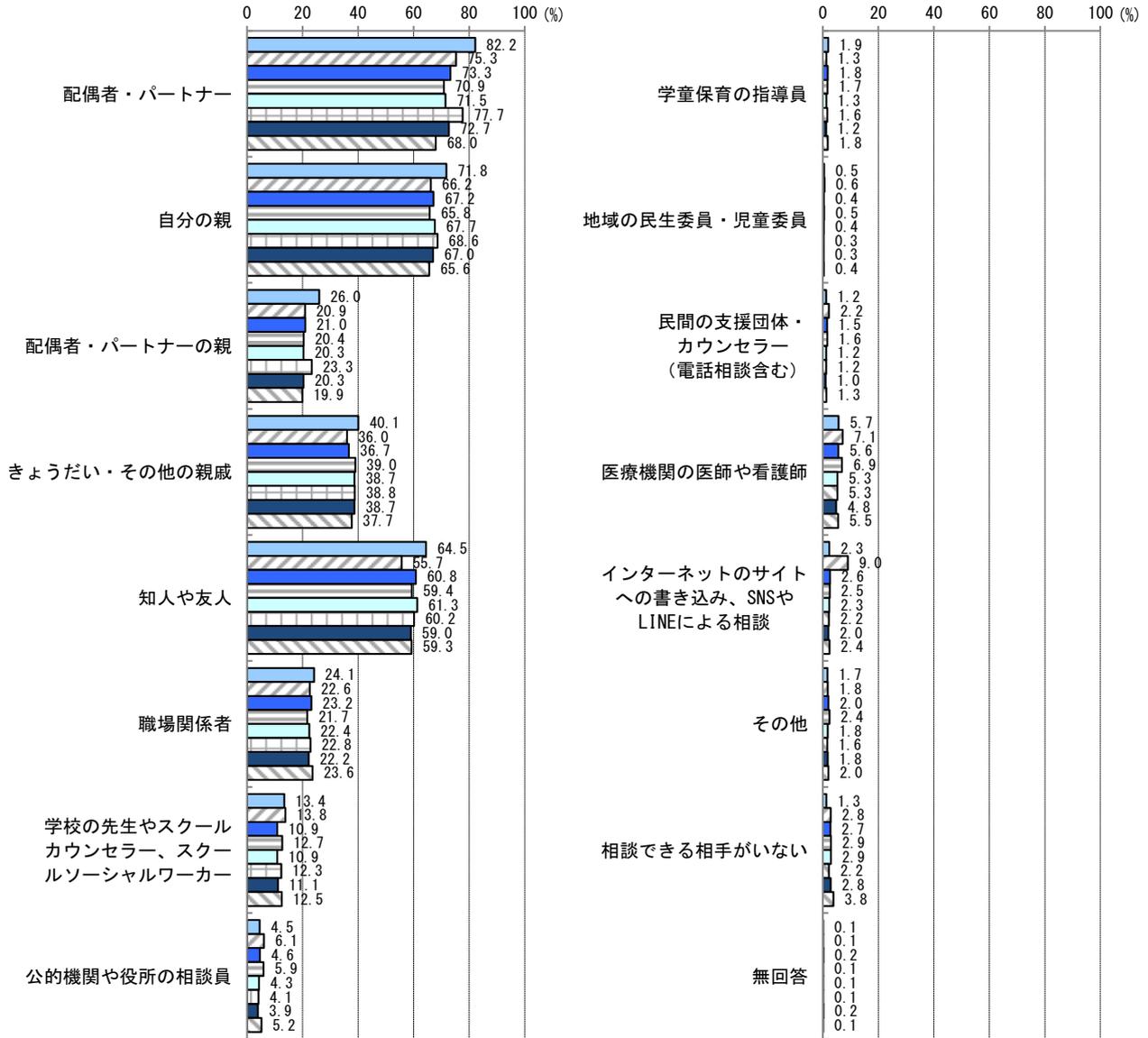


図 193. 身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無

身近にあるといいと思うこと別に子どもの居場所の利用有無を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金を食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が27.5%で最も高く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が22.7%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 20×保護者票問 19）

<大阪府内全体>



- 保護者どうして気軽に話せる場 (n=9,044)
- SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ (n=2,876)
- 家事の援助が受けられること (n=9,636)
- 支援制度など必要な情報を届けてくれること (n=12,054)
- 困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス (n=13,345)
- お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること (n=13,796)
- お子さんが無料で学習支援を受けられる場所 (n=18,191)
- お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること (n=6,387)

<豊中市>

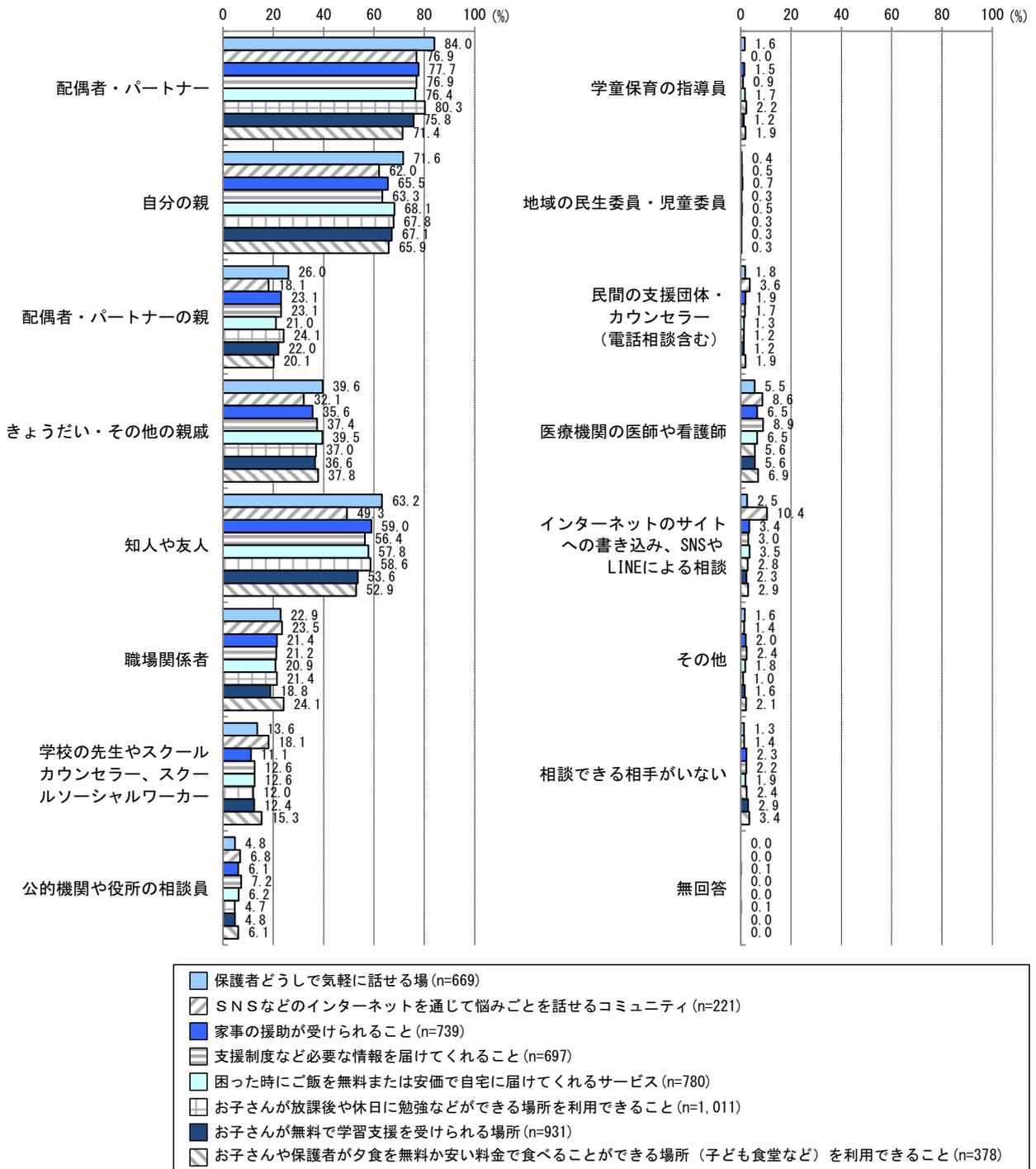


図 194. 身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

身近にあるといいと思うこと別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「配偶者・パートナー」と回答した人の割合は、「保護者どうして気軽に話せる場」が84.0%で最も高く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が80.3%となっている。